一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第6集

以来尺遺跡 II

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

1998

福岡県教育委員会

一般国道
3　　号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第6集

以来尺遺跡 II

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

1998

福岡県教育委員会

序

福岡県教育委員会では建設省九州地方建設局の委託を受けて、昭和56(1981)年度から一般国道3号筑紫野バイパスの建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。調査は平成9年度に終了し、筑紫野バイパスは現在建設中です。

この報告書は、平成4(1992)年5月から平成9(1997)年11月まで発掘調査を実施した筑紫野市大字筑紫所在の以来尺遺跡の記録の一部です。平成8年度に「以来尺遺跡Ｉ」として報告したものに続く弥生時代後期の集落跡の報告です。二日市地峡と呼ばれるこの地域は古代より筑紫神社が鎮座しており、福岡平野と筑後平野、あるいは筑前・筑後・肥前の三国を結ぶ重要な交通の要衝でした。今回の調査では、弥生時代後期の集落跡を中心に、古墳時代後期の古墳と集落跡や、さらには中世の集落跡や近世の山城跡なども確認され、当時の交流の復元にとって大変意義のある成果を得ることができました。

本書が、地域間交流の研究や文化財保護思想の普及と活用の一助となれば幸甚に存じます。

発掘調査及び整理作業や報告書の作成にあたって、御協力いただいた多くの方々に深甚の謝意を表します。

平成10年3月31日

福岡県教育委員会
教 育 長　光安　常喜

例　　言

1．この報告書は、平成4(1992)年度から平成9(1997)年度まで福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局の委託を受けて実施した一般国道3号筑紫野バイパスの建設に先立つ埋蔵文化財の発掘調査記録で、一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告の第6集である。

2．本書に記録した以来尺遺跡は筑紫野バイパス第6地点にあたり、筑紫野市大字以来尺927・929・932番地外に所在する。調査面積・検出遺構・出土遺物は膨大なため、報告は平成8・9・10年度の3カ年に分けて実施する。

3．本書に掲載した遺構図は、馬田弘稔・水ノ江和同・齋部麻矢・秦憲二・杉原敏之が作成した。

4．本書に掲載した遺構写真は馬田・水ノ江・齋部・秦・杉原が、遺物写真については水ノ江・齋部・秦・杉原と北岡伸一が撮影した。なお、空中写真についてはフォト大塚に委託した。

5．出土遺物は九州歴史資料館において岩瀬正信の指導で整理・復元作業を行い、鉄器の保存処理は九州歴史資料館横田義章氏に依頼した。

6．使用した方位はすべて座標北である。

7．出土遺物・写真・図面等については、すべて九州歴史資料館および福岡県文化課太宰府事務所において保管している。

8．執筆は馬田・齋部・秦・杉原の各自が行い、担当箇所は文末に明記している。編集は齋部が担当した。

本　文　目　次

図　版　目　次

挿　図　目　次

表　目　次

付 図 目 次

写真１　周辺地形

Ⅰ　はじめに

1．調査の経緯と組織

一般国道筑紫野バイパスは、同福岡南バイパス（福岡市東区二又瀬～筑紫野市永岡：19.08㎞）の後を受け、昭和47年度から建設に関わる調査が始まり、翌昭和48年度から事業化した大規模なバイパスである。この筑紫野バイパスの建設に先立ち、建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所から福岡県教育庁文化課に当該地の埋蔵文化財調査に関する依頼があり、文化課は14カ所（地点）の文化財包蔵推定地を提示・回答した。このうち第7～14地点については昭和56年度～59年度に、第1～6地点については平成2～6年度に、また第6地点の補足調査を平成9年度に行った。第2～5地点については『一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第1～3集（福岡県教育委員会）として、第7～14地点については、第1集（福岡県教育委員会　1986）として成果が纏められている。また第1地点については、本年度第5集として報告する。各地点の詳細については以下のとおりである。

本書は第6地点「以来尺遺跡」の調査報告であるが、平成4～6年度調査分の旧石器時代～弥生時代の一部については平成8年度に『一般国道筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第4集　以来尺遺跡Ⅰ』として報告している。今回は平成4～6年度調査分の弥生時代の遺構の続きを『以来尺遺跡II』として報告する。弥生時代の残りと古墳時代以降の中世まで、平成10年度調査分、各時代・以来尺遺跡全体のまとめについては平成10年度に『以来尺遺跡III』として報告する。

第1地点	諸田仮塚遺跡	筑紫野市大字諸田字仮塚および大字永岡字原 平成2年8月～平成3年4月　（平成9年度報告）
第2地点	仮塚南遺跡	筑紫野市大字諸田字仮塚 平成3年4月～平成3年11月　（平成7年度3月報告）
第3地点	久良々遺跡	筑紫野市大字筑紫字久良々 平成5年6月～平成5年10月　（平成7年度3月報告）
第4・5地点	倉良遺跡	筑紫野市大字筑紫字倉良・天神田 平成4年2月～平成4年5月（平成7年度3月報告）
鉄塔移転地区	天神田遺跡	筑紫野市大字筑紫字倉良・天神田 平成2年5月～平成2年6月　（平成7年度3月報告）
第6地点	以来尺遺跡	筑紫野市大字筑紫字以来尺 平成4年5月～平成7年1月　（平成8・9・10年度報告）

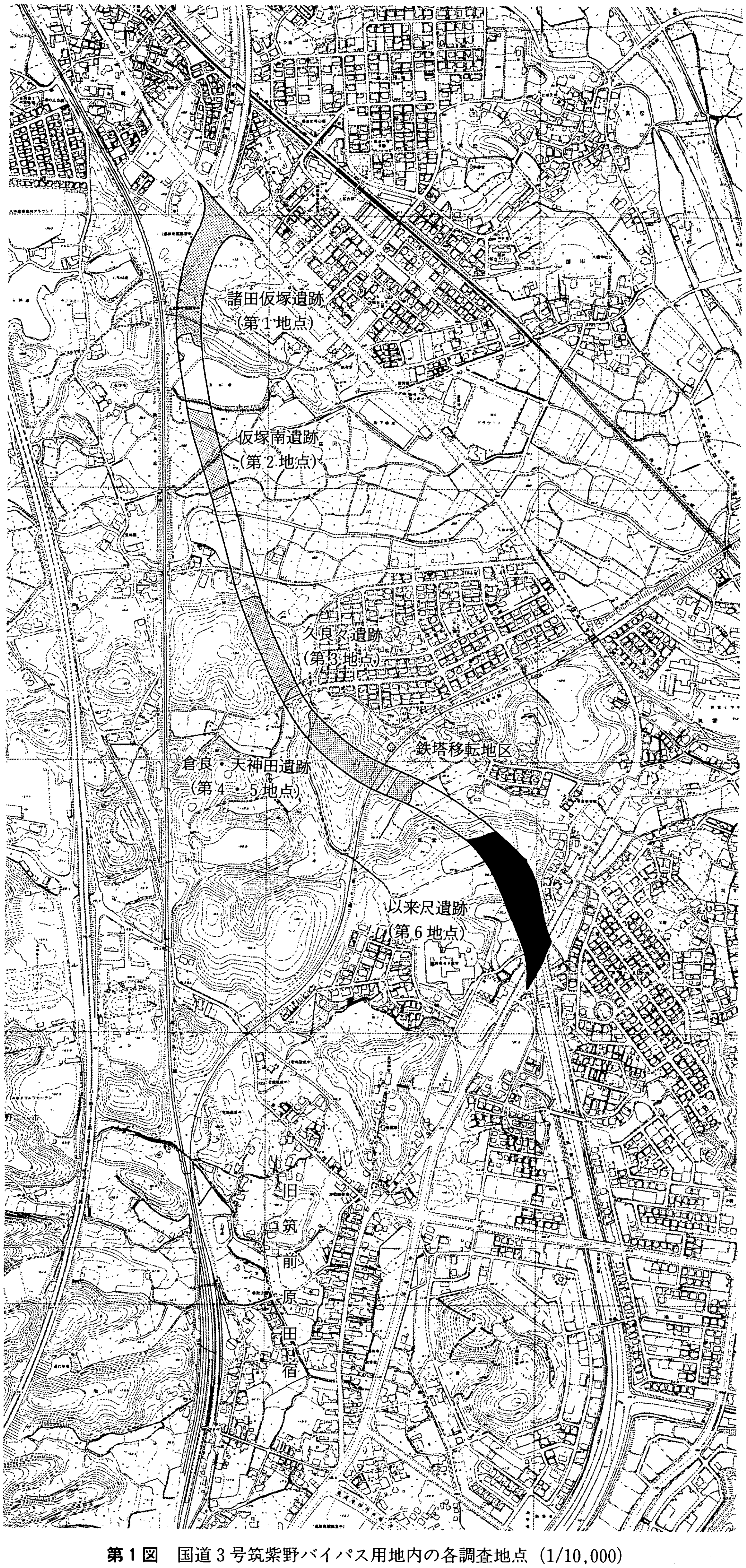
なお、平成4～6年度の発掘調査、平成7年度の遺物整理、平成8・9年度の発掘調査・報告書作成にあたっての組織と関係者は次のとおりである。

建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所

	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
事務所長	清水　英治	長谷部正和	長谷部正和	佐竹　芳郎	佐竹　芳郎	藤本　聡
副所長	高場　正富	中空　進	中空　進	中空　進	緒方　良一	兼式征二郎
	宮崎　鴨高	宮崎　鴨高	中馬　昌明	緒方　良一	藤並　之生	別府　五男
建設監督官	池田　勝美	野鶴　博任	野鶴　博任	松尾　義信	松尾　義信	有家　信義
	岡山　一則	平川　澄雄	平川　澄雄	山川　武春	山川　武春	柴田　智
調査第二課長	尾林　一宇	西原　廣寿	西原　廣寿	西原　廣寿	田中　義高	田中　義高
調査係長	島　義博	島　義博	芹口　臣也	芹口　臣也	靏　敏信	沓掛　孝
建設技官	松本　厚廣	松本　厚廣	桜井　俊郎	島田　隆一	島田　隆一	島田　隆一
工務課長	久原　義宜	久原　義宜	渕　幸一	渕　幸一	渕　幸一	河野　良行
工務第一係長	田中　秀明	田中　秀明	逆瀬川方久	黒木　俊彦	黒木　俊彦	梶原　俊之
工務第三係長	西島　正男	逆瀬川方久	田口　仁	田口　仁	田口　仁	斎藤　敬嗣

福岡県教育委員会

総括	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
教育長	光安　常喜	光安　常喜	光安　常喜	光安　常喜	光安　常喜	光安　常喜
教育次長	月盛清三郎	樋口　修資	樋口　修資	松枝　功	松枝　功	松枝　功
指導第二部長	松枝　功	丸林　茂夫	丸林　茂夫	丸林　茂夫	竹若　幸二	竹若　幸二
文化課長	森山　良一	森山　良一	松尾　正俊	松尾　正俊	松尾正俊・石松好雄	石松　好雄
参事兼文化財保護室長	柳田　康雄	柳田　康雄	柳田　康雄	柳田　康雄	柳田　康雄	柳田　康雄
課長補佐	石川　元彬	清水　圭輔	清水　圭輔	元永　浩士	元永　浩士	城戸　秀明
課長技術補佐					井上　裕弘	井上　裕弘
庶務						
管理係長	毛屋　信	毛屋　信	杉光　誠	柴田　恭郎	黒田　一治	黒田　一治
事務主査	東　勇治	富田　浩一	安丸　重喜	久保　正志	久保　正志	久保　正志
主任主事	安丸　重喜	安丸　重喜	久保　正志	東　健二	東　健二	鶴我　哲夫
調査						
総括	副島　邦弘	橋口　達也	橋口　達也	橋口　達也	橋口　達也	橋口　達也
参事補佐		馬田　弘稔	馬田　弘稔			
主任技師	水ノ江和同	水ノ江和同	水ノ江和同	齋部　麻矢	齋部　麻矢	秦　憲二
			齋部　麻矢			
技師	秦　憲二	齋部　麻矢	秦　憲二	秦　憲二	秦　憲二	森井　健二
		秦　憲二	杉原　敏之			
		杉原　敏之				
南筑後教育事務所						
参事補佐兼文化班主任				馬田　弘稔		
北九州教育事務所						
参事補佐兼文化班主任					馬田　弘稔	馬田　弘稔
筑豊教育事務所						
主任技師兼文化班主任				水ノ江和同	水ノ江和同	水ノ江和同
九州歴史資料館調査課						
主任技師						齋部　麻矢
技師				杉原　敏之	杉原　敏之	杉原　敏之



第1図　国道3号筑紫野バイパス用地内の各調査地点 (1/10,000)

2　位置と環境

以来尺遺跡は福岡県筑紫野市大字筑紫字以来尺927・929・932に位置する。筑紫野市は佐賀県との県境に位置し、福岡県側を太宰府市・小郡市・夜須町と接している。西に脊振山系・東に三郡山塊が迫り、その間が約２km幅の狭長な平野になっている。通称「二日市地峡」と呼ばれる地域で、福岡平野と筑紫平野の接点となる。福岡平野は国指定史跡の水城付近で狭まり、「遠の朝廷」と呼ばれた大宰府を経てこの地域を通り、筑紫平野に抜けている。このため古来から筑後・朝倉や長崎方面に向かうために必ず通過する交通の要所であり、古代においては大宰府から南下するルートであり、江戸時代においては長崎街道・日田街道・薩摩街道・太宰府天満宮参詣道が合流していた。現在も国道３号をはじめ西日本鉄道・ＪＲ線・九州縦貫自動車道が通り、ここから枝分かれして各方面に向かっている。また平野の北西には鷺田川が、西には筑後川と合流して有明海に注ぐ宝満川が流れ、この地域の水源となっている。また、この宝満川中流域の丘陵上には、旧石器～歴史時代の遺跡が数多く存在している。本遺跡は脊振山系から平野に向かって東側に派生した丘陵が、さらに東側にヤツデ状に延びる舌状丘陵の緩斜面に位置している。400ｍ西南には、「延喜式」にも登場する筑紫神社が控え、さらに南には長崎街道の筑前六宿の一つである原田宿がある。

弥生時代は、この周辺地域一体が全盛期であった。前期初頭にはすでに大規模な集落が出現し、夜須町の東小田・峯遺跡のように別格として埋葬されるような集団の存在も確認されている。前期前半はまだその実態が明らかにはなっていないが、小郡市三国ノ鼻遺跡では木棺墓・甕棺墓などの集団墓が見つかっていることから、集落の存在が予測できる。前期後半から中期前半になると三国丘陵を中心に遺跡が飛躍的に増加する。まず丘陵の平坦地に集落を形成するが、人口増加のためか徐々に緩斜面へと広がっていく状況も見られる。また、それに伴い小郡市横隈北田遺跡のような、約70基の貯蔵穴群だけに環濠を巡らせて区画する遺跡が存在するのも、大規模な貯蔵施設の集落全体による管理が必要となったのであろう。中期後半にはこの丘陵上の集落は廃れて行き、人々は台地へと移動する。またこの時期は青銅器の生産が行われ始めた時期で、少数ではあるが出土する。またこの金属器の生産・使用に伴い、集落間の格差が顕著になり始める。

以来尺遺跡と同じ弥生時代後期の集落は、筑紫野市・小郡市の、広い範囲を確保できる丘陵平坦部に広がっていく。遺跡数としては中期の全盛期に比べやや減少の感があるが、個々の規模は大きくなり、環濠を巡らせる集落が形成されるようになる。小郡市の三国の鼻遺跡では、丘陵頂上の平坦地を囲むように環濠を巡らせ、その中に34軒の住居が時期をやや異にして配されている。また青銅器生産・埋納関係の遺物の量では比較にならないものとなる。集落遺跡としては、大規模なものに小郡市の三国の鼻遺跡の環濠集落や、夜須町のヒルハタ遺跡の多数の

住居群などがある。また、この時期には、中期に始まった青銅器の生産・埋葬が盛んになり、集落や墓地から各種製品や鋳型が多く出土するようになる。バイパス内の調査においても、第2地点の仮塚南遺跡で広形銅戈の鋳型が出土している。この他にも多くの遺跡が確認されており、この地域には特別な力を有する集落が点在していたことが窺われる。

参考文献

『以来尺遺跡Ⅰ』一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第4集
福岡県教育委員会編　1997
『仮塚南遺跡』一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第3集
福岡県教育委員会　1995
『夜須町史』　夜須町史編纂委員会編　1991
『太宰府市史　考古資料編』　太宰府市教育委員会　1992
『小郡市史』小郡市史編集委員会編　1996

（齋部）

弥生時代後期周辺遺跡分布図掲載の遺跡一覧

1	野黒坂遺跡	19	中島遺跡	37	横隈狐塚遺跡
2	御笠地区遺跡Ｅ地点	20	茶屋原遺跡	38	横隈山遺跡
3	御笠地区遺跡Ｆ地点	21	ヒルハタ遺跡	39	横隈上ノ原上遺跡
4	御笠地区遺跡Ｇ地点	22	杉野遺跡	40	三国小学校遺跡
5	立明寺遺跡	23	夜須中学校遺跡	41	みくに保育所内遺跡
6	貝元遺跡	24	塔ノ本遺跡	42	三沢上棚田遺跡
7	日焼遺跡	25	浦の原遺跡	43	三沢栗原遺跡
8	永岡遺跡	26	櫨木藪遺跡	44	城ノ上遺跡
9	常松遺跡	27	迫額遺跡	45	千塔山遺跡
10	諸田仮塚遺跡	28	中原前遺跡		
11	仮塚南遺跡	29	東小田七坂遺跡Ｂ地点		
12	倉良遺跡	30	乙隈天道町遺跡		
13	**以来尺遺跡**	31	津古東宮原遺跡		
14	池ノ上遺跡	32	津古西台遺跡		
15	平原遺跡	33	津古東台遺跡		
16	隈・西小田遺跡6地点	34	津古生掛遺跡		
17	宮ノ上遺跡	35	三国ノ鼻遺跡		
18	大島遺跡	36	横隈鍋倉遺跡		

凡例

■　後期の遺跡
□　後期の埋葬遺跡
△　青銅器の鋳型出土遺跡
▲　青銅器出土遺跡

第 2 図　弥生時代後期の以来尺周辺遺跡分布図（1/50,000）

II　発掘調査の記録

1．調査の概要

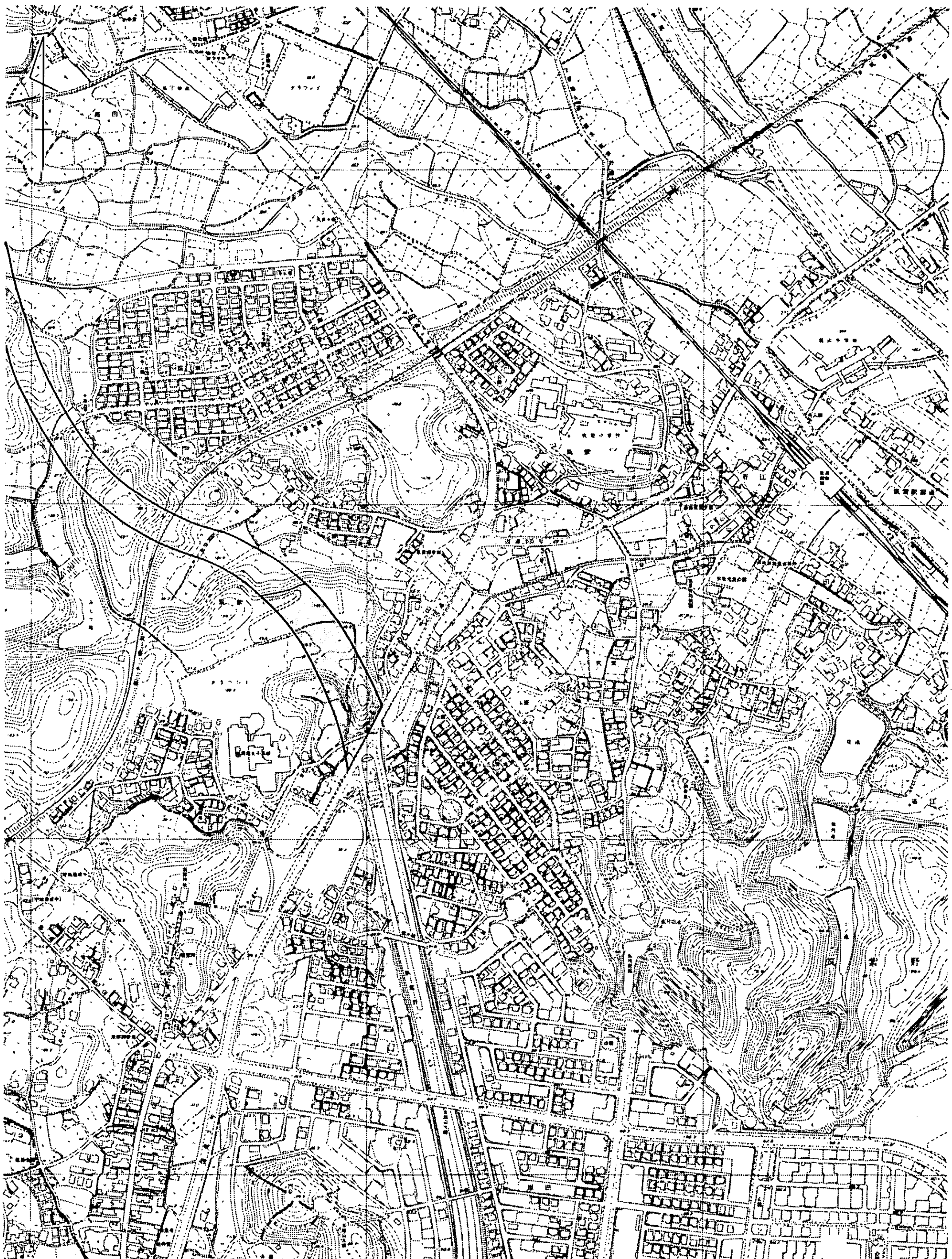
以来尺遺跡の発掘調査は、平成4（1992）年5月6日から平成7（1995）年1月20日まで実施されたが、途中の平成5年6月7日から同年10月4日までの4カ月間は筑紫野バイパス3地点「久良々遺跡」の発掘調査に移行したため、実際の調査期間は2年4カ月である。また、平成9年度に農道付け替えのための事前調査を、急遽平成9年10月29日から11月18日まで補足調査として行った。一般国道3号筑紫野バイパスの建設に伴う事前調査の場合、普通は幅40mほどの細長い調査区になるが、標高48mの丘陵を標高40m程度までに掘削するため多少の法面が必要となり、実際には幅70mの比較的広い調査区になった。当初の調査予定面積は、長さ230m、幅70mの約14,400m²であったが、土取りや開墾による削平、農道付け替え部分の追加により実際の調査面積は12,360m²になった。

調査区は標高46～48m付近の丘陵上の平坦部と標高38～46mの丘陵斜面部とに分かれ、また弥生時代・古墳時代・中近世の各遺構も同一面で検出された。

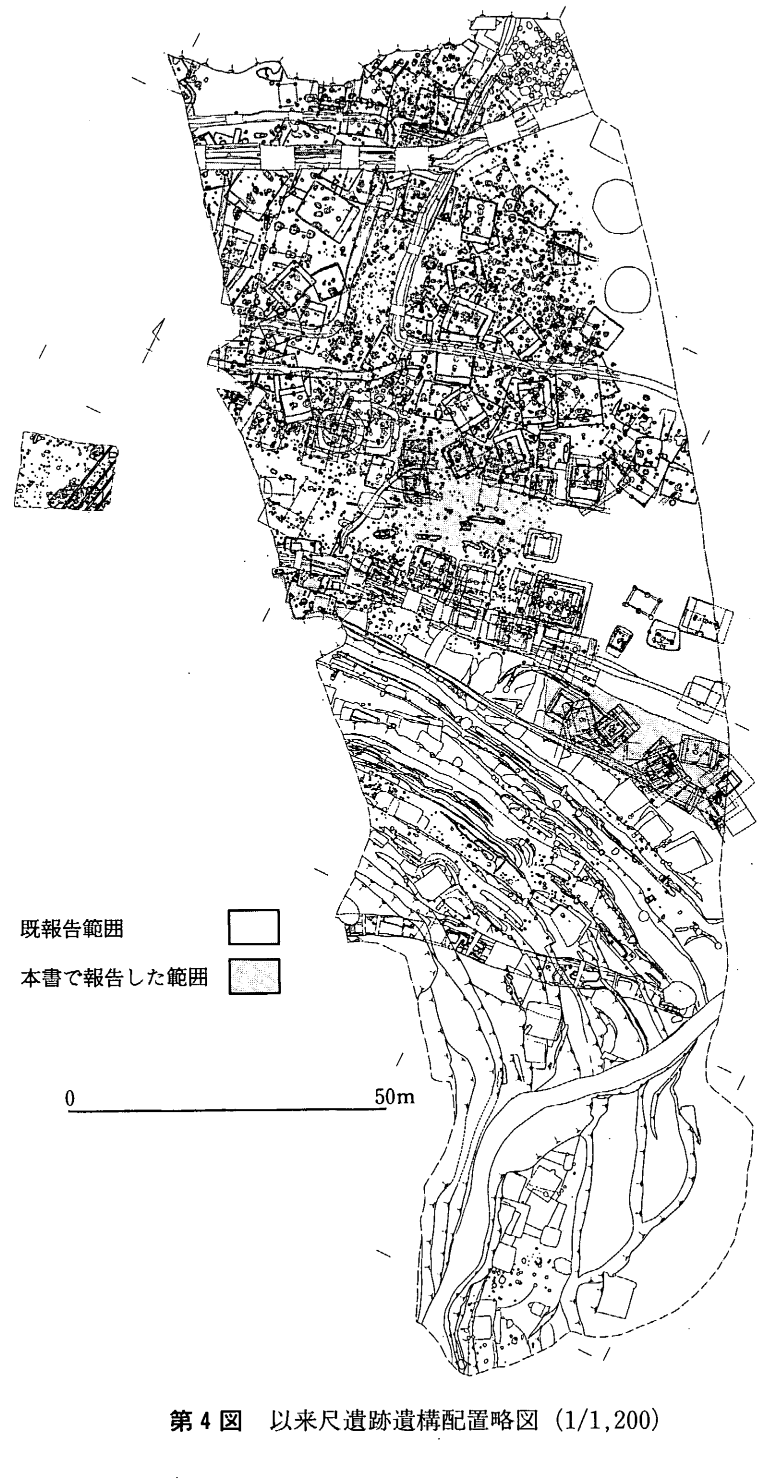
調査の大まかな経過としては以下のとおりである。

平成4年5月6日	調査開始　調査員：水ノ江
平成4年7月21日	調査員：秦合流
平成5年4月1日	調査員：水ノ江と馬田交代
平成5年4月30日	気球写真撮影
平成5年11月4日	調査員：秦と齋部交代
平成6年8月24日	調査員：齋部と杉原交代
平成6年12月12日	気球写真撮影
平成7年1月6日	報道機関への発表
平成7年1月8日	現地説明会（400人参加）
平成7年1月20日	調査終了　調査員：馬田・杉原
平成9年10月29日	農道付け替え部分調査開始　調査員：森井
平成9年11月18日	農道付け替え部分調査終了　調査員：森井

本遺跡からは、旧石器時代から中世までパンケース540箱に及ぶ年代幅の広い遺物が出土したが、遺構の大半は弥生時代後期に属する集落で、その他に古墳時代後期の集落と墳墓や、中近世（14～16世紀）の集落と山城も若干含まれる。報告は平成9・10年度の2カ年に分ける予定であったが、遺構・遺物の量や追加調査の関係で、平成8～10年度の3カ年で行うこととなった。平成8年度は旧石器・縄文時代の遺物と主に丘陵平坦部の弥生時代の遺構と遺物を、平成9



第 3 図　以来尺遺跡調査地点（1/10,000）



第４図　以来尺遺跡遺構配置略図（1/1,200）

年度は丘陵平坦部の残りの部分の弥生時代の遺構と遺物と斜面裾部の溝状遺構の遺物を、平成10年度には主に丘陵斜面部の弥生時代の遺構と遺物および全体の古墳時代以降の遺構と遺物、農道付け替え部分の遺構と遺物についての報告をそれぞれに行う（第４図）。

なお、調査においては筑紫野市教育委員会と随時協議を行い、発掘作業員の手配や関係機関との調整にご協力・ご配慮を賜りましたこと、心からお礼申しあげます。

2．弥生時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

127号竪穴住居跡（図版１、第５図）

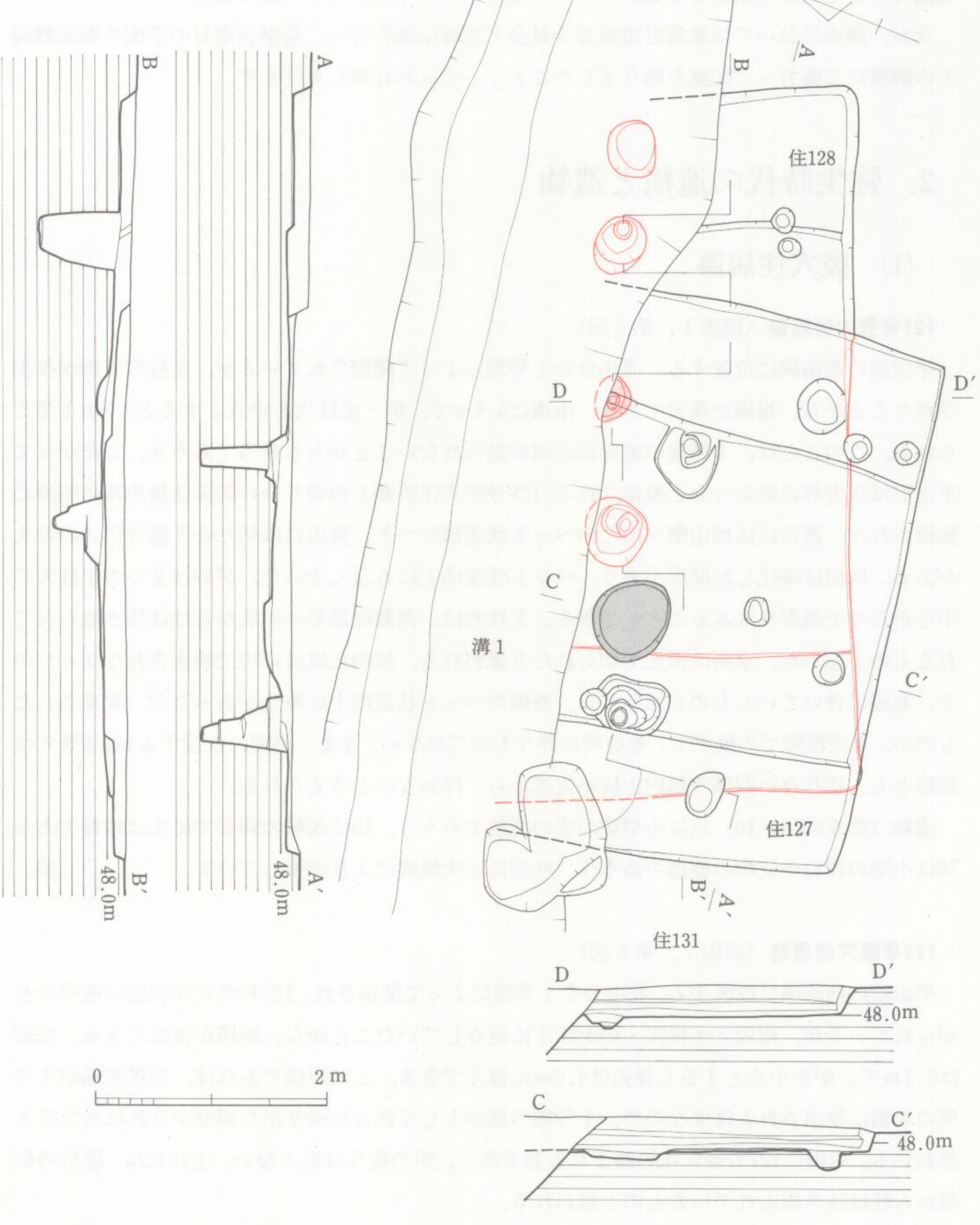
平坦面の西南隅に位置する。北半分を１号堀によって開削されているが、主柱穴と炉が検出されたことから、規模が復元できる。南辺は4.8ｍで、炉・主柱穴を中点とすると4.3ｍと考えられる。このことは、１号堀の北側に北辺が見られないことからも妥当であろう。したがって、平面形は正方形に近かったと推定される。128号竪穴住居跡との切り合い関係は検出時に明確に観察された。西辺には地山削り出しのベット状遺構がつき、東辺には切り合う部分にのみ貼土がある。床面は硬化した貼床があり、ベット状遺構上にも及んでいた。炉跡は２つの主柱穴の中心からやや西寄りにみることができる。主柱穴は、西側は掘形の形状から柱は抜き取られておるものと思われ、東側は根元で切られたと思われる。屋内土坑は南辺で検出されなかったので、北辺に付いていたものと思われる。西側のベット状遺構上に焼土があったが、廃棄されたものか、埋没段階での焼土で、本遺構に伴うものではない。また、西側に位置する131号竪穴住居跡とも、切り合い関係や屋内土坑の位置から、伴わないと考えられる。

遺物（第６図14～16）14は小型甕か壺の底部であろう。15は高杯の脚部で胎土は精良である。16は小型の器台か支脚の裾部であろう。外面は２次焼成により赤変している。（秦）

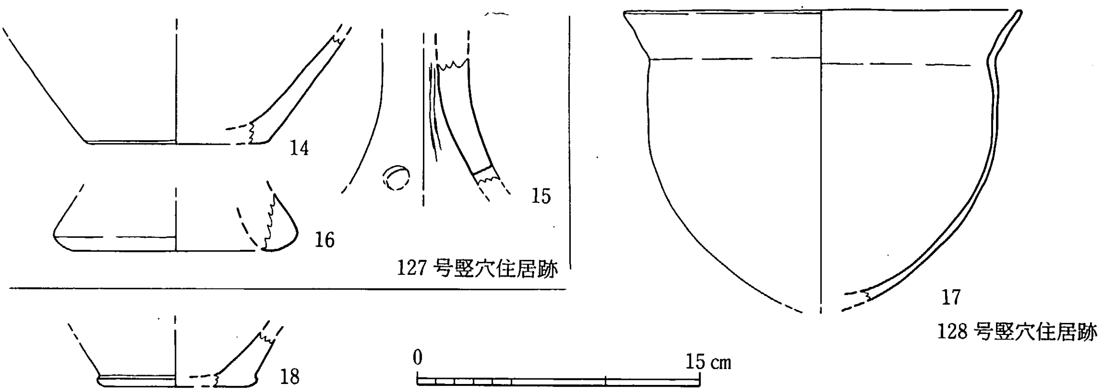
128号竪穴住居跡（図版１、第５図）

平坦面の西南隅に位置する。北半分を１号堀によって開削され、127号竪穴住居跡に西半分を切られているが、南辺と主柱穴・炉が床下に遺存していたことから、規模が復元できる。短辺は6.1ｍで、炉を中点とすると長辺は4.2ｍに復元できる。この規模であれば、住居北隅が１号堀の北側に検出されるはずなので、１号堀の掘形として掘った張り出し部分がこれに当たると思われる。床面は127号竪穴住居跡よりも若干高く、炉の残りは良くない。主柱穴は、掘形の形状から柱は抜き取られているものと思われる。

東西両辺に地山削り出しのベット状遺構がつく。



第5図　127・128号竪穴住居跡実測図（1/60）



第 6 図　127・128号竪穴住居跡出土土器実測図（1/4）

遺物（第 6 図17・18）17は鉢で、器壁が薄く、胎土は精良である。18は小型器種の底部であろう。（秦）

130号竪穴住居跡（図版 1 、第 7 図）

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平も著しく、壁がわずかしか残っていない。特に南西側は床面も失われていたため、西接する132号竪穴住居跡との切り合い関係は不明確であった。ここでは切っているものと考えたい。北西コーナーはベット状遺構の東端部の可能性もあり、明確なのは北東コーナーのみであるため、規模を復元することができない。東側のベット状遺構は、134号竪穴住居跡と切り合う部分は貼土で、それ以外は地山削り出しであった。屋内施設は明確でなく、西側主柱穴は特定できない。屋内土坑は南壁についていたものと思われる。

残りが悪いため、遺物量も少なく、時期を特定する遺物は出土していない。（秦）

131号竪穴住居跡（図版 1 、第 7 図）

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平も著しく、壁がわずかしか残っていない。特に南西側は床面も失われていたため、132号竪穴住居跡との切り合い関係は不明確であったが、屋内土坑が132号竪穴住居跡の北壁の下から検出されたので、切られているものと考えられる。129号竪穴住居跡との関係は検出時から明確であった。また、炉を切られているため、127号竪穴住居跡との切り合い関係も明確である。西側主柱穴は129号竪穴住居跡の下から、東側主柱穴は128号竪穴住居跡の床下から検出されており、掘形の形状から柱は抜き取られているものと思われる。すべての壁が切られているため、規模を推定できない。

残りが悪いため、遺物量も少なく、時期を特定する遺物は出土していない。　　　　　　　（秦）

132号竪穴住居跡（図版１、第７図）

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平も著しく、壁がわずかしか残っていない。特に南側は床面も失われていたため、西接する130号竪穴住居跡との切り合い関係は不明確であった。西側には作り付けのベット状遺構が検出されているが、131号竪穴住居跡と切り合う部分のみの貼土であるのかもしれない。平面長方形プランのコーナー部分が残っていないので明確でないが、炉と北壁の距離から、短辺4.4ｍの規模を復元することができる。屋内土坑は南壁についていたものと思われたが検出されなかった。主柱穴は掘形の形状から、２本とも柱を抜いていると考えられる。
残りが悪いため、遺物量も少なく、時期を特定する遺物は出土していない。　　　　　　　（秦）

134号竪穴住居跡（図版１、第７図）

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平のわりには、壁が20cm残っており、南西コーナーの隅丸形は明瞭に検出された。西側は130号竪穴住居跡に切られるため、床下からプランがわずかに見られる程度であった。東壁は1025号竪穴住居跡に切られており、主柱穴も不明確であったことから、規模は正確でないが、長辺5.3ｍ、短辺4.3ｍの隅丸方形プランを復元できる。炉と屋内土坑は攪乱を受けて失われたものと思われる。

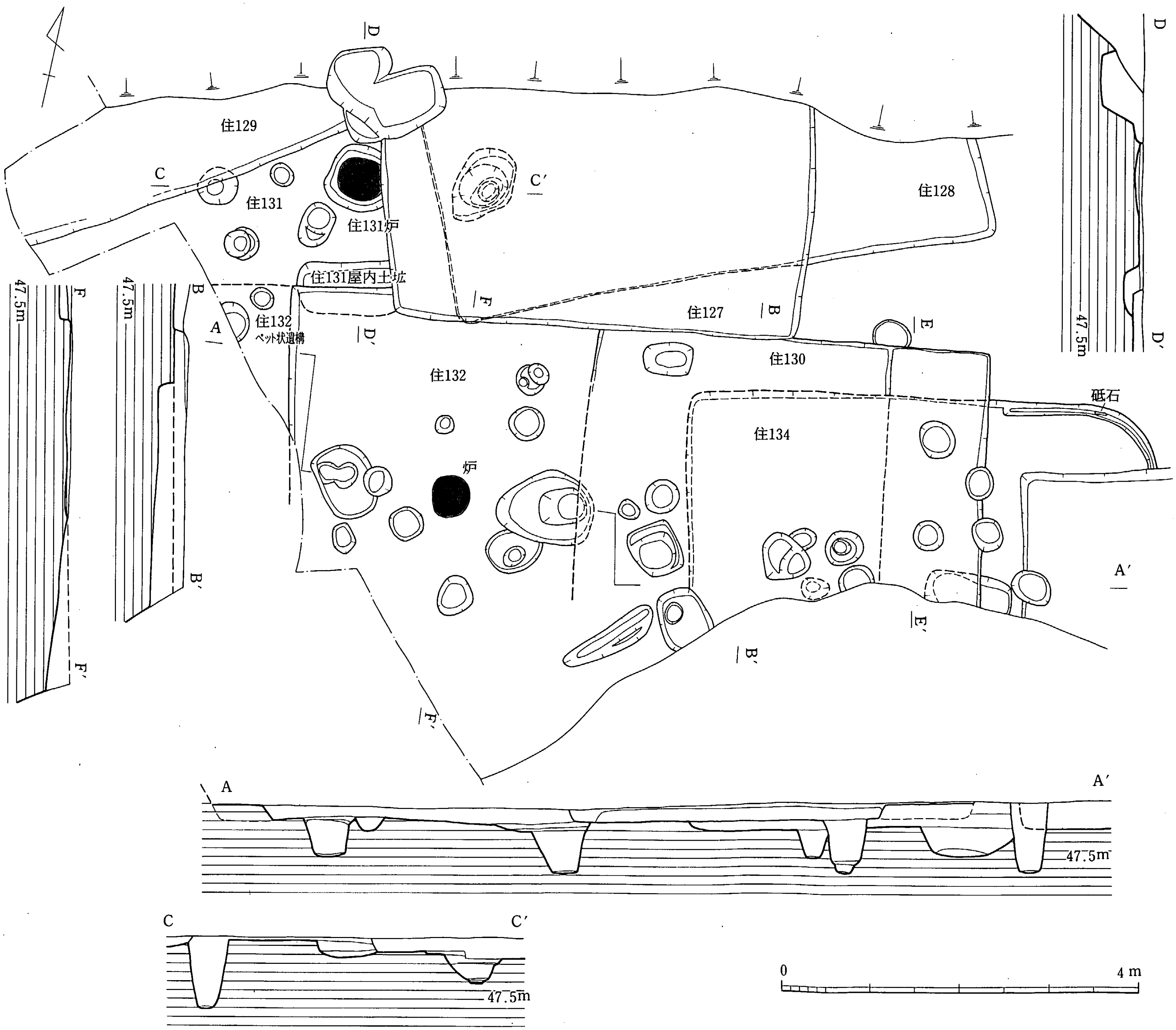
遺物（第74図１）第74図１は東北隅の周溝近くから出土した粘板岩製砥石で、６面使用の完形品である。上下端面は整形している。　　　　　　　（秦）

1002号竪穴住居跡　（図版６・７・10、付図２、表７・８）

建1002号群（建1001～1005・1007～1010号）、住1002号群（住1001・1002・1018号、住10・12・13号案）、溝1001号群（溝1001・1003・2001～2007号、土坑1001～1003号、土坑13号）溝1004号群（溝1004・1024・１・15・16号）の重複関係

上記の遺構群のなかで、住10・12・13号案は1992年（平成４年度）に調査され、住1018号は1993年度に調査し、共に1996年度の『以来尺遺跡Ⅰ』[註1]（以下、『Ⅰ集』と略）に、それぞれ住10・12・13号や住143号として既報告されたものあるが、遺構群の重複関係を検討する際、以下の①～③について留意すべきである。

留意事項①　既報告の住12号の説明文では、「当初は１軒の住居跡という認識で掘り進めたが、貼床を除去した時点でもう１軒分の炉跡・主柱穴・屋内土坑・壁溝が検出され、ほぼ同じ場所で立て替えられた２軒分の住居跡という結論に至」り、「切っている住居跡を12号、切られ



第 7 図　130～132・134号竪穴住居跡実測図（1/60）

ている住居跡を13号とした」と記され、『I集』の第40図では、住12号を黒線・住13号を赤線で掲示されている。

しかし『I集』で赤線掲示の「主柱穴」の掘り形内〔本書の『以来尺遺跡II』(以下、『II集』と略)の付図2での赤線掲示の棟持柱P22掘り形内〕には2個の柱穴が検出・掲示されていること(『II集』の住12・13号案では、この2個を赤・青線で掲示させて頂いた)や、住12・13号の各施設として掲示された「炉」(『II集』での「床中央部土坑D11」)・説明文中の「屋内土坑」(同「壁中央部土坑D21」)・「ベッド」(同「壁沿・壁隅高床」)などの配置・重複関係掲示状況についてや、加えて実際の1/20遺構実測図を再検討させて頂くと、下記のとおりである。

実測図中の南壁検出面標高と「ベッド」検出面標高の註記から、その比高差は0~2㎝とされていることなどや、上述の掘り形内で2個の柱穴が検出されていることなどや、住居規模などから、『II集』の付図2掲示の住12・13号案のように、住13号がほぼ同じ規模で、住13号B案(青線)⇒住13号A案(赤線)の順に新しく建て替え後に、さらに住13号A案の北壁外に壁沿高床を配した住12号案(黒線)へと建て替えたことが充分に考えられる。

以上のことから、1992年度調査時点で既に検出・実測はされていたが、『I集』の第40図では省かれている建1008号AのP1・建1008号BのP21を加え、『II集』での建1008号の建物規模や後述する各遺構間の重複関係の説明上、同第40図に加筆・検討などをさせて頂き、また、その検討案(住13号B案⇒住13号A案⇒住12号案)を再掲示させて頂いた。

留意事項② また、『I集』での住10号も、既報告では建て替えについては言及されていないが、この住10号は『II集』の付図2に示した1992年度に調査がなされた調査区界(住13号A案のD11南側~住10号A案のD11北側~建1009号のP1部にかけて示した調査区界)以南の1993年度の筆者調査区については、後述する建1003・1008・1009号などの建1002号群の各建物規模を把握するために、調査区界以北についても一部再調査・精査を実施した結果、『II集』の付図2に赤線で示したように『I集』の第34図で掲示・既報告説明の「屋内土坑」内で住10号A案より古い住10号B案の柱穴様小ピットDP212とその抜去痕や、同「中央溝」(『II集』の住1421号説明文中で筆者使用の棟持柱筋区画溝aHM11)南側の「主柱穴」(住10号A案掲示の黒線の棟持柱P22の掘り形)よりも古い住10号B案のP22掘り形)や、住10号B案の施設と考える住10号A案よりも古い南・東壁沿高床や一段低い中央部床面を検出し、住10号の遺構実測図にもその旨の各検出面標高を註記・下部遺構として平面図を追加していたことなどから、(住10号は住10号B案⇒住10号A案)へと新しく建て替えられたことが、充分に考えられる。

以上のことから、1992年度調査で既に検出・実測はされていたが、『I集』の第34図では省かれている建1002号のP1・建1005号のP2・建1009号のP22や、1993年度調査で検出した建1005号のP3や住10号A案のP12・14などを加え、留意事項①で前述の住12・13号案同様に、各建物規模や後述する各遺構間の重複関係の説明上、加筆・検討案(住10号B⇒住10号A)も再掲

示させて頂いた。

留意事項③　さらに、住1018号Ａについては、1993年度に調査し、『Ｉ集』の第151図に掲示され、既報告された住143号と大略同じ住居ではあるが、若干遅れて調査担当者の一員に加えさせて頂いた馬田も共に掘り下げた下部遺構を検出後、住143号実測図中に赤線でその旨註記・追加実測した住1018号Ｂが第151図では省かれ、住143号（大略住1018号Ａ）の建て替えについての説明はなされていない。

また、同図では、住143号を切る『II集』の付図２の建1003号のＰ21は掲示されているが、住143号を切る同建1004号のＰ７は掲示されていない。

以上のことなどから、『Ｉ集』で住143号として大略報告された住居についても、調査時に付していた住1018号として、留意事項①・②同様に後述する遺構間の重複関係や各建物規模の説明上『II集』の付図２に掲示し、（住1018号Ｂ⇨住1018号Ａ）へと建て替えられていることにも言及する。

さて、以上の留意事項①～③のような状況を踏まえて、各遺構について、継続した建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇨新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古→新で示すと、各遺構群の重複関係は以下の㋐～㋛のように判断できる。

㋐住1002号は建1008号ＡのＰ２と建1008号ＢのＰ１・２を切り、建1008号ＡのＰ３は建1008号ＢのＰ22を切り、建1008号ＢのＰ５は建1010号のＰ３を切る。

また、建1008号Ａ（主軸方向Ｎ—12°—Ｗ）と建1008号Ｂ（同Ｎ—11°—Ｗ）は主軸方向が一致するに等しいだけでなく、建1008号Ａの東側の桁行柱筋のＰ１・３は建1008号Ｂの重要な外接の棟持柱（他の建物では、棟持柱抜去に伴い土器埋納祭祀例も認められる）Ｐ21・22をそれぞれ整然と切るなどの意図的(継続的)重複関係にあることから、〔建1010号→建1008号Ｂ⇨建1008号Ａ→住1002号Ｂ⇨住1002号Ａ〕。

㋑なお、1992年度調査の遺構実測図では、建1008号ＡのＰ１・建1008号ＢのＰ21は既報告の住13号（住12号）南壁に切られて検出されているが、建1008号を建物として確認したのは92年度調査区外の93年度調査区であり、留意事項②で既述したように、建1008号ＢのＰ４も住10号Ａ案の南壁沿いに張られた高床を92年度調査で除去後の93年度調査での検出であることから、建1008号と既報告住10・12・13号間の新・古関係については不明瞭符？を加えさせて頂くと、〔建1010号→建1008号Ｂ⇨建1008号Ａ→？住10号Ｂ案⇨住10号Ａ案。建1010号→建1008号Ｂ⇨建1008号Ａ→？住13号Ｂ案⇨住13号Ａ案⇨住12号案〕。

㋒建1003号Ａは、Ｐ２・６が建1003号ＢのＰ２・６をそれぞれ切り、Ｐ81が建1009号のＰ21を切り、Ｐ４・21が既報告の住143号を切ることから〔住1018号Ｂ⇨住1018号Ａ→建1003号Ｂ⇨建1003号Ａ。建1009号→建1003号Ｂ⇨建1003号Ａ〕。

㋓なお、建1029号は留意事項②で既述したように、92年度調査でＰ２・22が既報告の住10号

に切られて検出され、93年度調査でもＰ３が住10号に既に切られた状態で検出したが、92年度調査でのＰ１は未検出であることから、93年度調査で建物として確認した建1009号と既報告の住10号間の新・古関係については不明瞭符？を加えさせて頂くと、〔建1009号→建1003号Ｂ⇨建1003号Ａ→？住10号Ｂ案⇨住10号Ａ案〕。

㋔建1004号は、Ｐ６・７が既報告住143号を切ることから、〔住1018号Ｂ⇨住1018号Ａ→建1004号〕。

㋕なお、既報告住10号と建1002・1005・1007号間との重複関係についても、建1002号のＰ２は92年度調査で住10号Ａ案の南壁沿高床下から検出され、建1005号のＰ２は92年度調査で中央部の張り床を切って検出され・Ｐ３は93年度調査で92年度掘り下げの南壁に切られて検出し、建1007号のＰ３は92年度調査では未検出であるが、留意事項①～③で既述したように、建物３棟は93年度調査で確認したものであることから、前述㋑・㋓同様に不明瞭符？を加えさせて頂くと、〔建1002号→？住10号Ｂ案⇨住10号Ａ案。建1005号→？住10号Ｂ案⇨住10号Ａ案。建1007号→？住10号Ｂ案⇨住10号Ａ案〕。

㋖溝1004号（1024号）は、付図１の遺構配置図に示すように、建1002・1008・1010号の柱穴や既報告住10号の南壁、既報告の住137号（1021号）・141号（1019号）や土坑11号（土坑1003号）を切って中世の溝１号に続き、また、住20・24号を切る溝へも続く、中世の溝と考えられる。

㋗なお、建1001・1002号と溝1001号群の重複関係については、建1002号で後述する。

1002号Ａ住居

住居規模は、床面積が約17.2m²（北―南壁間の桁行方向が約418cm・東―西壁間の梁行方向が約412cm）で、北・南側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21・22を配し、桁行換算の算出値は30.7cm。

ところで、住1002号Ａ・ＢのＰ11～14の主柱配置規模は、それぞれ桁行Ａが277cm・174cm、梁行Ｂが228cm・180cmで、住Ｂから住Ａへの建て替えに際しては、住Ｂの西側の桁行柱筋下で桁行柱間（Ｐ13―Ｐ14）を北・南方にそれぞれ（276cm－174cm）×½＝51cm大きく取り、梁間をこの51cmとほぼ等しい228cm－180cm＝48cm東方に大きく取ることで、床規模を住Ｂの東壁外に拡大したものと考えられる。

なお、床中央土坑Ｄ11は住Ｂとほぼ同じ位置で、換言すれば、主柱配置内の床面も含めて、高床よりも一段低い中央部床面の東方への規模拡大が意図されており、住Ｂの東壁外配置の東壁沿高床配置を考慮したものと言えよう。

また、この東壁沿高床幅は、通有例よりも幅狭としたものか。

1002号Ｂ住居

住居規模は、床面積が約14.5m²（北―南壁間の桁行方向が約418cm・東―西壁間の梁行方向が約347cm）で、北・南側の柱筋内に独立棟持柱Ｐ21・22を梁間中央より若干西寄りに配し、桁行

と（西柱筋一西壁）間換算の算出平均値は29.5cm。　（馬田）

註）

1．秦憲二編「以来尺遺跡Ⅰ」(『一般国道3号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、福岡県教育委員会、1997)

1003号竪穴住居跡（図版2～4・14・15、付図6、表9・10）

住1003号群（住1003・1011・1049・1157・1435・1436号、祭祀土坑1009号）、住1060号群（住1004・1005・1060号外）と溝1002号群（溝1002・1005・1006号）の重複関係

上記9軒外の住居群のなかで、5軒に建て替えが確認でき、周辺住居群を含めると約15軒前後の重複関係となるので、以下では、住1003号群（重複計9軒）の住居を中心に説明する。

なお、建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇨新、遺構間の切り合いによる新・古関係を古→新、確認できた新・旧関係や遺構間の切り合いによる新・古関係などから意図的(継承的）に重複させた（させられた）と考えられる前・後関係を前➡後で示し、住1003号A・住1003号Bなどを単に住A・住Bなどと略して説明すると、以下Ⅰ～Ⅲ小群で①～⑮の重複関係上の特徴を指摘できる。

Ⅰ住居群　住1005号？➡住1003号B⇨住1003号A→住1049号B⇨1049号A→住1004号。住1049と住1060号との重複関係と、住1005号？➡住1003号については、住1004・1005・1060号外を『Ⅲ集』で報告するなかでの検討とする。

①住1049号の南壁と住1060号の北壁間は約160cmと近接することから重複関係にあるが、〔どちらが新しいかは不明〕である。

なお、両者についての詳細は、住1060号の『Ⅲ集』での報告事項とする。

②住1005号は、東壁が住1060号の北東壁隅部に切られ(住1005→住1060号)、住1005号の東壁方向と住1003号の西壁方向が整然とすることから、住1413・1414号例のように、住1005号➡住1003号とも考えられるが、このこと（住1005号？➡住1003号）についても、住1005号の『Ⅲ集』での報告事項とする。

③住1003号A・Bは、棟持柱筋以東の住AのD11検出張り床下で、ほぼ同筋下に配された住BのD11を検出し、住Aの北壁沿高床下面で住Bの北壁沿高床も検出できたことなどから、(住B⇨住A）に建て替えたことが確認できる。

④住1049号A・Bは、住AのP11が住BのP11を切り、住居個別説明で後述する。**住B構築時『地鎮祭類似の柱建て（杭打ち）祭祀行為』痕⇨『構築規模基準杭』痕**と考えられる、床中央部土坑D11内の柱（杭）様材抜去痕DP111を検出できたことなどから、(住B⇨住A）に建て替えたことが確認できる。

⑤なお、住1003号は、上述のＤＰ111に西壁を切られ、住1049号Ａの東壁中央に配された方形区画Ｈ21内の柱穴様小ピット抜去痕ＨＰ211(深さは数cmしかなかったため、１／20実測を待たずに１／100の平板測量のみとし、住1003号掘り下げ作業をした)にも北壁沿高床縁を切られることから、(住1003号→住1049号) の古→新関係が確認できる。

⑥『Ⅲ集』で報告する住1004号は、住1003号群・住1060号群外のなかでは最も新しく、古墳時代中期？（遺物未検討）のカマド付設住居で、住1005号外の住居を切り、中世の溝1002号に切られる（住1005号外→住1060号→溝1002号)。

Ⅱ住居群　住1157号→住1436号⇨住1435号Ｂ⇨住1011号→Ⅰ住居群中の住1003号→住1049号。

⑦各住居の北東壁隅部の新・旧関係は、住1436号の床に張り床を施して住1435号Ｂの北東壁隅高床を配し(住1436号⇨住1435号Ｂ)、住1435号Ｂの同高床に張り床を施して住1435号Ａの北東壁隅高床を配し(住1435号Ｂ⇨住1435号Ａ)、住1435号Ａの同高床と東壁沿の一段低い中床に張り床を施して住1011号の東壁沿高床を配す（住1435号Ａ⇨住1011号）ことなどから、(住1436号⇨住1435号Ｂ⇨住1435号Ａ⇨住1011号）の順に建て替えたことが確認できる。

⑧上述のことは、上記４軒の北側の棟持柱Ｐ21掘り形部·東壁の中央土坑Ｄ21部などでの新·旧関係からも確認できる。

⑨なお、住1011号の床中央土坑Ｄ11と住1436号のＤ11の切り合い関係については、４軒いずれの住居も、この住居中央部での埋土が削平で遺存しないこともあり、検出時の確認ミスであることは、各住居の諸施設配置・切り合い関係からも明かである。

⑩住1157は、後世の削平に因って欠失する高床東側の、一段低い中床遺存部が、上述４軒中の住1011·1435Ａ·1435ＢのＤ21に切られることから、(住1057号→住1436号⇨住1435号Ｂ⇨住1435号Ａ⇨住1011号）の順に新しいことが確認できる。

Ⅲ大溝・小溝群　Ⅰ・Ⅱ住居群→Ⅲ中世溝群（溝1002・1005・1006号外、Ｐイ～ト群)

⑪溝1002号（検出面標高47.20～47.50ｍ、底面同46.55～46.66ｍ、検出面幅約140～162cm、Ｎ—88°—Ｗの東一西方向）は、以来尺１号墳をも切る中世の（山）城に伴う大溝で、最も新しい。

⑫溝1005・1006号（検出面同47.99～48.13ｍ、底面同47.86～48.08ｍ）も、同古墳の東側周溝部を切り、上記の溝1002号に伴う小溝で、住1003・1011号などを切る。

⑬また、住1003号の北壁沿高床を切る小溝も溝1002号に伴う。

⑭なお、住1435号Ｂの北東壁隅高床～Ｄ21～住1435号ＡのＰ13にかけての小溝は、住1435号Ｂに伴う住居外への排水施設で、住1435号ＡのＰ13近くで、この小溝に切られる小溝は、住1436号に伴う同様の施設である。

⑮ところで、⑬で既述した小溝部の大溝1002号では、その北岸からはＰイ～ホ・南岸からはＰヘ・トを検出している。

この大溝・小溝とＰイ～トに関する留意事項として、ⓐ小溝とＰイ～トの埋土が、住居群埋土とは異なり、大溝の埋土と同じであること、ⓑバイパス路線の調査区内に限ってではあるが、大溝沿いの小溝は、この部分でのみ検出されていること、ⓒこの小溝部分のみで、大溝南・北岸で対峙して整然とした柱穴様ピット列は検出されていないこと、ⓓ中世の大溝南・北岸と重複する弥生～古墳時代初期に属する建物例としては『Ｉ集』[註1]で既報告の建1024号Ａ・Ｂと大溝１号（付図６）があるが、大溝1002号のこの部分の南側からの、Ｐヘ・トを棟持柱、Ｐイ～ホを北側の柱筋とするような柱穴列は確認されなかったこと、ⓔ調査区北端の土塁を伴う大溝６・７号や大溝１・1002号を配した中世（山）城全体の構えでは、この部分が丘陵南側での谷部などの以南を眼望する中心部に相当することなどが指摘される。

以上のことなどから、小溝は柵列を構えるための布掘りで、ⒶＰヘ・トは跳ね橋の主脚、Ｐイ～ホは跳ね橋の副脚のピット、Ⓑ跳ね橋を伴う門構え施設で、Ｐイ～ハは主出入り口門、Ｐニ・ホは脇出入り口門の柱穴の二者が考えられる。

なお、Ｐイ～ホ中軸方向はＮ―88°―Ｗで、各Ｐのトンボ間はＰ（イ―ロ間108cm、ロ―ハ間126cm、ハ―ニ間83cm、ニ―ホ間145cm、ヘ―ト間411cm）を測り、Ｐイ～ホ中軸とＰヘ・ト中軸との距離は154cmを測る。

住居計測表での換算･算出に類しての試行はどうかとも思うが、一応の算出によると、（Ｐイ―Ｐホ）間462cm＝30.8cm×15.0、（Ｐヘ―Ｐト）間410cm≒30.8cm×13.0＝400.4、中軸間 154cm＝30.8cm×5.0となり、小溝とＰイ～ホ中軸間も30.8cm×3.0＝92.4cmで、いずれも整然とした施設と言える。

1003号Ａ住居

住居規模は、床面積約28.7㎡（北―南壁間の桁行方向が約649cm、東―西壁間の梁行方向が約442cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22を配し、棟持換算の算出値は29.2cm。

1003号Ｂ住居

住居規模は、住Ａと同じで、棟持換算の算出値でも同様に29.2cm。

住1003号Ａ・Ｂの規模復原について

住Ａ・Ｂの諸施設配置の特徴を列記すると、下記のとおりである。

㋐住Ａの桁行Ａは約301cmを計測し、301cm×¼＝75.25cmと（北柱筋―ＨＰ211）間の計測値75cmと一致する。

㋑『II集』の本報告も含めて『Ｉ集』以来の住居壁間規模は、いずれも桁行Ａと梁行Ｂのそれぞれ中軸下で計測したものであるが、住Ａ・Ｂの（東壁―西壁）間計測に限り、付図６に示すように、東壁の南端部最大壁間での補助破線で計測すると約442cmで、梁行Ｂの約220cm×２＝

440cmと一致するに等しい。

㋒上記の約220cm×２＝110cmと、（東壁—ＨＰ212）間の約111cm、換言すると、H21幅とも一致するに等しい。

㋓住Ａの棟持柱間ａ$_1$は321cmで、321cm×２＝642cmと（北壁—南壁）間の約649cmはほぼ同じである。

㋔住Ｂでの床中央部土坑Ｄ11と壁中央部土坑Ｄ21の配置は、共に、桁行中軸に北接し、Ｄ11は棟持柱筋下に設け、Ｄ11内の柱穴様小ピットＤＰ211・212は検出されていない。

㋕住ＡでのＤ11・21配置は、Ｄ11が棟持柱筋から大きく東壁寄りとなり、東壁側の方形区画H21の東縁部ＨＰ211と共に桁行中軸下に設け、住Ａ同様にＤ21内のＤＰ211・212は検出されていない。

以上の㋐～㋕から、下記①～④が留意される。

留意事項①　H21配置に際しては、H21が東側の桁行柱間部の『施設』であることから、棟持柱間ａ$_1$ 321cm×¼≒80cmではなく、㋐で指摘したように、桁行柱間Ａ、換言すると（主柱Ｐ11—Ｐ12）の柱間口規模の¼で整然と構えたものと考えられ、このことは、住1011・1435・1036号例でも同様である。

留意事項②　住居の壁規模（壁プラン）は、『Ｉ集』で既報告の1001号Ａ・Ｂや住1458・1459号のような整然とした長方形壁規模例よりも、弥生期～古墳中期では住1003号Ａ・Ｂや『Ｉ集』で既報告のカマド付設の住1025号のように若干長台形の壁規模例が多い。

上記の二者の差異は、第１因として、垂直方向に建ち上げ、また、直線的な軸組みに適した主柱・棟持柱・桁・梁材かどうかで生じたものとも考えられる。

第２因として、軸組み技法の差異で生じたものとも考えられる。

第３因として、数回の建て替えによる新・旧住居の棟持柱筋方向の差異に従って、四壁規模も整然と掘り替えた（付図５の住1421号Ａ～Ｃ例）ものか、付図６に示す住1011・1435Ａ・1435Ｂ・1436号の建て替え例のように、一部旧出住居壁部をそのまま生かしものかの差異で生じたものとも考えられる。

第４因として、出入り口施設を含めた諸施設配置を考慮しての、意図的配慮の是非で生じたことも考えられる。

第５因として、壁部、およびその周辺部の地勢等も考えられる。

上記第１～第５因についての今後の検討課題として、今回は列記㋑・㋔について指摘のみとし、これ以上の蛇足を止める。

留意事項③　『II集』の本報告も含めて『Ｉ集』以来の住居規模計測表中の換算については、桁行Ａ・棟持 a_1・（ＤＰ211—ＤＰ212）・（ＨＰ211—ＨＰ212）の４例中の２例換算についてのみ表記したが、４例別の換算を試みれば、列記㋐～㋓の指摘の是非もより詳細に検討できるもの

と考えられる

留意事項④　以来尺遺跡でも、筆者が調査を担当した住居に限れば、なぜか、D21内でのDP211・212の検出を通例とする

また、住1421号A・Bのように、住居中央部の床〔中床〕と異なり、また、一段と高い壁沿・壁隅部の床〔高床〕とも異なり、その中間ほどの高さの壁中央部の方形区画H21の確認（付図5）例や、『I集』で既報告の住1048号の中床部張り床材土とは別の張床材土を使用した壁中央部の方形区画H21の確認例や、住1003号A・1011号・1435号A・1435号BのHP211・212検出からの方形区画H21の確認例も多い。

加えて、以下に説明する住1003号A内の祭祀土坑SX1009号と土坑内出土の「遺物」である刀子の「別所への住居掘り替えに伴う祭祀遺物」としての確認例も多い。

刀子は、ⓐ刃部を旧出住BのD11に求心する状況で、ⓑ新出住AのH21西縁筋の、ⓒ南壁沿高床北縁で、ⓓ刀子同様に住BのD11に求心する掘り形を有し、ⓔ住Aの高床面ではなく、一段低い中床の張り床面と一致する深さに掘られた、ⓕ土坑SX1009号内から、ⓖその底面から10cm上位で、ⓗ水平の状態で出土したものである。

以上のことと、列記㋔・㋕や他の住居例から、留意事項④として、下記㋑～㋣などについての検討が『III集』以下で必要となる。

㋑住居構築当初の床中央部土坑D11配置は、棟持柱筋直下よりも、若干D21配置壁寄り（住1436号、付図5の住1422号B）の例や、棟持柱筋にD11の掘り形を接してD21配置壁寄り（付図2の住1018号A）の例が多い。

㋺当初から建て替えた住居のD11配置は、旧出D11部とほぼ同じ位置に設ける例も多いが、D21配置壁と対峙する壁中央部に新たな方形区画H21配置（HP211・212配置）を確認した住居では、棟持柱筋下よりも、明らかにこのH21寄り（住1003号A、住1435号B、付図5の住1422号A）となる例が多い。

㋩また、H21配置住居への建て替えに際しては、当初の住居のD21内柱穴様小ピットDP211・212の片方除去（住1436号）例や、両方除去（住1003号B）例が認められる。

㋥また、H21配置住居への建て替えに際しては、旧来のD21部に張り床材土とは別途の材土を使用して方形区画DH21を構え（住1421号A）たり、旧来のD21部両端に壁隅高床を構え（住1435号B）たりする例があり、両端の壁隅高床間の低いD21外部は、方形区画DH21同類となる。

㋭しかし、H21を建て替えに際して構えない住居については、D21とDP211・212配置が継承され、構えられる（住1465B⇨住1465A⇨住1464号）例がある。

㋬既述の住1003号Aでの刀子の出土状況・状態は、住1011号住での素環頭刀子の出土状況・状態との類似項が多い。

ⓔまた、上記のことは、筆者の調査担当ではないため、出土状況・状態は不明な点も多いが、『I集』で既報告がなされている「4号竪穴式住居跡」(同集第23図)の「屋内土坑」出土(同第24図)の「かなりの大型」「頁岩製砥石」(同報文、同第233図)を、同集の付図5で旧住(赤線図示)⇒新(青線図示)で示させて頂くと、この砥石が、ⓐ折損部とは逆の先端部を新出住のD11に求心する状況で、ⓑ旧出住の桁行中軸直下の、ⓒおそらくは、新出住のD21南端のHP211部で、ⓓ砥石同様に旧出住のD11に求心する掘り形を有し、ⓔ新出住の張り床面ではなく、一段と低く掘られた旧出住のD21部を埋設後に新たに掘られた、ⓕ新出住のD21内から、ⓖその張り底面直上で、ⓗほぼ水平の状態での出土状況・出土状態とほとんど一致するのに等しい類似項も指摘できる(同集の付図5参照)。

なお、留意事項④の検討に際しては、Ⓐ報告者がD11を通称の「炉」なる呼称を使用せず、屋内祭祀土坑として構えた〔居住空間=住居床中央部の祭祀火床〕との認識呼称『床中央部土坑D11』の是非、Ⓑ同様にD21を通称の「屋内土坑」なる呼称を使用せず、屋内祭祀土坑として構えた〔居住空間壁沿の祭処〕との認識呼称『壁中央部土坑D21』の是非、Ⓒ同様にH21を集落内でも特別に〔居住空間壁沿のハレ結界〕を構えることを許容された住居のみで確認できるとの認識呼称『壁沿中央部方形区画H21』の是非についても、DP111・DP211・DP212・HP211・HP212・DH21・aHM11の是非と共に、『III集』での検討課題としたい。

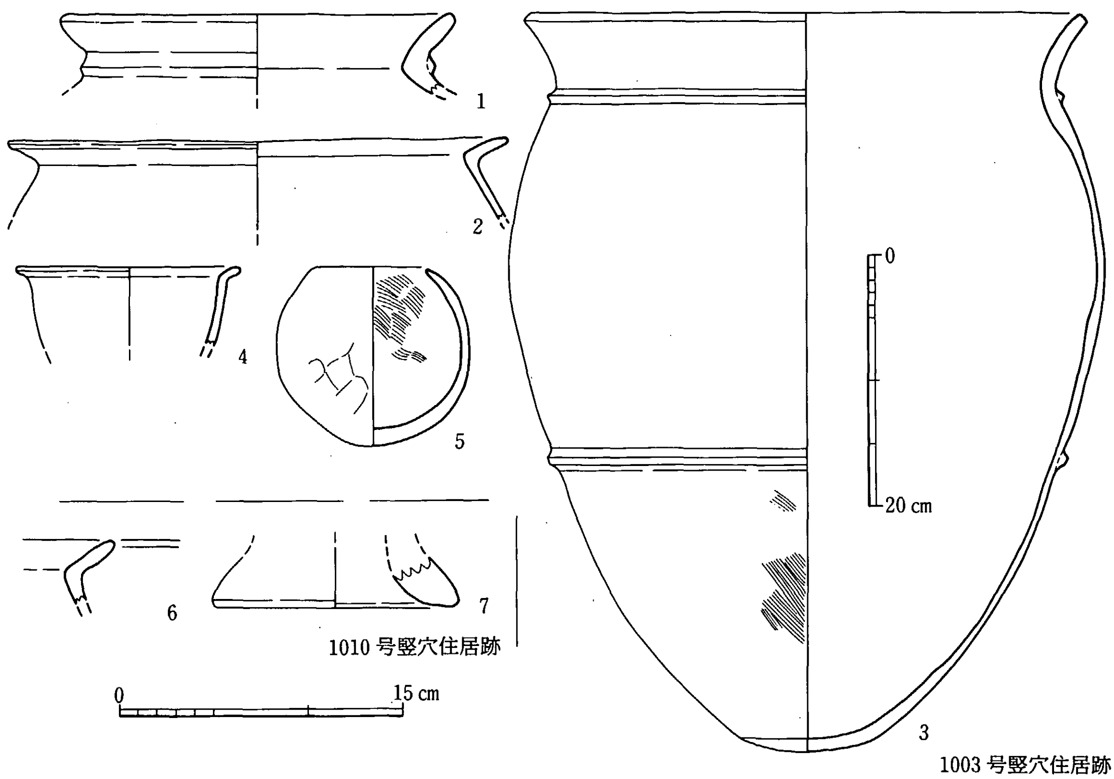
(馬田)

遺物(図版19・66、第8図1～5、第76図8) 1～3は甕である。1は頸部に突帯を貼り付けるが、磨滅が激しく突帯も原形をとどめない。調整は不明で復元口径は21cmを測る。2は胴部が大きく張るもので、器壁が薄い。磨耗が激しいが一部にハケ目が残る。3は頸部に台形の、胴部に刻み目の突帯を巡らせる大型のもので、復元口径43.5cm、最大胴部径47cm、器高58.5cm。外面は磨耗が激しくハケ目がわずかに残る程度である。胴部下位は二次的に火を受けて赤色化し煤の付着が見られる。内面はナデ調整で、全体をやや薄く仕上げる。西側屋内土坑の床面より一括出土。4は椀上半部で、復元口径12cm。磨滅気味であるがナデ調整が窺える。5はボウル型の椀で、口縁部は磨滅が激しく完結しているか定かでない。内面上半はハケ調整で下半はナデによりハケ目は消される。外面底部付近にもわずかにハケが見え、中位には工具等によるナデの痕跡が見える。外面の中位の一部は二次的に火を受けて赤色化している。西側屋内土坑の床面より一括出土。第76図8は刀子で、長さ22.9cm、刀身最大幅2.6cmを測る。厚さは刀身で背幅0.4cm、茎で0.3cm。鞘の木質がよく残る。

(齋部)

註)

1. 秦憲二編「以来尺遺跡I」(『一般国道3号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、福岡県教育委員会、1997)



第 8 図　1003・1011号竪穴住居跡出土土器（1/4　3 は1/6）

1011号竪穴住居跡（図版 2 ～ 4 、付図 6 、表11）

重複関係は、住1003号で詳述。

住居規模は、床面積約35.9㎡（南－北壁間の桁行方向が約686cm、西－東壁間の梁行方向が約523cm）で、棟持柱は西側の柱筋に外接P21・東側の柱筋内に独立P22を配す。

上記の棟持柱の変則的配置は、住1436号⇒住1435Ｂ⇒住1435Ａ⇒住1011号へと 3 回の建て替えを行う際に、構築当初の住1436号のP22掘り形をすべての建て替え住居のP22掘り形として継承したことに起因したもので、このことについては後述する。

棟持換算の算出値は、29.9cm。

ところで、住1011号は 3 回の建て替えが確認でき、住1436号⇒住1435Ｂ⇒住1435Ａ⇒住1011号の順に新しく、以下にこの 4 軒の住居規模の復原について説明するが、詳細は各住居の計測表48・47・46・11を参照されたい。

住1011・1435Ｂ・1435Ａ・1436号の規模復原について

上記 4 軒の住居規模復原に際しての、留意事項を当初に示すと、以下の①～⑧などである。

留意事項①　中央土坑D11が4箇所で確認できたこと。

留意事項②　いずれの住居も南半部を欠失するが、北壁が3壁・北棟壁隅高床が2箇所で確認できたこと。

留意事項③　D11確認数が4箇所にしては、北側の棟持柱P22が1箇所・東壁中央土坑D21が2箇所しか確認できないこと。

留意事項④　上記のP22内で、他の柱穴に比べて異状に深い小ピットP222を検出したこと

留意事項⑤　また、D21内の柱穴様小ピットも不規則に2箇所しか確認できないこと。

留意事項⑥　西壁沿いに、ほぼ直線状に4箇所で柱穴様ピットが確認できたこと。

留意事項⑦　北東壁隅高床2者中の古い高床下までのびる小溝が、東壁沿いで確認できたこと。

留意事項⑧　重複住居の西壁北側の、最も新しい住居床面近くで、素環頭の刀子が出土したこと。

以上の留意事項①～⑧（以下、単に①・⑧などと略す）に、住1003・1049号外の住居規模の検討成果を加えると、4軒の住居規模は以下のように復原できよう（付図5）。

1011号住居

D11　D11周辺部は削平が著しく、構築当初の住1436号の床面も一部欠失することと、住1436号のD11床面の方がより熱変焼土化していたため、既述したように、切り合い関係の確認ミスをしたが、棟持柱筋に東接・桁行中軸に北接する。

P21･22　①で指摘したP222は、掘り形埋土とは異なる黒褐色土を呈したため、掘り形検出面で、既に確認できたが、径が13～14cmと小さいため、注意して掘り形全体を掘り下げた。

4軒のすべてのP21・22の底面標高は、47.35～47.70m間であるが、P222は47.28mと最も深く、P21径は14～20cmを測る。

⑧の刀子が、後述するが、住居重複部とは別所での新期住居構築・使用に伴う、住1011号遺棄祭祀遺物と考えられることから、P222は住1011号の棟持材P22抜去行為に関し、住1436号構築以来、P22配置部とした〔とすることを、集落内で規制され、別所への移動を許容された〕ことに対する、別所構築住居のP22柱建て祭祀前の、住1011号での標象棟持杭P222痕と考えて、P22をP222痕中心としたものである。

P11～14　P12・13と上記P21・22の棟持柱筋から、P11・13を復原すると、P21は整然と南側の柱筋に外接し、⑧の刀子は整然と北側の柱筋下となる。

なお、刀子が南側の柱筋下ではなく北側の柱筋下で、刃部を北側に求心し、3軒の建て替え住居の棟持柱配置を当初の住1436号の北側P22掘り形に継承して重複させ、それでいて北壁側へより規模拡大を継承し、既述のP222もその北側のP22で確認されたことから、新期の住居構

築（居住空間）の許容は、より集落中枢部に近い、高所の丘陵中央平坦部への移動許容として看取される。

高床・方形区画H21（ＨＰ211・212）・方形区画ＤＨ21・Ｄ21（ＤＰ211・212）

これ以上の長文・蛇足を避けるため、詳細を省くが、住1436号〔高床・H21（ＨＰ211・212）・ＤＨ21無配置。Ｄ21（ＤＰ211・212）配置。なお、ＤＰ212は住1435号Ｂ構築時に除去祭祀〕⇒住1435号Ｂ〔南東・北東壁隅高床とＤＨ21・Ｄ21（ＤＰ211・212）とH21（ＨＰ211・212）配置。なお、ＤＰ211は住1435号Ａ構築時に除去祭祀〕⇒住1435号Ａ〔４壁隅高床とＤＨ21・Ｄ21（ＤＰ211・212は無配置）とH21（ＨＰ211・212）配置〕⇒住1011号〔南・北壁沿高床とＤＨ21・Ｄ21（ＤＰ211・212は無配置）とH21（ＨＰ211・212）配置〕として４軒別にそれぞれ復原できる。

なお、住1011号のＨＰ211・212は主柱Ｐ11・12で兼用したものと考えられる。

Ｐ31・32　梁行Ｂは約478cmで、桁行Ａの約368cmよりも約110cmも大きいため、棟持柱間柱Ｐ31・32を（Ｐ31－Ｐ32）間約52cmと大きくとり、北側の柱筋部ではなく、南側の柱筋部のみに配す。

なお、この南側部のみの配置は、Ｄ11を棟持柱以東への配置と共に、H21に面した棟持柱筋以西でも北半部の中床への配慮と考えられる。

以上のように、住1011号の諸施設配置は、いずれも旧出の住1435号Ａの諸施設配置から帰納されるものではあるが、H21幅127cmとＤＨ21幅125cm、（ＨＰ212－H21東縁）間92cmと（ＤＨ21西縁－Ｄ21）間89cmとはそれぞれ一致するに等しいなど、整然とした住居である。

1435号Ａ住居

Ｄ11　棟持柱筋以西の配置ではなく、同筋以東配置を取り、（南柱筋－Ｄ11）間186cmは、桁行Ａ約388cm×½＝194cmとほぼ一致することから、後述する〔（南柱筋－南西壁隅高床北縁）間、換言すると、（南柱筋－ＤＨ21南縁）間〕も一致するものとして、このＤＨ21南縁を桁行Ａ中軸線までとして復原すると、Ｄ21は（ＤＨ21南縁－ＤＨ21北縁）間の中央配置となる。

また、上記の南東壁隅高床北縁筋（ＤＨ21南縁筋）は、構築当初の住1436号の南側棟持柱Ｐ21への配慮が強い（求心性が強い）ことから、住1435号ＡのＤ11もこの配慮下の配置であると考えられ、また、住1011号のＤ11も同様の配慮下にあると思われ、両Ｄ11に加えて、構築当初の住居も通例としてＤ21寄りに配されることなどから、Ｄ21については以下のように、以前から思慮し、多数の建て替え住居資料の整理復原を試行してきたものである。

報告者呼称の**壁中央土坑Ｄ21・壁中央土坑方形区画ＤＨ21は、当初の住居構築者（群）以来のその居住者（群）にとっての直系祖先への祭処、また、柱穴様小ピットＤＰ211・212はその祭祀標象関係の柱（杭）痕**として思慮。

同様に、床中央部土坑D11は、上記祭処での祭祀行為の火床として思慮。

なお、以上のことについては、住1435号Bでも後述する。

P11～14　P12・13と棟持柱筋から、P11・13を復原すると、（P21－北柱筋）間338cmと建て替え前の住1434号Bの（P21—北柱筋）間338cmは一致する。

高床・H21（HP211・212）・DH21・D21

（南柱筋－HP211）間を、桁行A約388cm×¼＝97cmで復原すると、南西壁隅高床長は約157cm・北西壁隅高床長は約164cmで、ほぼ同じ規模となる。

また、D11で既述のように、（南柱筋－DH21南縁）間を、桁行A約388cm×½＝194cmで復原すると、建て替え前の住1435号B構築以来、DP211・212除去後に継承されたD21は、H21長のほぼ中央配置となる。

1435号B住居

D11　重複4軒のなかで、住1435号BのD11のみが、棟持柱筋以西の配置を取り、（D11－DP211）間が270cmを測るまでにD21から離れ、逆に（D11－HP211）間が134cmを測るまでに近づいて設けられている。

また、既述のように、住1435号Aは、〔壁隅高床2箇所・DH21・D21（DP211・212）・H21（HP211・212）配置〕の住居で、構築当初の住1436号〔D21（DP211・212）のみ配置〕の住居からは1回目の建て替え住居で、床面積も約19.2㎡から約22.5㎡へと規模拡大している。

上述のような、構築当初の住居からは1回目の建て替え住居に認められる、D11がD21から離れ、逆に、D21付設壁と対峙した壁に新たに付設されたH21（HP211・212）部へ移動する特徴は、既述の住1003号B〔D21（DP211・DP212は住1003号A構築で除去）・壁沿高床2箇所配置〕⇒住1003号A〔D21（DP211・212は無配置）・壁沿高床2箇所・H21（HP211・212）配置〕にも例があり、床面積は同じである。

また、構築当初の住居に既にH21（HP211・212）を配するが、1回目の建て替えに伴い、同様にH21部にD11が移動する類似例は、後述の住1422号B⇒住1422号Aにもある。

以上のことや、住1435号Aの住居規模復原のD11について既述したことなどから、報告者呼称の**床中央部土坑D11は、重複住居中の構築当初の住居に伴う当初のものは、既述のように、直系祖先（群）祭祀の火床を原則とするが、方形区画H21併設時の建て替え後住居に伴うD11は、H21が別途住居の居住者をも含む血縁集団共有の祭処で、D11はその火床ともなり、H21部の柱穴様小ピットHP211・212はその祭祀標象関係の柱（杭）痕**として思慮しているものである。

なお、上述の報告者の思慮についての是非は、『III集』での検討課題としたい。

P21・22　棟持柱間$a_1$263cmは、住1435号の梁行B約265cmと一致するに等しい。

P11～14　P12と棟持柱筋とP32からP11・12・14を復原すると、（P32－棟持柱筋）間48cm

と梁行B約198cm×¼=49.5cmは一致するに等しい。

高床・H21（HP211・212）・DH21・D21（DP211・212）

（南柱筋－DH21南縁）間を、桁行A約329cm×¼=82.25cmで復原すると、南東壁隅高床長は約146cmで、22東西中軸以北の北東壁隅高床長127cmはほぼ等間となる。

また、（HP211－HP212）間は150cm・（D11－D21）間は270cmを測る。

1436号住居

D11は棟持柱間a_2のほぼ中軸、D21はその中軸とP22東西中軸間に配す。

また、（南柱筋－DP211）間は149cm、（東柱筋－DP211）間は150cmを測り、一致するに等しい。

また、棟持柱間a_1 162cmは、第1回目の建て替え住居である住1435号Bの桁行A約329cm×½=64.5cmとほとんど同じである。

なお、D21に近接し、住1435号Bの北東壁隅高床下～P54～住1435号AのP13を経て、西壁外へと傾斜をわずかに下げつつ検出した小溝は、住1436号に伴う、D21への漏水防止のための特別にD21への配慮がなされた排水施設である。 （馬田）

遺物（図版19・66、第8図6・7、第76図9） 6は甕の口縁部・7は器台裾部で、どちらとも小片。磨滅のため調整は不明。7は二次的に火を受けて赤色化する。第76図9は素環頭刀子で4片に割れておりいずれも接合しないが同一個体。刀身は幅がほぼ変わらず1.15cm、厚さは最大で0.3cmで切先に向かって0.2cmほどになる。茎は幅1.0cm、厚さ0.4cm。素環頭部は直径0.6cm。刀身に繊維の斜行する薄い木質が残る。 （齋部）

1049号竪穴住居跡（図版3、付図6、表19・20）

住1049号B⇨住1049号Aへの建て替えを含む、他の住居群などの重複関係は、住1003号で詳述。

1049号A住居

住居規模は、床面積約22.1m²（北一南壁間の桁行方向が約486cm、東一西壁間の梁行方向が約455cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配し、棟持柱間・（HP211―HP212）間換算の算出値平均は30.7cm。

1049号B住居

住居規模は、床面積約15.6m²（北一南壁間の桁行方向が約476cm、東一西壁間の梁行方向が約328cm）で、北・南側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配し、（北柱筋―DP111）間換算の算出値

は31.2cm。

住1049号Ａ・Ｂの規模復原について

留意事項①　住1003号での重複関係説明Ⅰ―④でも言及したように、住1003号の西壁を切る住ＢのＤＰ211は、住居調査での中央土坑Ｄ11埋土を慎重に掘り下げ、また、Ｄ11底面で慎重にその検出作業を実施すると、筆者の成果によれば少なからず確認例のある柱穴様小ピットである。

筆者は、**方形住住のこのＤＰ111を、円形住居のＤ11内のＤＰ111と共に、住居構築に伴う、昨今にまで類を見る『地鎮祭』類似の、当時の『柱建て（標象・標柱杭打ち）祭祀行為痕（抜去痕)』、加えて、『住居構築全般（竪穴掘削、柱･諸施設配置、軸組み等全般）の基準杭痕（抜去痕)』**と以前から思考してきたもである。

上述の、構築当初の住ＢのＤＰ111抜去痕を中床中央で確認できたこと。

留意事項②　住Ａの方形区画Ｈ21内のＨＰ211痕が、住Ａ・ＢのＰ13と共に検出できたこと。

以上の留意事項①･②などから復原した住居規模は、住Ａの（北柱筋―ＨＰ211）間80cm･（北壁―Ｐ21）間82cmは、桁行Ａ約312cm×¼＝78cmとほぼ一致する。

また、住Ａの桁行Ａ－梁行Ｂ＝桁行差約52cmは、住Ｂの（西柱筋―西壁）間と一致する。

なお、住Ａの（東柱筋―東壁）間は既述の住1003号Ａ例などから梁行Ｂ約260cm×½＝130cmとし、（西柱筋―西壁）間は同260cm×¼＝65cmとして、棟持柱筋方向（桁行方向の北・南壁間約486cm）が梁行方向（東―西壁間約455cm）よりもは規模が大きいという、梁間１間型住居壁規模の通例で住Ａを復原した。

ところで、上記復原では、（東壁―棟持柱筋）間が約260cm、（西壁―棟持柱筋）間が約195cmとなり、住居東半部の規模の方が約65cmだけ大きいが、260÷190cm≒1.37の棟持柱筋の壁間不均衡率は、付図６の住1436号が279cm÷172cm＝1.62〔実際の軸組みの棟持柱筋は、棟材（径15cm前後）を棟持柱Ｐ21･22（径20cm前後）に束接させることで、東へ20cm前後移動するため（279cm－20cm)÷（172cm＋20cm)＝1.35としてよい〕などからも、例外と言えるものではない。

むしろ、住1049号ＡではＨ21施設への配慮から住居東半部の床規模を大きく取り、住1436号では北壁側にＨ21を配さずに南壁側にのみＤ21を構えたことへの配慮から住居南半部の床規模を大きく取ったことを示唆するものである。

住Ｂは、（東壁―東柱筋）･（西壁―西柱筋）間を、共に、梁行Ｂ約224cm×¼＝56cmで復原すると、（住ＡのＨＰ211）と（住Ｂの東壁）間は２cmしかなく、換言すれば、住Ｂ東壁部を住ＡのＨ21西縁とし、東壁の規模拡大がＨ21配置のためになされたものとも言える。

また、上述のことは、建て替えをしてまでも**新たなＨ21配置を必然としたことを示しており、方形区画Ｈ21の施設としての機能を検討する際には留意すべき事項**と言えよう。　（馬田）

1157号竪穴住居跡（図版２・３、付図６、表21）

重複関係は、住1003号で詳述。

住居規模は、不明で、西側の柱筋外の西壁沿高床縁に、独立棟持柱Ｐ21を配し、梁行・（Ｐ21ー西柱筋）間換算の算出平均は29.8cm。

また、西側の柱筋外接の棟持柱筋柱Ｐ31・32を配すが、（Ｐ31ー棟持柱筋）間66cmは、梁行Ｂ266cm×¼＝66.5cmと一致するに等しい。

なお、このように、主柱Ｐ11ーＰ14間にＰ31・32を¼等間で外接配置する住居は、住1157号→住1436号⇨住1435号Ｂ⇨住1435Ａ⇨住1011号）の重複関係が確認できる住1435号Ｂに〔梁行Ｂ約198cm×¼＝49.5cmと（Ｐ32ー棟持柱筋）間48.0cm〕も例があり、住1157号の梁行Ｂ266cm×3/4＝199.5とこの住1435号Ｂの梁行Ｂ約198cmは一致するに等しい。

加えて、住1157号の梁行Ｂ266cm×3/4＝199.5cmは、住1436号の梁行Ｂ約192cmともほぼ等しいことも指摘できるが、これらの検討については、『III集』での類例住居増を待って行いたい。

（馬田）

1413号竪穴住居跡（図版14・16、付図５、表22～27）

重複関係は、住1421号群で詳述。

1413号Ａ住居

住居規模は、床面積約30.2㎡（北ー南壁間の桁行方向が約646cm、東ー西壁間の梁行方向が約468cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22を配すと考えられ、桁行・（ＨＰ211ーＨＰ212）換算の算出値平均は30.8cm。

1413号Ｂ住居

住居規模は、床面積約21.6㎡（北ー南壁間の桁行方向が約462cm、東ー西壁面の梁行方向が約468cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22を配すと考えられ、（ＨＰ211ーＨＰ212）換算の算出値は32.0cm。

1413号Ｃ住居

住居規模は、住1413号Ｂと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21・22を配すと考えられ、（ＨＰ211ーＨＰ212）換算の算出値は31.5cm。

1413号Ｄ住居

住居規模は、住1413号Ｂと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21・22を配すと考えられ、

桁行換算の算出値は30.1cm。

1413号E住居

住居規模は、住1413号Ｂと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21・22を配すと考えられ、（ＨＰ211―ＨＰ212）換算の算出値は29.0cm。

1413号F住居

住居規模は、住1413号Ｂと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21・22を配すと考えられ、桁行・（ＨＰ211―ＨＰ212）換算の算出値平均は29.0cm。

ところで、住1413号は５回の建て替えが確認でき、住1413号Ｆ⇨住1413号Ｅ⇨1413号Ｄ⇨住1413号Ｃ⇨1413号Ｂ⇨住1413号Ａの順に新しく、以下、この６軒の住居規模の復原について説明するが、付図５には住1413号Ａの住居規模復原図のみを掲示し、住1413号Ｂ～Ｆについては主柱11～14の位置のみを示し、これ以上の煩雑な付図となることを避けたため、詳細は表22～27を参照されたい。

なお、以下では住1413号Ａを住Ａ、住1413号Ｂを住Ｂなどと略す。

住1413号Ａ～Ｆの規模復原について

①各住居それぞれのＨＰ211・212中心を結ぶ桁行方向中軸を中軸ＨＡ、この各住居中軸ＨＡと直交する各ＨＰ211・212の梁行方向中軸を中軸ＨＢとすると、住Ａ西壁方向に対し、それぞれの中軸ＨＡはいずれも平行し、それぞれの各中軸ＨＢはいずれも直交する。

②上記のことに留意し、主柱穴Ｐ11を確認した住Ａの西・北側柱筋を住Ａ西壁方向とそれぞれ平行・直交させることで復原する。

③また、中央土坑Ｄ11を確認した住Ａの梁行（梁間）中軸を棟持柱筋とし、この棟持柱筋（主軸）がＤ11中心を通ることとして、東側柱筋を復原する。

④同様に、住Ａの中軸ＨＡ中心を通る直交軸はＤ11のほぼ中心を通ることから、この直交軸を桁行中軸とし、住Ａの南側柱筋を復原する。

⑤以上の住Ａの各柱筋の復原（桁行Ａ・梁行Ｂ規模の復原）を経て、主柱穴Ｐ11を確認した住Ｂの西・北側柱筋を同様に復原する。

⑥また、住Ａの西側柱は住Ｂの西側柱筋から西に３cm移動し、住Ａの北側柱筋は住Ｂの北側柱筋から北に49cm移動したことに留意し、住Ｂの梁間を住Ａ梁間と一致させ、住Ｂの南側柱筋を住Ａ南側柱筋から49cm以北に復原する。

⑦以上の柱Ａ・Ｂの各柱筋の復原を経て、住Ａ・Ｂの各中軸ＨＡの位置は移動がなく、このことが住Ａ・Ｂの西側柱筋がわずか３cmの移動として看取でき、換言すれば、住Ａ西側柱筋と各住Ｃ～Ｆの西柱筋との間隔は、住Ａ西側柱筋と住Ｃ～Ｆの各中軸ＨＡとの間隔（移動）とし

て看取できることを示唆する。

⑧同様に、住AのＨＰ211以北で確認した住Ｃ～Ｆの各ＨＰ211と住AのＨＰ211との間隔は、住Ｃ～Ｆの各北側柱筋が住Aの北側柱筋以北にこの間隔だけ移動することで復原できることをも予期させ、住AのＨＰ212以南で確認した住Ｃ～Ｆの各ＨＰ212配置と住AのＨＰ212配置からの各住居の南側柱筋復原についても予期でき、これら方形区画Ｈ21とＨ21内柱穴様小ピットＨＰ211・212配置からの住居規模の復原については、住1413・1424号の説明でも言及するように、予期以上の成果を得るものである。

⑨以上の各住居の各施設計測値については、表22～27に示すので詳細参照のこと。

なお、以上のように復原した6軒の住居規模は、住Ｂの桁行256cmが住ＣのＨ21長と一致し、住Ｃの（ＨＰ211―ＨＰ212）間の126cm×2ともほぼ一致し、住Ｄの（Ｄ11―Ｈ21東縁）間の91cmが住Ｅの（北柱筋―Ｈ21南縁）間と一致し、住Ｃの（ＨＰ211―西柱筋）間の22cmが住Ｅ・Ｆの同間と一致するなど、いずれも諸施設配置が整然とした住居である。

また、住Ｃ～Ｆでは床面積が約21.6㎡で方形区画Ｈ21のみの配置、住Ｂでは床面積は同じであるが桁行規模を旧出住よりも小さくするが北・南壁沿高床を加え、住Ａでは床面積を約30.2㎡に規模拡大するなど、住1413号居住者の住居空間占有地の規模拡大という集落内での許容（変容）経緯を看取することもできよう。

加えて、出土遺物の検討を一切、筆者がしていない段階での言及ではあるが、上記のことは、住1413号が、住1414号Ｄ・Ｃ・Ｂ・Ａ⇒住1413号Ｆ・Ｅ・Ｄ・Ｃ・Ｂ・Ａ⇒住1425号⇒住1424号へと建て替え移動すると共に、**最終的には、南側の住1414号～北側の1424号間およびその周辺を、集落内で生活空間占有域として許容されたものとして看取することもできよう。**

さらに、上記の一連の移動は、最も新しい住1424号Ａ構築時には、住1424号Ａの中央部床面標高が47.77ｍ、最も古い住1414号Ｄの同標高が47.47ｍで、しかも、南端の住1414号Ｄ～北端の住1424号Ａ間の住居はいずれも重複関係にあることから、各住居いずれもその東・西側の壁構造の検討が必要となるが、この問題（当該類例住居を**竪穴**住居と呼称することが**不適当**であること）については、南側急傾斜面部で確認した住1268号群（『III集』で報告予定）などを含めての検討課題としたい。　（馬田）

1414号竪穴住居跡（図版14・16、付図5、表28～31）

重複関係は、住1421号群で詳述。

1414号Ａ住居

住居規模は、不明とせざるを得ないが、方形区画Ｈ21の長さ（桁行方向）換算の算出値は30.2cm。

1414号Ｂ住居

住居規模は、不明で、H21長・（ＨＰ211―ＨＰ212）換算の算出値平均は30.2cm。

1414号Ｃ住居

住居規模は、不明で、H21の幅（梁行方向）・（ＨＰ211―ＨＰ212）換算の算出値平均は29.6cm。

1414号Ｄ住居

住居規模は、不明で、（ＨＰ211―ＨＰ212）換算の算出値は31.2cm。

ところで、住1414号は３回の建て替えが確認でき、住1414号Ｄ⇨住1414号Ｃ⇨住1414号Ｂ⇨住1414号Ａの順に新しく、以下、この４軒の住居施設の復原について説明するが、詳細は表28～31を参照されたい。

なお、以下では住1414号Ａを住Ａなどと略す。

住1414号Ａの方形区画施設ＨＰ21の復原について

①住Ａの南壁方向と平行するＨＰ211・212桁行方向中軸を中軸ＨＡ、中軸ＨＡ中心を通る梁行方向中軸を中軸ＨＢし、H21北縁を住ＤのＨＰ211掘形に北接する南壁方向との平行線として、側点ａ・ｂ・$ａ_4$を計測し、また、H21長・（ＨＰ211―ＨＰ212）各換算の算出値を求めると、H21長換算での算出値は30.2cmで、換算項のH21長は５、（H21縁―ＨＰ）は１、（ＨＰ211―ＨＰ212）は３、（ＨＰ―南壁）は１、H21幅は４といずれも整数比を得る。

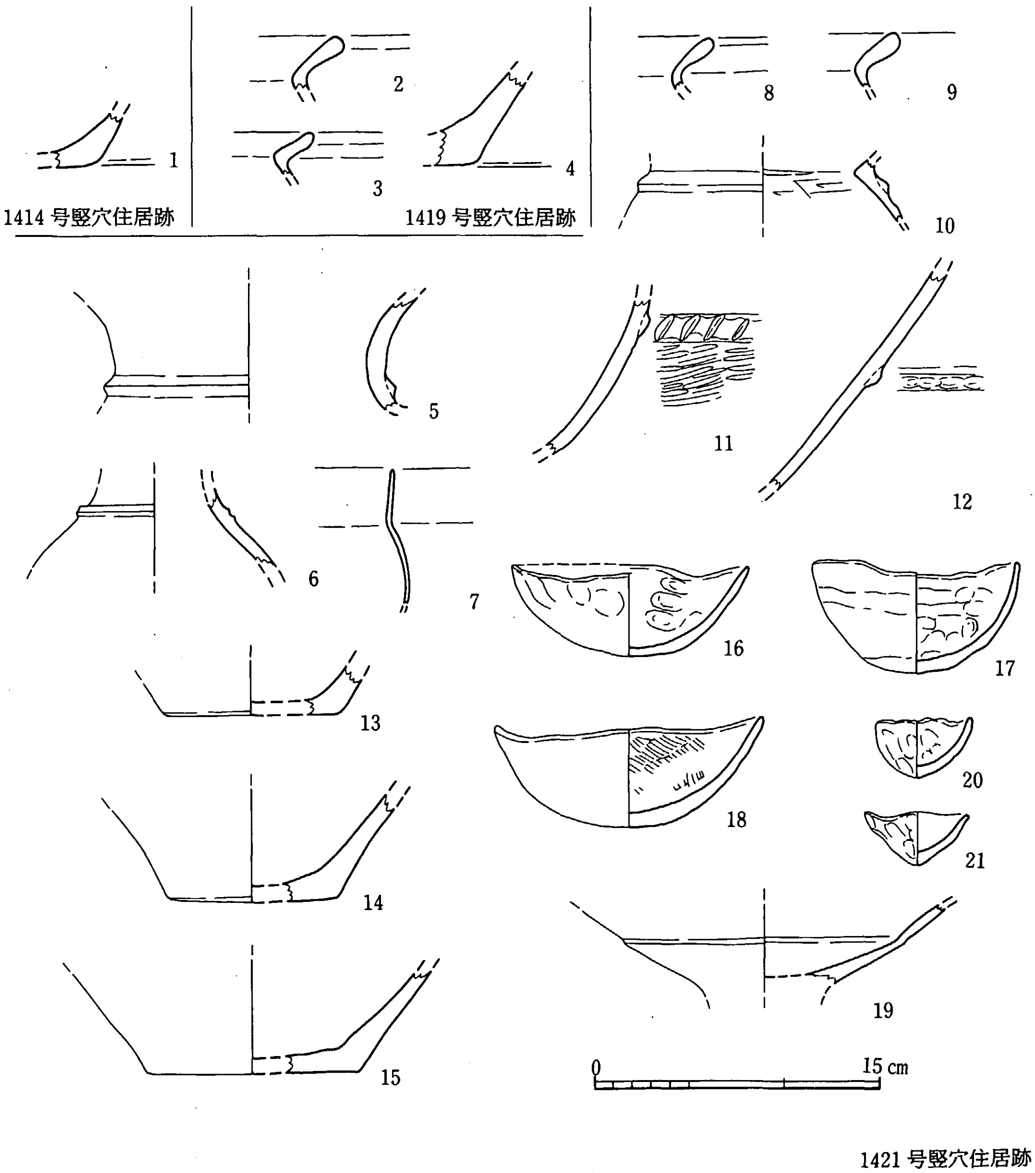
しかし、（ＨＰ211―ＨＰ212）換算での算出値24.0cmでの算出値では換算６項中のH21長と（ＨＰ21縁―ＨＰ）の２項が端数比を示す（表28参照）。

②上記のように、住Ａでは、H21長換算の算出値30.2cmで、整然としたH21と柱穴様小ピットＨＰ211・212配置が復原できる。

③なお、（ＨＰ211―ＨＰ212）と（ＨＰ21縁―ＨＰ）の計測値が端数比を示すことを換言すれば、ＨＰ212は小柱様部材痕・ＨＰ211は小柱様部材抜去痕中心での計測であることに起因するもので、ＨＰ211部材配置はＨＰ212部材同様にＨＰ211抜去痕内でもＨＰ212中心から24cmではなく30.2cm西寄り配置が復原できることを示すものと言えよう。

なお、以上のように復原した４軒のH21部規模は、表28～31に示すように、各住居の測点ｂ中の（H21北縁―ＨＰ）間平均が、住Ｄで15cm・住Ｃで34cm・住Ｂで61cm・住Ａで91cmと単に増大するだけでなく、（15＋34＋61＋91）cm÷（0.5＋１＋２＋３）＝201cm÷6.5＝30.9cm前後を４軒の平均の算出値として、整然とした建て替え・諸施設配置がなされたことを示すものである。

（馬田）



第 9 図　1414・1419・1421号竪穴住居跡出土土器実測図（1/4）

遺物（第９図１）埋土中より出土した。やや膨らみをもつ甕の底部片である。磨滅が激しく器面調整は不明である。（杉原）

1415号竪穴住居跡（図版14、付図５、表32）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、梁行と（北・南壁－北・南柱筋）平均の換算平均は29.9cm。（馬田）

1416号竪穴住居跡（図版14～16、付図５、表33）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、梁行換算の算出値は29.6cm。（馬田）

遺物（図版64　第73図１）片岩製の石包丁で、１/３を欠損する。刃部中央は破損によるものか、度段のついた部分を再度両面から研磨して使用している。刃は使用によりほぼ端部まで磨滅が激しい。両面から穿孔するが、上下位置がずれたために斜めに貫通する。両面わずかに研磨痕が残る。20.0ｇを測る。（齋部）

1419号竪穴住居跡（図版14・15、付図５、表34）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、梁間が324cmで、南・北側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21・22を配し、梁行・（北柱筋－北壁）換算の算出値平均は29.8cm。

なお、壁中央土坑Ｄ21を西壁部で検出していないことや、住1421号群で西壁部にＤ21を配す例もないことから、東壁部配置のＤ21が欠失したものと考えられる。（馬田）

遺物（第９図２～４）２・３は頸部以下を欠損する資料である。２の口縁端部はやや厚くなる。３の頸部は大きく「く」字状に外反する。４の器面調整は不明。（杉原）

1420号竪穴住居跡（図版14・15、付図５、表35）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、西壁遺存長だけでも557cmを測り、大きい。（馬田）

1421号竪穴住居跡（図版14・15、付図５、表36～38）

住1421号群（住1413～1416・1419・1426・1437・2001号）と建2014号との重複関係

上記の14軒の住居群のなかで、住1419号を除く全てに建て替えが確認でき、計28軒の住居と建物１棟との重複関係の説明（周辺住居群を含めると30遺構間以上の説明）となる。

このため、継続した建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇨新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古→新、確認できた新・旧関係や新・古関係などから、意図的（継承的）に継続して重複させた（させられた）と考えられる前・後関係を前➡後で示し、便宜上、Ⅰ～Ⅴの小群別に説明すると、以下のとおりである。

なお、以下では、住1424号Ａ・住1424号Ｂなどの重複住居を、単に住Ａ・住Ｂなどと略す。

Ⅰ遺構群　建2014号➡住1424号群（住1414号⇨住1413号⇨住1425号⇨1424号）

①住1424号は、方形区画Ｈ21内の柱穴様部材ＨＰ211・ＨＰ212の部材痕・掘り形・抜去痕に新・旧関係が認められ、住1425号のＨ21南縁と一段低い中央部床面が住1424号の張り床下で確認できたことなどから、（住1425号⇨住1424号Ｂ⇨住1424号Ａ）へと２回の建て替えが行われている〔計３軒〕。

②住1413号も、Ｈ21部のＨ211・212の部材痕・掘り形・抜去痕および張り床に新・旧関係が確認できたことなどから、（住Ｆ⇨住Ｅ⇨住Ｄ⇨住Ｃ⇨住Ｂ⇨住Ａ）へと少くとも５回の建て替えが行われている〔計６軒〕。

③住1414号も、Ｈ21部の南壁やＨ211の部材痕・掘り形・抜去痕に新・旧関係が確認できたことなどから、（住Ｄ⇨住Ｃ⇨住Ｂ⇨住Ａ）へと３回の建て替えが行われている〔計４軒〕。

④建2014号は、Ｐ１が住1425号、屋内棟持柱Ｐ21が住1413号、施設柱Ｐ61・62が住1414号の各張り床に切られることなどから、建2014号→住1424号群）の順に新しい〔計１棟〕。

⑤ところで、住1424号Ａの主柱穴Ｐ12は住1413号ＢのＨ21部張り床面での検出で、また、後世の削平に因り、住1424号群の壁・張り床の切り合いによる新・古関係は確認できない。

しかし、各住居別でも説明し、付図５に住1424号群・建2014号の規模、主軸・壁方向などを復原（詳細は各遺構の計測表参照）掲示するように、下記㋐～㋔の列記事項などから、〔建2014号➡住1414号（Ｄ⇨Ｃ⇨Ｂ⇨Ａ）➡住1413号（Ｆ⇨Ｅ⇨Ｄ⇨Ｃ⇨Ｂ⇨Ａ）➡住1425号➡住1424号（Ｂ⇨Ａ）へと建て替え・掘り替えが行われたことが考えられる〔意図的・継承的重複計14遺構〕。

㋐各住居の西壁間距離は、住1414号Ａ一住1413号Ｆ間が約150cm、住1413号Ａ一住1425号間が約300cmを測り、後者間は前者間のほぼ２倍であることが看取でき、集落居住者群から住1424号群居住者集団が生活空間占有域を拡大許容されたものと考えられる。

㋑上記のことは、Ｈ21・ＨＰ211・Ｈ212の施設を含む各住居規模にも看取でき、住1414号Ｂ⇨1414号Ａでの南壁の拡大〔床面積の拡大〕、住1413Ｃ（Ｈ21配置のみ、床面積約21.6㎡）⇨住1413号Ｂ（北・南壁沿高床とＨ21配置、同21.6㎡）⇨住1413号Ａ（北・南・東壁沿高床配置、同約30.2㎡）への〔諸施設を含む規模拡大〕、住1425号（壁沿高床３・壁隅高床２・Ｈ21配置、同約34.2㎡）⇨住1424号Ａ（同様配置、同約41.0㎡）への〔諸施設を含む規模拡大〕へと同様に拡大許容されたものと考えられる。

㋒また、住1414号A～Dの主軸方向は（N—52°—W）～（N—60°—W）間で、住1413号A～F間の同方向（N—30°—E）とはほとんど直交するに等しく、住1413号A～Fの同方向と住1424・1425号の同方向（N—23°—E）とはほぼ同じであることも、住1424号群の各住居の継承性を示唆するものである。

㋓同様に、各住居の中央部床面の標高は、住1414号Dが47.33m⇒住1414号Aが47.43m、住1413号Fが47.47m⇒住1413号Aが47.54m、住1425号が47.70m⇒住1424号Aが47.77mで、住1414号Dと住1424号Aとの床面比高差は、延べ床面数13枚で44cmと小さく、床面平均比高差はわずか3.7cmにすぎず、このことも、住1424号群の各住居の継承性を指唆するものである。

㋔加えて、建2014号は、住1424号群域の中央部で確認され、主軸方向はN—59°—Wで、住1424号群の主軸とほとんど一致するに等しいか、ほぼ直交し、施設柱P61・62と住1414号DのH21との配置場所が一致する。

㋕なお、㋓・㋔の留意事項は、『III集』報告予定の南側急傾斜面部の重複住居群例で極端に看取することができる。

II住居群　III住居群→II住1422号群（住1423号→住1422号）→I遺構群

⑥住1422号は、住居西寄りのD11検出面張り床下の住居中央部からも旧出のD11が検出され、主柱穴P11・棟持柱P21の掘り替えや、西壁沿高床下でのP22掘り形が確認できたことから、1回の建て替えが行われ、〔住1422号B⇒住1422号A）へと建て替えが行われている〔計2軒〕。

⑦また、住1422号は住1423号の東壁を切ることから、II住1422号群（住1423号→住1422号B⇒住1422号A）となる〔重複計3軒〕。

⑧さらに、後述するIII住居群のなかの最も新しい住1421号北壁やIV住1420号群で最も新しい北壁を切るが、前述のI遺構群の住1414号から順次建て替えられてきて最も新しい住1424号に南東壁隅部を切られることから、III住居群→II住居群→I遺構群となる。

III住居群　住1421号群（住1415号⇒住1416号→住2001号→住1437号⇒住1426号→住1421号。IV住居群⇒住1421号）

⑨住1415号が住1416の東・南壁を切ることなどから、住1416号⇒住1415号へと建て替えられている。

⑩住2001号の東壁が住1415・1416号住居の西壁を切ることから、（住1416号⇒住1415号⇒住2001号）の順に新しい。

⑪住1426号は住1437号の張り床面上を直接張り床することなどから、住1437号⇒住1426号へと建て替えられている

⑫また、住1426号は住1416号の北壁を切ると共に、住2001号の北壁や住居埋土も切ることなどから、（住1416号⇒住1415号→住2001号B⇒住2001号A→住1437号⇒1426号）の順に新しい

〔計６軒〕。

⑬住1421号は、住1421号Ａ～Ｃの主柱Ｐ11、棟持柱Ｐ21・22の各掘り形の切り合い関係や、住Ｃ張り床上に直接住Ｂの床を、また、住Ｂ張り床上に直接住Ａの張り床をそれぞれ順次に張ることなどから、住Ｃ⇨住Ｂ⇨住Ａへと建て替えられている〔計３軒〕。

⑭また、住Ｃの北壁は住1426号の西壁を切り、住Ａの北壁も住1426号の北壁を切ることなどから、（住1416号⇨住1415号→住2001号→住1437号⇨住1426号→住1421号Ｃ⇨住1421号Ｂ⇨住1421号Ａ）の順に新しい〔重複計９軒〕。

以上のことは、住1426号の北壁～西壁の地山壁部の検出が北西壁隅部までであることや、住Ａの（D21―P21）間の南―北方向の小トレンチでの土層観察、（住1426・1437号北西壁隅部）と（住1421号Ａ～ＣのＰ11・21）間の適宜の小トレンチでの土層観察などで確認できたものであるが、住1421号群の調査作業の実際は、『Ｉ集』[註1]で既報告した建2011号群・住1041号群・住1046号群部での調査作業の実際と共に、多数の遺構間相互の新・旧、新・古関係を確認しつつの掘り下げ実働上、筆舌に尽くせぬものであった。

Ⅳ住居群　住1420号群（住1419号→住1420号）

⑮住1420号は、住1419号の北壁を切ることから、（住1419号→住1420号）の順に新しくなる〔重複計２軒〕。

⑯また、住1420号はⅢ住居群中の住1421号に切られることから、住1419号→住1420号→住1421号の順に新しくなるが、Ⅲ住居群中の住1421号を除く住居群との新・旧、新・古関係は不明で、Ｉ遺構群で既述したように、床面標高や主軸方向・壁方向などの特徴から、（住1436号⇨住1426号➡住1419号）の可能性も考えられるが、このことについては、後述Ⅴ遺構群を『Ⅲ集』で説明する中で検討する。

Ⅴ遺構群　住1012・1013号など

前述のⅢ住1421群以南の住1012・1013号などの遺構群のなかで、住1012号は北壁をⅢ住1421号群の住2001号に、西壁を住1013号にいずれも切られる。

1421号Ａ住居

住居規模は、床面積約38.7㎡（北―南壁間の桁行方向が約709㎝、東―西壁間の梁行方向が約545㎝）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22と**棟持柱筋区画溝ａＨＭ11**を配し、棟持換算の算出値は30.4㎝。

1421号Ｂ住居

住居規模は、床面積約29.5㎡（北―南壁間の桁行方向が約610㎝、東―西壁間の梁行方向が約483㎝）で、北・南柱筋に棟持柱Ｐ21・22と棟持柱筋区画溝ａＨＭ11を配し、西壁中央部の方形

区画Ｈ21長換算の算出値は30.4cm。

1421号Ｃ住居

住居規模は、床面積約15.7㎡(北―南壁間の桁行方向が約440cm、東―西壁間の梁行方向が約356cm）で、北・南側の柱筋に、内接棟持柱Ｐ21・22の棟持柱を配し、棟持・（北壁―北柱筋）間換算の算出平均は29.4cm。

ところで、住1421号は２回の建て替えが確認でき、住Ｃ⇨住Ｂ⇨住Ａの順に新しく、以下にこの３軒の住居規模の復原について説明するが、詳細は表28～31を参照されたい。

住1421号Ａ～Ｃの規模復原について

留意事項①　住Ｃで確認したＰ11・21・22と住Ａ・Ｂとの関係を、住Ｃのこの３柱の抜去痕(抜去時の掘り形)を継承して住Ｂのこの３柱と棟持柱筋区画溝ａＨM11の掘り形を配し、住Ｂのこの３柱の抜去痕を継承して住Ａの３柱を配していることに留意して、３軒の規模復原をする。

留意事項②　住Ｃで確認した地山部北壁の位置まで住ＣのＰ21から住ＢのＰ21掘り形を移動していることに留意し、住ＢのＰ11・22掘り形も同様に住Ｃの東・南壁まで移動し、換言すると、住Ｃの壁規模を継承して住Ｂの柱配置規模としていることに留意し、３軒の規模復原をする。

留意事項③　住Ａの棟持柱穴Ｐ21・22の中軸ａＨは、住Ａの遺存各壁方向、検出高床の南・西縁各方向、Ｈ21北・南縁方向とほとんど平行・直交するに等しく、また、Ｄ21の方形区画ＤＨ21東・西縁と平行するなど、整然とした施設配置を取ることに留意し、３軒の規模復原をする。

留意事項④　また、住Ａの（中軸ＡＨ―ＤＨ21東縁）間は11cmを測る(離れる)ことから、棟材は棟持柱Ｐ21・22の西側に配され、換言すれば、棟持柱Ｐ21・22に西接させて組まれたこと、更に換言すれば、ＤＨ21東縁は実際の棟材直下の位置とすることを意図したＤＨ21配置として看取すると、(ＤＨ21東縁―ＤＨ21)間は93cm、棟持換算の算出値が30.4cmで、93cm÷30.4cm＝3.06となり、整数３を得る。

留意事項⑤　加えて、Ｄ21の西縁はほとんど（北西壁隅高床東縁―南西壁隅高床東縁）筋に東接するが北縁は北壁から若干離れ、ＤＨ21西縁も同筋や北壁から大きく離れることを看取し、また、Ｄ21東縁は住Ｂの西側柱筋にほとんど西接することも看取し、住ＡのＤ21が住ＢのＤ21を継承したものであることに留意すると、住Ｂの（北西壁隅高床東縁―南西壁隅高床東縁）筋がＤ21中心を通ることが看取できる。

また、上記のことから、住ＡのＤＨ21西縁が住Ｂの西壁に一致するものとして住Ｂ西壁が復原でき、換言すれば、上記のＤＨ21西縁が住Ｂ西壁を継承して配されていることも留意して、

3軒の規模復原をする。

以上の留意事項①～⑤などに加え、付図5では、住1421号群中の住1413・1414号で例示した住居規模復原や、『Ⅰ集』の住144号説明の本文198頁既述の**『住居では、旧住居⇨新住居間の切り合いに因る重複は**、住144・住1024号・住1031号（住1052号）の三者共に、**旧住居の一部（高床部を除く）を埋めもどす（埋設する）ことなく』張り床を施し、『旧住居壁の一部を破壊して（拡大して）建て替えたことによるもので』**あり、**壁破壊に伴う排土は張り床材土として利用し、『高床幅を限度とした重複は、住居空間の占有域下での重複（移動）が原則的であったことを示唆するもの』**との考えで、復原掲示したものである。

なお、以上のように復原した住居規模は、住A内では梁行約236cmと（HP211―HP212）間が一致するに等しく、住B内では既述したように（棟持柱筋―D21）間と（棟持柱筋―H21東縁）間が149cmで一致し、住C内では（北壁―北柱筋間）110cm・桁行約220cm・（北壁―南壁）間約440cmと整数比を示すなど、住A～Cいずれも諸施設配置が整然とした住居である。

また、住AのH21長223cmと住BのH21長228cmはほぼ一致し、住Aの桁行約339cm×⅔＝226cmや住Cの桁行220cmともほぼ一致するなど、留意事項①～⑤で言及した住C⇨住B⇨住Aへの、同施設間に限らない諸施設間での規模の意図的継承も認められるなど、整然とした建て替えが行われている。

ところで、筆者の調査担当事例および報告担当事例としては初めての、住A・Bの（棟持柱P21―P22）間の床中央部で検出した棟行方向の溝については、『Ⅰ集』の住居施設の統一番号模式図（第154図）中に**aHM11**を以後加えることとし、その住居説明の統一名称を**棟持柱筋区画溝**とすることを検討中である。

また、その機能については、埋土掘り下げ時の平面的・断面的土層観察上、棟持柱P21―P21間の「地中梁」痕を確認しなかったことなどから、**住居構築上、重要な棟持柱建て祭祀に伴う精神的な地中梁、そして、住居空間として住居を使用する際の、棟持柱・棟持柱筋を他と区画する、D11・D21・DH21・DHP211・DHP212、H21・HP211・HP212同様の施設**として考えている。

加えて、上記のことを換言すれば、この溝aHM11の長さをP21―P22の棟持柱間a_1として計測すると、住Aでは395cm・住Bでは370cmとなるが、この計測値は棟持柱材長と一致するものか。

最後に、住A～Cはいずれも中央土坑D11を『Ⅰ集』で既報告の住1001号同様に無配置とし、住A・Bは付図2の住10号案同様に棟持柱筋区画溝aHM11を配することについても、『Ⅲ集』で検討することとしたい。 （馬田）

註）

1. 秦憲二編「以来尺遺跡Ⅰ」（『一般国道3号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、

福岡県教育委員会、1997)

遺物（図版17・65・66、第９図５～21、第10図３、第75図２、第76図１・３・6）５は頸部に１条の三角突帯が貼付されている。磨滅が激しく調整は不明。６は頸部から肩部にかけて大きく膨らむ。器面の磨滅は著しいが一部丹塗りが観察される。７は頸部から端部にかけては直立気味に立ち上がり胴部付近の器厚はほとんど変わらない。８・９は口縁端部にかけてやや肥厚する。８はP-3より出土。10は頸部が大きく「く」字に折れるように外反し三角突帯が１条貼付される。内面頸部下には横方向のケズリが観察される。11は胴部下位に刻み目の突帯が１条貼付され外面にはミガキが観察される。12も突帯が貼付されるが器面調整は不明。13は復元底径9.6cmを測る。14の復元底径は9.2cm、15の底径は11.2cm。16は内面ナデ調整、外面は磨滅し調整は不明であるが、黒斑が観察される。P-1出土。17は内外面共にナデ調整、底面には黒斑が観察される。18の内面はハケ目、外面は磨滅し底面には黒斑が観察される。19の口縁と外底部とがなす屈曲部には沈線状の段がつく。20は内外面ナデ調整で内底面には指頭圧痕が残る。21の底面は尖底状になっている。

第75図２は埋土中より出土した。砥面は長軸に５面と下端面に観察される。線状痕は長軸に沿って残されている。全体に稜が不明瞭で磨滅している。粘板岩製で24.8ｇを測る。（杉原）

第76図１は有茎の鉄鏃で、現存長6.6cm、幅0.9cm、刃部の厚さ0.15cm、茎の厚さ0.3cm。３は用途不明鉄製品で現存長3.3cm、現存最大幅1.6cm、厚さ0.1～0.7cmを測る。薄い鉄板を折り曲げ、端を合わせて中空にする。図下端部は閉じて完結しているが上端は割れのため不明。図上部の窪みは恣意的ではなく後のつぶれか。６は鉄鎌で、現存長12.7cm・基部幅6.3cm、刃部は欠損のため不明。背はほぼ直線で、先端部は研ぎべりによるものか幅が狭くなる。基部はＵ字形に折り返すが柄の木痕は見られない。第10図３はスカイブルーのガラス小玉で、直径4.9～5.5mm・厚さ4.6mm・孔径1.7mm・重さ150mgを測る。（齋部）

1422号竪穴住居跡（図版14・15、付図５、表39・40）

重複関係は、住1421号群で詳述。

1422号Ａ住居

住居規模は、床面積25.8㎡（西一東壁間の桁行方向が584cm、北一南壁間の梁行方向が441cm）で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱Ｐ21・22を配し、桁行換算の算出値は29.8cm。

1422号Ｂ住居

住居規模は、新出Ａ住居同様の床面積25.8㎡で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱Ｐ21・22を

配し、棟持換算の算出値は29.3cm。

ところで、住1422号は１回の建て替えが確認でき、住1422号Ｂ⇒住1422号Ａの順に新しいが、新住Ａ・旧住Ｂ間では、下記①～⑧が看取できる。

①棟持柱　新・旧住居共に、西壁沿高床幅106cm・東壁沿高床幅107cmとほとんど一致するに等しいが、西側のＰ21の方が東側のＰ22よりも高床に近接し、住ＢのＰ21掘り形は高床下に及ぶことから、高床の造作は棟持柱の柱建て後（棟持柱の柱建て祭祀後）であることに加え、Ｐ21－Ｐ22を住居西寄りに配置したことが看取できる。

②中央土坑Ｄ11・北壁中央土坑Ｄ21　新・旧住居共に、住居中央よりも西寄り配置とし、特にＤ11は（Ｐ21－Ｐ22）間中軸に西接させたことが看取できる。

③北壁方形区画Ｈ21　新・旧住居共に、Ｈ21を住居中央よりも西寄り位置とし、特にＨ21東縁を（Ｐ21－Ｐ22）間中軸に西接させたことが看取できる。

④また、Ｄ11配置は、住Ｂの棟持柱筋下から住Ａでは同筋以北へと大きく移設し、換言すれば、北壁Ｈ21に近接するように移設したことが看取できる。

⑤さらに、ＨＰ211·212配置は、住ＡのＤ21南北中軸（Ｄ21中心を通る南一北方向の中軸線）と住Ａの施設柱Ｐ62中軸が一致するに等しいことが看取できることから、住ＡのＨ21東縁はＤＰ212南北中軸に整えたものと考えられる。

⑥また、住ＡのＨＰ211・212配置は、住ＢのＨＰ211・212配置から東に14cm移設したことが看取できることから、住ＡのＨ21配置も住ＢのＨ21配置から同様に東に14cm移動させたものと考えられる。

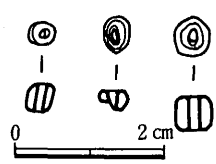
⑦なお、Ｈ21南縁は、新・旧共に（壁柱穴Ｐ51－北柱筋）間が42cmと一致することから、変化がなかったものと考えられる。

⑧上記⑥・⑦の看取点は、既述住1422号Ａ・ＢでのＨ21配置状況に類似する。

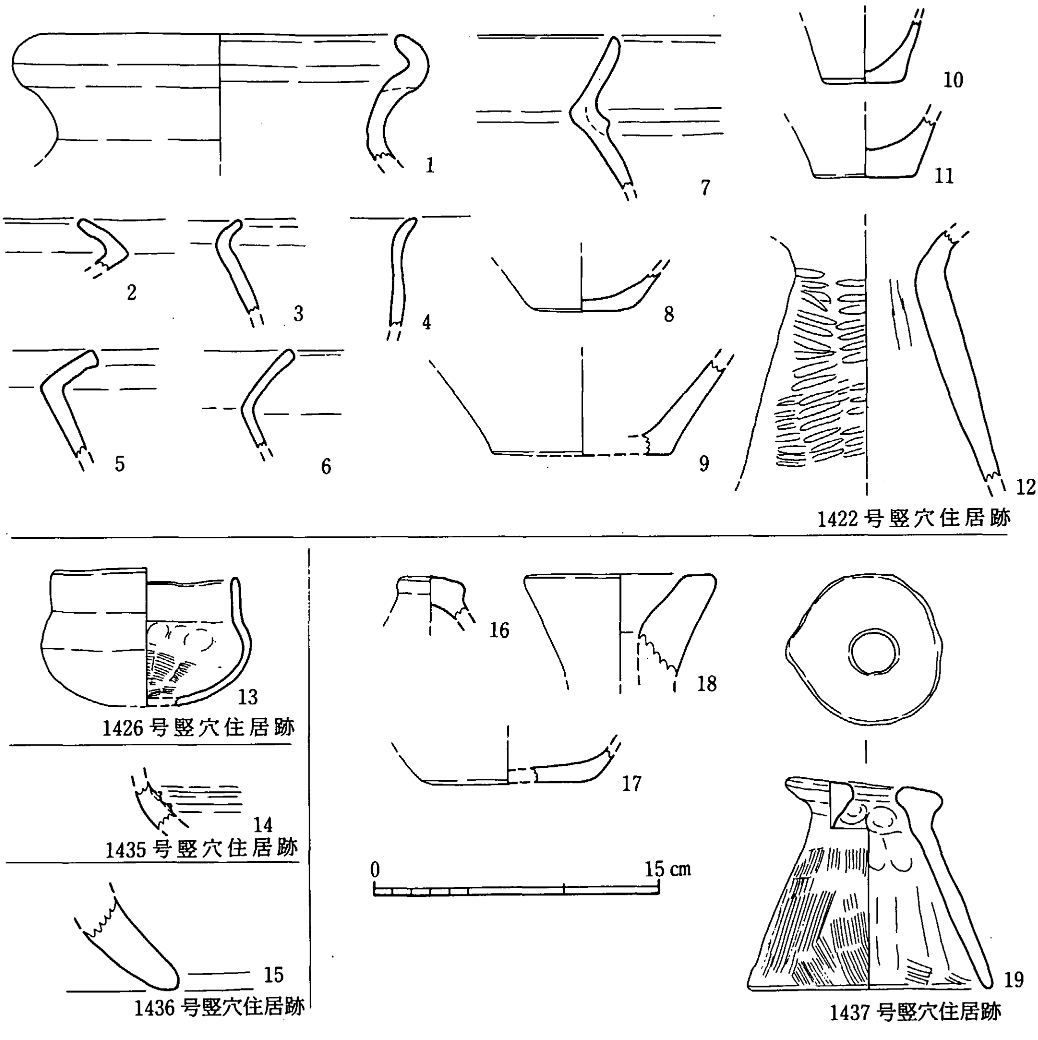
付図５は、以上のように看取された点などに留意して、住1422号Ａ・Ｂの方形区画Ｈ21を復原図示したものである。

なお、新・旧住居の施設を含めた計測・算出の詳細については、表39・40に示したが、住Ａは、棟持柱間322cmと（西柱筋－Ｈ21西縁）間162cm×２＝324cmが一致するに等しく、梁行約350cm×½＝175cmが（西柱筋－ＨＰ211）間や（西柱筋－Ｐ61）間に一致するなど、いずれも諸施設配置が整然とした住居である。

また、住Ｂも、Ｈ21幅93cm×3.5＝326cmがほぼ棟持柱間322cmに等しく、同93cm×５＝465cmがほぼ桁行約476cmに等しいなど、いずれも諸施設配置が整然とした



第10図　ガラス玉実測図（1/1）



第11図 1422・1426・1435～1437号竪穴住居跡出土土器実測図（1/4）

住居である。

最後に、P21・22、D11・21、H21の各施設やP61・62が①～③で西寄り配置をとることの留意事項や、H21の北壁配置や、D11が④で北に移設されるという留意事項から、住居への出入り口施設は、住A・B共に南壁部の（D21ー東壁沿高床東縁）間に構えたものと判断される。

（馬田）

遺物（図版65　第11図１～12　第75図３）１は復元口径22.0cm、内外面磨滅により器面調整は不明だが、内面頸部付近には粘土紐が観察される。２の口縁端部は丁寧なナデによって仕上げられている。３～６は埋土中出土の口縁部片でいずれも磨滅著しく器面調整は不明。５の頸部は鋭く「く」字状に折れる。７は頸部から口縁部にかけては「く」字状に外反し端部は鋭い。頸部は三角突帯が１条貼付される。内面頸部にはナデ調整による段がつく。８の底面は鋭く仕上げられている。９の底部から胴部へは直立気味に立ち上がる。10・11の底面端部は鋭く仕上げられている。10は内外面磨滅しており調整不明。11の外面は二次的に火を受け変色している。12は鼓形器台の胴部片で外面にタタキ、内面くびれ部にはシボリ痕がある。

第75図３は埋土中より出土した。砥面は５面あり、線状痕も多方向に残している。形状から、欠損資料と考えられるが、欠損部である上端面も一部使用している。粘板岩製で119.3ｇを測る。

（杉原）

1423号竪穴住居跡（図版14～16、付図５、表41）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、桁行が約262cm・梁行が約344cmと梁行の方が約82cm大きいが、このことは、東・西壁沿高床を配すための意図的なものと考えられ、住1422号例のように、西壁沿高床東縁をＰ21掘り形西縁に合わせたものか。

なお、壁土坑Ｄ21を住1422号東壁沿高床除去の確認作業でも検出しなかったことから、南壁に配したＤ21が後世の削平に因り、欠失したものと考えられる。

また、西・東の棟持柱Ｐ21・22と西・東柱筋間は13cmと一致する外接棟持柱配置とするなど、整然とした住居で、桁行・棟持換算の算出平均は29.0cm。

（馬田）

1424号竪穴住居跡（図版14～16、付図５、表42、43）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住1424号Ａ

住居規模は、床面積約41.0m²（北一南壁間の桁行方向が約662cm、東一西壁間の梁行方向が約619cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22を配し、桁行・（ＨＰ211－ＨＰ212）換算の算出平均は30.2cm。

住1424号Ｂ

住居規模は、床面積約39.3m²（北一南壁間の方向が約652cm、東一西壁間の梁行方向が約602cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・Ｐ22を配し、桁行・（ＨＰ211－ＨＰ212）換算の算

出値平均は29.2cm。

ところで、住1424号は2回の建て替えが確認でき、住1425号⇒住1424号Ｂ⇒住1424号Ａの順に新しく、以下にこの3軒の住居規模の復原について説明するが、付図5には住1424号Ａの住居規模復原図のみを掲示し、住1424号Ｂ・1425号については主柱Ｐ11～14と棟持柱Ｐ21・22の位置のみを示すこととし、これ以上の煩雑な付図となることを避けたため、詳細は表42～44を参照されたい。

住1424号Ａの規模復原について

①ＨＰ211―ＨＰ212中軸を中軸ＨＡ（桁行Ａ方向）、ＨＰ211･212各中軸を中軸ＨＢ（梁行Ｂ方向）とすると、方形区画Ｈ21の北縁方向は（北西壁隅高床東縁～Ｈ21東縁）方向と中軸ＨＡ方向は平行し、中軸ＨＢは直交する。

②上記のことに留意し、西側柱筋をＤ11の桁行方向中軸とし、南側柱筋をＰ21掘り形北接線（南側柱筋―Ｐ21）間20cmとし、（Ｐ11―Ｐ12）間中心と（Ｐ13―Ｐ14）間中心を結ぶ住居東西方向中軸Ｏ（南北主軸Ｏの直交軸）を、①で既述した中軸ＨＡの中心を通ることとする時、この住居東西方向中軸ＯはＤ11中心を通る。

住1424号Ｂ・1425号の規模復原について

3棟の方形区画Ｈ21内の柱穴様小ピットＨＰ211・212の掘り替えに際しての配置関係を①で既述した住1424号Ａの中軸ＨＡ・中軸ＨＢで看取すると、以下のとおり。

③住1424号Ａの中軸ＨＡに対し、住1424Ｂ・住1425号の同様の中軸ＨＡは各17cm以西・10cm以東に配されている。

④同様に、住1424号ＡのＨＰ211の中軸ＨＢに対し、住1424号Ｂ･住1425号の同様の各ＨＰ211の中軸Ｂは8cm以北･40cm以南に配され、住1424号ＡのＨＰ212の中軸ＨＢに対しては、同様に18cm以北・10cm以北の配置となる。

⑤以上の③と④の看取事項（掘り替え位置と移動方向）を既述①と②の住1424号Ａの留意事項に一致させ、主柱・棟持柱を含む諸施設の規模と配置を復原した（表42～44を比較・参照)。

以上のように3軒の住居規模を復原すると、各施設の掘り替えと移動方向の特徴は、既述の住1413号Ａ～Ｅ、住1414号Ａ～Ｄ、住1421号Ａ～Ｃなどの住1421号群などの各住居に看取できる**建て替えに際しての諸特徴（諸原則）**ともほぼ一致し、『Ｉ集』で既報告の住1029号群・1031号群・1459号群・1460号群・1462号群・139号群・144号群でも看取できるものであるが、この諸原則については、『III集』で言及することとしたい。

なお、以上のように復原した3軒の住居規模は、住1424号Ｂの桁行Ａ（338cm）と住1425号の棟持柱間a_1（338cm）が一致するなど、いずれも諸施設配置が整然とした住居である。（馬田）

1425号竪穴住居跡（図版14～16、付図５、表44）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、床面積約34.2㎡(北一南壁間の桁行方向が約576cm、東一西壁間の梁行方向が約593cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22を配し、桁行・（ＨＰ211－ＨＰ212）換算の算出値平均は29.6cm。（馬田）

1426号竪穴住居跡（図版14～16、付図５、表45）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、住居北側部のみの遺存のため床面積や柱配置などは不明であるが、北一南壁間の梁行方向が360cm、北壁沿高床幅が119cmで、高床幅・（東壁一西壁）換算の算出値は共に30.0cm。（馬田）

遺物（図版17・65、第11図13、第10図２）ほぼ完形の直口壺で口径9.9cm、器高7.3cmを測る。外面は磨滅し不明だが内面はハケのちナデ調整で、頸部下位には指頭圧痕が残る。（杉原）

第10図２はスカイブルーのガラス小玉で長径4.5mm・短径3.9mm・厚さ1.2～2.0mm・孔径1.0～2.4mm・重さ70mgを測る。丸形の玉が引き延ばされたような形になる。（齋部）

1435号竪穴住居跡（図版２～４・14・15、付図６、表46・47）

住1436号⇨住1435号Ｂ⇨住1435号Ａ⇨住1011号への建て替えを含む、他の住居群などとの重複関係は、住1003号で詳述。

1435号Ａ住居

住居規模は、床面積約34.1㎡(南一北壁間の桁行方向が約644cm、西一東壁間の梁行方向が約530cm）で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱Ｐ21・22を配し、Ｐ22は構築当初以来の柱1436号のＰ22掘り形を継承し、棟持柱間・（ＨＰ211－ＨＰ212）間換算の算出値は、共に30.6cm。

1435号Ｂ住居

住居規模は、床面積約22.5㎡(南一北壁間の桁行方向が約445cm、西一東壁間の梁行方向が約506cm）で、棟持柱は西側の柱筋に外接Ｐ21・東側の柱筋内に独立Ｐ22を配すという変則的構えで、このことは構築当初の住1436号のＰ22掘り形をすべての建て替え住居のＰ22掘り形とする、集落のこの住居構築者に対する**内部規制に因る**。

（ＨＰ211－ＨＰ212）間換算の算出値は30.0cm。

なお、住Ａを含めての整然とした住居規模については、住1011号でまとめて説明したとおりである。（馬田）

遺物（第11図14）壺の頸部から胴部付近の破片で方形状の突帯が２条貼付させる。

（杉原）

1436号竪穴住居跡（図版２～４、付図６、表48）

重複関係は、住1011号で詳述したように、住1036号⇨住1435号Ｂ⇨住1435号Ａ⇨住1011号へと３回の建て替えが確認でき、その整然とした住居規模にについても、住1011号で詳述したとおりである。

住居規模は、床面積約19.2㎡（南一北壁間の桁行方向が約425cm、西一東壁間の梁行方向が約451cm）で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱Ｐ21・22を配し、（ＤＰ211一ＤＰ212）間換算の算出値は31.0cm。

（馬田）

遺物（第11図15）裾部片の器厚は厚く、端部付近で急にすぼまる。磨滅により内外面の調整は不明。

（杉原）

1437号竪穴住居跡（図版14・15、付図５、表49）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、住居北端部のみの遺存のため床面積や柱配置などは不明であるが、東一西壁間の梁行方向が354cmで、（東壁一西壁）換算の算出値は29.5cm。

（馬田）

遺物（図版17、第11図16～19）16は器種は不明だが頭部復元径は3.8cmを測る。17の底部片は磨滅し、調整は不明。18の受部付近は二次的受熱により赤変している。19は頭部径8.2cm、器高12.9cm、裾部径は11.2cmを測る。頭部には突起を有し、中央部には2.0cmの孔がある。頭部からくびれ部にかけてナデ、体部から裾部にかけては縦方向のハケ目で端部は横ナデされる。内面は指ナデされ一部ハケ目を残し、黒斑が認められる。

（杉原）

1464号竪穴住居跡（図版13、付図４、表50）

重複関係は、住1466号群で詳述。

住居規模は、床面積約50.1㎡（南一北壁間の桁行方向が約833cm、西一東壁間の梁行方向が602cm）で、南側の柱筋下に棟持柱Ｐ21、（Ｄ11一北側の柱筋）間に独立棟持柱Ｐ22を配す。

また、棟持柱間a_1の252cm×1/3＝84cmと（南側の柱筋一ＤＰ211）間が一致するなど、南・北壁沿高床を含む諸施設配置が整然とした住居で、桁行Ａ換算の算出値は31.1cm。

（馬田）

1465号竪穴住居跡（図版13、付図４、表51・52）

重複関係は、住1466号群で詳述。

1465号A住居

住居規模は、床面積約33.8㎡(南―北壁間の桁行方向が約679cm、東―西壁間の梁行方向が498cm)で、南側の柱筋に外接棟持柱P21を、南・北側の柱筋間の中央に独立棟持柱P22を配す。

また、桁行Aの334cm×1/3=111.3cmと(南柱筋―DP211)間の115cmがほとんど一致するに等しいなどD11を含む諸施設配置が整然とした住居で、桁行A・(南柱筋―DP211)換算の算出値平均は29.6cm。

1465号B住居

住居規模は、床面積約31.7㎡(南―北壁間の桁行方向が約680cm、東―西壁間の梁行方向が466cm)で、南側柱筋外に独立棟持柱P21を、南・北側の柱筋間の中央に独立棟持柱P22を配す。

また、DP111東西中軸線にD21を南接させるなど北東壁隅高床を含む諸施設配置が整然とした住居で、桁行A換算の算出値は28.7cm。 (馬田)

1466号竪穴住居跡(図版13、付図4、表53)

住1466号群(住1464～1467号、住12・13・18・19号案、住20号)、建2013号群(建1029・2013号、建1・12号案)、溝1004号群(溝1004・1024・1・15・16号)の重複関係

上記の遺構群のなかで、『I集』註1では、住18・19号案と住20号は住18～20号(同集の第51～53図)、建2013号と建1号案は建2・1号(同第166図)、建12号案は建12号(同第172図)、住13・12号案は住12・13号(同第40図)として、それぞれ既報告されたものに類似するが、遺構群の重複関係を検討する際、以下の①～⑤について留意すべきである。

留意事項①　既報告の住19号の説明文では、「長軸線上にある2本の主柱穴は深く、北側で70cmを測る」と記され、『II集』の付図4の住19号A案のP21'を北側主柱穴、同付図4の建1029号AのP2を南側主柱穴として図示する。

留意事項②　また、既報告の建2号の説明文では、「当初は1間×2間を想定していたが、中央北側の柱穴は他とプランが異なり、またこれに対応する柱穴が南側で確認できなかったことから、かなり横に長いが1間×1間の建物跡という認識に至った。柱穴の掘形は一辺70～80cmの比較的大きな隅丸方形で、深さはおよそ55cmに統一される。確認された柱痕はいずれも径20cm。」と記し(・印は筆者付加)、『I集』の第166図では、『II集』の付図4の建2013号AのP5を建2－1、同建2013号AのP22を建2－2、同建2013号BのP10を建2－3、同住1064号のP14を建2－4、同建2013号AのP9を建2－6として図示する。

留意事項③　ところで、92年度のバイパス路線内の市道付け替え部分の調査部を、付図4で示すと、(住12号案の南東壁隅部)～(住1466号の北西壁隅部)～(住1467号の南東壁隅部)～(住19号案の南東壁隅部)間の以北である(『I集』の図版13・18参照)。

また、94年度の調査部は、(住1466号の北西壁隅部)～(同住の北東壁隅部)～(住1467号の東壁確認北端部)～(建2013号ＢのＰ22)～(住19号Ａ案の床中央部土坑Ｄ11) 間の以南である(『Ｉ集』の図版３参照)。

留意事項④　なお、94年度調査中に検出した(建2013号のＰ９)と(建1029号のＰ５・６)を、調査時点では建1029号の南側の柱筋と考え、このように考えた南側の柱筋に対峙する北側の柱筋の柱穴を確認するだけのために、19号の既調査床面部の精査を実施させて頂き、建1029号のＰ３とその掘り形を新たに検出した。

また、『Ｉ集』の図版28―１に示されているように、住19号案のＰ22部の床面近くで出土していた土器群を避けて？検出・実測されていた同Ｐ22部の精査もさせて頂き、同Ｐ22の掘り形が土器群部にまで及ぶことと、住19号Ａ・Ｂ案の各Ｐ22柱痕を新たに検出した。

上述の新たに検出した建1029号のＰ３とその掘り形、住19号Ａ・Ｂ案の各Ｐ22柱痕については、住19号の遺構実測図中に新たに実測・付加した(『II集』の図版13)。

そして、その建1029号の西側棟持柱や床中央部の床束柱穴配置の可能性も考慮して、建１号案のＰ６部や建1029号のＰ81も再度、精査させて頂いた。

留意事項⑤　なお、『Ｉ集』の図版82―１には建2013号ＢのＰ５とした柱穴も検出・掘り下げられたことが示され、実際に実測図化されているが、『Ｉ集』の第166図では掲示されていない。

以上の留意事項①～⑤のような状況を踏まえて、『II集』の当報告書作成のための実測図検討の結果、ⓐ建1029号の規模を、調査段階での規模としてではなく、『II集』の付図４に示すように、ⓑまた、既報告の住18・19号を同付図４に示す住18・19号案のように考え、ⓒ新たに、調査段階ではどの遺構に属するものかの判断に苦慮していた柱穴・掘り形〔同付図４掲示の建2013号Ａ・ＢのＰ21・23掘り形や建2013号ＢのＰ７〕が、『Ｉ集』の第166図の１・２号掘立柱建物跡実測図中に〔建２―１、建２―２、建２―３、建２―４〕として掲示されている柱穴・掘り形などと共に、建2013号の主柱・棟持柱に属するものとの、筆者なりの結論を得、ⓓまた、『Ｉ集』で住19号の〔南側の主柱穴〕として既報告されたものが、建1029号Ａ・Ｂの〔Ｐ２〕と判断でき、ⓔ住19号Ａ・Ｂ案で掲示した〔各Ｐ21・21〕が、既報告の住19号の〔新・旧二者の柱〕配置と判断できるとの筆者なりの考えに至った。

以上の留意事項①～⑤と筆者のⓐ～ⓔの考えから、各遺構を、建て替えや掘り替えが行われた新・旧関係を旧⇨新、その新・旧関係にはない遺構間の切り合いによる新・古関係を古→新で示すと、住1466号群・建2013号群・溝1004号群の重複関係は、以下の㋐～㋒のように指摘できよう。(付図４、各建物(案)・住居(案)計測表、および『Ｉ集』の関係遺構報告参照)。

㋐住1466号群中の住1465～1467号は、いずれも残存壁高がほとんどなく、張り床部が遺存するだけに近い状態であったが、その各住居張り床の新・旧・古の切り合い関係や、(住1465号ＢのＰ22・Ｄ21) → (住1465号ＡのＰ22・Ｄ21)、(住1465号ＢのＰ21) → (住1464号のＰ21)、(住

1464号のＰ22）→（住1466号のＤ21）の切り合い関係に加えて、（建1464・1465号の各Ｐ21）・（建1465号Ａ・Ｂの各Ｐ22）・（建1465号Ａ・建1466号の各Ｐ13）などの各柱痕が同じ掘り形内で検出されることなどから、（住1465号Ｂ⇨住1465号Ａ⇨住1464号）の旧⇨新の順に建て替えられ、住1464号→住1466号の古→新関係が指摘できる。

④なお、住1467号は、既述の94年度調査区内ではＰ91以外に柱穴・土坑などの施設を確認していないことから、92年度調査区内に配されていた可能性も強いが、住1464号東壁と住1467号南壁との切り合い関係は、両者の張り床相互間では確認し得なかった。

しかし、柱痕が深く遺存した建1464号のＰ14掘り形が標高48.99ｍ、住1467号の張り床下面の標高が48.94ｍでそれぞれ検出したことから、住1467号→住1464号の順に新しいと判断でき、前述の⑦から、〔住1467号→住1465号Ｂ⇨住1465号Ａ⇨住1464号→住1466号〕の順に新しいと判断してよい。

⑦また、住1466号と『Ｉ集』で既報告の住12・13号の重複関係は、建1002号で後述する重複関係（付図２参照）のように、住13号Ｂ案⇨住13号Ａ案⇨住12号案のように建て替えられたものと判断すると、その住12号案の南壁沿高床部東壁を住1466号が切る（『Ｉ集』の第40図の12・13号竪穴住居跡実測図でも、この壁部が住居内側に内弯気味に掲図されている）状況（現実）下で、重複している住1466号部を発掘調査せずに、既報告の住12・13号のみの発掘・実測がなされた可能性が強いことから、〔住13号Ｂ案⇨住13号Ａ案⇨住12号案→住1466号〕と考えられる。

㊄建2013号群の各建物に属すると判断される全柱穴間には、柱穴検出面の現標高下での切り合いは見事なまでに認められないが、各建物規模を考慮すると、いずれの建物も重複関係にある。

㊅なお、各建物に属する柱穴・掘り形内での切り合いは認められ、建1029号Ｂ⇨建1029号Ａ、建2013号Ｂ⇨建2013号Ａ、建12号Ｂ案⇨建12号Ａ案の順にそれぞれが建て替えられている。

㊇しかし、建2013号群の柱穴群と住1466号群では、上述㊄の状況とは逆に、見事なまでに切り合いがどうにか把握でき、建2013号Ａ・ＢのＰ21→住1464号の張り床、建2013号ＢのＰ７→住1464号の張り床、建2013号ＢのＰ10→住19号Ａ案の張り床(『Ｉ集』の既報告では同集の第166図の建２—３と掲示された柱穴に相当し、この柱穴については「19号竪穴住居跡の床面下において検出された柱穴も存在することから、少なくともそれらに先行して建てられたものであることだけは間違いない」と説明されている)、建12号Ａ・Ｂ案のＰ３→住18号案（同集の既報告では、同第172図で建12—３と掲示の柱穴を、「18号竪穴住居跡に切られるので、それ以前である」と説明されている）の順に、それぞれの住居の方が新しい。

㊈なお、『Ｉ集』の既報告では、住19号→住20号、住103・104号→住18号の順に新しいことが把握・説明してあるが、これらの重複関係についてまでの言及は省く。

㋒溝1004号群については、建1019号で詳述する。

以上の指摘事項㋐～㋒から、遺構群の重複関係は以下の①～Ⓘにまとめられる。

Ⓘ〔建1029号B⇨建1029号A→住19号B案⇨住19号A案→住18号B案⇨住18号A案〕。〔建1号→住19号B案〕。〔建12号B案⇨建12号A案→住18号B案〕。

Ⓘ〔建2013号B⇨建2013号A→住1465号B⇨住1465号A⇨住1464号→住1466号〕。〔住13号B案⇨住13号A案⇨住12号案→住1466号〕。〔住1467号→住1465号B〕。

Ⓘなお、住19号案については、住19号B案⇨住19号A案への1回の建て替えだけでなく、住19号B案のP21東側のP21'(『I集』の既報告の住19号説明文での「北側」の「主柱穴」のこと)も確認されていることから、2回の建て替えが行われた可能性が強い。

上記の2回の建て替えについては、既報告の住19号の各壁の規模・方向が全体的には不整長方形プランを呈することからも看取でき、例えば西壁方向は(住19号A・B案のP21)―P21'方向と直交、南壁方向は住19号B案のP22―P21方向と平行、東壁方向は住19号A案のP22―P21と平行の関係にあることが指摘できることからも言えようが、最後に、既報告の住19号に対しての住19号案の付図4への再掲示は、建1029・2013号の両建物規模の検討・報告説明するためなどの筆者文責の不可欠からのみである。

Ⓘ住18号案についても同様で、重複関係の検討・報告説明するために加え、通例、棟持柱P21・22が確認できる住居にあっては、筆者が他の住居群も含めての大多数例において、他に主柱P11～14・21・22の〔配置状態と各柱筋方向〕が、出土炭化部材の位置と方向から把握できる良い資料(部材の一部については、『I集』の第57図掲示から省略)とさせて頂くための筆者責の不可欠からのみの検討案の掲示で、『III集』での言及課題としたい。

1466号住居

住居規模は、床面積約12.5m²(南―北壁間が約357cm、東―西壁間が350cm)と超小型で、P11～14の検出を試みたが確認されなかったので当初から無配置と考えた。

なお、D21内のDP212の確認に努めたが、住1466号よりも古い住1464号のP22や建2013号のP3の埋土との識別ができず、検出し得なかった。

また、P21直交軸にD21を南接させるなど、D11を含む諸施設配置が整然とした住居で、棟持換算の算出値は31.0cm。 (馬田)

註)

1. 秦憲二編 「以来尺遺跡I」(『一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、福岡県教育委員会、1997)

1467号竪穴住居跡（図版13、付図４、表54）

重複関係は、住1466号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、その他の柱穴Ｐ91が中央部床面から深さ４cmと浅いことや、94年度調査区で柱穴を含む諸施設を検出していないことから、Ｐ91を主柱穴Ｐ11～14中のＰ14、南側の棟持柱Ｐ22を新しい住1465号のＤ21などの掘削で欠失、西壁土坑Ｄ21を新しい住1466号のＤ21の掘削で欠失とし、北側の棟持柱Ｐ22を92年度調査区内で未確認とさせて頂くと、少なくとも南東壁隅高床配置が考えられ、南―北主軸で方向Ｎ―22°―Ｗを測る。（馬田）

2001号竪穴住居跡（図版14～16、付図５、表55・56）

重複関係は、住1421号群で詳述。

2001号Ａ住居

住居規模は、床面積約38.4㎡（北―南壁間の桁行方向が約647cm、東―西壁間の梁行方向が約594cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22を、東側の柱筋に補柱Ｐ81・82を、西側の柱筋にＰ83・84とＨＰ211・212をそれぞれ配すと考えられる。

また、住1421号Ａ同様に、北・南・東壁沿高床、北西・南西壁隅高床、西壁中央方形区画Ｈ21、棟持柱筋区画溝ａＨＭ11の諸施設を配し、中央土坑Ｄ11は無配置と考えられ、棟持換算の算出値は29.4cm。

2001号Ｂ住居

住居規模は、床面積約36.7㎡（北―南壁間が住Ａと同じ約647cm、東―西壁間が住Ｂよりも約26cmだけ（棟持柱径分だけ）小さい約568cm）で、住Ａ同様の棟持柱（内接棟持柱）・補柱・ＨＰをそれぞれ配すと考えられる。

また、北・南・東壁沿高床、西壁中央Ｈ21、中床中央ａＨＭ11の諸施設配置、Ｄ11無配置は住Ａ同様であるが、北西・南西壁隅高床は無配置と考えられ、（棟持柱筋―ＨＰ211）換算例での算出値は29.8cm。

ところで、住2001号は１回の建て替えが確認でき、住Ｂ⇨住Ａの順に新しく、以下、この２軒の住居規模について説明するが、付図５には住Ａの規模復原の大略のみを掲示し、住Ｂについては規模南半部の大略のみの掲示とし、これ以上の煩雑な付図となることを避けたため、詳細は表55・56を参照されたい。

住2001号Ａ・Ｂの規模復原について

留意事項①　住Ａでは、南壁側のＰ82とＰ84（北壁側のＰ81・83は欠失）の中心を通る補柱中軸Ｂと、Ｐ21・22の棟持柱筋は整然と直交すると共に、Ｐ21とＰ22各掘り形東端を結ぶ棟持

柱掘り形東接線は補柱中軸Bの中心を通り・直交する。

留意事項② 住Bでも、P82が確認でき、P84は、住Bに切られる住1012号の棟持柱P22掘り方との重複に因り、検出し得なかったものと考えられる。

留意事項③ 上述の補柱同様の例は、柱1422号A・Bの両壁側の壁柱穴P51に認められ、住1422号ではH21南縁筋下に配されている。

留意事項④ 住Aの東・西側の柱筋が、東側のP81―P82中軸A下・西側のP83―P84中軸A下に配され、(東壁―東側柱筋)間と(西壁―西側柱筋)間を約167cm等間で復原すると、(東壁―棟持柱筋)間が約328cm・(西壁―棟持柱筋)間が319cmで等間とならず、①既述の棟持柱掘り形東接線で等間となる。

留意事項⑤ 上記のことは、P81・82掘り形東接線を東壁沿高床西縁、P83・84掘り形西接線をH21東縁として復原しても同様である。

留意事項⑥ しかし、住Bでは住Bの東・西柱筋がP81―P82中軸下、東壁沿高床西縁がP81・82掘り形東接線下、西側柱筋がP81―P82中軸下、P83・84掘り形西接線をH21東縁として復原すると、①既述の棟持柱掘り形東接線が、東壁―西壁間、東壁沿高床西縁―H21東縁間や梁行の中軸となる。

以上の留意事項①～⑥などに加え、住1421号A・Bの住居規模と諸施設配置などを考慮すると、住2001号Bでも住1421号B同様に棟持柱掘り形東接線を棟持柱筋区画溝aHM11東壁とするaHM11が配され、住Aでは径約26cm(P81中心―P81掘り形東端間)の桁・梁・棟材を使用し、径約35cm(P22掘り形径70cm×1/2)の棟持柱に棟材を東接・梁材を外接(住Bでは梁材は内接)させた軸組み構造と諸施設配置が復原できよう。

また、中央土坑D11の無配置・棟持柱筋区画溝aHM11の配置・壁規模の大きさに加えて方形区画H21規模の大きい点など、集落内でも特別な属性を有すと考えられる住1421・2001号の確認は、集落内での出土位置、住2001号B⇨住2001号A間と住1421号C⇨住1421号B⇨住1421号A間との非連続性、しかし、生活空間占有域の住2001号A・B間と住1421号A～C間との継承性など、集落内での占地縁・有血縁の変容問題把握上、留意すべき諸事項と考えられる。

なお、付図5の復原大略図や表55・56に示すように、住2001号A・Bは共に柱・諸施設配置が整然とした住居である。 (馬田)

(2) 掘立柱建物跡

1002号掘立柱建物跡(図版5～8、付図2、表60)

建1002号群(建1001～1005・1007～1010号)と溝1001号群(溝1001・1003・2001～2007・18号、土坑

1001〜1003号、土坑13号）との重複関係

上記の重複関係については、住1002号の説明のなかでも、住1002号群（住1001・1002・1018号、住10・12・13号案）との重複関係を主として既述し、また、建1019号の説明のなかの列記事項⑨〜⑪でも後述する。

なお、土坑1001・1003号は、『Ｉ集』[註1]でそれぞれ土坑12・11号として既報告され、土坑13号も同集で既報告、土坑1002号と溝1001・1003号については、出土遺物のみが土坑1002号と溝1001・1003号出土として同集で既報告されている。

建て替えや掘り替えによる新・旧関係を旧⇒新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古→新で示すと、重複関係には以下の①〜⑮の特徴が指摘できる。

①建1002号のＰ１〜８と、他の建1002号群や溝1001号群との直接の切り合いはない。

②溝1001号と溝2003号間には、（溝1001号Ｂ→溝1001号Ａ。溝2003号→溝1001号Ａ）の切り合いが認められ、溝1001号Ａからは多量の土器群が出土（『Ｉ集』の第221〜225図）。

③土坑1001・1002号の各内部にも、（土坑1001号Ｂ→土坑1001号Ａ。土坑1002号Ｂ→土坑1002号Ａ）の切り合いが認められ、土坑1001号Ａ・1002号Ａからも多量の土器群が出土（同集の図版113・114、第195・196・198〜202・204・207図）。

④溝2006号→住1019号Ａの切り合いも認められる。

⑤なお、（Ｐ61Ａ—Ｐ62Ａ）と（Ｐ63Ａ—Ｐ64Ａ）はそれぞれが対となる建1002号関連の**標柱・出入り口施設柱穴**、（Ｐ65Ａ—Ｐ66Ａ—Ｐ67Ａ）を同建物関連の**出入り口施設柱穴**、多量の土器群を出土した溝1001号Ａや土坑1001号Ａ・1002号Ａに加えて若干の土器が遺存した溝1003号（『Ｉ集』の第225図）・溝18号を同建物関連の祭祀施設・区画溝と考えると、既述の特徴①〜④から、〔溝1001号Ｂ→（建1002号・溝1001号Ａ・溝1003号・土坑1001号Ａ・土坑1002号Ａ〕。〔溝2003号→（建1002号・溝1001号Ａ・溝1003号・土坑1001号Ａ・土坑1002号Ａ〕。

⑥そして、『Ｉ集』で既報告した建1001号Ａ・Ｂ（同集の第189図、表50・51。なお、表50・51中の主軸方向Ｎ—89°—Ｅは、**Ｎ—89°—Ｗの校正ミス**である。）についても、『II集』の付図２にも示すように、（Ｐ61Ｂ—Ｐ62Ｂ）が対となり、建1001号関連の**標柱・出入り口施設柱穴**、（Ｐ63Ｂ〜Ｐ66Ｂ）を同建物関連の**出入り口施設**、溝1001号Ｂ・溝2001号・溝2002号に加えて列状をなす土坑1001号Ｂ・1002号Ｂや溝2003〜2007号・土坑13号（『Ｉ集』の第203・208図）を同関連の**祭祀施設・区画溝**と考えると、既述の特徴①〜⑤から、〔建1001号・溝1001号Ｂ・溝2001号・溝2003〜2007号・土坑1001Ｂ号・土坑1002号Ｂ・土坑1003号・土坑13号〕→〔建1002号・溝1001号Ａ・溝1003号・土坑1001号Ａ・土坑1002号Ａ〕の順に新しくなると考えられる。

⑦ところで、建1002号の建物規模は１間×３間（313cm×688cm。面積21.5㎡）で、主軸方向がＮ—15°—Ｗの北・南妻側に棟持柱穴Ｐ21・22を配さず、また、既述のように標柱・出入り口・祭祀・区画の諸施設を構えることが考えられるなど、1002号建物は、建1002号群や近接の建1019

号群（後述）の他の建物に比べると、極めて特異な建物である。

なお、桁行・施設柱間換算の算出値平均は30.0cm。

⑧同様に、建1001号Ａの建物規模は、『Ｉ集』で既報告したように、１間×２間（166cm×363cm。面積6.0m²）と梁間規模が極めて小さいにもかかわらず、主軸方向Ｎ—89°—Ｗの西・東妻側の柱筋に別途の内接棟持柱Ｐ21・22を配す。

また、特徴⑦で既述した1002号建物同様の諸施設を構えることが考えられるなど、1001号建物〔筆者は、以上の①～⑧などの構築者（群）が意図的に配慮し、また、集落内・外の構築に対する規制などの特徴を検討し・説明・言及する際、**『建物』・『住居』**の呼称使用を本意とし、『建物跡』・『竪穴住居跡』の呼称使用を本意としないが、『以来尺遺跡』の報告書については、全調査担当者の編集会議での多数決事項につき、『Ｉ～Ⅲ集』の報告書では「建物跡・竪穴住居跡」なる見出しを使用することとなった〕も、他の建物に比べると、特異な超小型建物である。

なお、桁行・棟持柱間換算の算出値平均は29.9cm。

⑨また、『Ｉ集』で既報告した柱1001号Ａ（同集の第155図、表８）の住居規模は、床面積22.5m²（東—西壁間の桁行方向が519cm・南—北壁間の梁行方向が433cm。梁行Ｂ267cm×桁行Ａ269cmの１間×１間）で、桁行とほとんど規模が等しい主軸方向Ｎ—75°—Ｅの東・西妻側の柱筋外に独立棟持柱Ｐ21・22を配すが、床中央部土坑Ｄ11を配さない（同様にＤ11を配さない住居として、住1421号Ａ・Ｂ例があり、この住居も棟持柱筋区画溝ａＨＭ11を配すなど、特異な住居である。付図６参照）など、1001号住居も、他の住居に比べて、**特異な構築物（住居？）**である。

また、この1001号住居は、桁行・棟持柱間換算の算出値は共に29.9cmで、西側の梁行柱筋外の独立棟持柱Ｐ21と西壁間が46cm≒29.9×1.5＝44.25cmしかなく、壁建ち竪穴構築物の可能性も考えられる住居である。

以上の特徴⑦～⑨のように、1001・1002号建物と1001号竪穴構築物は、いずれも集落内では特別な属性を有す遺構と考えられ、既述の特徴①～⑨に加えて、以下の特徴⑩～⑭が指摘できる。

⑩建1002号の北—南主軸方向Ｎ—15°—Ｗは、表60に示すように、住1001号の東—西主軸方向Ｎ—75°—Ｅとは整然と直交するだけでなく、溝1001号Ａ・溝18号の長軸方向とも直交し、溝1003号の長軸方向Ｎ—69°—Ｅをはじめ、土坑1001号Ａ・1002号Ａの長軸方向ともほぼ直交する。

⑪また、建1002号の主軸方向は、『Ｉ集』で既報告した建2011号群の建2009号（同集の付図３Ａ～Ｃ、表76）の西—東主軸方向のＮ—75°—Ｅとも整然と直交する。

⑫建1001号の西—東主軸方向Ｎ—89°—Ｗは、表60に示すように、溝1001号Ｂ・溝2001号・溝2003～2007号の長軸方向とも一致し、土坑1003号の長軸方向Ｎ—85°—Ｗや土坑13号の長軸方向ともほとんど一致するに等しい。

⑬また、建1001号の主軸方向は、『Ｉ集』で既報告した建1027号Ｂ(『Ｉ集』の第192図、表67・68。なお、第192図には作図時に見落としがあったので、『III集』で修正図を掲示し、再検討する）の主軸方向とも一致する。

⑭なお、特徴⑦～⑨で既述したように、建1001号Ａと住1001号Ａの桁行・棟持柱換算の算出値平均は共に29.9cmで一致し、建1002号の桁行・施設柱間換算の算出値平均の30.0cmもほとんど一致するに等しい。

⑮以上の特徴などから、特徴⑤・⑥で既述した新・古関係を、遺跡群Ⓑ〔建1001号・建1027号Ｂ・？建2008号・溝1001号Ｂ・溝1002号Ｂ・溝2001・2003～2007号・土坑1001号Ｂ・土坑1002号Ｂ・土坑1003号・土坑13号〕⇨遺構群Ⓐ〔建1002号・建2009号・住1001号・溝1001号Ａ・溝1003号・溝18号・土坑1001号Ａ・土坑1002号Ａ〕の順に建て替え・掘り替えが行われたものと、新・旧関係を整理することもできようが、いずれの遺構についても、出土遺物の検討をしていない段階での『II集』での報告であるため、一応の指摘事項としておき、『Ｉ集』で既報告した建2011号群・住1459号群・住1460号群・住1462号群（同集の付図３Ａ～Ｃ・第163図・第164図）などの規模・配置状況に加えた出土遺物の検討を踏まえて、98年度の『III集』での課題としたい。　（馬田）

註）

1．秦憲二編「以来尺遺跡Ｉ」(『一般国道３号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第４集、福岡県教育委員会、1997)

1003号掘立柱建物跡（図版５～８、付図２、表61・62)

重複関係は、住1002号群で詳述。

1003号Ａ建物

建物規模は、１間×２間（359cm×455cm。面積16.3m²。）で、東･西側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21･22を配すと共に、床中央部に床束Ｐ81を加え、桁行Ａ･棟持柱間a_1換算の算出値平均は30.2cm。

1003号建物

建物規模は、１間×２間（約359cm×400cm。面積約14.4m²）で、東・西側の柱筋に内接棟持柱Ｐ21・22を配すと共に、床中央部に床束Ｐ81を加え、桁行Ａ・棟持柱間a_1換算の算出値平均は30.1cm。　（馬田）

1004号掘立柱建物跡（図版５～８、付図２、表63）

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、１間×３間（587cm×448cm。面積26.3m²）で、東・西妻側の柱筋に外接棟持柱を配し、桁行Ａ・棟持柱間ａ₁換算の算出値平均は29.5cm。（馬田）

1005号掘立柱建物跡（図版５～８、付図２、表64）

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、１間×２間（442cm×504cm。面積22.3m²）で、南・北妻側の柱筋に内接棟持柱を配すと共に、床中央部に床束Ｐ81を加え、棟持柱間ａ₁の算出値は30.0cm。

なお、桁行柱筋のなかで、西側の柱筋のみに検出した等間のＰ61・62は集落全体の西面を意識しての出入り口に関する施設柱か。（馬田）

1007号掘立柱建物跡（図版５～８、付図２、表65）

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、１間×２間（384cm×315cm。面積12.1m²）で、東・西妻側の柱筋に内接棟持柱を配すと共に、床中央部に床束Ｐ81を加え、桁行Ａ・棟持柱間ａ₁換算の算出平均は30.0cm。

（馬田）

1008号掘立柱掘立柱建物跡（図版５～８、付図２、表66・67）

重複関係は、住1002号群で詳述したように、建1008号Ｂ⇨建1008号Ａへと建て替えている。

1008号Ａ建物

建物規模は、１間×２間（391cm×497cm。面積19.4m²）で、南・北妻側の柱筋に外接棟持柱Ｐ21・22を配し、棟持柱間ａ₁換算の算出値は30.1cm。

1008号Ｂ建物

建物規模は、１間×２間（349cm×449cm。面積15.6m²）で、南・北妻側の柱筋外接の棟持柱Ｐ21・22を配し、桁行Ａ・棟持柱間ａ₁換算の算出値平均は29.9cm。（馬田）

1009号掘立柱建物跡（図版５～８、付図２、表63）

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、１間×２間（420cm×536cm。面積22.5m²）で、東・西妻側の柱筋内接の棟持柱Ｐ21・22を配し、桁行Ａ・棟持柱間ａ₁換算の算出値平均は30.2cm。（馬田）

1010号掘立柱建物跡（図版５～８、付図２、表69）

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、１間×２間（153cm399cm。面積6.1㎡）で、梁間が小さいため棟持柱穴を配さず、桁行Ａ換算の算出値は30.7cm。

なお、上記の建物規模は、南に約８ｍ離れて確認し、『Ｉ集』で既報告の建1001号Ａの建物規模（166cm×363cm。面積6.0㎡）にほぼ等しく、建1001号Ａが東・西妻側の柱筋に内接棟持柱を配すことから、建1010号のＰ21は建1005号のＰ21に切られ・Ｐ22は建1008号のＰ５に切られたために、東・西妻側の柱筋内接の棟持柱を欠失するとも考えられる。（馬田）

1019号掘立柱建物跡（図版６・11、付図３、表70・71）

建1019号群（建1019・1031・1032号）住1019号群（住1019～1021・145号）溝1001号群（溝1001～1003・2001～2007・18号、土坑1001～1003号、土坑13号）、溝1004号（溝1004・1024・１・15・16号）の重複関係

上記の遺構群のなかで、『Ｉ集』[註1]では、住1019号は住141A・Ｂ号（同集の第150図)、住1020号は住142A・Ｂ号（同第150図)、住1021号は住137号（同第148図)、土坑1001号は土坑12号（同第196図)、土坑1003号は土坑11号（同第195図）として、住145号（同第150図)・土坑13号（同203図）と共に既報告されたものに類似するが[註2]、遺構群の重複関係を検討する際、以下の①～③について留意すべきである。

留意事項①　既報告の住141A号の説明文では、「貼床は硬化しているため明瞭であり、これを外すと141B号竪穴住居跡の屋内施設が検出される」と記され、住141B号の説明文では、「本竪穴住居跡は141Ａ号竪穴住居跡の建て替えと思われる」と記されている（・印は筆者付加）が、後段の・印部は校正ミスであり、前段の住141A号の説明文に後続して、「141A号竪穴住居跡は141B号竪穴住居跡の建て替えと思われる」となるべき文意であるとの報告者からの確認を得ている。

留意事項②　また、既報告の住142A号の説明文では、「貼床は硬化しているため明瞭であり、これを外すと142B号竪穴住居跡のプランが検出された。」で終わっていることについても、その文意は『住142A号は住142B号を建て替えたものと思われる。』ことをも含むものであるとの報告者からの確認を得ている。

以上の留意事項①・②のことを、筆者流の建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇨新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古→新で示すことにして、『Ｉ集』での既報告内容を整理させて頂くと、同集の住145号の説明文では、住145号は「141Ａ・142Ａ号竪穴住居跡に大部分を切られる」となっている（・印は筆者付加）ことから、住145号→住142B号⇨住142A号→住141B号⇨住141A号となる。

留意事項③　ところで、『Ⅰ集』で既報告の第150図では、本報告の『Ⅱ集』の付図３に掲示した柱穴・柱穴様小ピット群のなかで、ⓐ中世の溝16号の埋土を切る状態で筆者と共に検出し、その旨を遺構実測図にも註記しているＰア・シ・スのＰア・スが省かれ、ⓑ住1020号Ａ（大略は既報告の住142Ａ号）を切る状態で筆者と共に検出したＰイ・オ・ク・ケ・サとⓒ住1019号（大略は既報告の住141Ａ号）を切る状態で同様に検出したＰセも省かれてはいるが、ⓓ住1020号Ａ（大略は既報告の住142Ａ号）を切る状態で同様に検出したＰウ・カ・キにあっては、Ｐウを省かず、Ｐカ・キを住142Ａ号（大略は住1020号Ａ）の「貼床」下で検出の「住142Ｂ号」同様に赤（破）線で図示されている。

以上の留意事項①～③のような状況から、建1019号群の各建物規模の把握上、また、建1019号群と住1019号群などとの重複関係の説明上、既報告の住居なども『Ⅰ集』の第150図に馬田責任で遺構実測図からの加筆・修筆・遺構検討をさせて頂き、『Ⅱ集』の付図３中に再掲示させて頂くことにした。[註3]

さて、以上のような状況を踏まえて、各遺構群を、既述の旧⇨新、古→新で示すと、建1019号群・住1019号群などの重複関係は以下の㋐～㋚のように判断する。

㋐住1019号群の重複関係は、住145号→住1020号→住1019号の順に新しくなり、これら３軒の住居と住1021号との壁間の切り合いは認められないが、壁間距離が50～150㎝と近接することから、住1019号群内での同時併存はないものと判断できる。

㋑住145号は、北西壁隅部（床面の標高約48.49ｍ）と東壁の一部がわずかに遺存するのみで、住145号に伴う明確な柱穴などは確認できず、住1019・1020号住に因り、欠失したものと判断できる。

㋒住1019号は、２回の建て替えが行われ、住1019号Ｃ（中央部張床面の標高約48.25ｍ）⇨住1019号Ｂ（同48.35ｍ）⇨住1019号Ａ（同48.39ｍ）の順に新しくなり、付図３に示す諸施設配置・規模と判断できる。

㋓住1020号は、１回の建て替えが行われ、住1020号Ｂ（中央部張床面の標高約48.35ｍ）⇨住1020号Ａ（同48.32ｍ）の順に新しくなり、付図３に示す諸施設配置・規模と判断できる。

また、以上のことも考慮して、建1019号群と住1019号群などとの重複関係を続記すると、以下の㋔～㋗のように判断できる。

㋔建1019号は、２回の建て替えが行われ、建1019号ＢのＰ３掘り形→建1032号のＰ３掘り形→建1019号のＰ３柱痕や、建1019号Ａ・ＢのＰ２やＰ４での新・古関係、建1032号・建1019号ＡのＰ４やＰ22での新・古関係に加えて、各建物規模などから、建1019号Ｂ⇨建1032号⇨建1019号Ａの順に新しくなり、建1032号・1019号ＡのＰ22が住1020号Ａの北東壁隅部を切ることなどから、〔住145号→住1020号→建1019号Ｂ⇨建1032号⇨建1019号Ａ→住1020号〕。

㋕建1031号は、Ｐ１・４・21が住1020号壁を切り、Ｐ３・22が住1019号から切られ、Ｐ２は

住1019・1020号を切る中世溝16号からも切られることなどから、〔住145号→住1020号→建1031号→住1019号→溝16号（中世）〕。

㋖また、建1031号の柱穴と、建1019号A・Bや建1032号の柱穴間に直接の切り合い関係は認められないが、建物規模が重複することから、建1019群内の建物は同時併存はあり得ない。

㋗なお、建1019号・住1019号群で住145号を除く遺構の主軸方向は、（N－5°－W）～（N－63°－E）間で計測でき、一致する例はないが、建1019号BのN－63°－Eと住1019号CのN－27°－Wは整然と直交し、建1031号の主軸N－15°－Wと住1020号Aの西壁・住1020号Bの北壁方向は整然と一致するなど、各遺構の出土遺物が未検討ではあるが、建1019号群と住1019号群間にも、『I集』の建2011号や住1029・1033・1459号などの説明で言及した遺構群間の新旧・新古関係と居住空間・生活空間の占有・容認関係が指摘できるものと考えられる。

以上、㋐～㋗のことも考慮して、建1019号群・住1019号群と溝1001号群・溝1024号群などとの重複関係を続記すると、以下の㋘～㋛のように判断できる。

㋘溝1024号群は、いずれも中世の溝で、付図1にも示すように、溝1024号（溝1004号）の東端部は住20号南壁外に一部示されている溝に続くものと思われ、その西端部が溝16号に続き、溝16号は住1019～1021号を切ると共に、建1019号AのP5・6と建1031号のP2・6を切りつつ、溝16号の南端部は溝15号に掘り替えられて、溝15号の南端部が溝1号へと続くものと考えられる。

㋙溝1001号群のなかで、溝2005号（P1325）と共に住1019号を切る溝18号は、その西側を住1021号に切られ、その東側もP1573に切られることから、〔住145号→住1020号→住1019号→溝18号→住1021号→中世溝18号〕、〔住1019号→溝18号→P1573〕、〔住1019号→溝2005号〕となるが、溝18号と溝2005号との切り合いはない。

㋚しかし、建1002号群で詳述したように、溝2005号の長軸方向N－89°－Wが、溝1001号B・2001号Bの長軸方向と共に、建1001号の主軸方向と一致することなどから、溝2005号は溝1001号B・2001号B・2003～2007号や土坑1001号B・1002号B、土坑1003号と土坑13号と共に、建1001号・1027号などに伴うものと考えられる。

㋛また、建1002号群で詳述したように、溝18号の長軸方向N－75°－Eが、溝1003号の長軸方向N－69°－Eと共に、建1002号（主軸N－15°－W）の梁行方向N－75°－Eと一致・ほぼ等しいことなどから、溝18号は溝1001号A・1003号・溝2001号Aや土坑1001号A・1002号A・2001号Aと共に、建1002号・住1001号などに伴うものと考えられる。

1019号A建物

建物規模は、1間×2間（367cm×385cm。面積14.1㎡）で、東・西妻側のほぼ柱筋下に棟持柱を配し、棟持柱間 a_1 換算の算出値は30.1cm。

なお、桁行と梁行の差が18cmと小さいことや、棟持柱がほぼ妻側の柱筋下に位置することか

ら、総柱の２間×２間の建物で、建物中央部の柱穴を確認できなかったことも一部に考えられるが、重複関係にある他の建1019号群でも検出していないことなどから、１間×２間の規模と判断した。

1019号Ｂ建物

建物規模は、１間×２間（約420cm×約342cm。面積約14.4m²）で、東・西妻側の柱筋に内接棟持柱を配し、桁行・棟持換算の算出平均値は29.8cm。（馬田）

註）

1．秦憲二編「以来尺遺跡Ｉ」（『一般国道３号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』、第４集、福岡県教育委員会、1997）

2．『Ｉ集』と本報告『II集』と次年度予定の『III集』で報告・説明・検討などをする諸遺構のなかで、例えば住141号（住1019号）・住143号（住1018号）・土坑11号（土坑1003号）などのように、遺構番号を１～３桁と４桁の両者を有する諸遺構については、検出作業～(一部) 掘り下げを秦氏が１～３桁の番号を付して担当されていた後に、同じ一連の遺構の(一部) 検出作業～掘り下げに馬田も担当者の一員として遅れて加えさせて頂いたものについて、諸搬の事由に因り、調査中に既に別途４桁の番号を付させて頂いたものである。

　また、『Ｉ集』で既報告されている住126・129・138～140号と馬田が既報告した住144号についても、別途４桁の番号は付していないが、上述同様に遅れて担当者の一員として加えさせて頂いたものである。

　なお、遺構番号が４桁のみの一者で付した1000番代の諸遺構については、馬田と、秦氏と交替した齋部氏・後続の杉原氏で、検出～掘り下げ～完掘を担当し、調査段階で既に付したものを示し、2000番代で付した諸遺構については、報告書作成に伴う検討後に、新たに付したものを示す。

3．註２で触れた諸搬の事由は、建1019号で既述してきた留意事項①～③や住1002号で既述した留意事項③などの諸留意事項へと帰すこととなった。

1029号掘立柱建物跡（図版13、付図４、表72・73）

重複関係は、住1466号群で詳述。

1029号Ａ建物

建物規模は、１間×２間（324cm×548cm。面積17.8m²）で棟持柱Ｐ21・22を配さず、中央部に床束Ｐ81を配し、桁行換算の算出値は30.4cm。

1029号Ｂ建物

建物規模は、１間×２間（約348cm×約516cm。面積約48.7m²）で、棟持柱Ｐ21・22を配さず、中央部に床束Ｐ81を配し、桁行換算の算出値は建て替え後の建1029号Ａと等しい。

また、検出の各掘り形はいずれも建1029号Ｂ掘削時のもので、北側柱筋の各掘り形北端を破線で記すように、『Ⅰ集』の建1027号（なお、同集の第192図には作図時に見落としがあったので、『Ⅲ集』で修正図を掲示し、再検討する）で言及した**縄張りによる掘り形掘削と間棹による建物構築**を強く示唆し、このことを、近接する建12号Ａ・Ｂ案でも破線で示させて頂いた。

（馬田）

1031号掘立柱建物跡（図版11・12、付図３図、表74）

重複関係は、建1019号群で詳述。

建物規模は、１間×２間（370cm×428cm。面積15.8m²）で、南・北妻側の柱筋下に棟持柱を配し、桁行Ａ・棟持柱間a_1換算の算出値平均は30.6cm。

なお、建1019号群で詳述したように、住1020号を切るＰサは、建1031号の柱穴埋土とは明らかに異っており、建1031号の柱穴ではないと判断した。

1032号掘立柱建物跡（図版11・12、付図３、表75）

重複関係は、建1019号群で詳述。

建物規模は、１間×２間（約362cm×約376cm。面積約13.6m²）で、東・西妻側のほぼ柱筋下に棟持柱を配し、桁行Ａ・棟持柱間a_1換算の算出値平均は29.0cm。（馬田）

2013号掘立柱建物跡（図版13、付図４、表76・77）

重複関係は、住1466号群で詳述。

2013号Ａ建物

建物規模は、１間×４間（約526cm×約890cm。面積46.8m²）で大型建物とも言えるもので、桁行Ａの約890cmよりも棟持柱間a_1の1005cmが115cmも大きく、南・北側の柱筋外に独立棟持柱Ｐ21・22を配し、表76で換算項いずれもが整数比を示す棟持換算の算出値は29.6cmで、建て替え前の旧出の建2013号Ｂの棟持換算の算出値と一致する。

なお、旧出の建2013号Ｂからの建て替えに際しては、旧出の柱筋に南・西側柱筋を一致させ、旧出の北側柱筋に棟持棟を配す〔(旧出Ｐ22—新出Ｐ22）間は61cmを測る〕。

また、上記による桁行規模の旧出からの減小は、旧出東側柱筋から東へ更なる梁間の60cmの拡大（旧出梁間Ｂは466cm。新出同は526cm）で解決し、旧出床面積44.0m²から2.8m²の規模拡大を計るが、これら60・61cmの計測値も既述の旧・新一致の算出値29.6cmで整数2.0を算出（60cm≒29.6cm×2.0＝59.2cm≒61cm）できるなど、極めて整然とした建物である。

ところで、建2013号の確認の経緯については住1466号群でも既述したように、この建物周辺の調査が92・94年度に及び、担当者・報告者に移動が生じたことに加え、筆者の調査担当力に

起因するものと、以下①～④のように考える。

①住1466号群の確認作業に追われ、住1464号、住1465号Ａ・ＢのＤ21集中部掘り下げて、その集合した検出面プランの形状と最深部の状況から、住居群以外の遺構も重複することには気付いていたが、建2013号も含めた全様把握にまでは至らなかったこと。

②建2013号ＡのＰ９と建1029の埋土が柱穴外の赤褐色粘質土地山の影響を受けた赤茶褐色粘質土系埋土（以来尺遺跡では、『Ⅰ集』で既報告の建1027号や『Ⅲ集』で報告予定の円形住居埋土もこれにほぼ等しい）であったため、建1029号のＰ３・５・６に住19号案のＰ22と建2013号ＡのＰ９を加えて、調査時には建1029号として無理したこと。

③調査時には、建2013号Ａ・ＢのＰ21と建2013号ＢのＰ７を、住1464号の対角柱Ｐ41・44とも一部に考えたこと。

④住1466号群の張床が最も集中する建2013号のＰ２・３部での一部地山掘り下げを実施しての古期遺構（柱穴）の確認作業を実施しなかったことなど。

2013号Ｂ建物

建て替え後の建2013号Ａ同様に、屋内棟持柱Ｐ23を配し、Ｐ21・22よりも約40cmも深く、住1464号の壁削平欠失・張床遺存面標高48.99ｍ、建2013号のＰ23掘り形底標高48.03ｍ（遺存Ｐ23の深さ96cm）を考慮すると、構築当初の掘り形規模は、深さ180cm前後で、上面形状が幅100cm以上・長さ200cm以上、断面形状が『Ⅰ集』で既報告の建10号・住17号様の段状を呈した大規模なものと判断されよう。

また、以上のような建2013号Ａ・Ｂの規模を考慮すると、遺跡全体での確認位置からしても、以来尺遺跡でも特別な属性を有した建物と言える。（馬田）

2014号掘立柱建物跡（図版14～16、付図５、表78）

重複関係は、住1421号群で詳述。

建物規模は、１間×４間（428cm×約884cm。面積約37.8㎡）と50㎡よりもは小さいが、梁間が４ｍ以上と大きく、西―東側の柱筋内に独立屋内棟持柱Ｐ21・22を配すと共に、南側の柱筋外に出入り口施設柱Ｐ61・62も配し、桁行・梁行換算の算出値は共に29.5cm。

建2013・2014号の建物規模について

ところで、建2014号の主軸方向はＮ―59°―Ｗの北西―南東、独立棟持柱間ａ$_1$約442ｍで、この建物は、前述の建2013号Ａ（主軸方向はＮ―30°―Ｅの南西―北東、１間×４間規模で約526cm×約890cm、面積約46.8㎡、独立棟持柱３、棟持柱間ａ$_1$1005cm、北妻側の出入り口施設柱２、棟持換算の算出値29.6cm）と建2013号Ｂ（同Ｎ―30°―Ｅの南西―北東、１間×４間規模で約446cm×約944cm、面積約44.0㎡、独立棟持柱３、棟持換算の算出値29.6cm）の計３棟間での留意事項を列記すると、以下の①～④のとおりである。

留意事項①　３棟の規模はいずれも、㋐１間×４間、㋑梁行428cm・446cm・526cm、桁行約884cm・890cm・約944cm、㋒面積約37.8m²・約44.0m²・約46.8m²と大型建物に近く、㋓屋内・外に妻側の柱筋から大きく離れた独立棟持柱を２～３本配置するなど、１間×２間型の通有例からは特異な建物で、㋔桁行・梁行・棟持換算例の算出値は29.5cm～29.6cmと一致するに等しい。

留意事項②　㋕建2013号と建2014号は１°差で主軸方向が直交し、㋖建2013号Ａと建2014号は出入り口施設配置が確認できる。

留意事項③　共伴出土遺物の検討をしていない段階ではあるが、３棟の建物はいずれも、㋗各重複する住居群よりも古い。

留意事項④　３棟の建物はいずれも、以来尺遺跡全体では、㋘丘陵平坦部、㋙略西―東方向の丘陵の東端部で、㋚眼下に平野部を望み、㋛住10・17・1421号（棟持柱筋区画溝ａHM11・棟持柱の大型掘り形）、住1001号（中央土坑Ｄ11無配置）、住1460・1460号群（棟持柱の特異配置・壁規模の特異性）などの住居群や、㋜建1001・1002号（１間×２間の超小型規模・１間×３間の大型規模、施設柱・土坑・溝の諸施設配置）、建2011号群（建2011号の３間×４間、屋内独立棟持柱２・四面庇？配置例）に、㋝建1027号建物を加えて、㋞これら一連の遺構群を、㋟遺構無配置区を中心とする、㋠特殊な住居・建物・諸施設の継承的環状配置と看取すると、㋡同様に、この継承的環状配置が整然となされたものであることが指摘できる。（付図１参照）。

また、以上①～④の留意事項をも考慮し、建2013号Ａ・Ｂを建2014号の桁行・梁行換算の算出値29.5cm（表78）で再度検討すると、下記Ⓐ～Ⓓのとおりで、３棟はいずれも整数比を示す建物であることからも、換言すれば同時期構築と判断してもよいであろう（表76・77参照）。

Ⓐ桁行Ａ　建2013号Ａ（890≒29.5×30.0＝885）　　建2013号Ｂ（944＝29.5×32.0）

Ⓑ梁行Ｂ　建2013号Ａ（526≒29.5×18.0＝531）　　建2013号Ｂ（466≒29.5×16.0＝472）

Ⓒ棟持$ａ_1$　建2013号Ａ（1005≒29.5×34.0＝1003）　　建2013号Ｂ（1066＝29.5×36.0＝1062）

Ⓓ側点$ａ_1$　建2013号Ａ（58≒29.5×2.0＝59）　　建2013号Ｂ（61≒29.5×2.0＝59）

なお、『Ｉ集』で既報告（表75～78）の建2008～2011号のなかでは、建2009号の桁行換算の算出値と建2010号の棟持換算の算出値も共に29.5cmとなり、建2017号Ａの桁行換算の算出値が29.4cmを示す。

最後に、建2014号の調査段階での出土遺物の収納に際しては、Ｐ１は住1425号のＰ１、Ｐ６は土坑1018号、Ｐ21は住1413号のＰ３、Ｐ61は住1414号のＰ２との註記をしている。（馬田）

(3)　溝状遺構

1003号溝状遺構（図版11、付図３、表60）

詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

現存規模は、長さ9.39ｍ・幅66cm・深さ36cmであるが、近接する住1019号Ａの残存壁高が約15cmであることから、当時は深さ100cm前後に掘削され、溝1001号Ａ（付図２）の形状に類していたと考えられる。

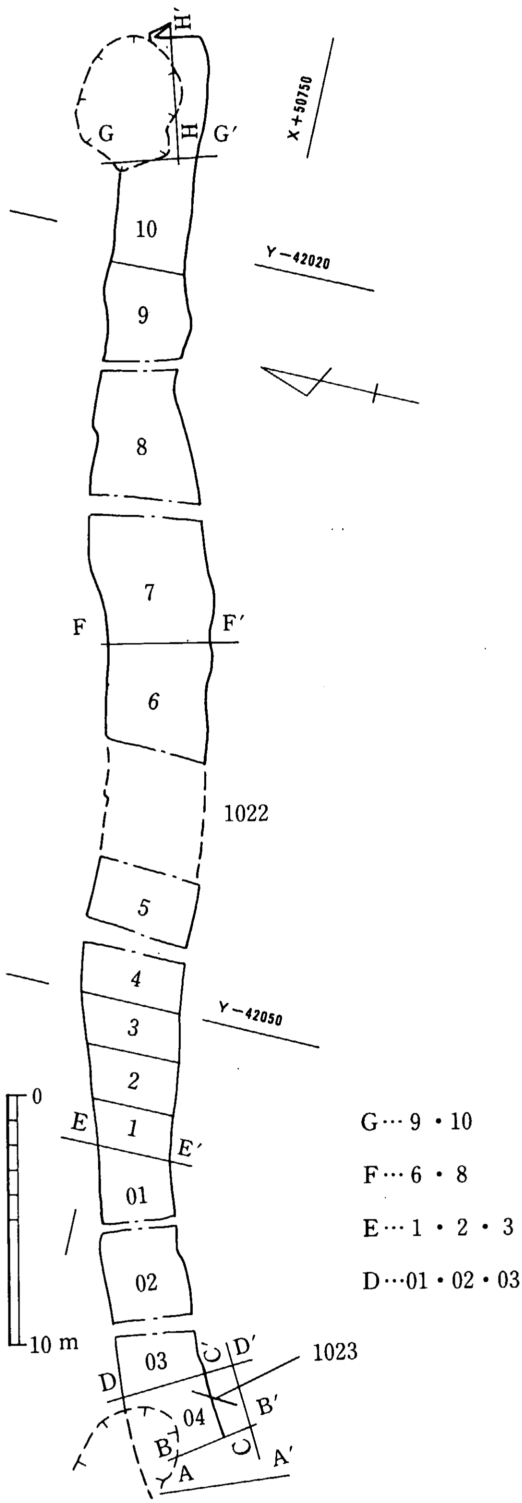
なお、溝中央部を3.5ｍ×4.5ｍ大に攪乱されるが、溝東半部は２段に掘り込まれ、上段床面レベルで土器片・石群が出土したことから、当時は土坑1001号Ａ・1002号Ａ・1003号、溝2001号Ａ同様に祭祀使用土器群を破棄したものと考えられる。　　（馬田）

1022・1023号溝（第12～14図）

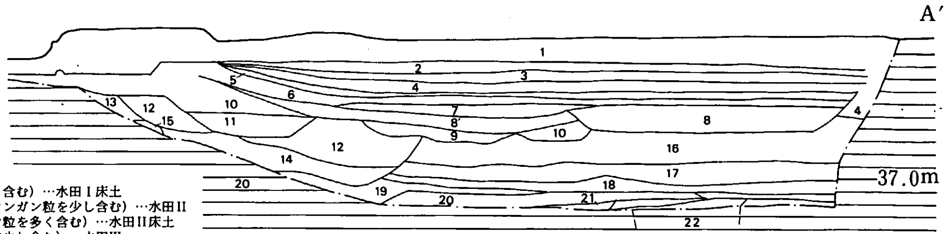
ここでは、出土した土器についてのみ説明を行い、遺構については来年度に報告する。

斜面より進めてきた包含層のトレンチ調査に引き続き、1022・1023号溝内を13区に分けて調査をおこなった。まず、１トレンチの設定とともに遺構検出を開始し、10トレンチまで設定した。そののち、土層Ｅに対応するベルト以西について新たに01・02・03トレンチを設定し検出作業を行った。そして、ちょうど03トレンチ付近で新たに溝と思われる遺構を確認したため、この部分を1023号溝とした。

溝内の遺物の出土状況は一括投棄された状態であり、地点や層位によってその量は大きく異なる。特に３～５トレンチ、６トレンチ、８トレンチ付近で多量に出土している。これらの遺物の取り上げ方法については、各地点に設定した土層観察ベルトの層位に基づき行った。１～５トレンチ出土遺物については土層図Ｅ、６トレンチについては土層図Ｆ、８～10トレンチについては土層図Ｇ・Ｈ、01～03トレンチについては土層図Ｄがそれぞれ対応する。各地点での遺物の取り上げ後、各土層の再観察により同一層序の確認を行い、土層図Ｅ・Ｆについては土層



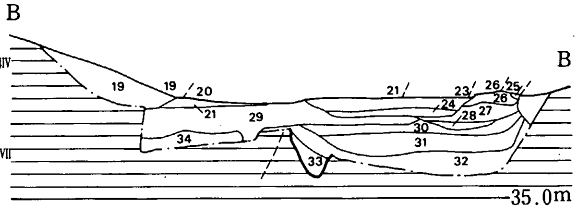
第12図　1022・1023号溝トレンチ配置略図（1/300）

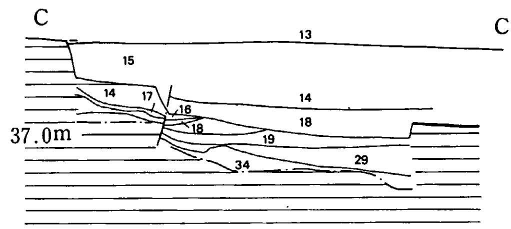


A～C土層図

土層図

1．灰色細質土（現水田）…水田Ⅰ
2．灰色土（5㎜大マンガン粒多く含む）…水田Ⅰ床土
3．灰色砂質土（旧水田，5㎜大マンガン粒を少し含む）…水田Ⅱ
4．灰褐色土（5～10㎜大マンガン粒を多く含む）…水田Ⅱ床土
5．灰色砂質土（5㎜大マンガン粒少し含む）…水田Ⅲ
6．灰褐色土（5㎜大マンガン粒多く含む）…水田Ⅲ床土
7．灰褐粘質土（1㎝大5㎜大マンガン粒多く含む）…小溝Ⅰ
8．褐灰色粘質土（5㎜大マンガン粒多く含む）…小溝Ⅲ
9．灰褐色粘質土(1㎝大カナクソ盤ブロック(茶褐色粘質土ブロック)、5㎜大マンガン粒多く含む)…小溝Ⅳ
10．灰褐色粘質土（5㎜大茶褐色カナクソ系粘質土粒・5㎜大マンガン粒多く含む）
11．灰褐色粘質土（1㎝大マンガン粒・5㎜大カナクソ系粒多く含む）…小溝Ⅴ
12．暗褐灰色粘質土（1㎝大マンガン粒・1㎝大カナクソ系茶褐色粘質土粒を多く含む）
13．灰色砂質土（5㎜大マンガン粒を若干含む）…水田Ⅳ
14．暗灰色粘質土（2㎜大砂・5㎜大マンガン粒を多く含む）…小溝Ⅵ
15．灰白色細砂質土(1㎝大マンガン粒・茶褐色カナクソ盤系粘質土を含む)…小溝Ⅶ
16．暗茶褐色粘質土（2㎜大砂・1㎜大マンガン粒・1㎝大茶褐粘カナクソ盤系を含む）
17．暗灰色粘質土（1㎜大マンガン粒多く含む）
18．暗灰褐色粘質土（2㎜大マンガン粒多く含む）
19．暗灰色粘質土（1㎜大マンガン粒多く含む）
20．暗灰色粘質土（1㎜大マンガン粒・1㎝大茶褐粘カナクソ盤系を含む、青磁片出土）
21．暗灰色粘質土…小溝Ⅸ
22．暗灰色粘質土…小溝Ⅹ
23．黒灰色粘質土
24．暗灰色粘質土
25．黒灰色粘質土
26．暗灰色粘質土（5㎝大土器片を多く含む）
27．茶灰色粘質土（3㎝大土器片を多く含む）
28．暗灰色粘質土（1㎝大炭を多く含む）…小溝Ⅺ
29．黒灰色粘質土…小溝Ⅻ
30．白灰色粘質土
31．灰色粘質土
32．暗灰色粘質土…小溝XIII
33．暗灰色粘質土（ピット埋土、1㎝大灰褐色粘質土を若干含む）
34．暗灰色粘質土…小溝XIV

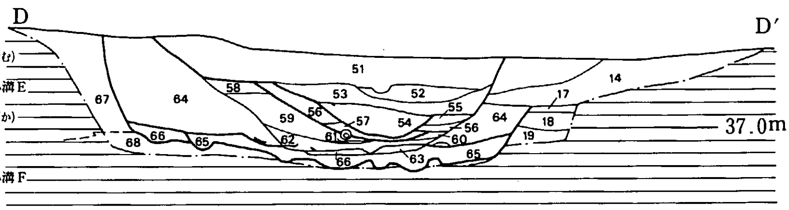




D土層図（01～03トレンチ）

土層図

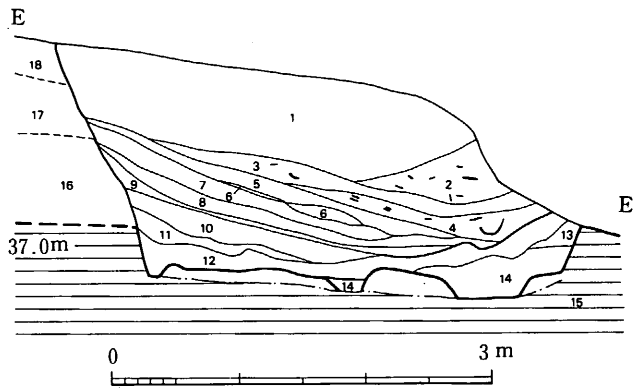
51．褐灰色砂質土（5㎜大マンガン粒を含む、土器片わずかに含む）…小溝A
52．灰褐色砂質土…小溝B
53．灰褐粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、1～2㎝大炭・土器片を若干含む）…小溝C
54．灰褐粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、1～5㎝大炭・土器片を多く含む）…小溝D
55．褐灰粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、2㎝大炭を含む、土器片を多く含む）
56．褐灰粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、2㎝大炭を含む、土器片なし）
57．灰褐粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、土器片なし）…小溝E
58．暗褐色粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、土器片わずか）
59．暗褐粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、1㎝大炭を若干含む、土器片わずか）
60．暗褐色粘質土（2㎜大マンガン粒を含む、土器片層）
61．暗褐色粘質土（1㎜大マンガン粒を含む、土器片なし）
62．暗褐色粘質土（1㎜大マンガン粒を含む、土器片層）
63．暗灰色粘質土（1㎜大マンガン粒を含む、土器片層）…小溝F
64．暗褐色土（1㎜大マンガン粒を含む、土器片わずか）
65．暗灰色粘質土（土器片わずか）…小溝G
66．暗褐色粘質土
67．黒灰色粘質土（地山）
68．白灰色粘質土（地山）



E土層図（1～5トレンチ）

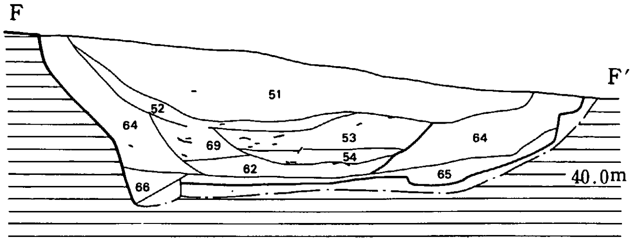
土層図

1．暗褐色土（土器片わずか）
2．暗褐色土（土器片多い）
3．暗褐色土（土器片やや多い）
4．暗褐色土（土器片多い、2㎜大焼土・3㎝大炭・5㎜大黄褐色土を含む）
5．暗褐色土（1㎜大焼土粒・5㎜大黄褐色粘質土ブロックを多く含む）
6．暗褐色土（1㎜大焼土粒・1㎝大黄褐色粘質土ブロックを多く含む）
7．暗褐色粘質土（1㎝大黄褐粘質土ブロックを多く含む）
8．暗褐色粘質土（5㎜大黄褐粘質土ブロックを多く含む）
9．暗褐色粘質土（3㎜大黄褐粘質土ブロックを多く含む）
10．暗褐色粘質土（1㎝大黄褐粘質土ブロックを多く含む）
11．暗褐色粘質土（2㎝大黄褐粘質土ブロックを多く含む）
12．暗茶褐色粘質土（2㎜大マンガン粒・焼土粒を多く含む）
13．暗茶褐色粘質土（2㎜大マンガン粒のみ多く含む）
14．暗茶褐色粘質土（1㎝大黄褐色砂質土ブロックを多く含む）
15．黄褐色砂質土（地山）
16．淡褐色砂質土（地山）
17．黄褐色粘質土（地山）
18．暗褐色粘質土（地山）

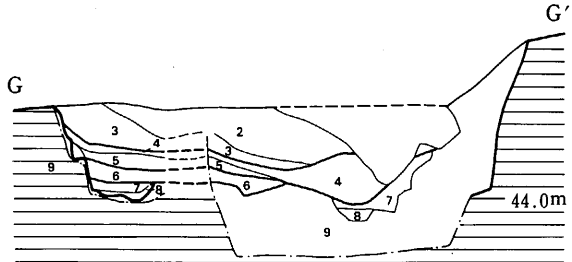


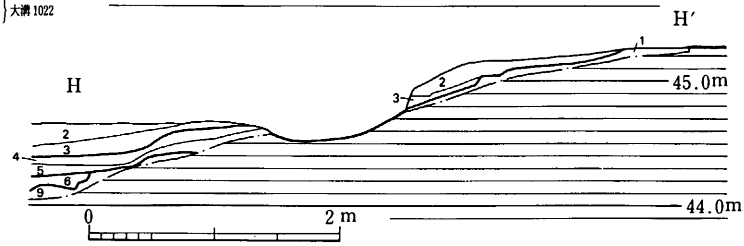
第13図　1022・1023号溝土層断面図．1（1/60）

F土層図（6トレンチ）
土層図
51．褐灰色砂質土（5㎜大マンガン粒含む）・（土器片わずか含む）…小溝A
52．灰褐色砂質土…小溝B
53．灰褐粘質土（1～2㎝大炭、土器片を若干含む）…小溝C
54．灰褐粘質土（1～5㎝大炭、土器片を多く含む）…小溝D
62．暗褐色粘質土（1㎜大マンガン粒含む、土器片層）
64．暗褐色土（土器片わずか）
65．暗灰色粘質土（1㎜大マンガン粒含む、土器片わずか）…小溝G
66．暗褐色粘質土（1㎜大マンガン粒含む、土器片含まず）
69．暗褐色粘質土
※土層図Cに一部対応



G・H土層図（8～10トレンチ）
土層図
1……産業廃棄物残滓
2……暗褐色砂質土に10㎜大の黄灰色粘質土を多く含む ｝小溝A
3……　〃　5㎜大の　〃　を若干含む
4……　〃　3㎜大の　〃　を若干含む ｝小溝B
5……　〃　10㎜大の　〃　を若干含む
6……　〃　50㎜大の　〃　のブロックを多く含む　小溝C
7……　〃　3㎜大の　〃　を若干含む ｝大溝1022
8……黄褐色砂質土に暗褐色砂質土を若干含む
9……黄褐色砂質土地山





第14図　1022・1023号溝土層断面図．2（1/60）

図Dに対応させた。しかしながら、斜面に掘込まれた東西に長い溝のため全て同一に堆積したとは考えられないことから各地点の出土の上下関係を尊重し、それぞれの層序名の振替はあえて行わず土層注記時に並記した。また、Dトレンチが51層より開始されるのは、調査時において同一層序名により遺物の出土状況に混乱をきたさないための配慮からであり、それ以上の意味はない。

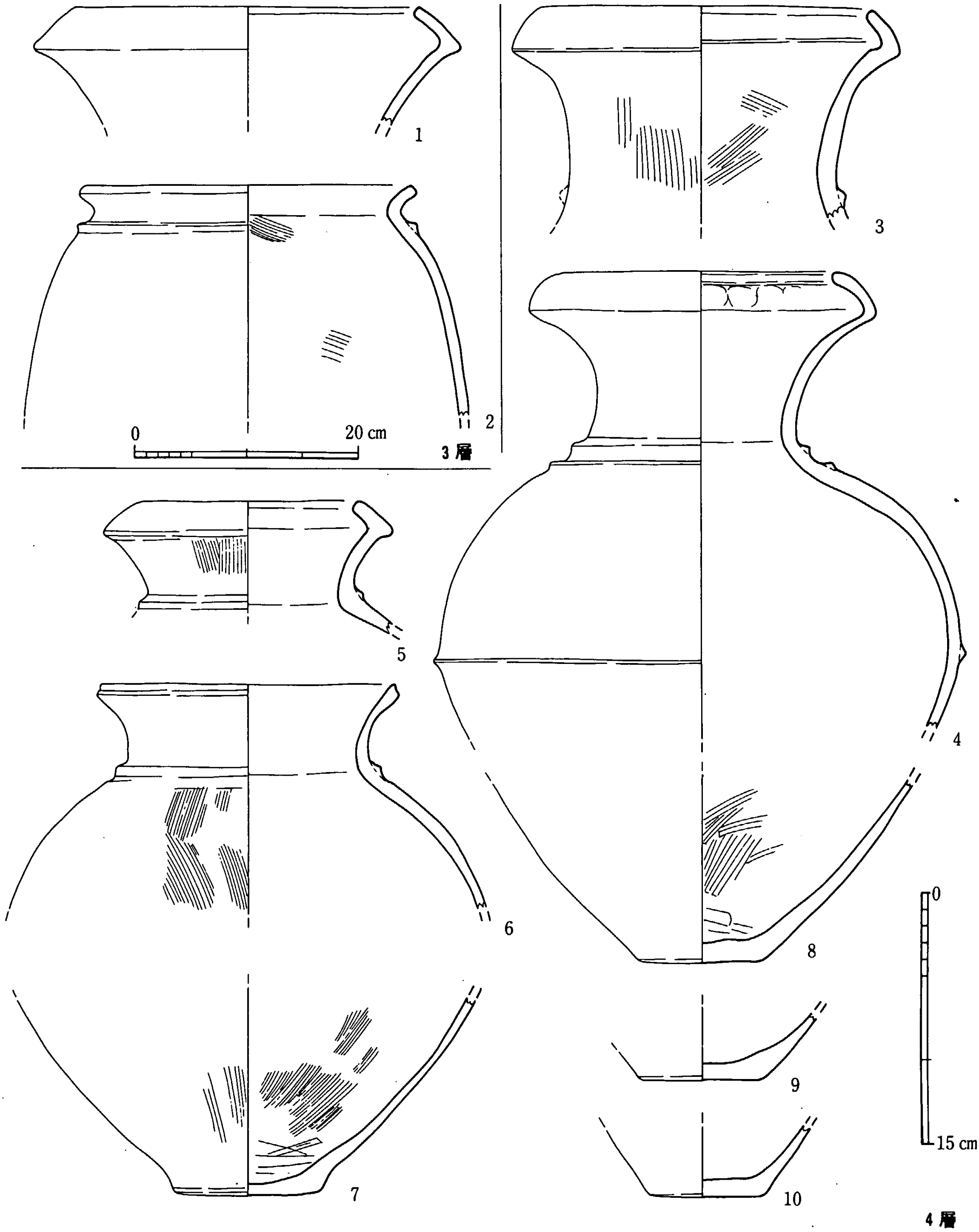
遺物

土器（図版20～63　第15～69図）

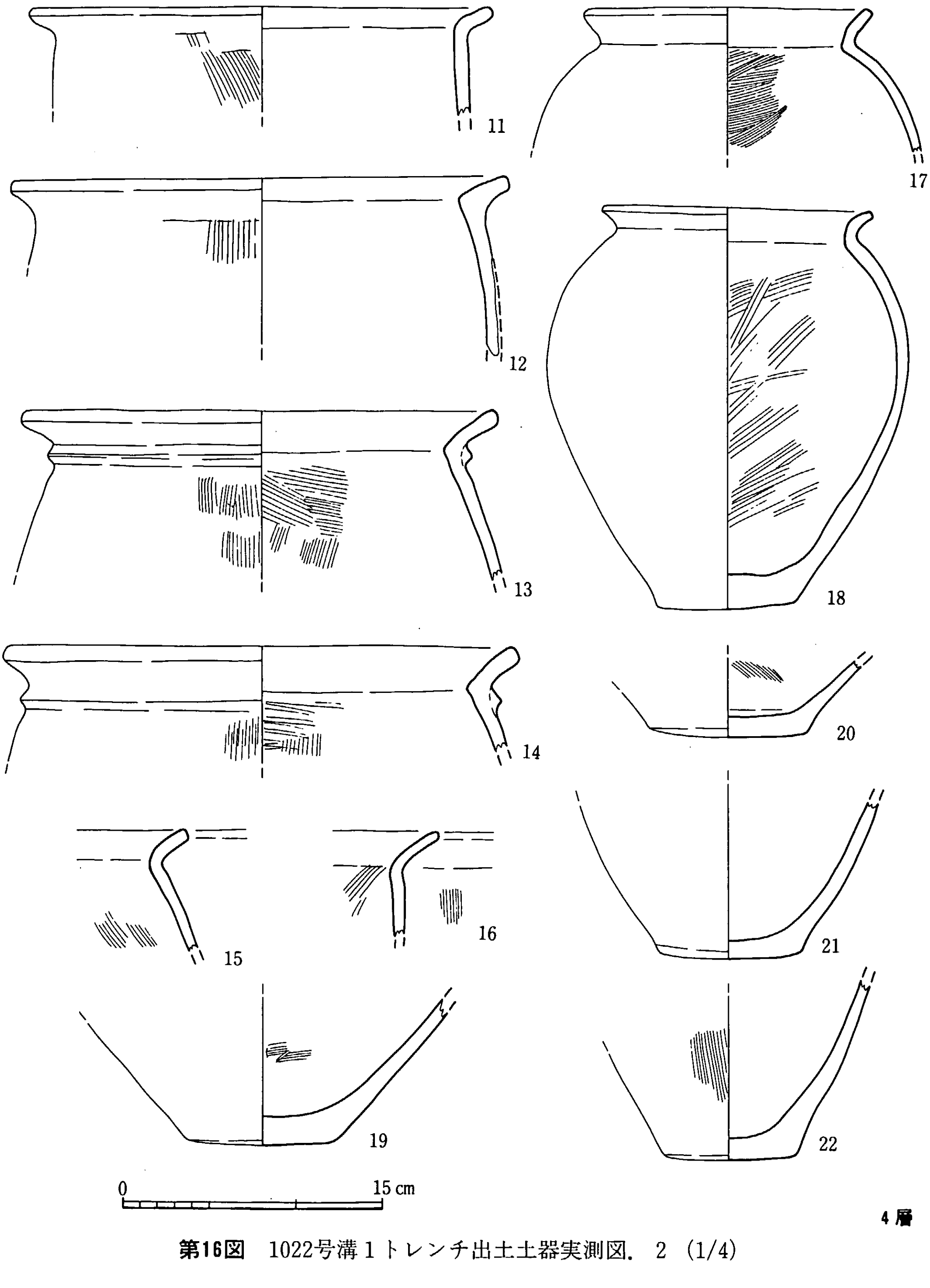
1トレンチ（第15～18図1～43）

1・2は3層出土である。1の復元口径は31.0㎝を測る。口縁屈折部から端部への器厚はほぼ均等である。磨滅により内外面の調整は不明。2は復元口径30.0㎝を測り、頸部下に三角突帯が1条貼付される。器面は全体に磨滅しているが、内面頸部下位は横位のハケ目。

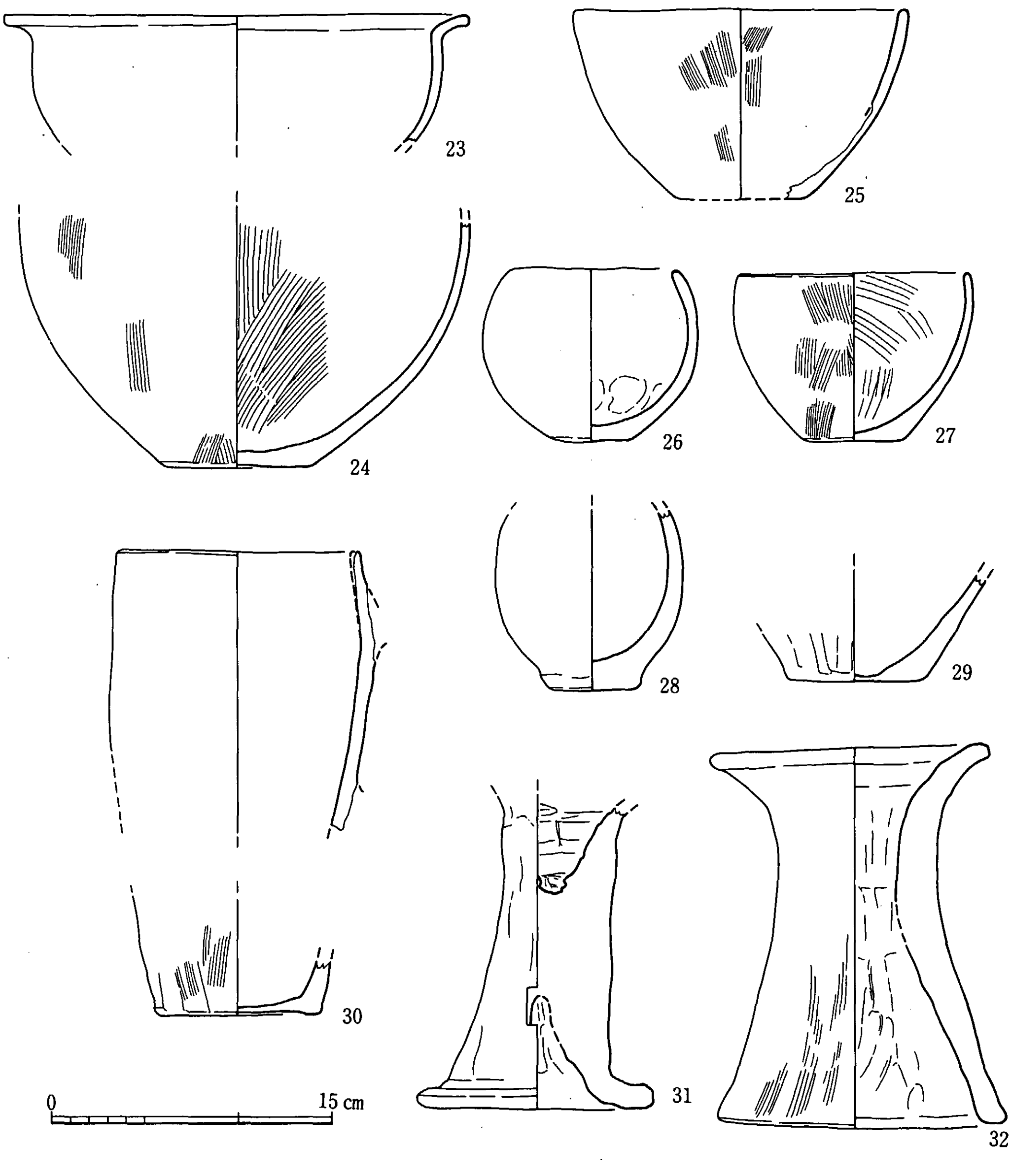
3～32は4層出土である。3は口縁屈折部に稜を持ち頸部は長い。頸部には突帯を有しているが欠損しているため形状は不明である。4は胴部以下を大きく欠損している。口縁部は内側



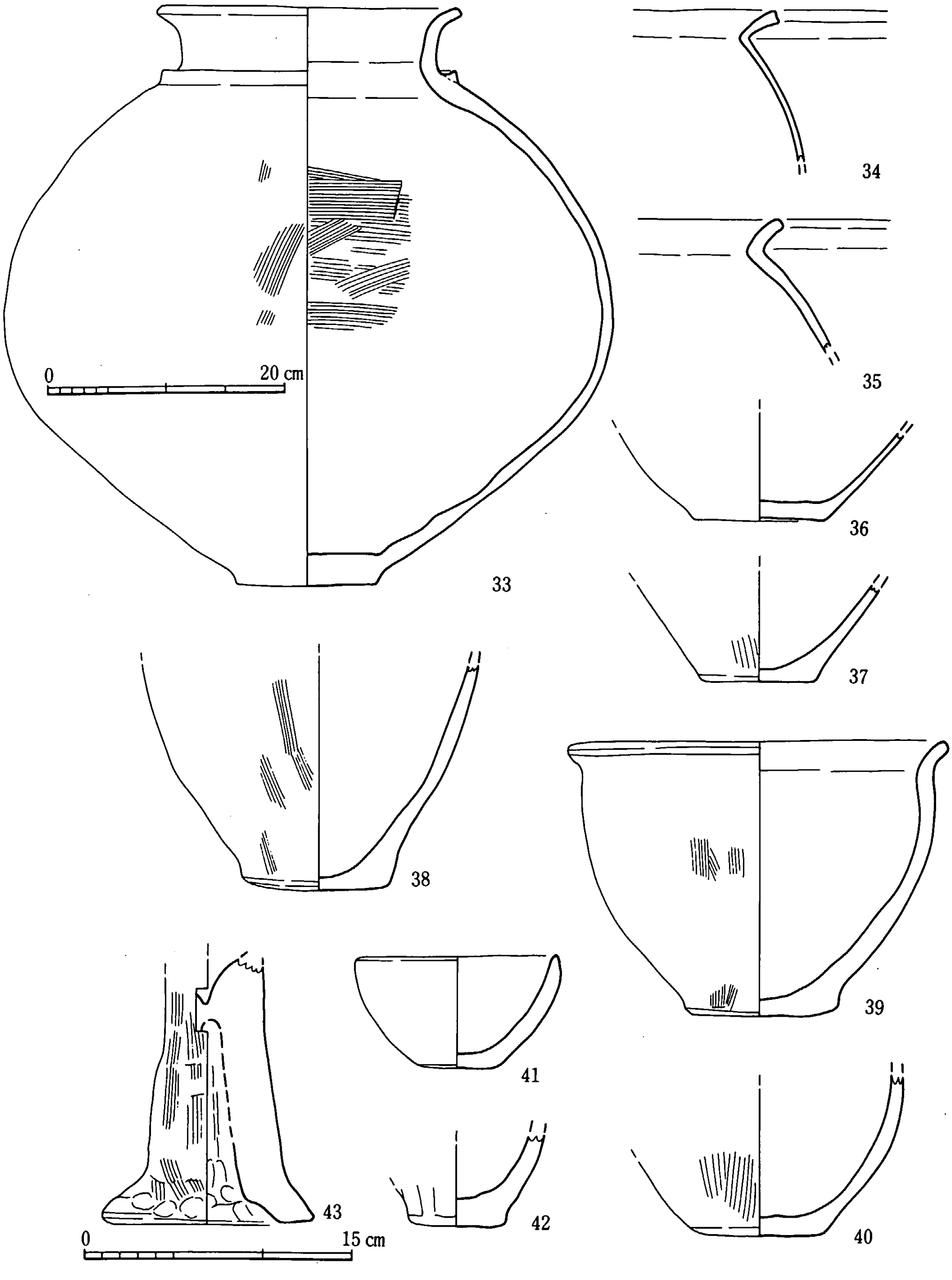
第15図　1022号溝1トレンチ出土土器実測図．1（1/4　1・2は1/6）



第16図　1022号溝１トレンチ出土土器実測図．２（1/4）



第17図　1022号溝１トレンチ出土土器実測図．３（1/4）



5層

第18図　1022号溝１トレンチ出土土器実測図．４（1/4　33は1/6）

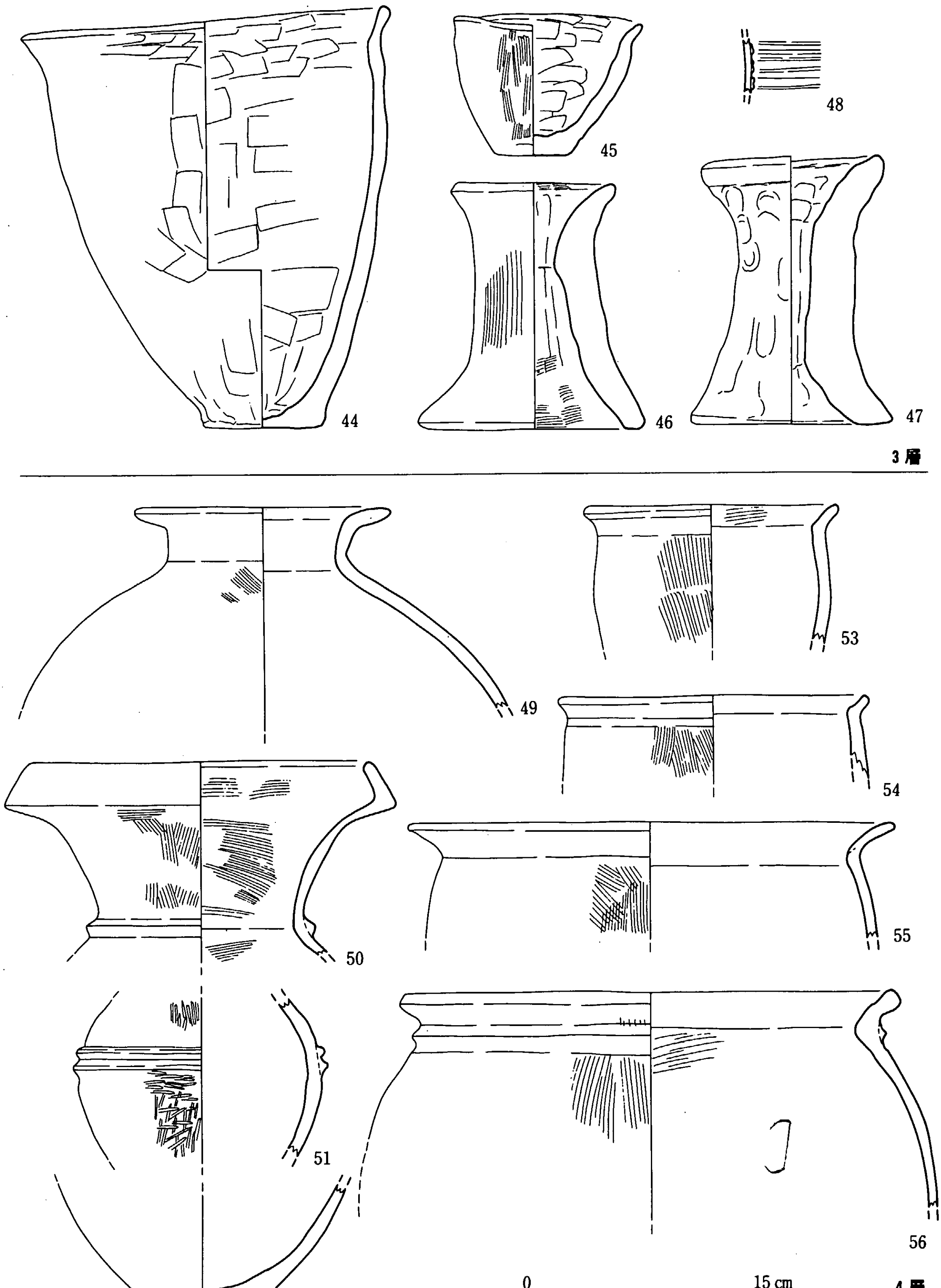
に屈折し、頸部下に2条、胴部に1条突帯が貼付される。内面の口縁屈折部から端部にかけては指頭圧痕が残る。5の口縁屈折部は外反し、頸部下には三角の突帯が貼付される。器厚は厚い。口径13.2cmを測る。6の口縁は頸部から直立に立ち上がり、端部に向うにつれ肥厚する。端部外面に沈線状の稜を持つ。復元口径18.0cmで赤褐色に焼成されている。7の復元底径は9.0cmを測り、底面端部に多少丸みを持つ。8の底面はやや膨らみを持つが端部は鋭い。復元底径は9.2cm。内面胴部はハケ目、底面はナデ。9・10は完全な平底でどちらも磨滅著しく調整は不明。11は頸部から端部へは緩やかに外反する。12の頸部は「く」字状に屈折し、かなり肥厚している。13には突帯が貼付され口縁端部付近で肥厚している。14も同じく突帯を持ち「く」字状に折れる。15・16はそれぞれ器厚は薄く小型品だろう。17の頸部は「く」字状に鋭く外反し、肩部には張りを持ちその径は口縁部より大きい。復元口径は16.7cm。18も最大径が肩から胴部付近にあり、口縁は大きく外反する。内面にはハケ目、外面は磨滅し調整は不明だが、黒斑が観察される。20・21はやや凸レンズ気味である。22は底径7.2cmを測り外面の調整はハケ目。23の口縁は大きく外反し、復元口径は25.0cmを測る。胴部は頸部下に膨らみを持っており、それ以下は急にすぼまり底部へ至ると考えられる。24は平底で底径は8.3cmを測り、内外面ともにハケ目が施されている。25の胴部はゆるやかに外反し、端部に丸みを持つ。底部はおそらく平底である。26は球形の胴部を持ち端部へは丸みを持ちながら内湾し至る。底面に黒斑あり。27は口径12.4cmを測る。内外面ともにハケ目が残る。28は器面磨滅しているが、外面端部付近は工具によってナデられている。底面端部は丸みを持つ。29は全体に磨滅気味だが、底部から胴部にかけて工具によるナデ調整。30は完全に接合しないが、同一個体である。胴部はほぼ直立しそのまま口縁端部へ至る。また、胴部には円形の剥離痕が上下2箇所あり、〝把手〞の剥離痕と考えられる。全体に器厚は薄く調整は内外面ともにナデよる仕上げだが、口縁端部付近を除けば粗い。淡黄色に焼成されている。31の胴部は凹凸となり粗く調整されているが、裾端部付近は丁寧に横ナデが施されている。32は復元口径14.8cm、器高20.7cm、底径14.4cmを測り、外面にわずかにハケ目が観察される。

33～43は5層出土である。33は頸部から口縁部へは直立して端部で大きく外反する。また頸部下位に三角突帯が1条貼付される。最大径は胴部中位付近にある。全体にゆがみがひどく、作りは雑な印象を受ける。口径25.6cm、器高48.9cmを測る。34・35の頸部は「く」字状に外反し、どちらも磨滅著しく調整は不明。36は底径7.2cmを測る。底面はやや内湾する。37は平底で底面端部から胴部へは直立に開く。38の底径は8.3cmで、底面はやや凸レンズ状である。39の口縁部は厚みを持ったまま緩やかに外反する。口径21.3cm、器高15.6cmを測る。40は平底で端部の膨みから見れば胴部付近においては球形になるのであろう。外面にはハケ目が施される。41は器高11.4cmを測り、端部付近には黒斑が認められる。42の内面には煤が付着している。43の外面はハケ目が施され仕上げられているが、全体に凹凸が激しい。

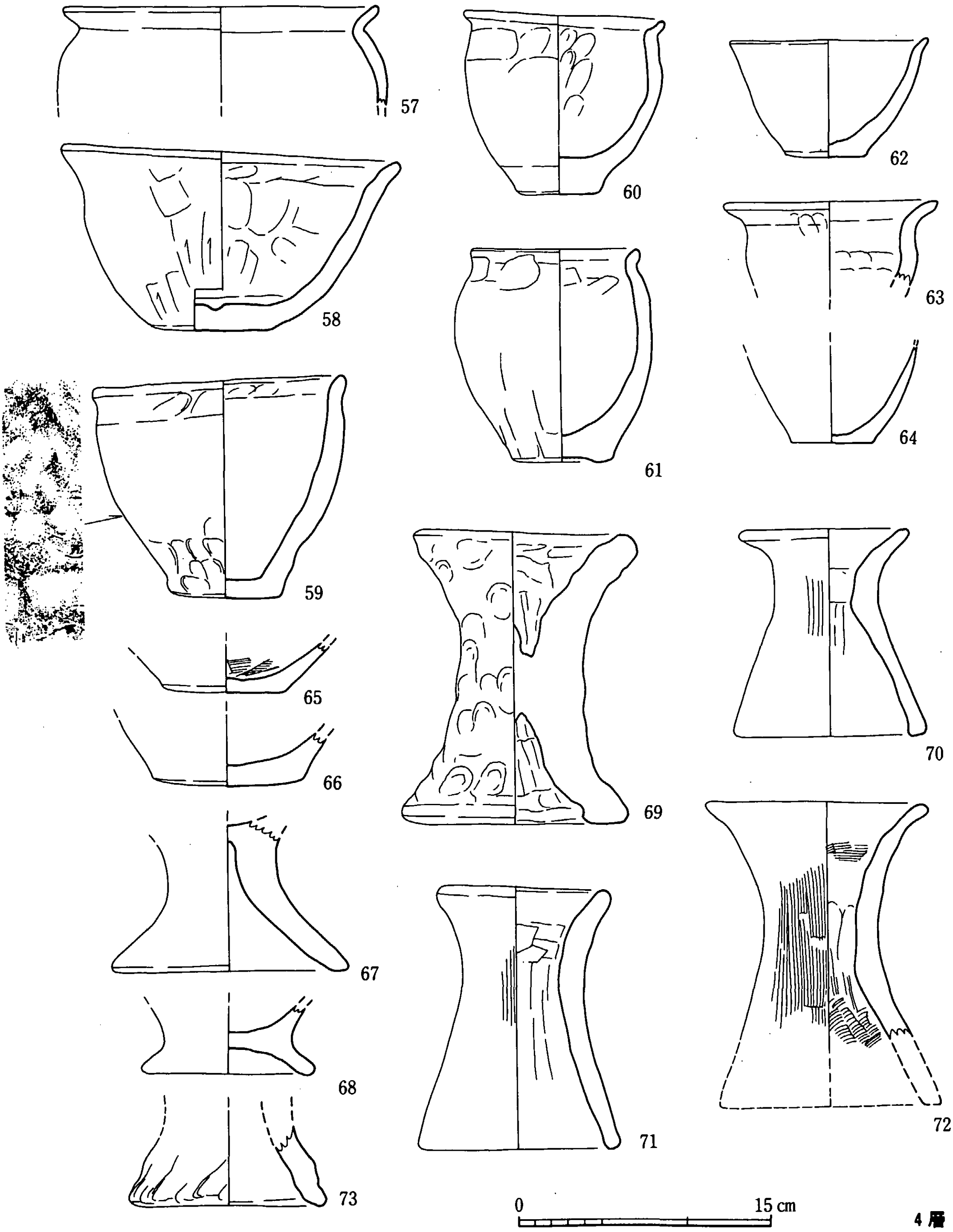
2トレンチ（第19～21図44～93）

44～47は３層中からの出土である。44は頸部の屈曲は弱く、口縁端部においてわずかに肥厚する甕である。底部は平底だが、外面端部付近ではわずかに外反する。胴部内外面は工具による横ナデで頸部においては丁寧である。全体に作りは雑で口縁径部は楕円に歪む。器高23.3～21cm、底径7.5cm、器高25.5cmを測り、外面赤褐色、内面は黒色で煤が付着している。45の鉢は頸部がわずかに外側に屈曲する。胴部は肥厚し、口縁端部で急にすぼまる。外面縦方向のハケ目、内面横ナデにより仕上げられる。口縁は歪んでいる。46・47は器台で、46の外面には縦、内面には横位のハケ目が施されており、外面の所々に煤が付着している。47はナデによって仕上げられているが、内外面ともに凹凸がある。くびれ部には工具痕が残る。48は３条の方形突帯が貼付される胴部片で器厚はそう厚くない。

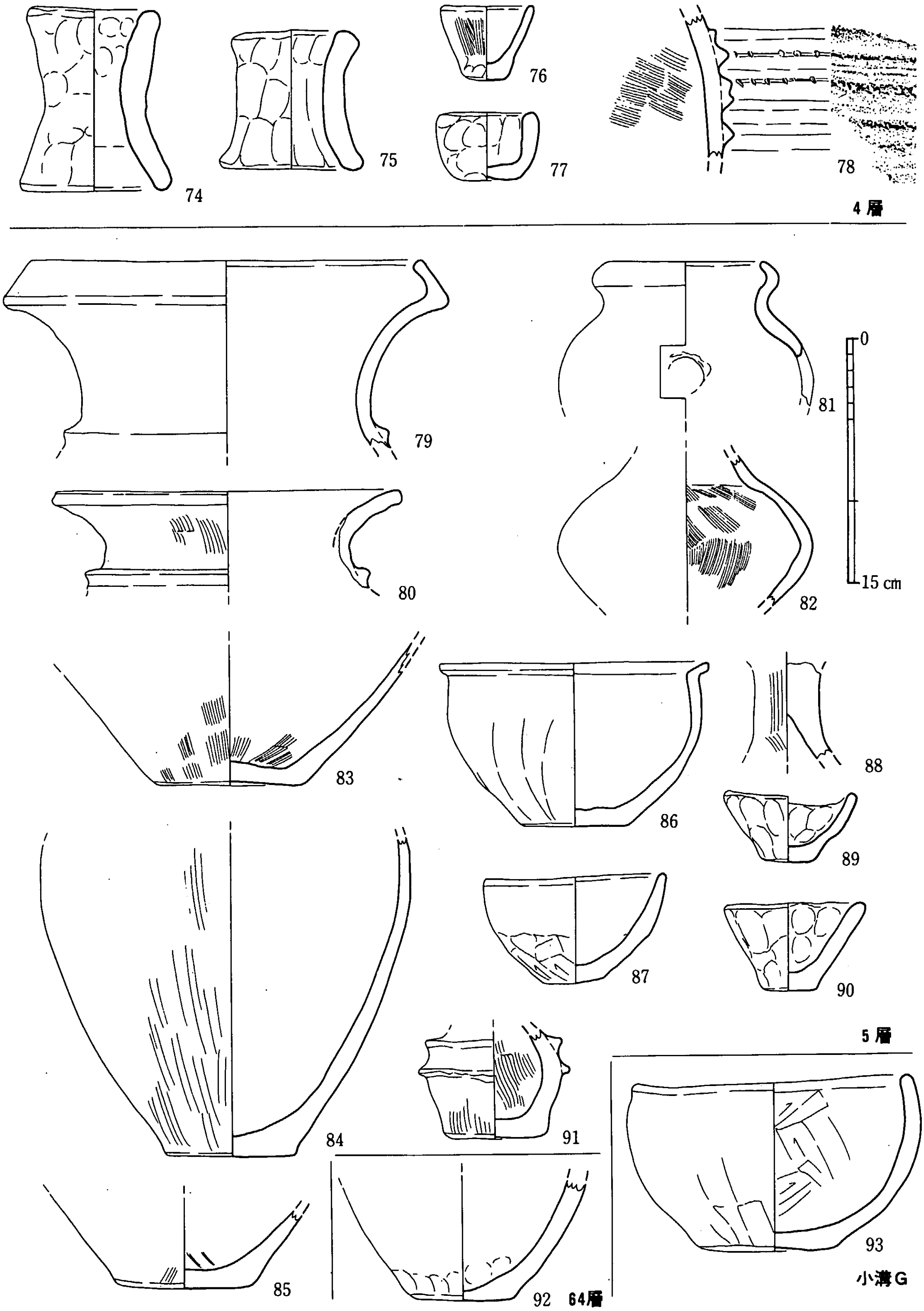
49～78は4層中からの出土である。49は口頸部が直立気味に立ち上がって屈曲し、肥厚しながら端部へ至る。最大径は胴部中位あたりになろう。50の口頸部は大きく外反し、口縁部は内側へ鋭く屈曲する。この屈折部は外面においては鋭く稜が入る。また、頸部下には三角の突帯が１条貼付される。51の胴部中位には２条の方形突帯が貼付され、外面はミガキ、内面はナデにより仕上げられる。52は底径9.2cmを測る。内外面磨滅により調整は不明。53の胴部から口縁部はほぼ一定の厚さで、端部で急にすぼまる。口縁部内面に横位のハケ目。54の口縁部は短く厚い。復元口径19.4cm。55の口縁は「く」字状に緩やかに外反する。復元径30.4cm。56は頸部に三角突帯が１条貼付され下位に縦位のハケ目が観察される。大型の甕で復元口径は31.2cmを測る。57は復元口径18.7cm。58～64は大小様々な鉢である。58は胴部中位から外反が始まり、頸部がわずかに屈曲し端部へ至る。外面はケズリ風のナデ、内面も同じくナデられるが凹凸を残す。内底面に約１cm径の窪みがある。外面底部付近には黒斑があり、外底面には煤が付着している。59の口縁部と底部付近には指頭圧痕が残されており、器厚は全体に厚く茶褐色に焼成される。60は口径9.9cm、器高11.0cm、底径5.2cmを測る。内外面ともナデによって仕上げられるが、器面は凸凹している。外面胴～底部付近には稜が１条入り、黒斑が観察される。61は胴部中位で張り出し、頸部で一度すぼまって短い口縁が外反する。底面はやや上げ底状になっている。58～61は器厚がどれも厚くナデにより仕上げられ、器面に凹凸を持つ点が共通する。62は口径11.8cm、底径4.5cm、器高3.7cmを測る。63の頸部から口縁へは緩やかに外反する。器厚の最大厚は胴部にある。64は平底で径は7.0cmを測る。65･66は底部片で、65は内面に横位のハケ目が施され、66はやや凸レンズ気味の底面である。67も台付鉢の台部だが、台部は裾端部から内底面までは8.6cmと高い。68も台付鉢の台部片だが磨滅し、調整は不明。69～75の鼓形器台は大きさは大小様々だが、調整方法からみれば、大きく２分される。すなわち、内外面ともナデにより仕上げられるものについては、器面に凹凸を残すものが多く器厚も厚い。ハケ目が施されるものについては、器厚もほぼ規則的で丁寧に仕上げられる。前者には69・73が、後者には、



第19図　1022号溝２トレンチ出土土器実測図．１（1/4）



第20図　1022号溝２トレンチ出土土器実測図．２（1/4）



第21図　1022号溝２トレンチ出土土器実測図．３（1/4）

70・71・72が相当する。74・75は小型の部類に入るが技術的には前者に近い。76は底部に比べ胴部の器厚は薄く外面にはハケ目が施される。77は口縁から底部までほぼ一定の厚さによって仕上げられ器面に凹凸を残し、外底面には黒斑がある。78は3条の突帯が貼付され、工具による粗い刻み目が入る。

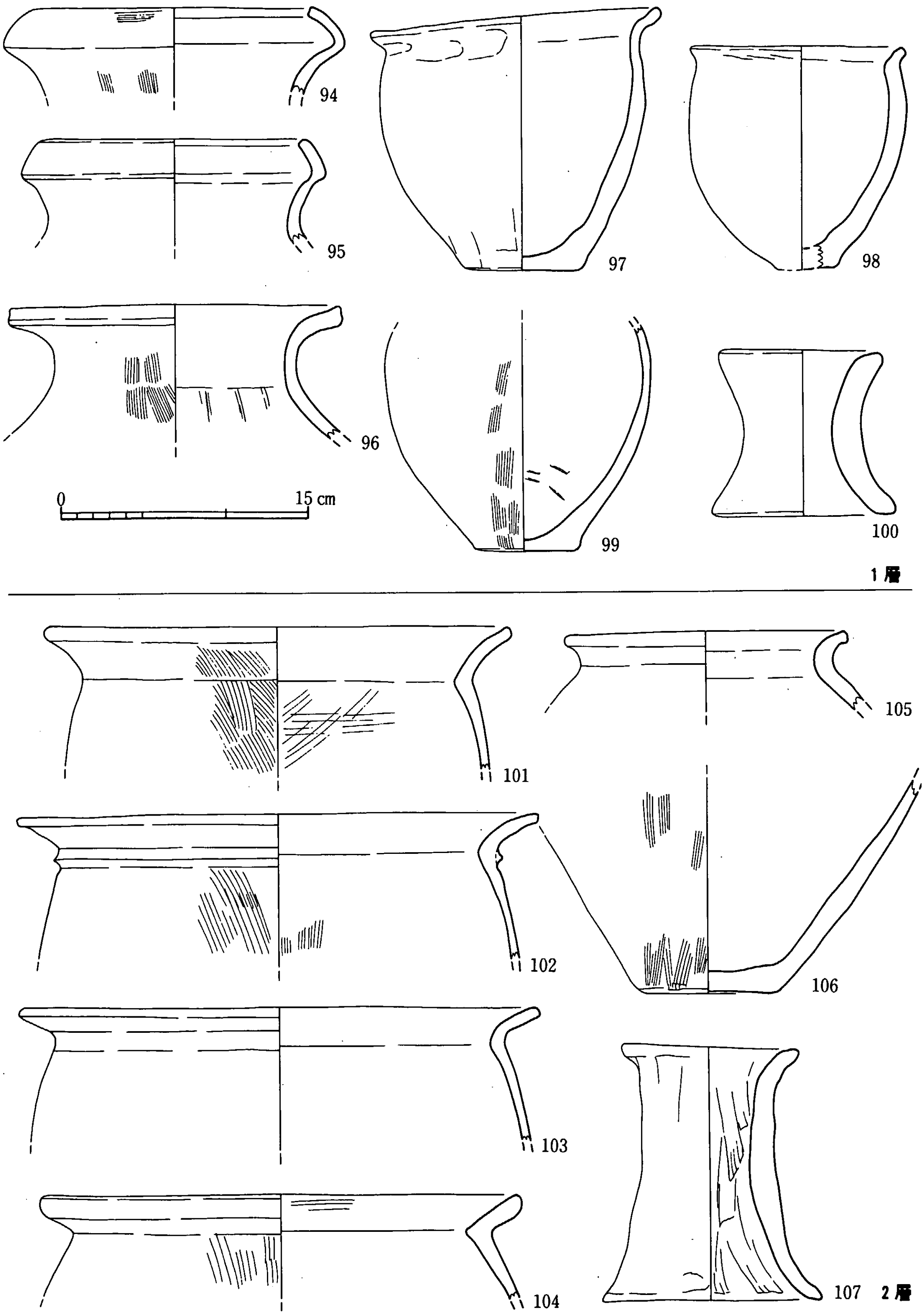
79～91は5層中の出土である。79は口縁屈折部断面はやや厚く、外面に残される稜も鈍い。80は頸部から端部にかけては緩やかに外反し、端部は厚く丁寧に仕上げられている。復元口径は21.0cmを測る。81は袋状の口縁を呈した壺で、頸部ならびに口縁部の屈曲は緩やかである。胴部に穿孔がある。82は内面に縦位のハケ目が施されている。83の底部はやや上げ底で内外面には縦方向のハケ目が施されている。84は平底で端部から胴部へは緩やかに立ち上がる。85は内面底部付近に工具痕が観察される。86の胴部から頸部へは直立ぎみに立ち上がる。口縁は短く「く」字状に外反し、端部でやや肥厚する。底面端部付近には指頭圧痕が残る。87は口縁部から胴部にかけてはナデにより仕上げられているが、底面においてはケズリが残されている。88の脚は内外面ともにハケ目が施され、一部丹塗の痕跡がある。89の底部以外の器厚は薄く、口縁部は歪んでいる。90の胴部から口縁へは直立気味に立ち上がる。底部付近には黒斑がある。91は2条の突帯が貼付され、外面底部付近と内面にハケ目が施される。肩部付近には黒斑が観察される。

92は64層中の出土である。底面の端部付近は少し面取りされている。93は小溝Gからの出土である。胴部付近は球形であり、ナデ痕を大きく残す。

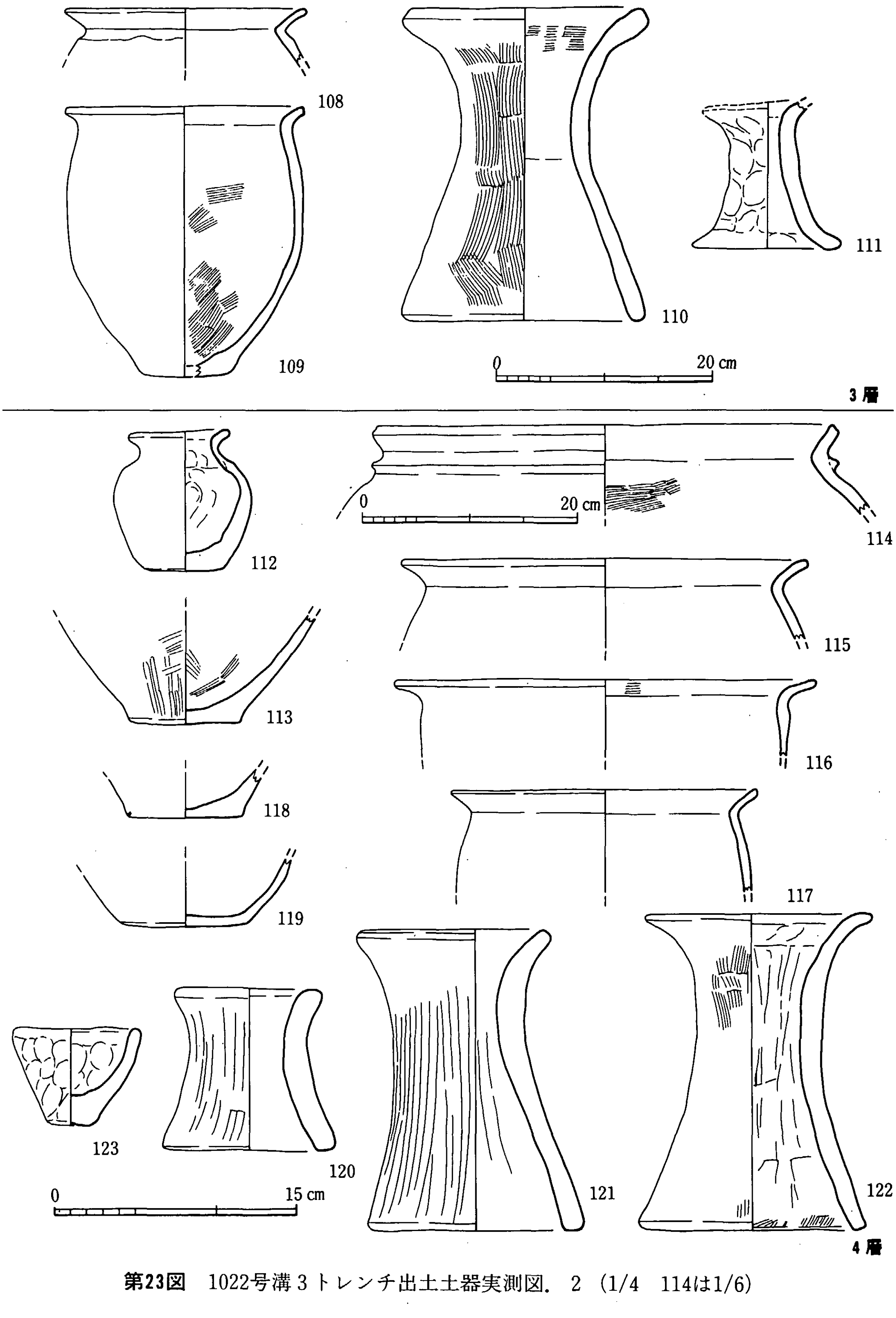
3トレンチ（第22～25図94～144）

94～100は1層中より出土した。1は屈折部内外に鋭く稜が入り、端部へは内湾しながら至る。復元口径16.6cmを測る。95は94に比べ口縁の屈曲は弱く、屈折部がやや外へ突出する。96は頸部から端部へは大きく外反して至り、端部でやや肥厚する。頸部外面にはハケ目が、内面には工具痕が残る。復元口径20.0cmを測る。97の鉢の器厚は厚く胴部から頸部にかけて徐々に薄くなる。口縁端部でわずかに肥厚する。少し歪んでいる。復元口径17.7cm、底径7.2cm、器高14～16cmを測る。黄橙色に焼成される。98の口縁は短くわずかに外反する。器厚は全体に厚く、茶褐色に焼成される。99は胴部中位に膨らみを持ち、底部は平底である。端部までハケ目が施される。100の器台は全体に磨滅著しいが所々指頭圧痕がある。

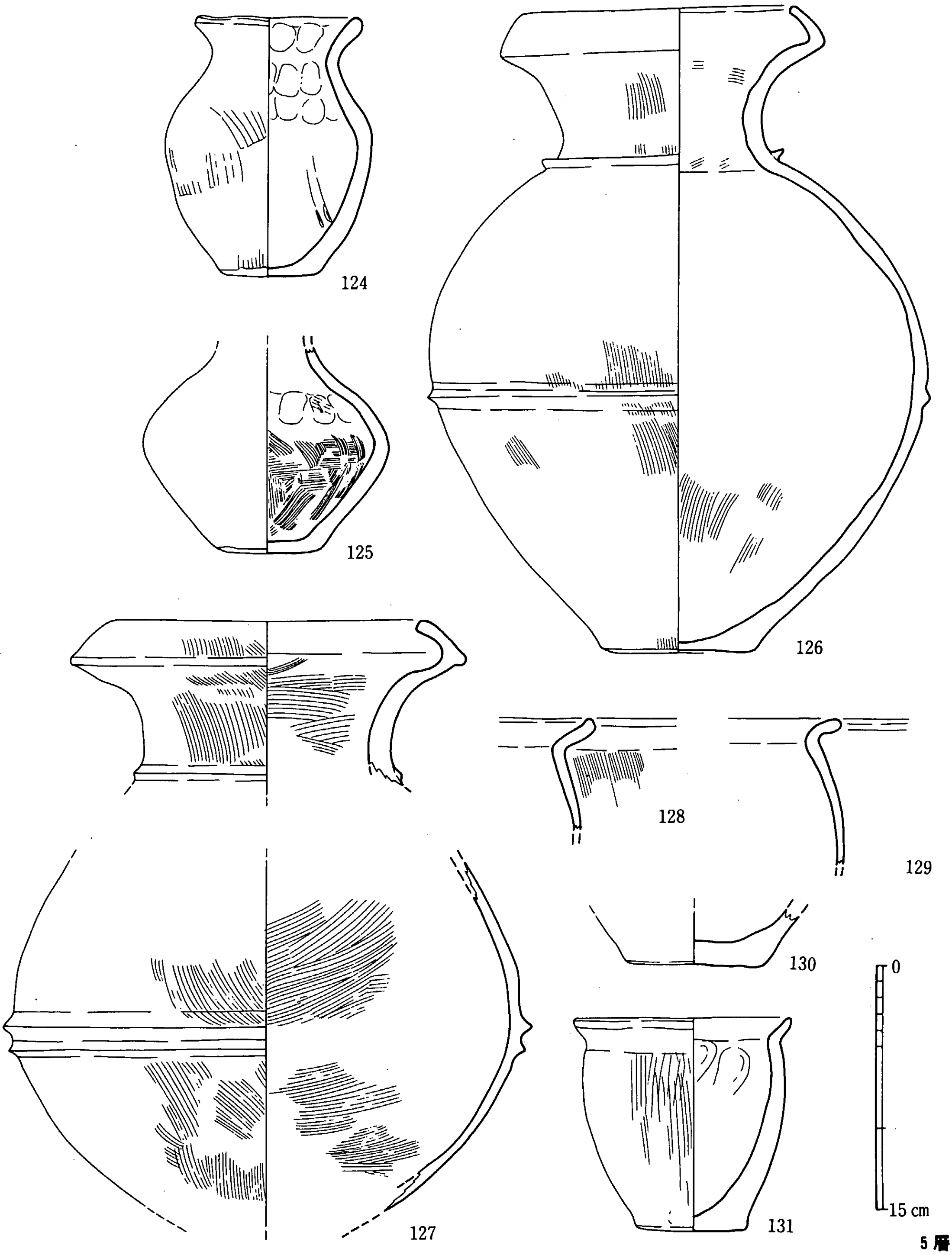
101～107は2層中の出土である。101～105の甕はいずれも「く」字状に外反する。101の口縁の屈曲は緩やかで頸部内面には稜が付く。内外面ともにハケ目が施され、口径28.4cmを測る。102は頸部に三角突帯が貼付され口縁の外反は大きい。103は頸部に丸みをもって外反する。104は頸部から端部にかけて肥厚する。頸部内面には稜が付く。105の器厚は厚く頸部の屈曲も丸みを持ち緩やかで、端部でわずかに外反する。106の底部は上げ底気味で端部にやや丸みが付く。107の器台は受部のすぐ下にくびれがあり、胴部は直立気味である。



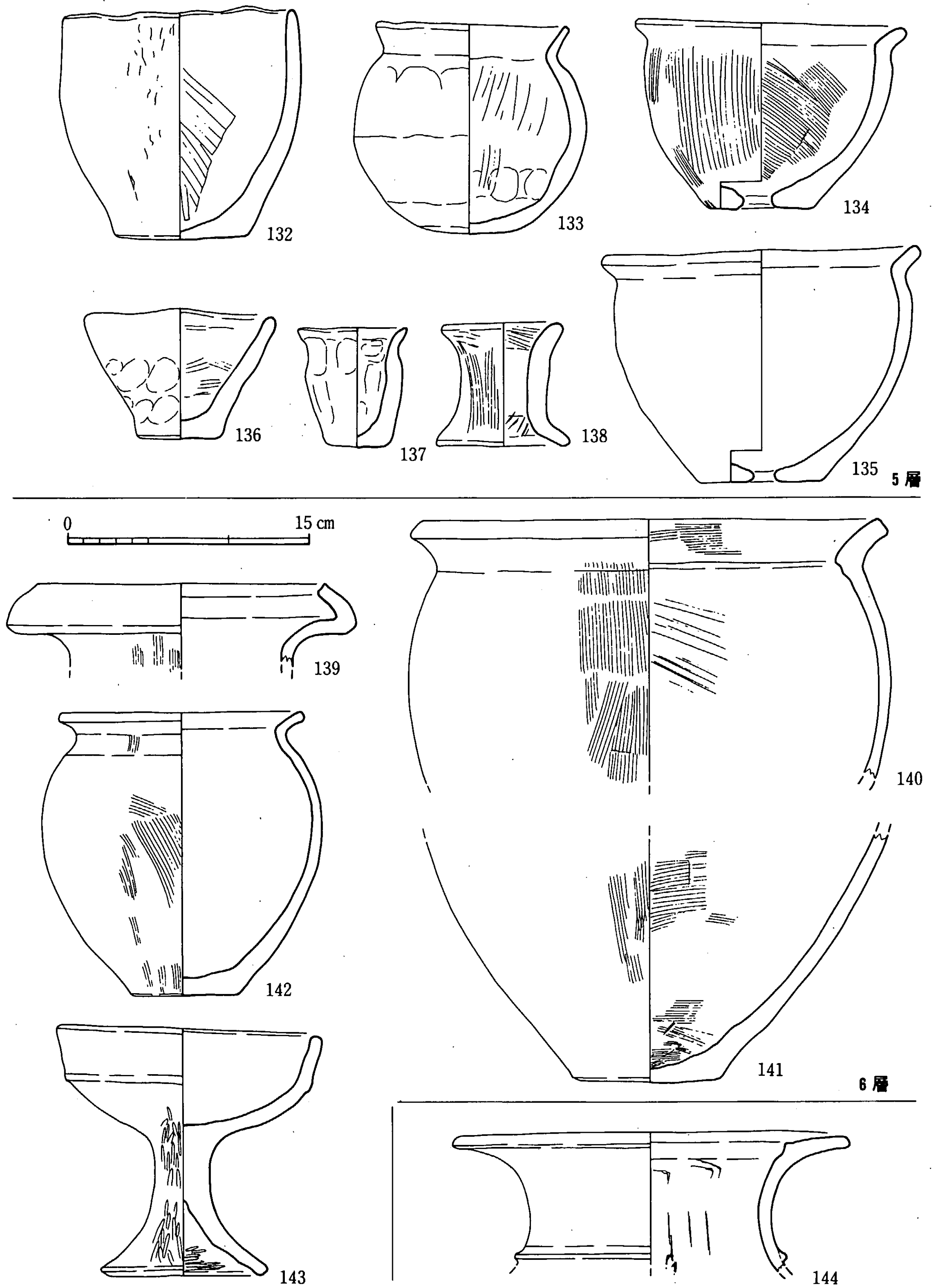
第22図　1022号溝 3 トレンチ出土土器実測図．1（1/4）



第23図　1022号溝３トレンチ出土土器実測図．２（1/4　114は1/6）



第24図　1022号溝３トレンチ出土土器実測図．３（1/4）



第25図　1022号溝３トレンチ出土土器実測図．４（1/4）

108～111は３層中の出土である。108の甕の口縁は「く」字状に外反し、頸部下にはナデにより弱い稜が付く。109の口縁は緩やかに外反し端部は角を持つ。底部は完全に残っておらず、詳細は不明だが、外底面中央部付近では膨らみを持つ。外面は磨滅著しいが内面にはハケ目が施される。110の器台はくびれ部から受部の端部にかけて徐々に肥厚している。外面には縦位のハケ目が、内面受部付近では横位のハケ目が施されている。黄茶褐色に焼成されている。111は外面に指頭圧痕を残し器面には凹凸が残る。

112～122は４層中の出土である。112の小型の壺は肩部に張りを持ち、頸部はくびれ口縁端部へは緩やかに外反する。113は平底で内面にハケ目が残されている。復元口径7.0cmを測る。114は復元口径43.0cmを測る大型の甕で、口縁部は短く端部は角を持ち、頸部には三角突帯が１条貼付されている。115の器厚は薄く口縁は「く」字状に緩やかに外反する。116の口縁は大きく外反し内面部が天を向いている。117の復元口径は18.8cmを測る。118は平底で端部は鋭い稜をなす。119は全体に器厚は薄く底端部から胴部へは膨らみを持つ。120の器厚は厚く一定で胴部には縦位のハケ目が施される。121・122はくびれ部から裾部へは直線的に開く。122の受部は大きく開き外反する。器面は全体に磨滅しているが、外面くびれ部付近にはにはハケ目、内面胴部にはシボリ痕、裾付近にはハケ目が施されている。123は内外面に指頭圧痕を残し、口径7.9cm、底径2.8cm、器高6.0cmを測る。

124～138は５層中より出土した。124の口縁は緩やかに外反し端部で肥厚する。最大径は胴部中位付近にあり、底部は平底だが、端部はナデにより丸みを持つ。外面胴部にはハケ目が施され黒斑がある。内面の口縁部には指頭圧痕が認められる。黄褐色に焼成され、口径10.2cm、胴部径12.6cm、器高15.9cmを測る。125も胴部中位に最大径があり、底面端部は丸みを持つ。外面は磨滅し調整不明。126は口縁が屈曲する複合口縁壺で、屈折部外面には稜が付く。頸部と胴部に三角突帯が貼付されるが前者は鋭い。底部は平底で端部付近の稜はナデにより鋭さを欠く。器面の磨滅は著しく全体の調整は不明だが、内外面とも口縁頸部と胴部にハケ目が施される。127は口頸部と胴部に別れるが黄褐色の色調とハケ目の状況から同一個体と考えられる。口縁の屈曲は緩やかだが、屈折部は突出する。胴部は球形で中位に最大径を持つ。頸部に１条、胴部に２条の三角突帯を持つ。復元口径は19.2cmを測る。128の口縁端部はわずかに内湾する。129の口縁はゆっくり折れて大きく外反する。磨滅により調整は不明。130の底径は8.4cmを測る。131は底部付近の器厚が最も厚く、頸部から口縁へと徐々に薄くなっている。底面には黒斑がある。内面はナデによって仕上げられ、頸部下には指頭圧痕が残り茶褐色に焼成されている。132は胴部から口縁端部へはほぼ直立に立ち上がる。底部は平底で端部にやや丸味を持つ。口縁端部は横ナデによって仕上げられるがやや歪んでいる。外面は磨滅し調整は不明だが、内面については工具によるナデのようなものが観察される。口径14.0cm、器高14.4cm、復元底径8.0cmを測り、外面は淡黄褐色から茶褐色に、内面は淡黄褐色に焼成されている。133は胴部から頸部に

かけては厚く、口縁部で屈曲したのち細くなって端部へ至る。外面の口縁部は横ナデされているが、頸部以下の調整については工具で粗くナデられており、黒斑がある。内面もナデられ、所々工具痕が残る。口径12.0cm、器高は13.0cmを測り、外面は淡黄褐色、内面は暗灰色である。134・135の鉢はそれぞれ焼成後、底部中央に穿孔されている。どちらも比較的器厚は厚く胴部が張り短い口縁がわずかに屈曲する。底部は完全な平底である。134の胴部内外面にはハケ目が施されている。135は口径19.8cm、底径7.6cm、器高14.6cmを測る。136の口縁は大きく直線的に開く。外面はナデによって仕上げられるが、胴部から底部には指頭圧痕が残り黒斑がある。内面はハケ目のちナデ。口径11.9cm、4.8cm、8.1cmを測り淡黄褐色に焼成される。137は小型の甕形をした土器である。全体に器厚は厚く、胴部と口縁部付近は丁寧なナデによって仕上げられているが、頸部付近においては内外面ともに指頭圧痕が大きく残る。口径6.7cm、底径4cm、器高7.4cmを測り、黄橙色に焼成されている。138は小型の器台で器高7.6cmを測る。

139～143は6層中より出土した。139の口縁屈折部は極端に大きく外反し、内面には稜が付く。復元口径17.8cmを測る。140の口縁は胴部に比べ厚く、端部は角を持つ。141の底面端部はナデにより丸味をもち、底径は9.2cmを測る。142の口縁は「く」字状に屈曲し、胴部に張りを持つ。口径15.2cm、底径7.0cm、器高17.5cmを測る。143は杯の屈曲部に段を持ち、端部へは直線的に立ち上がる。脚部は細いが裾部付近で大きく開く。

144は4層あるいは5層中からの出土であるが、確実な地点は抑えられなかった。口縁部は大きく開き内面にはわずかに突出する稜がある。頸部には方形の突帯が貼付されている。

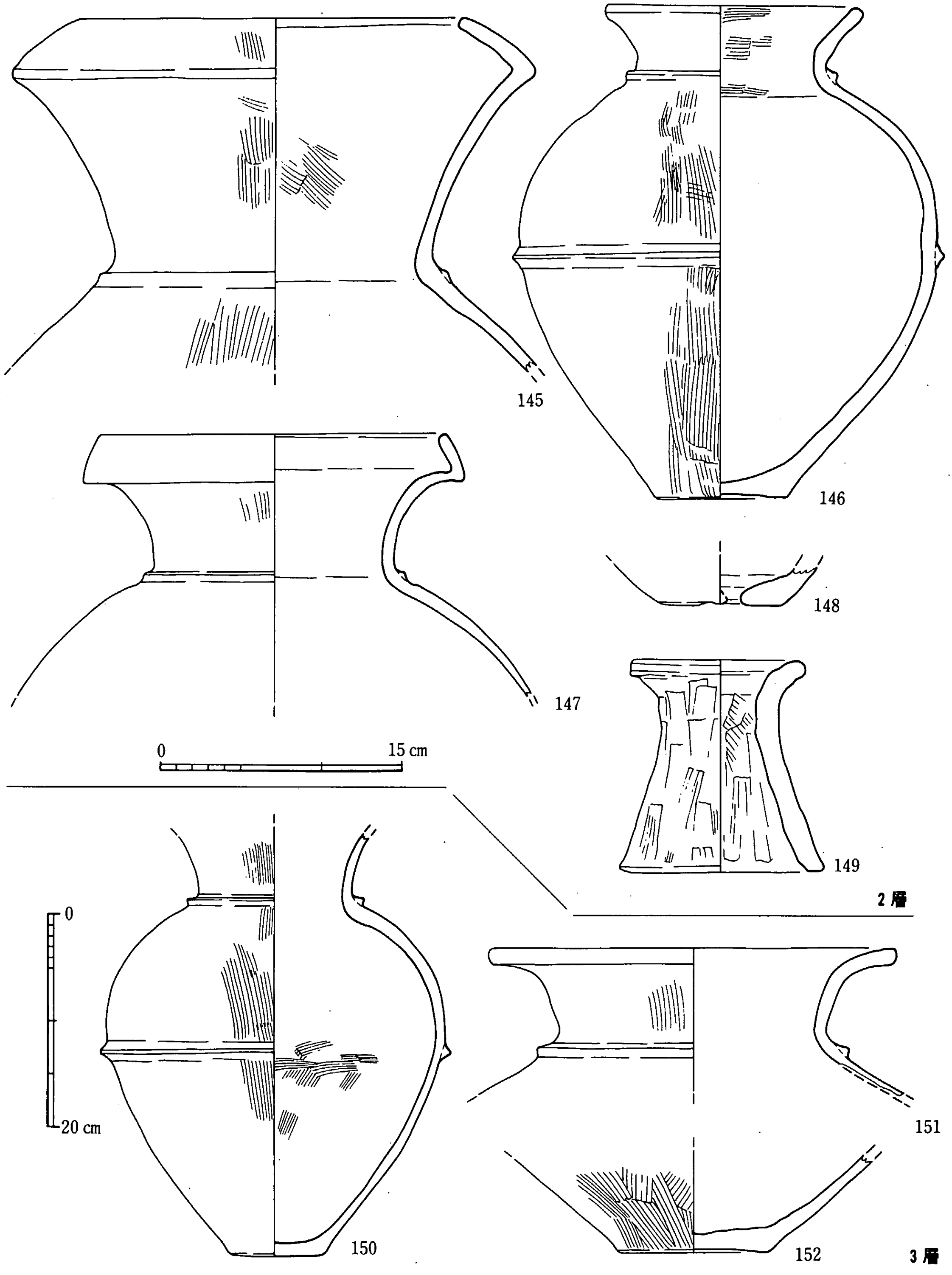
4トレンチ（第26～34図145～238）

145～149は2層中からの出土である。145の口頸部は長くバチ状に開き屈曲する。頸部下にわずかに三角突帯が貼付される。復元口径22.0cmを測る。146の口縁は頸部よりバチ状に立ち上がり、端部は丸味を帯びる。頸部と胴部中位に三角突帯が貼付される。口径16.0cm、底径8.4cm、器高30.8cmを測る。147の屈曲は大きく口縁は立ち上がり気味で屈折部の突出も下方を向く。148は焼成後に穿孔された鉢である。復元底径7.8cmを測る。149の器台は内外面ともに工具によるナデによって仕上げらている。

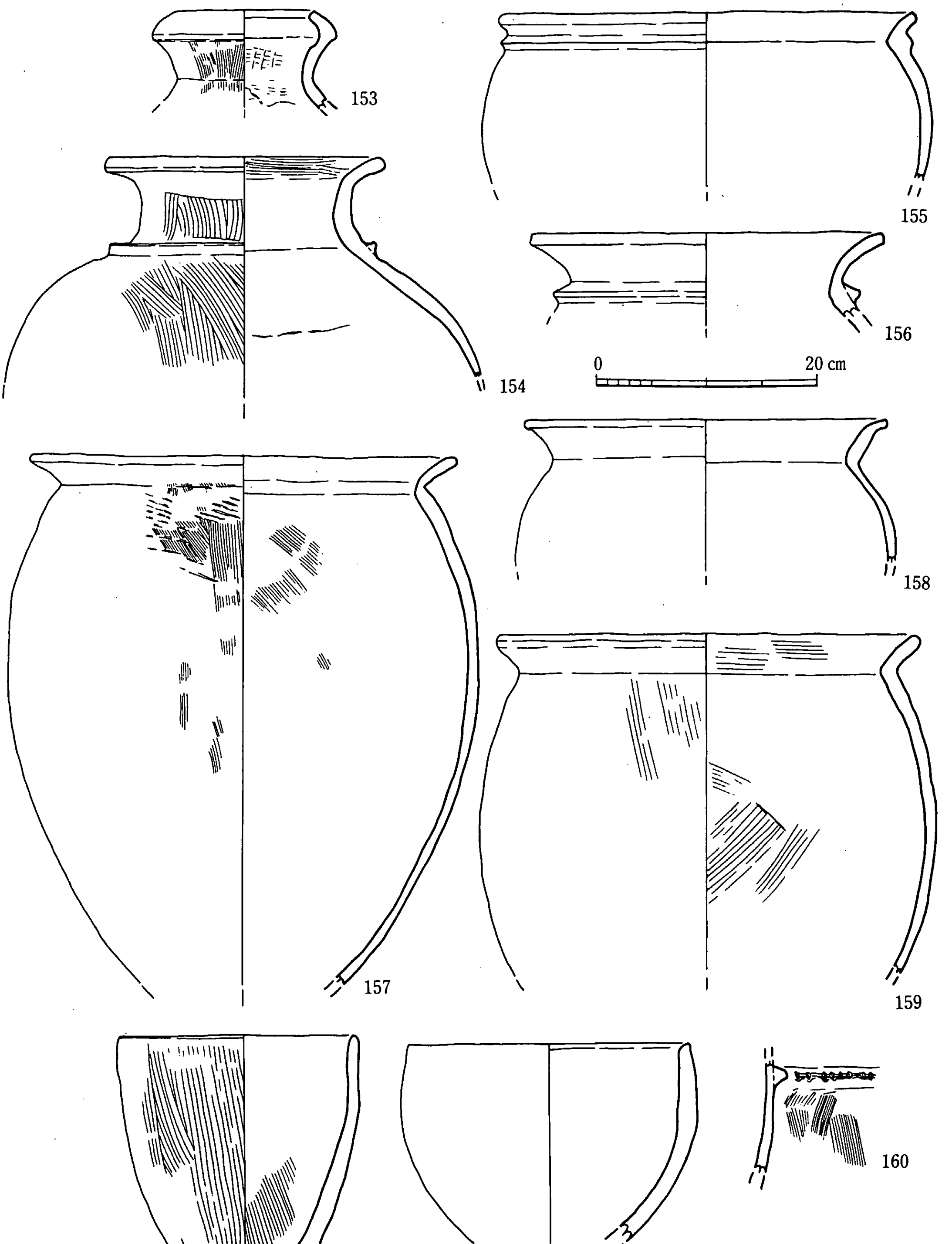
150～172は3層中の出土である。150は肩部に張りを持ち、頸部と胴部中位には突帯が貼付される。頸部では鋭い三角形である。外面頸部から胴部には縦位のハケ目が、内面胴部付近には横位のハケ目が観察される。底径8.5cmを測る。151の口縁は緩やかに外反し端部で肥厚する。頸部三角突帯が貼付される。152の底部は上げ底でハケ目は端部まで施されている。153は屈折部から口縁端部までは肥厚したまま至る。頸部の屈曲は弱い。口縁部は内外面共にナデ、頸部外面は縦位ハケ目、内面はハケ目のちナデによって仕上げられる。また内面には粘土紐のつなぎ目が観察される。154は151に比べ頸部は直立気味である。口縁内面にはハケ目が施されている。155は短い口縁に対し大きな三角突帯が貼付され頸部以下は大きく張る。復元口径38.0cmを

測る。156の復元口径は32.0cm。157は口縁が「く」字状に開く甕で頸部から胴部上位にかけてはハケ目が施されているが、中位以下はケズリ風のナデによって仕上げらている。器面は二次的受熱により一部赤変し、煤が付着。158の口縁は「く」字状に外反し端部はさらに反る。159の復元口径は25.7cmを測る。160は突帯に細かい刻み目が入っている。161は胴部中位から口縁端部へは直立して至る。底面は平底で端部がわずかに丸味を持つ。口径14.1cm、底径6.6cm、器高15.5cmを測り、茶褐色に焼成される。162は球形を呈している。磨滅著しく調整は不明。163の胴部は球形で底部はわずかに張り出しており、底径6.0cmを測る。164は胴部でわずかに屈曲したのち、口縁端部へは直線的に立ち上がる。外面胴部には黒斑があり、内面には指によるナデ痕が強く残る。165の口縁から胴部中位にかけては黒斑があり、外面底部付近にはナデ以前の工具痕が刻み状に残る。166は裾部へは緩やかに開き、端部ではやや丸味を持つ。167～172は鼓形器台であるが、167以外は小型品である。167の内面胴部付近には指による粗いナデ痕が残る。168はくびれ部から胴部中程までは、直立的でその後裾部へはスカート状に開く。内面中位は工具によるナデである。169は口径9.5cm、裾部径10.6cm、器高11.3cmを測る。170は内外面に指頭圧痕を残し器面は凸凹している。171もハケ目が施されているが、器面の調整は粗く凹凸を持つ。172の外面にはタタキの痕がわずかに残る。

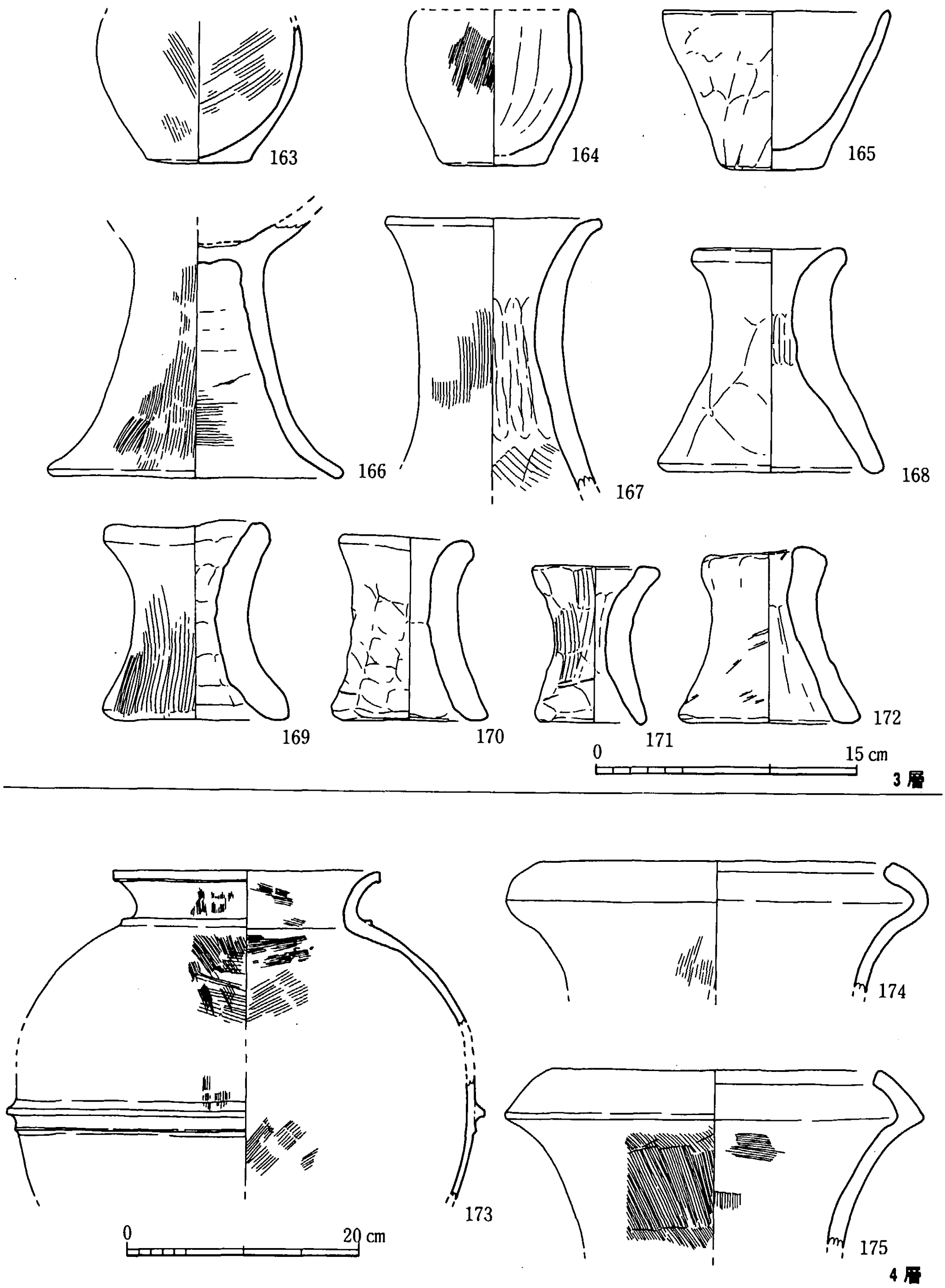
173～188は4層中からの出土である。173は口縁部が丸味をもって外反し端部はわずかに突出する。頸部に1条、胴部中位に2条の突帯が貼付されるが、胴部上段については方形でその他は三角である。174の口縁屈折部は丸く、端部は肥厚する。175の口縁屈折部は外面において稜を持つが内面は丸い。176の口縁屈折部は突出し、端部も細く外側に突出している。外面突出部下位には多方向のハケ目が施される。177の口縁は鋭角に屈曲し、屈折部の突出も鋭い。復元口径14.0cmを測る。178は口縁部から底部までの状況がわかる資料である。口頸部はバチ状に開き、口縁は屈曲して端部へは丸味を持って至る。口縁の屈折部はわずかだが突出する。胴部中位に最大径があり底部へは緩やかに至る。この底部は端部が丸みを持つ凸レンズ状である。突帯は頸部においては鋭い三角形で、胴部最大径部では方形のものが貼付される。器面は磨滅し調整は不明だが、底部から胴部下位にかけて黒斑が認められる。口径14.0cm、底径11.4cm、器高36.4cmを測る。179の屈曲は大きく頸部内面には稜が付く。180の口縁部は「く」字状に鋭く屈曲し、端部は肥厚し角を持つ。胴部から底部にかけては二次的に熱を受け赤変している。181は平底でハケ目は端部まで及ぶ。182の頸部下にはナデによる稜が入り、球形の胴部を持つ。183は肩部が膨らみ径も大きいがそれ以上に口縁径は大きく外反する。復元口径は21.5cmを測る。184の頸部の屈曲は弱く端部は肥厚している。外面胴部にはタタキがわずかに残る。185も頸部の屈曲が弱いが端部は細身である。内外面ともナデにより仕上げられているが、外面にはタタキがわずかに残る。復元口径18.8cm、器高11.0cm、底径7.3cmを測り茶褐色に焼成される。186はサラダボール状の大型の鉢で復元口径は46.4cmを測る。頸部はほぼ直角に折れ端部は厚く肥



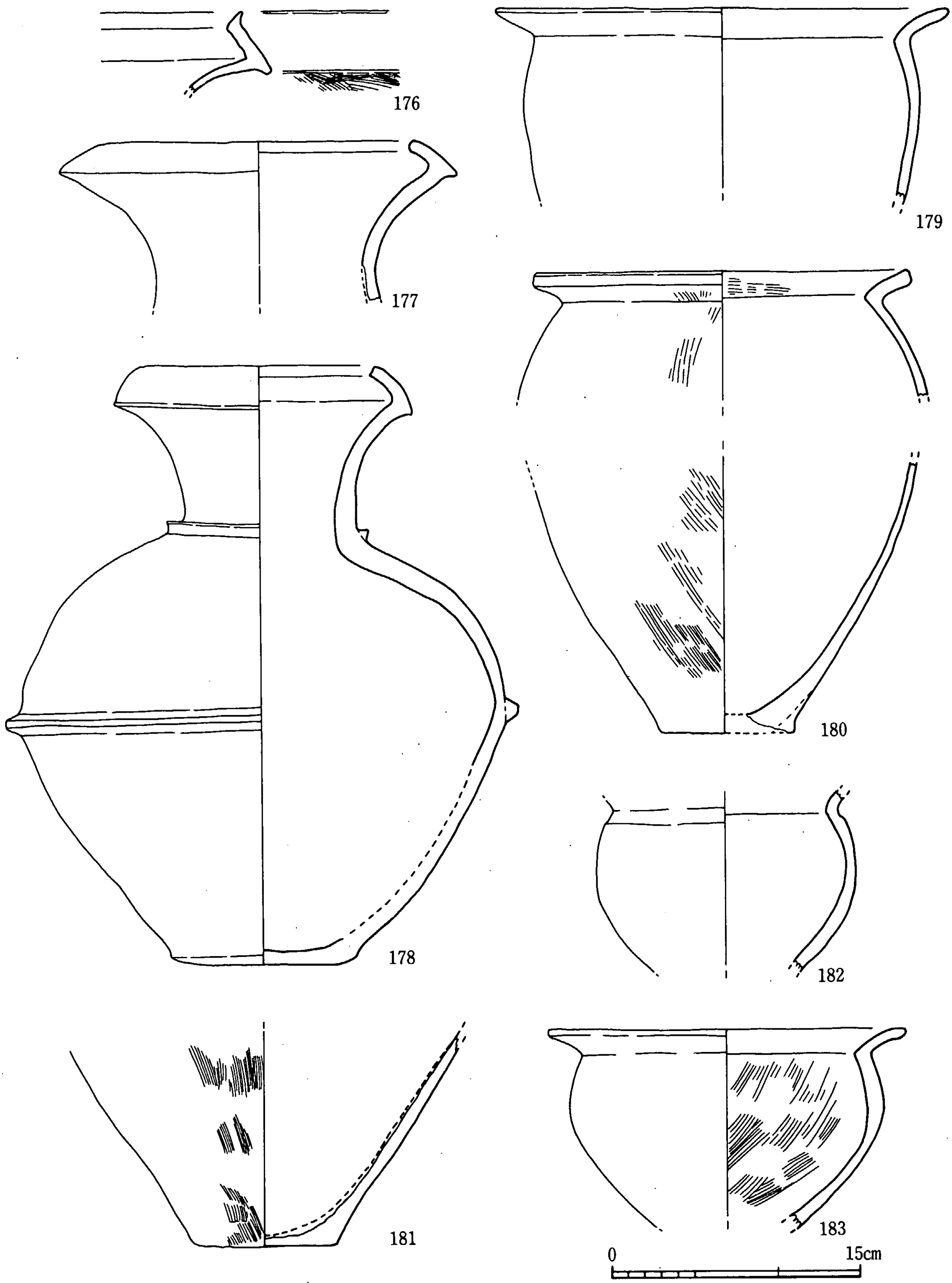
第26図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．１（1/4　150は1/6）



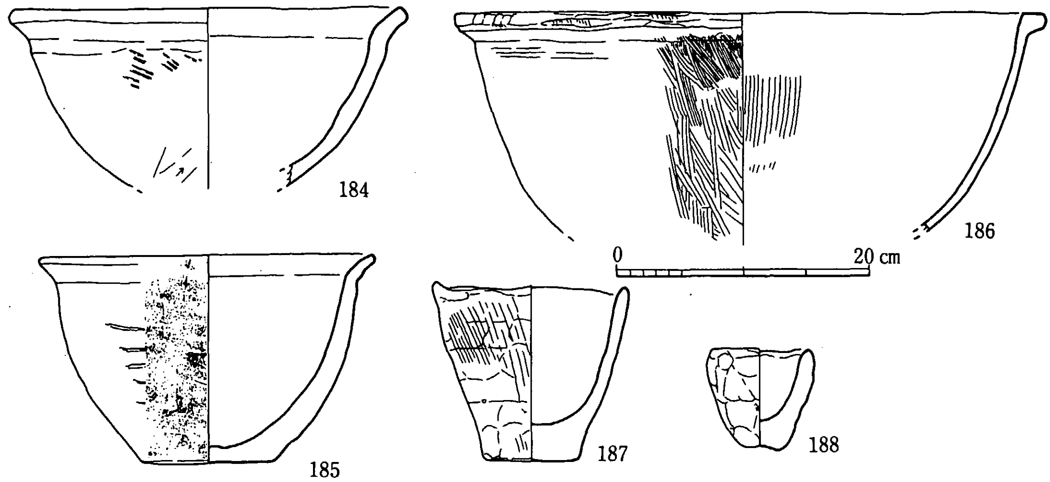
第27図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．２（1/4　155・159は1/6）



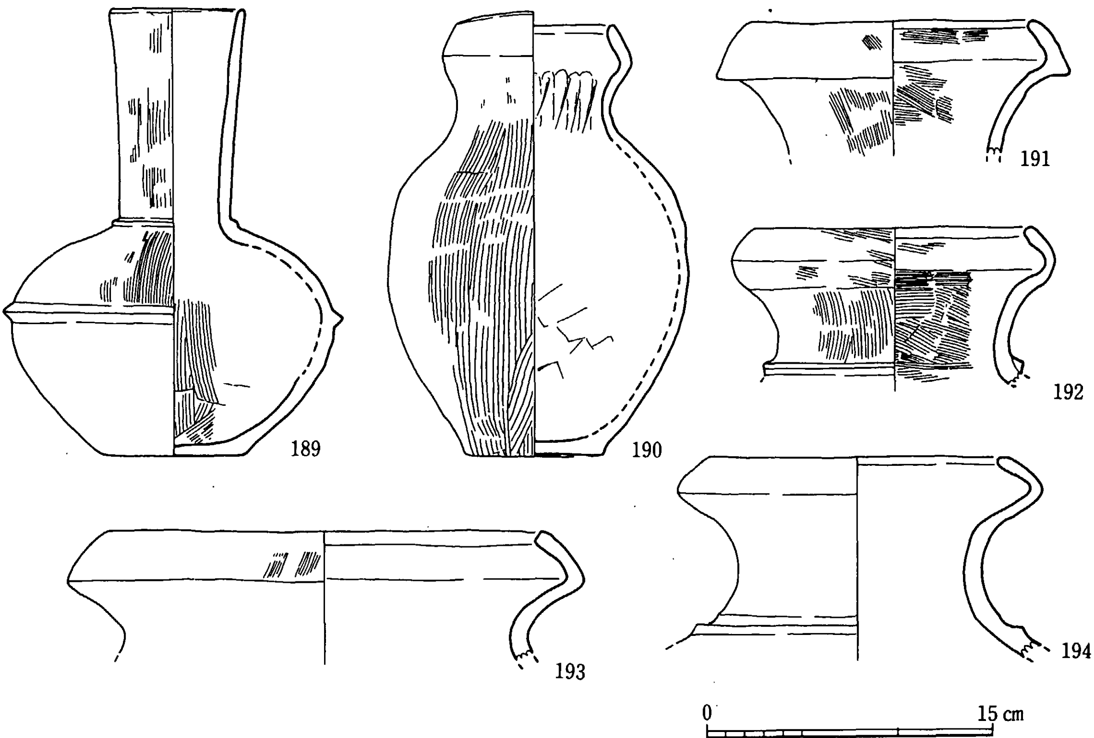
第28図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．３（1/4　173は1/6）



第29図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．４（1/4）

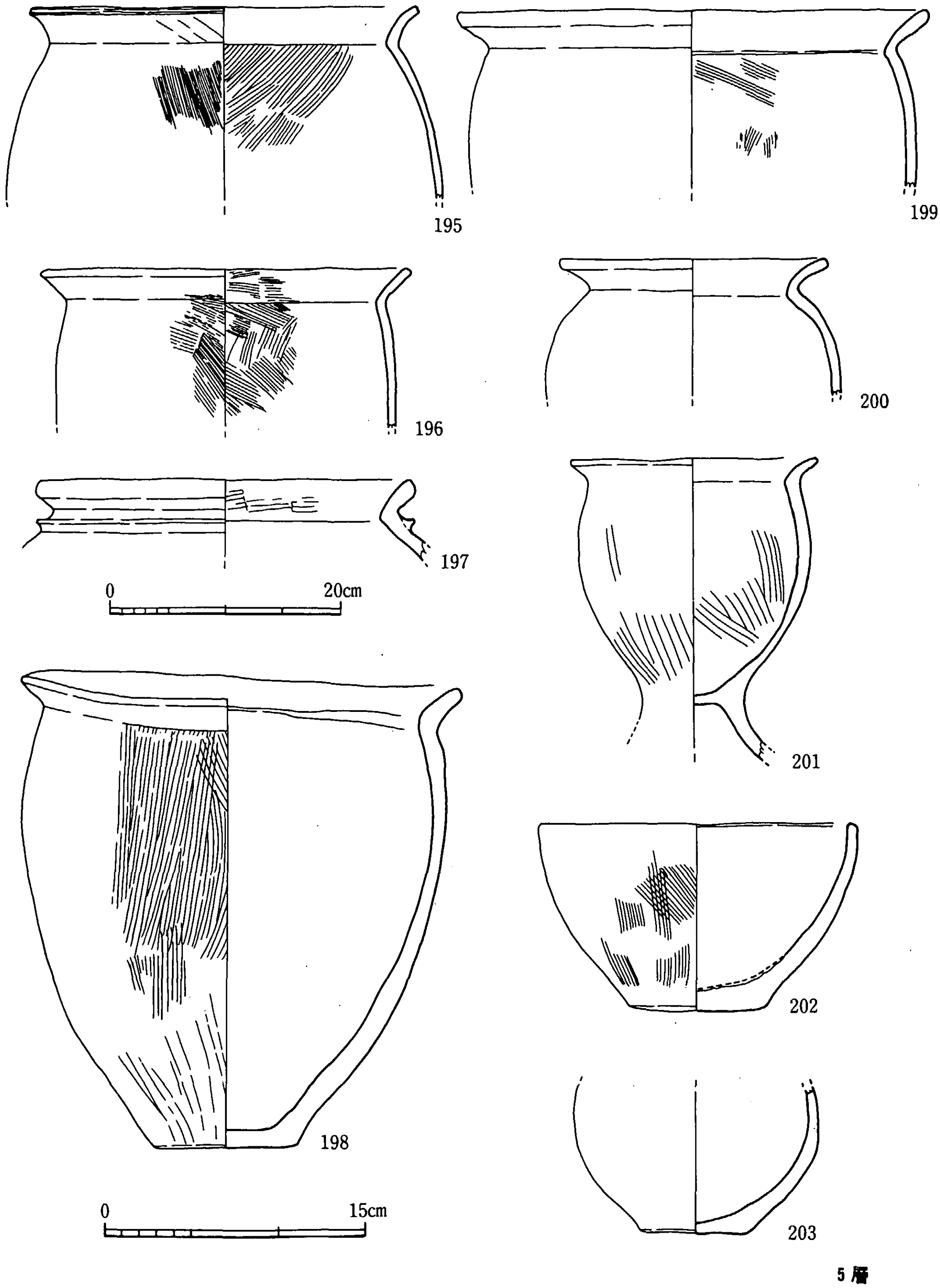


4層

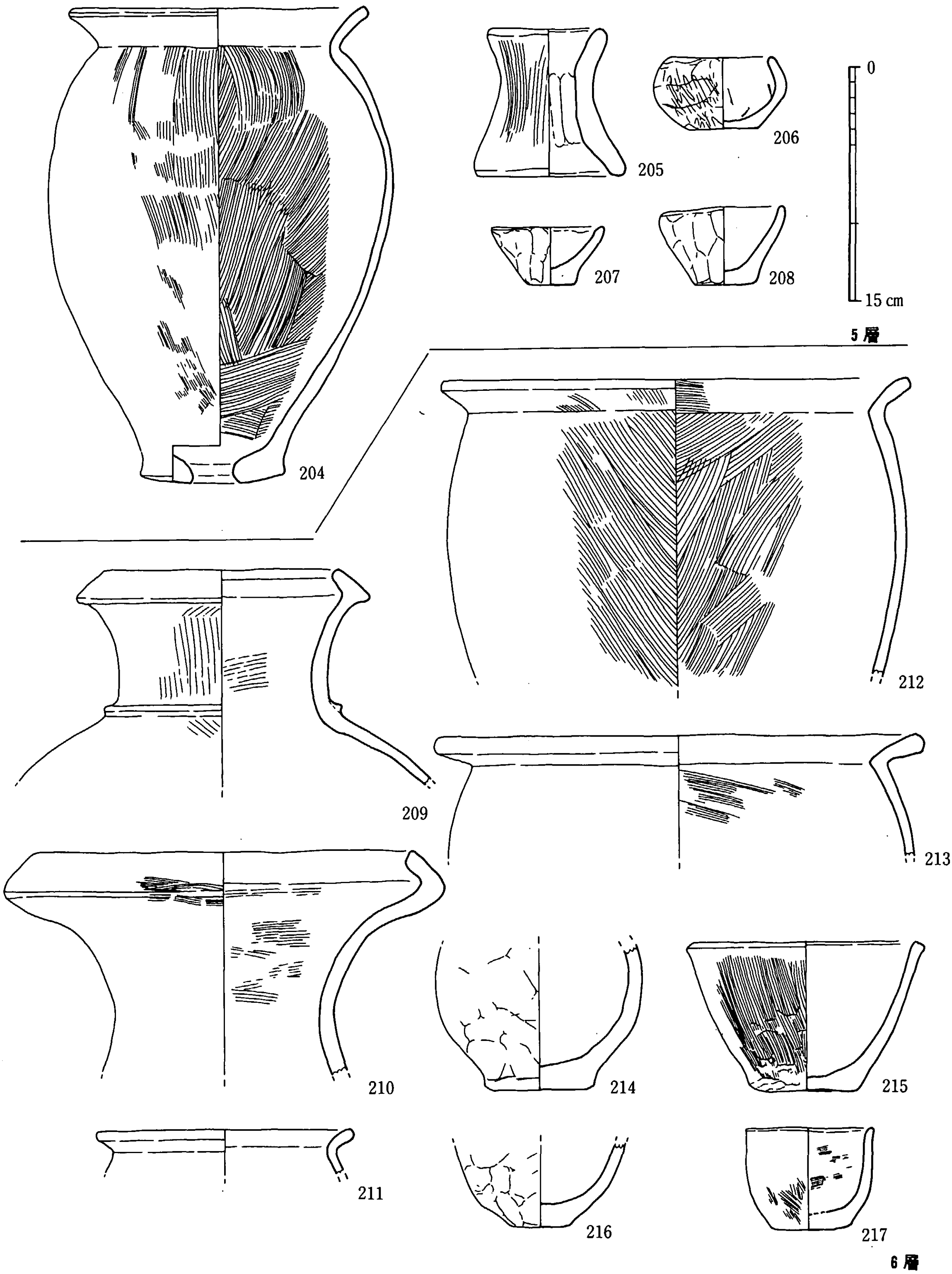


5層

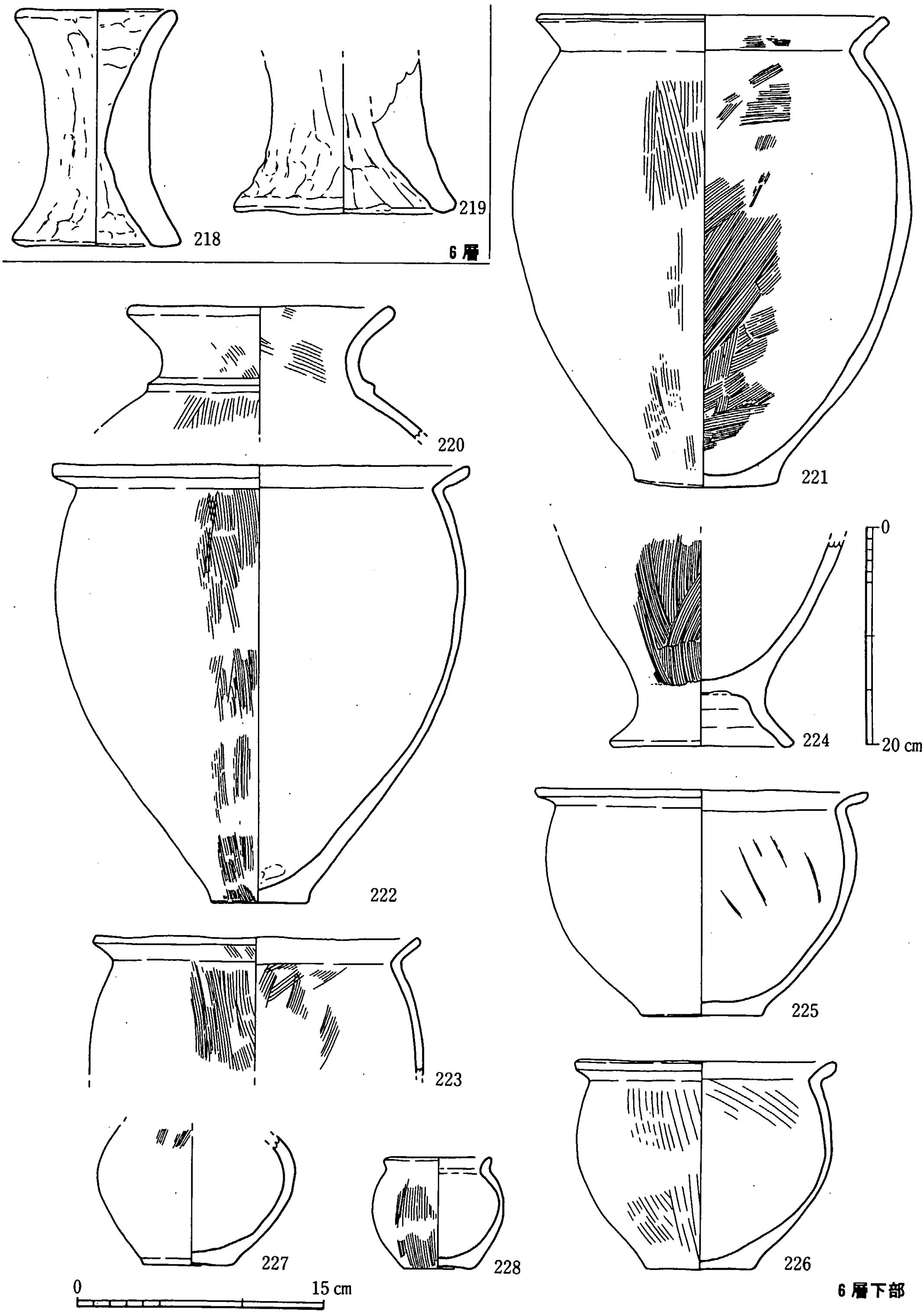
第30図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．５（1/4　186は1/6）



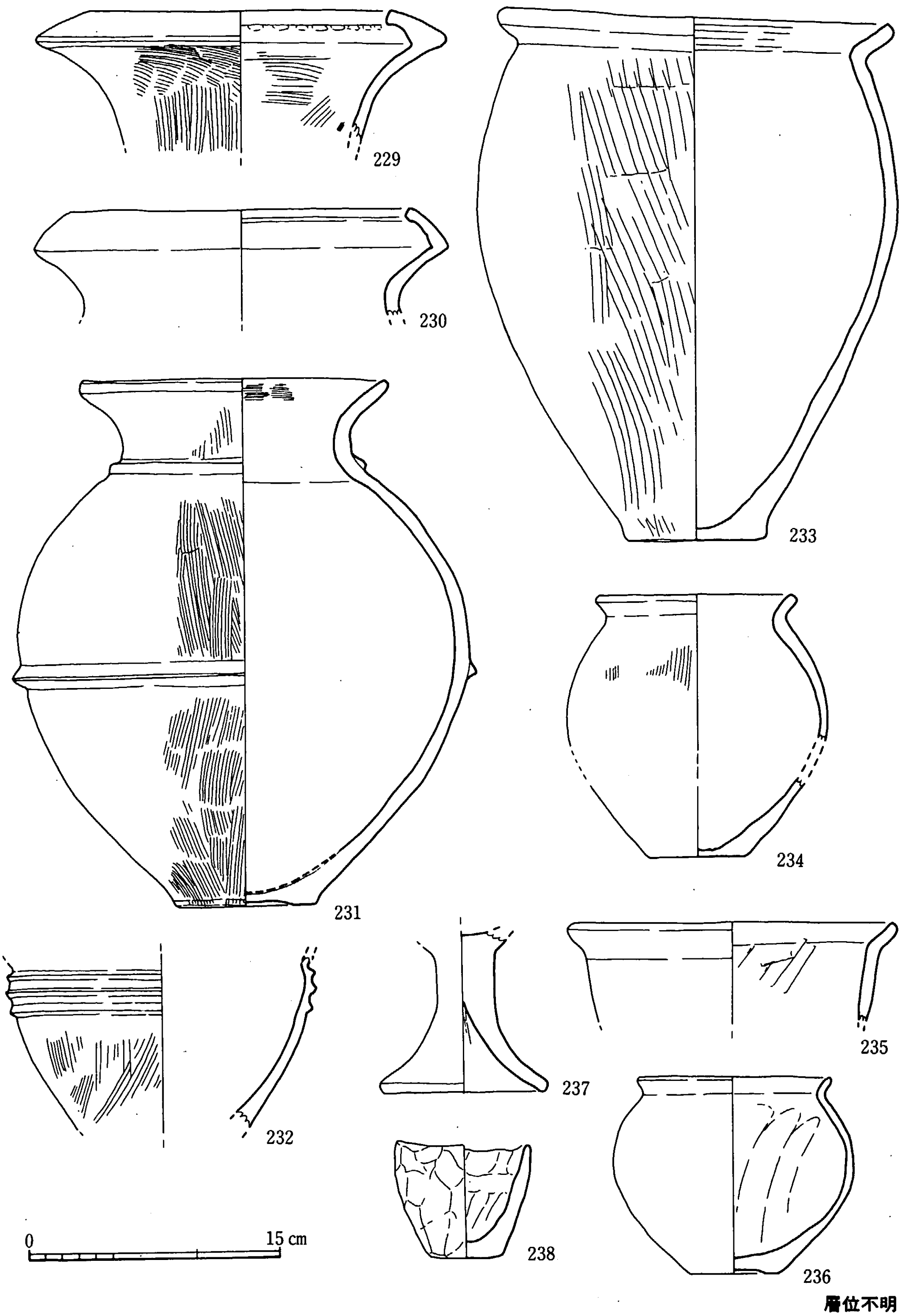
第31図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．６（1/4　195～197は1/6）



第32図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．７（1/4）



第33図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．８（1/4　222・223は1/6）



第34図　1022号溝４トレンチ出土土器実測図．９（1/4）

厚している。187は小型の鉢で粗い指頭圧痕がハケ目下に残る。188の胴部には黒斑がある。

189〜208は５層中からの出土である。189の頸部は直線的に立ち上がり端部へ至る。胴部は中位で楕円形に膨らみ、底部は端部が鋭く稜をもった平底である。頸部と胴部中位に三角突帯が貼付される。口径7.2cm、底径7.6cm、器高23.7cmを測る。190は口頸部が緩やかに内側に屈曲する。胴部中位に最大径を持ち、端部が鋭い平底である。内面頸部は工具による横位のナデによって仕上げられ、胴部下位は工具痕でナデられる。191の口縁屈折部は突出し口縁端部は丸い。192の口縁屈曲は弱く、端部は肥厚する。頸部には方形の突帯が１条貼付される。復元口径14.6cm。193は復元口径22.8cm。194の口頸部は長く屈曲も緩やかである。195の口縁は端部付近でさらに外反する。196は内外面にハケ目が施され、内面は口縁部にまで施される。197の口縁端部は肥厚し、頸部には鋭い方形状の突帯が貼付される。復元口径32.7cm。198は頸部の屈曲が弱く口縁は肥厚する。底部はやや端部に丸味を持つ。199は口縁が「く」字状に折れる。200の口縁は緩やかで大きく開く。201は台付の鉢で復元口径14.2cmを測る。202の外底部はやや張り気味。203はやや球径の胴部を持ち、底部付近で急にすぼまる。204は甕の底部を穿孔し甑として使用している。口縁は「く」字状に外反し、底部は凸レンズ状である。胴部は内外面共に丁寧にハケ目が施される。口径19.0cm、底径10.3cm、器高30.4cmを測る。205の裾部周辺は磨滅し調整は不明。206は平底で胴部外面はミガキ、内面は工具によるナデ。207は口径6.9cm。底径3.0cm、器高3.8cmを測る。208の底部には黒斑がある。

209〜219は６層中より出土した。209の口頸部は長く、口縁の屈折部は外面では少し突出するが、口縁全体が肥厚するため内面の屈折は弱い。210は口頸部が長く徐々に開き屈折部へ至るが、ここから端部へは肥厚するため屈折部内外面の稜は鈍い。復元口径24.0cmを測る。211〜213の口縁は「く」字状に屈曲する。212の口縁端部下には丁寧なハケ目が施される。213の屈曲は鋭く、頸部内面には稜が付く。214は外面底部に工具痕を残す。215の鉢は直線的に開き口縁へ至り、端部でわずかに外反する。216の底径は3.6cmと小さい。217は胴部から口縁端部へは直立気味に至る。218･219の器台はどちらも指頭圧痕を残し器面には凹凸があるが、219は外面胴部と内面裾部にケズリを残す。

220〜228も６層中の出土だが、出土レベル的には若干下位であった。220は頸部から端部へは一定の厚さを持って至る。復元口径16.3cm。221の口縁端部には角があり、胴部はやや卵状に張りそこに最大径を持つ。胴部下位にかけて黒斑がある。復元口径21.5cm、底径8.7cm、器高29.0cmを測る。222の口縁端部は221に比べ肥厚する。胴部は張りを持つが、最大径は口縁部である。底部は完全な平底でハケ目は端部にまで及ぶ。復元口径38.2cm、底径9.2cm、器高40.1cmを測る。223の口縁は「く」字状に外反する。224の台付き鉢の脚台部は丁寧に横ナデされている。225の外面は磨滅著しいが内面には工具痕が残る。226は球形の胴部を持ち、口縁は「く」字状に外反する。底部は完全な平底である。227・228は小型の鉢でいずれも球形の胴部と若干上げ

底の底部を持つ。

229～236は4～6層中より出土したが、正確な地点を抑えることができなかった。ただ229～232・234～236・238はまとまって出土している。229の口縁屈折部は肥厚し端部は角を持っている。口頸部は内外面共にハケ目が施され、内面端部付近には指頭圧痕が残る。230は復元口径24.8cmを測る。231は頸部より口縁が大きく外反する。胴部は球形で底部はやや上げ底である。頸部と胴部に三角突帯が貼付される。外面口縁は横ナデされ、頸部から底部までは縦方向のハケ目、内面は頸部付近にハケ目が施される。232は胴部には最低3本の三角突帯が貼付されている。233は口縁が「く」字状に外反し、頸部から端部は肥厚している。胴部に最大径があり端部は平底である。胴部を中心にハケ目が施され、底面端にまで及んでいる。内面胴部は磨滅により調整は不明。234は口縁は「く」字状、底部は平底で球形の胴部を持つ。235の内面は工具によるナデ痕が残る。236は球形に張る胴部に短い口縁が取り付き、底部は上げ底である。外面はかなり磨滅しているが内面には指ナデの痕が強く残る。237の内面にはシボリ痕が観察される。裾部復元径は10.1cmを測る。238は指頭圧痕が残り器面には凹凸がある。坑口縁付近に黒斑がある。

5トレンチ（第35～44図239～339）

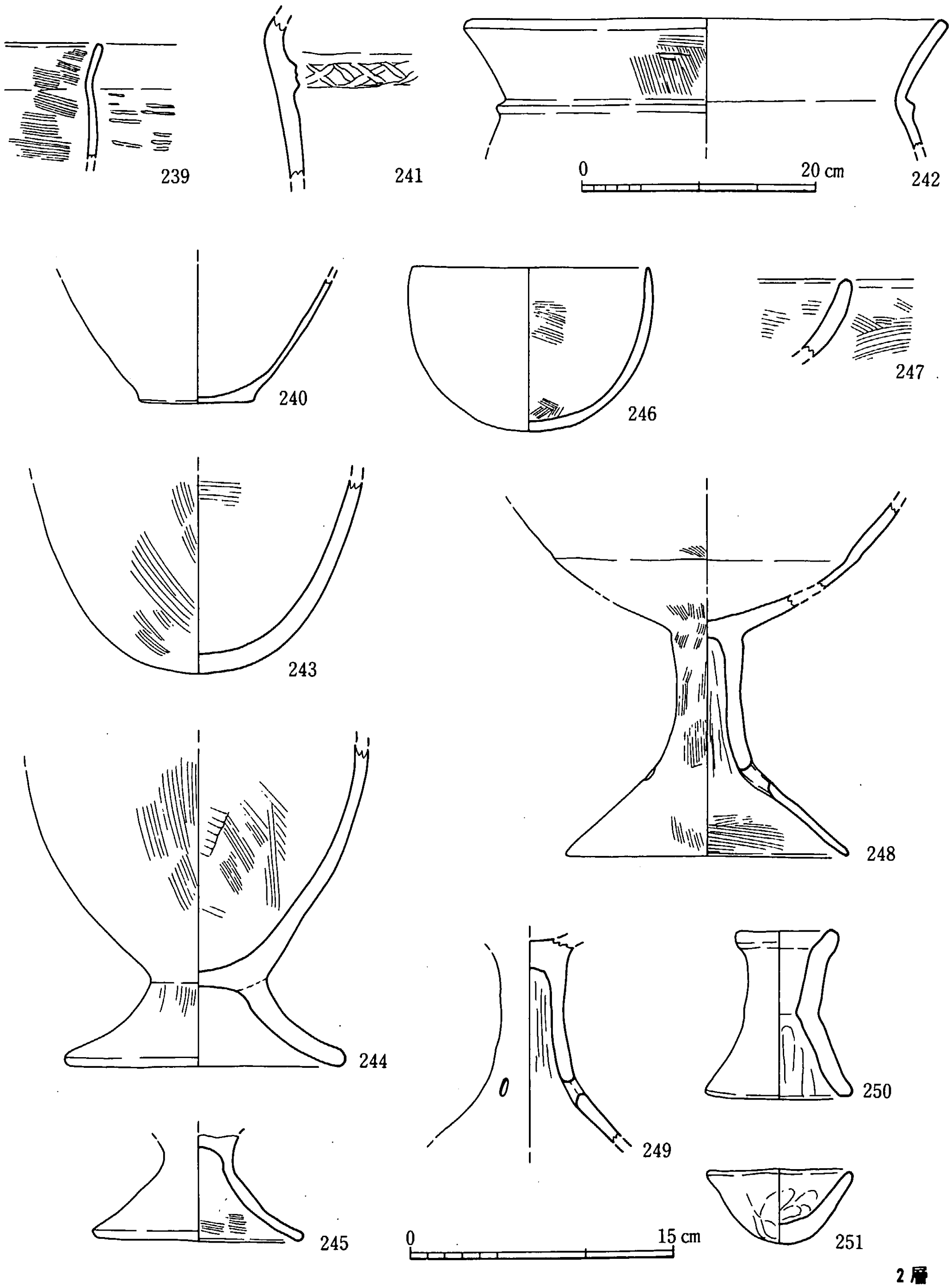
239～251は2層中出土の土器である。239の口縁は少し屈曲し、端部でわずかに肥厚する。口縁内外面はナデ、外面胴部にはタタキを残し、内面にはハケ目が施される。240の底部は復元口径6.6cmを測る。241は頸部下に方形状で幅のある突帯が貼付される。242の口縁は長く直線的に開く。頸部に三角突帯が1条貼付される。復元口径41.3cm。243は球形の底部で外面にはハケ目が施され、底部付近に黒斑あり。内面はハケ目のちナデ。244の脚台部の裾はラッパ状に開く。胴部内外面共にハケ目が施され、胴部から裾部にかけて黒斑がある。245の脚外面は磨滅しているが内面には横ナデが観察される。裾部径は12.0cmを測る。246は底面が丸くボール状を呈した鉢で口縁端部は細く鋭い。復元口径13.6cmを測る。247は鉢の口縁部片で端部付近は横ナデ、以下は内外面共にハケ目が施される。248の高杯の杯外底部と口縁の屈曲は弱い。脚は柱状部では細く、裾部へ向かうにつれ急に開く。2箇所穿孔がある。外面は裾端部までハケ目が施されるが、内面は裾付近だけでそれより上位はナデによって仕上げられる。249は3箇所に穿孔がある。250の器台は頸部下にくびれ部があり、胴部中央には別の屈曲がある。251の手捏ね土器は底面に煤が付着している。

252～275は3層中より出土した。252～257はいずれも口縁が屈曲する複合口縁壺である。252・253の口頸部はどちらも大きくバチ状に開き、頸部下に突帯を持つ。屈折部から端部にかけては肥厚し屈折部内面の稜も不明瞭である。また、どちらも口縁内面下に指頭圧痕が観察される。254は口縁部の屈曲が強く、屈折部は外面でわずかに突出する。屈折部から端部までは一定に肥厚し、屈折部内面の稜も明瞭である。口径20.5cmを測る。これに近いものには256がある

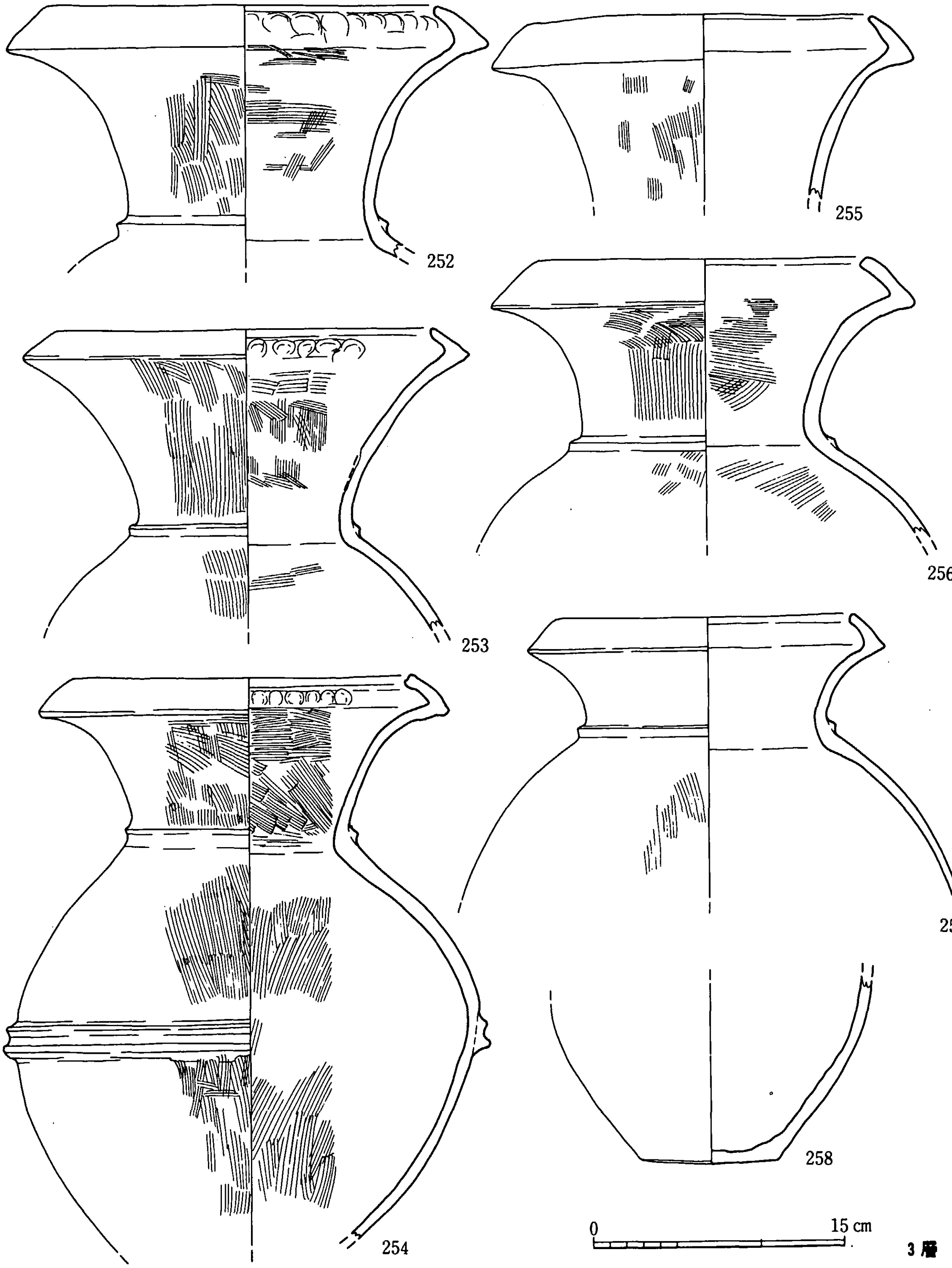
が、屈折部の突出も弱く、内面の稜も不明瞭である。255は口縁端部が細く仕上げられる点で他と異なる。257は口頸部が他に比べ短い。258は底面がわずかに張り出し、胴部から底部付近に黒斑がある。底径8.3cmを測る。259は復元口径20.4cmを測る。260は底面端部がわずかに丸味をもち、内外面ともに胴部から底部にかけてハケ目が施される。形態や色調などから259と260は同一個体の可能性がある。261は卵状の胴部に2条の突帯が貼付され、底部は平底である。262の頸部の屈曲は弱く直立気味に立ち上がる。内外面磨滅著しいが外面にはタタキがわずかに観察され、口縁から胴部にかけては黒斑がある。263～265の甕はいずれも口縁が「く」字状に屈曲し、端部は角を持つ。263の復元口径は24.0cm、264の口縁部は横ナデ、頸部以下はハケ目が施され、頸部以下に黒斑あり。265の底部は凸レンズ状で底径8.3cmを計り、頸部以下に黒斑がある。266は外面ハケ目のちナデ、内面はナデ調整で工具痕が観察される。裾端部は横ナデされている。267はサラダボール状を呈した大型の鉢で胴部から口縁部へは一定の厚さで至る。内外面ともにハケ目が施される。268・269の鉢はほぼ平底な点と底部から口縁端部へ直線的に開く点で共通する。ただ、268のほうが器厚は薄く、内外面ともにハケ目が施される。270は底面が球状を呈し、短い口縁がわずかに屈曲する。外底面には黒斑がある。271の支脚は突起を有することが頭部下の膨らみで確認できる。外面はタタキのちナデ、内面はハケ目のちナデ調整。裾径は11.5cm。272～275の器台はくびれがほぼ胴部の中位にくる272・273と、受部直下にくる274・275がある。前者は器面に凹凸を残し、内外面ともにナデられている。275は外面の端部からくびれ部までは横ナデ、以下はタタキで、内面はハケ目のちナデ。275は一部タタキを残し、くびれ部以下はハケ目、内面はハケ目のちナデ。

276～286は4層中からの出土である。276の屈折部内面には指頭圧痕が残されている。口径19.2cmを測る。227は胴部中位より少し上のところに三角突帯が2条貼付される。278～280の甕はいずれも口縁部が「く」字状に外反する。278は頸部以下は大きく膨らみを持ち、最大径は胴部付近になろう。また肩部以下に黒斑あり。279の復元口径は30.0cm。280は口縁部に煤付着。281・282の口縁部の屈曲は弱く、端部は角を持つ。どちらも頸部が口縁端部に比べ肥厚している。281は外面はナデ、内面は頸部以下に縦方向のハケ目が施される。282の外面胴部はハケ目、内面は工具によるナデ。復元口径18.1cm、底径6.7cm、器高24.5cmを測る。283の底部はやや凸気味、284は底径8.4cmを測る。285の胴部には黒斑がある。内外面ともに工具によるナデによって仕上げられている。茶褐色に焼成され、復元底径は7.0cmを測る。286は口径11.8cm、器高6.4cmを測り、全体に煤が付着している。

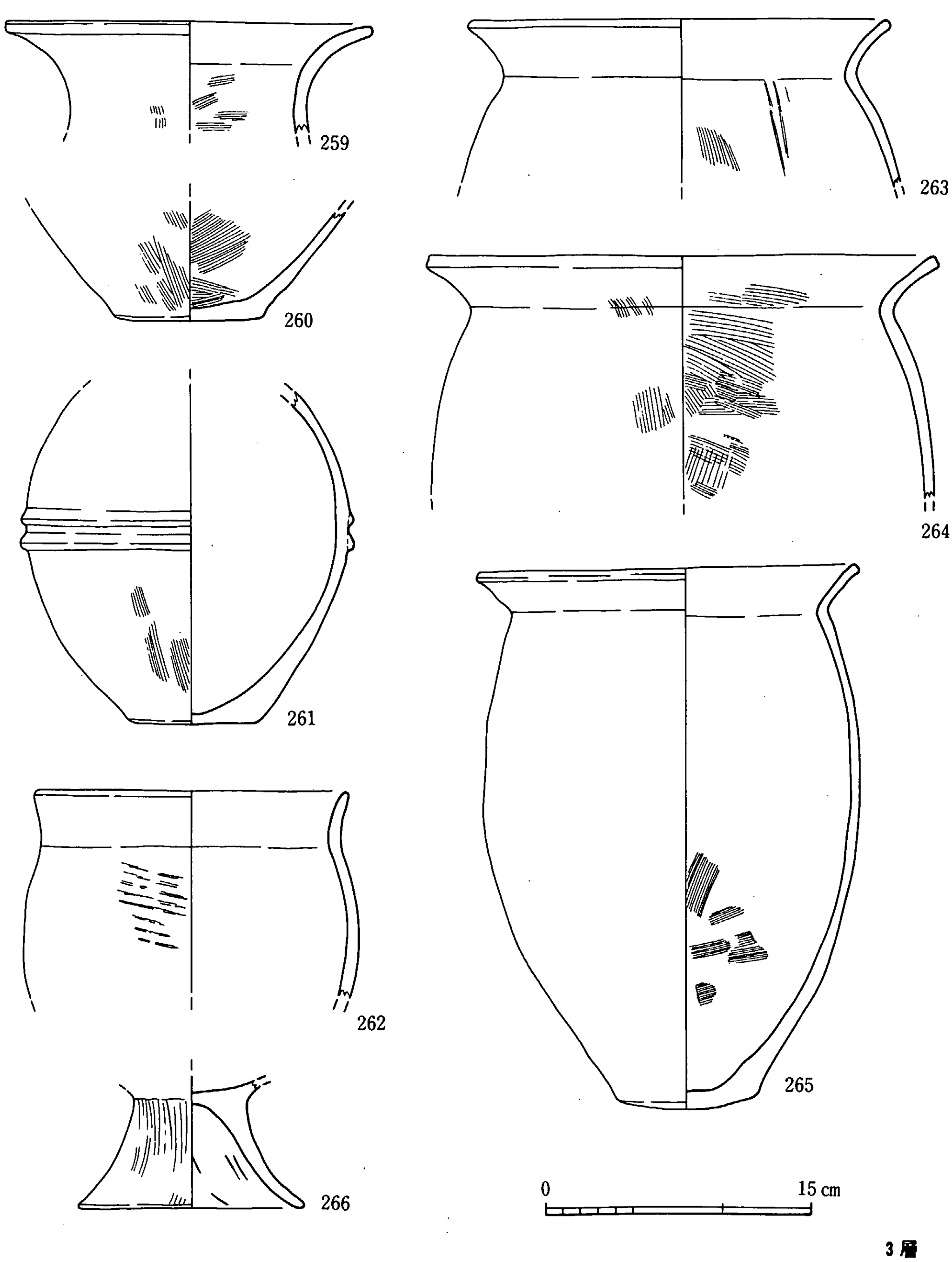
287～330は5層中より出土した。287～289は複合口縁であり、それぞれの屈曲は288が屈折部にやや鋭い稜を持つほかは比較的緩やかである。287の屈折部は肥厚し丸味を持つ。288は頸部下に三角突帯が1条貼付され、復元口径は18.4cm。289の口縁は丸味を持って屈曲し、端部も丸味を持つ。頸部下には2条の三角突帯が貼付られ、その内面には平坦な面を持つ。復元口径は



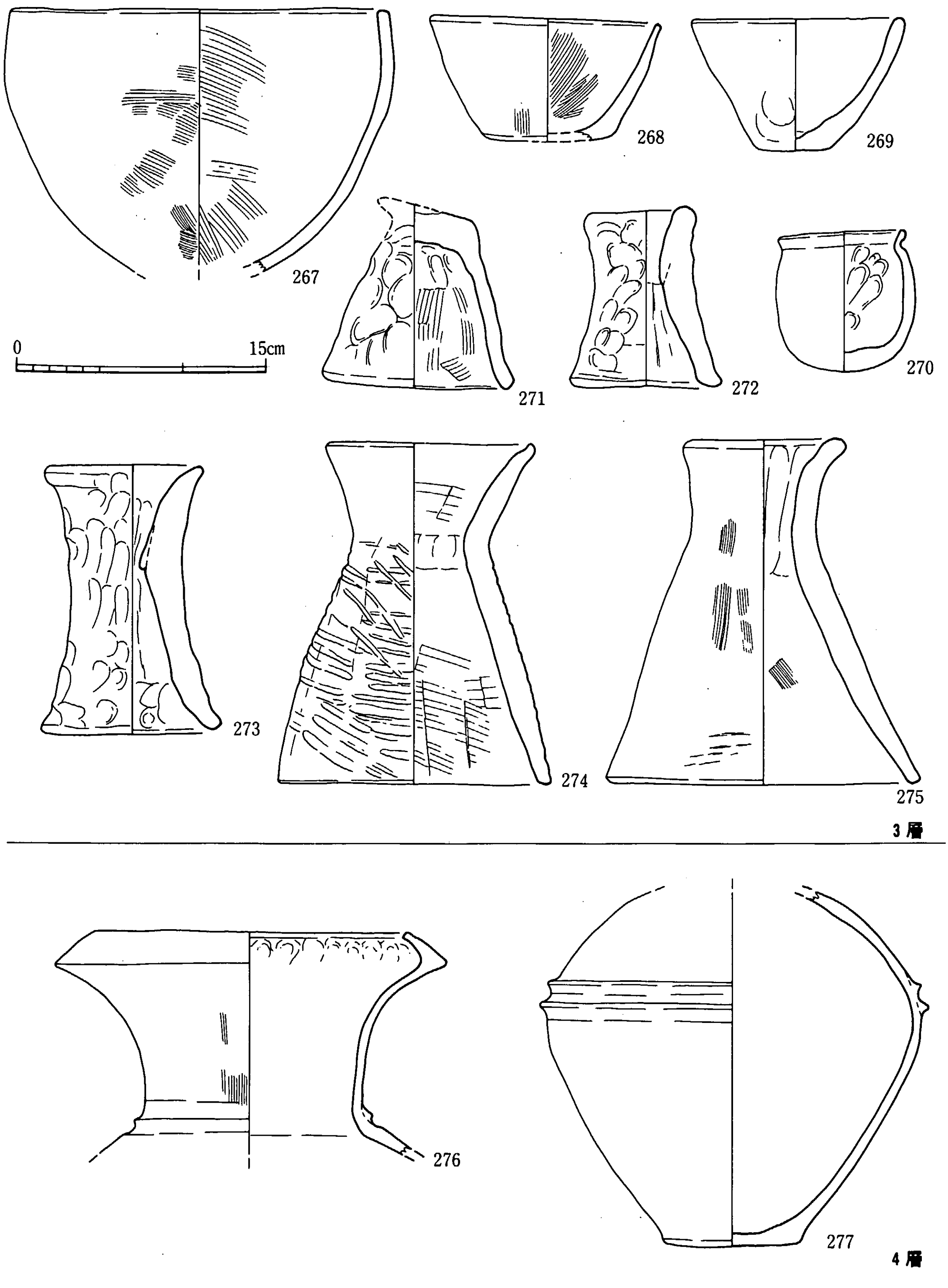
第35図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．１（1/4　242は1/6）



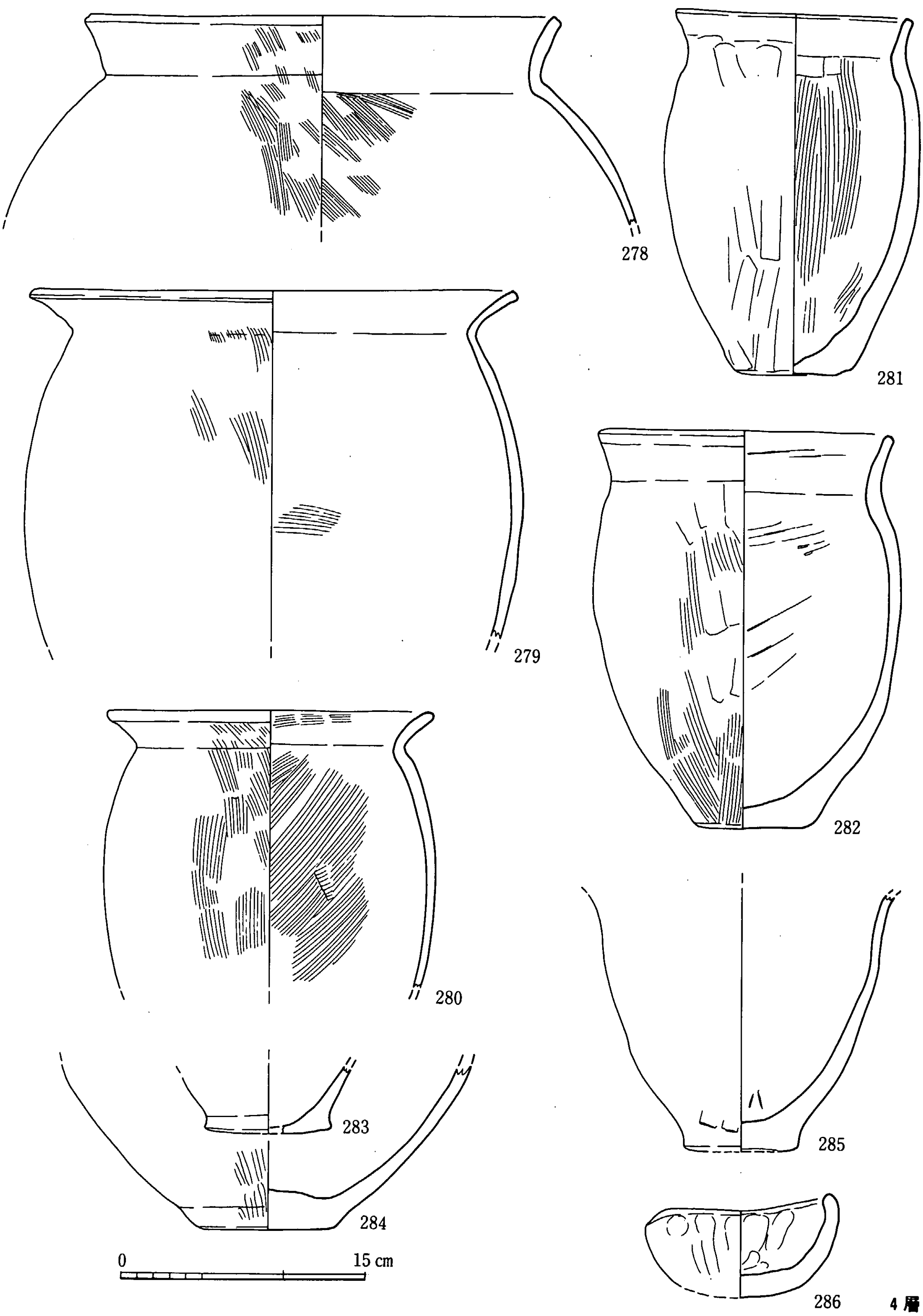
第36図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．２（1/4）



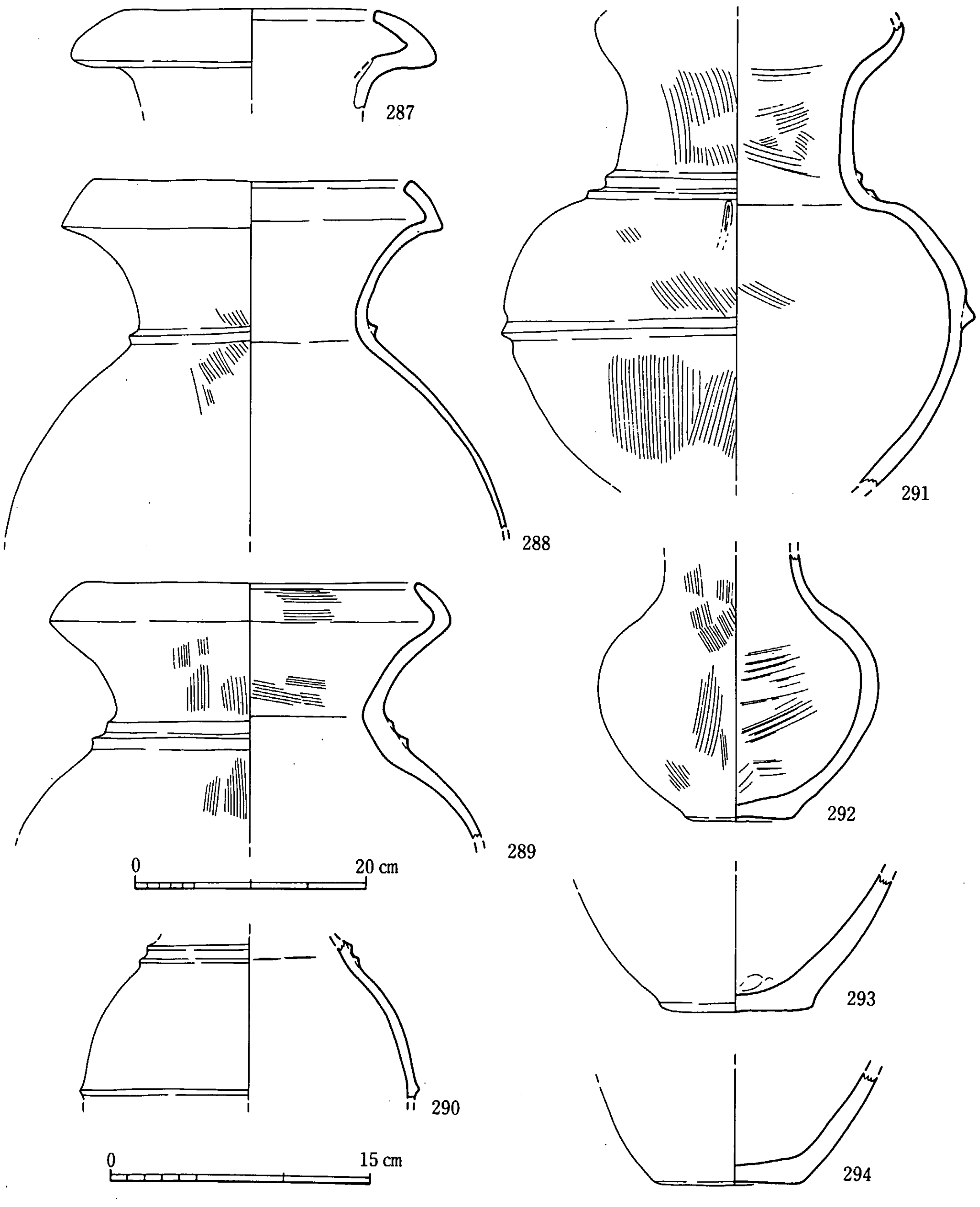
第37図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．３（1/4）



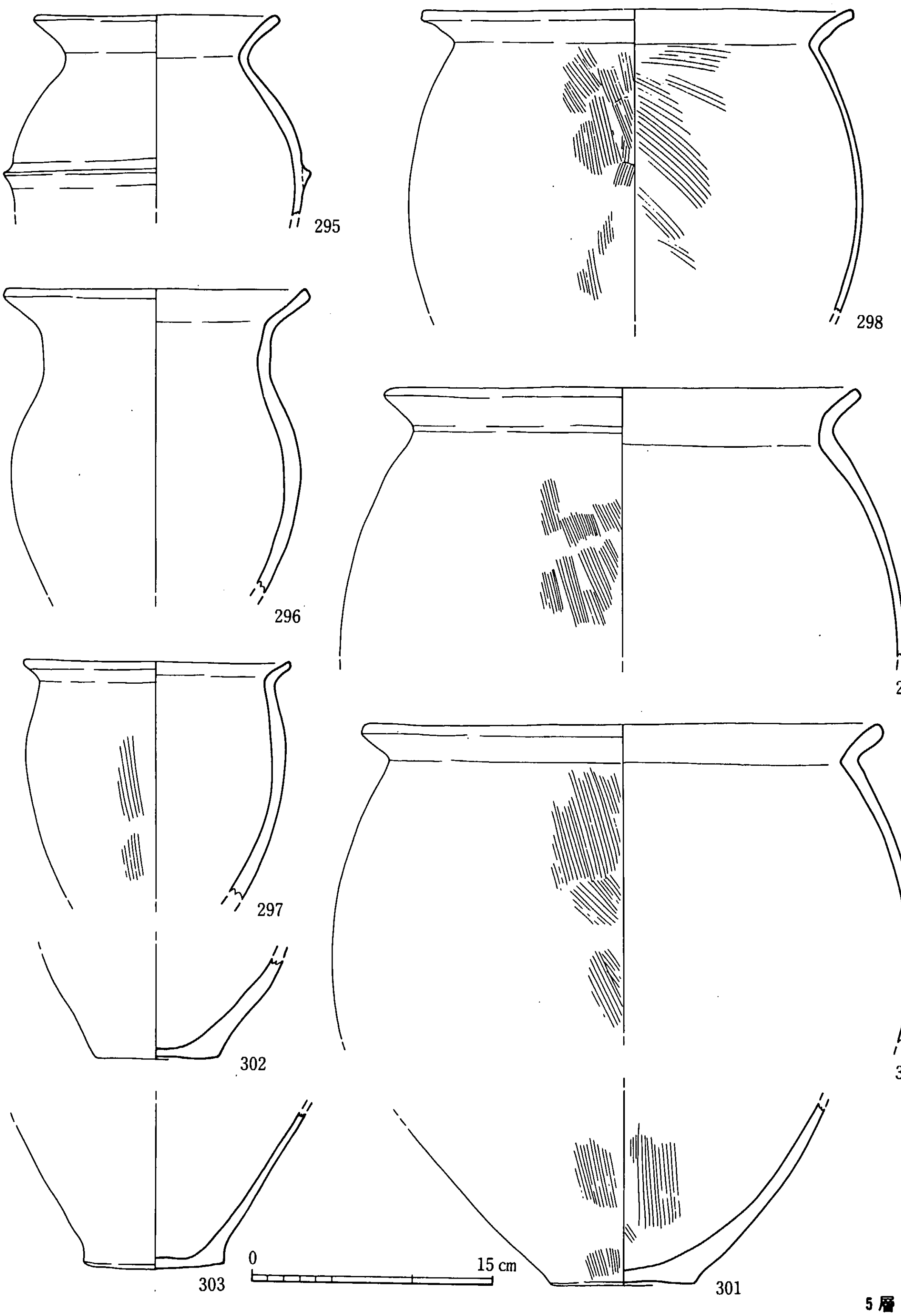
第38図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．４（1/4）



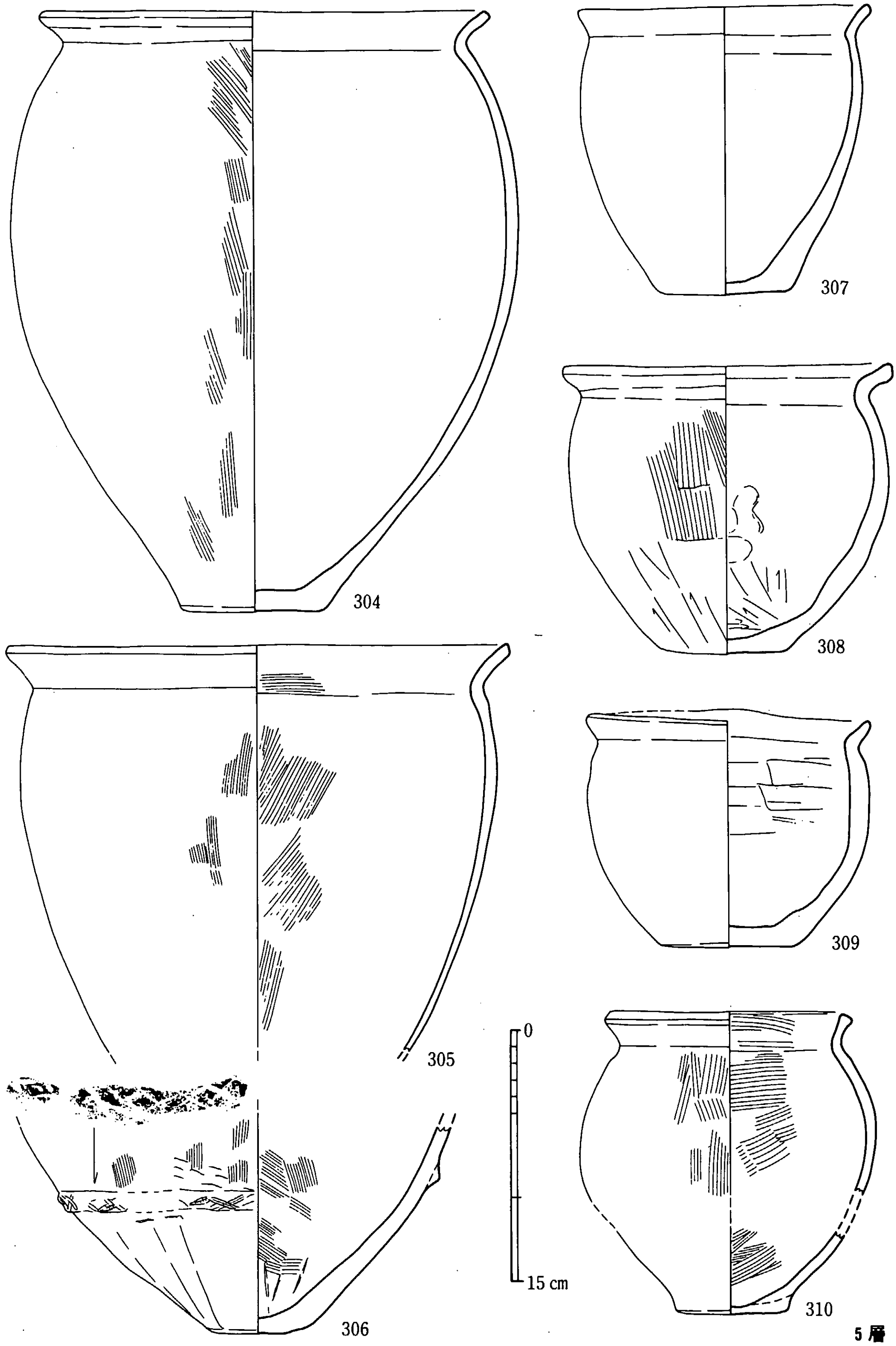
第39図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．５ (1/4)



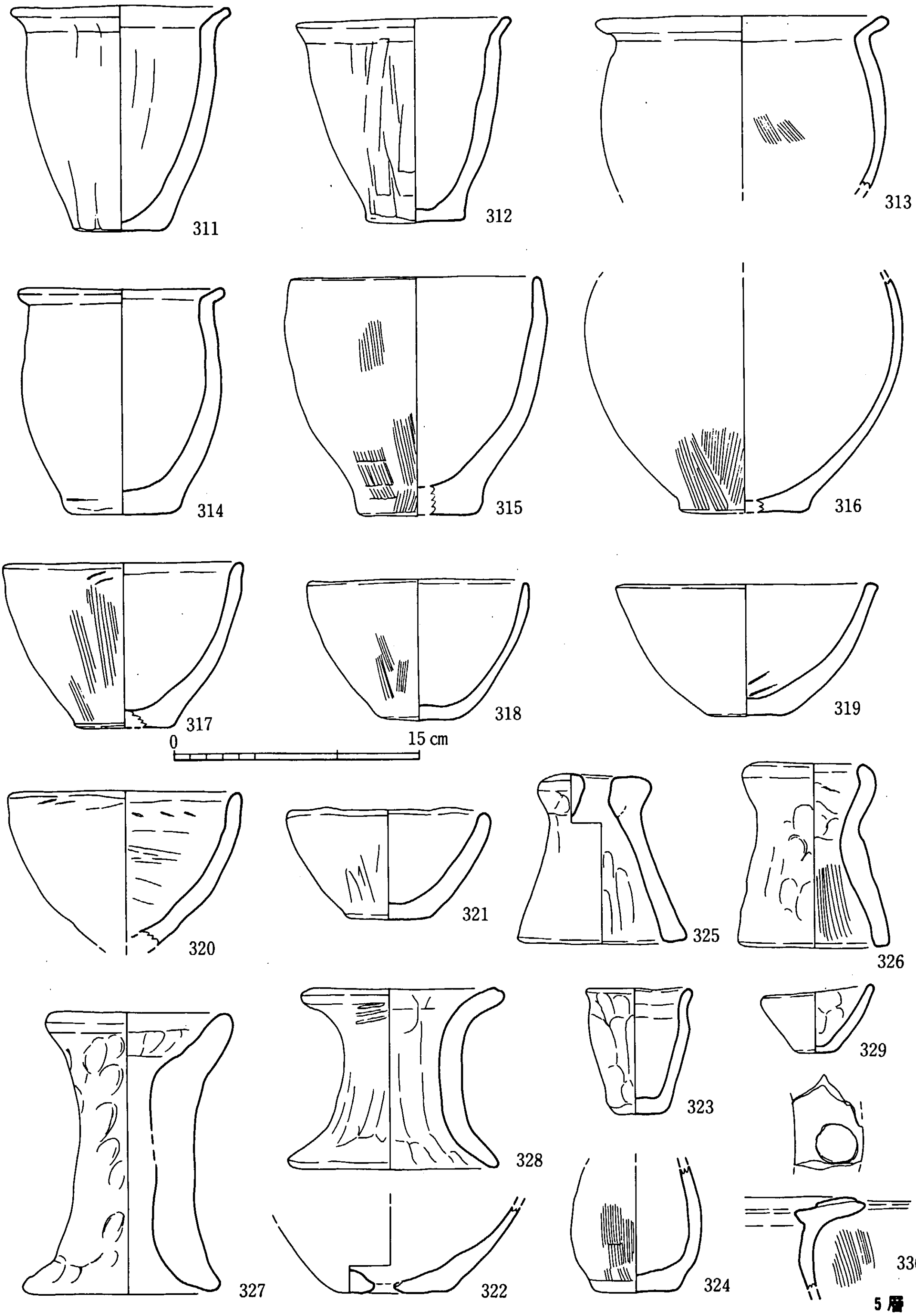
第40図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．６（1/4　289は1/6）



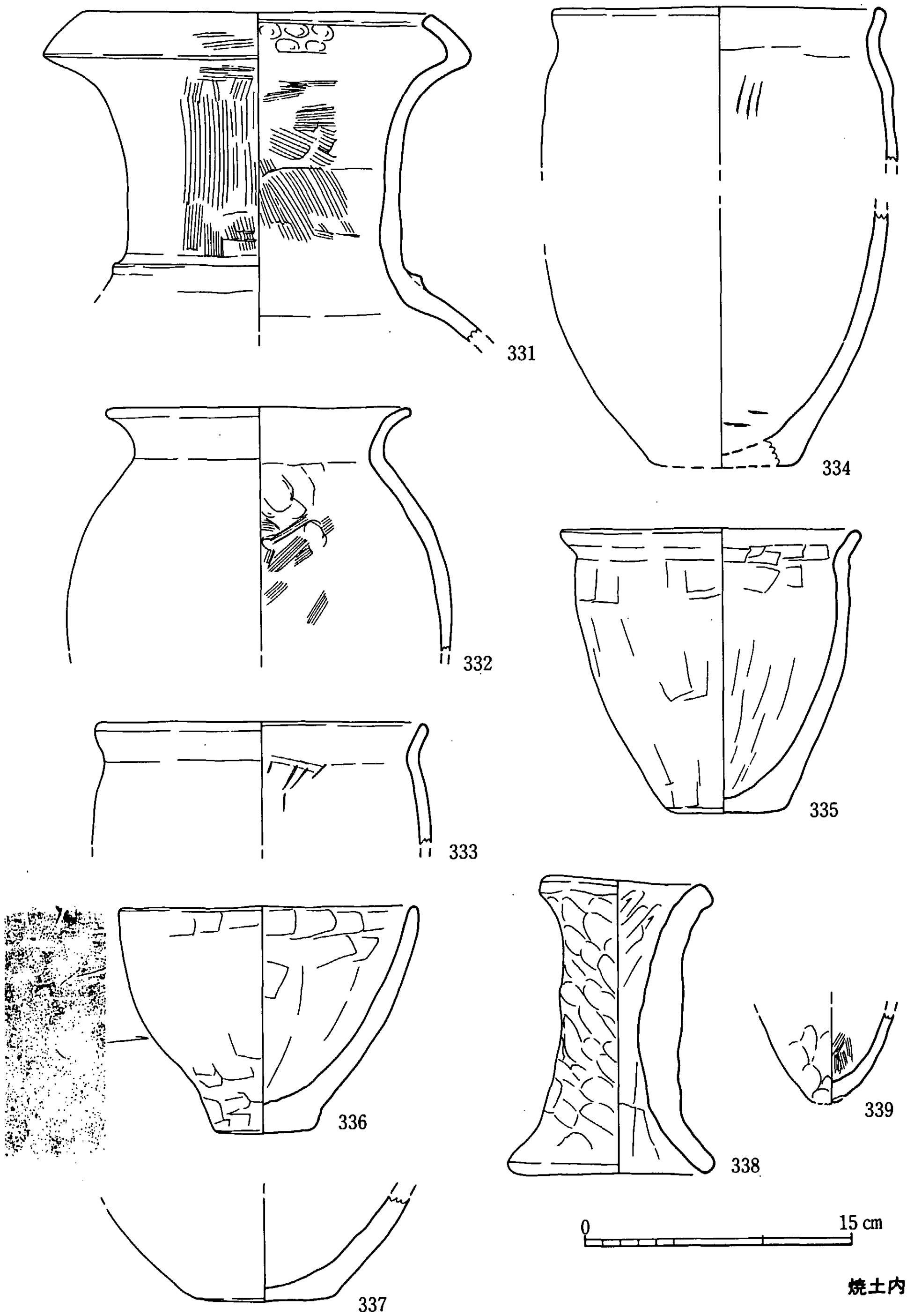
第41図　1022号溝5トレンチ出土土器実測図. 7 (1/4)



第42図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．８（1/4）



第43図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．９（1/4）



第44図　1022号溝５トレンチ出土土器実測図．10（1/4）

28.8cmを測る。290も頸部下に２条の突帯が貼付され胴部にも１条貼付される。291は肩部がやや張り、そこに最大径がある。頸部下には２条、胴部に１条三角突帯が貼付される。頸部が直立する。胴部最大径は27.4cmを測る。292は球形の胴部を持ち、頸部から急にすぼまる。肩部付近に黒斑があり、底径6.2cmを測る。293の底面端部はやや丸味をおびている。胴部下位から底面端部にかけて煤が付着している。294は胴部から外底面中程まで黒斑がある。295の口縁部は頸部から直線的に開き端部は角を持つ。胴部には三角突帯が１条貼付される。内外面磨滅し器面調整は不明で復元口径15.2cmを測る。296は胴部から頸部へは緩やかに内湾したのち、口縁部へは緩やかに外反する。297の口縁は二次的に熱を受け煤が付着する。298～300はいずれも口縁が「く」字状に外反し、最大径が胴部にある。298の復元口径は28.8cm。299の頸部は胴部や口縁端部に比べ肥厚している。胴部外面には煤が付着している。300の口縁は短く端部付近で肥厚する。301・302の底面はやや上げ底である。301の内外面はともにハケ目が施されている。303の底面はやや凸状であり、胴部から底面端部へはやや内湾して至る。304の口縁は「く」字状に外反し、胴部中位に最大径があり、底部は平底である。外面胴部下位から底部にかけては煤が付着する。復元口径26.9cm、器高35.9cm、底径8.8cmを測る。305の頸部はわずかに屈曲し、頸部以下は急に内湾していく。306の底部は胴部に比べ小さく底面端部は丸味を持つ。胴部下位には突帯が貼付される。底面から突帯までは、擦過風にナデ上げられている。底面まで黒斑がある。底径6.1cmを測る。307は胴部から頸部にかけて一旦内湾したのち、口縁部で肥厚し外反する。底部付近には黒斑がある。口縁はかなり歪んでいる。復元口径16～19cm、底径7.6cm、器高17.0cmを測る。308･309の鉢はどちらも球形の胴部を持つ点では共通している。しかし、308の口縁端部は肥厚し底面は膨らみを持つ。外面胴部はハケ目、下位から底部はケズリ、内面はケズリのちナデによって仕上げられる。309の口縁端部は細く底部は完全な平底で内外面ともにナデによって仕上げられている。310は球形の胴部に対し、口縁は緩やかに外反し端部は角を持つ。胴部下位の外面は磨滅し調整は不明。311・312の鉢は口縁部の外反が少し異なる以外は器形に大きな差ない。どちらも工具による粗いナデによって器面調整が行われている。311は口径13.4cm、底径5.8cm、器高13.9cmを測り、茶褐色に焼成される。313は磨滅著しいが内面胴部にわずかにハケ目が観察できる。314の外面底部付近には粘土に紐のつぎ痕がある。315は器面調整が異なる以外は形態的に3トレンチ５層中の132資料に類似している。口縁部内外面はナデ、外面胴部以下はハケ目、内面はナデ。復元口径15.3cm、器高14.6cm、復元底径7.4cmを測り赤褐色に焼成される。316は復元底径7.8cm。317～321・323・324は小型の鉢で不明な320以外はみな平底である。器面調整は外面はハケ目やナデが主である。317は底部の作りは他より厚い。320の口縁部付近には工具による刺突文のようなものが施される。復元口径は14.4cmで茶褐色に焼成される。322は底面に1.3cm程度の穿孔がある。323のミチュアは形態的には３トレンチ４層の137に類似している。324は底部付近に張を持つ。325の支脚は頭部に1.5cm程度の穿孔がある。

326は受部の端部が内湾する。327はくびれ部から胴部は直線的で、裾部で大きく開く。328の受部、裾部の外反は大きい。329は手捏ね土器で器面は磨滅している。330の鍬先状の口縁の上縁には円形の粘土魂が貼付される。

331～339は焼土内より出土した。331は口頸部が直立気味に立ち上がり、口縁部は緩やかに屈曲する。口縁部内面には指頭圧痕がある。口径19.5cmを測る。332の口縁は大きく緩やかに外反している。内面頸部下はナデ押さえられている。333・334の口縁部はわずかに屈曲し、どちらも内面頸部下には工具痕が残されている。334の復元口径18.6cm、復元底径8.6cmを測る。335は311らと同じく内外面ともに工具で粗くナデられている。橙褐色に焼成される。336は胴部がやや開いて端部へ至る。335と同じく内外面ともに工具により粗くナデられる。口径17.0cm、底径5.7cm、器高12.8cmを測る。337の底面中央はやや膨らみを持つ。338は外面にもシボリ痕を残している。口径9.7cm、底径11.6cm、器高15.8cmを測る。339の手捏ね土器はナデが丁寧に行われ仕上げられている。

6トレンチ（第45～50図340～403）

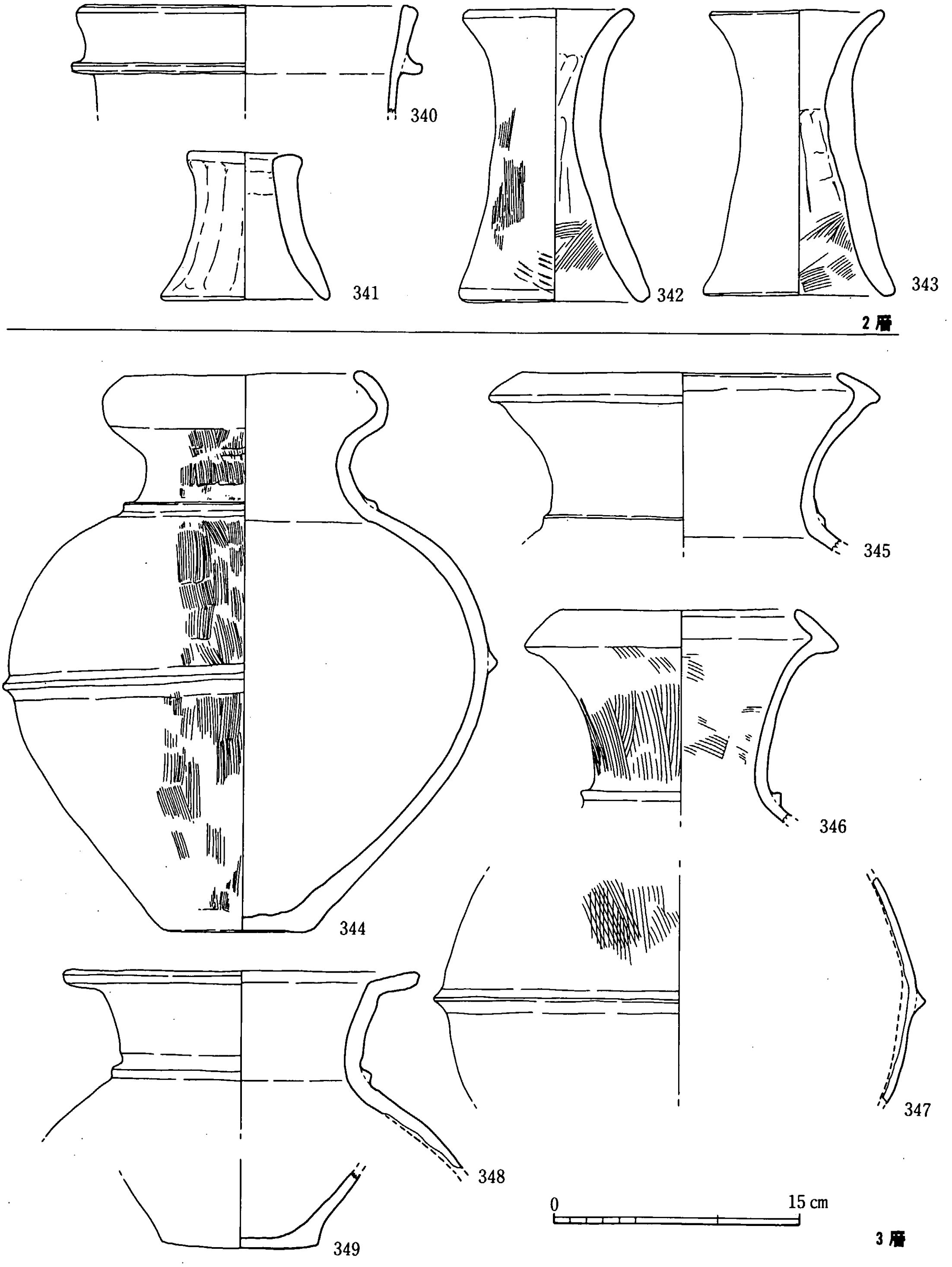
340～343は２層中より出土した。340の口縁部はほぼ直立に立ち上がり端部で肥厚する。１条の方形突帯が貼付される。341はくびれ部から裾部へは大きく開いて至る。342･343はくびれ部の屈曲する場所や器高などはほとんど変わらない。しかし、342の裾端部はやや肥厚する。また器面調整は343が磨滅著しく外面にハケ目が施されるのかは不明である。342の裾部には煤が付着している。

344～369は３層中より出土した。344の口縁は袋状で屈曲は緩やかである。頸部と胴部には突帯が貼付されている。頸部はくびれ、胴部は球形に張りを持つ。外面はハケ目が施されているが、底面端部までには至らない。内面はナデ。口径13.5cm、底径9.2cm、器高は34.4cmを測る。345は口縁屈折部に突出を持ち、端部へはやや内湾しながら至る。復元口径19.0cm。内外面磨滅により調整不明。頸部下に三角突帯が貼付される。346は屈折部に突出を持ち、頸部下には鋭い三角突帯が貼付される。347は大きく膨らむ胴部に三角突帯が貼付される。348は頸部から直線的に立ち上がり、口縁は大きく屈曲しやや上を向く平坦面を持つ。頸部は幅広い沈線状の凹部に鋭い三角突帯が貼付される。349は平底で磨滅し、器面調整は不明。350の壺の口縁は緩やかに外反し端部に至る。頸部から胴部にかけては緩やかに膨らみを持ち、底面はやや中央で張り出す。口径10.0cm、底径7.0cm、器高18.8cmを測る。351～358の甕の口縁は大きく「く」字状に外反する。351は口縁部内外面は横ナデされ胴部にはハケ目が施される。352の口縁端部はやや肥厚する。器面調整は磨滅により不明。353の復元口径は30.0cmを測る。354の胴部は球形で最大径は中位付近にある。復元口径は28.4cmを測る。355は内面頸部の屈曲部上に面を持つ。口縁端部は鋭く立ち上がる。356は復元口径21.0cmを測る。357は頸部で屈曲したのち、さらに折れて外反する。頸部から肩部にかけて張りを持つ。復元口径36.2cmを測る大型の甕である。358の

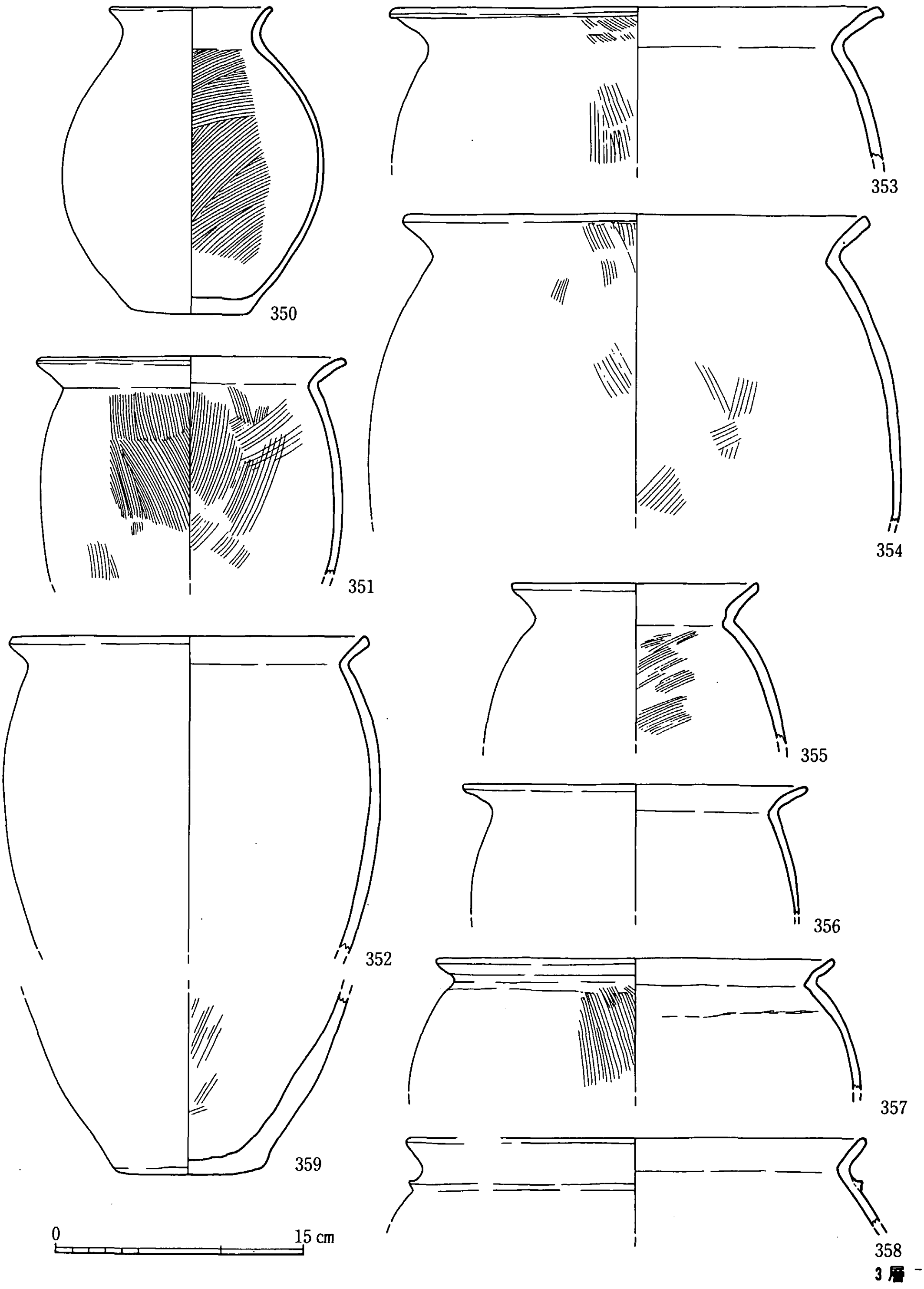
頸部から口縁端部への立ち上がりは直線的である。頸部下位に三角突帯が１条貼付される。復元口径42.0cmを測る。359の底面は凸レンズ状で底径9.0cm。360の鉢は底部から胴部にかけては直線的に平開き、そこからやや内湾しながら口縁端部に至る。端部は丁寧にナデられる。内外面ともにハケ目が施される。口径16.2cm、底径6.2cm、器高10.0cmを測る。361は底部から口縁端部へはより直線的に開く。362はやや小型で口径10.0cm、裾径10.9cm、器高11.5cmを測る。363の口縁は端部で肥厚し丁寧にナデられる。364はくびれ部から口縁端部へはラッパ状に開く。胴部外面にはわずかにハケ目が、内面には工具痕や粗いナデが観察される。365の裾端部はややふんばり気味で角を持つ。口径13.1cm、底径13.3cm、器高19.6cmを測り、器面は磨滅ぎみであるが外面にはハケ目、内面にはナデが観察される。366は口縁からのくびれは急で、胴部から裾部かけては柱状を呈し裾部は急に開く。367～369の手捏ねはいずれも平底である。

370～386は４層中より出土した。370は復元口径18.0cmを測る。371の底部は平底で端部にやや丸みを持つ。内外面ともにハケ目が施される。372の口縁は頸部で「く」字状に屈曲したのち、端部へは緩やかに外反し至る。内面頸部の稜は鋭い。頸部から胴部中位にかけて膨らみを持ち、口縁端部へすぼまって行く。底面はやや凸状である。口径39.0cm、底径9.4cm、器高35.8cmを測る。373～378は甕の口縁部片である。373の口縁は緩やかに外反し端部は角を持つ。胴部に最大径がある。374の口縁は長く、大きくバチ状に開く。復元口径26.4cmを測る。375の頸部の屈曲は弱い。376は大きくバチ状に開く口縁の頸部に鈍い三角突帯が貼付される。口縁端部は肥厚し復元口径38.0cmを測る。377は短く厚い口縁頸部にやや丸みを持った突帯が貼付される。復元口径44.0cmを測る。379はやや長胴で口縁は鋭く「く」字状に開く。外面は磨滅し調整は不明で内面は頸部以下にハケ目が施される。口径15.3cm、底径6.9cm、器高18.9cmを測る。380の内底面付近は大きくナデられている。381の胴部は緩やかに内湾し、短い端部がわずかに開く。内外面とも工具によるナデが施される。382の胴部内外面はナデられ仕上げられているが凹凸が全面に残る。383のくびれは急で口縁へはラッパ状に開く。384は磨滅著しく調整は不明。ただ、端部は丁寧にナデられている。385のミニチュアは胴部に三角突帯が貼付される。386の頭部は大きく肥厚し中央に径２cm未満の穿孔がある。

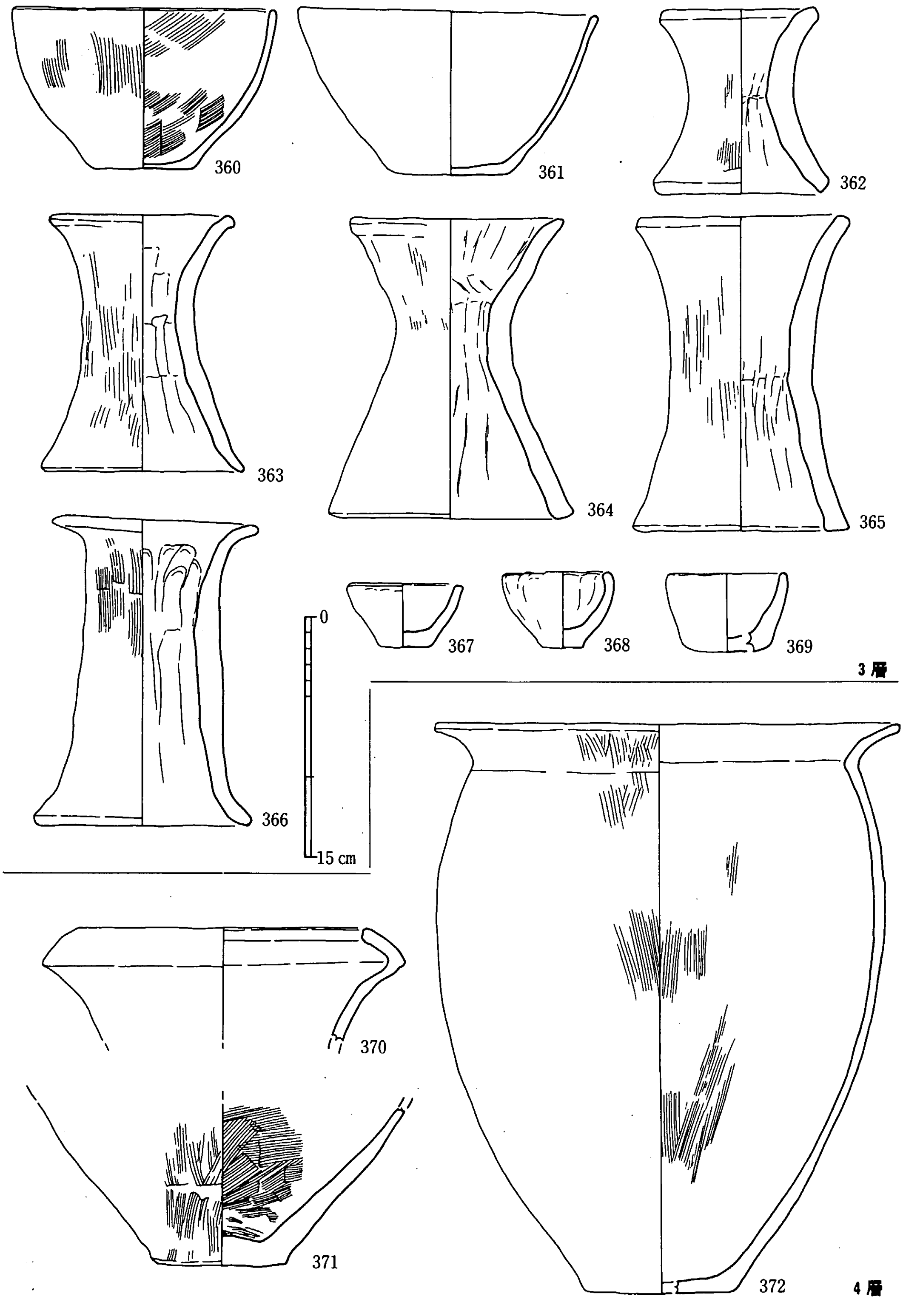
387～403は５層中からの出土である。387の口頸部は比較的長く、口縁の屈曲は緩やかである。頸部に貼付される突帯は偏平に近い。388は直立気味に立ち上がった口頸部から屈折部をへて外反する。屈折部内面は突出している。頸部には鋭い三角突帯が２条貼付される。389は口縁部下位に丁寧なハケ目が施される。復元口径は15.4cmを測る。390の頸部下には不明瞭な突帯が２条貼付される。391は底面から球形に膨らむ胴部をへて、端部へ至る。胴部には鋭い三角突帯が貼付される。口径9.9cm、底径7.4cm、器高15.3cmを測る。392の底径は10.2cmを測る。393の底部はやや凸気味である。394～397はいずれも口縁が「く」字状に外反する。器面磨滅著しい397以外は程度の差はあれ、ハケ目がほどこされる。394の底部は端部に丸みをおびる。398は復



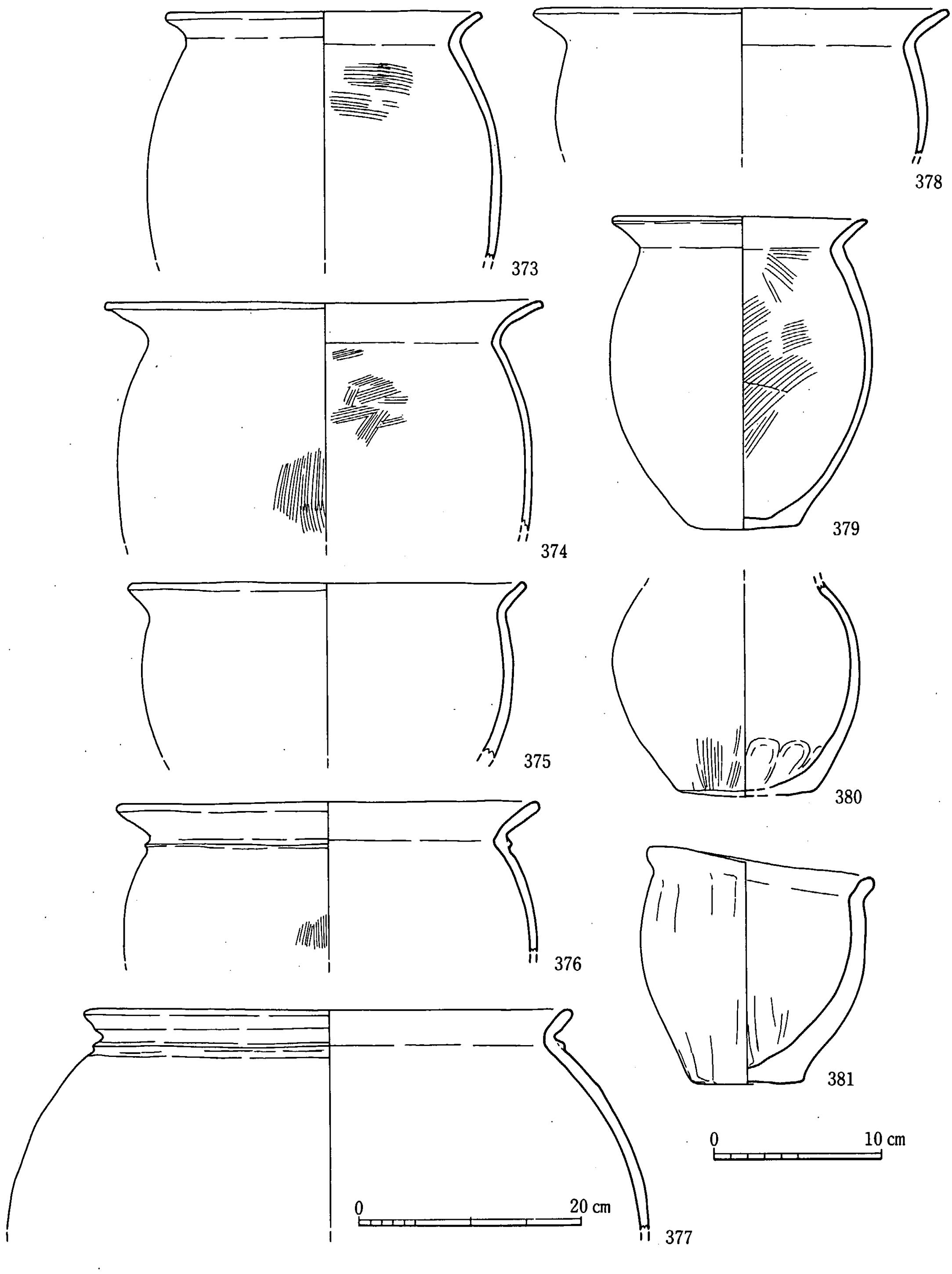
第45図　1022号溝６トレンチ出土土器実測図．１（1/4）



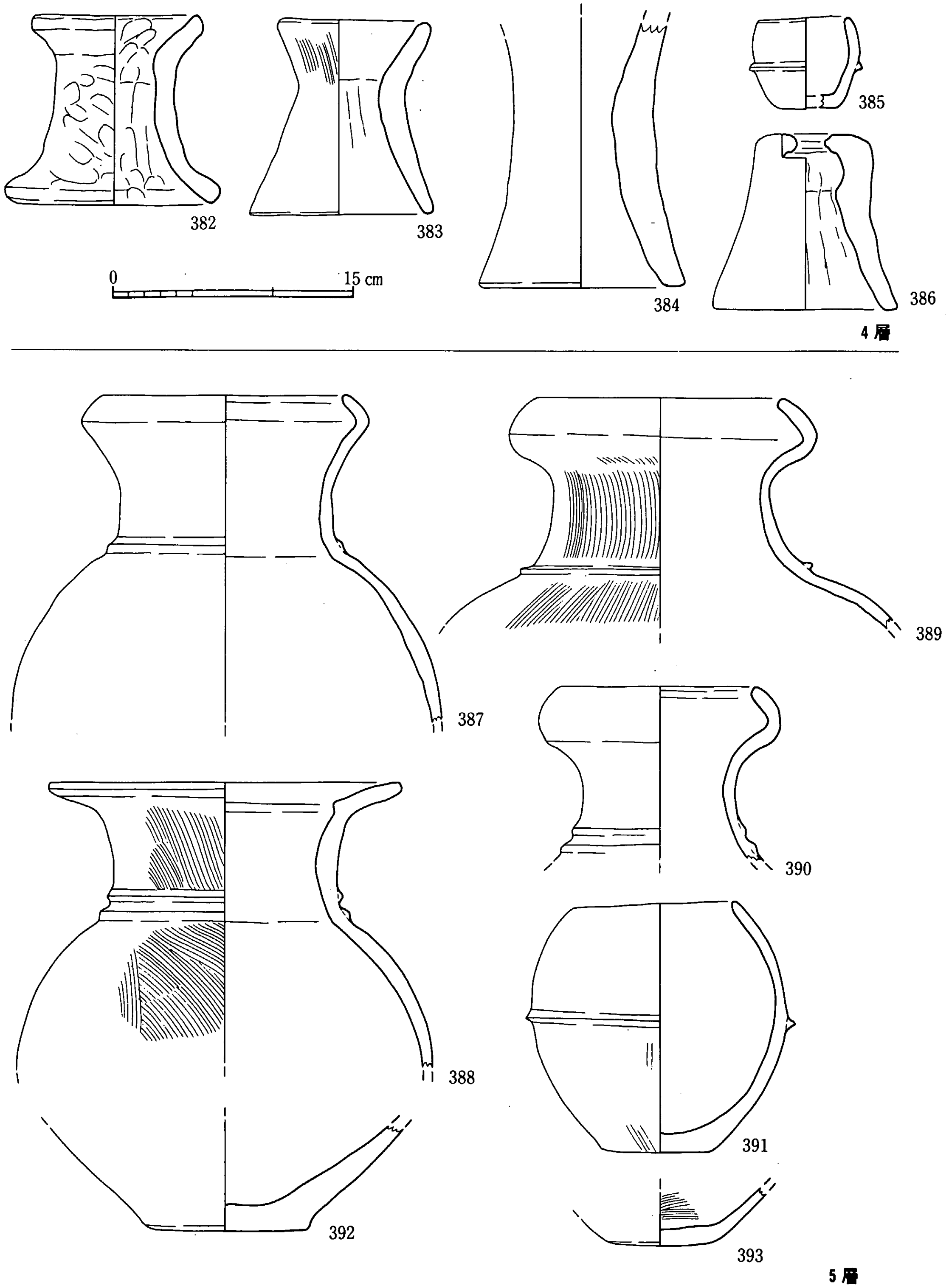
第46図　1022号溝６トレンチ出土土器実測図．２（1/4）



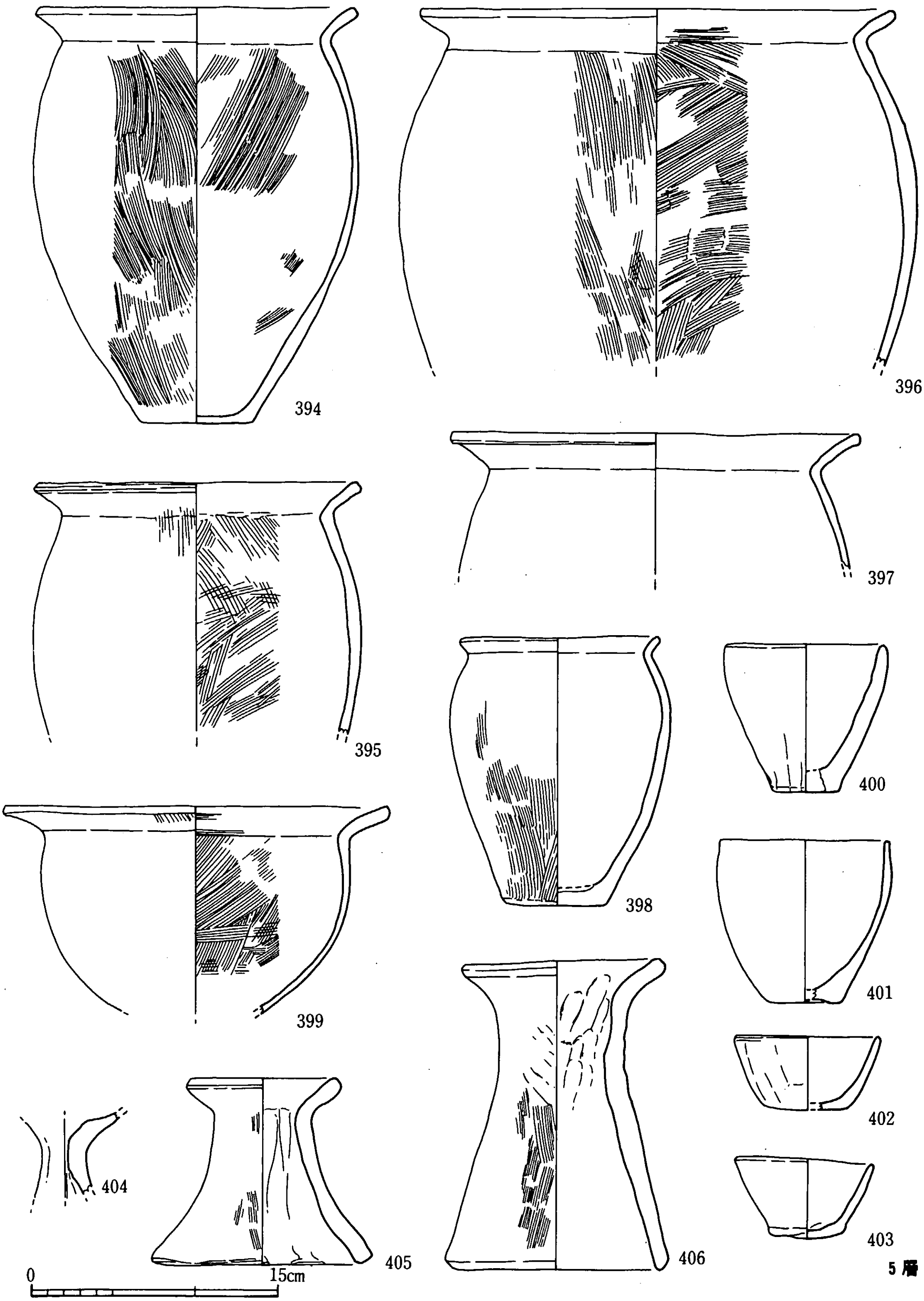
第47図　1022号溝６トレンチ出土土器実測図．３（1/4）



第48図　1022号溝６トレンチ出土土器実測図．４（1/4　376・377は1/6）



第49図　1022号溝６トレンチ出土土器実測図．５（1/4）



第50図 1022号溝６トレンチ出土土器実測図．６ (1/4)

元口径12.2cm、底径6.6cm、器高16.5cmを測る。外面には黒斑がある。399の胴部の器厚は薄く頸部から端部にかけて急に肥厚する。400は小型の鉢で底部から口縁端部へはほぼ直線的に至る。401の胴部は内湾し口縁端部に向かうにつれ直立する。402は平底、403はやや凸状の底部を持つ。404は器面の磨滅著しい。405のくびれは急なため、口縁は大きく外側に開く。406の外面にはシボリ痕が確認され、内面はナデ。裾端部は細く丁寧である。

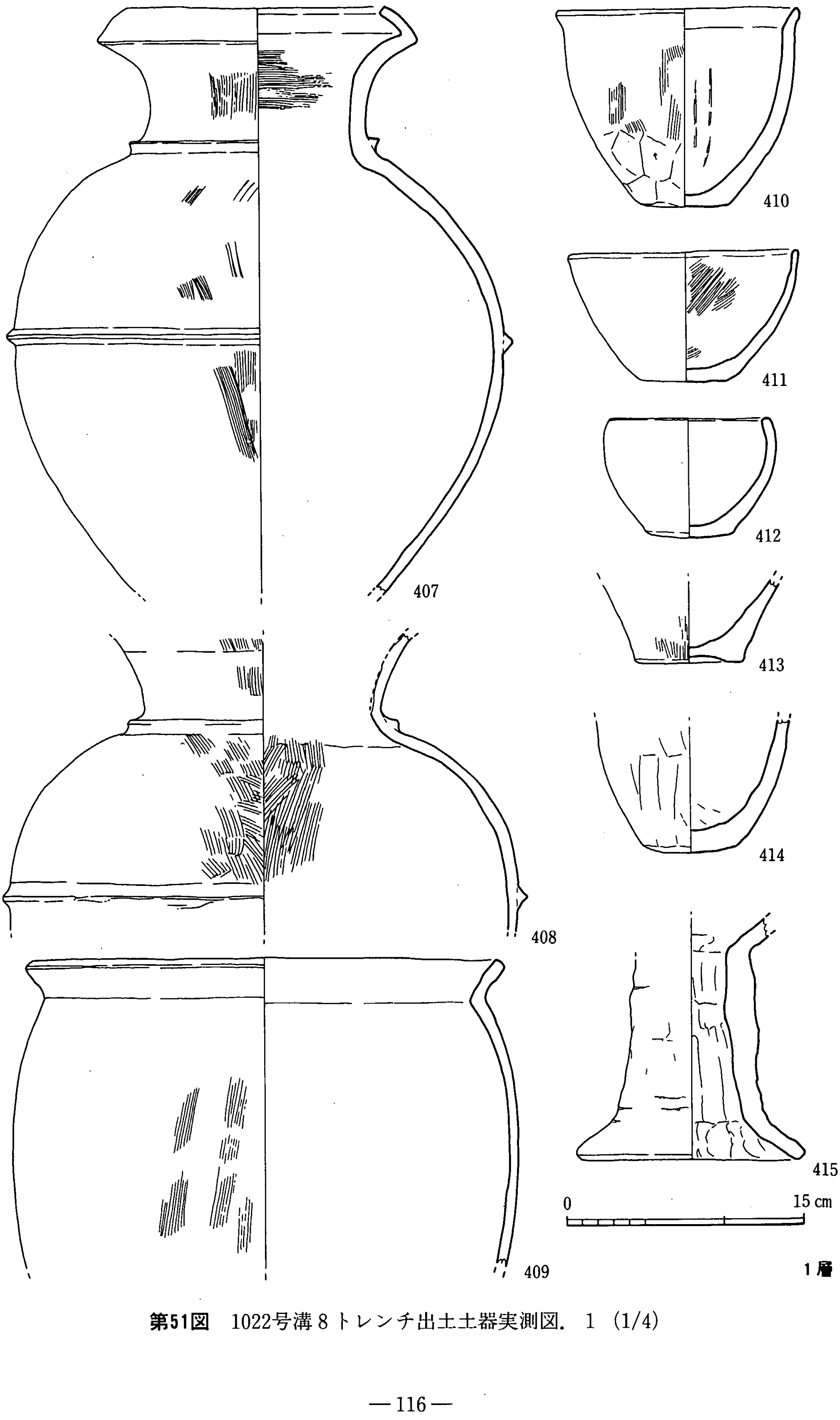
8トレンチ（第51～57図407～481）

407～426は1・2層中からの出土である。407は口縁の屈曲が鋭く、端部は細く角を持つ。頸部下と胴部に三角突帯が貼付される。内面口頸部は横方向のハケ目が施されている。408は胴部が球形に張り頸部と胴部中位に三角突帯が貼付される。胴部は内外面ともハケ目が施されている。409は復元口径30.4cmを測る。410～412は中・小型の鉢でいずれも平底である。410の口縁はわずかに屈曲し端部はすぼまる。外面底部付近の調整は粗くケズリ風である。底部付近には黒斑がある。413の底部は上げ底で底面端部はやや丸味を持つ。414の底面は端部で丸味を持ち、胴部は内外面ともに工具によるナデ。415の外面は磨滅著しいが、所々工具痕が認められる。内面裾部付近には指頭圧痕が残される。416の裾径は15.2cmを測る。417・418の底部は丸味をもつ。419は胴部に2条突帯が貼付されるが、両者の境は明瞭ではない。420は無頸壺で端部は角を持つ。球形の胴部中位には2条の三角突帯が貼付され、底部はやや凸気味である。復元口径10.4cm、底径8.3cmを測る。421・422の口縁はいずれも「く」字状に折れる。421は磨滅著しく調整不明。422の頸部付近のハケ目は横ナデにより切られる。423の器面は凹凸が激しい。424は口縁部がやや内湾し端部がわずかに肥厚して立ち上がる。内外面口縁部は横ナデ、外面頸部は縦方向の粗いナデ、内面は横ナデによって仕上げられている。口径11.3cm、底径6.5cm、器高9.2cmを測る。425の胴部は内外面とも縦方向のナデによって仕上げられ、端部付近は横ナデされている。426の手捏ねの口縁はゆがんでいる。

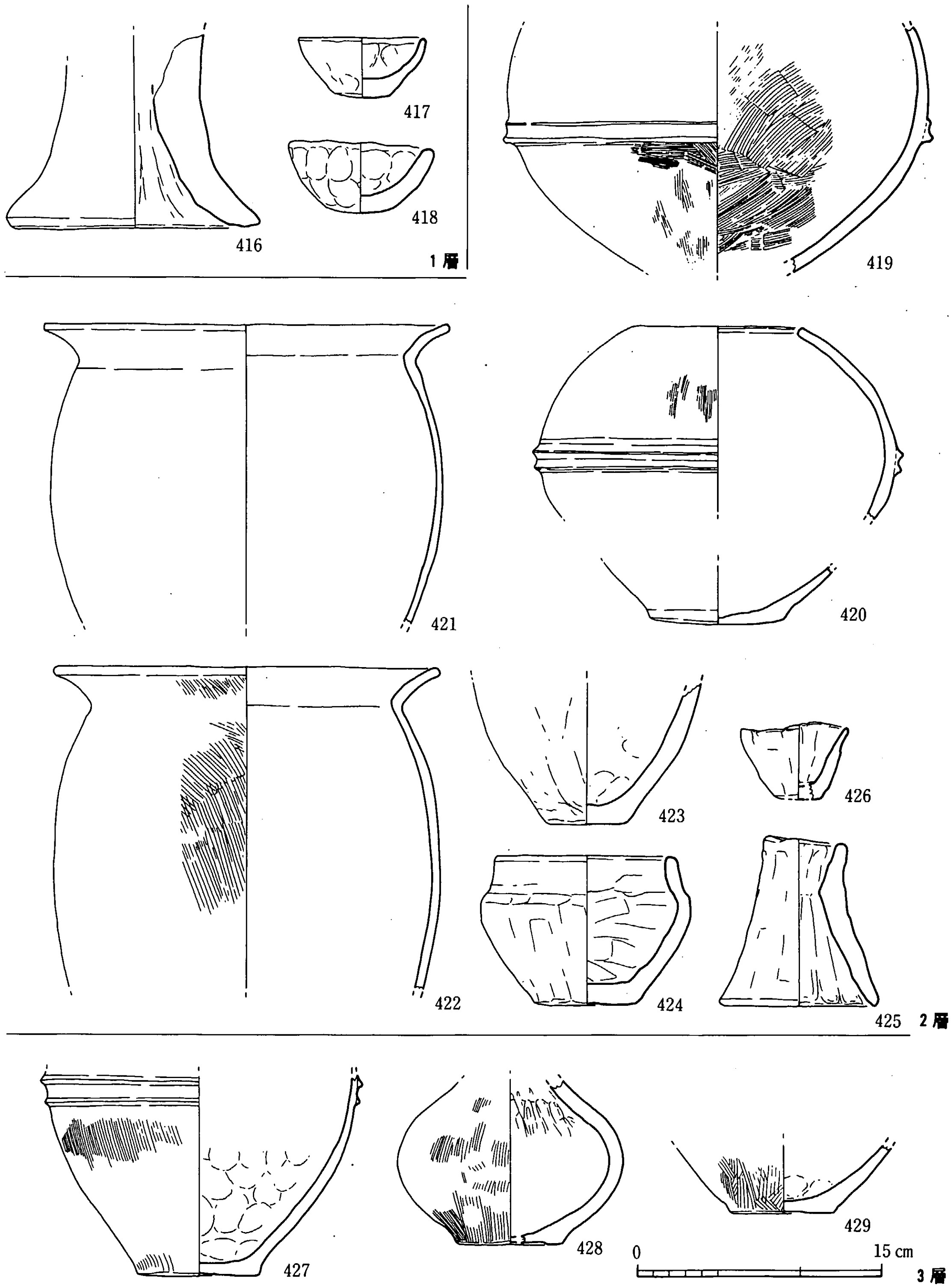
427～442は3層中の出土である。427は胴部に2条の三角突帯が貼付され、底部はややあげ底である。内面底部には指頭圧痕が残り、底径7.6cmを測る。428は胴部下位に最大径があり、底部はやや上げ底。内面頸部付近には、シボリ痕が残る。429もやや上げ底で底径6.4cmを測る。430～433・435の甕はいずれも口縁が「く」字状に外反する。430は頸部から口縁端部にかけて肥厚する。頸部下位は外面は縦、内面は横方向のハケ目が施される。復元口径28.0cmを測る。431は口縁の屈曲は鋭く端部はさらに外反する。432の復元口径は22.0cm。433は口縁は緩やかに大きく外反する。434は底部付近に加熱のため赤変化が認められる。435は頸部以下が肥厚する。436は外面頸部下位には強いナデにより稜が入る。437の口縁は直立気味でわずかに外反する。全体に器面は磨滅している。438の口縁部は「く」字状に屈曲するが、全体に器厚が厚いため鋭く外反しない。端部は角を持つ。外面頸部下位にはナデにより稜がつく。439・440は球形の胴部に短い口縁が鋭く屈曲する。439の胴部は外面はハケ目のちにミガキが、内面は指頭圧痕が残

る。440は外面ミガキ、内面は口縁部から頸部がミガキで以下はナデ。441のミニチュアは磨滅し調整は不明。442も器面は磨滅気味だが指頭圧痕が残る。

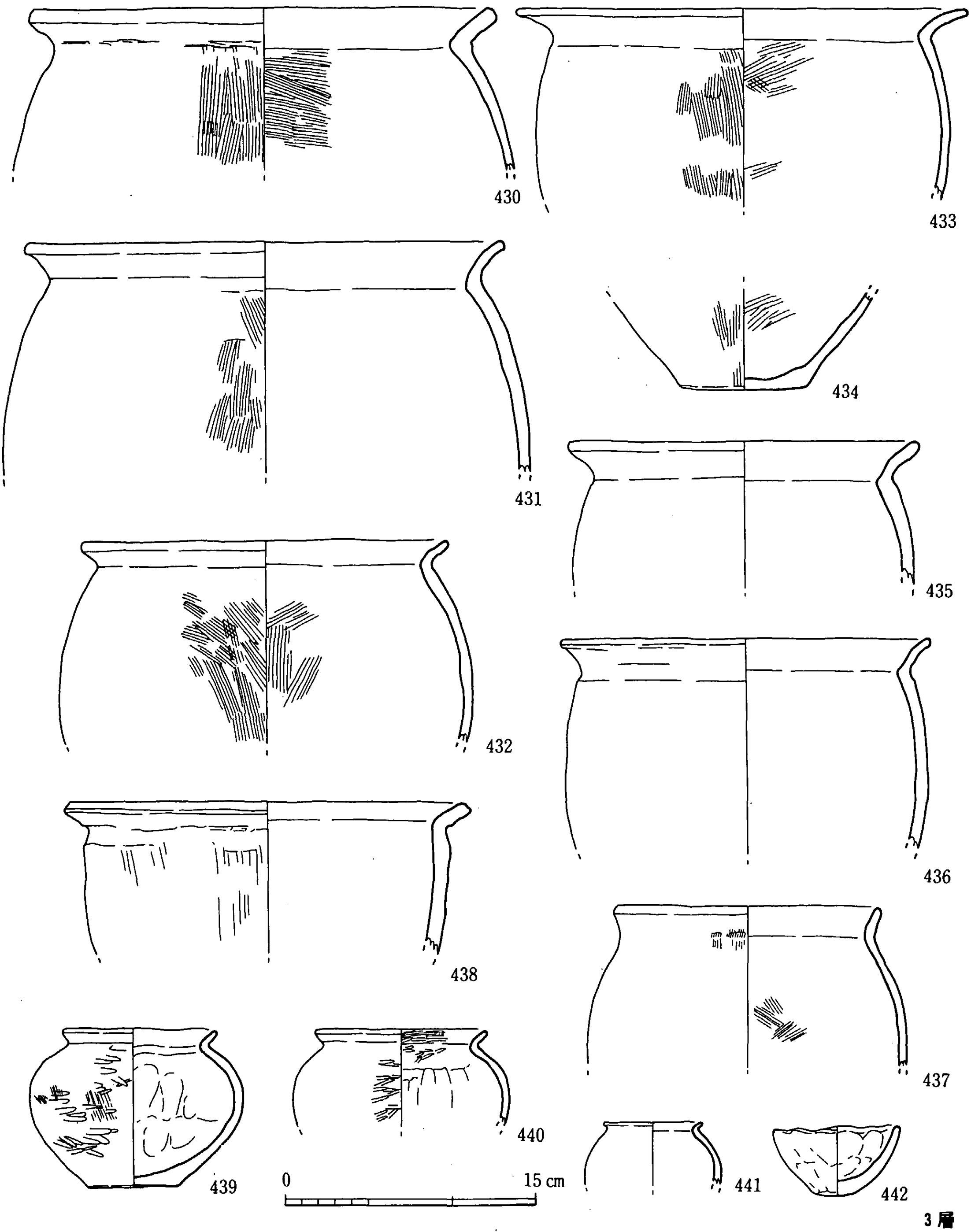
443～479は4層中より出土した。443の口縁は頸部より外反しながら大きく開く。頸部には三角突帯が1条貼付されその下位には黒斑が残される。底部は平底である。口径20.3cm、底径8.8cmを測る。444の口縁の屈曲は弱く端部は丸味を持つ。底部は完全な平底で、端部付近には黒斑が残る。445～447は複合口縁で、445の口縁部は肥厚し端部にかけて細くなる。内面には指頭圧痕が残される。復元口径21.0cmを測る。446は屈折部内面には鋭く稜を持つ。447は口頸部は長く器厚もそう厚くなくスマートである。頸部にはわずかに三角突帯が貼付される。448は口縁の屈曲は弱く袋状である。復元口径は10.6cmを測る。449は底部から胴部への立ち上がりは均等な膨らみを持たずやや歪む。底面端部は無造作にナデられて丸味を持つ。底径は11.3cmを測る。450は底径8.0cmを測る。451は上げ底でハケ目は底面端部まで及ぶ。452～462の甕は口縁が「く」字状に屈曲する452・453・455・460・462・465と、やや立ち気味に外反する456・457と、大きく逆「L」字に外反するもの458・459・461の3つに大きく分かれる。452は胴部が球形に張り底部は平底で胴部付近に黒斑がある。453は口径37.8cm。454は角度がなく外反する口縁はやや肥厚し端部で丸みを持つ。底部は完全な平底で端部までハケ目が施される。口径24.1cm、底径9.9cm、器高31.5cmを測る。455は内面頸部は丸味を持ちつつも鋭い。復元口径10.0cm。458は口縁は直角に近く折れ、端部は肥厚している。屈折部には工具痕が残る。459は復元口径27.4cmを測る。460の頸部は内面では屈曲する稜を持つがかなり肥厚している。461は鋤先口縁で器面は丹塗され、口縁上面には暗文が施されている。復元口径は35.2cmを測る。462は全体に器厚は厚く、端部はさらに肥厚している。口縁部は内外面ともに横ナデされ、内面の一部には横方向のハケ目を残す。内外面胴部はハケ目が施され、外面頸部には工具痕が残る。463の底面端部はシャープだが、464はやや丸味を持つ。465は肥厚する胴部に短く細い口縁が取り付きわずかに外反する。外面胴部は工具によるナデのためか調整は粗い。復元口径19.6cmを測り、茶褐色に焼成される。466・467は胴部が直立し、わずかに口縁が外反する。468は球形の胴部に短い口縁が「く」字状に折れて取りつく。磨滅により調整は不明。469の胴部内面には横位のハケ目が施され、内底面には指頭圧痕が残る。470は胴部上位に張りを持ち、口縁は長く「く」字状に外反する。底部は大きな平底である。胴部下位にハケ目が観察される。復元口径22cm、底径9.0cm、器高12.9cmを測る。471は胴部の張りが中位にあり口縁の屈曲も470に比べ鋭くない。底面端部に丸みを持ち、胴部から底部にかけて黒斑が観察される。472の内面には丁寧なハケ目が施されている。473～478は中小型の鉢である。473は平底で球形の厚い胴部に短く小さな口縁が外反して取りつく。口径11.1cm、底径7.5cm、器高11.1cmを測る。474は底径6.4cmを測る。475～478はいずれも平底で口縁端部へは直線的に開いて至る。475は底径と口径の差はそう大きくない。479の器台は大きく開く口縁から3cm位下位の所で一旦くびれ裾端部へは直線的に開いて至る。受



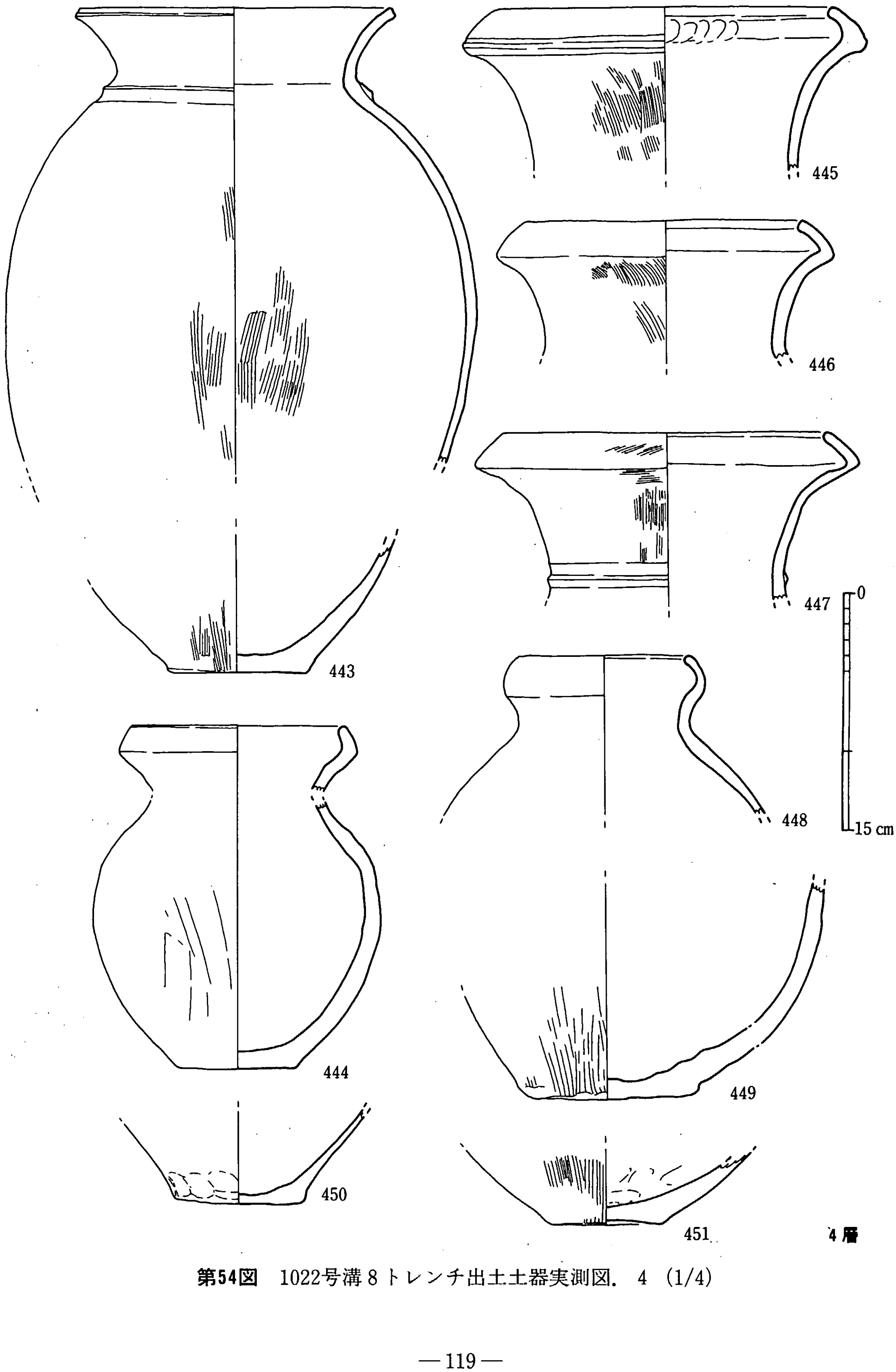
第51図　1022号溝８トレンチ出土土器実測図．１（1/4）



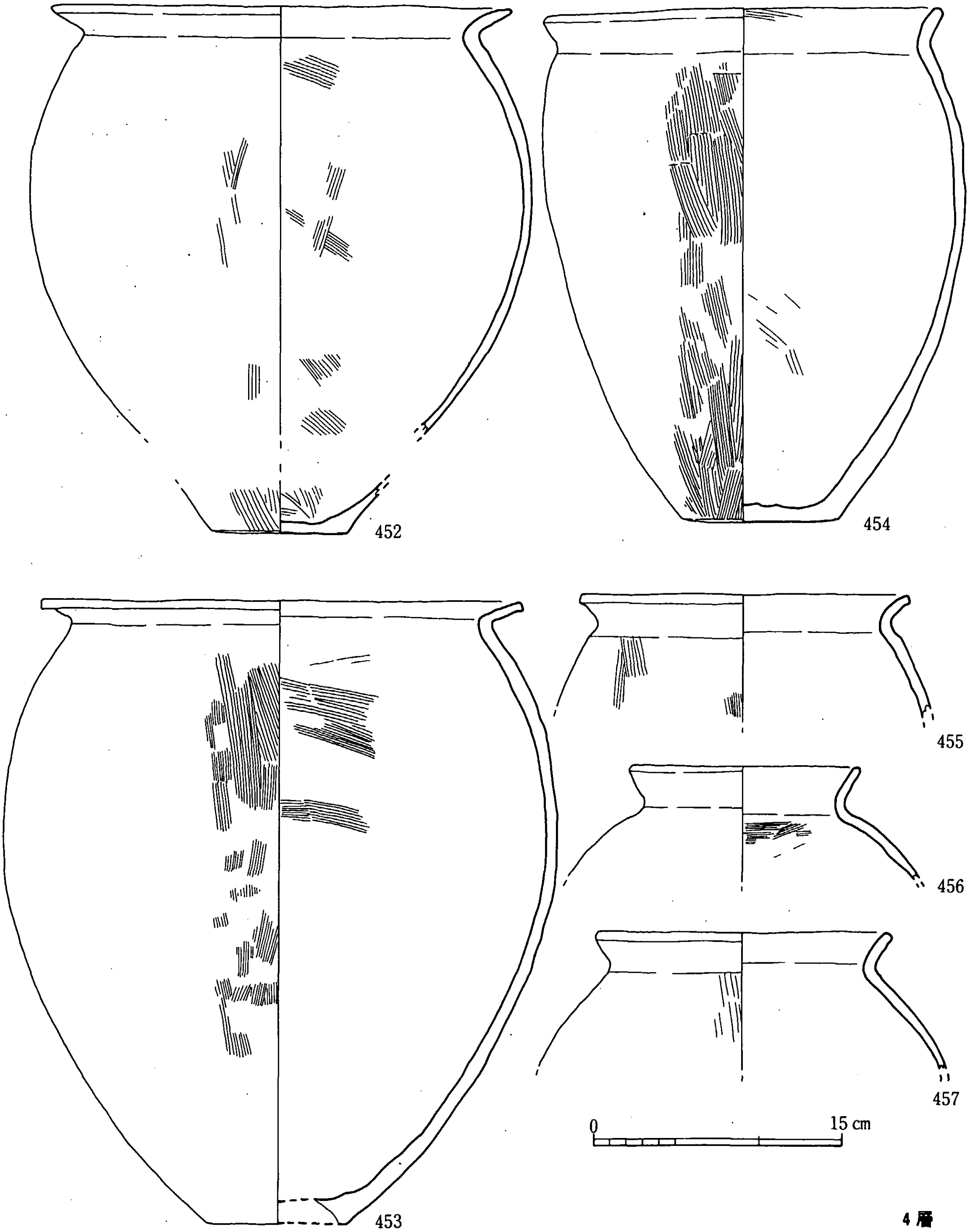
第52図　1022号溝８トレンチ出土土器実測図．２（1/4）



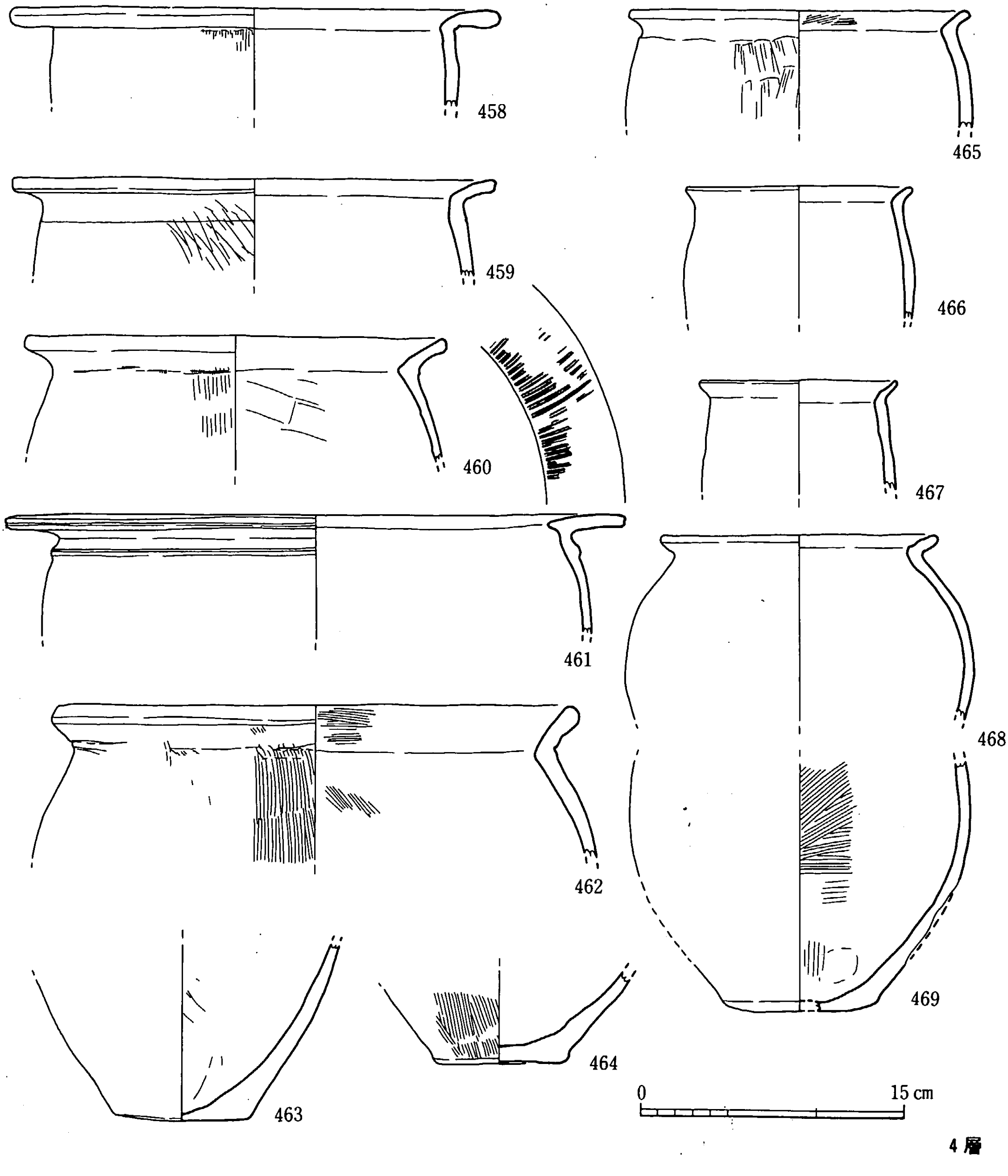
第53図　1022号溝８トレンチ出土土器実測図．３（1/4）



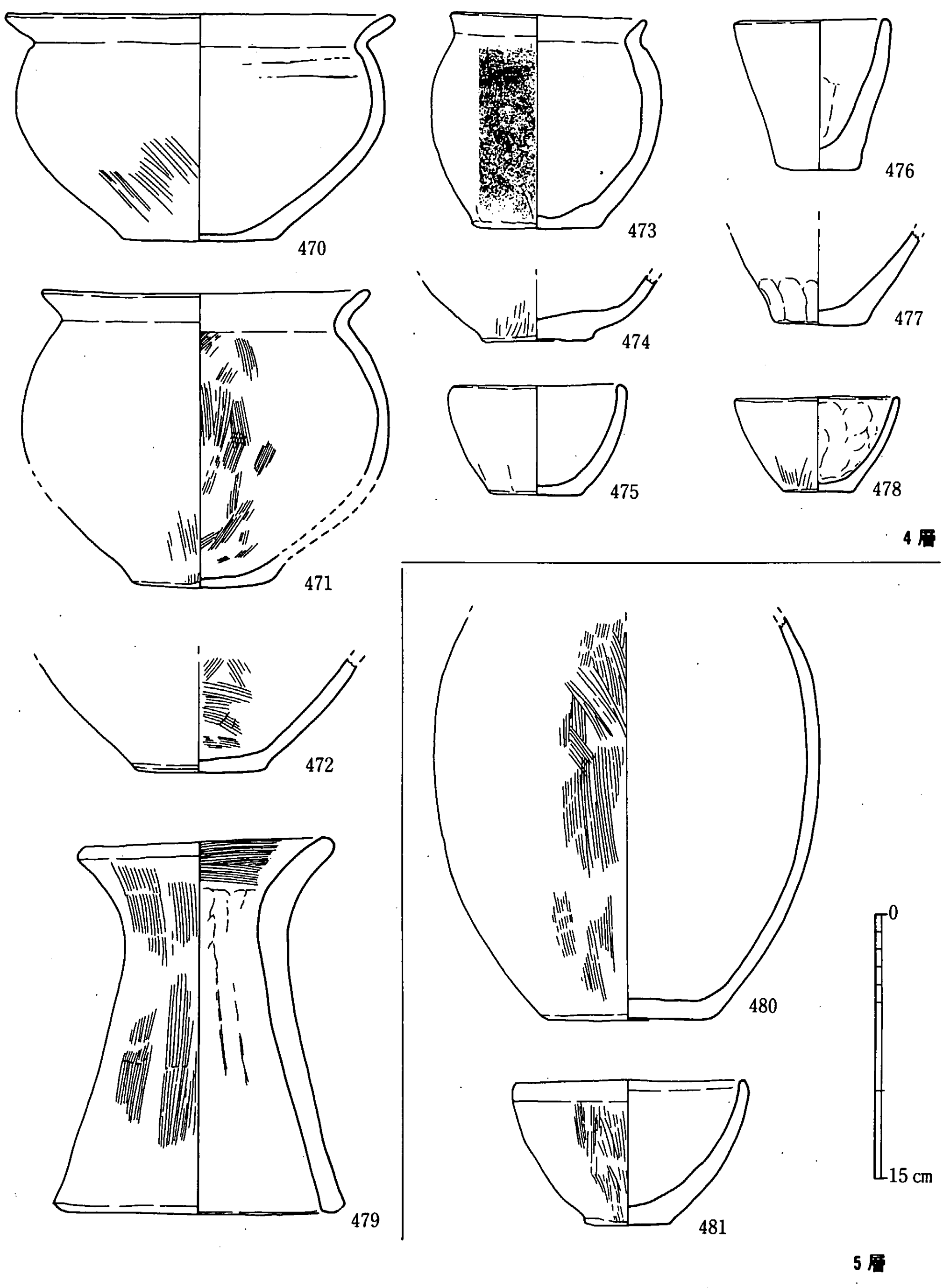
第54図　1022号溝８トレンチ出土土器実測図．４（1/4）



第55図　1022号溝８トレンチ出土土器実測図．５（1/4）



第56図　1022号溝８トレンチ出土土器実測図．６（1/4）



第57図　1022号溝８トレンチ出土土器実測図．７（1/4）

部内面の横方向のハケ目は丁寧に施される。口径14.5cm、底径16.4、器高21.4cmを測る。

480・481は5層中より出土した。480の底面はやや上げ底で胴部には黒斑が残る。481の底部は胴部下位から底部にかけてのナデによりやや台状に作出されている。

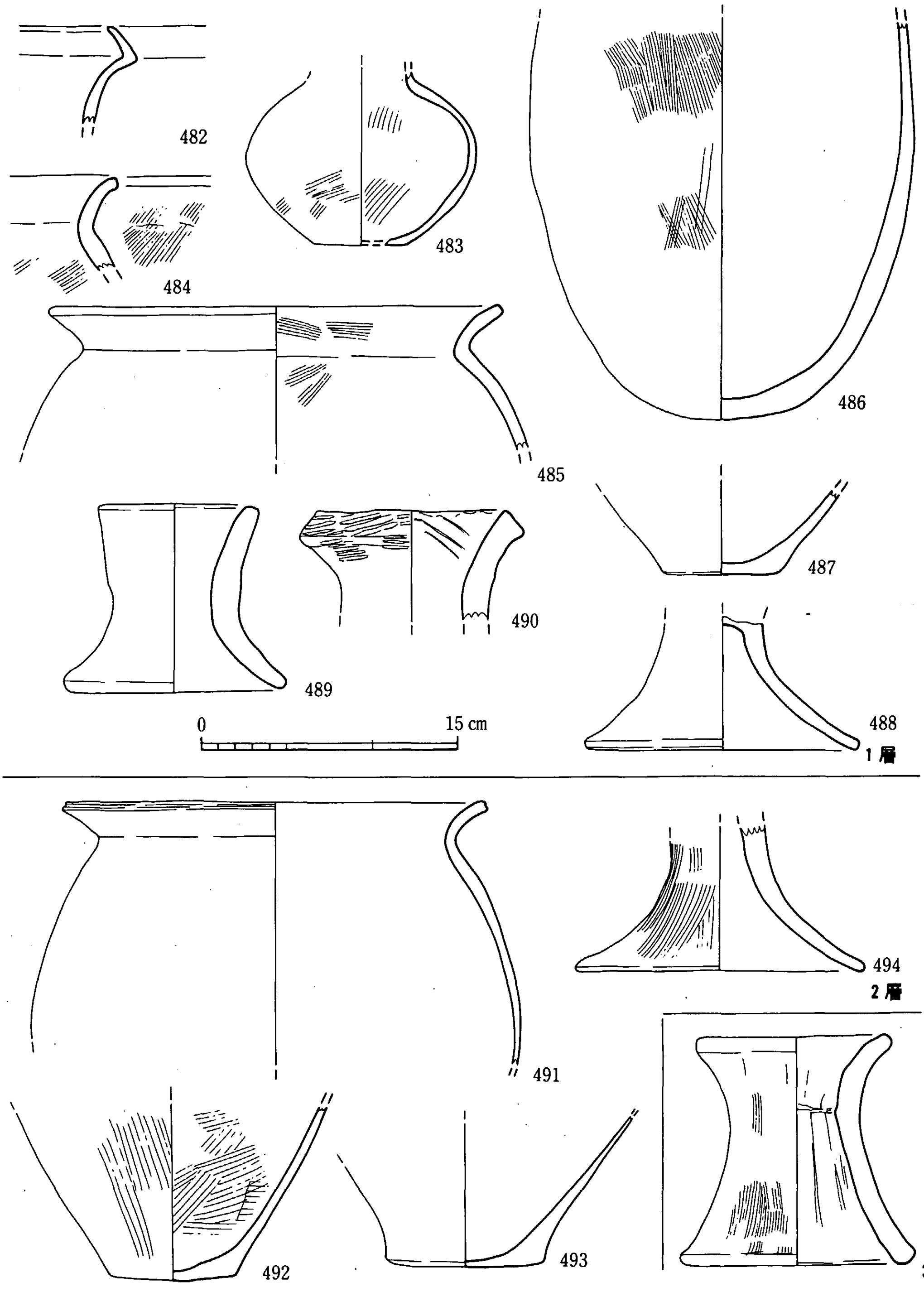
9トレンチ（第58・59図482～507）

482～495は1～3層中より出土している。482の口縁屈折部は鋭く内外面の稜は明瞭である。483は胴部中位に膨らみを持ち底面は平底で端部の稜もシャープである。484の内外面には丁寧なハケ目が施されている。485の口縁は「く」字状に屈曲し、端部は角を持つ。内面口縁部と頸部下にハケ目が施され、復元口径26.4cmを測る。485は内外面磨滅著しく調整は不明。486の胴部は長く、底部は丸底である。器面は磨滅気味で全体の調整は判らないが、胴部外面にはハケ目がわずかに観察される。487は底径6.8cm。488は器面の磨滅著しく調整不明。489は口縁からくびれ部へは長く直線的で裾部の広がりは急である。490の口縁は大きく外反し端部が外を向く。外面にはタタキ、内面には工具痕が残る。491は、内外面ともに磨滅著しい。492の底面はやや凸気味で、内外面ともにハケ目が施される。493の底面端部はやや丸みを持つ。494の裾部復元径は14.8cmを測る。495は口縁部と裾部が丁寧なナデ、胴部外面はハケ目、内面はナデにより仕上げられる。口径11.3cm、裾径13.7cm、器高13.4cmを測る。

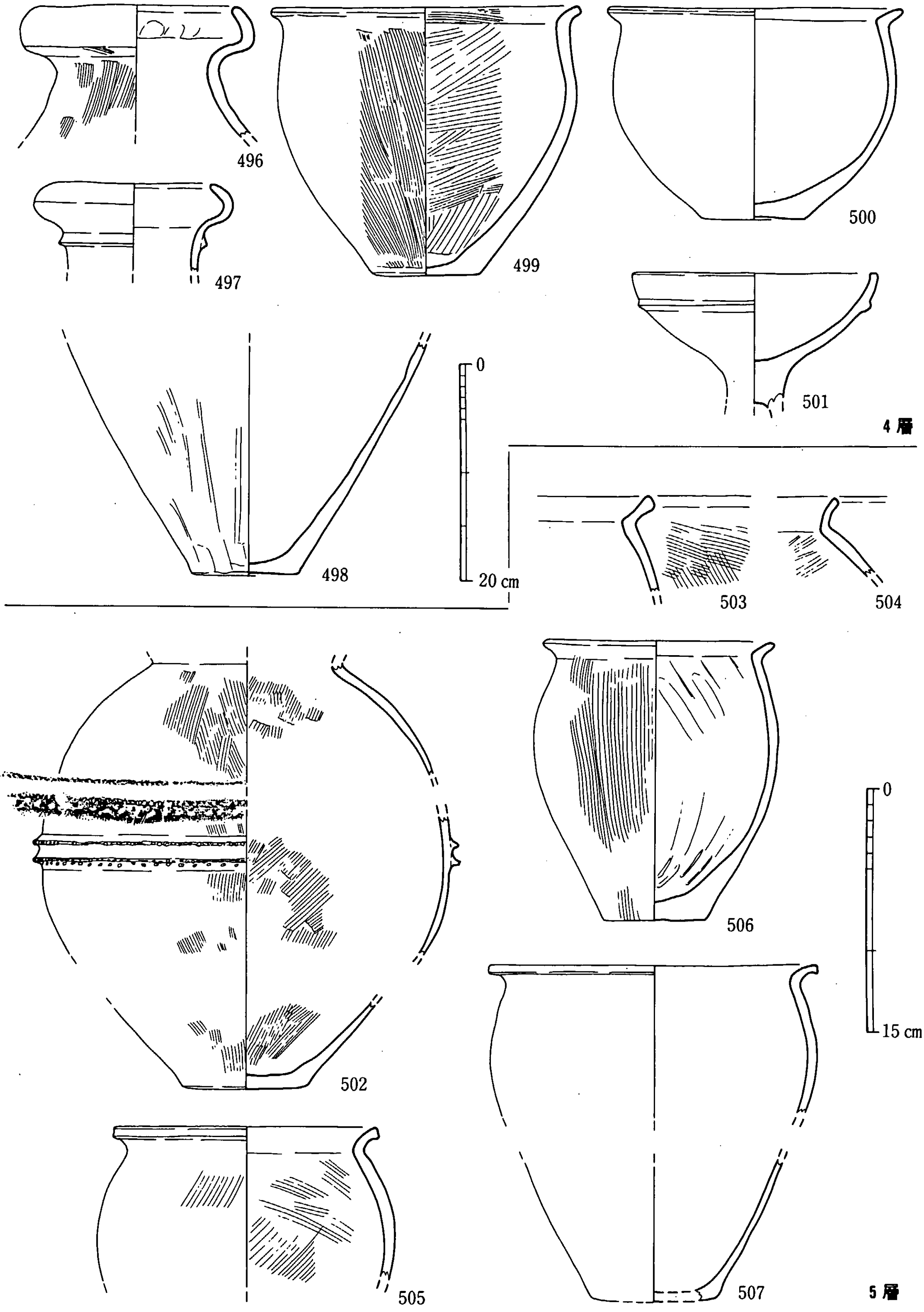
496～507は4層・5層中からの出土である。496は袋状口縁壺で口縁の屈曲は弱く、頸部以下は大きく開く。外面頸部下位にハケ目が施され、内面端部付近には指頭圧痕が残る。口径11.9cmを測る。497は口頸部下に三角突帯が1条貼付される。498は底部から胴部にかけて工具によりナデられる。499と500の口縁は「く」字状に外反する。499は500に比べ口縁の屈曲は緩やかで、胴部の張りも小さく器高も高い。頸部以下は内外面ともにハケ目が施されている。復元口径19.0cm、底径6.6cm、器高16.5cmを測る。500は球形の胴部に「く」字状に折れる短い口縁が取りつき、底部は上げ底となる。胴部から底部付近に黒斑がある。501の高杯は杯部中位に三角突帯が1条貼付され、復元口径15.0cmを測る。502は大きな球形の胴部に刻み目の入る三角突帯が2条貼付される。内外面ともにハケ目が施される。底径11.4cmを測る。505は端部がやや肥厚し、胴部は球形である。復元口径16.4cmを測る。506は口縁が短くやや厚い。胴部中位に最大径があり、底部は平底である。胴部外面はハケ目、内面はナデによって仕上げられ、頸部下と底面には工具痕が残る。口径14.4cm、底径6.3cm、器高17.2cmを測る。507の口縁は外反し端部が大きく反る。また、端部はわずかに肥厚している。器面調整は不明。

10トレンチ（第60図508～522）

508～516は1～3層中の出土である。508・509の器厚は薄く、510の口縁は「く」字状に屈曲するが端部が肥厚し鋭くない。511の器厚は薄くほぼ均等で復元口径は18.0cm。512は完全な平底で底面端部は鋭い。513の胴部は球形で現存する限り突帯が8条貼付される。514は手捏ね土器で底部は平底である。胴部には煤が付着する。515の口縁の屈曲は丸いが急である。516の底



第58図　1022号溝９トレンチ出土土器実測図．１（1/4）



第59図　1022号溝 9 トレンチ出土土器実測図．2（1/4　498・502は1/6）

径は7.7cmで底面端部は丸味をもつ。

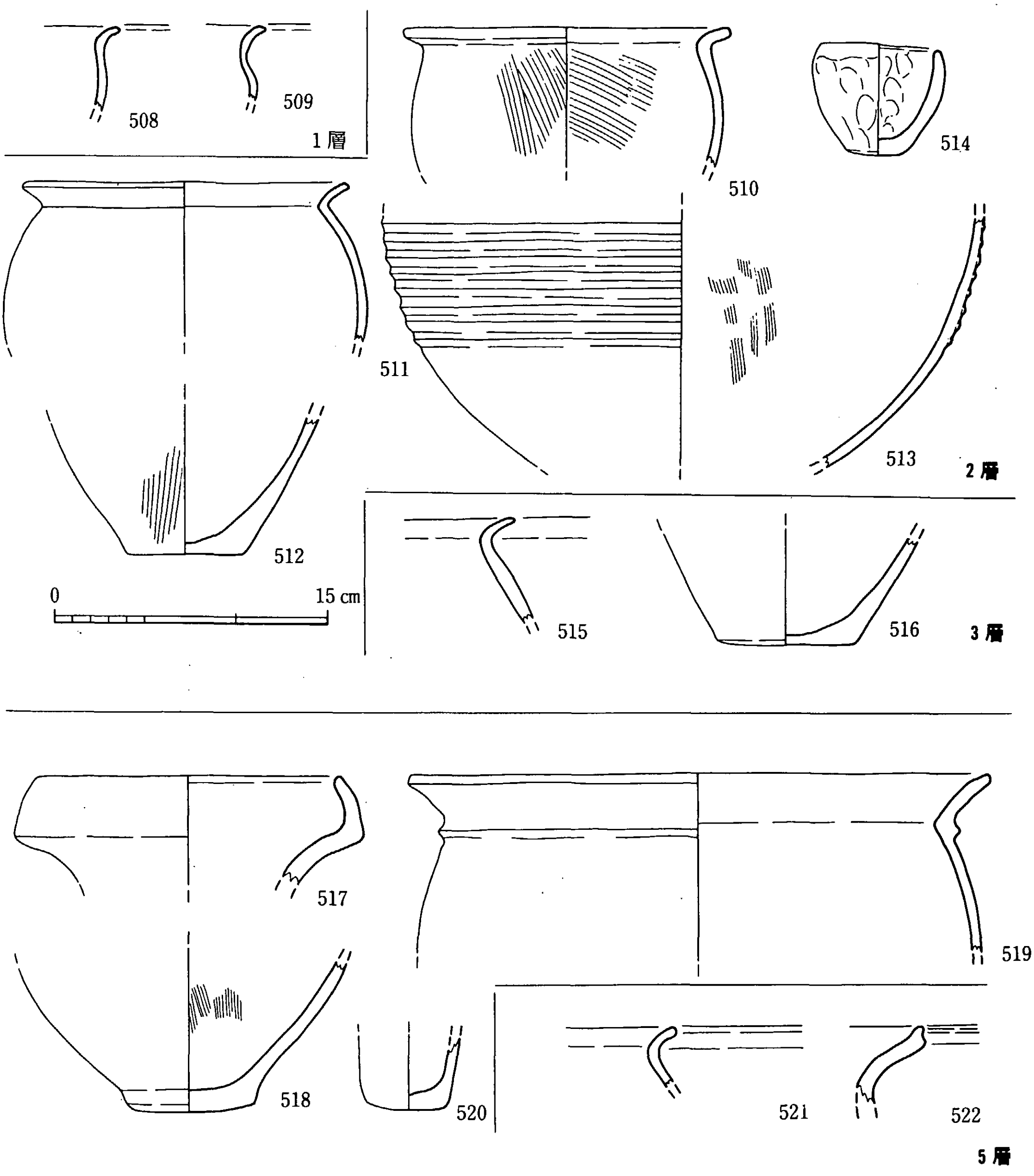
517～522は4・5層中の出土である。517の口縁の屈曲は弱く屈折部もハッキリしない。518の底面は凸状で丸みを持つ。胴部から底部にかけて黒斑あり。底径7.1cmを測る。519は「く」字状に外反し、頸部には三角突帯が貼付される。復元口径32.0cm。520の底部付近には煤が付着する。521・522は口縁部片だが、522の口縁端部は沈線状にナデられている。

01トレンチ（第61図523～527）

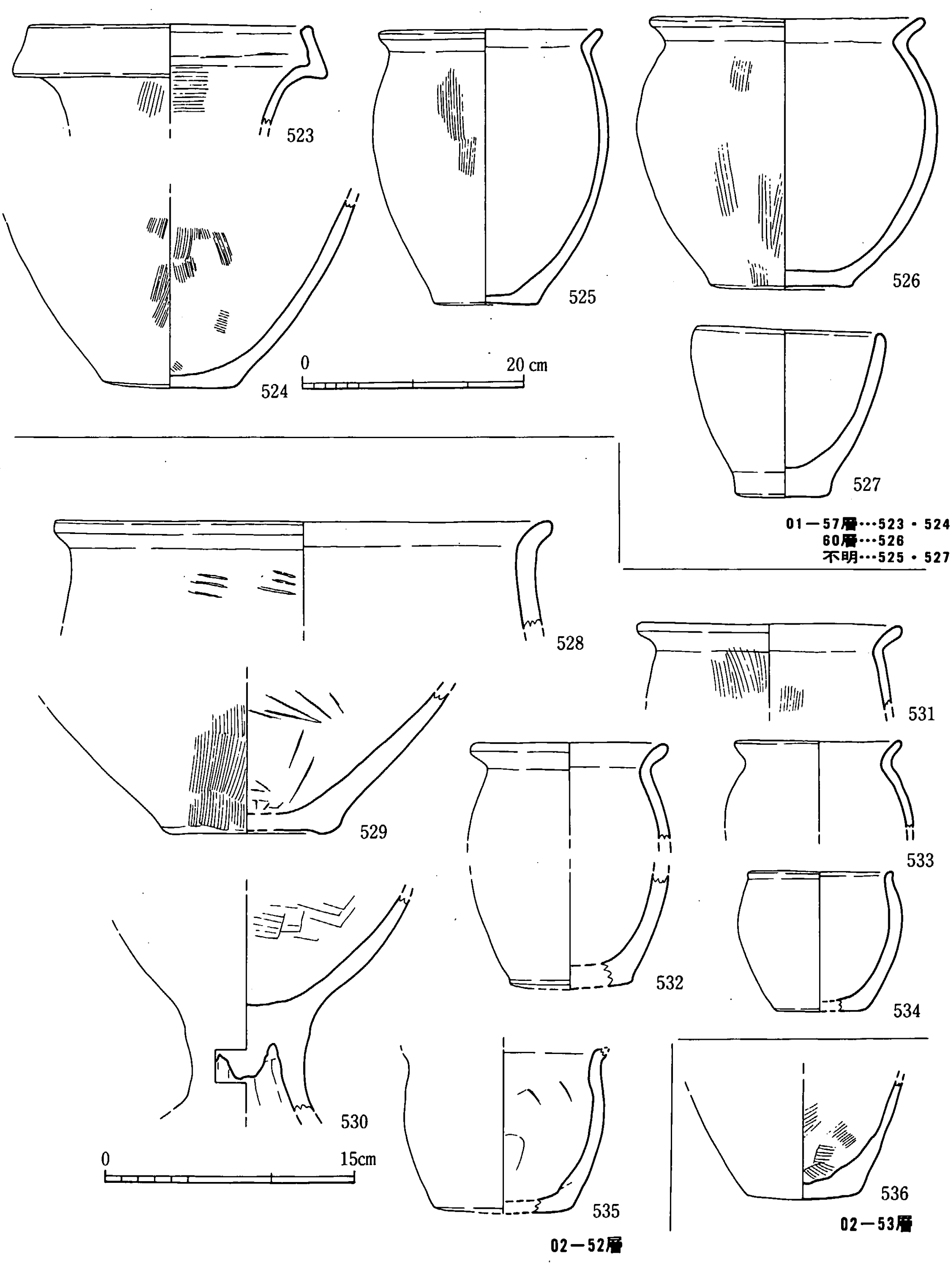
523・524は57層中から、526は60層中からそれぞれ出土し、525・527については層位は不明である。523の口縁端部は天を向き、屈折部の突出も下を向いている。524は全体に磨滅しているが、胴部内外面にはハケ目が施される。525の口縁は緩やかに外反し、胴部中程に最大径を持つ。底部はわずかに上げ底である。526は球形の胴部に口縁が「く」字状に開き、頸部付近の器厚はわずかに厚い。527は口縁端部へは直立気味で器形は132などに近い。

02トレンチ（第61～64図528～571）　528～536は52・53層中の出土である。528の器厚は全体に厚く口縁は短く外反も弱い。復元口径30.0cmを測る。529は底面端部に丸味を持つ上げ底である。胴部外面にハケ目が施され、内面には工具痕が観察される。底面には指頭圧痕も観察される。底径10.0cmを測る。530の脚台部片は内面には工具による横ナデが観察される。531の頸部は「く」字状に屈曲するが頸部から胴部にかけての張りは弱い。復元口径16.0cmを測る。532は胴部中位に最大径を持ち、ややずん胴である。533は復元口径9.8cm。534の鉢は胴部上位でわずかに屈曲し口縁端部へ至る。底部は平底である。535は胴部付近で内湾したのち、端部に至り再び外反する。536は53層出土で外面は磨滅しているが、内面にはハケ目が施される。復元径は6.8cmを測る。

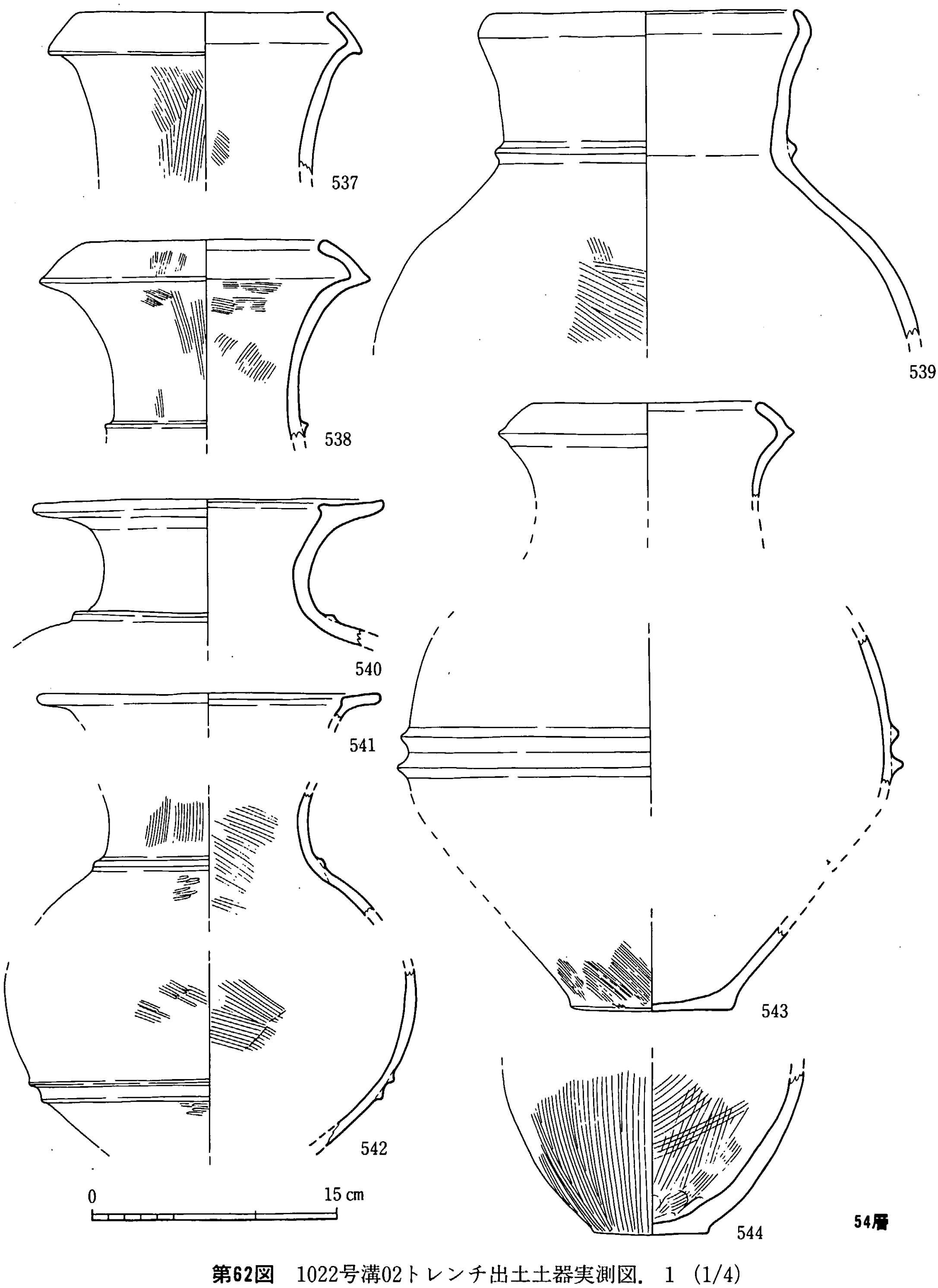
537～554は54層出土である。537・538はどちらも複合口縁で口頸部が長い。537は屈折部の突出があり、口縁は開き気味で端部はやや上を向いている。538も同じく突出するが、わずかで口縁は丸みを持って端部は内湾する。復元口径14.9cmを測る。539の口縁は直立に立ち上がるが、端部で急に内湾する。頸部に突帯が1条貼付される。復元口径は18.8cmを測る。540は口縁が大きく外反し、平坦な上面を持つ。頸部下位に三角突帯が1条貼付される。復元口径21.6cm。542は球形の胴部に2条突帯が貼付され、胴部外面にはミガキ、内面にはハケ目が施されている。543は完全に接合しないが、器面の磨滅や色調などから同一個体と考えられる。口縁屈折部の突出は明瞭でなく内面の稜もハッキリしない。544は平底で外面は底面端部までハケ目による調整が行われる。545・546は頸部が「く」字状に屈曲し、どちらも端部がやや肥厚している。545の復元口径は21.4cmを測る。547の口縁の屈曲は弱く端部は少し先細りとなる。548は上げ底であり、内外面磨滅により調整は不明。549の口縁は大きく垂れ気味に外反する。550は鉢片で口縁の屈曲は弱く、胴部は底部に向かうにつれ細くなっていく。551の外面には黒斑がある。551も550と同様の器形だが口縁に比して胴部は厚い。552は口縁端部は真直ぐに立ち底面は平底である。553



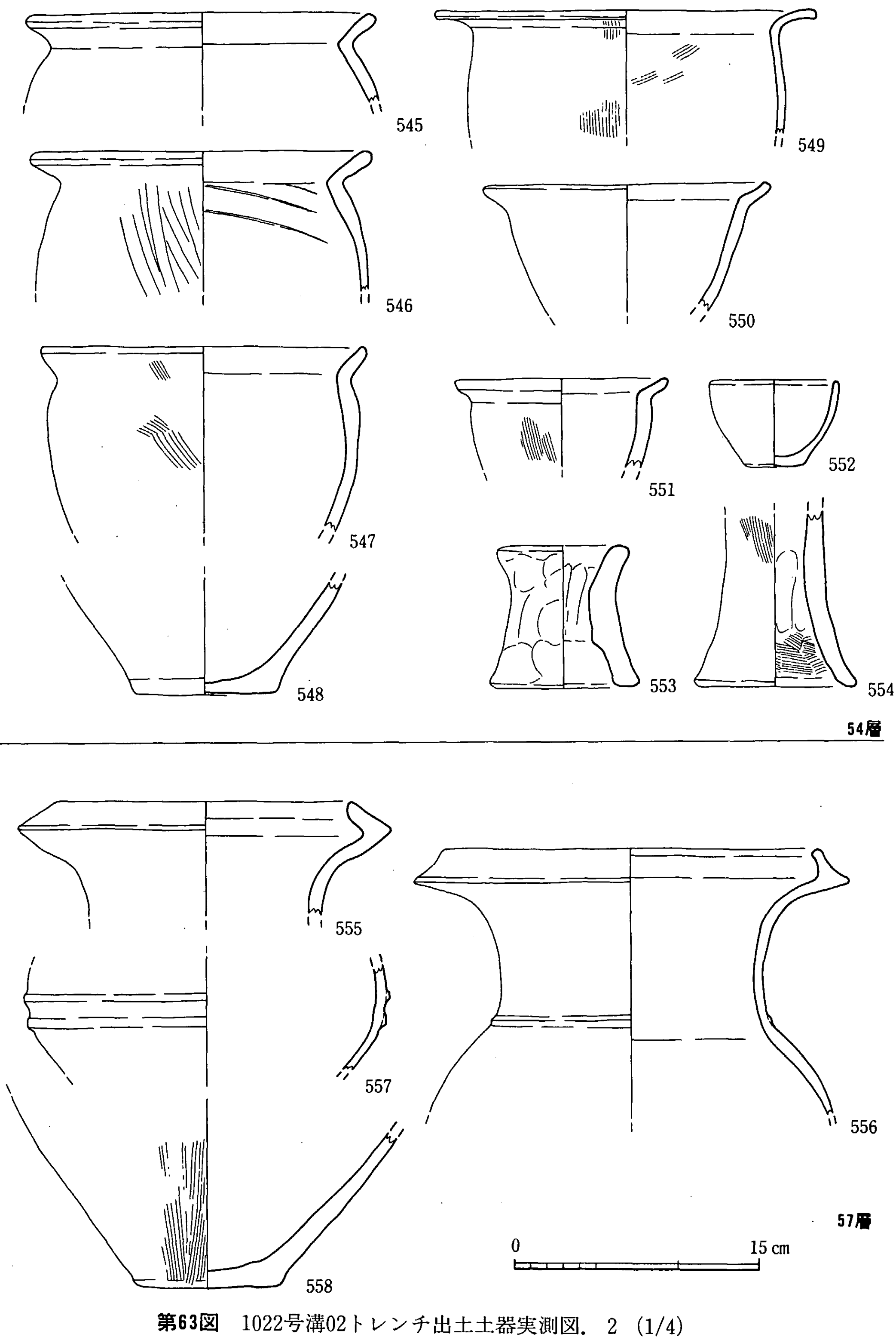
第60図　1022号溝10トレンチ出土土器実測図（1/4）



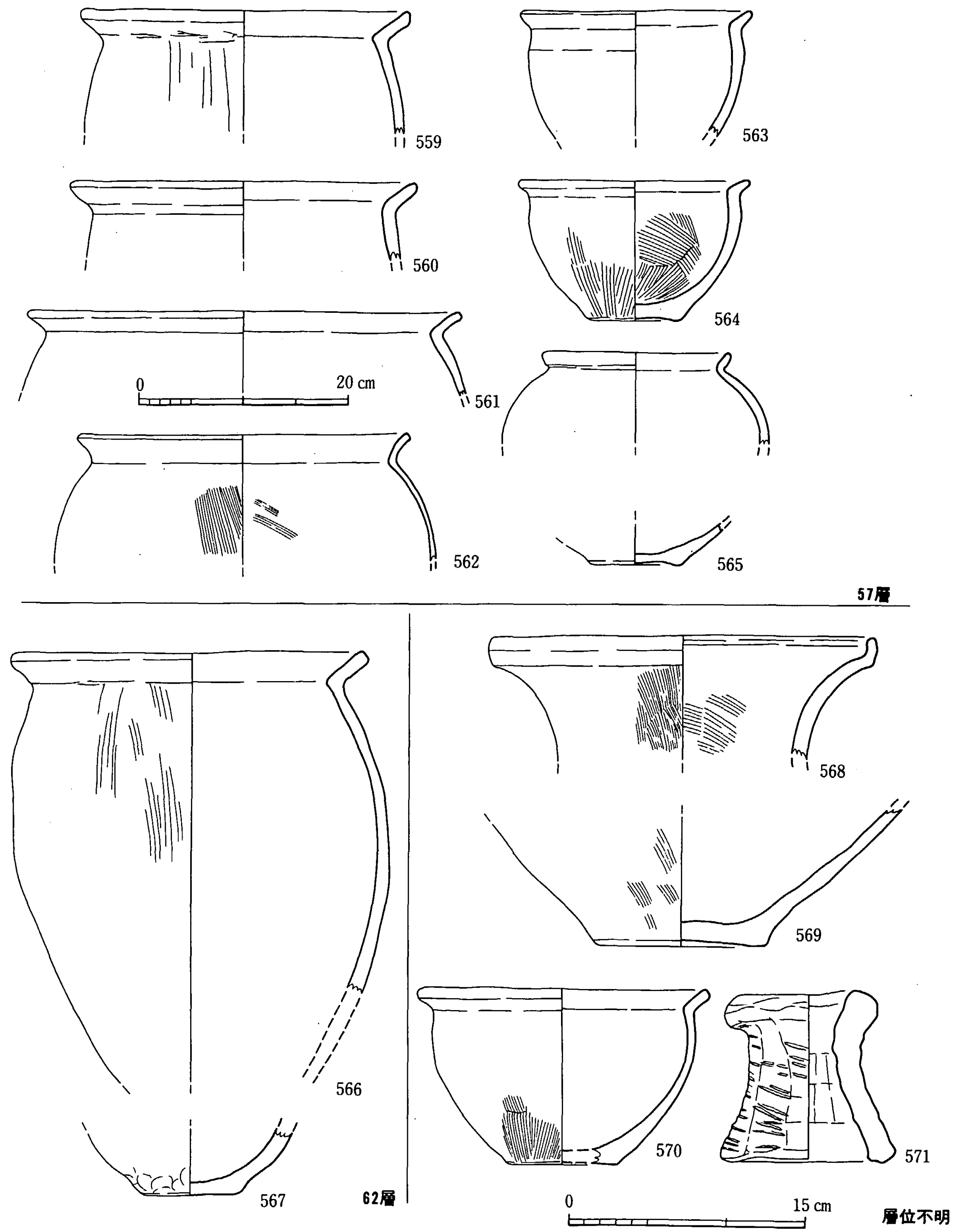
第61図　1022号溝01・02トレンチ出土土器実測図（1/4　524は1/6）



第62図　1022号溝02トレンチ出土土器実測図．1（1/4）



第63図　1022号溝02トレンチ出土土器実測図．２（1/4）



第64図　1022号溝02トレンチ出土土器実測図．３（1/4　561・562は1/6）

の器台は磨滅著しいが指でナデられた凹凸がのこる。554の裾部内外面は丁寧に横ナデされ、内面はそののちにハケ目が施されている。

555～565は57層中の出土である。555の口縁屈折部は厚く端部まで肥厚している。556は口頸部は直線的に立ち上がり、屈折部の突出も鋭い。復元口径22.8cmを測る。557の胴部は球形で方形の突帯が2条貼付される。器面調整は磨滅し不明。558の復元底径は9.2cmを測る。559～562は甕の口縁部片である。頸部はいずれも「く」字状に外反する。559は内外面ともに工具によるナデが観察される。560は口縁の屈曲が弱く頸部から胴部へ直線的に至る。561の復元口径は41.5cmを測る。562は頸部下に煤が付着している。563・564は短い口縁が取りつく鉢である。564の器面調整のハケ目は底面端部にまで及ぶ。565は接合しないか、器面の色調や状態から同一個体と考えられる。底部は上げ底である。

566·567は62層中からの出土である。566の頸部屈曲部内面にはわずかに突出がある。復元口径21.2cm。567の底部は指頭圧痕による成形面が残る。

568～571は層位が不明な土器である。568は頸部より緩やかに外反し、口縁端部で急に内湾する。569はやや上げ底で復元口径10.4cm。570の鉢の底部は剥離している。571の外面はタタキののちナデられており、内面もナデられている。

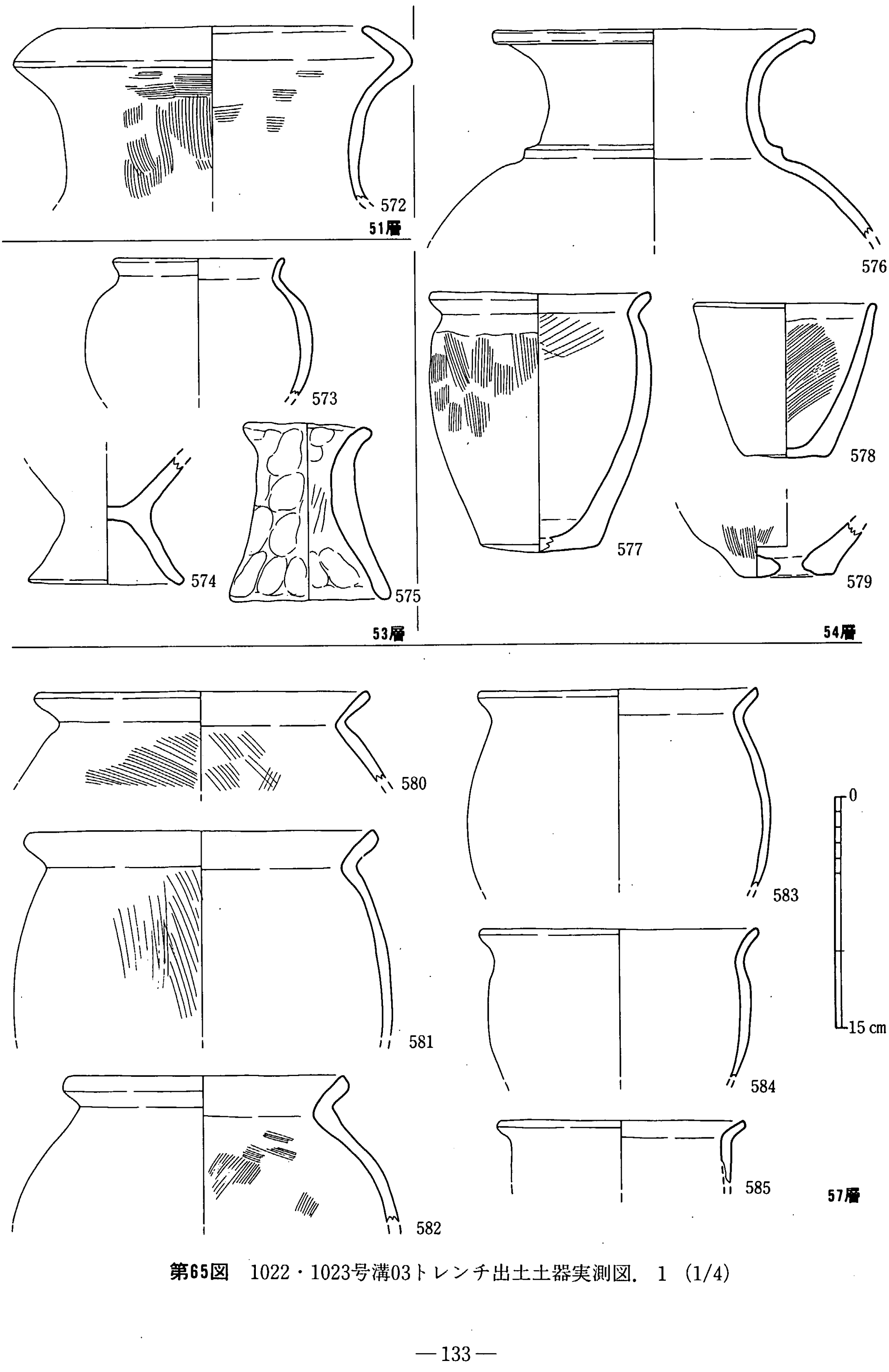
03トレンチ（第65・66図572～599）

572は51層中からの出土である。口頸部は直立し、屈折部は丸みを持って端部へ至る。復元口径19.4cmを測る。

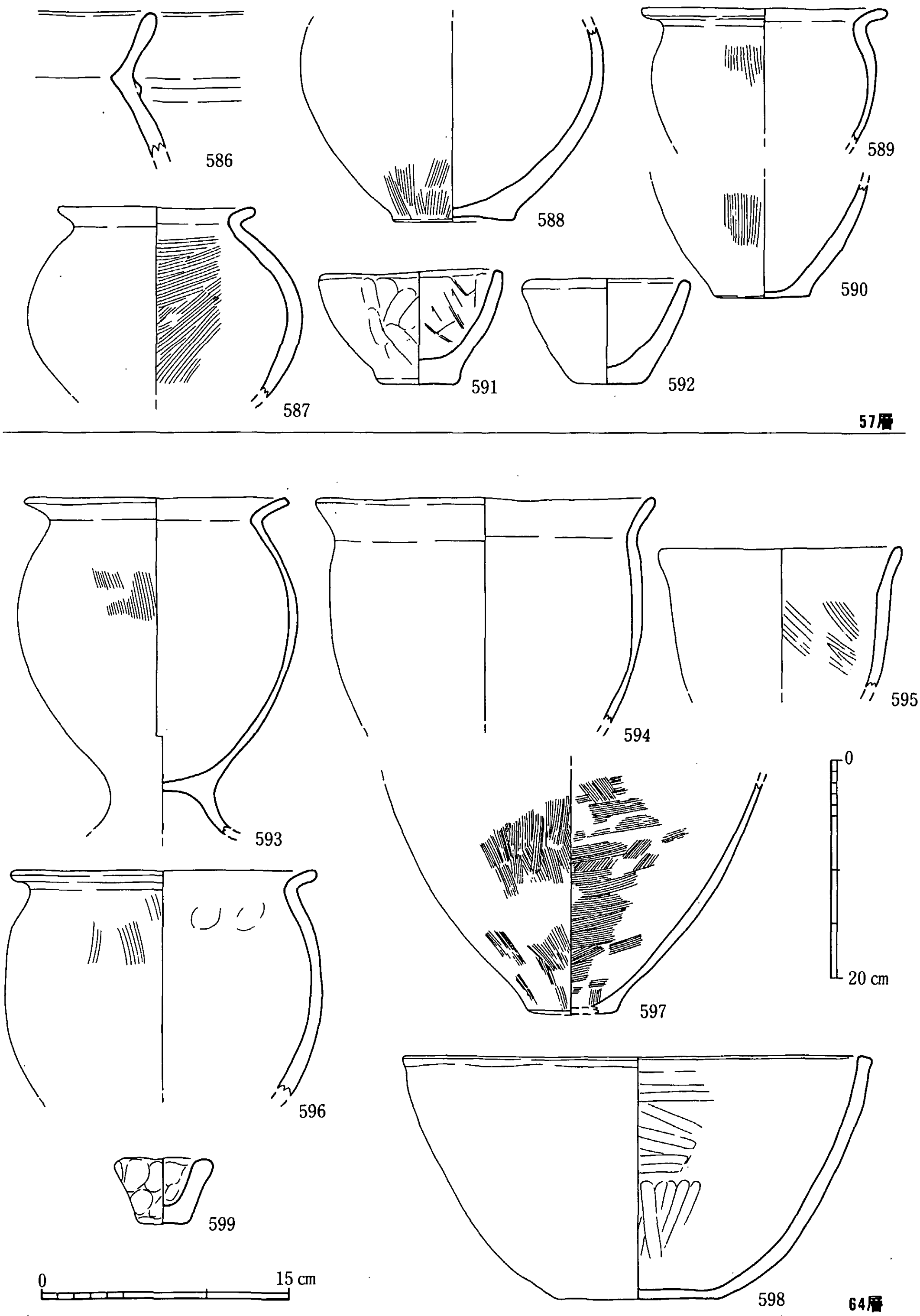
573～575は53層中からの出土である。573は球形の胴部に直立気味に口縁が取りつく。胴部の器厚は厚い。574は鉢の脚台で調整は磨滅著しく不明。裾径10.1cmを測る。575の器台内外面には指頭圧痕が残り、内面には一部シボリ痕が残る。

576～579は54層中の出土である。576の口縁は大きく外反し端部でわずかに肥厚している。頸部には1条の三角突帯が貼付されるが磨滅し調整は不明。577は胴部付近に張りを持って内湾しながら頸部へ至り、そこから短い口縁がわずかに外反する。底部は凸レンズ状である。口縁部内外面はナデられるが、胴部は内外面ともにハケ目が施される。全体に器厚は厚い。復元口径14.4cm、底径7.6cm、器高16.8cmを測る。578は底面端部から口縁端部へは直線的に開いて至る。平底である。579は穿孔鉢の底部片で底径6～7cmを測る。

580～592は57層中からの出土である。580～585は口縁から胴部にかけての資料である。580～583・586はいずれも頸部は「く」字状に屈曲する。580は頸部が一旦細くなり、口縁端部で再び肥厚する。復元口径は21.8cm。582は頸部手前で急に肥厚し、外面は極端に屈曲する。胴部に最大径がきて口縁がややすぼまる。583は口縁の屈曲はさほど強くなく、胴部へは緩やかに至る。内外面磨滅により調整は不明。584は口縁の屈曲は緩やかで、胴部の張りは口径にわずかに及ばない。585の復元口径は15.4cmを測る。586は頸部内面には鋭い角を持ち、外面には三角



第65図　1022・1023号溝03トレンチ出土土器実測図．1（1/4）



第66図　1022・1023号溝03トレンチ出土土器実測図．２（1/4　597・598は1/6）

突帯が１条貼付される。調整は不明。587は球形の胴部を持ち、内湾しながら頸部へ至り、口縁は大きく折れるように外反する。588の底面は上げ底で、外面のハケ目は底面端部にまで及んでいる。また胴部から底部付近には黒斑がある。589は胴部が球形でかなり張るが、口径を超えるまでには至らない。復元口径は14.6cmを測る。590の胴部から底部にかけては黒斑が残る。591・592は小型の鉢でいずれも平底である。591は外面に指頭圧痕を留め、内面はケズリ風にナデられている。

593～599は64層中からの出土である。593は台付鉢で大きく膨らむ胴部を持つ甕に裾部が大きく開く脚台が付く。また口縁の屈曲は大きく「く」字状に折れる。594は口縁はさほど屈曲しない。磨滅により調整は不明。595の口縁から胴部にかけては一定の厚さで頸部はほとんど屈曲しない。内面にわずかにハケ目調整が観察できる。596は胴部から底部を欠損する。復元口径18.6cmを測る。597の底面は端部に丸みを持ち、内外面ともに胴部にハケ目が施されている。復元底径8.0cmを測る。598は大型の鉢である。胴部から口縁部へはやや丸みを持ちながら至り、口縁端部は厚い角を持つ。また、底面は丁寧に面とりしたものでなく、ボール状の器の底が潰れたような感じである。口縁部をはじめ、内外面ともにナデにより仕上げられているが、胴部内面は指で直接ナデ上げており、器面には凹凸を残す。また、胎土に含まれる粒子も均一でなく、焼成も十分でない。一見して作りは雑な印象を受ける。口径42.6～42.8cm、底径15.0cm、器高22.1cmを測る。599は内外面ともに指頭圧痕をとどめ、底部は平底である。

セクション堤内（第67・68図600～631）

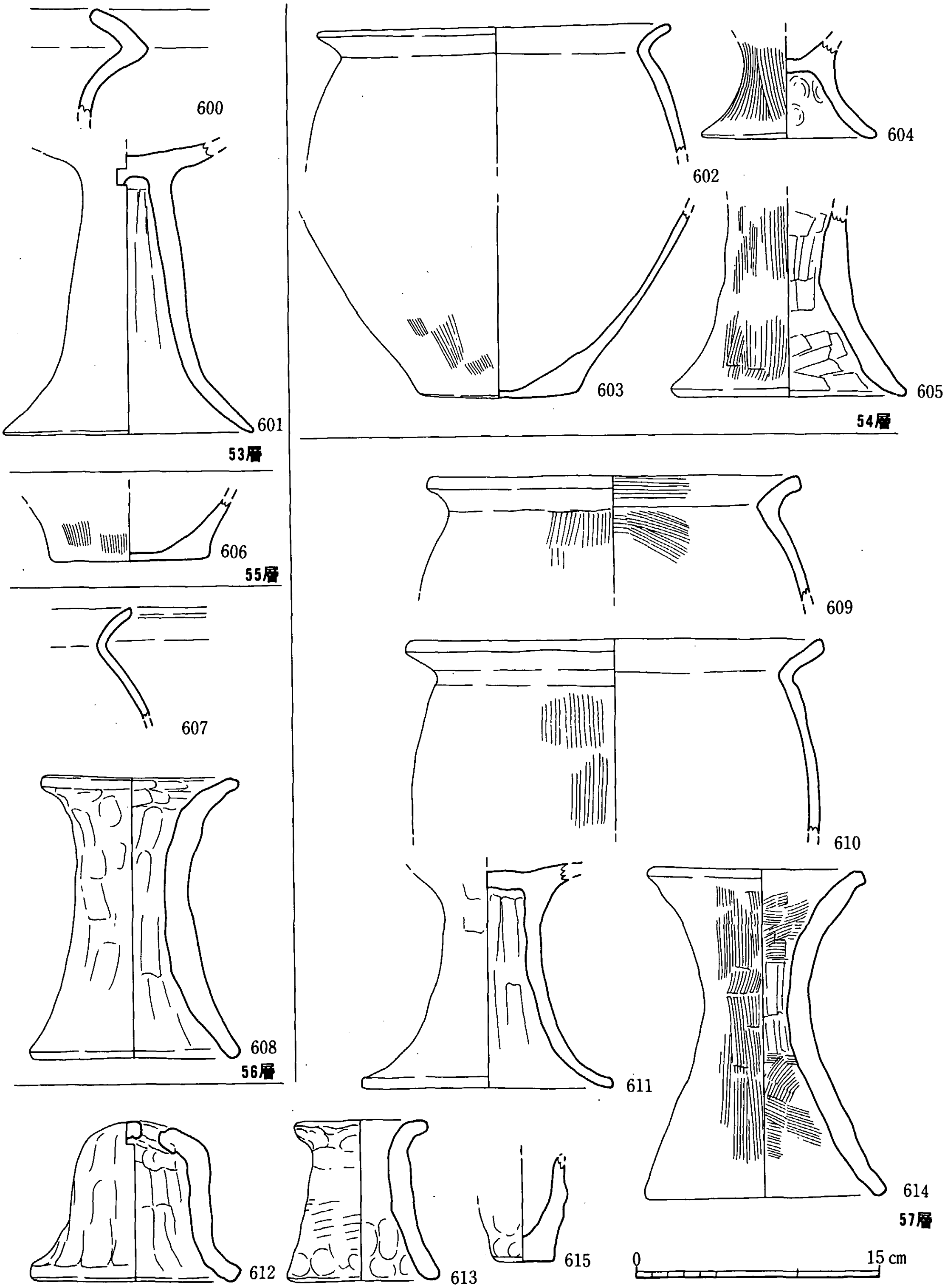
600・601は52層中からの出土である。600の口縁屈折部は外面に比して内面はそう鋭くない。601は高杯の脚で杯部を大きく欠損している。柱状部の開きは緩やかだが、裾端部では急に開く。復元裾径12.5cm。杯から脚にかけて二次加熱を受け変色している。

602～605は54層中からの出土である。602は口縁部が「く」字状に外反する甕で復元口径22.0cmを測る。603は胴部から底部付近に煤が付着する。底径9.8cmを測る。604は台付鉢の脚台で外面はハケ目が施され、内面はナデ。特に裾端部は丁寧に横ナデられる。裾径10.8cm。605は外面裾部付近に二次加熱を受け煤が付着している。

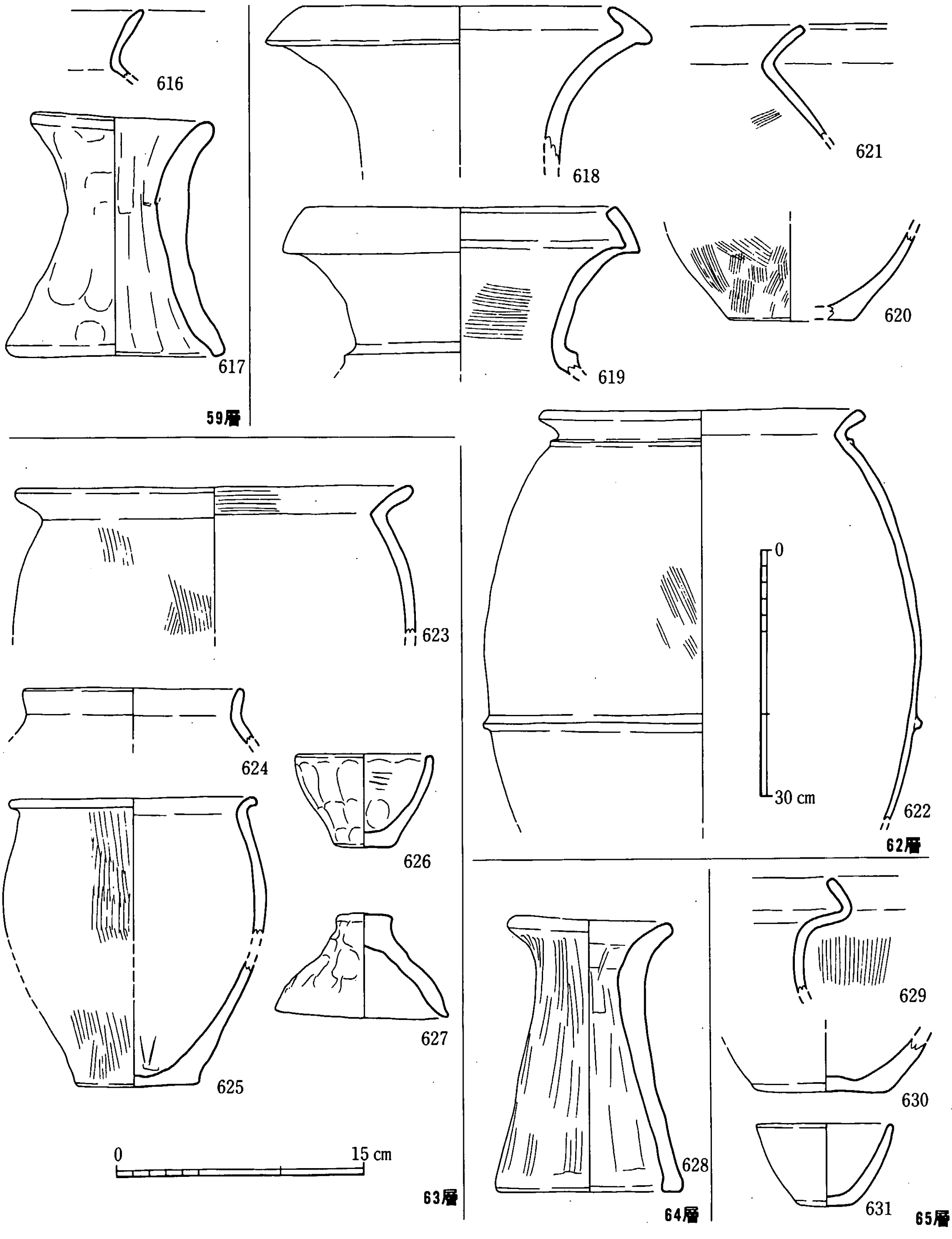
606は55層中より出土した。平底で底径10.6cmを測る。

607・608は56層中の出土である。607の口縁の端部は丁寧ナデられ角を持つ。608はナデによって仕上げられるが、指圧による凹凸を所々残す。内面口縁付近には煤が不付着している。

609～615は57層中の出土である。609の口縁は頸部付近は肥厚しややすぼまって端部に至る。そのため頸部内面は鋭い屈曲であるのに対し、外面の屈曲は緩やかである。復元口径は23.2cmを測る。610の口縁は「く」字状に屈曲し端部はやや肥厚する。611のは裾端部は薄く角を持ち丁寧な作りである。裾径は15.6cmを測る。全体に磨滅しているが、内面にナデが観察される。612は完形の脚で頭部に1.5cm程度の穿孔がある。頭部は丸みを持ち、裾部へは直線的で、急に



第67図　1022号溝セクション堤内出土土器実測図．1（1/4）



第68図　1022号溝セクション堤内出土土器実測図．2（1/4　622は1/8）

開いて至る。内外面ともにナデられるが特に裾部は丁寧に横ナデされる。裾径13.0cm、器高10.0cmを測る。内面には煤付着。613の外面はタタキのちナデ。内面はナデで指頭圧痕を残す。614の器台は中央部にくびれ部があり、両端部は内外面ともに丁寧に横ナデされている。内外面ともにハケ目が施される。615は内外面ナデによって仕上げられている。

616・617は59層中より出土した。616は磨滅著しい。617は内外面ナデによって仕上げられているが器面の所々凹凸を残す。内外面端部は丁寧にナデられる。口径11.2cm、裾径13.3cm、器高14.5cmを測る。

618～622は62層中より出土した。618は頸部から口縁屈折部へは大きく開いて至る。屈折部の突出はわずかに認められる。口径18.5cmを測る。619の口縁はかなり立ちぎみで突出部も斜め下方を向く。頸部に三角突帯が１条貼付される。620の底部は平底で底面端部までハケ目が施される。621の頸部の屈曲は急である。622は胴部が卵状に膨れた大型の甕である。口縁は短く「く」字状に屈曲し端部は肥厚する。頸部と胴部中位に突帯が貼付される。口径39.6cmを測る。

623～627は63層中より出土した。623の復元口径は24.3cmを測る。624の口縁は頸部で緩やかに屈曲し、口縁は立ち上がる。625の口縁は厚い胴部から急に外反し端部は反る。最大径は胴部中央にある。口縁部内外面は横ナデ、外面胴部は縦位のハケ目が施され、内面はナデによって仕上げられる。626はミニチュアで平底である。627の器面調整は荒く凹凸が残る。また、頭部はきれいな面調整が行われていない。脚台部未製品であろうか。

628は64層中より出土した。口縁の2.0cm下位にくびれ部がありそこから裾部へは直線的に広がっている。両端部は丁寧に横ナデされる。口径10.0cm、裾径11.4cm、器高16.5cmを測り、口縁部付近内外面には煤が付着する。

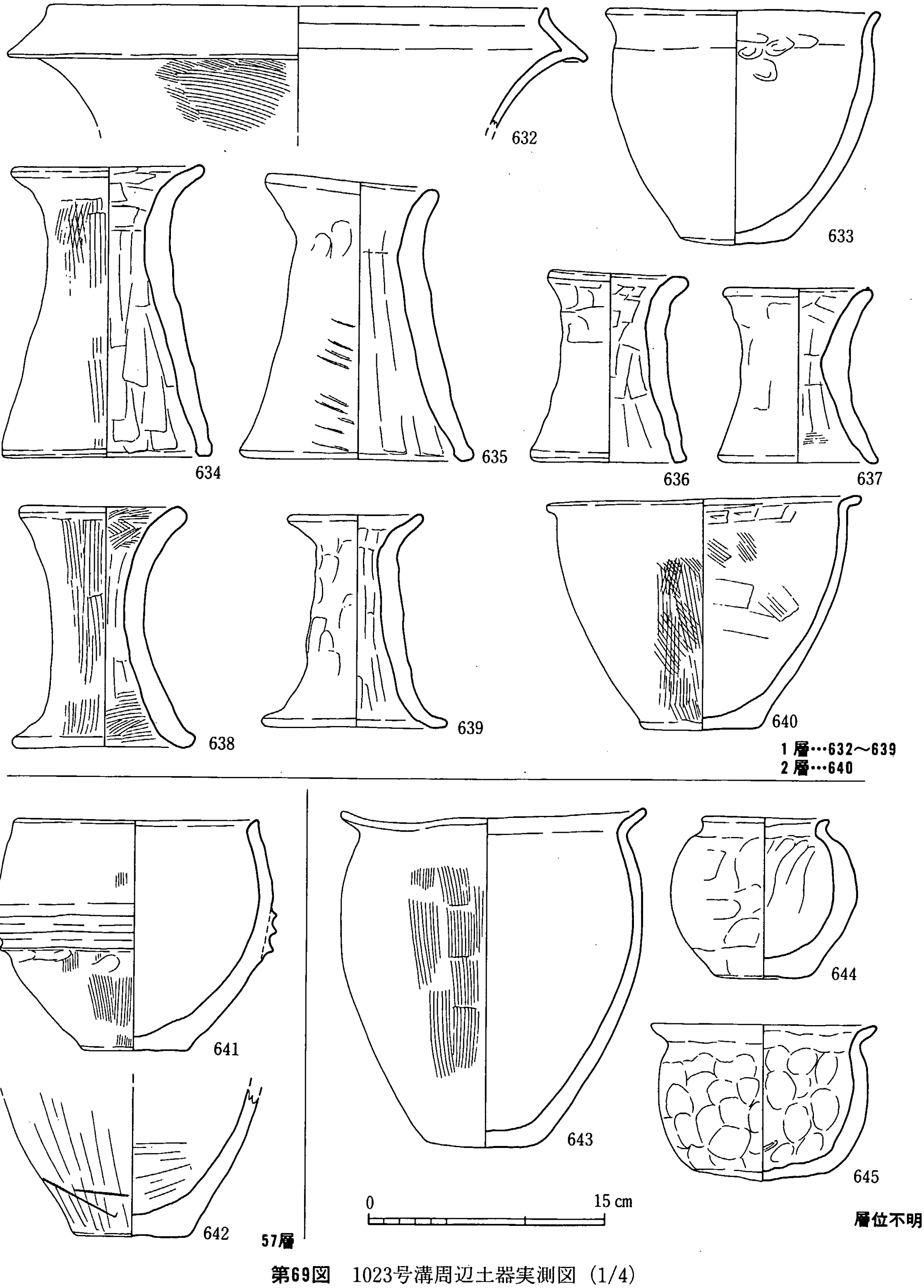
629～631は65層中より出土した。629は口頸部に縦方向のハケ目は施されている。630の底径は8.2cmを測る。631は内外面ナデによって仕上げられる。

1023号溝周辺（第69図632～645）

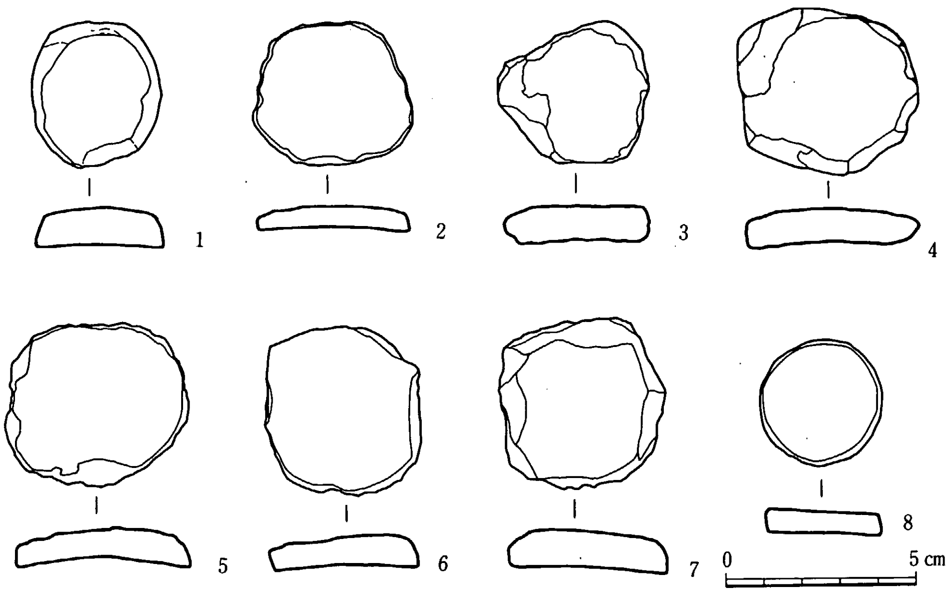
632～639は１層中からの出土である。632は口縁屈折部の突出は明瞭で口縁端部は細く立ち上がる。復元口径31.6cmを測る。633の口縁はわずかに外反する。頸部以下の器厚は厚く底部は凸レンズ状である。634は両端部内外面が丁寧にナデられるほか、外面にはハケ目が施され内面は粗いナデに留まる。復元口径12.3cm、底径13.3cm、器高18.5cmを測る。635の外面はタタキが一部残る。636・637は粗くナデられ器面に凹凸が残る。636は復元口径9.0cm、裾径10.0cm、器高12.0cmを測り、口縁内面は黒色に変色している。638は内外面ともに丁寧なハケ目がほどこされている。また器面の内外面には煤が付着している。639は口縁下位と裾部上位はほぼ均等にくびれて胴部は柱状になり、そこにナデあとが残される。また外面には煤が付着する。

640は２層中の出土である。口縁内面は工具により粗く横ナデされる。内面は黒変している。

641・642は57層中の出土である。641は丸く膨らんだ胴部に３条の三角突帯が貼付された無頸



第69図　1023号溝周辺土器実測図（1/4）



第70図　1022号出土土製品実測図（1/2）

壺で底部は平底になる。突帯の上下にハケ目は施されているが、上位については磨滅しほとんど残っていない。内底面は黒変している。口径15.6cm、底径7.2cm、器高14.7cmを測る。642は内外面にハケ目が施され外面に工具痕も残る。

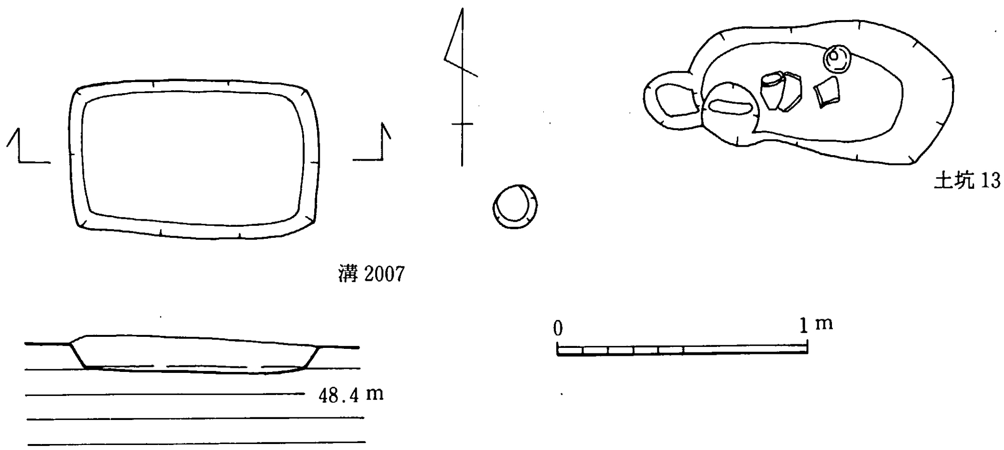
643～645は層位不明の資料である。643の口縁の屈曲も弱くかなり歪んでいる。復元口径19.4cm、底径7.4cm、器高21.7cmを測る。644は球形の胴部に口縁がわずかに取りつく鉢で口縁に比べ胴部の器厚は非常に厚い。内外面ともに粗くナデられる。復元口径8.0cm、底径6.2cm、器高10.2cmを測り、茶褐色に焼成される。645も胴部に対して短い口縁が取りつく。内外面はナデられるがそれでも凹凸を残す。　　（杉原）

土製品（図版64　第70図1～8）

1～8は土器片を打ち欠いて成形され円盤状を呈している。全て1022号溝の出土である。1は磨滅が激しい。2・3・4も磨滅著しく器面調整は不明で、成形加工も粗い。5は内面暗灰色、外面橙褐色6は茶褐色にそれぞれ焼成された土器片を素材としており、内外面と周縁端部は磨滅している。7の内面にはわずかにハケ目が観察される。8は磨滅が著しいが、周縁には凹凸が無く丁寧に整形されている。　　（杉原）

石庖丁（図版64　第73図2～6）

第75図2は蛇文岩製。両面は丁寧に研磨され研磨痕が残る。端部から刃を作り出すが、使用痕による磨耗は中央部分のみである。稜は片面のみシャープに残り、他面は使用により磨耗し



第71図　2007号溝（P1516）実測図（1/30）

ている。穿孔は両面から行う。27.1gを測る。3は緑色変岩製。両面とも僅かに研磨痕が残る。刃は端部より造りだす片刃状である。刃部は全体に使用痕が残り、片面のみ稜が磨耗し刃こぼれも見られる。16.8gを測る。4は安山岩製で、研磨痕が両面に顕著に残る。端部から刃を作り出すが、使用による磨耗は中位からで刃こぼれをおこす。石材は不純物が多く、表面端部は一部素材面が残る。5は頁岩製で、両面に研磨痕が残るが、端部は一部素材面が残る。刃は端部より作り出すが、使用による磨耗は中央の一部のみでありその他は刃がややシャープに残る。穿孔は両面からで、片方は斜めに貫通する。第75図6は安山岩製である。両面研磨痕が残るが、上方は一部素材面が残る。刃は端部より造りだし、全体に使用痕が見られる。　（齋部）

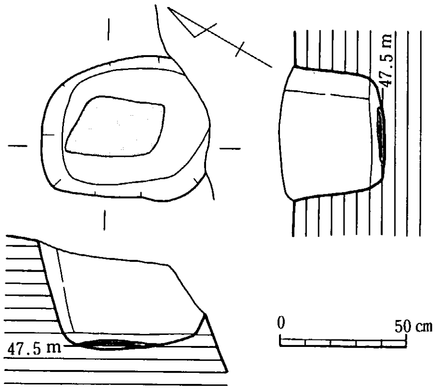
砥石（図版65　第74図6～15）

6は破砕資料で砥面は1面のみ観察され、風化は著しく硬質砂岩製。7は平面観は正方形を呈しており、表裏中央部は窪んでいる。砥面は5面ある。珪質層灰岩製で119.3gを測る。8は上部を大きく欠損している。砥面は4面あり表裏面の中央は両面とも大きく内湾し窪んでおり、線状痕は長軸に残されている。珪質層灰岩製で98.8gを測る。9は硬質で緻密な砂岩礫を素材としている。砥面は表面と周縁の3面で、それぞれ面は内湾している。40.7gを測る。9は板状の形態を呈している。10は表裏面のほかに2側面にも砥面があり、板状を呈している。風化が進んでおり、それぞれの稜は磨滅している。花崗岩質砂岩で425.0gを測る。11の砥面は長軸に沿って5面のほか下端部に1面あり、角柱状を呈している。線状痕は長軸に沿って残されている。硬質砂岩製で543.3gを測る。12は塊状の破砕礫を使用しており受熱のためか変色している。砥面は3面ある。硬質砂岩製で230.3gを測る。13は平面観は正方形で砥面は6面全てにある。橙色で緻密な硬質砂岩製で76.2gを測る。14は花崗岩の角柱状礫を使用しており、所々磨れた礫素材面を残している。142.4gを測る。15は4面砥面がある。線状痕は長短両軸方向に残

されている。硬質砂岩製で224.1ｇを測る。　(杉原)

その他の石器（図版66　第75図１～９）

１は刃部と側面が敲打による成形加工が行われ背腹両面研磨されているが、わずかにその加工面を留めている。側縁部は両面研磨ののち、前後に磨かれ面を形成している。成形加工面については刃部付近にも残されている。玄武岩製で風化が著しい。492.3ｇを測る。２は、蛇文岩製で両面研磨され特に刃部付近は丁寧である。基部（着柄部）には加工面を残している。255.6ｇを測る。３は磨製石斧の破損資料で玄武岩製。いわゆる「今山産」と考えられ、再加工の痕跡はない。239.2ｇを測る。４は緑色変岩製で刃部の研磨は非常に丁寧である。63.8ｇを測る。５は節理に沿って割れた赤石色変岩に刃部加工を施したサイドスクレイパーである。６は表裏面に磨れた痕跡がわずかに観察されるが風化が激しい。662.5ｇを測る。７の表裏面は著しく摩れている。７・８は欠損品だが、完形の大きさは６とほとんど変らないであろう。７は256.2ｇを測り風化は激しい。玄武製。８は351.5ｇを測る。９は自然礫であるが一面に使用に関わると考えられる研磨面を残している。手持ちの砥石として使用したのであろうか。　(杉原)



第72図　ピット1351実測図（1/30）

鉄製品（図版66　第76図２・４・５・７）

２は柳葉形の鉄鏃で4.7cm、最大幅1.4cm、厚さ0.2cmを測る。関はなく鏃身から茎へと連続的に移行する。４・５は鉇片で、４が現存長4.6cm・現存最大幅1.5cm・厚さ0.25cm、５が現存長3.2cm、最大幅1.1cm・厚さ0.15cmを測る。刃部の造り出しが僅かに残る。２・４は３トレンチ、５は５トレンチ東中部旧上層出土。７は両刃の袋状鉄斧で、現存長7.4cm・刃部幅3.0cm・厚さ４cmを測る。01トレンチ出土。　(齋部)

ガラス玉（図版66　第10図1）

スカイブルーのガラス小玉で直径3.6mm・厚さ3.8mm・孔径1.4mm・重さ50mgを測る。両端が斜めにカットされる　(齋部)

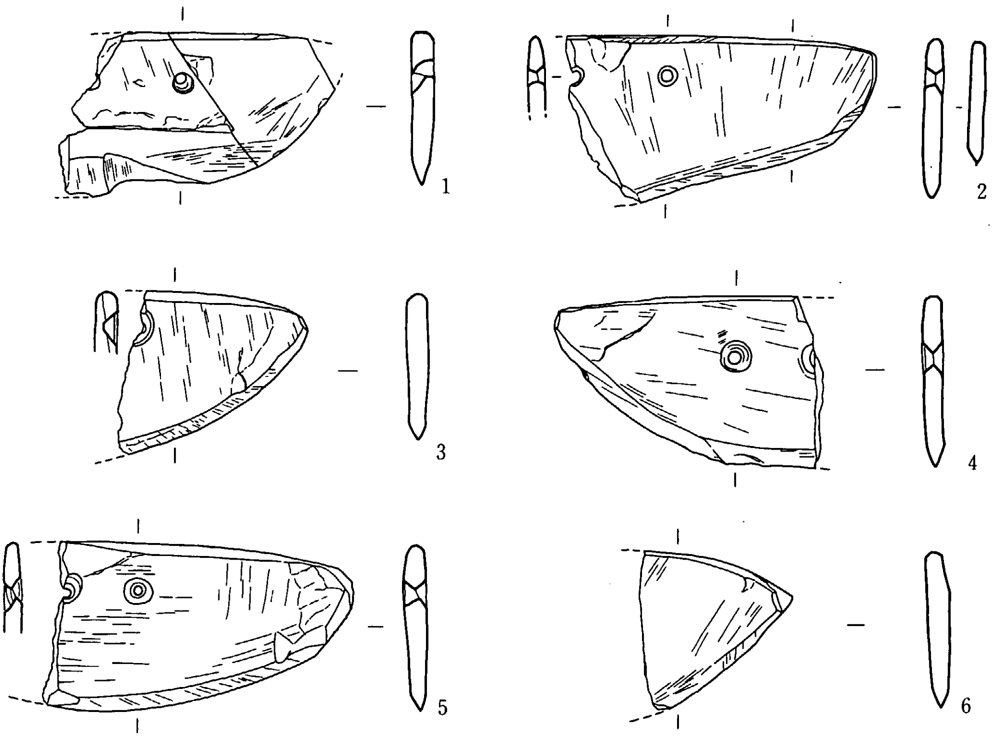
2004号溝（図版６、付図３、表60）

重複関係も含めて、建1019号で詳述。　(馬田)

2005溝（図版６、付図３、表60）

詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

現存規模は、長さ143cm・幅53cm・深さ９cmであるが、溝に切られる住1019号Ａの残存壁高が



1……1416号住居
2……1022号溝02トレンチ4層
3……1022号溝5トレンチ2層
4……1022号溝8トレンチ最上層
5……1022号溝9トレンチ1層
6……1022号溝10トレンチ1層

0 10cm

第73図 石庖丁実測図（1/2）

約15cmであることから、当時は深さ約90cm前後に掘削され、溝1001号Bの形状に類したものか。

また、上記の深さと形状であったことを考慮すると、西側に約2.2m離れて検出した2006号溝の西端～2005号溝東端間の現存長は4.61mを測り、溝1001号A、（付図2）の長さ5.39m大の規模となることなどから、当時は溝2005・2006号は一連の規模であったものか。（馬田）

2006号溝（図版11、付図2、表60）

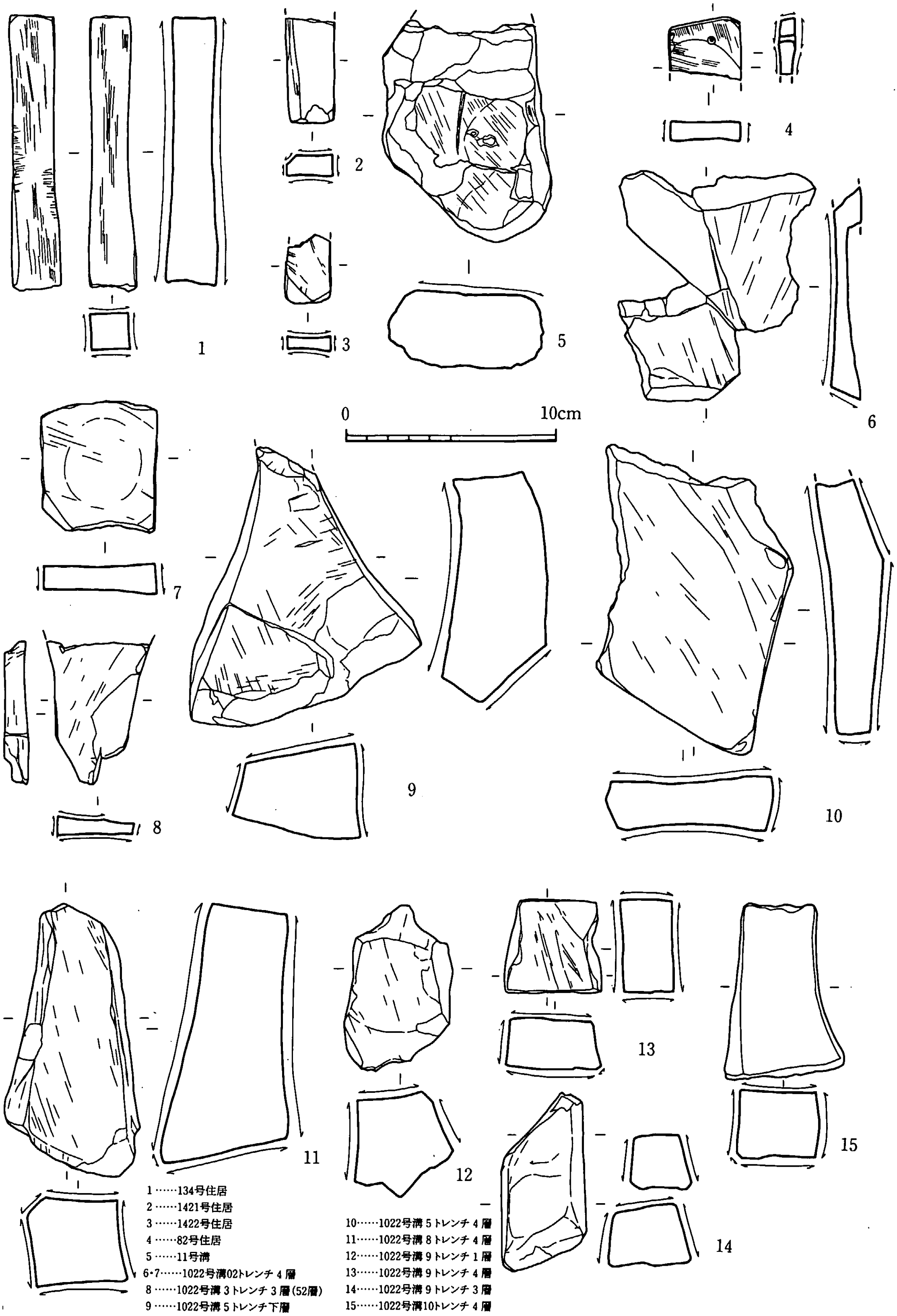
詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

現存規模は、長さ100cm・幅55cm・深さ24cmを測る。（馬田）

2007号溝（付図1、第71図、表60）

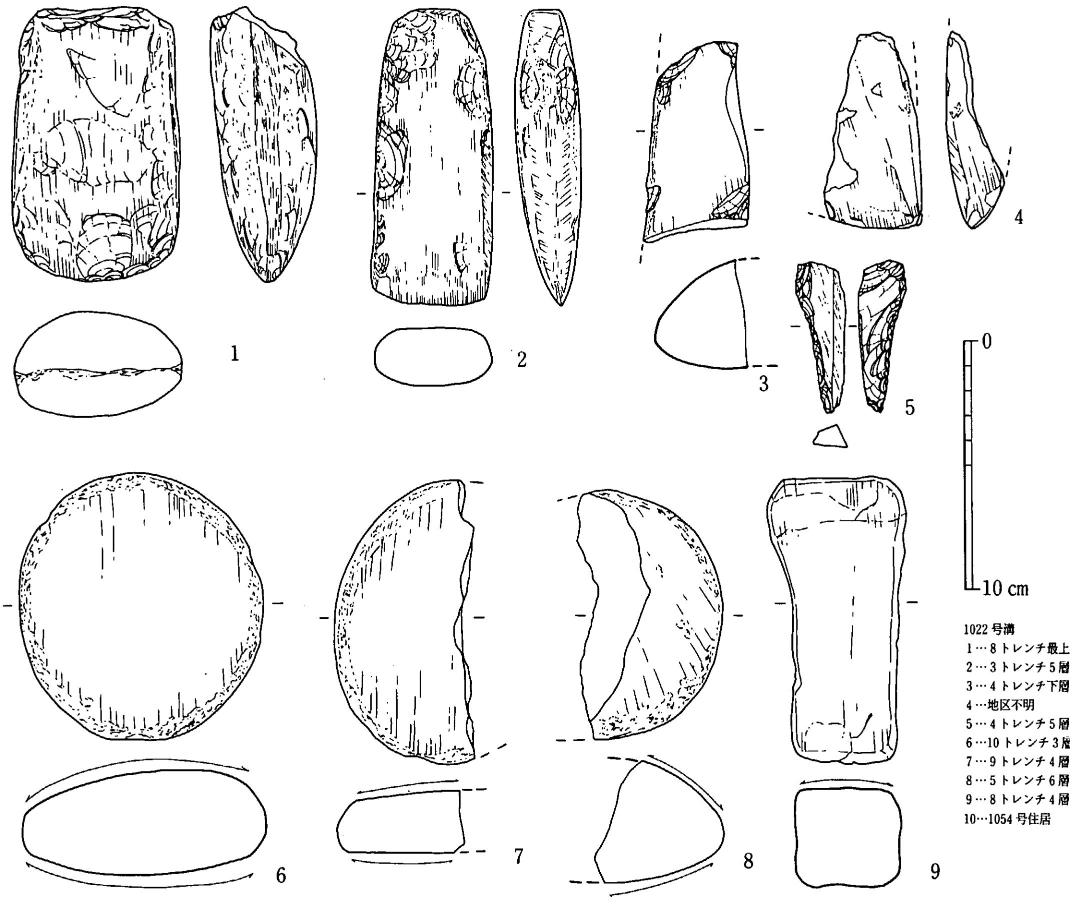
詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

現存規模は、長さ130cm・幅65cm・深さ10cmであるが、溝2005号で既述したように、東側に約



1 ……134号住居
2 ……1421号住居
3 ……1422号住居
4 ……82号住居
5 ……11号溝
6・7……1022号溝02トレンチ 4 層
8 ……1022号溝 3 トレンチ 3 層(52層)
9 ……1022号溝 5 トレンチ下層
10……1022号溝 5 トレンチ 4 層
11……1022号溝 8 トレンチ 4 層
12……1022号溝 9 トレンチ 1 層
13……1022号溝 9 トレンチ 4 層
14……1022号溝 9 トレンチ 3 層
15……1022号溝10トレンチ 4 層

第74図　砥石実測図



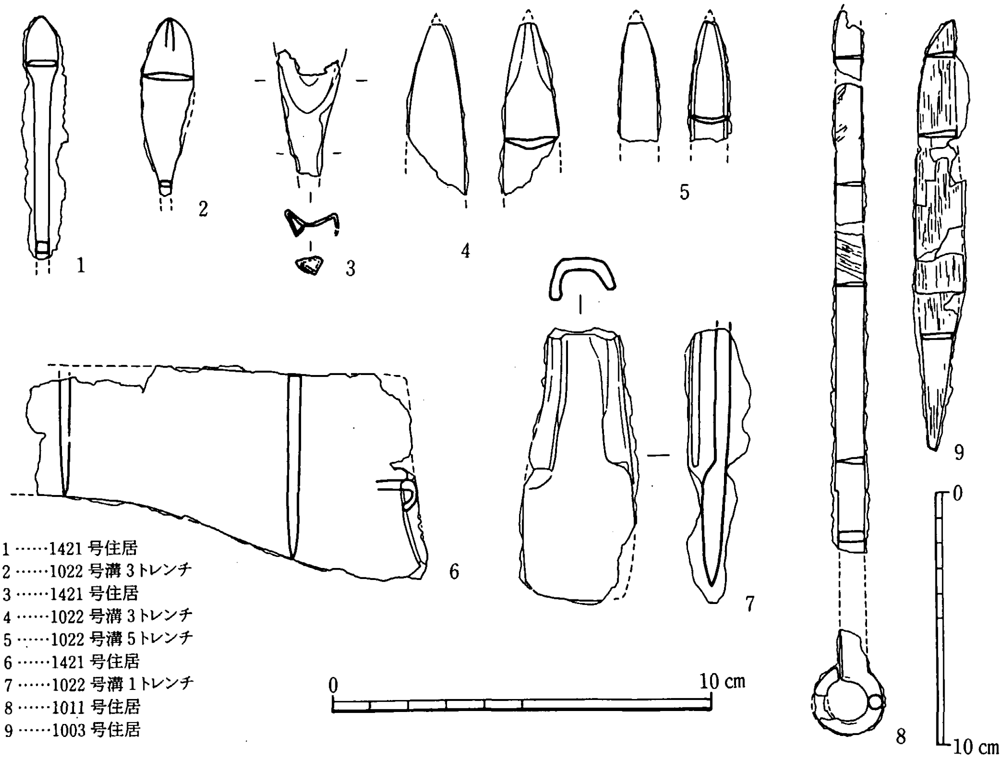
第75図　その他石製品実測図（1/3）

1.5m離れて検出され、『Ⅰ集』で既報告の土坑13号の東端～2007号溝間の現存長は3.55mを測り、同様に、当時は溝2007号・土坑13号は一連の規模であったものか。　（馬田）

(4) ピ　ッ　ト

ピット1351（第72図）

平坦面の西南端に位置する。南端部を斜面部最上段の削平の際に失われている。平面方形で長軸は約70cm、短軸58cm、深さは約40cmで、形態から、本来は掘立柱建物跡の柱穴の一つであったと思われる。斜面部最上段の削平のため他の柱穴は削られたようである。この柱穴の底面からは、炭化物を含む焼土が長軸30cm、短軸25cmの略方形の呈して検出されており、その一部



第76図　鉄製品実測図（1/2　8・9は1/3）

に柱痕の沈み込みと思われる凹みがあった。これは、柱下に敷いていた礎板が火災時に熱を受けたものと思われる。

(5)　その他の遺物

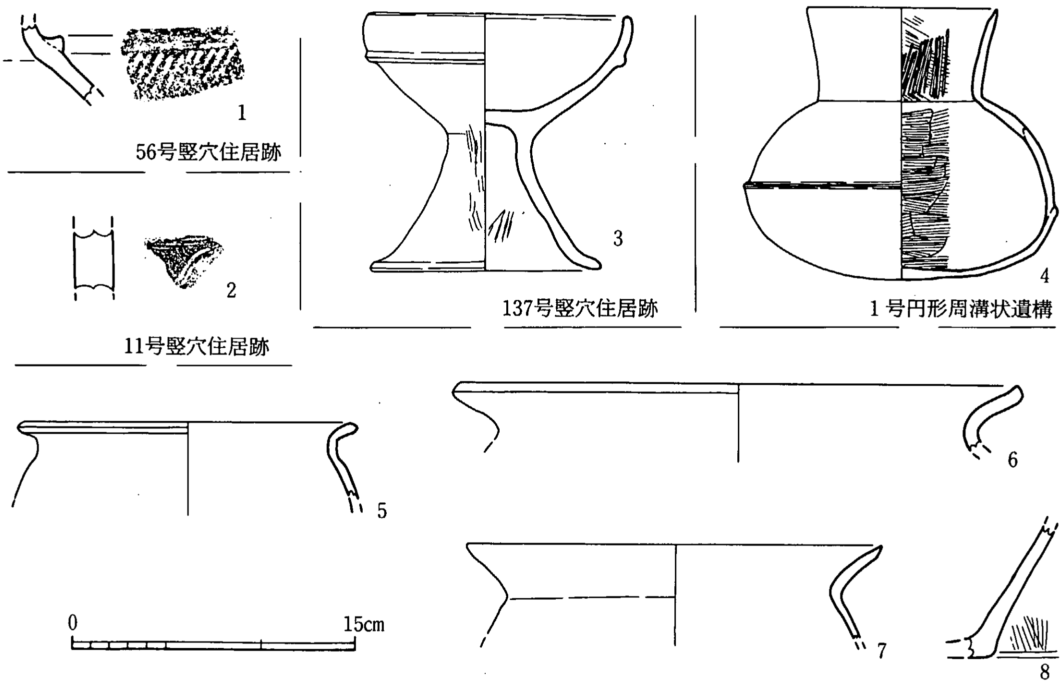
この項では、遺構や遺物の大半については『以来尺遺跡Ｉ』で既に報告はしているが、既刊後整理中に新たに確認されたものについて、掲載するものである。遺構の説明については、前掲『Ｉ集』を参考にしていただきたい。

56号竪穴住居跡出土土器（第77図１）

１はハケ状工具による波状文が入った土器片で、傾きは不明だが器壁が厚いことから、大型壺の肩部と思われる。　（秦）

82号竪穴住居跡出土石器（図版65　第74図４）

４は頁岩製の手持ち砥石で２面使用しており、上端面は整形面と思われる。横幅中央の上端



第77図　その他の遺物実測図（1/4）

近くに径3㎜の穿孔があり、紐を通していたと考えられる。使用面の凹みはこの穿孔までしか及んでいない。（秦）

91号竪穴住居跡出土土器（第77図2）

2は肩部の貼付け突帯下に、ヘラ状工具による刺突文の入るもので、類例から壺と思われる。（秦）

137号竪穴住居跡出土土器（図版17　第77図3）

3は高杯で、炉直上にほぼ完形で、横位で検出された。赤褐色を呈する。（秦）

27号掘立柱建物跡出土土器（第77図5～8）

5～8は甕の口縁部で、7・8は口縁端部がやや跳ね上がり気味である。8は甕の底部だろうか。平底を呈する。（秦）

11号溝出土土器（図版65　第77図10・11　第74図5）

第74図５は砂岩製の砥石で、欠損面が多いため使用面は１面のみ確認された。側面・裏面は磨滅が弱く平坦面を形成していないので調整面であろう。火を受けたためかやや赤化している。

１号円形周溝状遺構出土土器（図版17　第77図４）

４は長頸壺で、外面は磨滅しているため不明瞭だが、内面の頸部には磨きが見られる。内面のハケも丁寧でつくりも均一な精品である。胎土は精良で、混入物をほとんど含まない。色調は黄橙色を呈する。（秦）

表1　10号A案竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北西—南東 N—47°—W	P11・13

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2
	P_{11}—P_{12} (415)	P_{11}—P_{13} (424)	(415)	424
	P_{13}—P_{14} (415)	P_{12}—P_{14} 424	測点 a_4	
平均	●(415)	●424	北柱筋—D_{11} 181	
	棟持柱間 a_1		D_{11}—南柱筋 234	
	P_{21}—P_{22} ●303			

番号	検出面標高
P_{11}	未検出
P_{12}	48.72
P_{13}	未検出
P_{14}	48.69
P_{21}	48.71
P_{22}	48.55
壁	49.01
高床	48.93
中床	48.74

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.98	0.98	−9	−9	−112

測点 a	測点 b
北壁—北柱筋 119	東壁—東柱筋 34
北柱筋—P_{21} (56)	東柱筋—高床西縁 72
P_{21}—D_{11} 135	東高床幅 106
D_{11}—P_{22} 168	高床西縁—D_{11} 157
P_{22}—南柱筋 56	D_{11}—D_{21} 170
南柱筋—南壁 122	D_{21}—西柱筋 25
南高床幅 ●122	西柱筋—西壁 24
北壁—南壁 ●656	東壁—西壁 ●482

番号	標高
P_{11}	未検出
P_{12}	48.65
P_{13}	未検出
P_{14}	48.44
P_{21}	48.26
P_{22}	48.06
D_{11}	48.59
D_{21}	48.64

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(415)＝30.1cm×13.8＝415.4	(415)≒29.6cm×14.0＝414.4
△梁行 B	424 ＝30.1 ×14.1＝424.4	424 ≒29.6 ×14.5＝429.2
棟持 a_1	303 ≒30.1 ×10.1＝304.0	303 ≒29.6 ×10.0＝296.0
南高床幅	122 ≒30.1 × 4.1＝123.4	122 ≒29.6 × 4.0＝118.4
北壁—南壁	656 ＝30.1 ×21.8＝656.2	656 ≒29.6 ×22.0＝651.2
東壁—西壁	482 ＝30.1 ×16.0＝481.6	482 ≒29.6 ×16.0＝473.6

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	303 ＝30.0cm×10.1	303 ＝30.3cm×10.0
△桁行 A	(415)≒30.0 ×13.8＝414.0	(415)≒30.3 ×13.5＝409.1
梁行 B	424 ≒30.0 ×14.1＝423.0	424 ＝30.3 ×14.0＝424.2
南高床幅	122 ≒30.0 × 4.1＝123.0	122 ≒30.3 × 4.0＝121.2
北壁—南壁	656 ≒30.0 ×21.9＝657.0	656 ≒30.3 ×22.0＝666.6
東壁—西壁	482 ≒30.0 ×16.1＝483.1	482 ≒30.3 ×16.0＝484.8

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	高床 3
	床面積38.4㎡

表2　10号B案竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北西—南東 N—47°—W	P11〜13・21・ 22・21・DP211

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2
	P_{11}—P_{12} (384)	P_{11}—P_{13} (424)	(384)	(424)
	P_{13}—P_{14} (384)	P_{12}—P_{14} (424)	測点 a_4	
平均	●(384)	●(424)	北柱筋—DP_{211} (94)	
	棟持柱間 a_1		DP_{211}—D_{21} (10)	
	P_{21}—P_{22} ●(272)		D_{21}—DP_{212} 12	
			DP_{211}—DP_{212} ●(22)	
			DP_{212}—南柱筋 156	

番号	検出面標高
P_{11}	未検出
P_{12}	欠失
P_{13}	未検出
P_{14}	重複
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
壁	49.01
高床	48.74
中床	48.64

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.91	0.91	−40	−40	−112

測点 a	測点 b
北壁—北柱筋 (135)	東壁—東柱筋 (34)
北柱筋—P_{21} (56)	東柱筋—高床西縁 85
P_{21}—D_{11} (136)	東高床幅 ●119
D_{11}—P_{22} (136)	高床西縁—D_{11} (143)
P_{22}—南柱筋 (56)	D_{11}—DP_{212} (159)
南柱筋—南壁 (137)	DP_{212}—D_{21} 12
南高床幅 (137)	D_{21}—西柱筋 (24)
北壁—南壁 ●656	西柱筋—西壁 (25)
	東壁—西壁 ●482

番号	標高
P_{11}	未検出
P_{12}	欠失
P_{13}	未検出
P_{14}	重複
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
D_{21}	欠失
DP_{211}	未検出
DP_{212}	48.38

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(384)＝30.0cm×12.8	(384)＝29.5cm×13.0＝383.5
△梁桁 B	(424)≒30.0 ×14.1＝423.0	(424)≒29.5 ×14.5＝427.8
棟持 a_1	(272)≒30.0 × 9.1＝273.0	(272)≒29.5 × 9.0＝265.5
△DP_{211}―DP_{212}	(22)≒30.0 × 0.7＝ 21.0	(22)≒29.5 × 0.5＝ 14.8
北壁―南壁	656 ≒30.0 ×21.9＝657.0	656 ≒29.5 ×22.0＝649.0
東壁―西壁	482 ≒30.0 ×16.1＝483.0	482 ≒29.5 ×16.0＝472.0

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	(272)＝29.9cm× 9.1＝272.1	(272)＝30.2cm× 9.0＝271.8
△桁行 A	(384)≒29.9 ×12.8＝382.7	(384)≒30.2 ×12.5＝377.5
梁行 B	(424)≒29.9 ×14.2＝424.6	(424)≒30.2 ×14.0＝422.8
△DP_{211}―DP_{212}	(22)≒29.9 × 0.7＝ 20.9	(22)≒30.2 × 0.5＝ 15.1
北壁―南壁	656 ≒29.9 ×21.9＝654.8	656 ≒30.2 ×22.0＝664.4
東壁―西壁	482 ≒29.9 ×16.1＝481.4	482 ≒30.2 ×16.0＝483.2

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	高床 3
	床面積38.4m²

表3 18号A案竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南東―北西 N―23°―W	P11・12・14

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}―P_{12} (316)	P_{11}―P_{13} (236)	(316)	(236)	北壁―北柱筋 60	東壁―東柱筋 112
	P_{13}―P_{14} (316)	P_{12}―P_{14} (236)	測点 a_4		北柱筋―P_{21} 66	東柱筋―D_{11} 93
平均	●(316)	●(236)	北柱筋―D_{11} 175		P_{22}―南柱筋 15	D_{11}―棟持筋 25
	棟持柱間 a_1		D_{11}―南柱筋 141		南柱筋―南壁 87	棟持筋―西柱筋 118
	P_{21}―P_{22} ●235		北柱筋―D_{21} 217		北壁―南壁 ●463	西柱筋―D_{21} 0
			D_{21}―南柱筋 ●99			D_{21}―西壁 56
						東壁―西壁 ●404

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	48.91
P_{14}	未確認
P_{21}	48.92
P_{22}	48.95
壁	49.02
高床	
中床	48.97

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.34)	(1.34)	(80)	(80)	(−81)

番号	標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	48.80
P_{14}	未確認
P_{21}	48.57
P_{22}	48.50
D_{11}	48.86
D_{21}	48.80

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(316)≒30.1cm×10.5＝316.1	(316)＝28.7cm×11.0＝315.7
梁行 B	(236)≒30.1 × 7.8＝234.8	(236)≒28.7 × 8.0＝229.6
棟持 a_1	235 ＝30.1 × 7.8＝234.8	235 ≒28.7 × 8.0＝229.6
△D_{21}―南柱筋	99 ＝30.1 × 3.3＝ 99.3	99 ≒28.7 × 3.5＝100.5
北壁―南壁	463 ≒30.1 ×15.4＝463.5	463 ≒28.7 ×16.0＝459.2
東壁―西壁	404 ≒30.1 ×13.4＝403.3	404 ≒28.7 ×14.0＝401.8

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	235 ＝30.1cm× 7.8＝234.8	235 ＝29.4cm× 8.0＝235.2
△桁行 A	(316)≒30.1 ×10.5＝316.1	(316)≒29.4 ×10.5＝308.7
梁行 B	(236)≒30.1 × 7.8＝234.8	(236)≒29.4 × 8.0＝235.2
△D_{21}―南柱筋	99 ＝30.1 × 3.3＝ 99.3	99 ≒29.4 × 3.5＝102.9
北壁―南壁	463 ≒30.1 ×15.4＝463.5	463 ≒29.4 ×16.0＝470.4
東壁―西壁	404 ≒30.1 ×13.4＝403.3	404 ≒29.4 ×14.0＝411.6

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積18.7m²

表 4　18号B案竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南ー北 N−22°−W	P11・12・14 D11

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}—P_{12} (274)	P_{11}—P_{13} (256)	(274)	(256)	北壁—北柱筋 99	東壁—東柱筋 99
	P_{13}—P_{14} (274)	P_{12}—P_{14} (256)	測点 a_4		北柱筋—P_{21} 90	西柱筋—D_{21} 24
平均	●(274)	●(256)	北柱筋—D_{21} 125		P_{22}—南柱筋 16	D_{21}—西壁 25
	棟持柱間 a_1		D_{21}—南柱筋 ●149		南柱筋—南壁 87	東壁—西壁 ●404
	P_{21}—P_{22} ●168				北壁—南壁 ●460	

番号	標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	48.82
P_{14}	未確認
P_{21}	48.84
P_{22}	重複
D_{11}	重複
D_{21}	48.80

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	48.92
P_{14}	未確認
P_{21}	48.91
P_{22}	重　複
壁	49.02
高床	
中床	48.88

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.07)	(1.07)	(18)	(18)	(−106)

桁行換算	計算値	算出値
桁行A	(274)＝30.1cm× 9.1＝273.9	(274)＝30.4cm× 9.0＝273.6
△梁行B	(256)＝30.1 × 8.5＝255.9	(256)≒30.4 × 8.5＝258.4
△棟持 a_1	168 ≒30.1 × 5.6＝168.6	168 ≒30.4 × 5.5＝167.2
D_{21}—南柱筋	149 ≒30.1 × 5.0＝150.5	149 ≒30.4 × 5.0＝152.0
北壁—南壁	460 ≒30.1 ×15.3＝460.5	460 ≒30.4 ×15.0＝456.0
東壁—西壁	404 ≒30.1 ×13.4＝403.3	404 ≒30.4 ×13.0＝395.2

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	168 ＝30.0cm× 5.6	168 ＝28.0cm× 6.0
桁行A	(274)≒30.0 × 9.1＝273.0	(274)≒28.0 ×10.0＝280.0
梁行B	(256)≒30.0 × 8.5＝255.0	(256)≒28.0 × 9.0＝252.0
△D_{21}—南柱筋	149 ≒30.0 × 5.0＝150.0	149 ≒28.0 × 5.5＝154.0
北壁—南壁	460 ≒30.0 ×15.3＝459.0	460 ≒28.0 ×16.0＝448.0
東壁—西壁	404 ≒30.0 ×13.5＝405.0	404 ≒28.0 ×14.0＝392.0

規模	
	1間×1間
	主柱　4
	棟持柱　2
	床面積18.6㎡

表 5　19号A案竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南ー北 N−3°−W	P11〜14

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}			北壁—P_{21} 146	東壁—棟持柱筋 276
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測点 a_4		P_{21}—D_{11} 170	棟持柱筋—D_{11} 10
平均			東西 P_{21}—D_{21} ●166		D_{11}—P_{22} 164	D_{11}—D_{21} 168
	棟持柱間 a_1		D_{21}—東西 P_{22} 168		P_{22}—南壁 148	D_{21}—西壁 125
	P_{21}—P_{22} ●334				北壁—南壁 ●628	棟持柱筋—D_{21} ●178
						棟持柱筋—西壁 ●303
						東壁—西壁 ●579

番号	標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.31
P_{22}	48.60
D_{11}	48.79
D_{21}	48.79

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.90
P_{22}	48.85
壁	49.02
高床	
中床	48.92

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	334＝30.1cm×11.1＝334.1	334＝30.4cm×11.0＝334.4
△東西P_{21}—D_{11}	166＝30.1　× 5.5＝165.6	166≒30.4　× 5.5＝167.2
棟持柱筋−D_{21}	178＝30.1　× 5.9＝177.6	178≒30.4　× 6.0＝182.4
棟持柱筋−西壁	303≒30.1　×10.1＝304.0	303≒30.4　×10.0＝304.0
北壁—南壁	628≒30.1　×20.9＝629.1	628≒30.4　×21.0＝638.4
東壁—西壁	579≒30.1　×19.2＝577.9	579≒30.4　×19.0＝577.6

●(棟持換算—D_{21})換算	計　算　値	算　出　値
棟持柱筋—D_{21}	178＝30.2cm× 5.9＝178.2	178＝29.7cm× 6.0＝178.2
棟　持　a_1	334≒30.2　×11.1＝335.2	334≒29.7　×11.0＝326.7
△東西P_{21}—D_{11}	166＝30.2　× 5.5＝166.1	166≒29.7　× 5.5＝163.4
棟持柱筋−西壁	303≒30.2　×10.0＝302.0	303≒29.7　×10.0＝297.0
北壁—南壁	628＝30.2　×20.8＝628.2	628≒29.7　×21.0＝623.7
東壁—西壁	579≒30.2　×19.2＝579.9	579≒29.7　×19.0＝564.3

規模	
	(1間×1間)
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	床面積36.4㎡

表6　19号B案竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
N−3°−E	P11〜14

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}			北壁—P_{21} 210	棟壁—棟持柱筋 260
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測 点 a_4 東西P_{21}—D_{21}		P_{21}—D_{11} (140)	棟持柱筋—D_{11} (0)
平均			●103		D_{11}—P_{22} (140)	D_{11}—D_{21} 187
	棟持柱間 a_1 P_{21}—P_{22} ●280		D_{21}—東西P_{22} 177		P_{22}—南壁 138	D_{21}—西壁 123
					北壁—南壁 ●628	棟持柱筋—D_{21} ●187
						棟持柱筋—西壁 ●310
						東壁—西壁 ●570

番号	標 高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.55
P_{22}	48.59

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.85
P_{22}	48.64
壁	49.02
高床	
中床	49.87

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	280＝30.1cm× 9.3＝279.9	280＝31.1cm× 9.0＝279.9
東西P_{21}—D_{11}	103≒30.1　× 3.4＝102.3	103≒31.1　× 3.0＝ 93.3
棟持柱筋—D_{21}	187＝30.1　× 6.2＝186.6	187≒31.1　× 6.0＝186.6
棟持柱筋—西壁	310＝30.1　×10.3＝310.0	310≒31.1　×10.0＝311.0
北壁—南壁	628≒30.1　×20.9＝629.1	628≒31.1　×20.0＝622.0
東壁—西壁	570＝30.1　×18.9＝568.9	570≒31.1　×18.0＝559.9

●(棟持柱筋換算—D_{21})換算	計　算　値	算　出　値
棟持柱筋—D_{21}	187＝30.2cm× 6.2＝187.2	187＝31.2cm× 6.0＝187.2
棟　持　a_1	280≒30.2　× 9.3＝280.9	280≒31.2　× 9.0＝280.8
東西P_{21}−D_{11}	103＝30.2　× 3.4＝102.7	103≒31.2　× 3.0＝ 93.6
棟持柱筋−西壁	310≒30.2　×10.3＝311.1	310≒31.2　×10.0＝312.0
北壁—南壁	628＝30.2　×20.8＝628.2	628≒31.2　×20.0＝624.0
東壁—西壁	570≒30.2　×18.9＝570.8	570≒31.2　×18.0＝561.6

規模	
	(1間×1間)
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	床面積35.8㎡

表 7　1002号A竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南—北 N—20°—W	P12・21

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12} (276)	P_{11}—P_{13} 228	276	228	北壁—北柱筋 71	東壁—東柱筋 (92)
	P_{13}—P_{14} 276	P—P (228)	測点 a_4	測点 b_4	北柱筋—P_{21} 7	東柱筋—D_{11} 161
平均	●276	●228	北柱筋—DP_{211} 127	東柱筋—P_{21} 122	P_{21}—D_{11} 124	D_{11}—西柱筋 67
	棟持柱間 a_1		DP_{211}—D_{21} 10	P_{21}—西柱筋 106	D_{11}—P_{22} 138	西柱筋—DP_{211} 36
	P_{21}—P_{22} ●(262)		D_{21}—DP_{212} 14	東柱筋—P_{22} (114)	P_{22}—南柱筋 (7)	DP_{211}—D_{21} 17
			DP_{212}—南柱筋 125	P_{22}—西柱筋 (114)	南柱筋—南壁 (71)	D_{21}—西壁 39
			DP_{211}—DP_{212} 24		北壁—南壁 ●(418)	西柱筋—西壁 92
						東壁—西壁 ●(412)

番号	検出面標高
P_{11}	48.88
P_{12}	欠失
P_{13}	48.89
P_{14}	48.82
P_{21}	48.87
P_{22}	欠失
壁	48.99
高床	?
中床	48.99

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.21	1.21	48	48	−14

番号	標高
P_{11}	48.66
P_{12}	欠失
P_{13}	48.70
P_{14}	48.50
P_{21}	48.72
P_{22}	欠失
D_{11}	48.75
DP_{21}	48.64
DP_{211}	48.59
DP_{212}	48.59

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	276 ＝30.0cm× 9.2	276 ＝30.7cm× 9.0＝276.3
△梁行 B	228 ＝30.0 × 7.6	228 ≒30.7 × 7.5＝230.3
△棟持 a_1	(262)≒30.0 × 8.7＝261.0	(262)≒30.7 × 8.5＝261.0
DP_{211}—DP_{212}	24 ＝30.0 × 0.8	24 ≒30.7 × 1.0＝ 30.7
北壁—南壁	(418)≒30.0 ×13.9＝417.0	(418)≒30.7 ×14.0＝429.8
東壁—西壁	(412)≒30.0 ×13.7＝411.0	(412)≒30.7 ×13.0＝399.1

(DP_{211}—DP_{212})換算	計算値	算出値
DP_{211}—DP_{212}	24 ＝30.0cm× 0.8	24 ＝24.0cm× 1.0
△桁行 A	276 ＝30.0 × 9.2	276 ＝24.0 ×11.5
△梁行 B	228 ＝30.0 × 7.6	228 ＝24.0 × 9.5
棟持 a_1	(262)≒30.0 × 8.7＝261.0	(262)≒24.0 ×11.0＝264.0
北壁—南壁	(418)≒30.0 ×13.9＝417.0	(418)≒24.0 ×17.0＝408.0
東壁—西壁	(412)≒30.0 ×13.7＝411.0	(412)≒24.0 ×17.0＝408.0

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	壁沿高床 1 ?
	床面積17.2m²

表 8　1002号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南—北 N—18°—W	P14 DP211・212

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12} 174	P_{11}—P_{13} 180	174	180	北壁—北柱筋 122	東壁—東柱筋 76
	P_{13}—P_{14} (174)	P_{12}—P_{14} (180)		測点 b_4	北柱筋—P_{21} 22	東柱筋—D_{11} 115
平均	●174	●180		東柱筋—P_{21} 96	P_{21}—D_{11} 75	D_{11}—西柱筋 65
	棟持柱間 a_1			東柱筋—P_{22} 94	D_{11}—P_{22} 63	西柱筋—西壁 ●91
	P_{21}—P_{22} ●138			P_{21}—西柱筋 84	P_{22}—南柱筋 14	東壁—西壁 ●347
				P_{22}—西柱筋 (86)	南柱筋—南壁 (122)	
					北壁—南壁 ●(418)	

番号	検出面標高
P_{11}	48.84
P_{12}	48.87
P_{13}	48.84
P_{14}	未確認
P_{21}	48.89
P_{22}	48.89
壁	48.99
高床	
中床	48.91

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.97	0.97	− 6	− 6	−36

番号	標高
P_{11}	48.40
P_{12}	48.10
P_{13}	48.76
P_{14}	未確認
P_{21}	48.55
P_{22}	48.75
D_{11}	48.81
D_{22}	欠失

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	174 ＝30.0cm× 5.8	174 ＝29.0cm× 6.0
梁　行　B	180 ＝30.0 × 6.0	180 ≒29.0 × 6.0＝174.0
棟　持　a_1	138 ＝30.0 × 4.6	138 ≒29.0 × 5.0＝145.0
西柱筋―西壁	91 ≒30.0 × 3.0＝ 90.0	91 ≒29.0 × 3.0＝ 87.0
北壁―南壁	(418)≒30.0 ×13.9＝417.0	(418)≒29.0 ×14.0＝406.0
東壁―西壁	347 ≒30.0 ×11.6＝348.0	347 ≒29.0 ×12.0＝348.0

●(西柱筋―西壁)換算	計　算　値	算　出　値
西柱筋―西壁	91 ≒30.0cm× 3.0＝ 90.0	左に同じ
桁　行　A	174 ＝30.0 × 5.8	174 ≒30.0 × 6.0＝180.0
梁　行　B	180 ＝30.0 × 6.0	左に同じ
棟　持　a_1	138 ＝30.0 × 4.6	138 ≒30.0 × 5.0＝150.0
北壁―南壁	(418)≒30.0 ×13.9＝417.0	(418)≒30.0 ×14.0＝406.0
東壁―西壁	347 ≒30.0 ×11.6＝348.0	347 ≒30.0 ×12.0＝360.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　2
	床面積14.5㎡

表9　1003号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北西―南東 N―39°―W	P11~14, HP21 H21, HP211·212

番号	検出面標高
P_{11}	未検出
P_{12}	未検出
P_{13}	未検出
P_{14}	欠
P_{21}	47.73
P_{22}	47.68
壁	48.03
高床	47.88
中床	47.75

検出面標高	
SX1009	48.05
刀子茎尻	47.90
刀子切先	47.92

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.39)	(1.39)	(81)	(81)	(20)

	桁 行 A	梁 行 B
	P_{11}—P_{12} (301)	P_{11}—P_{13} (220)
	P_{13}—P_{14} (301)	P_{12}—P_{14} (220)
平均	●(301)	●(220)
	棟持柱間 a_1	
	P_{21}—P_{22} ●321	

桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
(301)	(220)	北壁沿高床幅 120	東壁—HP_{212} (111)
測点 a_2	測点 b_4	高床南縁—P_{21} 44	HP_{212}—D_{11} 56
北柱筋—H_{21}南縁 (64)	H_{21}幅 (111)	P_{21}—北柱筋 10	D_{11}—棟持柱筋 54
H_{21}南縁—HP_{211} (11)	測点 a_4	南柱筋—P_{22} 10	棟持柱筋—西柱筋 (110)
HP_{211}—HP_{212} ●(79)	北柱筋—D_{11} 157	P_{22}—高床北縁 (44)	西柱筋—D_{21} 87
HP_{212}—H_{21}北縁 11	D_{11}—南柱筋 164	南壁沿高床幅 (120)	D_{21}—西壁 24
H_{21}長 106	北柱筋—D_{21} 134	北壁—南壁 ●(649)	東壁—西壁 ●(442)
北柱筋—HP_{211} 75	D_{21}—南柱筋 167		

番号	標 高
P_{11}	未検出
P_{12}	未検出
P_{13}	未検出
P_{14}	欠失
P_{21}	47.44
P_{22}	47.44
D_{11}	47.49
D_{21}	47.52
DP_{211}	無配置
DP_{212}	無配置
H_{21}	未検出
HP_{211}	未検出
HP_{212}	47.69
SX1009	47.88

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	321 ＝30.0cm×10.7	321 ＝29.2cm×11.0＝321.2
△桁　行　A	(301)≒30.0 ×10.0＝300.0	(301)≒29.2 ×10.5＝306.6
△梁　行　B	(220)≒30.0 × 7.3＝219.0	(220)≒29.2 × 7.5＝219.0
△HP_{211}—HP_{212}	(79)≒30.0 × 2.6＝ 78.0	(79)≒29.2 × 2.5＝ 73.0
北壁―南壁	(649)≒30.0 ×21.6＝648.0	(649)≒29.2 ×22.0＝642.4
東壁―西壁	(442)≒30.0 ×14.7＝441.0	(442)≒29.2 ×15.0＝438.0

(HP_{211}—HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
△HP_{211}—HP_{212}	(79)＝30.4cm× 2.6＝ 79.04	(79)＝31.6cm× 2.5
棟　持　a_1	321 ≒30.4 ×10.6＝322.2	321 ≒31.6 ×10.0＝316.0
△桁　行　A	(301)≒30.4 × 9.9＝300.96	(301)≒31.6 × 9.5＝300.2
梁　行　B	(220)≒30.4 × 7.3＝221.9	(220)≒31.6 × 7.0＝221.2
北壁―南壁	(649)≒30.4 ×21.3＝647.5	(649)≒31.6 ×21.0＝663.6
東壁―西壁	(442)≒30.4 ×14.5＝440.8	(442)＝31.6 ×14.0＝442.4

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	壁沿高床(2)
	方形区画 H_{21}
	住居遺棄祭祀
	床面積(28.7)㎡

表10　1003号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北西—南東	P11〜14
N—39°—W	DP211・212

番号	検出面標高
P_{11}	重複
P_{12}	重複
P_{13}	重複
P_{14}	重複
P_{21}	重複
P_{22}	重複
壁	48.03
高床	47.81
中床	47.68

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.49)	(1.49)	(81)	(81)	(20)

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}	(301)	(220)	北壁沿高床幅 ●123	東壁—東柱筋 (111)
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測 点 a_4		高床南縁—P_{21} 41	東柱筋—D_{11} (103)
平均	(301)	(220)	北柱筋—D_{21} 134		P_{21}—北柱筋 10	D_{11}—棟持柱筋 7
	棟持柱間 a_1		D_{21}—南柱筋 ●167		北柱筋—D_{11} 130	棟持柱筋—西柱筋 (110)
	P_{21}—P_{22} ●321		北高床南縁—D_{21} 175		D_{11}—南柱筋 170	西柱筋—D_{21} ●87
			D_{21}—南高床北縁 ●(228)		南柱筋—P_{21} 10	D_{21}—西壁 ●24
			測 点 a		P_{21}—高床北縁 (41)	東壁—西壁 (442)
			北壁—南壁 (649)		北壁沿高床幅 (123)	

番号	標 高
P_{11}	未検出
P_{12}	重複
P_{13}	重複
P_{14}	欠失
P_{21}	47.50
P_{22}	重複
D_{11}	47.58
D_{21}	47.52
DP_{211}	除去祭祀
DP_{212}	除去祭祀

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	321 ＝30.0cm×10.7	321 ＝29.2cm×11.0＝321.2
△D_{21}—南柱筋	167 ≒30.0 × 5.6＝168.0	167 ≒29.2 × 5.5＝160.6
D_{21}—南高床北縁	(228)＝30.0 × 7.6	(228)≒29.2 × 8.0＝233.6
北壁沿高床幅	123 ＝30.0 × 4.1	123 ≒29.2 × 4.0＝116.8
西柱筋—D_{21}	87 ＝30.0 × 2.9	87 ≒29.2 × 3.0＝ 87.6
D_{21}—西壁	24 ＝30.0 × 0.8	24 ≒29.2 × 1.0＝ 29.2

(D_{21}—南高床)換算	計　算　値	算　出　値
D_{21}—南高床北縁	(228)＝30.0cm× 7.6	(228)＝28.5cm× 8.0
△棟持 a_1	321 ＝30.0 ×10.7	321 ≒28.5 ×11.5＝327.8
D_{21}—南柱筋	167 ≒30.0 × 5.6＝168.0	167 ≒28.5 × 6.0＝171.0
△北壁沿高床幅	123 ＝30.0 × 4.1	123 ≒28.5 × 4.5＝128.3
西柱筋—D_{21}	87 ＝30.0 × 2.9	87 ≒28.5 × 3.0＝ 85.5
D_{21}—西壁	24 ＝30.0 × 0.8	24 ≒28.5 × 1.0＝ 28.5

規模	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	壁沿高床(2)
	建て替え祭祀
	床面積(28.7)㎡

表11　1011号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南—北	P11・14・32
N—21°—E	H21, DH21

番号	検出面標高
P_{11}	欠失
P_{12}	48.00
P_{13}	47.67
P_{14}	欠失
P_{21}	47.73
P_{22}	47.70
壁	48.22
高床	48.08
中床	48.02

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(0.77)	(0.77)	(−110)	(−110)	(−69)

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12} (368)	P_{11}—P_{13} (478)	(368)	(478)	南壁沿高床幅 (149)	西壁—西柱筋 26
	P_{13}—P_{14} (368)	P_{12}—P_{14} (478)	測 点 a_4	測 点 b_4	高床北縁—P_{21} (3)	西柱筋—H_{21}東縁 (92)
平均	● (368)	● (478)	南柱筋(HP_{211})—H_{21}南縁 (18)	西壁—HP_{212} 26	P_{21}—南柱筋 7	H_{21}東縁—棟持柱筋 (135)
	棟持柱間 a_1		H_{21}長 (340)	HP_{212}—H_{21}東縁 (92)	南柱筋—D_{11} ●176	棟持柱筋—D_{11} 20
	P_{21}—P_{22} ●299		H_{21}北縁—北柱縁(HP_{212}) (10)	測 点 b	D_{11}—P_{22} 116	D_{11}—HD_{21}西縁 (126)
	測 点 a_4		HP_{211}—HP_{212} ● (368)	H_{21}幅 (118)	P_{22}—北柱筋 76	HD_{21}西縁—D_{21} 89
	HD_{21}長 (194)		南柱筋—HD_{21}南縁 (117)	HD_{21}幅 (125)	北柱筋—高床南縁 45	D_{21}—東柱筋 13
	P_{31}—P_{21}東西軸 26		HD_{21}南縁—D_{21} (92)	P_{31}—棟持柱筋 80	北壁沿高床幅 114	東柱筋—東壁 23
			D_{21}—HD_{21}南縁 (102)		南壁—北壁 ● (686)	西壁—東壁 ● (523)
			HD_{21}南縁—北柱筋 (57)			

番号	標 高
P_{11}	欠失
P_{12}	47.83
P_{13}	47.60
P_{14}	欠失
P_{21}	47.69
P_{22}	47.35
D_{11}	47.47
D_{21}	47.75
DH_{21}	欠失
DP_{211}	無配置
DP_{212}	無配置
H_{21}	48.02
HP_{211}	P_{11}兼用
HP_{212}	P_{12}兼用
刀子	48.07
P_{221}	47.28
P_{31}	47.56
P_{32}	未検出

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	299 ≒30.0cm×10.0=300.0	299 =29.9cm×10.0
梁　行　B	(478)≒30.0 ×15.9=477.0	(478)=29.9 ×16.0=478.4
△$HP_{211}-HP_{212}$	(368)≒30.0 ×12.3=369.0	(368)≒29.9 ×12.5=373.8
南柱筋−D_{11}	176 ≒30.0 × 5.9=177.0	176 ≒29.9 × 6.0=179.4
南壁−北壁	(686)≒30.0 ×22.9=687.0	(686)≒29.9 ×23.0=687.7
西壁−東壁	(523)≒30.0 ×17.4=522.0	(523)≒29.9 ×17.0=508.3

($HP_{211}-HP_{212}$)換算	計　算　値	算　出　値
△$HP_{211}-HP_{212}$	(368)=29.9cm×12.3=367.8	(368)=29.4cm×12.5=367.5
棟　持　a_1	299 =29.9 ×10.0	299 ≒29.4 ×10.0=294.0
梁　行　B	(478)=29.9 ×16.0=478.4	(478)≒29.4 ×16.5=485.1
南柱筋−D_{11}	176 =29.9 × 5.9=176.4	176 =29.4 × 6.0=176.4
南壁−北壁	(686)≒29.9 ×22.9=684.7	(686)≒29.4 ×23.0=676.2
西壁−東壁	(523)=29.9 ×17.5=523.3	(523)≒29.4 ×18.0=529.2

規模	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	壁沿高床 2
	方形区画 DH_{21}
	方形区画 H_{21}
	住居遺棄祭祀
	床面積(35.9)㎡

表12　1018号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南東−北西 N−51°−W	P13・14・42a P42b・43b P44b

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a	測　点　b
	$P_{11}-P_{12}$	$P_{11}-P_{13}$	361	(266)	西壁−西柱筋	北壁−北柱筋
	361	(266)			81	51
	$P_{13}-P_{14}$	$P_{12}-P_{14}$	測　点 a_4	測　点 b_4	西柱筋−P_{21}	北柱筋−D_{11}
	(361)	(266)	西柱筋−DP_{211}	北柱筋−P_{21}	0	180
平均	●361	●(266)	136	133	$P_{21}-D_{11}$	$D_{11}-DP_{211}$
	棟持柱間 a_1		$DP_{211}-D_{21}$	北柱筋−P_{22}	201	98
	$P_{21}-P_{22}$		35	127	D_{11}−東柱筋	$DP_{211}-D_{21}$
	●361		$D_{21}-DP_{212}$	南柱筋−P_{21}	160	20
			33	(133)	東柱筋−P_{22}	D_{21}−南壁
			DP_{212}−東柱筋	南柱筋−P_{22}	0	49
			137	139	P_{22}−東壁	北壁−南壁
			$DP_{211}-DP_{212}$		97	●398
			●68		西壁−東壁	測　点　B
					●539	$P_{41}b$−北壁
						45

番号	検出面標高
P_{11}	48.64
P_{12}	48.59
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.68
P_{22}	48.64
壁	48.74
高床	
中床	48.73

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.36	1.36	95	95	0

番号	標　高
P_{11}	48.35
P_{12}	48.25
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.54
P_{22}	48.30
$P_{41}a$	48.48
$P_{41}b$	48.63
$P_{43}a$	48.46
$P_{44}a$	48.46
D_{11}	48.59
D_{21}	48.46
DP_{211}	48.27
DP_{212}	48.26
測　点　A	
$P_{41}a$−西壁	41
$P_{43}a$−西壁	54
$P_{44}a$−東壁	45

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	361 =30.1cm×12.0=361.2	左に同じ
梁　行　B	(266)≒30.1 × 8.8=264.9	(266)≒30.1 × 9.0=271.0
△$DP_{211}-DP_{212}$	68 ≒30.1 × 2.3= 69.2	68 ≒30.1 × 2.5= 75.3
西壁−東壁	539 ≒30.1 ×17.9=538.8	539 ≒30.1 ×18.0=541.8
北壁−南壁	398 ≒30.1 ×13.2=397.3	398 =30.1 ×13.0=391.3

($DP_{211}-DP_{212}$)換算	計　算　値	算　出　値
△$DP_{211}-DP_{212}$	68 =29.6cm× 2.3= 68.1	68 =27.2cm× 2.5
△桁　行　A	361 =29.6 ×12.2=361.1	361 ≒27.2 ×13.5=367.2
梁　行　B	(266)=29.6 × 9.0=266.4	(266)=27.2 ×10.0=272.0
西壁−東壁	539 =29.6 ×18.2=538.7	539 =27.2 ×20.0=544.0
北壁−南壁	398 ≒29.6 ×13.4=396.6	398 =27.2 ×15.0=408.0

規模	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　2
	対角柱　(8)
	床面積21.5㎡

表13　1018号Ｂ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南東ー北西 N−49°−W	P13・14

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a_1	測 点 b_1
	$P_{11}-P_{12}$ 341	$P_{11}-P_{12}$ (292)	341	(292)	西壁−西柱筋 96	北壁−北柱筋 30
	$P_{13}-P_{14}$ (341)	$P_{13}-P_{14}$ (292)	測 点 A		西柱筋−P_{21} 70	北柱筋−D_{11} 186
平均	●341	●(292)	西柱筋−DP_{211} 146		$P_{21}-D_{11}$ 117	$D_{11}-DP_{212}$ 98
	棟持柱間 a_1		$DP_{211}-D_{21}$ 43		$D_{11}-P_{21}$ 108	$DP_{212}-D_{21}$ 15
	$P_{21}-P_{22}$ ●225		$D_{21}-DP_{212}$ 27		P_{21}−東柱筋 46	D_{21}−南壁 60
			DP_{212}−東柱筋 125		東柱筋−東壁 105	北壁−南壁 ●389
			$DP_{211}-DP_{212}$ ●70		西壁−東壁 ●542	

番号	標 高
P_{11}	48.40
P_{12}	48.25
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.17
P_{22}	48.12
D_{11}	48.59
D_{21}	48.32
DP_{211}	48.25
DP_{212}	48.25

番号	検出面標高
P_{11}	48.64
P_{12}	重複
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	48.68
P_{22}	48.70
壁	48.67
高床	
中床	48.66

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.17	1.17	49	49	−116

桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	341 =29.9cm×11.4=340.9	341 =31.0cm×11.0
△梁　行　B	(292)≒29.9 × 9.8=293.0	(292)≒31.0 × 9.5=294.5
△棟　持　a_1	225 ≒29.9 × 7.5=224.3	225 ≒31.0 × 7.5=232.5
△$DP_{211}-DP_{212}$	70 ≒29.9 × 2.3= 68.8	70 ≒31.0 × 2.5= 77.5
西壁−東壁	542 ≒29.9 ×18.0=538.2	542 ≒31.0 ×17.0=527.0
北壁−南壁	389 ≒29.9 ×13.0=388.8	389 ≒31.0 ×13.0=403.0

●($DP_{211}-DP_{212}$)換算	計　算　値	算　出　値
△$DP_{211}-DP_{212}$	70 =30.4cm× 2.3= 69.9	70 =28.0cm× 2.5
桁　行　A	341 =30.4 ×11.2=340.5	341 ≒28.0 ×12.0=336.0
△梁　行　B	(292)=30.4 × 9.6=291.9	(292)≒28.0 ×10.5=294.0
棟　持　a_1	225 =30.4 × 7.4=225.0	225 ≒28.0 × 8.0=224.0
西壁−東壁	542 ≒30.4 ×18.0=547.2	542 ≒28.0 ×19.0=532.0
北壁−南壁	389 ≒30.4 ×13.0=395.2	389 ≒28.0 ×14.0=392.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　2
	床面積21.1㎡

表14　1019号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南東ー北西 N−34°−W	P12・14

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	$P_{11}-P_{12}$ (327)	$P_{11}-P_{13}$ 297	(327)	297	北壁−北柱筋 103	東壁−東柱筋 63
	$P_{13}-P_{14}$ (327)	$P_{12}-P_{14}$ (297)	測 点 a_4	測 点 b_4	北柱筋−P_{21} 10	東柱筋−DP_{111} 183
平均	●(327)	●297	北柱筋−DP_{211} 114	東柱筋−P_{21} 130	$P_{21}-DP_{111}$ 177	$DP_{111}-DP_{211}$ 114
	棟持柱間 a_1		$DP_{211}-DP_{21}$ 34	P_{21}−西柱筋 167	$DP_{111}-P_{22}$ 130	$DP_{211}-D_{21}$ 5
	$P_{21}-P_{22}$ ●307		$DP_{21}-DP_{212}$ 40	東柱筋−P_{22} 130	P_{22}−南柱筋 10	D_{21}−西壁 57
			$DP_{211}-DP_{212}$ ●74	P_{22}−南柱筋 167	南柱筋−P_{81} 47	東壁−西壁 ●422
			DP_{212}−南柱筋 139	P_{81}−棟持柱筋 8	P_{81}−南壁 61	
			壁隅高床西縁−棟持柱筋 10		南柱筋−壁隅高床 10	
					壁隅高床幅 118	
					北壁−南壁 ●538	

番号	標 高
P_{11}	48.17
P_{12}	未確認
P_{13}	48.15
P_{14}	未確認
P_{21}	48.23
P_{22}	48.27
P_{81}	48.17
D_{11}	48.22
DP_{111}	48.17
D_{21}	48.01
DP_{211}	47.97
DP_{212}	47.99

番号	検出面標高
P_{11}	48.31
P_{12}	未確認
P_{13}	48.28
P_{14}	未確認
P_{21}	48.33
P_{22}	48.41
壁	48.66
高床	48.48
中床	48.39

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.10	1.10	30	30	−20

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(327)＝30.0cm×10.9	(327)＝29.7cm×11.0＝326.7
梁行 B	297 ＝30.0 × 9.9	297 ＝29.7 ×10.0
△棟持 a_1	307 ≒30.0 ×10.2＝306.0	307 ≒29.7 ×10.5＝311.9
△DP_{211}−DP_{212}	74 ≒30.0 × 2.5＝ 75.0	74 ＝29.7 × 2.5＝ 74.3
北壁−南壁	538 ≒30.0 ×17.9＝537.0	538 ≒29.7 ×18.0＝534.6
東壁−西壁	422 ≒30.0 ×14.1＝423.0	422 ≒29.7 ×14.0＝415.8

●(DP_{211}−DP_{212})換算	計算値	算出値
△(DP_{211}−DP_{212})	74 ≒30.0cm× 2.5＝ 75.0	74 ＝29.6cm× 2.5
桁行 A	(327)＝30.0 ×10.9	(327)≒29.6 ×11.0＝325.6
梁行 B	297 ＝30.0 × 9.9	297 ≒29.6 ×10.0＝296.0
△棟持 a_1	307 ≒30.0 ×10.2＝306.0	307 ≒29.6 ×10.5＝310.8
北壁−南壁	538 ≒30.0 ×17.9＝537.0	538 ≒29.6 ×18.0＝532.8
東壁−西壁	422 ≒30.0 ×14.1＝423.0	422 ≒29.6 ×14.0＝414.4

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 1
	壁隅高床 1
	床面積22.7m²

表15 1019号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南東−北西 N−32°−W	P11・14

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}−P_{12} (259)	P_{11}−P_{13} (357)	(259)	(357)	北壁−P_{81} 112	東壁−東柱筋 17
	P_{13}−P_{14} (259)	P_{12}−P_{14} (357)	測点 a_4	測点 b_4	P_{81}−北柱筋 20	東柱筋−DP_{111} 223
平均	● (259)	● (357)	北柱筋−DP_{211} 93	東柱筋−P_{21} 191	北柱筋−P_{21} 38	DP_{111}−D_{21} 131
	棟持柱間 a_1		DP_{211}−D_{21} 38	P 2 1−西柱筋 166	P_{21}−DP_{111} 120	D_{21}−DP_{211} 3
	P_{21}−P_{22} ●208		D_{21}−DP_{212} 32	東柱筋−P_{22} 191	DP_{111}−P_{22} 88	D_{21}−西壁 49
			DP_{211}−DP_{212} ●70	P_{22}−西柱筋 166	P_{22}−南柱筋 13	東壁−西壁 ●423
			DP_{212}−南柱筋 96	P_{81}−棟持柱筋 17	南柱筋−壁隅高床 10	
			壁隅高床西縁−棟持柱筋 10		壁隅高床幅 137	
					北壁−南壁 ●538	

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	38.34
P_{13}	48.28
P_{14}	未確認
P_{21}	48.35
P_{22}	48.37
壁	48.66
高床	48.39
中床	48.35

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.73	0.73	−98	−98	−51

番号	標高
P_{11}	未確認
P_{12}	48.09
P_{13}	48.16
P_{14}	48.25
P_{21}	47.72
P_{22}	47.71
P_{81}	48.18
D_{11}	48.16
DP_{111}	48.13
D_{21}	48.01
DP_{211}	47.92
DP_{212}	47.87

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(259)＝30.1cm× 8.6＝258.9	(259)＝28.8cm× 9.0＝259.2
△梁行 B	(357)≒30.1 ×11.9＝358.2	(357)≒28.8 ×12.5＝360.0
棟持 a_1	208 ＝30.1 × 6.9＝207.7	208 ≒28.8 × 7.0＝201.6
△DP_{211}−DP_{212}	70 ≒30.1 × 2.3＝ 69.2	70 ≒28.8 × 2.5＝ 72.0
北壁−南壁	538 ≒30.1 ×17.9＝538.8	538 ≒28.8 ×19.0＝547.2
東壁−西壁	423 ≒30.1 ×14.1＝424.4	423 ＝28.8 ×15.0＝432.0

(DP_{211}−DP_{212})換算	計算値	算出値
△(DP_{211}−DP_{212})	70 ＝30.4cm× 2.3＝ 69.9	70 ＝28.0cm× 2.5
桁行 A	(259)≒30.4 × 8.5＝258.4	(259)≒28.0 × 9.5＝266.0
梁行 B	(357)≒30.4 ×11.7＝355.7	(357)≒28.0 ×13.0＝364.0
△棟持 a_1	208 ≒30.4 × 6.8＝206.7	208 ≒28.0 × 7.5＝210.0
北壁−南壁	538 ＝30.4 ×17.7＝538.1	538 ≒28.0 ×19.0＝532.0
東壁−西壁	423 ＝30.4 ×13.9＝422.6	423 ≒28.0 ×15.0＝420.0

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 1
	壁隅高床 1
	床面積22.8m²

表16　1019号Ｃ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南東—北西 N—27°—W	P11〜14 D11

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12} (257)	P_{11}—P_{13} (332)	(257)	(332)	北壁—P_{81} 100	東壁—東柱筋 49
	P_{13}—P_{14} (257)	P_{13}—P_{14} (332)	測 点 a_4	測 点 b_4	P_{81}—北柱筋 48	西柱筋—西壁 44
平均	● (257)	● (332)	北柱筋—DP_{211}	東筋柱—P_{21} (166)	北柱筋—P_{21} 72	東壁—西壁 ●425
	棟持柱間 a_1		DP_{211}—D_{21}	P_{21}—西柱筋 (166)	P_{22}—南柱筋 56	
	P_{21}—P_{22} ●129		D_{21}—DP_{212}	東柱筋—P_{22} (166)	南柱筋—南壁 131	
			DP_{211}—DP_{212}	P_{22}—西柱筋 (166)	北壁—南壁 ●536	
			DP_{212}—南柱筋	P_{31}—P_{32} ●168		
			P_{31}—南柱筋 58			

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	重　複
P_{14}	欠　失
P_{21}	48.31
P_{22}	48.30
壁	48.66
高床	
中床	48.25

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(0.77)	(0.77)	(−75)	(−75)	(−128)

番号	標 高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	重複
P_{14}	欠失
P_{21}	未掘
P_{22}	47.56
P_{31}	48.11
P_{32}	48.03
P_{81}	48.18
D_{11}	欠失
D_{21}	欠失
DP_{211}	除去痕
DP_{212}	除去痕

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(257) = 29.9cm × 8.6 = 257.1	(257) = 28.6cm × 9.0 = 257.4
△梁　行　B	(332) = 29.9 × 11.1 = 331.9	(332) ≒ 28.6 × 11.5 = 328.9
△棟　持　a_1	129 = 29.9 × 4.3 = 128.6	129 = 28.6 × 4.5 = 128.7
P_{31} — P_{32}	168 ≒ 29.9 × 5.6 = 167.4	168 ≒ 28.6 × 6.0 = 171.6
北壁—南壁	536 ≒ 29.9 × 17.9 = 535.2	536 ≒ 28.6 × 19.0 = 543.4
東壁—西壁	425 = 29.9 × 14.2 = 424.6	425 ≒ 28.6 × 15.0 = 429.0

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	129 = 30.0cm × 4.3	129 = 32.3cm × 4.0 = 129.2
桁　行　A	(257) ≒ 30.0 × 8.6 = 258.0	(257) ≒ 32.3 × 8.0 = 258.4
△梁　行　B	(332) ≒ 30.0 × 11.1 = 333.0	(332) ≒ 32.3 × 10.5 = 339.2
P_{31} — P_{32}	168 = 30.0 × 5.6	168 ≒ 32.3 × 5.0 = 161.5
北壁—南壁	536 ≒ 30.0 × 17.9 = 537.0	536 ≒ 32.3 × 17.0 = 549.1
東壁—西壁	425 ≒ 30.0 × 14.2 = 426.0	425 ≒ 32.3 × 13.0 = 419.9

規模	
	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　2
	主軸間柱 2
	補　柱　1
	床面積22.8㎡

表17　1020号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南—北 N—5°—W	P11〜13 DP111

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12} (232)	P_{11}—P_{13} (262)	(232)	(262)	北壁—北柱筋 (159)	東壁—東柱筋 77
	P_{13}—P_{14} (232)	P_{12}—P_{14} (262)	測 点 a_4	測 点 b_4	北柱筋—P_{21} (38)	東柱筋—D_{11} 176
平均	● (232)	● (262)	北柱筋—DP_{211} 81	東柱筋—P_{21} (131)	P_{21}—D_{11} 78	D_{11}—西柱筋 78
	棟持柱間 a_1		DP_{211}—D_{21} 39	P_{21}—西柱筋 (131)	D_{11}—P_{22} 78	西柱筋—D_{21} 8
	P_{21}—P_{22} ●156		D_{21}—DP_{212} 30	東柱筋—P_{22} (131)	P_{22}—南柱筋 38	D_{21}—DP_{212} 16
			DP_{211}—DP_{212} ●69	P_{22}—西柱筋 131	南柱筋—南壁 (161)	DP_{212}—西壁 64
			DP_{212}—南柱筋 82		北壁—南壁 ● (552)	東壁—西壁 ●419

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	48.28
P_{21}	48.29
P_{22}	48.26
壁	48.67
高床	
中床	48.35

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(0.89)	(0.89)	(−30)	(−30)	(−76)

番号	標 高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	48.10
P_{21}	47.54
P_{22}	47.53
D_{11}	48.26
DP_{111}	欠失
D_{21}	47.15
DP_{211}	48.14
DP_{212}	48.10

●桁行換算	計算値	算出値
桁行A	(232)＝30.1cm× 7.7＝231.8	(232)＝29.0cm× 8.0
梁行B	(262)＝30.1 × 8.7＝261.9	(262)≒29.0 × 9.0＝261.0
△棟持a_1	156 ≒30.1 × 5.2＝156.5	156 ≒29.0 × 5.5＝159.5
△DP_{211}—DP_{212}	69 ＝30.1 × 2.3＝ 69.2	69 ≒29.0 × 2.5＝ 72.5
北壁—南壁	(552)≒30.1 ×18.3＝550.9	(552)≒29.0 ×19.0＝551.0
東壁—西壁	419 ≒30.1 ×13.9＝418.4	419 ≒29.0 ×14.0＝406.0

(DP_{211}—DP_{212})換算	計算値	算出値
△DP_{211}—DP_{212}	69 ＝30.0cm× 2.3	69 ＝27.6cm× 2.5
△桁行A	(232)≒30.0 × 7.7＝231.0	(232)≒27.6 × 8.5＝234.6
△梁行B	(262)≒30.0 × 8.7＝261.0	(262)≒27.6 × 9.5＝262.2
△棟持a_1	156 ＝30.0 × 5.2	156 ≒27.6 × 5.5＝151.8
北壁—南壁	(552)＝30.0 ×18.4	(552)＝27.6 ×20.0＝552.0
東壁—西壁	419 ≒30.0 ×14.0＝420.0	419 ＝27.6 ×15.0＝414.0

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 1
	床面積(23.1)㎡

表18 1020号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南—北 N—5°—W	P11〜14 P21・22

	桁行A	梁行B
	P_{11}—P_{12} (232)	P_{11}—P_{13} (262)
	P_{13}—P_{14} (232)	P_{12}—P_{14} (262)
平均	●(232)	●(262)
	棟持柱間a_1	
	P_{21}—P_{22} ●(156)	

桁行柱間a_2	梁間b_2	測点a	測点b
(232)	(262)	北壁—北柱筋 (125)	東壁—東柱筋 29
測点a_4	測点b_4	北柱筋—P_{21} (38)	東柱筋—DP_{111} 145
北柱筋—DP_{211} 81	東柱筋—P_{21} (131)	P_{21}—DP_{111} (60)	DP_{111}—D_{21} 89
DP_{211}—D_{21} 35	P_{21}—西柱筋 (131)	DP_{111}—P_{21} (96)	DP_{111}—DP_{212} 89
D_{21}—DP_{212} 28	東柱筋—P_{22} (131)	P_{22}—南柱筋 (38)	DP_{212}—西柱筋 28
DP_{211}—DP_{212} ●63	P_{22}—西柱筋 (131)	南柱筋—南壁 (161)	西柱筋—西壁 32
DP_{212}—南柱筋 88		北壁—南壁 ●(518)	東壁—西壁 ●323

番号	標高
P_{11}	重複
P_{12}	重複
P_{13}	重複
P_{14}	重複
P_{21}	重複
P_{22}	重複
D_{11}	48.25
DP_{111}	48.20
D_{22}	48.12
DP_{211}	47.89
DP_{212}	47.97

番号	検出面標高
P_{11}	重複
P_{12}	重複
P_{13}	重複
P_{14}	重複
P_{21}	重複
P_{22}	重複
壁	48.67
高床	
中床	48.32

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(0.89)	(0.89)	(−30)	(−30)	(−76)

●棟持換算	計算値	算出値
棟持a_1	(156)＝30.0cm× 5.2	(156)＝31.2cm× 5.0
△桁行A	(232)≒30.0 × 7.7＝231.0	(232)≒31.2 × 7.5＝234.0
△梁行B	(262)≒30.0 × 8.7＝261.0	(262)≒31.2 × 8.5＝265.2
DP_{211}—DP_{212}	63 ＝30.0 × 2.1	63 ≒31.2 × 2.0＝ 62.4
北壁—南壁	(518)≒30.0 ×17.3＝519.0	(518)≒31.2 ×17.0＝530.4
東壁—西壁	323 ≒30.0 ×10.8＝324.0	323 ≒31.2 ×10.0＝312.0

●(DP_{211}—DP_{212})換算	計算値	算出値
DP_{211}—DP_{212}	63 ＝30.0cm× 2.1	63 ＝31.5cm× 2.0
△桁行A	(232)≒30.0 × 7.7＝231.0	(232)≒31.5 × 7.5＝236.3
△梁行B	(262)≒30.0 × 8.7＝261.0	(262)≒31.5 × 8.5＝267.8
棟持a_1	(156)＝30.0 × 5.2	(156)＝31.5 × 5.0＝157.5
北壁—南壁	(518)≒30.0 ×17.3＝519.0	(518)≒31.5 ×16.0＝504.0
東壁—西壁	323 ≒30.0 ×10.8＝324.0	323 ＝31.5 ×10.0＝315.0

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積(18.3)㎡

表19　1049号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北一南 N－5°－W	P11·12·14·21·22 D_{11}·D_{21}·H_{21}·HP_{212}

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12} (312)	P_{11}—P_{13} (260)	(312)	(260)	北壁—P_{21} 82	H_{21}幅 (90)
	P_{13}—P_{14} (312)	P_{12}—P_{14} (260)	測点 a_4	測点 b_4	P_{21}—北柱筋 (13)	H_{21}西縁—東柱筋 (40)
平均	●(312)	●(260)	北柱筋—H_{21}北縁 58	東壁—HP_{211} (90)	南柱筋—P_{22} (13)	西柱筋—西壁 (65)
	棟持柱間 a_1		H_{21}北縁—HP_{211} 22		P_{22}—南柱筋 (79)	東壁—西壁 ●(455)
	P_{21}—P_{22} ●(338)		HP_{211}—HP_{212} ●(153)		北壁—南壁 ●(486)	東壁—東柱筋 (130)
			HP_{212}—H_{21}南縁 (22)			
			H_{21}南縁—南柱筋 (58)			
			北柱筋—HP_{211} 80			

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	欠　失
P_{13}	47.91
P_{14}	欠　失
P_{21}	未確認
P_{22}	欠　失
壁	48.03
高床	
中床	48.00

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.20)	(1.20)	(52)	(52)	(26)

番号	標　高
P_{11}	未確認
P_{12}	欠失
P_{13}	47.78
P_{14}	欠失
P_{21}	未確認
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
DP_{111}	47.70
D_{21}	欠失
H_{21}	欠失
HP_{211}	(47.85)
HP_{212}	欠失

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	(338)＝29.9cm×11.3＝337.9	(338)＝30.7cm×11.0＝337.7
桁　行　A	(312)≒29.9　×10.4＝311.0	(312)≒30.7　×10.0＝307.0
△梁　行　B	(260)＝29.9　× 8.7＝260.1	(260)≒30.7　× 8.5＝261.0
HP_{211}—HP_{212}	(153)＝29.9　× 5.1＝152.5	(153)≒30.7　× 5.0＝153.5
北壁—南壁	(486)≒29.9　×16.3＝487.4	(486)≒30.7　×16.0＝491.2
東壁—西壁	(455)＝29.9　×15.2＝454.5	(455)≒30.7　×15.0＝460.5

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}—HP_{212}	(153)＝30.0cm× 5.1	(153)＝30.6cm× 5.0
棟　持　a_1	(338)≒30.0　×11.3＝339.0	(338)≒30.6　×11.0＝336.6
桁　行　A	(312)＝30.0　×10.4	(312)≒30.6　×10.0＝306.0
△梁　行　B	(260)≒30.0　× 8.7＝261.0	(260)＝30.6　× 8.5＝260.1
北壁—南壁	(486)＝30.0　×16.2	(486)≒30.6　×16.0＝489.6
東壁—西壁	(455)≒30.0　×15.2＝456.0	(455)≒30.6　×15.0＝459.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	方形区画 H_{21}
	床面積(22.1)㎡

表20　1049号Ｂ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北一南 N－5°－W	P11·12·14·21·22 D_{11}·D_{21}

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12} (312)	P_{11}—P_{13} (224)	(312)	(224)	北壁—北柱筋 82	東壁—東柱筋 (56)
	P_{13}—P_{14} (312)	P_{12}—P_{14} (224)			北柱筋—P_{21} (13)	東柱筋—DP_{111} 112
平均	●(312)	●(224)			P_{21}—DP_{111} (143)	DP_{111}—西柱筋 112
	棟持柱間 a_1				DP_{111}—P_{22} (143)	西柱筋—西壁 56
	P_{21}—P_{22} ●(286)				P_{22}—南柱筋 (13)	東壁—西壁 ●(336)
					南柱筋—南壁 (82)	
					北壁—南壁 ●(476)	
					北柱筋—DP_{111} ●156	
					DP_{111}—南柱筋 (156)	

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	欠　失
P_{13}	47.93
P_{14}	欠　失
P_{21}	未確認
P_{22}	欠　失
壁	48.03
高床	
中床	47.97

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.39)	(1.39)	(88)	(88)	(－26)

番号	標　高
P_{11}	未確認
P_{12}	欠失
P_{13}	47.81
P_{14}	欠失
P_{21}	未確認
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
DP_{111}	47.70
D_{21}	欠失

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
△棟　持　a_1	(286)≒30.1cm× 9.5=285.95	左に同じ
△桁　行　A	(312)≒30.1　×10.4=313.0	(312)≒30.1　×10.5=316.1
△梁　行　B	(224)≒30.1　× 7.4=222.7	(224)≒30.1　× 7.5=225.8
北柱筋—DP_{111}	156 ≒30.1　× 5.2=156.5	156 ≒30.1　× 5.0=150.5
北壁—南壁	(476)≒30.1　×15.8=475.6	(476)≒30.1　×16.0=481.6
東壁—西壁	(336)≒30.1　×11.2=337.1	(336)≒30.1　×11.0=331.1

●(北柱筋—DP_{111})換算	計　算　値	算　出　値
北柱筋—DP_{111}	156 =30.0cm× 5.2	156 =31.2cm× 5.0
棟　持　a_1	(286)≒30.0　× 9.5=285.0	(286)≒31.2　× 9.0=280.8
桁　行　A	(312)=30.0　×10.4	(312)=31.2　×10.0
梁　行　B	(224)≒30.0　× 7.5=225.0	(224)≒31.2　× 7.0=218.4
北壁—南壁	(476)≒30.0　×15.9=477.0	(476)=31.2　×15.0=468.0
東壁—西壁	(336)=30.0　×11.2	(336)≒31.2　×11.0=343.2

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	床面積(15.6)㎡

表21　1057号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
西—東 N—73°—E	P12・14・32 D11・21

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a	測　点　b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13} 266		(266)	西壁沿高床幅	北柱筋—棟持柱筋 129
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14} (266)	測　点　a_4	測　点　b_4	高床東縁—P_{21} 9	棟持柱筋—南柱筋 137
			P_{31}—P_{21}南北軸	P_{31}—棟持柱筋		
平均		●266	9	66	P_{21}—西柱筋 ●45	
	棟持柱間 a_1					
	P_{21}—P_{22}					

番号	検出面標高
P_{11}	47.80
P_{12}	未確認
P_{13}	47.55
P_{14}	未確認
P_{21}	47.73
P_{22}	未確認
壁	47.82
高床	未検出
中床	47.80

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

番号	標　高
P_{11}	47.74
P_{12}	未確認
P_{13}	47.42
P_{14}	未確認
P_{21}	47.57
P_{22}	未確認
P_{31}	47.70
P_{32}	欠失
D_{11}	未確認
D_{21}	未確認

●梁行換算	計　算　値	算　出　値
梁　行　B	266=29.9cm×8.9=266.1	266≒29.6cm×9.0=264.4
△P_{21}—西柱筋	45=29.9　×1.5= 44.9	45=29.6　×1.5= 44.9

●(P_{21}—西柱筋)換算	計　算　値	算　出　値
△P_{21}—西柱筋	45=30.0cm×1.5	左に同じ
梁　行　B	266≒30.0　×8.9=267.0	266≒30.0　×9.0=270.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　2
	壁沿高床(2)
	床面積　㎡

表22　1413号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北東—南西 N—30°—E	P11・12・14 P21・22, H21

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠　失
P_{13}	47.51
P_{14}	欠　失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠　失
壁	47.66
高床	欠　失
中床	47.54

	桁　行　A	梁　行　B
	P_{11}—P_{12} (354)	P_{11}—P_{12} (332)
	P_{13}—P_{14} (354)	P_{12}—P_{14} (332)
平均	●(354)	●(332)

棟持柱間 a_1
P_{21}—P_{22} ●(395)

桁行柱間 a_2	梁　間 b_2
(354)	(332)

測　点　a_4
北柱筋—H_{21}南縁 (49)
H_{21}南縁—HP_{211} (112)
HP_{211}—HP_{212} ●32
HP_{212}—H_{21}北縁 (112)
H_{21}長 (256)
H_{21}北縁—南柱筋 (49)

測　点　a	測　点　b
北壁高床幅 (92)	東壁沿高床幅 (92)
高床南縁—P_{21} (21)	高床西縁—東柱筋 0
P_{21}—北柱筋 (33)	東柱筋—D_{11} 166
北柱筋—D_{11} 165	D_{11}—H_{21}東縁 86
D_{11}—南柱筋 189	H_{21}東縁—HP_{211} 58
南柱筋—P_{22} (8)	HP_{211}—西柱筋 22
P_{21}—高床北縁 (46)	西柱筋—西壁 44
南壁高床幅 (92)	東壁—西壁 ●(468)
北壁—南壁 ●(646)	H_{21}幅 124

番号	標　高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	47.44
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	47.42
H_{21}	欠失
HP_{211}	46.79
HP_{212}	46.86

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.07)	(1.07)	(22)	(22)	(41)

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(354)＝30.0cm×11.8	(354)＝29.5cm×12.0
梁　行　B	(332)≒30.0　×11.1＝333.0	(332)≒29.5　×11.5＝339.3
棟　持　a_1	(395)≒30.0　×13.2＝396.0	(395)≒29.5　×13.5＝398.3
HP_{211}—HP_{212}	32　≒30.0　×　1.1＝　33.0	32　≒29.5　×　1.0＝　29.5
北壁—南壁	(646)≒30.0　×21.5＝645.0	(646)≒29.5　×22.0＝649.0
東壁—西壁	(468)＝30.0　×15.6	(468)≒29.5　×16.0＝472.0

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}—HP_{212}	32　≒29.1cm×　1.1＝　29.1	32　＝32.0cm×　1.0
桁　行　A	(354)≒29.1　×12.2＝355.0	(354)≒32.0　×11.0＝352.0
梁　行　B	(332)≒29.1　×11.1＝327.5	(332)≒32.0　×10.5＝336.0
棟　持　a_1	(395)≒29.1　×13.6＝395.8	(395)≒32.0　×12.5＝400.0
北壁—南壁	(646)＝29.1　×22.2＝646.02	(646)≒32.0　×20.0＝640.0
東壁—西壁	(468)≒29.1　×16.1＝468.5	(468)≒32.0　×15.0＝480.0

規模	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	高　床　(3)
	(方形区画 H_{21})
	壁床面積(30.2)㎡

表23　1413号Ｂ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北東—南西	P11・12・14
N—30°—E	P21・22, H21

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠　失
P_{13}	47.51
P_{14}	欠　失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠　失
壁	47.66
高床	欠　失
中床	47.49

	桁 行 A	梁 行 B
	P_{11}—P_{12} (256)	P_{11}—P_{13} (332)
	P_{13}—P_{14} (256)	P_{12}—P_{14} (332)
平均	●(259)	(332)

棟持柱間 a_1
P_{21}—P_{22} ●(322)

桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
(256)	(332)

測 点 a_4	
北柱筋—HP_{21}南縁	0
H_{21}南縁—HP_{211}	112
HP_{211}—HP_{212}	●(32)
HP_{212}—HP_{21}北縁	(112)
H_{21}長	(256)
H_{21}北縁—南柱筋	0

測 点 a		測 点 b	
北壁高床幅	103	東壁—東柱筋	(89)
北壁—P_{21}	(70)	東柱筋—D_{11}	(166)
P_{21}—北柱筋	(33)	D_{11}—H_{21}東縁	(89)
北柱筋—D_{11}	128	H_{21}東縁—HP_{211}	58
D_{11}—南柱筋	(128)	HP_{211}—西柱筋	19
南柱筋—P_{22}	0	西柱筋—西壁	47
P_{22}—南柱筋	(33)	東壁—西壁	●(468)
南柱筋—P_{22}	(70)	H_{21}幅	●124
南壁高床幅	(103)		
北壁—南壁	●(462)		

番号	標 高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	47.45
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	重複
H_{21}	欠失
HP_{211}	欠失
HP_{212}	46.81

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.77	(0.77)	(−76)	(−76)	(66)

桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(256)＝30.1cm× 8.5＝255.9	(256)≒28.4cm× 9.0＝255.6
H_{21}　幅	124 ≒30.1 × 4.1＝123.4	124 ＝28.4 × 4.5＝127.8
棟　持　a_1	(322)＝30.1 ×10.7＝322.1	(322)≒28.4 ×11.5＝326.6
HP_{211}—HP_{212}	(32)≒30.1 × 1.1＝ 33.1	(32)≒28.4 × 1.0＝ 28.4
北壁—南壁	(462)≒30.1 ×15.3＝460.5	(462)≒28.4 ×16.0＝454.4
東壁—西壁	(468)≒30.1 ×15.5＝466.6	(468)≒28.4 ×16.0＝454.4

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}—HP_{212}	(32)≒29.1cm× 1.1＝ 29.1	(32)＝32.0cm× 1.0
桁　行　A	(256)＝29.1 × 8.8＝256.1	(256)＝32.0 × 8.0
H_{21}　幅	124 ≒29.1 × 4.3＝125.1	124 ≒32.0 × 4.0＝128.0
棟　持　a_1	(322)≒29.1 ×11.1＝323.0	322 ≒32.0 ×10.0＝320.0
北壁—南壁	(462)≒29.1 ×15.9＝462.7	(462)≒32.0 ×14.0＝448.0
東壁—西壁	(468)≒29.1 ×16.1＝468.6	(468)≒32.0 ×15.0＝480.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	高　床　(2)
	(方形区画 H_{21})
	床面積(21.6)㎡

表24　1413号Ｃ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北東—南西	P11～14・21
N—30°—E	P22・H21

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠　失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠　失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠　失
壁	47.66
高床	
中床	47.48

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a	測　点　b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}	(448)	(332)	北壁—北柱筋	東壁—東柱筋
	(448)	(332)			(7)	(87)
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測　点　a_4		北柱筋—P_{21}	東柱筋—D_{11}
	(448)	(332)	北柱筋—H_{21}南縁		(33)	(166)
平均	●(448)	●(332)	96		P_{21}—D_{11}	D_{11}—H_{21}東縁
	棟持柱間 a_1		H_{21}南縁—HP_{211}		(191)	(91)
	P_{21}—P_{22}		(65)		D_{11}—P_{22}	H_{21}東縁—HP_{211}
	●(382)		HP_{211}—HP_{212}		(191)	(53)
			●126		P_{22}—南柱筋	HP_{211}—西柱筋
			HP_{212}—H_{21}北縁		(33)	(22)
			(65)		南柱筋—南壁	西柱筋—西壁
			H_{21}長		(7)	49
			●(256)		北壁—南壁	東壁—西壁
			H_{21}北縁—南柱筋		●(462)	●(468)
			(96)			H_{21}幅
						(124)

番号	標　高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	重複
H_{21}	欠失
HP_{211}	47.17
HP_{212}	47.29

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.35)	(1.35)	(116)	(116)	(−66)

桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(448)≒30.1cm×14.9＝448.5	(448)≒29.9cm×15.0＝448.5
H_{21}　長	(256)＝30.1　× 8.5＝255.9	(256)≒29.9　× 8.5＝254.2
棟　持　a_1	(382)＝30.1　×12.7＝382.3	(382)≒29.9　×13.0＝388.7
HP_{211}—HP_{212}	126　＝30.1　× 4.2＝126.4	126　＝29.9　× 4.0＝119.6
北壁—南壁	(462)≒30.1　×15.3＝460.5	(462)＝29.9　×15.0＝448.5
東壁—西壁	(468)≒30.1　×15.5＝466.6	(468)＝29.9　×16.0＝478.4

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}—HP_{212}	126　＝30.0cm× 4.2	126　＝31.5cm× 4.0
桁　行　A	(448)≒30.0　×14.9＝447.0	(448)≒31.5　×14.0＝441.0
H_{21}　長	(256)≒30.0　× 8.5＝255.0	(256)≒31.5　× 8.0＝252.0
棟　持　a_1	(382)≒30.0　×12.7＝381.0	(382)≒31.5　×12.0＝378.0
北壁—南壁	(462)＝30.0　×15.4	(462)≒31.5　×14.0＝441.0
東壁—西壁	(468)＝30.0　×15.6	(468)＝31.5　×15.0＝472.5

規模	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	(方形区画 H_{21})
	床面積(21.6)㎡

表25　1413号Ｄ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北東—南西	P11～14・21
N—30°—E	P22・H21

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠　失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠　失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠　失
壁	47.66
高床	
中床	47.48

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a_4	測　点　b_4
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}	(422)	(332)	北壁—北柱筋	東壁—東柱筋
	(422)	(332)			(20)	(87)
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測　点　a_4		北柱筋—P_{21}	東柱筋—D_{11}
	(422)	(332)	北柱筋—H_{21}南縁		(33)	(166)
平均	●(422)	(332)	(83)		P_{21}—D_{11}	D_{11}—H_{21}東縁
	棟持柱間 a_1		H_{21}南縁—HP_{211}		(178)	(91)
	P_{21}—P_{22}		(78)		D_{11}—P_{22}	H_{21}東縁—西柱筋
	●(356)		HP_{211}—HP_{212}		(178)	(75)
			●100		P_{22}—南柱筋	西柱筋—HP_{211}
			HP_{212}—H_{21}北縁		(33)	●(30)
			(78)		南柱筋—南壁	HP_{211}—西壁
			H_{21}長		(20)	19
			(256)		北壁—南壁	東壁—西壁
			H_{21}北縁—南柱筋		●(462)	●(468)
			(83)			H_{21}幅
						(124)

番号	標　高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	重複
H_{21}	欠失
HP_{211}	47.18
HP_{212}	47.09

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.27)	(1.27)	(90)	(90)	−40

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(422)≒30.0cm×14.1=423.0	(422)≒30.1cm×14.0=421.4
西柱筋−HP_{211}	(30)=30.0　× 1.0	(30)≒30.1　× 1.0= 30.1
棟　持　a_1	(356)≒30.0　×11.9=357.0	(356)≒30.1　×12.0=361.2
HP_{211}−HP_{212}	100 ≒30.0　× 3.3= 99.0	100 ≒30.1　× 3.5=105.4
北壁一南壁	(462)=30.0　×15.4	(462)=30.1　×15.0=451.5
東壁一西壁	(468)=30.0　×15.6	(468)=30.1　×16.0=481.6

(HP_{211}−HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}−HP_{212}	100 =30.3cm× 3.3=99.99	100 =28.6cm× 3.5=100.1
桁　行　A	(422)≒30.3　×13.9=421.2	(422)≒28.6　×15.0=429.0
西柱筋−HP_{211}	(30)=30.3　× 1.0= 30.3	(30)≒28.6　× 1.0= 28.6
棟　持　a_1	(356)≒30.3　×11.7=354.5	(356)=28.6　×12.5=357.5
北壁一南壁	(462)≒30.3　×15.2=460.6	(462)≒28.6　×16.0=457.6
東壁一西壁	(468)≒30.3　×15.4=466.6	(468)≒28.6　×16.0=457.6

規	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
模	(方形区画 H_{21})
	床面積(21.6)㎡

表26　1413号Ｅ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北東一南西 N−30°−E	P11~14・21 P22・D11・H21

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠　失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠　失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠　失
壁	47.66
高床	
中床	47.47

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2
	P_{11}—P_{12} (438)	P_{11}—P_{13} (332)	(438)	(332)
	P_{13}—P_{14} (438)	P_{12}—P_{14} (332)		
平均	● (438)	(332)		
	棟持柱間 a_1			
	P_{21}—P_{22} ● (372)			

測　点 a_4
北柱筋−H_{21}南縁 ● (91)
H_{21}南縁−HP_{211} (70)
HP_{211}−HP_{212} ● (116)
HP_{212}−H_{21}北縁 (70)
H_{21}長 (256)
H_{21}北縁−南柱筋 96

測　点　a	測　点　b
北壁一北柱筋 (12)	東壁一東柱筋 (59)
北柱筋一P_{21} (33)	東柱筋一D_{11} (166)
P_{21}—D_{11} (186)	D_{11}−H_{21}東縁 (119)
D_{11}—P_{22} (186)	H_{21}東縁−HP_{211} 25
P_{22}一南柱筋 (33)	HP_{211}一西柱筋 (22)
南柱筋一南壁 12	西柱筋一西壁 77
北壁一南壁 ● (462)	東壁一西壁 ● (468)
	H_{21}幅 (124)

番号	標　高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
H_{21}	欠失
HP_{211}	47.00
HP_{212}	未確認

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.32)	(1.32)	(151)	(151)	(−66)

桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(438)=30.0cm×14.6	(438)=29.2cm×15.0
北柱筋−H_{21}南縁	(91)≒30.0　× 3.0= 90.0	(91)≒29.2　× 3.0= 87.6
棟　持　a_1	(372)=30.0　×12.4	(372)≒29.2　×12.5=365.0
HP_{211}−HP_{212}	(116)≒30.0　× 3.9=117.0	(116)≒29.2　× 4.0=116.8
北壁一南壁	(462)=30.0　×15.4	(462)≒29.2　×16.0=467.2
東壁一西壁	(468)=30.0　×15.6	(468)≒29.2　×16.0=467.2

●(HP_{211}−HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}−HP_{212}	(116)=29.7cm× 3.9=115.8	(116)=29.0cm× 4.0
桁　行　a_1	(438)≒29.7　×14.7=436.6	(438)=29.0　×15.0=435.0
北柱筋−H_{21}南縁	(91)≒29.7　× 3.1= 92.1	(91)=29.0　× 3.0= 87.0
棟　持　a_1	(372)≒29.7　×12.5=371.3	(372)=29.0　×13.0=377.0
北壁一南壁	(462)≒29.7　×15.6=463.3	(462)=29.0　×16.0=464.0
東壁一西壁	(468)≒29.7　×15.8=469.3	(468)=29.0　×16.0=464.0

規	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
模	(方形区画 H_{21})
	床面積(21.6)㎡

表27　1413号Ｆ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北東ー南西 N−30°−E	P11〜14・21 P22・D11・H21

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠　失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠　失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠　失
壁	47.66
高床	
中床	47.47

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a	測　点　b
	P_{11}—P_{12} (420)	P_{11}—P_{13} (332)	(420)	(332)	北壁—北柱筋 (21)	東壁—東柱筋 (12)
	P_{13}—P_{14} (420)	P_{12}—P_{14} (332)	測　点　a_4		北柱筋—P_{21} (33)	東柱筋—D_{11} (166)
平均	●(420)	(332)	北柱筋—H_{21}南縁 (82)		P_{21}—D_{11} (177)	D_{11}—HP_{211} ●(144)
	棟持柱間 a_1		H_{21}南縁—HP_{211} (79)		D_{11}—P_{22} (177)	HP_{211}—H_{21}東縁 (22)
	P_{21}—P_{22} ●(354)		HP_{211}—HP_{212} ●(98)		P_{22}—南柱筋 (33)	H_{21}東縁—西壁 124
			HP_{212}—H_{21}北縁 (79)		南柱筋—南壁 (21)	東壁—西壁 ●(468)
			H_{21}長 (256)		北壁—南壁 ●(462)	H_{21}幅 124
			H_{21}北縁—南柱筋 (82)			

番号	標　高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
H_{21}	欠失
HP_{211}	47.14
HP_{212}	47.41

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.23)	(1.23)	(88)	(88)	(−66)

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(420)＝30.0cm×14.0	左に同じ
D_{11}—HP_{211}	(144)＝30.0　× 4.8	(144)≒30.0　× 5.0＝150.0
棟　持　a_1	(354)＝30.0　×11.8	(354)≒30.0　×12.0＝360.0
HP_{211}—HP_{212}	(98)≒30.0　× 3.3＝99.0	(98)≒30.0　× 3.5＝105.0
北壁—南壁	(462)＝30.0　×15.4	(462)≒30.0　×15.0＝450.0
東壁—西壁	(468)＝30.0　×15.6	(468)≒30.0　×16.0＝480.0

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}—HP_{212}	(98)＝29.7cm× 3.3＝98.01	(98)＝28.0cm× 3.5
桁　行　A	(420)≒29.7　×14.1＝418.8	(420)＝28.0　×15.0
D_{11}—HP_{211}	(144)≒29.7　× 4.8＝142.6	(144)≒28.0　× 5.0＝140.0
棟　持　a_1	(354)≒29.7　×11.9＝353.4	(354)≒28.0　×13.0＝364.0
北壁—南壁	(462)≒29.7　×15.6＝463.3	(462)≒28.0　×16.0＝448.0
東壁—西壁	(468)≒29.7　×15.8＝469.3	(468)≒28.0　×17.0＝476.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	(方形区画 H_{21})
	床面積(21.6)㎡

表28　1414号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北西ー南東 N−60°−W	P11〜14・21 P22・D11

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	調査区外
壁	47.51
高床	47.44
中床	47.43

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2		測　点　a	測　点　b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}				H_{21}東縁—HP_{211} 66	H_{21}北縁—HP_{211} 91
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測　点　a_4 H_{21}長			H_{21}西縁—HP_{212} 61	H_{21}北縁—HP_{212} 100
平均			●151		平均	●64	●96
	棟持柱間 a_1					HP_{211}—HP_{212} ●24	HP_{211}—南壁 32
	P_{21}—P_{22}						HP_{212}—南壁 23
						平均	●28
							H_{21}幅 ●123

番号	標　高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
D_{11}	調査区外
H_{21}	47.43
HP_{211}	47.18
HP_{212}	47.30

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●H_{21}長換算	計　算　値	算　出　値
H_{21}　長	151＝30.2cm×5.0	左に同じ
H_{21}縁－HP	64≒30.2　×2.1＝63.4	64≒30.2　×2.0＝ 60.4
HP_{211}－HP_{212}	24＝30.2　×0.8＝24.2	24≒30.2　×1.0＝ 30.2
H_{21}北縁－HP	96≒30.2　×3.2＝96.6	96≒30.2　×3.0＝ 90.6
HP－南壁	28≒30.2　×0.9＝87.6	28≒30.2　×1.0＝ 30.2
H_{21}　幅	123≒30.2　×4.1＝123.8	123≒30.2　×4.0＝120.8

(HP_{211}－HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}－HP_{212}	24＝30.0cm×0.8	24＝24.0cm×1.0
H_{21}　長	151≒30.0　×5.0＝150.0	151≒24.0　×6.5＝156.0
H_{21}縁－HP	64≒30.0　×2.1＝ 63.0	64≒24.0　×2.5＝ 60.0
H_{21}北縁－HP	96＝30.0　×3.2	96＝24.0　×4.0
HP－南壁	28≒30.0　×0.9＝27.0	28≒24.0　×1.0＝ 24.0
H_{21}　幅	123＝30.0　×4.1	123≒24.0　×5.0＝120.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	高　床　(4)
	方形区画 H_{21}
	床面積　m²

表29　1414号Ｂ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北西－南東	P11～14・21
N－52°－W	P22・D11

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠　失
P_{21}	欠　失
P_{22}	調査区外
壁	47.43
高床	47.42
中床	47.33

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a	測　点　b
	P_{11}－P_{12}	P_{11}－P_{13}			H_{21}東縁－HP_{211} 28	H_{21}北縁－HP_{211} 61
	P_{13}－P_{14}	P_{12}－P_{14}	測　点 a_4 H_{21}長		H_{21}西縁－HP_{212} (16)	H_{21}北縁－HP_{212} (61)
平均			●150	平均	●22	●61
	棟持柱間 a_1				HP_{211}－HP_{212}	HP_{211}－南壁
	P_{21}－P_{22}				●(106)	40
						HP_{212}－南壁 (40)
					平均	●40
						H_{21}幅 ●101

番号	標　高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	調査区外
D_{11}	調査区外
H_{21}	47.33
HP_{211}	47.25
HP_{212}	47.20

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●H_{21}長換算	計　算　値	算　出　値
H_{21}　長	150 ＝30.0cm×5.0	左に同じ
H_{21}縁－HP	22 ≒30.0　×0.7＝ 21.0	22≒30.0　×0.5＝ 15.0
HP_{211}－HP_{212}	(106)≒30.0　×3.5＝105.0	左に同じ
H_{21}北縁－HP	61 ≒30.0　×2.0＝ 60.0	左に同じ
HP－南壁	40 ≒30.0　×1.3＝ 39.0	40≒30.0　×1.5＝ 45.0
H_{21}　幅	101 ≒30.0　×3.4＝102.0	101≒30.0　×3.5＝105.0

●(HP_{211}－HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}－HP_{212}	(106)≒30.3cm×3.5＝106.1	左に同じ
H_{21}　長	150 ≒30.3　×5.0＝151.5	左に同じ
H_{21}縁－HP	22 ≒30.3　×0.7＝ 21.2	22≒30.3　×0.5＝ 15.2
H_{21}北縁－HP	61 ＝30.3　×2.0＝ 60.6	左に同じ
HP－南壁	40 ≒30.3　×1.3＝ 39.4	40≒30.3　×1.5＝ 45.5
H_{21}　幅	101 ≒30.3　×3.3＝100.0	101≒30.3　×3.5＝106.1

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	高　床　(4)
	方形区画 H_{21}
	床面積　m²

表30　1414号C竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北西―南東	P11～14・21
N―52°―W	P22・D11

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	調査区外
壁	47.43
高床	47.42
中床	47.33

	桁行A	梁行B	桁行柱間a_2		梁間b_2	測点a	測点b
	P_{11}―P_{12}	P_{11}―P_{13}				H_{21}東縁―HP_{211} 28	H_{21}北縁―HP_{211} 34
	P_{13}―P_{14}	P_{12}―P_{14}	測点a_4 H_{21}長			H_{21}西縁―HP_{212} 16	H_{21}北縁―HP_{212} 34
平均			●150	平均		●22	●34
	棟持柱間a_1					HP_{211}―HP_{212}	H_{211}―南壁
	P_{21}―P_{22}					●106	67
							H_{212}―南壁
							67
						平均	●67
							H_{21}幅
							●101

番号	標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	調査区外
D_{11}	調査区外
H_{21}	47.43
HP_{211}	47.32
HP_{212}	47.22

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●H_{21}幅換算	計算値	算出値
H_{21} 幅	101＝29.7cm×3.4＝100.98	101＝28.9cm×3.5＝101.2
H_{21} 長	150≒29.7 ×5.1＝151.5	150≒28.9 ×5.0＝144.5
HP_{211}―HP_{212}	106≒29.7 ×3.6＝106.9	106≒28.9 ×3.5＝101.2
H_{21}縁―HP	22≒29.7 ×0.7＝ 20.8	22≒28.9 ×1.0＝ 28.9
H_{21}北縁―HP	34≒29.7 ×1.1＝ 32.7	34≒28.9 ×1.0＝ 28.9
HP―南壁	67≒29.7 ×2.3＝ 68.3	67≒28.9 ×2.5＝ 72.3

●(HP_{211}―HP_{212})換算	計算値	算出値
HP_{211}―HP_{212}	106＝30.3cm×3.5＝106.1	左に同じ
H_{21} 長	150≒30.3 ×5.0＝152.0	左に同じ
H_{21}縁―HP	22≒30.3 ×0.7＝ 21.2	22≒30.3 ×0.5＝ 15.2
H_{21}北縁―HP	34≒30.3 ×1.1＝ 33.3	34≒30.3 ×1.0＝ 30.3
HP―南壁	67＝30.3 ×2.2＝ 66.7	67≒30.3 ×2.0＝ 60.6
H_{21} 幅	101≒30.3 ×3.3＝100.0	101≒30.3 ×3.5＝106.1

規模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (4)
	高床 (4)
	方形区画 H_{21}
	床面積 m²

表31　1414号D竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北西―南東	P11～14・21
N―52°―W	P22・D11

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	調査区外
壁	47.43
高床	47.42
中床	47.33

	桁行A	梁行B	桁行柱間a_2		梁間b_2	測点a	測点b
	P_{11}―P_{12}	P_{11}―P_{13}				H_{21}東縁―HP_{211} 42	H_{21}北縁―HP_{211} 15
	P_{13}―P_{14}	P_{12}―P_{14}	測点a_4 H_{21}長			H_{21}西縁―HP_{212} 30	H_{21}北縁―HP_{212} (15)
平均			●150	平均		●36	●15
	棟持柱間a_1					HP_{211}―HP_{212}	H_{211}―南壁
	P_{21}―P_{22}					●78	86
							H_{212}―南壁
							(86)
						平均	●86
							H_{21}幅
							●101

番号	標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	調査区外
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	調査区外
D_{11}	調査区外
H_{21}	47.29
HP_{211}	47.23
HP_{212}	47.22

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

$(H_{21}$北縁−HP)換算	計　算　値	算　出　値
H_{21}北縁−HP	15＝30.0cm×0.5	左に同じ
H_{21}　長	150＝30.0　×5.0	左に同じ
HP_{211}−HP_{212}	78＝30.0　×2.6	78≒30.0　×2.5＝ 75.0
H_{21}縁−HP	36＝30.0　×1.2	36≒30.0　×1.0＝ 30.0
HP−南壁	86≒30.0　×2.9＝ 87.0	86≒30.0　×3.0＝ 90.0
H_{21}　幅	101≒30.0　×3.4＝102.0	101≒30.0　×3.5＝105.0

●$(HP_{211}$−$HP_{212})$換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}−HP_{212}	78＝30.0cm×2.6	78＝31.2cm×2.5
H_{21}北縁−HP	15＝30.0　×0.5	15≒31.2　×0.5＝ 15.6
H_{21}　長	150＝30.0　×5.0	150≒31.2　×5.0＝156.0
H_{21}縁−HP	36＝30.0　×1.2	36≒31.2　×1.0＝ 31.2
HP−南壁	86≒30.0　×2.9＝ 87.0	86≒31.2　×3.0＝ 93.6
H_{21}　幅	101≒30.0　×3.4＝102.0	101≒31.2　×3.0＝ 93.6

規模	
	1間×1間
	主　柱　(2)
	棟持柱　(2)
	高　床　(4)
	方形区画 H_{21}
	床面積　m²

表32　1415号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
東−西 N−3°−E	P11·13·21·22 D11·21

番号	検出面標高
P_{11}	欠　失
P_{12}	47.46
P_{13}	欠　失
P_{14}	47.46
P_{21}	欠　失
P_{22}	欠　失
壁	47.54
高床	
中床	47.44

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}−P_{12}	P_{11}−P_{13} (342)		342	東柱筋−東壁 ●104	北壁−北柱筋 (43)
	P_{13}−P_{14}	P_{12}−P_{14} 342				南柱筋−南壁 46
平均		●342			平均	●45
	棟持柱間 a_1					北壁−南壁
	P_{21}−P_{22}					●(431)

番号	標　高
P_{11}	欠失
P_{12}	47.40
P_{13}	欠失
P_{14}	47.20
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
D_{21}	未検出

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●梁行換算	計　算　値	算　出　値
梁　行　B	342 ≒30.0cm×11.4	342 ＝29.7cm×11.5＝341.55
△東柱筋−東壁	104 ≒30.0　× 3.5＝105.0	104 ＝29.7　× 3.5＝103.95
(壁−柱筋)平均	45 ＝30.0　× 1.5	45 ＝29.7　× 1.5＝ 44.45
北壁−南壁	(431)≒30.0　×14.4＝432.0	(431)＝29.7　×15.0＝445.5

●(壁−柱筋)平均換算	計　算　値	算　出　値
(壁−柱筋)平均	45 ＝30.0cm× 1.5	左に同じ
△梁　行　B	342 ＝30.0　×11.4	342 ≒30.0×11.5＝345.0
△東柱筋−東壁	104 ≒30.0　× 3.5＝105.0	104 ≒30.0× 3.5＝105.0
北壁−南壁	(431)≒30.0　×14.4＝432.0	(431)＝30.0×14.0＝420.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	床面積　m²

表33 1416号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
東―西 N―89°―E	P11～13・21・22 D11・21

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}―P_{12}	P_{11}―P_{13} (326)		326	東柱筋―東壁 ●107	北壁―北柱筋 48
	P_{13}―P_{14}	P_{12}―P_{14} 326				南柱筋―南壁 46
平均		●326			平均	●47
	棟持柱間 a_1					北壁―南壁 ●420
	P_{21}―P_{22}					

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	未検出
P_{13}	欠失
P_{14}	47.44
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
D_{21}	未検出

番号	検出面標高
P_{11}	欠 失
P_{12}	未検出
P_{13}	欠 失
P_{14}	47.44
P_{21}	欠 失
P_{22}	欠 失
壁	47.52
高床	
中床	47. 38

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●梁行換算	計算値	算出値
梁行B	326≒29.9cm×10.9=325.91	326=29.6cm×11.0=325.6
△東柱筋―東壁	107≒29.9 × 3.6=107.6	107≒29.6 × 3.5=103.6
△(壁―柱筋)平均	47≒29.9 × 1.6= 47.8	47≒29.6 × 1.5= 44.4
北壁―南壁	420≒29.9 ×14.0=418.6	420≒29.6 ×14.0=414.4

(壁―柱筋)平均換算	計算値	算出値
△(壁―柱筋)平均	47=29.4cm× 1.6= 47.04	47=31.3cm× 1.5= 46.95
△梁行B	326≒29.4 ×11.1=326.3	326≒31.3 ×10.5=328.7
△東柱筋―東壁	107≒29.4 × 3.6=105.8	107≒31.3 × 3.5=110.0
北壁―南壁	420≒29.4 ×14.2=417.5	420=31.3 ×13.0=406.9

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積 m²

表34 1419号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南―北 N―19°―E	P11・13・14・21 D11・21

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}―P_{12}	P_{11}―P_{13} (324)		324	P_{22}―北柱筋 19	西壁―西柱筋 ●68
	P_{13}―P_{14}	P_{12}―P_{14} 324		測点 b_4	北柱筋―北壁 ●61	
平均		●324		西柱筋―P_{22} 162		
	棟持柱間 a_1					
	P_{21}―P_{22}					

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	47.79
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	47.33
D_{11}	欠失
D_{21}	欠失

番号	検出面標高
P_{11}	欠 失
P_{12}	47.89
P_{13}	欠 失
P_{14}	欠 失
P_{21}	欠 失
P_{22}	47.45
壁	48.05
高床	
中床	47.94

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●梁行換算	計算値	算出値
梁行B	324＝30.0cm×10.8	324≒29.5cm×11.0＝324.5
北柱筋—北壁	61≒30.0 × 2.0＝60.0	61≒29.5 × 2.0＝ 59.0
△西壁—西柱筋	68≒30.0 × 2.3＝69.0	68≒29.5 × 2.5＝ 73.8

●北柱筋—北壁換算	計算値	算出値
北柱筋—北壁	61≒30.0cm× 2.0＝60.0	左に同じ
梁行B	324＝30.0 ×10.8	324≒30.0×11.0＝330.0
△西壁—西柱筋	68≒30.0 × 2.3＝69.0	68≒30.0× 2.5＝ 75.0

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積 m²

表35　1420号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南西—北東 N—49°—E	P11〜14・21・22 D11・21

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}				
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}				
平均						
	棟持柱間 a_1					
	P_{21}—P_{22}					

番号	検出面標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
壁	47.96
高床	
中床	47.90

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
D_{21}	欠失

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積 m²

表36　1421号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北東—南西 N—39°—E	P12〜14 D11

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}—P_{12} (339)	P_{11}—P_{12} (236)	(339)	(236)	H_{21}幅 128	東壁沿高床幅 (137)
	P_{13}—P_{14} (339)	P_{13}—P_{14} (236)	測点 a_4	測点 b_4	高床南縁—P_{21} 29	高床西縁—東柱筋 (28)
平均	●(339)	●(236)	北壁—D_{21} 64	棟持柱筋—DH_{21}西縁 11	P_{21}—北柱筋 28	東柱筋—aM_{11} 118
	棟持柱間 a_1	測点 a_4	D_{21}—北高床南縁 64	DH_{21}東縁—D_{21} 93	南柱筋—P_{22} (28)	aM_{11}—西柱筋 (118)
	P_{21}—P_{22} ●395	HP_{211}—北柱筋 50	D_{21}—P_{21}直交軸 93	D_{21}—西柱筋 15	P_{22}—高床北縁 (29)	西柱筋—H_{21}東縁 28
		HP_{211}—HP_{212} ●238	D_{21}—北柱筋 121	西柱筋—DH_{21}西縁 67	南壁沿高床幅 (128)	H_{21}幅 116
			北柱筋—HP_{211} (51)	DH_{211}長 175	北壁—南壁 ●(709)	東壁—西壁 ●(545)
			HP_{211}—H_{21}北縁 7	西柱筋—HP_{211} (18)		
			H_{211}長 223	西柱筋—HP_{211} 18		
			H_{211}南縁—HP_{211} 8			

番号	検出面標高
P_{11}	48.20
P_{12}	欠失
P_{13}	未検出
P_{14}	未検出
P_{21}	47.19
P_{22}	47.11
壁	47.89
高床	47.56
中床	47.41

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.44)	(1.44)	(103)	(103)	(56)

番号	標高
P_{11}	46.82
P_{12}	欠失
P_{13}	未検出
P_{14}	未検出
P_{21}	46.81
P_{22}	46.55
aHM_{11}	47.01
D_{11}	無配置
DH_{21}	47.56
D_{21}	46.90
DP_{211}	未配置
DP_{212}	未配置
H_{21}	47.44
HP_{211}	47.26
HP_{212}	47.22

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	395 ＝29.9cm×13.2＝394.7	395 ＝30.4cm×13.0＝395.2
桁行 A	(339)≒29.9 ×11.3＝337.9	(339)≒30.4 ×11.0＝334.4
梁行 B	(236)＝29.9 × 7.9＝236.2	(236)≒30.4 × 8.0＝243.2
HP_{211}－HP_{212}	238 ≒29.9 × 8.0＝239.2	238 ≒30.4 × 8.0＝243.2
北壁－南壁	(709)＝29.9 ×23.7＝708.6	(709)≒30.4 ×23.0＝699.2
東壁－西壁	(545)≒29.9 ×18.2＝544.2	(545)≒30.4 ×18.0＝547.2

(HP_{211}－HP_{212})換算	計算値	算出値
HP_{211}－HP_{212}	238 ＝30.1cm× 7.9＝237.8	238 ＝29.8cm× 8.0＝238.4
棟持 a_1	395 ≒30.1 ×13.1＝394.3	395 ≒29.8 ×13.0＝402.3
△桁行 A	(339)≒30.1 ×11.3＝340.1	(339)≒29.8 ×11.5＝342.7
梁行 B	(236)≒30.1 × 7.8＝234.8	(236)≒29.8 × 8.0＝238.4
北壁－南壁	(709)≒30.1 ×23.6＝710.4	(709)≒29.8 ×24.0＝715.2
東壁－西壁	(545)≒30.1 ×18.1＝548.8	(545)≒29.8 ×18.0＝536.4

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 2
	高床 5
	棟持柱筋区画溝 aHM_{11}
	方形区画 DH_{21}
	方形区画 H_{21}
	床面積(38.7)㎡

表37 1421号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北東－南西 N－45°－E	P12～14 D11

番号	検出面標高
P_{11}	47.19
P_{12}	欠失
P_{13}	未確認
P_{14}	未検出
P_{21}	47.19
P_{22}	47.20
壁	47.86
高床	47.42
中床	47.32

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.78)	(1.78)	(162)	(162)	0

	桁行 A	梁行 B
	P_{11}－P_{12} (370)	P_{11}－P_{13} (208)
	P_{13}－P_{14} (370)	P_{12}－P_{14} (208)
平均	●(370)	●(208)
	棟持柱間 a_1	
	P_{21}－P_{22} ●370	

桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
(370)	(208)	北壁沿高床幅 (100)	東壁沿高床幅 (100)
測点 a_4	測点 b_4	高床南縁－P_{21} 20	高床西縁－東柱筋 (45)
北壁－D_{21} (43)	P_{81}－西柱筋 9	P_{21}－北柱筋 0	東柱筋－aM_{11} 104
D_{21}－北高床南縁 (57)	棟持柱筋－西柱筋 104	南柱筋－P_{22} 0	aM_{11}－西柱筋 (104)
D_{21}－北柱筋 77	棟持柱筋－D_{21}東縁 108	P_{21}－高床北縁 (20)	西柱筋－H_{21}東縁 45
北柱筋－P_{81} 92	棟持柱筋－D_{21} 149	南壁沿高床幅 (100)	H_{21}幅 85
北柱筋－H_{21}北縁 90	棟持柱筋－H_{21}東縁 149	北壁－南壁 ●(610)	東壁－西壁 ●(483)
H_{21}南縁－南柱筋 52			
H_{21}長 ●228			

番号	標高
P_{11}	46.80
P_{12}	欠失
P_{13}	未確認
P_{14}	未検出
P_{21}	46.86
P_{22}	46.88
aHM_{11}	46.96
P_{81}	47.25
D_{11}	無配置
D_{21}	重複
DP_{211}	未検出
DP_{212}	未検出
H_{21}	47.38
HP_{211}	未配置
HP_{212}	未配置

棟持換算	計算値	算出値
△棟持 a_1	370 ＝30.1cm×12.3＝370.2	370 ＝29.6cm×12.5
△桁行 A	(370)＝30.1 ×12.3＝370.2	(370)＝29.6 ×12.5
梁行 B	(208)≒30.1 × 6.9＝207.7	(208)≒29.6 × 7.0＝207.2
H_{21}長	228 ≒30.1 × 7.6＝228.8	228 ≒29.6 × 7.5＝222.0
北壁－南壁	(610)≒30.1 ×20.3＝611.0	(610)≒29.6 ×21.0＝621.6
東壁－西壁	(483)≒30.1 ×16.0＝481.6	(483)≒29.6 ×16.0＝473.6

●H_{21}長換算	計算値	算出値
△H_{21}長	228 ＝30.0cm× 7.6	228 ＝30.4cm× 7.5
棟持 a_1	370 ≒30.0 ×12.3＝369.0	370 ≒30.4 ×12.0＝364.8
桁行 A	(370)≒30.0 ×12.3＝369.0	(370)≒30.4 ×12.0＝364.8
梁行 B	(208)≒30.0 × 6.9＝207.0	(208)≒30.4 × 7.0＝212.8
北壁－南壁	(610)≒30.0 ×20.3＝609.0	(610)≒30.4 ×20.0＝608.0
東壁－西壁	(483)＝30.0 ×16.1	(483)≒30.4 ×16.0＝486.4

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 2
	高床 (5)
	棟持柱筋区画溝 aHM_{11}
	方形区画 H_{21}
	床面積(29.5)㎡

表38　1421号C竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
北東—南西	P12〜14
N—31°—E	D11・21

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12} (220)	P_{11}—P_{13} (254)			北壁—北柱筋 110	東壁—東柱筋 (74)
	P_{13}—P_{14} (220)	P_{12}—P_{14} (254)			北柱筋—P_{21} 7	東柱筋—棟持柱筋 127
平均	●(220)	●(254)			P_{22}—南柱筋 (7)	棟持柱筋—西柱筋 (127)
	棟持柱間 a_1				南柱筋—南壁 (110)	西柱筋—西壁 (28)
	P_{21}—P_{22} ●206				北壁—南壁 ●(440)	東壁—西壁 ●(356)
					北壁—北柱筋 ●117	

番号	検出面標高
P_{11}	47.20
P_{12}	欠　失
P_{13}	重　複
P_{14}	未確認
P_{21}	47.26
P_{22}	46.99
壁	47.84
高床	
中床	47.26

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(0.87)	(0.87)	(−34)	(−34)	(−14)

番号	標高
P_{11}	46.79
P_{12}	欠失
P_{13}	重　複
P_{14}	未確認
P_{21}	47.06
P_{22}	46.93
aHM_{11}	無配置
D_{11}	無配置
D_{21}	未検出
H_{21}	無配置
HP_{211}	無配置
HP_{212}	無配置

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	206 ≒30.3cm× 6.9=209.1	206 =29.4cm× 7.0=205.8
△桁　行　A	(220)≒30.3 × 7.3=221.2	(220)≒29.4 × 7.5=220.5
梁　行　B	(254)≒30.3 × 8.4=254.5	(254)≒29.4 × 8.5=249.9
北壁—北柱筋	117 ≒30.3 × 3.9=118.2	117 ≒29.4 × 4.0=117.6
北壁—南壁	(440)≒30.3 ×14.5=439.4	(440)≒29.4 ×15.0=441.0
東壁—西壁	(356)≒30.3 ×11.7=354.5	(356)≒29.4 ×12.0=352.8

●(北壁—北柱筋)換算	計　算　値	算　出　値
北壁—北柱筋	117 =30.0cm× 3.9	117 =29.3cm× 4.0=117.2
棟　持　a_1	206 ≒30.0 × 6.9=207.0	206 ≒29.3 × 7.0=205.1
△桁　行　A	(220)≒30.0 × 7.3=219.0	(220)=29.3 × 7.5=219.8
△梁　行　B	(254)≒30.0 × 8.5=255.0	(254)≒29.3 × 8.5=249.1
北壁—南壁	(440)≒30.0 ×14.7=441.0	(440)=29.3 ×15.0=439.5
東壁—西壁	(356)≒30.0 ×11.9=357.0	(356)≒29.3 ×12.0=351.6

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	床面積(15.7)㎡

表39　1422号A竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
東一西 N−75°−E	P11~13 H21・HP211

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	47.83
P_{21}	47.74
P_{22}	47.77
壁	47.16
高床	47.98
中床	47.83

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.36)	(1.36)	(126)	(126)	(−154)

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}−P_{12}	P_{11}−P_{13}	(476)	(350)	西壁−西柱筋	北壁−HP_{212}
	(476)	(350)			(43)	5
	P_{13}−P_{14}	P_{12}−P_{14}	測 点 a_4	測 点 b_4	西柱筋−高床東縁	HP_{212}−北柱筋
	(476)	(350)	P_{51}−西柱筋	北柱筋−P_{51}	(63)	(46)
平均	●(476)	●(350)	22	42	高床東縁−P_{21}	北柱筋−H_{21}南縁
	棟持柱間 a_1	測 点 b	西柱筋−H_{21}西縁		14	(42)
	P_{21}−P_{22}	北壁−D_{11}	162	測 点 b	西壁−P_{21}	H_{21}南縁−P_{62}
	●322	157	H_{21}西縁−H_{211}	H_{21}幅	120	10
			(13)	(93)	P_{22}−高床西縁	P_{62}−D_{11}
			HP_{211}−HP_{212}	HP_{211}−P_{61}	35	54
			(50)	98	高床西縁−東柱筋	D_{11}−棟持柱筋
			HP_{212}−H_{21}東縁		42	69
			(13)	測 点 a_4	東柱筋−東壁	棟持柱筋−南柱筋
			H_{21}東縁−東柱筋	西柱筋−DP_{211}	65	175
			238	215	P_{22}−東壁	南柱筋−D_{21}
			P_{62}−東柱筋	DP_{211}−D_{21}	142	12
			238	14	西壁−東壁	D_{21}−DP_{211}
			西柱筋−P_{61}	D_{21}−DP_{212}	●584	16
			175	17		DP_{211}−南壁
			西柱筋−HP_{211}	DP_{211}−DP_{212}		12
			175	●31		北壁−南壁
				DP_{212}−東柱筋		●441
				230		

番号	標 高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	未確認
P_{14}	47.67
P_{21}	47.49
P_{22}	47.38
P_{51}	47.76
P_{61}	47.51
P_{62}	47.75
D_{11}	47.58
D_{21}	47.61
DP_{211}	47.56
DP_{212}	47.58
H_{21}	未検出
HP_{211}	47.71
HP_{212}	47.74

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(476)≒29.9cm×15.9=475.4	(476)≒29.8cm×16.0=476.8
△梁　行　B	(350)=29.9　×11.7=349.8	(350)≒29.8　×11.5=342.7
棟　持　a_1	322 ≒29.9　×10.8=322.9	322 ≒29.8　×11.0=327.8
DP_{211}−DP_{212}	31 ≒29.9　× 1.0= 29.9	31 ≒29.8　× 1.0= 29.8
西壁−東壁	584 ≒29.9　×19.6=586.0	584 ≒29.8　×20.0=596.0
北壁−南壁	441 ≒29.9　×14.7=439.5	441 ≒29.8　×15.0=447.0

(DP_{211}−DP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
DP_{211}−DP_{212}	31 =31.0cm× 1.0	左に同じ
△桁　行　A	(476)≒31.0　×15.4=477.4	(476)≒31.0　×15.5=480.5
△梁　行　B	(350)=31.0　×11.3=350.3	(350)≒31.0　×11.5=356.5
△棟　持　a_1	322 =31.0　×10.4=322.4	322 ≒31.0　×10.5=325.5
西壁−東壁	584 ≒31.0　×18.8=582.8	584 ≒31.0　×19.0=589.0
北壁−南壁	441 ≒31.0　×14.2=440.2	441 ≒31.0　×14.0=434.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	施設柱　2
	壁沿高床 2
	(方形区画 H_{21})
	床面積(25.8)㎡

表40　1422号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
東一西	P11〜13·D_{21}
N−75°−E	H21·HP211

番号	検出面標高
P_{11}	47.83
P_{12}	欠　失
P_{13}	未確認
P_{14}	未確認
P_{21}	47.77
P_{22}	47.74
壁	48.17
高床	除　去
中床	47.76

	桁行A	梁行B
	P_{11}−P_{12}	P_{11}−P_{13}
	P_{13}−P_{14}	P_{12}−P_{14}
平均	●(476)	●(350)
	棟持柱間a_1	
	P_{21}−P_{22}	
	●322	

桁行柱間a_2	梁間b_2
(476)	(350)
測点a_4	測点b_4
P_{51}−西柱筋	P_{51}−北柱筋
37	42
西柱筋−H_{21}東縁	
(145)	測点b
H_{21}東縁−HP_{211}	H_{21}幅
(14)	●(93)
HP_{211}−HP_{212}	H_{211}−P_{61}
●(56)	83
HP_{212}−H_{21}西縁	
(14)	
H_{21}長	
(84)	
H_{21}西縁−東柱筋	
(247)	

測点a	測点b
西壁−西柱筋	北壁−HP_{212}
43	(5)
西柱筋−P_{21}	HP_{212}−北柱筋
(77)	(46)
P_{22}−東柱筋	北柱筋−H_{21}南縁
77	(42)
東柱筋−東壁	H_{21}南縁−P_{62}
65	0
西壁−東壁	P_{62}−棟持柱筋
584	133
	棟持柱筋−D_{11}
測点a_4	13
西柱筋−D_{11}	D_{11}−南柱筋
●210	162
D_{11}−東柱筋	南柱筋−南壁
266	40
P_{21}−D_{11}	南壁−北壁
133	441
D_{11}−P_{22}	
189	

番号	標高
P_{11}	重複
P_{12}	重複
P_{13}	重複
P_{14}	47.68
P_{21}	47.61
P_{22}	47.61
P_{51}	47.76
P_{61}	未確認
P_{62}	未確認
D_{11}	47.63
D_{21}	重複
DP_{211}	欠失
DP_{212}	欠失
H_{21}	除去
HP_{211}	47.72
HP_{212}	47.74

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.36)	(1.36)	(126)	(126)	(−154)

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	322 =30.1cm×10.7=322.1	322 =29.3cm×11.0=322.3
桁　行　A	(476)=30.1 ×15.8=475.6	(476)≒29.3 ×16.0=468.8
梁　行　B	(350)≒30.1 ×11.6=349.2	(350)≒29.3 ×12.0=351.6
HP_{211}−HP_{212}	(56)≒30.1 × 1.9= 57.2	(56)≒29.3 × 2.0= 58.6
H_{21}　幅	(93)=30.1 × 3.1= 93.3	93 ≒29.3 × 3.0= 87.9
西柱筋−D_{11}	210 ≒30.1 × 7.0=210.7	210 ≒29.3 × 7.0=205.1

(HP_{211}−HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}−HP_{212}	(56)=29.5cm× 1.9= 56.1	(56)=28.0cm× 2.0
棟　持　a_1	322 =29.5 ×10.9=321.6	322 =28.0 ×11.5
桁　行　A	(476)≒29.5 ×16.1=475.0	(476)=28.0 ×17.0
△梁　行　B	(350)≒29.5 ×11.9=351.1	(350)=28.0 ×12.5
△H_{21}　幅	(93)≒29.5 × 3.2= 94.4	(93)≒28.0 × 3.5=98.0
△西柱筋−D_{11}	210 =29.5 × 7.1=209.5	210 =28.0 × 7.5

規模	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　2
	方形区画 1
	壁隅高床(2)
	壁沿高床 2
	床面積25.8㎡

表41　1423号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
東一西	P11·13·14
N−83°−W	D11·D21

番号	検出面標高
P_{11}	欠　失
P_{12}	47.88
P_{13}	欠　失
P_{14}	欠　失
P_{21}	47.76
P_{22}	47.75
壁	48.03
高床	欠　失
中床	47.94

	桁行A	梁行B
	P_{11}−P_{12}	P_{11}−P_{13}
	(262)	(344)
	P_{13}−P_{14}	P_{12}−P_{14}
	(262)	(344)
平均	●(262)	●(344)
	棟持柱間a_1	
	P_{21}−P_{22}	
	●288	

桁行柱間a_2	梁間b_2
(262)	(344)

測点a	測点b
西壁−西高床東縁	北壁−北柱筋
	26
高床東縁−P_{21}	南柱筋−南壁
14	
P_{21}−西柱筋	北壁−南壁
13	
東柱筋−P_{22}	
13	
P_{22}−東高床西縁	
(14)	
高床西縁−東壁	
西壁−東壁	

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	47.77
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	47.65
P_{22}	47.53
D_{11}	欠失
D_{21}	欠失

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(0.76)	(0.76)	(−82)	(−82)	26

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(262)＝30.1cm× 8.7＝261.9	(262)＝29.1cm× 9.0＝261.9
梁行 B	(344)≒30.1 ×11.4＝343.1	(344)≒29.1 ×12.0＝349.2
棟持 a_1	288 ≒30.1 × 9.6＝289.0	288 ≒29.1 ×10.0＝291.0

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	288 ＝30.0cm× 9.6	288 ＝28.8cm×10.0
桁行 A	(262)≒30.0 × 8.7＝261.0	(262)≒28.8 × 9.0＝259.2
梁行 B	(344)≒30.0 ×11.5＝345.0	(344)≒28.8 ×12.0＝345.6

規模	
	1間×1間
	主柱穴 (4)
	棟持柱 2
	壁沿高床(2)
	床面積 ㎡

表42 1424号A竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北東—南西 N—23°—E	P11～14 P22

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	47.51
壁	47.82
高床	欠失
中床	47.77

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}	(348)	(228)	北壁—P_{21}	東壁—東柱筋
					(137)	(137)
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測点 a_4	測点 b_2	P_{21}—北柱筋	東柱筋—主軸
			北西隅高床長	北柱筋—D_{11}	(20)	(114)
平均	●(348)	●(228)	(249)	(194)	北柱筋—D_{11}	主軸—西柱筋
	棟持柱間 a_1		高床南縁—HP_{211}	D_{11}—南柱筋	(174)	114
	P_{21}—P_{22}		35	(194)	D_{11}—南柱筋	西柱筋—D_{11}
	●(388)		HP_{211}—HP_{212}		174	0
			●94		南柱筋—P_{22}	西柱杉—H_{21}東縁
			HP_{212}—高床北縁		20	117
			(35)		P_{22}—南壁	H_{21}東縁—HP_{211}
			南西隅高床長		(137)	93
			(249)		北壁—南壁	HP_{211}—西壁
			H_{21}長		●(662)	44
			164		北・南高床幅	東壁—西壁
					(137)	●(619)
						H_{21}幅
						137

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.53)	(1.53)	(120)	(120)	40

番号	標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	47.34
D_{11}	47.70
H21	47.77
HP_{211}	47.52
HP_{212}	47.49

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(348)＝30.0cm×11.6	(348)＝29.0cm×12.0
梁行 B	(228)＝30.0 × 7.6	(228)≒29.0 × 8.0＝232.0
棟持 a_1	(388)≒30.0 ×12.9＝387.0	(388)≒29.0 ×13.5＝391.5
HP_{211}—HP_{212}	94 ≒30.0 × 3.1＝ 93.0	94 ≒29.0 × 3.5＝101.5
北壁—南壁	(662)≒30.0 ×22.1＝663.0	(662)≒29.0 ×23.0＝667.0
東壁—西壁	(619)≒30.0 ×20.6＝618.0	(619)≒29.0 ×21.0＝609.0

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計算値	算出値
HP_{211}—HP_{212}	94 ＝30.3cm× 3.1＝93.9	94 ＝31.3cm× 3.0＝ 93.9
桁行 A	(348)≒30.3 ×11.5＝348.5	(348)≒31.3 ×11.0＝344.3
梁行 B	(228)≒30.3 × 7.5＝227.3	(228)≒31.3 × 7.5＝234.8
棟持 a_1	(388)≒30.3 ×12.8＝387.8	(388)≒31.3 ×12.5＝391.3
北壁—南壁	(662)≒30.3 ×21.8＝660.5	(662)≒31.3 ×21.0＝657.3
東壁—西壁	(619)≒30.3 ×20.4＝618.1	(619)≒31.3 ×20.0＝626.0

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高床 (4)
	方形区画 H_{21}
	床面積(41.0)㎡

表43　1424号Ｂ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北東—南西 N—23°—E	P11～14·21 P22·D11

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
壁	47.82
高床	欠失
中床	47.75

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.48)	(1.48)	(110)	(110)	(40)

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}	(338)	(228)	北壁—P_{21} (137)	東壁—東柱筋 (137)
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測点 a_4	測点 b_4	P_{21}—北柱筋 (20)	東柱筋—主軸 (114)
平均	●(338)	(228)	北西壁高床長 (256)	北柱筋—D_{11} (189)	北柱筋—D_{11} (169)	主軸—西柱筋 (114)
	棟持柱間 a_1		高床南縁—HP_{211} 28	D_{11}—南柱筋 (189)	D_{11}—南柱筋 (169)	西柱筋—D_{11} 0
	P_{21}—P_{22} ●(378)		HP_{211}—HP_{212} ●83		南柱筋—P_{22} (20)	西柱筋—H_{21}東縁 (100)
			HP_{212}—高床北縁 29		P_{22}—南壁 (137)	H_{21}東縁—HP_{211} 109
			南西隅高床長 256		北壁—南壁 ●(652)	HP_{211}—西壁 28
			H_{21}長 140		北・南高床幅 (137)	東壁—西壁 ●(602)
						●H_{21}幅 137

番号	標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	重複
H21	47.75
HP_{211}	47.42
HP_{212}	47.55

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(338)＝29.9cm×11.3＝337.9	(338)＝30.7cm×11.0＝337.7
H_{21} 幅	137 ≒29.9 × 4.6＝137.5	(137)≒30.7 × 4.5＝138.2
棟持 a_1	(378)≒29.9 ×12.6＝376.7	(378)≒30.7 ×12.5＝383.8
HP_{211}—HP_{212}	83 ≒29.9 × 2.8＝ 83.7	83 ≒30.7 × 2.5＝ 76.8
北壁—南壁	(652)≒29.9 ×21.9＝654.8	(652)≒30.7 ×21.0＝644.5
東壁—西壁	(602)≒29.9 ×20.1＝601.0	(602)≒30.7 ×20.0＝614.0

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計算値	算出値
HP_{211}—HP_{212}	83 ＝29.6cm× 2.8＝ 82.9	83 ＝27.7cm× 3.0＝ 83.1
桁行 A	(338)≒29.6 ×11.4＝337.4	(338)≒27.7 ×12.0＝332.4
H_{21} 幅	137 ≒29.6 × 4.6＝136.2	137 ≒27.7 × 5.0＝138.5
棟持	(378)≒29.6 ×12.8＝378.9	(378)≒27.7 ×13.5＝374.0
北壁—南壁	(652)≒29.6 ×22.0＝651.2	(652)≒27.7 ×24.0＝664.8
東壁—西壁	(602)≒29.6 ×20.3＝600.9	(602)≒27.7 ×22.0＝609.4

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高床 (4)
	方形区画 H_{21}
	床面積(39.3)㎡

表44　1425号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北東—南西 N—23°—E	P11～14·21 P22·D11

番号	検出面標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
壁	47.74
高床	欠失
中床	47.70

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}	(298)	(228)	北壁—P_{21} (119)	東壁—東柱筋 (119)
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測点 a_4	測点 b_4	P_{21}—北柱筋 (20)	東柱筋—主軸 (114)
平均	●(298)	(228)	北西壁高床長 (247)	北柱筋—D_{11} (169)	北柱筋—D_{11} (149)	主軸—西柱筋 (114)
	棟持柱間 a_1		高床南縁—HP_{211} 19	D_{11}—南柱筋 (169)	D_{11}—南柱筋 (149)	西柱筋—D_{11} 0
	P_{21}—P_{22} ●(338)		HP_{211}—HP_{212} ●44		南柱筋—P_{22} (20)	西柱筋—H_{21}東縁 (127)
			HP_{212}—高床北縁 24		P_{22}—南壁 (119)	H_{21}東縁—HP_{211} 83
			南西高床長 242		北壁—南壁 ●(576)	HP_{211}—西壁 36
			H_{21}長 87		北・南高床幅 (119)	東壁—西壁 ●(593)
						H_{21}幅 ●(119)

番号	標高
P_{11}	調査区外
P_{12}	欠失
P_{13}	調査区外
P_{14}	欠失
P_{21}	調査区外
P_{22}	欠失
D_{11}	重複
H_{21}	47.72
HP_{211}	47.58
HP_{212}	重複

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(298)＝30.1cm× 9.9＝297.99	(298)＝29.8cm×10.0
H_{21} 幅	(119)≒30.1 × 4.0＝120.4	(119)＝29.8 × 4.0＝119.2
棟持 a_1	(338)≒30.1 ×11.2＝337.1	(338)≒29.8 ×11.5＝342.7
$HP_{211}-HP_{212}$	44 ≒30.1 × 1.5＝ 45.2	44 ≒29.8 × 1.5＝ 44.7
北壁―南壁	(576)≒30.1 ×19.1＝574.9	(576)≒29.8 ×19.0＝566.2
東壁―西壁	(593)≒30.1 ×19.8＝596.0	(593)≒29.8 ×20.0＝596.0

●($HP_{211}-HP_{212}$)換算	計算値	算出値
$HP_{211}-HP_{212}$	44 ＝29.3cm× 1.5＝ 43.95	左に同じ
桁行 A	(298)≒29.3 ×10.2＝298.9	(298)≒29.3 ×10.0＝293.0
H_{21} 幅	(119)≒29.3 × 4.1＝120.1	(119)≒29.3 × 4.0＝117.2
棟持 a_1	(338)≒29.3 ×11.5＝337.0	左に同じ
北壁―南壁	(576)≒29.3 ×19.7＝577.2	(576)≒29.3 ×20.0＝586.0
東壁―西壁	(593)≒29.3 ×20.2＝591.9	(593)≒29.3 ×20.0＝586.0

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高床
	方形区画 H_{21}
	床面積(34.2)㎡

表45 1426号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南―北	P11～14･21･22
N―18°―E	D11･21

桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
$P_{11}-P_{12}$	$P_{11}-P_{13}$			北壁沿高床幅 ●119	東壁―西壁 ●360
$P_{13}-P_{14}$	$P_{12}-P_{14}$				
平均					

棟持柱間 a_1
$P_{21}-P_{22}$

番号	検出面標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
壁	47.71
高床	47.46
中床	47.27

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
D_{21}	欠失

●高床幅換算	計算値	算出値
北壁沿高床幅	119≒30.0cm× 4.0＝120.0	左に同じ
東壁―西壁	360＝30.0 ×12.0	左に同じ

●東壁―西壁換算	計算値	算出値
東壁―西壁	360＝30.0cm×12.0	左に同じ
北壁沿高床幅	119≒30.0 × 4.0＝120.0	左に同じ

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	壁沿高床(2)
	床面積 ㎡

表46　1435号Ａ竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南西—北東 N−25°−E	P11·14·32·DH21 H21·HP211

番号	検出面標高
P_{11}	欠失
P_{12}	47.86
P_{13}	47.75
P_{14}	欠失
P_{21}	47.73
P_{22}	47.83
壁	48.05
高床	48.01
中床	47.98

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}	(388)	(265)	南壁—南柱筋	西壁—西柱筋
	(388)	(265)			(76)	78
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}	測点 a_4	測点 b_4	南柱筋—P_{21}	西柱筋—H_{21}東縁
	(388)	(265)	南西隅高床長	西壁—HP_{212}	50	(49)
平均	●(388)	●(265)	(157)	78	P_{21}—D_{11}	H_{21}東縁—棟持柱筋 129
	棟持柱間 a_1		H_{21}南縁—HP_{211}	HP_{212}—H_{21}東縁	136	
	P_{21}—P_{22}	測点 a_4	(16)	(49)	D_{11}—P_{21}	棟持柱筋—D_{11}
	●306	北柱筋—H_{21}北縁	HP_{211}—HP_{212}	測点 b	170	44
	測点 a_4	16	●(291)	H_{21}幅	P_{21}—北柱筋	D_{11}—東柱筋
	H_{21}長	南東隅高床長	HP_{212}—H_{21}北縁	(127)	32	92
	(323)	(270)	(16)	HD_{21}幅	北柱筋—北壁	東柱筋—HD_{21}西縁 (16)
	南柱筋—HP_{211}	HD_{21}長	北西隅高床長	(122)	180	
	(97)	(210)	164	P_{31}—棟持柱筋	南壁—北壁	HD_{21}西縁—D_{21}
			南柱筋—HD_{21}	43	●(644)	76
			(194)		南柱筋—D_{11}	D_{21}—東壁
		測点 a_4	HD_{21}南縁—D_{21}		186	(46)
		北東隅高床長	95		P_{21}—北柱筋	西壁—東壁
		164	D_{21}—北柱筋		338	●(530)
		P_{31}—P_{22}東西軸	99			
		48				

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.46)	(1.46)	(123)	(123)	(−82)

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	47.77
P_{13}	47.49
P_{14}	欠失
P_{21}	47.69
P_{22}	47.37
P_{31}	47.46
P_{32}	未検出
D_{11}	47.47
D_{21}	47.75
DH_{21}	欠失
DP_{211}	無配置
DP_{212}	無配置
H_{21}	47.98
HP_{211}	P_{11}兼用
HP_{212}	欠失

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	306 ＝30.0cm×10.2	306 ＝30.6cm×10.0
△桁行 A	(388)≒30.0 ×12.9＝387.0	(388)≒30.6 ×12.5＝382.5
△梁行 B	(265)≒30.0 × 8.8＝264.0	(265)≒30.6 × 8.5＝260.1
△HP_{211}—HP_{212}	(291)＝30.0 × 9.7	(291)＝30.6 × 9.5＝290.7
南壁—北壁	(644)≒30.0 ×21.5＝645.0	(644)≒30.6 ×21.0＝642.6
西壁—東壁	(530)≒30.0 ×17.7＝531.0	(530)≒30.6 ×17.0＝520.2

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計算値	算出値
△HP_{211}—HP_{212}	291 ＝30.0cm× 9.7	291 ＝30.6cm× 9.5＝290.7
棟持 a_1	306 ＝30.0 ×10.2	306 ＝30.6 ×10.0
△桁行 A	(388)≒30.0 ×12.9＝387.0	(388)≒30.6 ×12.5＝382.5
△梁行 B	(265)≒30.0 × 8.8＝264.0	(265)≒30.6 × 8.5＝260.1
南壁—北壁	(644)≒30.0 ×21.5＝645.0	(644)≒30.6 ×21.0＝642.6
西壁—東壁	(530)≒30.0 ×17.7＝531.0	(530)≒30.6 ×17.0＝520.2

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 2
	壁隅高床(4)
	方形区画 DH_{21}
	方形区画 H_{21}
	旧出住HP除去祭祀
	床面積(34.1)㎡

表47 1435号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南西—北東	P11・13・14・31・H21
N—23°—E	DH21・DP211

番号	検出面標高
P_{11}	欠　失
P_{12}	47.88
P_{13}	欠　失
P_{14}	欠　失
P_{21}	47.77
P_{22}	47.70
壁	48.01
高床	47.98
中床	47.96

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12} (329)	P_{11}—P_{13} (198)	(399)	(198)	南壁—P_{21} (55)	西壁—HP_{212} 62
	P_{13}—P_{14} (329)	P_{12}—P_{14} (198)	測 点 a_4	測 点 b_4	P_{21}—南柱筋 9	HP_{212}—H_{21}東縁 (65)
平均	● (329)	(198)	南壁—H_{21}南縁 (110)	南東隅高床幅 (130)	南柱筋—D_{11} 157	H_{21}東縁—西柱筋 12
	棟持柱間 a_1		H_{21}南縁—HP_{211} 17	北東隅高床幅 130	D_{11}—P_{21} 97	西柱筋—D_{11} 57
	P_{21}—P_{22} ●263	測 点 a_4		測 点 b		
	測点 a_4	DP_{211}—DP_{212} ● (33)	HP_{211}—HP_{212} ●150	H_{21}幅 (127)	P_{21}—北柱筋 75	D_{11}—棟持柱筋 42
	DH_{21}長 172	DP_{212}—H_{21}南縁 (44)	HP_{212}—H_{21}北縁 17	HD_{21}幅 (130)	北柱筋—北壁 52	棟持柱筋—西柱筋 99
		H_{21}南縁—北柱筋 75	H_{21}北縁—北柱筋 (99)	P_{32}—棟持柱筋 48	南壁—北壁 ● (445)	西柱筋—HD_{21}西縁 (39)
			H_{21}長 (184)		P_{21}—北柱筋 338	HD_{21}西縁—HP_{212} (90)
		測 点 a_4	南柱筋—DH_{21}南縁 (82)			DP_{212}—東壁 40
		P_{32}—P_{21}東西軸 8	DH_{21}南縁—DP_{211} (95)			西壁—東壁 (506)
						D_{11}—D_{21} 270

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

番号	標 高
P_{11}	欠失
P_{12}	47.74
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	47.54
P_{22}	47.35
P_{31}	未検出
P_{32}	47.65
D_{11}	47.77
D_{21}	47.75
DH_{21}	欠失
DP_{211}	除去
DP_{212}	(47.73)
H_{21}	欠失
HP_{211}	47.78
HP_{212}	47.77

棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	263 ＝29.9cm× 8.8＝263.1	263 ＝29.2cm× 9.0＝262.8
△桁　行　A	(329)＝29.9 ×11.0＝328.9	(329)≒29.2 ×11.5＝335.8
DP_{211}—DP_{212}	(33)＝29.9 × 1.1＝ 32.9	(33)≒29.2 × 1.0＝ 29.2
HP_{211}—HP_{212}	150 ＝29.9 × 5.0＝149.5	150 ≒29.2 × 5.0＝146.0
南壁—北壁	(445)≒29.9 ×14.9＝445.5	(445)≒29.2 ×15.0＝438.0
西壁—東壁	(506)≒29.9 ×16.9＝505.3	(506)≒29.2 ×17.0＝496.4

●(HP_{211}—HP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}—HP_{212}	150 ＝30.0cm× 5.0	左に同じ
棟　持　a_1	263 ≒30.0 × 8.8＝264.0	263 ＝30.0 × 9.0＝270.0
桁　行　A	(329)≒30.0 ×11.0＝330.0	左に同じ
DP_{211}—DP_{212}	33 ＝30.0 × 1.1	33 ≒30.0 × 1.0＝ 30.0
南壁—北壁	(445)≒30.0 ×14.8＝444.0	(445)≒30.0 ×15.0＝450.0
西壁—東壁	(506)≒30.0 ×16.9＝507.0	(506)≒30.0 ×17.0＝510.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　2
	壁隅高床(2)
	方形区画 DH_{21}
	方形区画 H_{21}
	床面積(22.5)㎡

表48　1436号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南西—北東 N—27°—E	P11・14・53 DP212

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a	測　点　b
	P_{11}—P_{12} (276)	P_{11}—P_{13} (192)	(276)	(192)	南壁—南柱筋 (90)	西壁—P_{52} 13
	P_{13}—P_{14} (276)	P_{12}—P_{14} (192)	測　点　a_4 南柱筋—DP_{211} 149	測　点　b_3 南柱筋—P_{54} 98	南柱筋—P_{21} 50	西壁—西柱筋 76
平均	●(276)	(192)			P_{21}—D_{11} 77	西柱筋—棟持柱筋 96
	棟持柱間 a_1		DP_{211}—DP_{212} ●(31)		D_{11}—P_{21} 73	棟持柱筋—D_{11} 20
	P_{21}—P_{22} ●162		DP_{212}—北柱筋 (96)		P_{21}—北柱筋 76	D_{11}—東柱筋 74
					北柱筋—北壁 、59	東柱筋—DP_{211} ●150
					南壁—北壁 ●(425)	DP_{211}—東壁 35
						西壁—東壁 ●(451)

番号	検出面標高
P_{11}	未検出
P_{12}	47.88
P_{13}	47.79
P_{14}	未検出
P_{21}	47.81
P_{22}	47.84
壁	47.96
高床	47.90
中床	47.84

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.43)	(1.43)	(84)	(84)	(−114)

番号	標　高
P_{11}	未検出
P_{12}	47.74
P_{13}	47.56
P_{14}	未検出
P_{21}	47.67
P_{22}	47.70
P_{51}	47.70
P_{52}	47.78
P_{53}	未確認
P_{54}	47.51
P_{91}	47.49
D_{11}	47.75
D_{21}	47.80
DP_{211}	(47.72)
DP_{212}	除去

棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	162 ＝30.0cm× 5.4	162 ＝32.4cm× 5.0
△桁　行　A	(276)＝30.0　× 9.2	(276)≒32.4　× 8.5＝275.4
△東柱筋—DP_{211}	150 ＝30.0　× 5.0	150 ≒32.4　× 4.5＝145.8
DP_{211}—DP_{212}	(31)≒30.0　× 1.0＝ 30.0	(31)≒32.4　× 1.0＝ 32.4
南壁—北壁	(425)≒30.0　×14.2＝426.0	(425)≒32.4　×13.0＝421.2
西壁—東壁	(451)≒30.0　×15.1＝453.0	(451)≒32.4　×14.0＝453.6

●(DP_{211}—DP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
DP_{211}—DP_{212}	(31)＝31.0cm× 1.0	左に同じ
桁　行　A	(276)＝31.0　× 8.9＝275.9	(276)≒31.0　× 9.0＝279.0
東柱筋—DP_{211}	150 ≒31.0　× 4.8＝148.8	150 ≒31.0　× 5.0＝155.0
棟　持　a_1	162 ≒31.0　× 5.2＝161.2	162 ≒31.0　× 5.0＝155.0
南壁—北壁	(425)＝31.0　×13.7＝424.7	(425)≒31.0　×14.0＝434.0
西壁—東壁	(451)≒31.0　×14.5＝449.5	(451)≒31.0　×15.0＝465.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　(4)
	棟持柱　2
	床面積(19.2)㎡

表49　1437号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南—北 N—22°—E	P11~14・21・22 D11・21

	桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点　a	測　点　b
	P_{11}—P_{12}	P_{11}—P_{13}				東壁—西壁 ●354
	P_{13}—P_{14}	P_{12}—P_{14}				
平均						
	棟持柱間 a_1					
	P_{21}—P_{22}					

番号	検出面標高
P_{11}	欠　失
P_{12}	欠　失
P_{13}	欠　失
P_{14}	欠　失
P_{21}	欠　失
P_{22}	欠　失
壁	47.47
高床	
中床	47.24

番号	標　高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	欠失
P_{22}	欠失
D_{11}	欠失
D_{21}	欠失

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

規模	
	1間×1間
	支　柱　(4)
	棟持柱　(2)
	床面積　㎡

●東壁—西壁	計　算　値	算　出　値
東壁—西壁	354＝31.1cm×11.8	354＝29.5cm×12.0

表50　1464号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南東—北西 N—23°—W	P11・12

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12} (342)	P_{11}—P_{13} (414)	342	(414)	南壁沿高床幅 153	西壁—西柱筋 68
	P_{13}—P_{14} 342	P_{12}—P_{14} (414)	測 点 a_4	測 点 b_4	高床北縁—南柱筋 169	西柱筋—D_{11} 224
平均	●342	●(414)	南柱筋—DP_{211} 84	西柱筋—P_{21} (214)	南柱筋—D_{11} 109	D_{11}—東柱筋 190
	棟持柱間 a_1		DP_{211}—D_{21} 14	P_{21}—東柱筋 200	D_{11}—P_{22} 143	東柱筋—DP_{211} 15
	P_{21}—P_{22} ●252		D_{21}—DP_{212} 19	西柱筋—P_{22} (196)	P_{22}—北柱筋 90	DP_{211}—D_{21} 7
			DP_{211}—DP_{212} ●33	P_{22}—東柱筋 2181	北柱筋—北壁 (169)	D_{21}—DP_{212} 2
			DP_{212}—北柱筋 225		北壁沿高床幅高 (155)	DP_{212}—東壁 96
					南壁—北壁 ●(833)	西壁—東壁 ●602

番号	検出面標高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	48.87
P_{14}	48.90
P_{21}	48.91
P_{22}	48.67
壁	48.99
高床	49.00
中床	48.94

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.83	0.83	−72	−72	−90

番号	標 高
P_{11}	未確認
P_{12}	未確認
P_{13}	48.27
P_{14}	48.39
P_{21}	48.28
P_{22}	48.50
D_{11}	48.80
D_{21}	47.93
DP_{211}	47.90
DP_{211}	47.90

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	342 ＝30.0cm×11.4	342 ＝31.1cm×11.0＝342.1
△梁　行　B	(414)＝30.0 ×13.8	(414)≒31.1 ×13.5＝419.9
棟　持　a_1	252 ＝30.0 × 8.4	252 ≒31.1 × 8.0＝248.8
DP_{211}—DP_{212}	33 ＝30.0 × 1.1	33 ≒31.1 × 1.0＝ 31.1
南壁—北壁	(833)≒30.0 ×27.8＝834.0	(833)≒31.1 ×27.0＝839.7
西壁—東壁	602 ≒30.0 ×20.1＝603.0	602 ≒31.1 ×19.0＝590.9

(DP_{211}—DP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
DP_{211}—DP_{212}	33 ＝30.0cm× 1.1	33 ＝33.0cm× 1.0
△桁　行　A	342 ＝30.0 ×11.4	342 ≒33.0 ×10.5＝346.5
△梁　行　B	(414)＝30.0 ×13.8	(414)≒33.0 ×12.5＝412.5
△棟　持　a_1	252 ＝30.0 × 8.4	252 ≒33.0 × 7.5＝247.5
南壁—北壁	(833)≒30.0 ×27.8＝834.0	(833)≒33.0 ×25.0＝825.0
西壁—東壁	602 ≒30.0 ×20.1＝603.0	602 ≒33.0 ×18.0＝594.0

規模	
	1間×1間
	支　柱　4
	棟持柱　2
	壁沿高床(2)
	床面積(50.1)㎡

表51　1465号A竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南—北 N—19°—W	P12・14

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b
	P_{11}—P_{12} (331)	P_{11}—P_{13} 356	(334)	356	南壁—P_{21} 168	西壁—西柱筋 74
	P_{13}—P_{14} (337)	P_{12}—P_{14} (356)	測 点 a_4	測 点 b_4	P_{21}—南柱筋 18	西柱筋—D_{11} 202
平均	●(334)	●356	南柱筋—DP_{211} ●115	西柱筋—P_{21} 180	南柱筋—D_{11} 75	D_{11}—DP_{211} 139
	棟持柱間 a_1		DP_{211}—北柱筋 (222)	P_{21}—東柱筋 176	D_{11}—P_{21} 110	DP_{211}—東柱筋 15
	P_{21}—P_{22} ●203			西柱筋—P_{22} 178	P_{21}—北柱筋 152	東柱筋—東壁 68
				P_{22}—東柱筋 178	北柱筋—北壁 156	西壁—東壁 ●498
					南壁—北壁 ●(679)	

番号	検出面標高
P_{11}	48.86
P_{12}	欠　失
P_{13}	48.79
P_{14}	重　複
P_{21}	48.39
P_{22}	48.83
壁	48.94
高床	
中床	48.92

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.94	0.94	−22	−22	−131

番号	標 高
P_{11}	48.72
P_{12}	欠失
P_{13}	48.34
P_{14}	重複
P_{21}	重複
P_{22}	48.18
D_{11}	48.77
D_{21}	47.84
DP_{211}	47.89

●桁行換算	計算値	算出値
桁行A	(334)＝30.1cm×11.1＝334.1	(334)＝30.4cm×11.0＝334.4
△梁行B	356 ≒30.1 ×11.8＝355.2	356 ≒30.4 ×11.5＝349.6
△棟持 a_1	203 ≒30.1 × 6.7＝201.7	203 ≒30.4 × 6.5＝197.6
南柱筋−DP_{211}	115 ≒30.1 × 3.8＝114.4	115 ≒30.4 × 4.0＝121.6
南壁−北壁	(679)≒30.1 ×22.6＝680.3	(679)≒30.4 ×22.0＝668.8
西壁−東壁	(498)≒30.1 ×16.5＝496.7	(498)≒30.4 ×16.0＝486.4

●(南柱筋−DP_{211})換算	計算値	算出値
南柱筋−DP_{211}	115 ＝30.3cm× 3.8＝115.1	115 ＝28.8cm× 4.0＝115.2
△桁行A	(334)＝30.3 ×11.0＝333.3	(334)≒28.8 ×11.5＝331.2
△梁行B	356 ≒30.3 ×11.7＝354.5	356 ≒28.8 ×12.5＝360.0
棟持 a_1	203 ＝30.3 × 6.7＝203.0	203 ≒28.8 × 7.0＝201.6
南壁−北壁	(679)＝30.3 ×22.4＝678.7	(679)≒28.8 ×24.0＝691.2
西壁−東壁	(498)≒30.3 ×16.4＝496.9	(498)≒28.8 ×17.0＝489.6

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積(33.8)㎡

表52 1465号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南東−北西 N−23°−W	P12・14 D11

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	$P_{11}-P_{12}$ (280)	$P_{11}-P_{13}$ 360	(287)	360	南壁−P_{21} 154	西壁−西柱筋 54
	$P_{13}-P_{14}$ (293)	$P_{12}-P_{14}$ (360)	測点 a_4	測点 b_4	P_{21}−南柱筋 16	西柱筋−DP_{111} 178
平均	●(287)	●360	南柱筋−DP_{211} 43	西柱筋−P_{21} 183	南柱筋−DP_{111} 87	$DP_{111}-DP_{211}$ 108
	棟持柱間 a_1		$DP_{211}-DP_{212}$ ●31	P_{21}−東柱筋 177	$DP_{111}-P_{22}$ 100	DP_{211}−東柱筋 74
	$P_{21}-P_{22}$ ●203		DP_{212}−北柱筋 206	西柱筋−P_{22} 183	P_{22}−北柱筋 154	東柱筋−東壁 52
				P_{22}−東柱筋 177	北柱筋−北壁 (169)	西壁−東壁 ●466
					南壁−北壁 ●(680)	

番号	検出面標高
P_{11}	48.84
P_{12}	未確認
P_{13}	48.50
P_{14}	重複
P_{21}	48.39
P_{22}	48.83
壁	48.92
高床	
中床	48.84

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.80	0.80	−73	−73	−84

番号	標高
P_{11}	48.62
P_{12}	未確認
P_{13}	48.43
P_{14}	重複
P_{21}	48.30
P_{22}	48.22
D_{11}	欠失
DP_{111}	48.73
D_{21}	48.52
DP_{211}	48.25
DP_{212}	48.52

●桁行換算	計算値	算出値
桁行A	(287)＝29.9cm× 9.6＝287.0	(387)＝28.7cm×10.0
△梁行B	360 ≒29.9 ×12.0＝358.8	360 ≒28.7 ×12.5＝358.8
棟持 a_1	203 ＝29.9 × 6.8＝203.3	203 ≒28.7 × 7.0＝200.9
$DP_{211}-DP_{212}$	31 ≒29.9 × 1.0＝ 29.9	31 ≒28.7 × 1.0＝ 28.7
西壁−東壁	(680)≒29.9 ×22.7＝678.7	(680)≒28.7 ×24.0＝688.8
南壁−北壁	466 ≒29.9 ×15.6＝466.4	466 ≒28.7 ×16.0＝459.2

($DP_{211}-DP_{212}$)換算	計算値	算出値
$DP_{211}-DP_{212}$	31 ＝31.0cm× 1.0	左に同じ
△桁行A	(287)≒31.0 × 9.3＝288.3	(287)≒31.0 × 9.5＝294.5
△梁行B	360 ＝31.0 ×11.6＝359.6	360 ≒31.0 ×11.5＝356.5
棟持 a_1	203 ≒31.0 × 6.5＝201.5	左に同じ
南壁−北壁	(680)≒31.0 ×21.9＝678.9	(680)≒31.0 ×22.0＝682.0
西壁−東壁	466 ≒31.0 ×15.0＝465.0	左に同じ

規模	
	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積(31.7)㎡

表53　1466号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠　番
南一北 N−21°−W	DP212

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
					南壁−P_{21} 101	西壁−D_{11} 172
			測点 a_4	測点 b_4	P_{21}−D_{11} 63	D_{11}−南北0 5
平均			東西P_{21}−DP_{211} 20	西壁−高床西縁 144	D_{11}−P_{22} 92	南北0−D_{21} 133
	棟持柱間 a_1		DP_{211}−D_{21} 21	高床西縁−南北0 33	P_{22}−北壁 (101)	D_{21}−DP_{211} 16
	P_{21}−P_{22} ●155		D_{21}−DP_{212} (22)	南北0−東壁 173	P_{22}−高床南縁 13	DP_{211}−東壁 24
			DP_{212}−東西P_{22} (92)	壁沿高床長 ●206	壁隅高床幅 ●(88)	西壁−東壁 ●350
			DP_{211}−DP_{212} ●(43)		南壁−北壁 ●(357)	

番号	標　高
P_{11}	
P_{12}	
P_{13}	
P_{14}	
P_{21}	48.43
P_{22}	48.30
D_{11}	48.76
D_{21}	48.66
DP_{211}	48.57
DP_{212}	未検出

番号	検出面標高
P_{11}	
P_{12}	
P_{13}	
P_{14}	
P_{21}	48.77
P_{22}	48.85
壁	49.01
高床	48.96
中床	48.77

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	155 ＝29.8cm× 5.2＝154.96	155 ＝31.0cm× 5.0
△DP_{211}−DP_{212}	(43)≒29.8 × 1.4＝ 41.7	(43)≒31.0 × 1.5＝ 46.5
壁隅高床幅	(88)≒29.8 × 3.0＝ 89.4	(88)≒31.0 × 3.0＝ 93.0
壁隅高床長	206 ≒29.8 × 6.9＝205.6	206 ≒31.0 × 7.0＝217.0
南壁−北壁	(357)≒29.8 ×12.0＝357.6	(357)≒31.0 ×12.0＝372.0
西壁−東壁	350 ≒29.8 ×11.7＝348.7	350 ≒31.0 ×11.0＝341.0

(DP_{211}−DP_{212})換算	計　算　値	算　出　値
△DP_{211}−DP_{212}	(43)＝30.7cm× 1.4＝ 42.98	(43)＝28.7cm× 1.5＝ 43.1
△棟　持　a_1	155 ≒30.7 × 5.0＝153.5	155 ≒28.7 × 5.5＝157.9
壁隅高床幅	(88)≒30.7 × 2.9＝ 89.1	(88)≒28.7 × 3.0＝ 86.1
壁隅高床長	206 ＝30.7 × 6.7＝205.7	206 ≒28.7 × 7.0＝200.9
南壁−北壁	(357)≒30.7 ×11.6＝356.1	(357)＝28.7 ×12.0＝344.4
西壁−東壁	350 ＝30.7 ×11.4＝349.98	350 ≒28.7 ×12.0＝344.4

規模	間×　間
	主　柱
	棟持柱　2
	壁隅高床 1
	床面積(12.5)㎡

表54　1467号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
南一北 N−22°−W	P11~13・21 P22、D11・21

	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 a	測点 b
	P_{11}−P_{12}	P_{11}−P_{13}			南壁高床幅	西壁−西柱筋
	P_{13}−P_{14}	P_{12}−P_{14}			高床北縁−P_{22} 25	西柱筋−P_{21}
平均					P_{21}−南柱筋 (25)	P_{21}−東柱筋
	棟持柱間 a_1				南壁−北壁	東柱筋−東壁
	P_{21}−P_{22}					東壁−西柱筋 304
						西壁−東壁

番号	標　高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	48.84
P_{21}	未確認
P_{22}	欠失

番号	検出面標高
P_{11}	欠　失
P_{12}	未確認
P_{13}	欠　失
P_{14}	48.86
P_{21}	欠　失
P_{22}	未確認
壁	48.98
高床	?
中床	48.90

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

表55　2001号A竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北東ー南西 N−25°−E	P11~14・81・83 H_{21}、HP211・212

番号	検出面標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	47.19
P_{22}	47.13
壁	47.31
高床	欠失
中床	47.19

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}−P_{12}	P_{11}−P_{13}	(283)	(260)	北壁沿高床幅 (112)	東壁沿高床幅 (147)
	P_{13}−P_{14}	P_{12}−P_{14}	測点 a_4	測点 b_4	高床南縁−P_{21} (35)	高床西縁−東柱筋 (20)
平均	● (283)	● (260)	北壁−P_{81} (35)	棟持柱筋−HP_{211} ● (119)	P_{21}−北柱筋 (35)	東柱筋 aM_{11} (161)
	棟持柱間 a_1		P_{82}−南壁 35	棟持柱筋 −H_{21}東縁 (119)	南柱筋−P_{22} (35)	aM_{11}−西柱筋 (99)
	P_{21}−P_{22} ● 353		北壁−P_{83} (51)		P_{22}−高床北縁 (35)	西柱筋−H_{21}東縁 (20)
			P_{84}−南壁 51		南壁沿高床幅 (112)	H_{21}幅 ● (147)
			北柱筋−H_{21}北縁 (北柱筋−HP_{211}) (217)		北壁−南壁 (647)	東壁−西壁 (594)
			HP_{211}−HP_{212} (H_{21}長) ● (213)			
			H_{21}南縁−南柱筋 (HP_{212}−南柱筋) (217)			

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	(46.80)
P_{22}	46.80
P_{81}	欠失
P_{82}	47.03
P_{83}	欠失
P_{84}	47.24
H_{21}	欠失
HP_{211}	欠失
HP_{212}	欠失
aHM_{11}	欠失

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.09)	(1.09)	(23)	(23)	(70)

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a_1	353 ＝29.9cm×11.8＝352.8	353 ＝29.4cm×12.0＝352.8
△桁行 A	(283)≒29.9 × 9.5＝284.1	(283)≒29.4 × 9.5＝279.3
△梁行 B	(260)≒29.9 × 8.7＝260.1	(260)≒29.4 × 8.5＝249.9
HP_{211}−HP_{212}	213 ≒29.9 × 7.1＝212.3	213 ≒29.4 × 7.0＝205.8
H_{21} 幅	(147)＝29.9 × 4.9＝146.5	(147)＝29.4 × 5.0
棟持柱筋−HP_{211}	(119)≒29.9 × 4.0＝119.6	(119)≒29.4 × 4.0＝117.6

(HP_{211}−HP_{212})換算	計算値	算出値
HP_{211}−HP_{212}	(213)＝30.0cm× 7.1	(213)＝30.4cm× 7.0＝212.8
△棟持 a_1	353 ≒30.0 ×11.8＝354.0	353 ≒30.4 ×11.5＝349.6
△桁行 A	(283)≒30.0 × 9.4＝282.0	(283)≒30.4 × 9.5＝288.8
△梁行 B	(260)≒30.0 × 8.7＝261.0	(260)≒30.4 × 8.5＝258.4
H_{21} 幅	(147)＝30.0 × 4.9	(147)≒30.4 × 5.0＝152.0
棟持柱筋−HP_{211}	(119)≒30.0 × 4.0＝120.0	(119)≒30.4 × 4.0＝121.6

規模	
	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	補柱 (4)
	高床 (5)
	棟持柱筋区画溝 aHM_{11}
	方形区画 H_{21}
	床面積(38.4)㎡

表56　2001号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
北東ー南西 N−25°−E	P11~14・81・83・84 H21、HP211・212

番号	検出面標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	重複
P_{22}	重複
壁	47.19
高床	47.16
中床	47.10

	桁行A	梁行B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点a	測点b
	P_{11}−P_{12}	P_{11}−P_{13}	(283)	(260)	北壁沿高床幅 ● (112)	東壁沿高床幅 ● (127)
	P_{13}−P_{14}	P_{12}−P_{14}	測点 a_4	測点 b_4	高床南縁−P_{21} (35)	高床西縁−東柱筋 (14)
平均	(283)	(260)	北壁−P_{81} (35)	棟持柱筋−HP_{211} ● (119)	P_{21}−北柱筋 (35)	東柱筋−棟持柱筋 (161)
	棟持柱間 a_1		P_{82}−南壁 35	棟持柱筋 −H_{21}東縁 (119)	南柱筋−P_{22} (35)	棟持柱筋−西柱筋 (125)
	P_{21}−P_{22} ● (353)		北壁−P_{83} (51)		P_{22}−高床北縁 (35)	西柱筋−H_{21}東縁 (14)
			P_{84}−南壁 (51)		南壁沿高床幅 (112)	H_{21}幅 ● (127)
			北柱筋−H_{21}北縁 (北柱筋−HP_{211}) (70)		北壁−南壁 (647)	東壁−西壁 ● (568)
			HP_{211}−HP_{212} (H_{21}長) ● (143)			
			H_{21}南縁−南柱筋 (HP_{212}−南柱筋) (70)			

番号	標高
P_{11}	欠失
P_{12}	欠失
P_{13}	欠失
P_{14}	欠失
P_{21}	重複
P_{22}	重複
P_{81}	欠失
P_{82}	47.09
P_{83}	欠失
P_{84}	重複
H_{21}	46.81
HP_{211}	欠失
HP_{212}	欠失
aHM_{11}	欠失

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.09)	(1.09)	(23)	(23)	(70)

●棟持柱筋−HP_{211}換算	計　算　値	算　出　値
棟持柱筋−HP_{211}	(119)＝29.8cm× 4.0＝119.2	左に同じ
△東壁沿高床幅	(127)≒29.8　× 4.3＝128.1	(127)≒29.8　× 4.5＝134.1
北壁沿高床幅	(112)≒29.8　× 3.8＝113.2	(112)≒29.8　× 4.0＝119.2
棟　持　a_1	(353)≒29.8　×11.8＝351.6	(353)≒29.8　×12.0＝357.6
HP_{211}−HP_{212}	(143)＝29.8　× 4.8＝143.0	(143)≒29.8　× 5.0＝149.0
東壁−西壁	(568)≒29.8　×19.1＝569.2	(568)≒29.8　×19.0＝566.2

HP_{211}−HP_{212}換算	計　算　値	算　出　値
HP_{211}−HP_{212}	(143)＝29.8cm× 4.8＝143.04	(143)＝28.6cm× 5.0
棟持柱筋−HP_{211}	(119)＝29.8　× 4.0＝119.2	(119)≒28.6　× 4.0＝114.4
△東壁沿高床幅	(127)≒29.8　× 4.3＝128.1	(127)≒28.6　× 4.5＝128.7
北壁沿高床幅	(112)≒29.8　× 3.8＝113.2	(112)≒28.6　× 4.0＝114.4
△棟持 a_1	(353)≒29.8　×11.8＝351.6	(353)≒28.6　×12.5＝357.5
東壁−西壁	(568)＝29.8　×19.1＝569.2	(568)≒28.6　×20.0＝572.0

規模	
	1間×1間
	主　柱　4
	棟持柱　(2)
	補　柱　(4)
	高　床　(3)
	棟持柱筋区画溝 aM_{11}
	方形区画 H_{21}
	床面積(36.7)m²

表57　1号案掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東−西 N−70°W	

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1−P_3 430	P_1−P_4 258	P_1−P_2 208	258
	P_4−P_6 431	P_3−P_6 258	P_2−P_3 223	
平均	●431	●258	P_4−P_5 216	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		
		P_2−P_5 271	P_5−P_6 215	
		平均	216	

番号	検出面標高
P_1	48.97
P_3	48.90
P_4	49.02
P_6	48.91
P_{21}	
P_{22}	

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.67	0.84	173	−42	

番号	標高
P_1	48.56
P_2	48.69
P_3	48.33
P_4	48.60
P_5	48.47
P_6	48.55

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	431＝29.9cm×14.4＝430.6	431＝30.8cm×14.0＝431.2
梁　行　B	258≒29.9cm×8.6＝257.1	258≒30.8　×8.5＝261.8
棟　持　a_1	無配置	無配置

規模	
	1間×2間
	棟持柱　0
	面積11.1m²

表58　12号A案掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東－西 N－81°－W	P_{21}

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1－P_3	P_1－P_4	P_1－P_2	312
	465	314	244	
	P_4－P_6	P_3－P_6	P_2－P_3	
	445	309	221	
平均	●455	●312	P_4－P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	242	
	P_{21}－P_{22}	P_2－P_5	P_5－P_6	
	●(444)	(322)	203	
		平均	228	

番号	検出面標高
P_1	49.06
P_3	49.01
P_4	49.01
P_6	49.00
P_{21}	未確認
P_{22}	49.00

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.42	0.71	132	－90	－1

番号	標高
P_1	48.48
P_2	48.74
P_3	48.78
P_4	48.61
P_5	48.63
P_6	48.65
P_{21}	未確認
P_{22}	48.69

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	455 ＝30.1cm×15.1＝454.5	455 ＝30.3cm×15.0＝454.5
△梁　行　B	312 ≒30.1 ×10.4＝313.0	312 ≒30.3 ×10.5＝318.2
△棟　持　a_1	(444)≒30.1 ×14.8＝445.5	(444)≒30.3 ×14.5＝439.4

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	(444)＝30.0cm×14.8	(444)＝29.6cm×15.0
△桁　行　A	455 ＝30.0 ×15.2＝456.0	455 ≒29.6 ×15.5＝458.8
△梁　行　B	312 ＝30.0 ×10.4	312 ≒29.6 ×10.5＝310.8

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積14.0㎡

表59　12号B案掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東－西 N－83°－W	P_{22}

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1－P_3	P_1－P_4	P_1－P 2	320
	458	338	232	
	P_4－P_6	P 3－P_6	P 2－P_3	
	445	306	226	
平均	●452	●322	P_4－P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	231	
	P_{21}－P_{22}	P_2－P_5	P_5－P_6	
	(448)	(322)	214	
		平均	226	

番号	検出面標高
P_1	重複
P_3	49.01
P_4	49.03
P_6	49.00
P_{21}	未確認
P_{22}	重複

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.41	0.71	132	－94	－11

番号	標高
P_1	重複
P_2	48.49
P_3	48.69
P_4	48.80
P_5	重複
P_6	48.65
P_{21}	未確認
P_{22}	48.69

桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	452 ＝29.9cm×15.1＝451.5	452 ＝30.1cm×15.0＝451.5
△梁　行　B	322 ≒29.9 ×10.8＝322.9	322 ≒30.1 ×10.5＝316.1
棟　持　a_1	(448)≒29.9 ×15.0＝448.5	(448)≒30.1 ×15.0＝451.5

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	(448)≒30.1cm×14.9＝448.5	(448)≒29.9cm×15.0＝448.5
桁　行　A	452 ＝30.1 ×15.0＝451.5	452 ≒29.9 ×15.0＝448.5
梁　行　B	322 ＝30.1 ×10.7＝322.1	322 ≒29.9 ×11.0＝328.9

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積14.5㎡

表60　1002号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
南ー北 N−15°−W	

桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a_2	梁間 b_2	測点 A	測点 B
P_1-P_4	P_1-P_5	P_1-P_2	313	南柱筋−P61A	西柱筋−P61A
693	324	268		227	(60)
P_5-P_8	P_4-P_8	P_2-P_3		南柱筋−P62B	東柱筋−P62A
682	302	201		203	60
平均 ●688	●313	P_3-P_4	平均	215	60
棟持柱間 a_1	柱間 b_1	224		P61A−P65A	西柱筋−P63A
	P_2-P_6	P_5-P_6	施設柱間B	114	80
	296	240	P61−P62	P65A−P66A	東柱筋−P64A
	P_3-P_7	P_6-P_7	●(422)	125	74
	306	214	P63−P64	P66A−P67A	
平均	301	P_7-P_8	456	116	
		228		P67A−P63A	
	平均	229		100	
				P61A−P63A	
				455	

番号	検出面標高
P_1	48.69
P_4	48.91
P_5	48.81
P_8	48.92
P_{61}	48.79
P_{62}	48.93

番号	標高
P_1	48.56
P_2	48.51
P_3	48.51
P_4	48.58
P_5	48.67
P_6	48.43
P_7	48.47
P_8	48.60
P_{61}	48.41
P_{62}	48.61
溝1001A	48.38
溝1001B	48.62
溝1003	48.28
溝2001A	48.77
溝2001B	48.86
土坑11	47.85
土坑12(1001A)	47.97
土坑12(1001B)	48.22
土坑1002A	48.26
土坑1002B	48.51
溝2003	48.61
P1549(溝2004)	48.46
P1325(溝2005)	48.54
P1520(溝2006)	48.42

関連遺構	主軸(長軸)	検出面標高
住1001	N−75°−E	49.13
溝1001A	N−75°−E	48.93
溝1003	N−69°−E	48.64
溝18	N−75°−E	48.64
土坑1001A		48.63
土坑1002A		48.64
建1001	N−89°−W	48.95
溝1001B	N−89°−W	48.95
溝2001	N−89°−W	48.91
溝2002	N−89°−W	48.92
土坑1001B	?	48.61
土坑1002B	?	48.67
土坑1003	N−85°−W	48.58
溝2003	?	48.79
溝2004	?	48.69
溝2005	N−89°−W	48.63
溝2006	N−89°−W	48.66
溝2007	N−89°−W	48.63
土坑13	N−84°−W	48.58

	測点 B		測点 A	主軸方向
建1001A	北柱筋−P61B	P66B−P67B		
	(182)	155		東ー西
	南柱筋−P62B	P67B−P68B	西柱筋−P61B	N−89°−W
	174	(91)	(西柱筋−P65B)	
	P61B−P65B	P68B−P62B	(91)	
	(72)	(83)		
	P65B−P66B	P61B−P62B	桁行 A	梁行 B
	123	(524)	363	166

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
2.20	0.73	375	−84	

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	688 ≒30.0cm×22.9=687.0	688 =29.9cm×23.0=687.7
△梁行 B	313 ≒30.0 ×10.4=312.0	313 ≒29.9 ×10.5=314.0
施設柱間B	(422)≒30.0 ×14.1=423.0	(422)≒29.9 ×14.0=418.6

●施設柱間換算	計算値	算出値
施設柱間B	(422)=29.9cm×14.1=421.6	(422)≒30.1cm×14.0=421.4
桁行 A	688 =29.9 ×23.0=687.7	688 ≒30.1 ×23.0=692.3
△梁行 B	313 ≒29.9 ×10.5=314.0	313 =30.1 ×10.5=316.1

規模	
	1間×3間
	棟持柱 0
	施設柱 2
	施設溝 1
	床面積21.5㎡

表61　1003号Ａ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東一西 N—76°—E	P_3

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　間	柱 間 a_3	
	P_1—P_3 (446)	P_1—P_4 359	P_1—P_2 226	359	P_{21}—P_{81} 226	
	P_4—P_6 464	P_3—P_6 (359)	P_2—P_3 220	柱 間 b_3 P 2—P_{81}	P_{81}—P_{22} 194	
平均	455	359	P_4—P_5	187	210	平均
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	245	P_{81}—P_5		
	P_{21}—P_{22}	P_2—P_5	P_5—P_6	134		
	420	321	219	161	平均	
		平均	228			

番号	検出面標高
P_1	48.75
P_3	欠失？
P_4	48.72
P_6	48.89
P_{21}	48.81
P_{22}	48.86

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.37	0.64	96	—131	—35

番号	標高
P_1	48.44
P_2	48.64
P_3	欠失？
P_4	48.59
P_5	48.52
P_6	48.65
P_{21}	48.52
P_{22}	48.65
P_{81}	48.41

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	455＝29.9cm×15.2＝454.5	455＝30.3cm×15.0＝454.5
梁　行　B	359＝29.9　×12.0＝358.8	359≒30.3　×12.0＝363.6
棟　持　a_1	420≒29.9　×14.0＝418.6	420≒30.3　×14.0＝424.2

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	420＝30.0cm×14.0	左に同じ
桁　行　A	455≒30.0　×15.2＝456	455≒30.0　×15.0＝450
梁　行　B	359≒30.0　×12.0＝360	359≒30.0　×12.0＝360

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	床　束　1
	面積16.3㎡

表62　1003号Ｂ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東一西 N—76°—E	P1・3～5 P 6・21

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　間	柱 間 a_3	
	P_1—P_3 (400)	P_1—P_4 (359)	P_1—P_2 210	(359)	P_{21}—P_{81} (201)	
	P_4—P_6 400	P_3—P_6 (359)	P_2—P_3 190	柱 間 b_3 P_2—P_{81}	P_{81}—P_{22} 180	
平均	400	(359)	P_4—P_5	159	191	平均
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	206	P_{81}—P_5		
	P_{21}—P_{22}	P_2—P_5	P_5—P_6	174		
	(381)	333	194	167	平均	
		平均	200			

番号	検出面標高
P_1	重複
P_3	欠失？
P_4	重複
P_6	48.82
P_{21}	重複
P_{22}	48.78

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.05	0.56	41	—159	—19

番号	標高
P_1	重複
P_2	48.57
P_3	欠失？
P_4	重複
P_5	48.64
P_6	48.82
P_{21}	重複
P_{22}	48.78
P_{81}	48.60

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	400　＝30.1cm×13.3＝400.3	400　＝30.8cm×13.0＝400.4
△梁　行　B	(359)≒30.1　×11.9＝358.2	(359)≒30.8　×11.5＝354.2
△棟　持　a_1	(381)≒30.1　×12.7＝382.3	(381)≒30.8　×12.5＝385.0

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	(381)＝30.0cm×12.7	(381)＝29.3cm×13.0＝380.9
△桁　行　A	400　≒30.0　×13.3＝399	400　≒29.3　×13.5＝395.6
△梁　行　B	(359)≒30.0　×12.0＝360.0	(359)≒29.3　×12.5＝366.3

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	床　束　1
	面積(14.4)㎡

表63　1004号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東—西 N—89°—W	P 1・2・5

番号	検出面標高
P_1	未検出？
P_4	48.81
P_5	未検出
P_8	48.77
P_{21}	48.55
P_{22}	48.82

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1—P_4 (590)	P_1—P_5 (448)	P_1—P_2 (195)	448
	P_5—P_8 (584)	P_4—P_8 448	P 2—P 3 (209)	
平均	(587)	448	P_3—P_4 186	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		
	P_{21}—P_{22} 652	P_2—P_6 (448)	P_5—P_6 (211)	
		P_3—P_7 438	P_6—P_7 189	
		443	P_7—P_8 184	
			196	平均

番号	標 高
P_1	未検出？
P_2	未検出？
P_3	48.70
P_4	48.45
P_5	未検出
P_6	48.48
P_7	48.59
P_8	48.39
P_{21}	48.48
P_{22}	48.78

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.31	0.43	139	—252	65

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(587)≒29.9cm×19.6=586.0	(587)≒29.4cm×20.0=588.0
梁　行　B	448 ≒29.9 ×15.0=448.5	448 ≒29.4 ×15.0=441.0
棟　持　a_1	652 =29.9 ×21.8=651.8	652 ≒29.4 ×22.0=646.8

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	652 ≒30.0cm×21.7=651	652 ≒29.6cm×22.0=651.2
桁　行　A	(587)≒30.0 ×19.6=588	(587)≒29.6 ×20.0=592.0
梁　行　B	448 ≒30.0 ×14.9=447	448 ≒29.6 ×15.0=444.0

規模	
	1間×3間
	棟持柱　2
	面積26.3㎡

表64　1005号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
南東—北西 N—45°—W	P_1

番号	検出面標高
P_1	欠失？
P_3	48.96
P_4	48.75
P_6	48.96
P_{21}	48.77
P_{22}	48.92

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　間	柱 間 a_3	
	P_1—P_3 (490)	P_1—P_4 (442)	P_1—P_2 (282)	442	P_{21}—P_{81} 260	
	P_4—P_6 518	P_2—P_6 442	P_2—P_3 208	柱 間 b_3	P_{81}—P_{22} 221	
平均	504	442	P_4—P_5 259	P_2—P_{81} 260	241	平均
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		P_{81}—P_5 254		
	P_{21}—P_{22} 481	P_2—P_5 487	P_5—P_6 259	257	平均	
			252			

番号	標 高
P_1	欠失？
P_2	48.49
P_3	48.49
P_4	48.38
P_5	48.66
P_6	48.72
P_{21}	48.69
P_{22}	48.67
P_{81}	48.54

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.14	0.57	62	—190	—23

桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	504=30.0cm×16.8	504≒29.6cm×17.0=503.2
梁　行　B	442≒30.0 ×14.7=441.0	442≒29.6 ×15.0=444.0
△棟　持　a_1	481≒30.0 ×16.0=480.0	481≒29.6 ×16.5=488.4

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	481≒30.0cm×16.0=480.0	左に同じ
桁　行　A	504=30.0 ×16.8	504≒30.0 ×17.0=510
△梁　行　B	442≒30.0 ×14.7=441.0	442≒30.0 ×14.5=435

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	床　束　1
	面積22.3㎡

表65　1007号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東—西 N—81°—E	P_3

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　　間	柱 間 a_3	
	P_1—P_3	P_1—P_4	P_1—P_2	315	P_{21}—P_{81}	
	(392)	315	214		169	
	P_4—P_6	P_3—P_6	P_2—P_3	柱 間 b_3	P_{81}—P_{22}	
	375	(315)	178	P_2—P_{81}	167	
平均	384	315	P_4—P_5	123	168	平均
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	186	P_{81}—P 5		
	P_{21}—P_{22}	P_2—P_5	P_5—P_6	168		
	336	291	189	146	平均	
		平均	192			

番号	検出面標高
P_1	48.77
P_3	欠失？
P_4	48.72
P_6	48.89
P_{21}	48.74
P_{22}	48.90

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.22	0.61	69	—123	—48

番号	標高
P_1	48.70
P_2	48.78
P_3	欠失？
P_4	48.50
P_5	48.57
P_6	48.79
P_{21}	48.45
P_{22}	48.80
P_{81}	48.58

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	384＝30.0cm×12.8	384＝29.5cm×13.0＝383.5
△梁　行　B	315＝30.0　×10.5	315≒29.5　×10.5＝309.8
△棟　持　a_1	336＝30.0　×11.2	336≒29.5　×11.5＝339.3

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	336＝30.0cm×11.2	336＝30.5cm×11.0＝335.5
△桁　行　A	384＝30.0　×12.8	384≒30.5　×12.5＝381.3
△梁　行　B	315＝30.0　×10.5	315≒30.5　×10.5＝320.3

規模	
	1間×2間
	棟持柱 2
	床　束　1
	面積12.1㎡

表66　1008号Ａ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
南—北 N—12°—W	P21

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 b_2	梁　　間
	P_1—P_3	P_1—P_4	P_1—P_2	391
	518	399	255	
	P_4—P_6	P_3—P_6	P_2—P_3	
	476	382	263	
平均	497	391	P_4—P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	244	
	P_{21}—P_{22}	P_2—P_5	P_5—P_6	
	(511)	409	232	
		平均	249	

番号	検出面標高
P_1	48.85
P_3	48.75
P_4	48.61
P_6	48.98
P_{21}	未検出
P_{22}	48.96

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.28	0.64	106	—142	14

番号	標高
P_1	48.45
P_2	48.67
P_3	48.79
P_4	48.50
P_5	48.66
P_6	48.63
P_{21}	
P_{22}	48.67

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	497≒29.9cm×16.6＝493.3	497≒29.2cm×17.0＝496.4
△梁　行　B	391≒29.9　×13.1＝391.7	391≒29.2　×13.5＝394.2
△棟　持　a_1	511＝29.9　×17.1＝511.3	511＝29.2　×17.5

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	511≒30.1cm×17.0＝511.7	左に同じ
△桁　行　A	497＝30.1　×16.5＝496.7	左に同じ
梁　行　B	391＝30.1　×13.0＝391.3	左に同じ

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積19.4㎡

表67　1008号Ｂ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
南—北 N—11°—W	

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　　間
	P_1—P_3 433	P_1—P_4 357	P_1—P_2 222	348
	P_4—P_6 464	P_3—P_6 338	P_2—P_3 211	
平均	449	348	P_4—P_5 235	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		
	P_{21}—P_{22} 505	P_2—P_5 376	P_5—P_6 229	
		平均	224	

番号	検出面標高
P_1	48.95
P_3	48.80
P_4	48.75
P_6	48.98
P_{21}	48.94
P_{22}	48.96

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.29	0.64	101	—124	56

番号	標高
P_1	48.87
P_2	48.76
P_3	48.51
P_4	48.57
P_5	未計測
P_6	48.67
P_{21}	48.85
P_{22}	48.59

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	449≒30.0cm×15.0=450	左に同じ
△梁　行　B	348=30.0　×11.6	348≒30.0　×11.5=345.0
棟　持　a_1	505≒30.0　×16.8=504	505≒30.0　×17.0=510.0

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	505≒30.1cm×16.8=505.7	505=29.7cm×17.0=504.9
桁　行　A	449=30.1　×14.9=448.5	449≒29.7　×15.0=445.5
△梁　行　B	348≒30.1　×11.6=349.2	348≒29.7　×11.5=341.6

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積15.6㎡

表68　1009号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東—西 N—81°—E	P 1

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　　間
	P_1—P_3 (536)	P_1—P_4 (427)	P_1—P_2 (276)	420
	P_4—P_6 536	P_3—P_6 412	P_2—P_3 260	
平均	536	420	P_4—P_5 (268)	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		
	P_{21}—P_{22} 518	P_2—P_5 349	P_5—P_6 (268)	
		平均	268	

番号	検出面標高
P_1	未検出
P_3	48.63
P_4	48.82
P_6	48.97
P_{21}	48.79
P_{22}	48.75

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.28	0.64	116	—152	—18

番号	標高
P_1	未検出
P_2	48.31
P_3	48.40
P_4	48.56
P_5	48.71
P_6	48.43
P_{21}	48.65
P_{22}	48.36

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	536≒29.9cm×17.9=535.2	536=29.8cm×18.0=536.4
梁　行　B	420≒29.9　×14.0=418.6	420≒29.8　×14.0=417.2
△棟　持　a_1	518≒29.9　×17.3=517.3	518≒29.8　×17.5=521.5

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	518≒29.9cm×17.3=517.3	518≒30.5cm×17.0=518.5
△桁　行　A	536≒29.9　×17.9=535.2	536≒30.5　×17.5=533.8
梁　行　B	420≒29.9　×14.0=418.6	420≒30.5　×14.0=427.0

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積22.5㎡

表69　1010号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東—西 N—71°—E	

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　　間
	P_1—P_3 389	P_1—P_4 150	P_1—P_2 190	153
	P_4—P_6 408	P_3—P_6 155	P_2—P_3 199	
平均	399	153	P_4—P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	209	
		P_2—P_5 152	P_5—P_6 199	
		平均	199	

番号	検出面標高
P_1	48.92
P_3	48.98
P_4	48.90
P_5	48.99

番号	標高
P_1	48.71
P_2	48.61
P_3	48.58
P_4	48.53
P_5	48.65
P_6	48.63

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
2.61	1.04	246	46	

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	399＝30.0cm×13.3	399＝30.7cm×13.0＝399.1
梁　行　B	153＝30.0　× 5.1	153＝30.7　× 5.0＝153.5

規模	
	1間×2間
	棟持柱　0
	面積6.1m²

表70　1019号Ａ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東—西 N—68°—E	P 6

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1—P_3 385	P_1—P_4 364	P_1—P_2 204	367
	P_4—P_6 (385)	P_3—P_6 (370)	P_2—P_3 181	
平均	385	367	P_4—P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	206	
	P_{21}—P_{22} 400	P_2—P_5 394	P_5—P_6 (179)	
		平均	193	

番号	検出面標高
P_1	48.58
P_3	48.68
P_4	48.58
P_6	欠失
P_{21}	48.31
P_{22}	48.69

番号	標高
P_1	48.17
P_2	48.23
P_3	48.57
P_4	48.10
P_5	48.33
P_6	欠失
P_{21}	48.24
P_{22}	48.46

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.05	0.53	18	−174	15

桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	385＝30.1cm×12.8＝385.3	385＝29.6cm×13.0＝384.8
△梁　行　B	367＝30.1　×12.2＝367.2	367≒29.6　×12.5＝370.0
△棟　持　a_1	400＝30.1　×13.3＝400.3	400＝29.6　×13.5＝399.6

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
△棟　持　a_1	400＝30.1cm×13.3＝400.3	400＝30.8cm×13.0＝400.4
桁　行　A	385＝30.1　×12.8＝385.3	385＝30.8　×12.5
梁　行　B	367＝30.1　×12.2＝367.2	367≒30.8　×12.0＝369.6

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積14.1m²

表71　1019号Ｂ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
南西—北東 N—63°—E	P1・5・6 P21

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1—P_3 (420)	P_1—P_4 (334)	P_1—P_2 (206)	(342)
	P_4—P_6 (420)	P_3—P_6 (349)	P_2—P_3 (214)	
平均	(420)	(342)	P_4—P_5 (210)	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		
	P_{21}—P_{22} (384)	P_2—P_5 (334)	P_5—P_6 (210)	
		平均	(210)	

番号	検出面標高
P_1	重　複
P_3	48.54
P_4	48.15
P_6	欠　失
P_{21}	欠　失
P_{22}	48.66

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.20)	(0.61)	(78)	(−132)	(−36)

番号	標 高
P_1	重 複
P_2	48.24
P_3	48.30
P_4	48.15
P_5	欠 失
P_6	欠 失
P_{21}	欠 失
P_{22}	48.57

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(420)＝30.0cm×14.0	左に同じ
△梁　行　B	(342)＝30.0　×11.4	(342)≒30.0　×11.5＝345.0
棟　持　a_1	(384)＝30.0　×12.8	(384)≒30.0　×13.0＝390.0

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	(384)＝30.0cm×12.8	(384)＝29.5cm×13.0＝383.5
桁　行　A	(420)＝30.0　×14.0	(420)≒29.5　×14.0＝413.0
△梁　行　B	(342)＝30.0　×11.4	(342)≒29.5　×11.5＝339.3

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積(14.4)㎡

表72　1029号Ａ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠番
東—西 N—79°—W	P 4

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1—P_3 555	P_1—P_4 (324)	P_1—P_2 284	324
	P_4—P_6 541	P_3—P_6 324	P_2—P_3 271	
平均	●548	●324	P_4—P_5 (294)	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		
		P_2—P_5 324	P_5—P_6 247	
		平均	274	

番号	検出面標高
P_1	48.90
P_3	48.84
P_4	未確認
P_6	48.91
P_{21}	
P_{22}	

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.69	0.85	224	−50	

番号	標高
P_1	48.74
P_2	48.97
P_3	48.53
P_4	未確認
P_5	48.05
P_6	48.57
P_{81}	48.65

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	548≒29.9cm×18.3＝547.2	548≒30.4cm×18.0＝547.2
△梁　行　B	324≒29.9　×10.8＝322.9	324≒30.4　×10.5＝319.2
棟　持　a_1	無配置	無配置

規模	
	1間×2間
	棟持柱　0
	床　束　1
	面積17.8㎡

表73　1029号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
東―西 N―75°―W	P 2～4 P 6

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1―P_3 (516)	P_1―P_4 (348)	P_1―P_2 (258)	(348)
	P_4―P_6 (516)	P_3―P_6 (348)	P_2―P_3 (258)	
平均	● (516)	● (348)	P_4―P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	(289)	
		P_2―P_5 (348)	P_5―P_6 (227)	
		平均	258	

番号	検出面標高
P_1	48.91
P_3	重　複
P_4	未確認
P_6	重　複
P_{21}	
P_{22}	

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.48)	(0.74)	(168)	(―90)	

番号	標 高
P_1	48.74
P_2	48.84
P_3	重　複
P_4	未確認
P_5	48.04
P_6	重　複
P_{81}	48.7

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(516)＝30.0cm×17.2	(516)≒30.4cm×17.0＝516.8
△梁　行　B	(348)＝30.0　×11.6	(348)≒30.4　×11.5＝349.6
棟　持　a_1	無配置	無配置

規模	
	1間×2間
	棟持柱　0
	床　束　1
	面積(18.0)㎡

表74　1031号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠番
南―北 N―15°―W	P 5・6 P22

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁　間
	P_1―P_3 415	P_1―P_4 370	P_1―P_2 194	370
	P_4―P_6 (440)	P_3―P_6 (370)	P_2―P_3 221	
平均	428	370	P_4―P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	(226)	
	P_{21}―P_{22} (428)	P_2―P_5 (340)	P_5―P_6 (214)	
		平均	214	

番号	検出面標高
P_1	48.70
P_3	48.30
P_4	48.57
P_6	未確認
P_{21}	48.65
P_{22}	48.35

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.16	0.58	58	(―156)	0

番号	標 高
P_1	48.40
P_2	48.38
P_3	48.25
P_4	48.37
P_5	欠　失
P_6	未確認
P_{21}	48.33
P_{22}	48.16

●桁 行 換 算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	428 ＝29.9cm×14.3＝427.6	428 ＝30.6cm×14.0＝428.4
梁　行　B	370 ≒29.9　×12.4＝370.8	370 ≒30.6　×12.0＝367.2
棟　持　a_1	(428)＝29.9　×14.3＝427.6	(428)＝30.6　×14.0＝428.4

●棟 持 換 算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	(428)＝29.9cm×14.3＝427.6	(428)＝30.6cm×14.0＝428.4
桁　行　A	428 ＝29.9　×14.3＝427.6	428 ＝30.6　×14.0＝428.4
梁　行　B	370 ≒29.9　×12.4＝370.8	370 ≒30.6　×12.0＝367.2

規模	
	1間×2間
	棟持柱　2
	面積15.8㎡

表75 1032号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠 番
東—西 N—68°—E	P1・2・5 P6・21

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2
	P_1—P_3 (385)	P_1—P_4 (362)	P_1—P_2	(362)
	P_4—P_6 (367)	P_3—P_6 (362)	P_2—P_3	
平均	(376)	(362)	P_4—P_5	
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1		
	P_{21}—P_{22} (408)	P_2—P_5 (362)	P_5—P_6	
		平均	(188)	

番号	検出面標高
P_1	重 複
P_3	48.67
P_4	48.12
P_6	欠 失
P_{21}	欠 失
P_{22}	48.69

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.04)	(0.52)	(14)	(—174)	(41)

番号	標 高
P_1	重 複
P_2	重 複
P_3	48.38
P_4	48.04
P_5	重 複
P_6	欠 失
P_{21}	欠 失
P_{22}	48.37

●桁 行 換 算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	(376)＝30.1cm×12.5＝376.3	(376)＝28.9cm×13.0＝375.7
△梁 行 B	(362)≒30.1 ×12.0＝361.2	(362)≒28.9 ×12.5＝361.3
棟 持 a_1	(408)≒30.1 ×13.6＝409.4	(408)≒28.9 ×14.0＝404.6

●棟 持 換 算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a_1	(408)＝30.0cm×13.6	(408)≒29.1cm×14.0＝407.4
桁 行 A	(376)≒30.0 ×12.5＝375.0	(376)≒29.1 ×13.0＝378.3
△梁 行 B	(362)≒30.0 ×12.1＝363.0	(362)≒29.1 ×12.5＝363.8

規 模	
	1間×2間
	棟持柱 2
	面積(13.6)㎡

表76　2013号Ａ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
南西—北東 N—30°—E	P1・2・4・6 P7～9

番号	検出面標高
P_1	未確認
P_5	49.01
P_6	未確認
P_{10}	未確認
P_{21}	48.90
P_{22}	49.01

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.69)	(0.42)	(364)	(—303)	(115)

桁　行　A	梁　行　B	桁行柱間 a_2	梁　間 b_2	測　点 a_1	測　点 b_1
P_1—P_5	P_1—P_6	P_1—P_2	(526)	南柱筋—P_{23}	西柱筋—P_{23}
(890)	(526)	(222)		(445)	(246)
P_6—P_{10}	P_5—P_{10}	P_2—P_3	柱　間 b_3	P_{23}—北柱筋	東柱筋—P_{22}
(890)	(526)	(223)	P_2—P_7	(445)	(280)
平均　●(890)	●(526)	P_3—P_4	(526)	測　点 a_1	測　点 b_4
棟持柱間 a_1	柱　間 b_1	(223)	P_4—P_9	P_{21}—南柱筋	西柱筋—P_{21}
P_{21}—P_{22}	P_3—P_8	P_4—P_5	(526)	(60)	246
●1005	(526)	(222)		P_{22}—北柱筋	西柱筋—P_{22}
		P_6—P_7		55	246
		(222)	平均	●58	東柱筋—P_{21}
		P_7—P_8		施設柱間 a_4	280
		(223)		北柱筋—P_{61}	東柱筋—P_{22}
		P_8—P_9		31	280
		(245)		北柱筋—P_{62}	施設柱間 b_4
		P_9—P_{10}		34	西柱筋—P_{61}
		200	平均	33	74
	平均	(223)			P_{61}—P_{62}
					106
					P_{61}—P_{22}
					66

番号	標　高
P_1	未確認
P_2	未確認
P_3	48.66
P_4	未確認
P_5	49.34
P_6	未確認
P_7	未確認
P_8	未確認
P_9	48.42
P_{10}	未確認
P_{21}	48.38
P_{22}	48.45
P_{23}	48.03
P_{61}	48.94
P_{62}	48.57

桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	890 ≒30.0cm×29.7=891.0	890 ≒29.7cm×30.0=891.0
△梁　行　B	(526)≒30.0 ×17.5=525.0	(526)≒29.7 ×17.5=519.8
棟　持　a_1	1005 =30.0 ×33.5	1005 ≒29.7 ×34.0=1009.8
測　点　a_1	58 ≒30.0 × 1.9=57.0	58 ≒29.7 × 2.0=59.4

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	1005 =30.0cm×33.5	1005 ≒29.6cm×34.0=1006.4
桁　行　A	890 ≒30.0 ×29.7=891.0	890 ≒29.6 ×30.0=888.0
梁　行　B	(526)≒30.0 ×17.5=525.0	(526)≒29.6 ×18.0=532.8
測　点　a_1	58 ≒30.0 × 1.9=57.0	58 ≒29.6 × 2.0=59.2

規模	
	1間×4間
	主　柱　10
	棟持柱　3
	施設柱　2
	面積46.8㎡

表77　2013号Ｂ掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
南西—北東 N—30°—E	P1～4・6 P8・9

番号	検出面標高
P_1	未確認
P_5	49.01
P_6	未確認
P_{10}	48.87
P_{21}	48.66
P_{22}	49.01

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(2.03)	(0.51)	(478)	(—230)	(122)

	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2		測 点 a_1	測 点 b_1
	P_1—P_5	P_1—P_6	P_1—P_2	466		南柱筋—P_{23}	西柱筋—P_{23}
	(944)	466	(236)			(472)	(224)
	P_6—P_{10}	P_5—P_{10}	P_2—P_3	柱 間 b_3		P_{23}—北柱筋	東柱筋—P_{23}
	(944)	(466)	(236)	P_2—P_7		(472)	(242)
平均	●(944)	●466	P_3—P_4	(466)		測 点 a_1	測 点 b_4
	棟持柱間 a_1	柱 間 b_1	(236)	P_4—P_9		P_{21}—南柱筋	西柱筋—P_{21}
	P_{21}—P_{22}	P_3—P_8	P_4—P_5	448		(61)	224
	●1066	(466)	(236)			P_{22}—北柱筋	西柱筋—P_{21}
			P_6—P_7			61	242
			(251)		平均	●61	東柱筋—P_{22}
			P_7—P_8				233
			(221)				東柱筋—P_{22}
			P_8—P_9				233
			(236)				
			P_9—P_{10}				
			(236)				
		平均	236				

番号	標 高
P_1	未確認
P_2	未確認
P_3	未確認
P_4	未確認
P_5	未確認
P_6	未確認
P_7	48.15
P_8	未確認
P_9	未確認
P_{10}	48.53
P_{21}	48.41
P_{22}	未確認
P_{23}	48.03

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(944)＝30.0cm×31.46＝943.8	(944)≒30.5cm×31.0＝945.5
△梁　行　A	466 ≒30.0　×15.5＝465.0	466 ≒30.5　×15.5＝472.8
棟　持　a_1	1066 ≒30.0　×35.5＝1065.0	1066 ≒30.5　×35.0＝1067.5
測　点　a_1	61 ≒30.0　× 2.0＝60.0	61 ＝30.5　× 2.0

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
棟　持　a_1	1066 ≒30.0cm×35.5＝1065.0	1066 ＝29.6cm×36.0＝1065.6
桁　行　A	(944)≒30.0　×31.5＝945.0	(944)≒29.6　×32.0＝947.2
△梁　行　B	466 ≒30.0　×15.5＝465.0	466 ≒29.6　×15.5＝458.8
測　点　a_1	61 ≒30.0　× 2.0＝60.0	61 ≒29.6　× 2.0＝59.2

規模	
	1間×４間
	主　柱　10
	棟持柱　3
	面積(44.0)㎡

表78　2014号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠　番
北西－南東 N－59°－W	P2～5・7～10 P22

番号	検出面標高
P_1	47.71
P_5	調査区外
P_6	47.54
P_{10}	調査区外
P_{21}	47.51
P_{22}	調査区外

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(2.1)	(0.5)	(456)	(−207)	(−442)

	桁　行　A	梁　行　B
	P_1—P_5 (884)	P_1—P_6 428
	P_6—P_{10} (884)	P_5—P_{10} (428)
平均	●(884)	●428
	棟持柱間 a_1	柱　間　b_1
	P_{21}—P_{22} ●(442)	P_3—P_8 (428)

	桁行柱間 a_2
	P_1—P_2 (221)
	P_2—P_3 (221)
	P_3—P_4 (221)
	P_4—P_5 (221)
	P_6—P_7 (221)
	P_7—P_8 (221)
	P_8—P_9 (221)
	P_9—P_{10} (221)
平均	(221)

梁　間　b_2
(428)
柱　間　b_3
P_2—P_7 (428)
P_4—P_9 (428)

測　点　a
西柱筋—P_{21} (221)
P_{22}—東柱筋 (221)
測　点　a_4
西柱筋—P_{61} 463
東柱筋—P_{62} 217

施設柱間 a_4
P_{61}—P_{62} ●204

	施設柱測点 b・b_3
	南柱筋—P_{61} 126
	測　点　b_3
	南柱筋—P_{62} 123
平均	●125

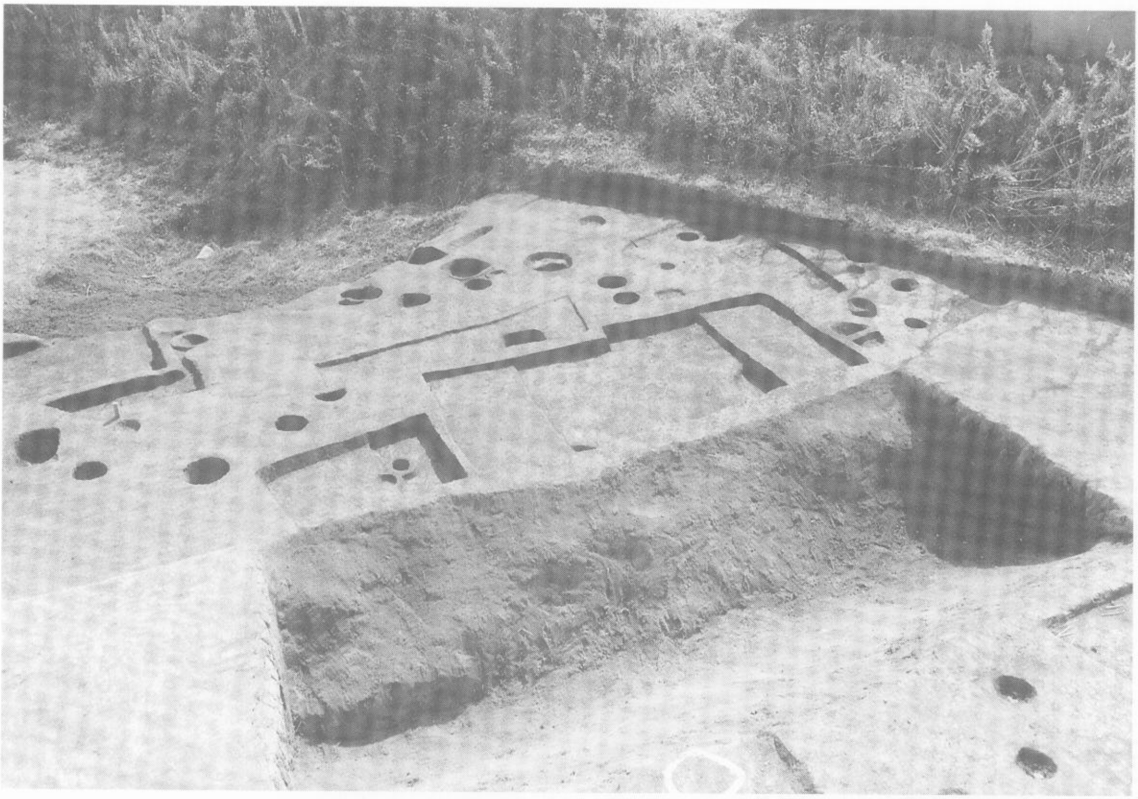
番号	標　高
P_1	47.43
P_2	調査区外
P_3	調査区外
P_4	調査区外
P_5	調査区外
P_6	47.05
P_7	欠　失
P_8	欠　失
P_9	調査区外
P_{10}	調査区外
P_{21}	46.92
P_{22}	調査区外
P_{61}	47.35
P_{62}	47.35

●桁行換算	計　算　値	算　出　値
桁　行　A	(884)≒30.0cm×29.5＝885.0	(884)≒29.5cm×30.0＝885.0
△梁　行　B	428 ≒30.0 ×14.3＝429.0	428 ＝29.5 ×14.5＝427.8
棟　持　a_1	(442)≒30.0 ×14.7＝441.0	(442)≒29.5 ×15.0＝442.5
施設柱間 a_4	204 ＝30.0 × 6.8	204 ≒29.5 × 7.0＝206.5
施設柱測点 b・b_3	125 ≒30.0 × 4.2＝126.0	125 ≒29.5 × 4.0＝118.0

●棟持換算	計　算　値	算　出　値
△梁　行　B	428 ＝29.9cm×14.3＝427.6	428 ＝29.5cm×14.5＝427.8
桁　行　A	(884)≒29.9 ×29.6＝885.0	(884)≒29.5 ×30.0＝885.0
棟　持　a_1	(442)≒29.9 ×14.8＝442.5	(442)≒29.5 ×15.0＝442.5
施設柱間 a_4	204 ≒29.9 × 6.8＝203.3	204 ≒29.5 × 7.0＝206.5
施設柱測点 b・b_3	125 ≒29.9 × 4.2＝125.6	125 ≒29.5 × 4.0＝118.0

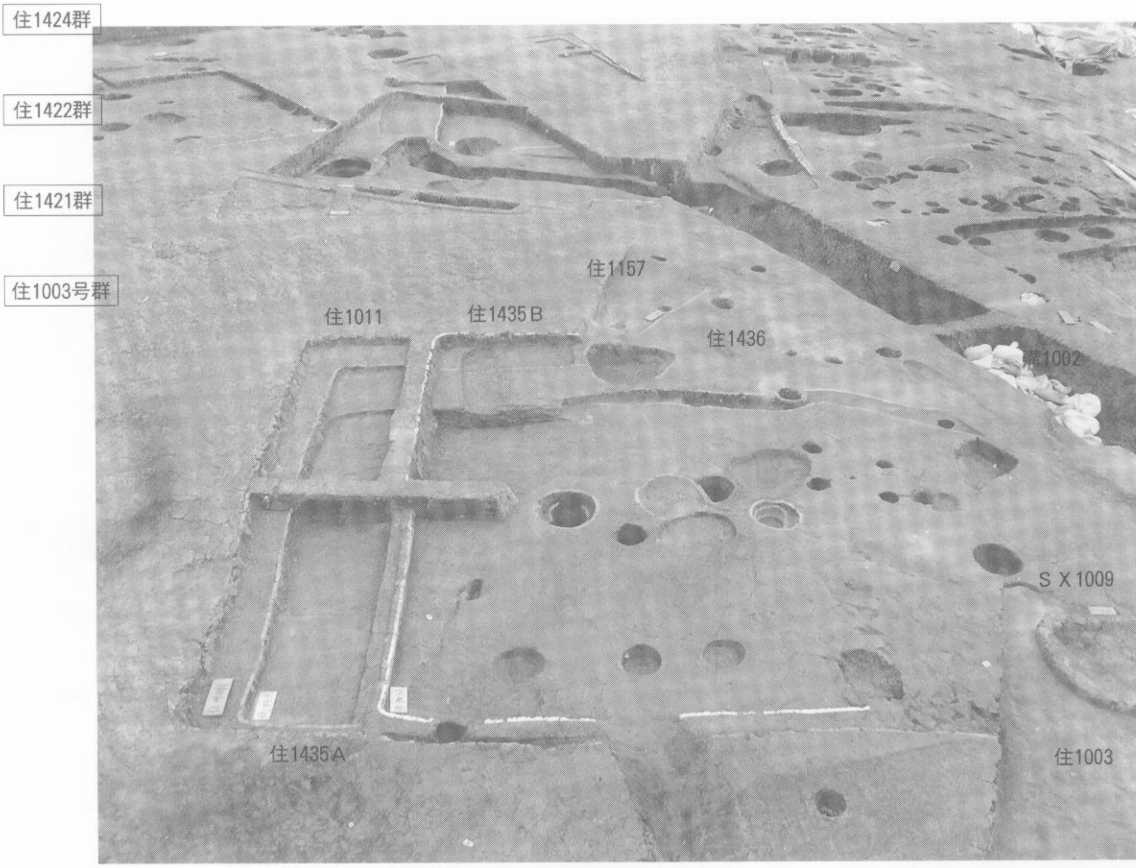
規模	
	1間×4間
	主　柱(10)
	棟持柱(2)
	施設柱　2
	面積(37.8)㎡

図　版



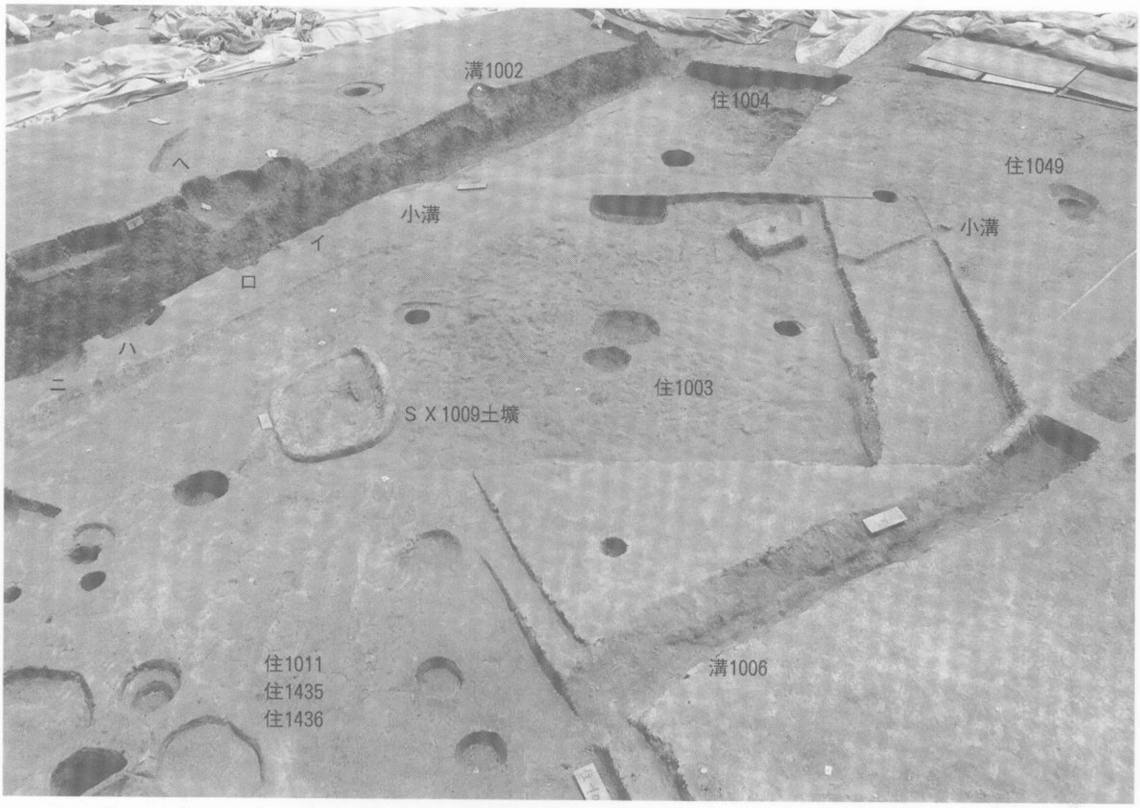
(1) 127～132号竪穴住居跡（北から）

(2) 133～135号竪穴住居跡（北から）



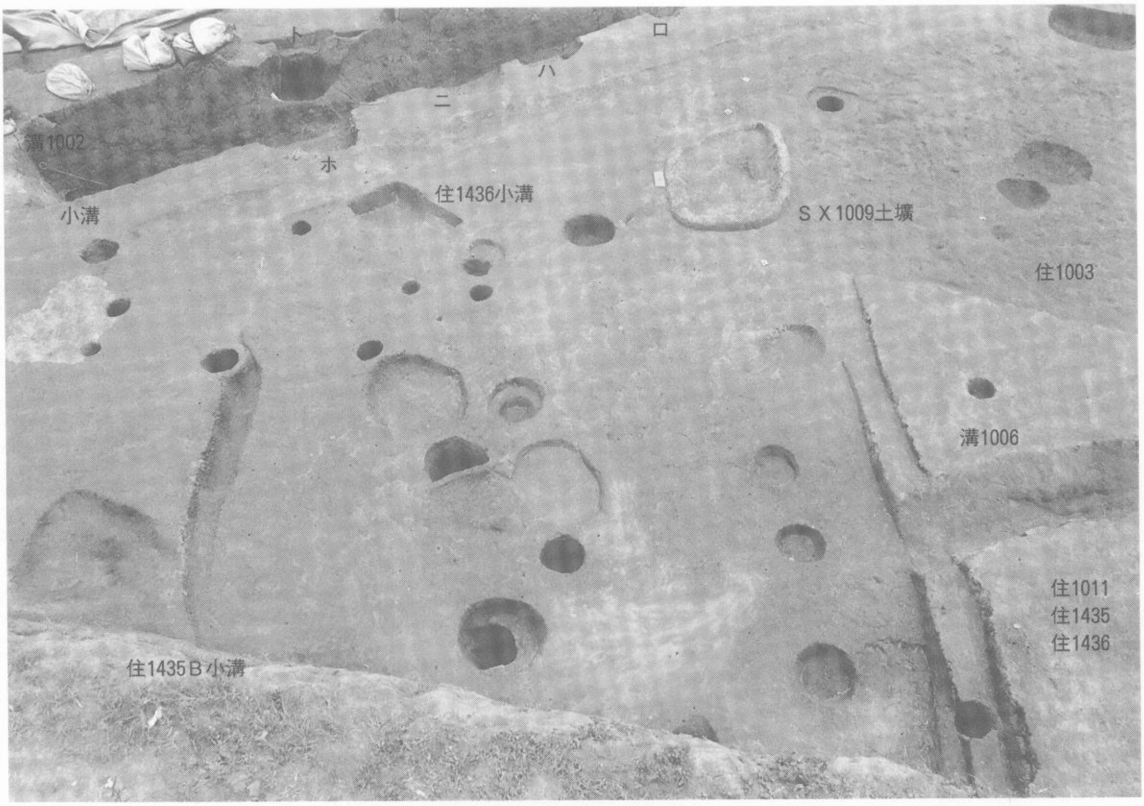
(1)　住1003号群・住1421号群と中世溝1002号（北西から）

(2)　住1011号北柱筋下の素環頭刀子出土状態（南西から）



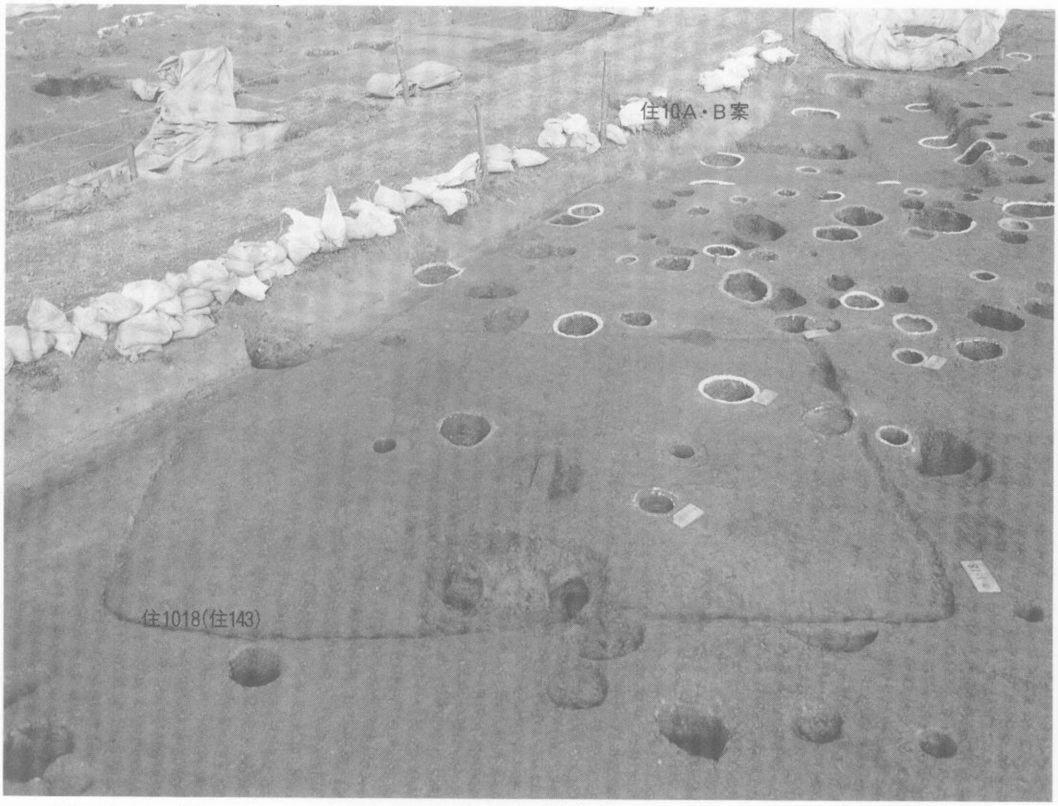
(1) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pイ～ニ・Pへ（北東から）

(2) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pロ～ト（北から）



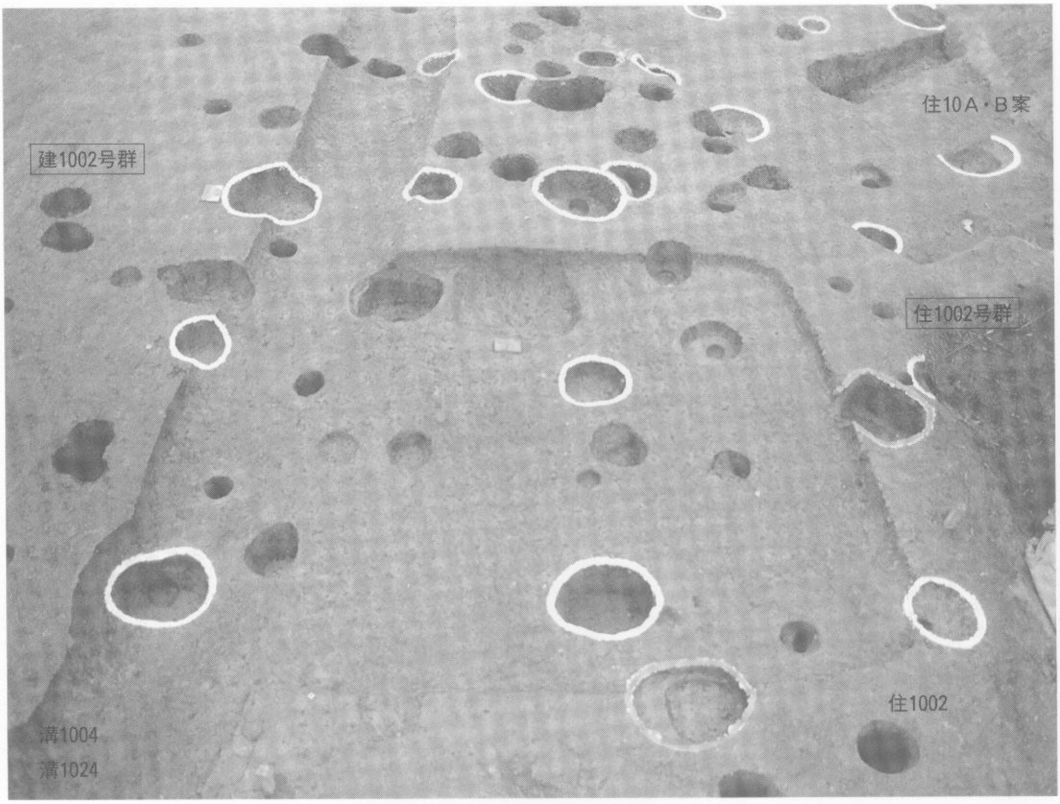
(1)　住1003号群と中世溝1002号・小溝・Ｐロ～ホ・Ｐト（北東から）

(2)　住1003号の住居遺棄祭祀土坑ＳＸ1009号刀子出土状態（南東から）

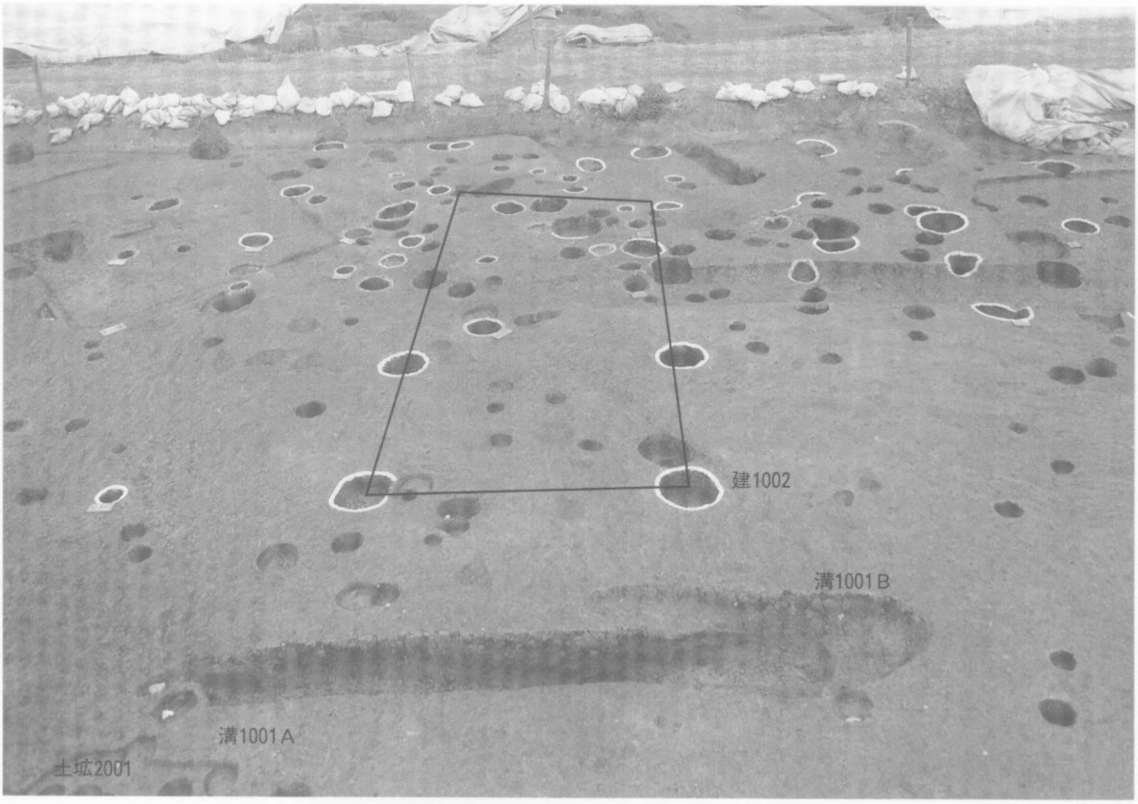


(1)　建1002号群と住1018号（住143号）・住10号案（南西から）

(2)　建1002号群中の〔建1002～1005・1007～1010号〕（南西から）

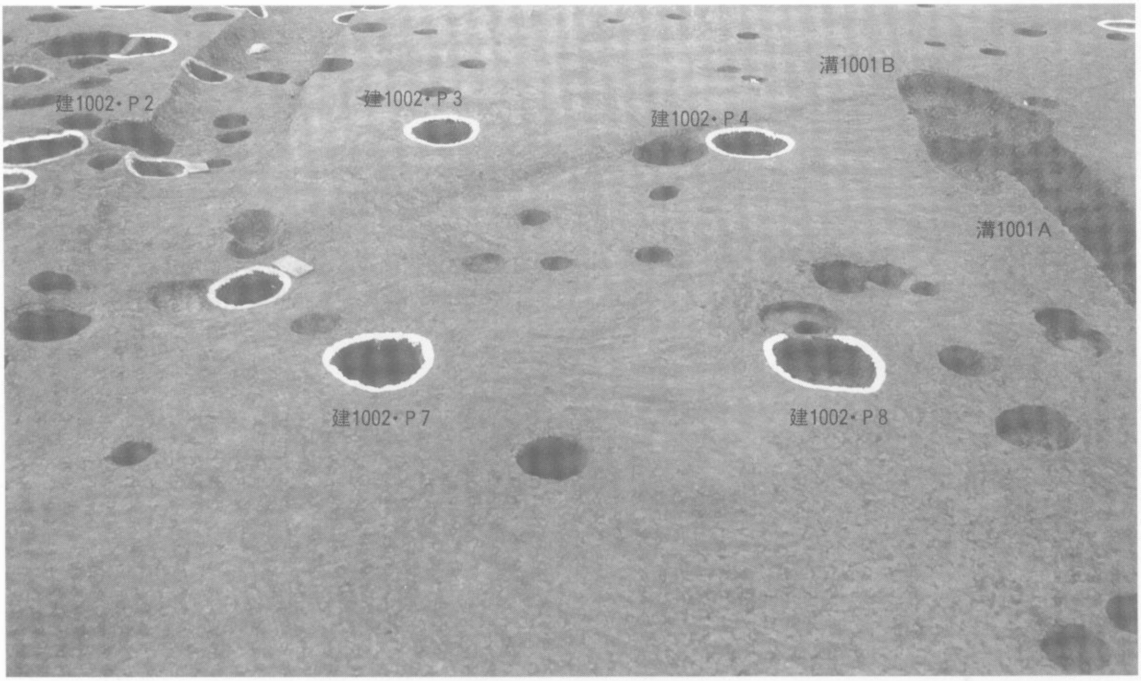


(1) 建1002号群・住1002号群と中世溝1004・1024号（東から）
(2) 建1002号群・住1002号群、溝2004・2005号と中世溝1004・1024号（東から）

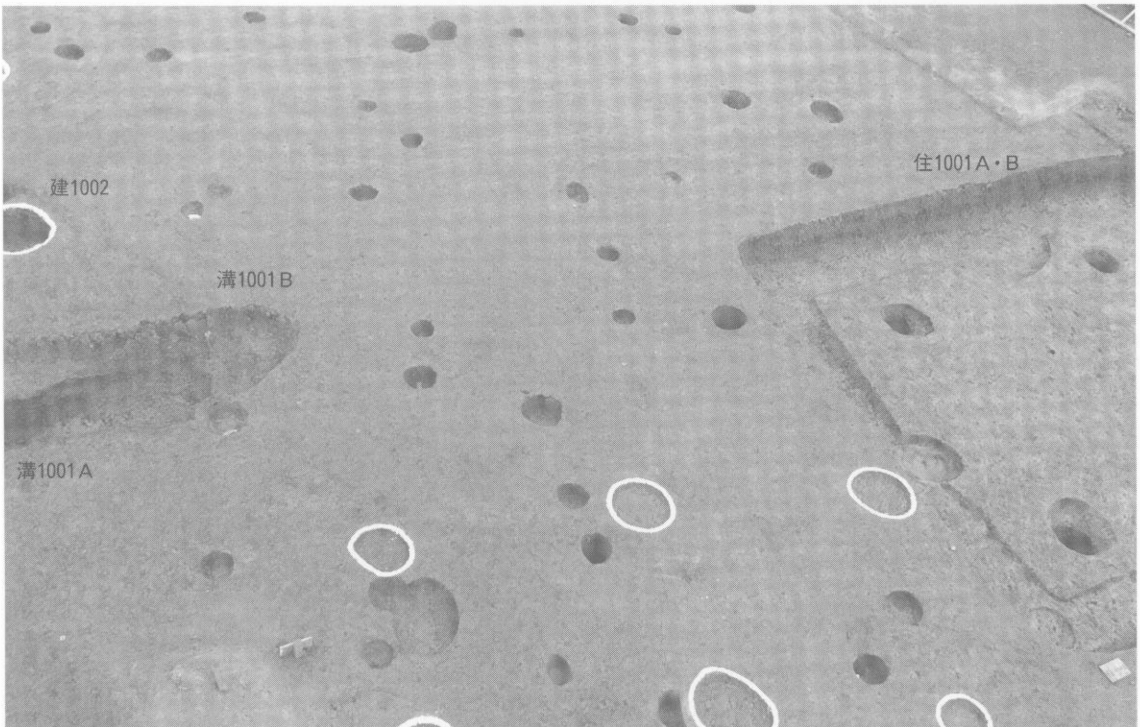


(1) 建1002号と溝1001・2003号（南から）

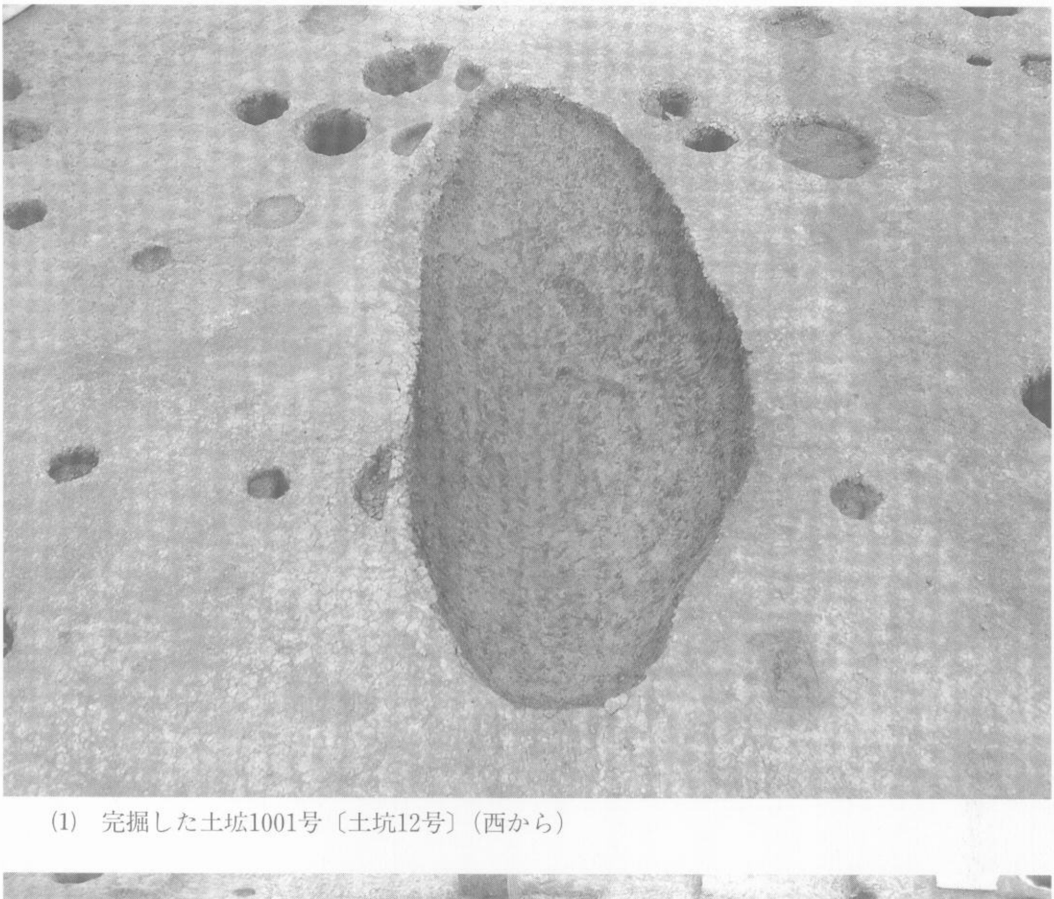
(2) 建1002号群・住1002号群と溝1001・2001号（南から）



(1) 建1002号と溝1001号（西から）



(2) 建1001・1002号・住1001号と溝1001・2001号（南から）



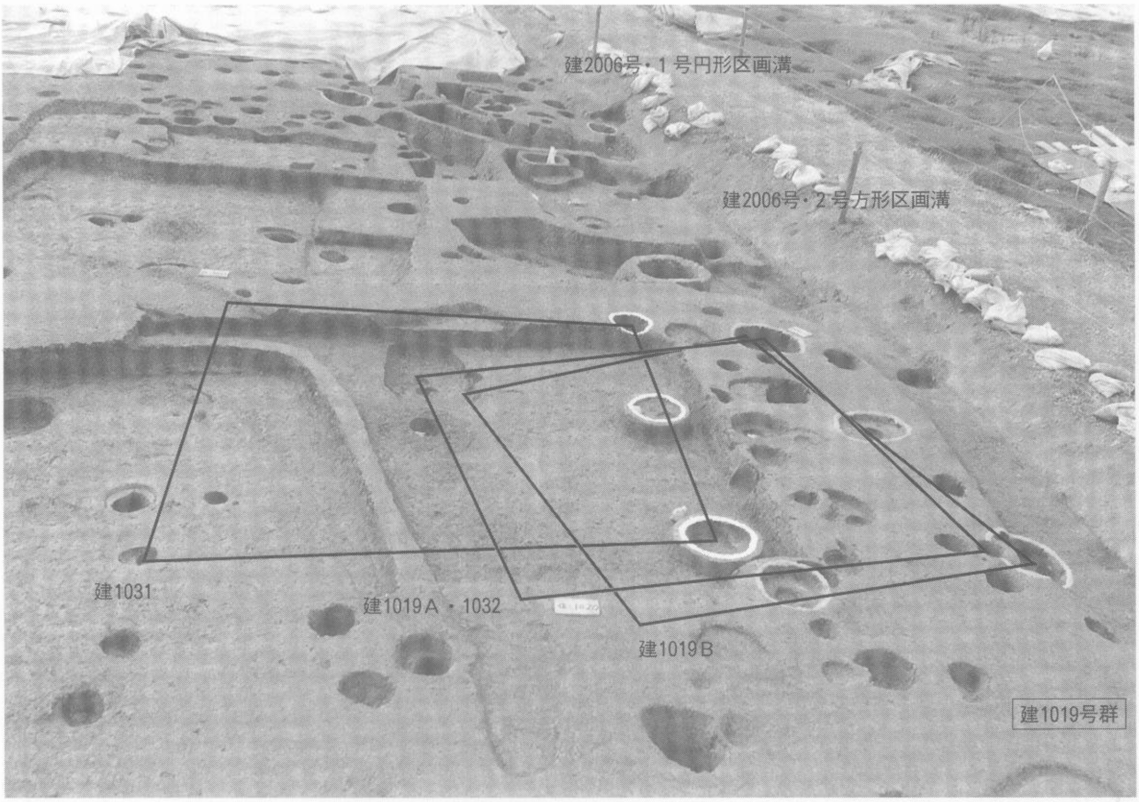
(1) 完掘した土坑1001号〔土坑12号〕(西から)

(2) 建2011号群・住1046号群と土坑1002号の上位土器群出土状態（北から）

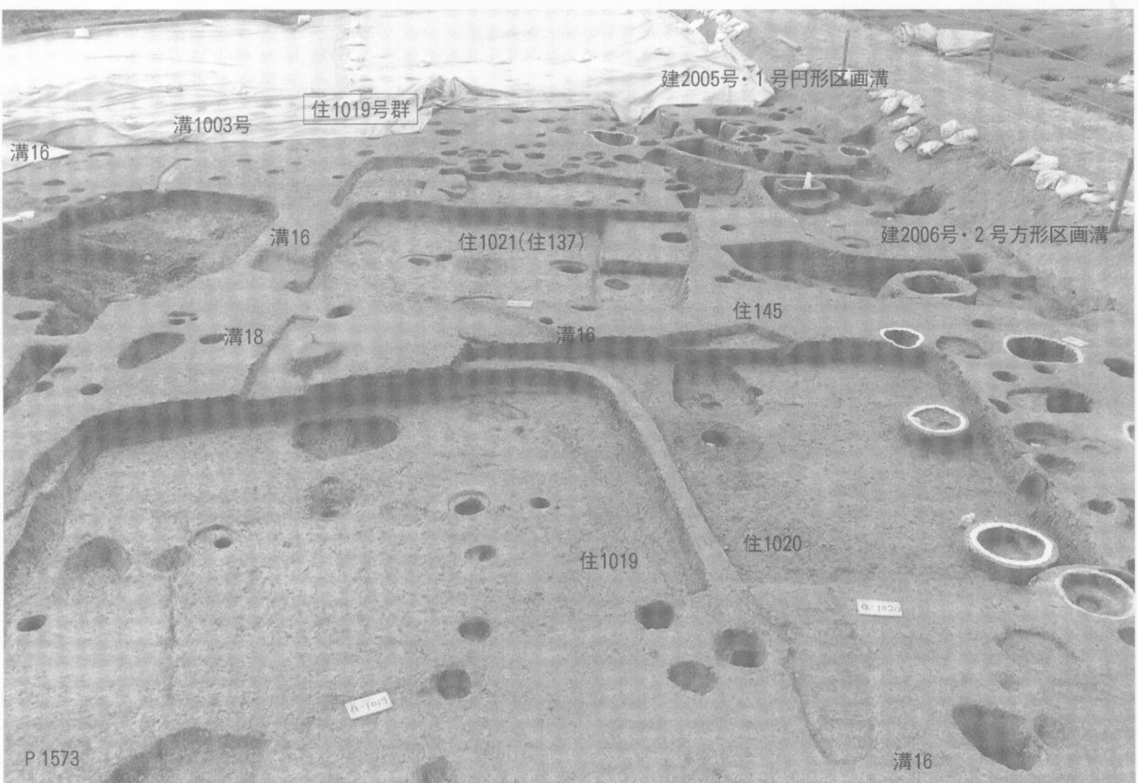
(1)　土坑1003号（土坑11号）の下位土器群出土状態（西から）

(2)　住1002号Ａ・Ｂの西壁中央土坑Ｄ21とＤＰ211・212（東から）

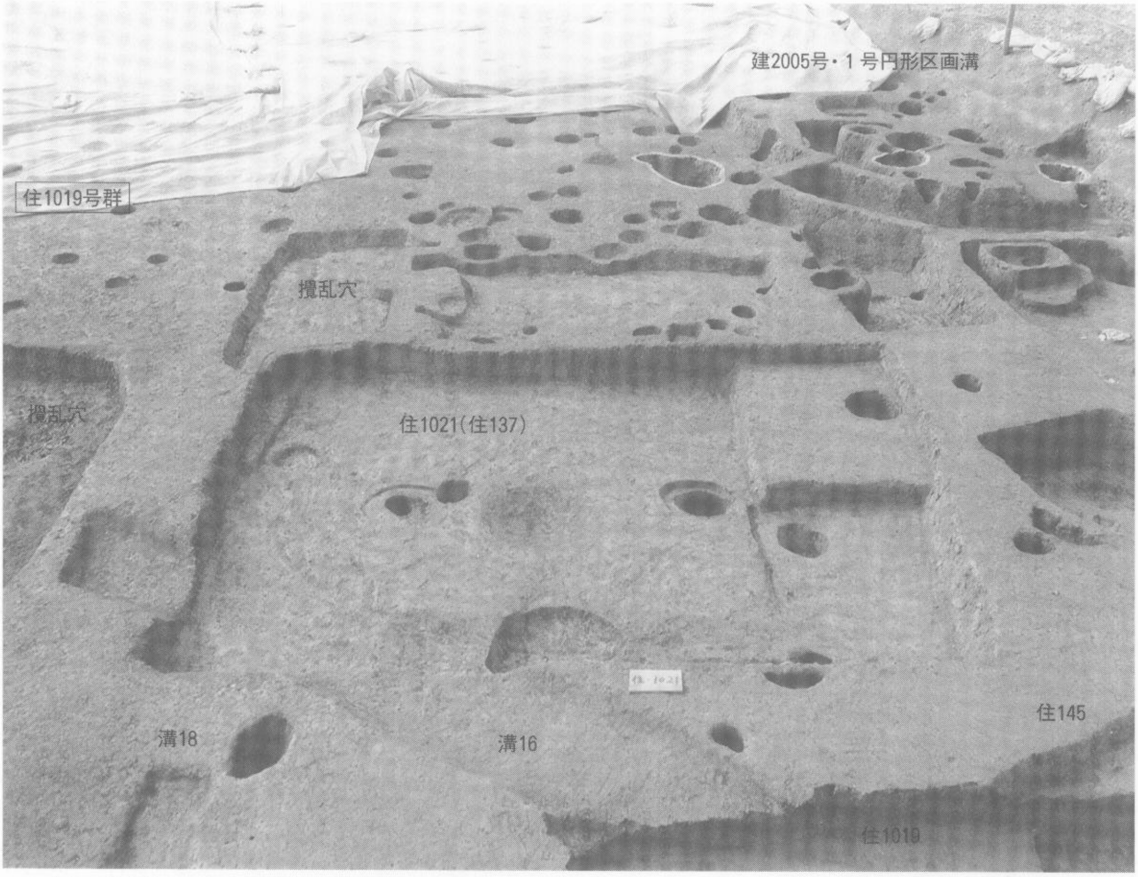
(3)　完掘した住1018号Ａ・Ｂ（住143号）の南壁中央土坑Ｄ21とＤＰ211・212（北東から）



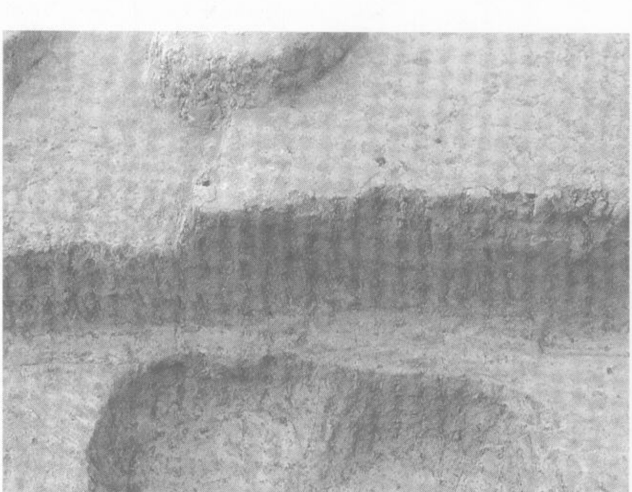
(1)　建1019号群（南から）

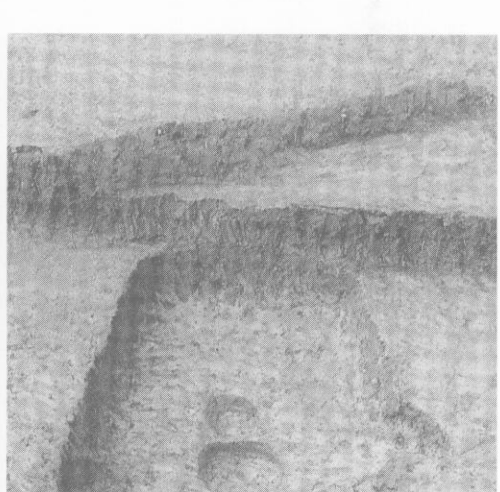


(2)　建1019号群・住1019号群、溝1003・18号と中世溝16号（東から）



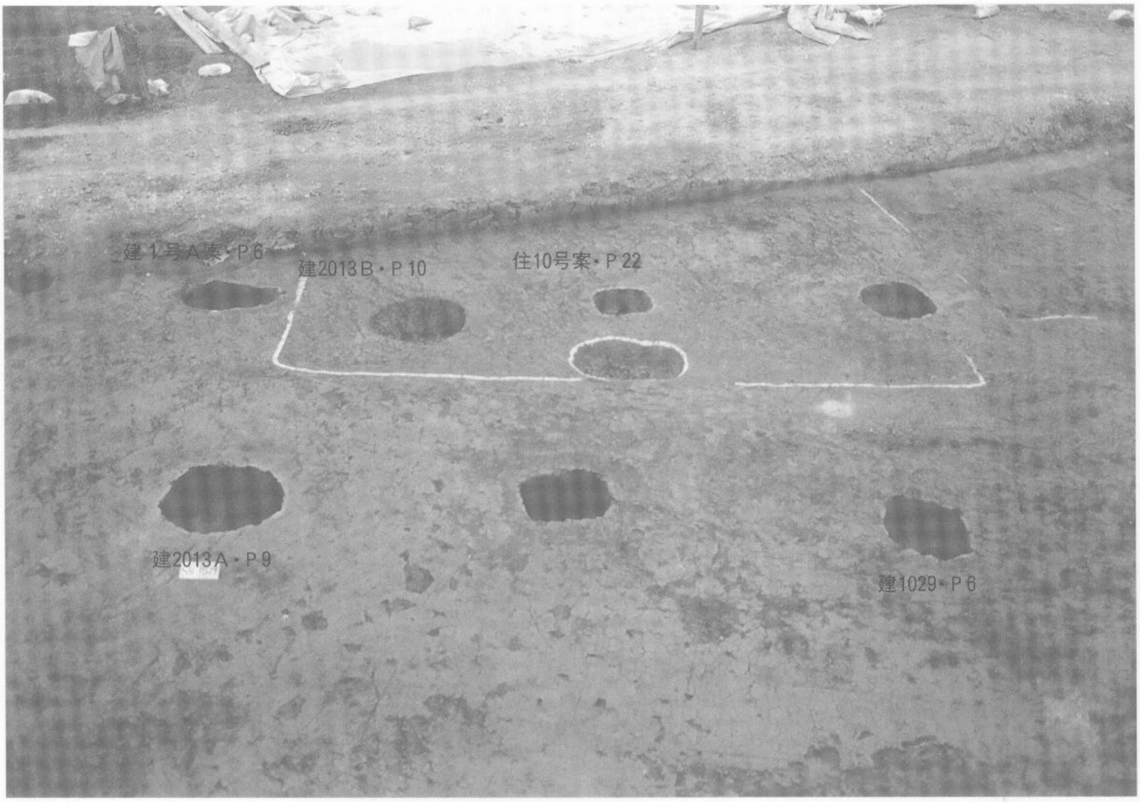
(1) 完掘した住1019号・溝18号と中世溝16号（南東から）





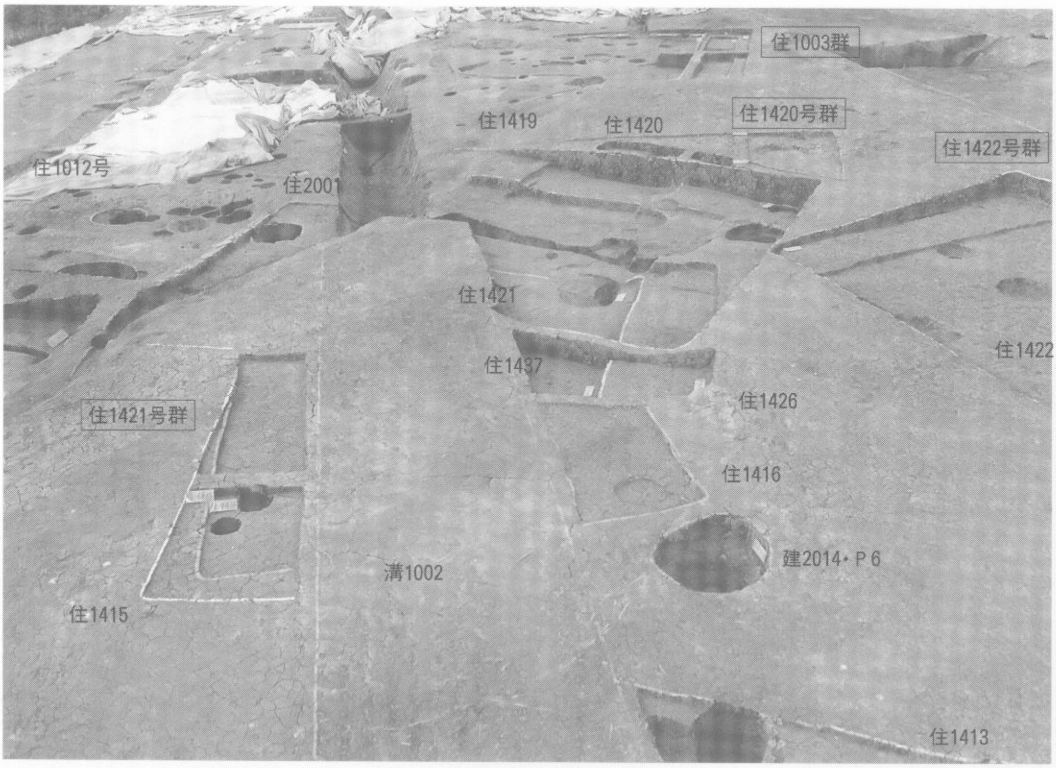
(2) 完掘した住1019号Ａ～Ｃ（住141号）の西壁中央土坑Ｄ21とＤＰ211・212（北東から）

(3) 完掘した住1020号Ａ・Ｂ（住142号）の西壁中央土坑Ｄ21とＤＰ211・212、建1019号Ａ・Ｂと建1032号の各Ｐ４（北東から）



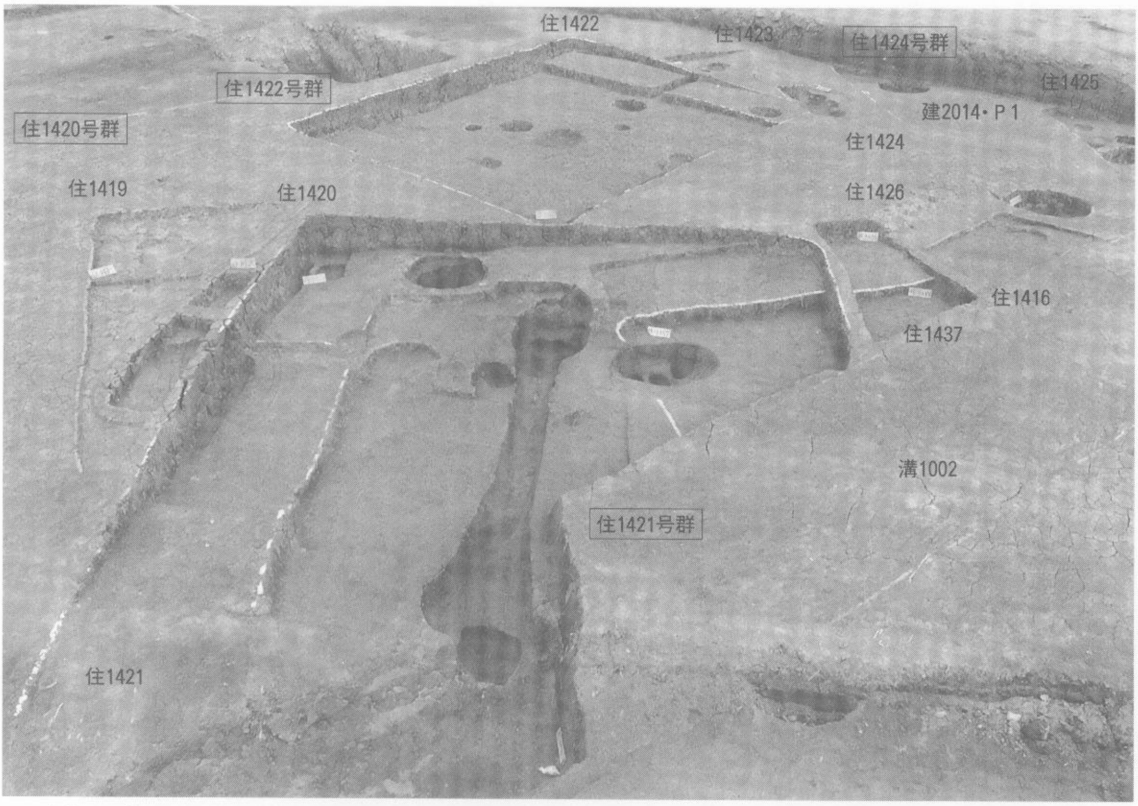
(1) 建1029・2013号と建1号案・住19号案（南から）

(2) 建2013号群・住1466号群と中世溝1004・1024号（北東から）



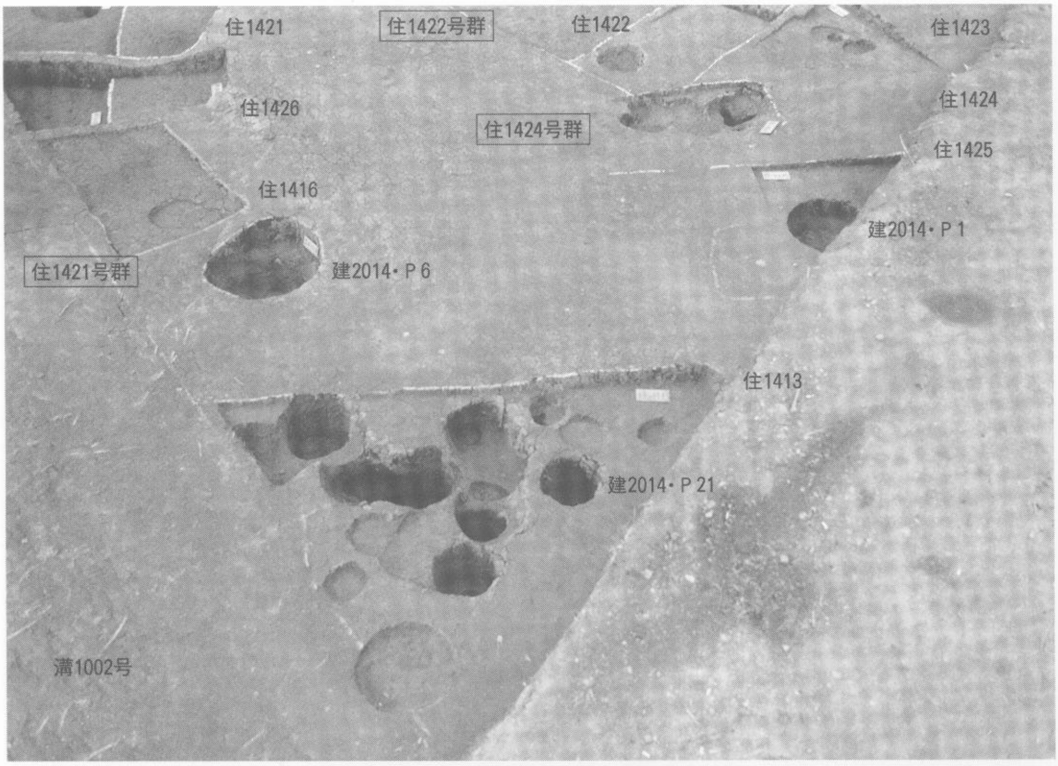
(1)　I住1424群・II住1422群・III住1421群・IV住1420群・建2014号と中世溝1002号(東から)

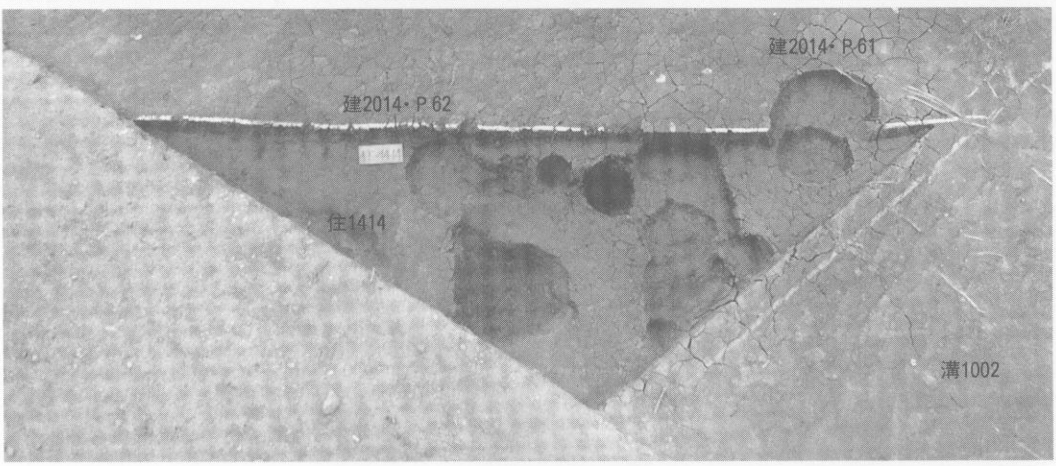
(2)　同　(南から)

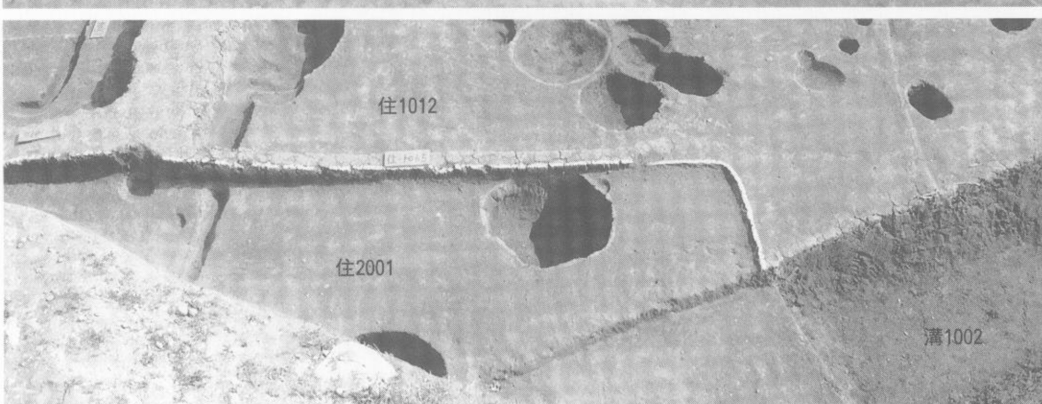


(1)　Ⅰ住1424群・Ⅱ住1422群・Ⅲ住1421群・Ⅳ住1420群・建2014号と中世溝1002号（南西から）

(2)　住1421号の住居施設（南東から）







(1)　Ⅰ住1424群・Ⅱ住1422群・Ⅲ住1421群・建2014号と中世溝1002号（南東から）
(2)　住1414号・建2014号と中世溝1002号（北東から）
(3)　住1012号・2001号と中世溝1002号（北東から）


住1003— 3


住1003— 5

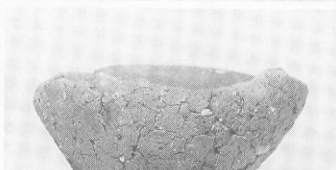

住1421—18


住1426—13


住137— 3


円形周溝 1 — 4


住1421—16


住1421—20


住1421—17


住1421—21


住1437—23

1003・1421・1426・1437号竪穴住居跡出土土器


3


4


5


7


9


10


18

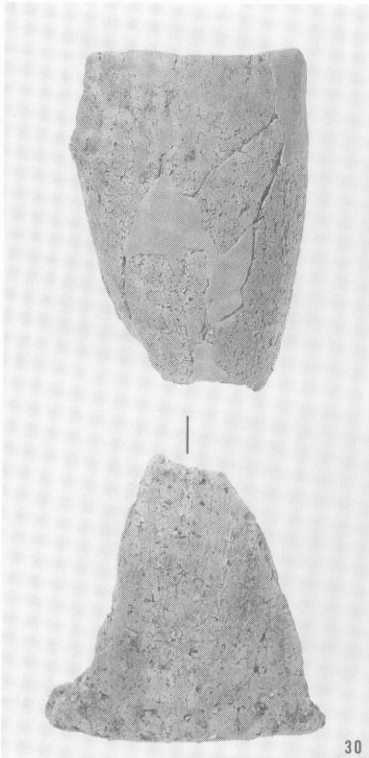

22


24


26


27

1022号溝出土土器．1



30

28

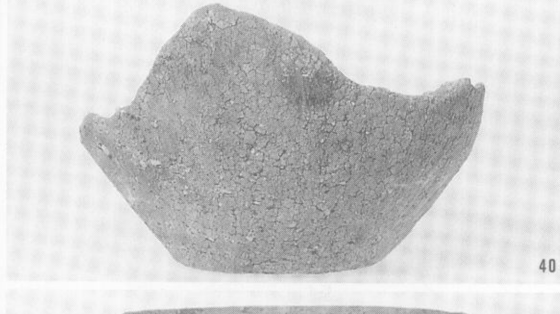
31

32

43

33

39



40

38

41

1022号溝出土土器．２


44

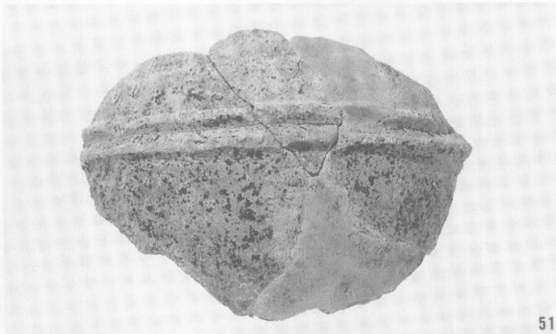

45

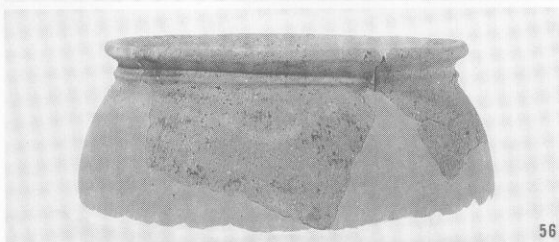

46

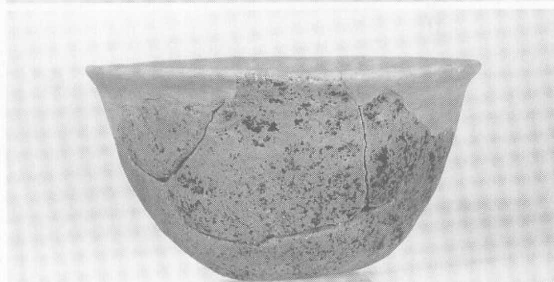

47

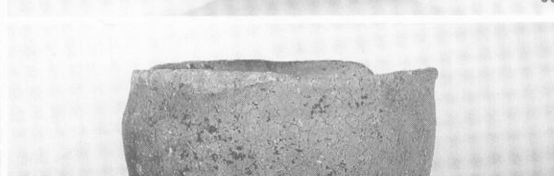

49


50


51


56

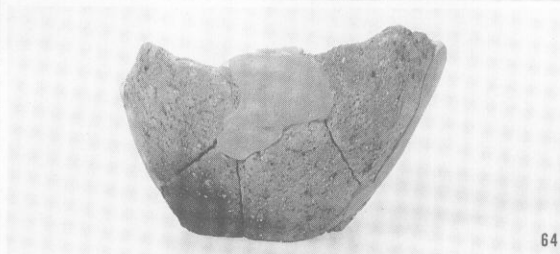

58


59

1022号溝出土土器. 3

60

62



64

61

68

67

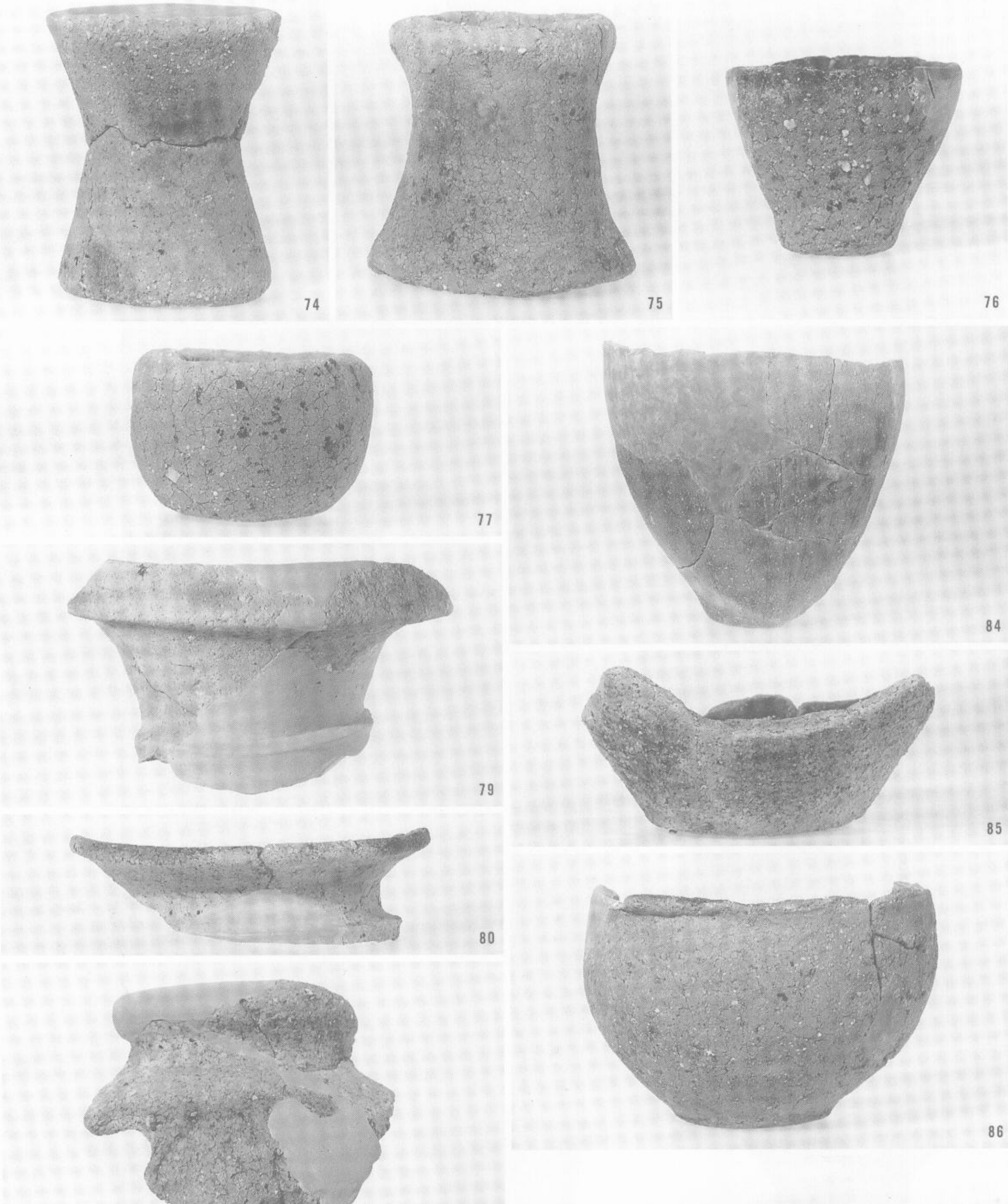
69

70

71

72

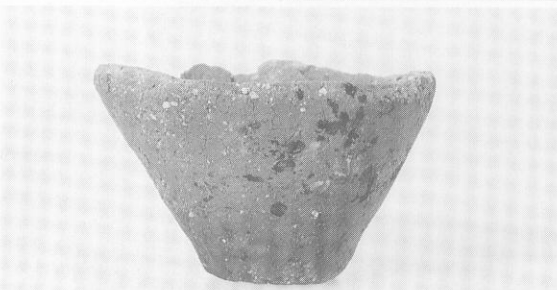
1022号溝出土土器．４



1022号溝出土土器．5


88

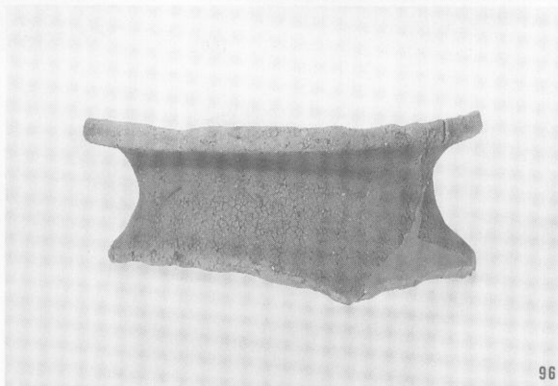

89


90


91


92


93


96


97

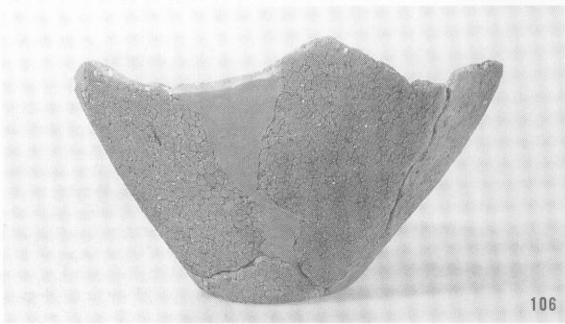

98

1022号溝出土土器．6


100

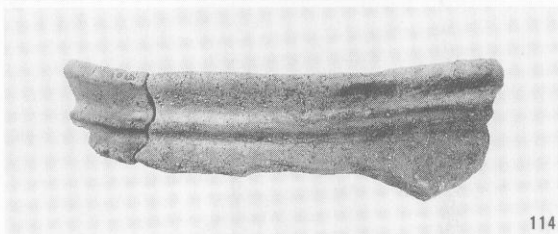

110


111


106


112


107


114

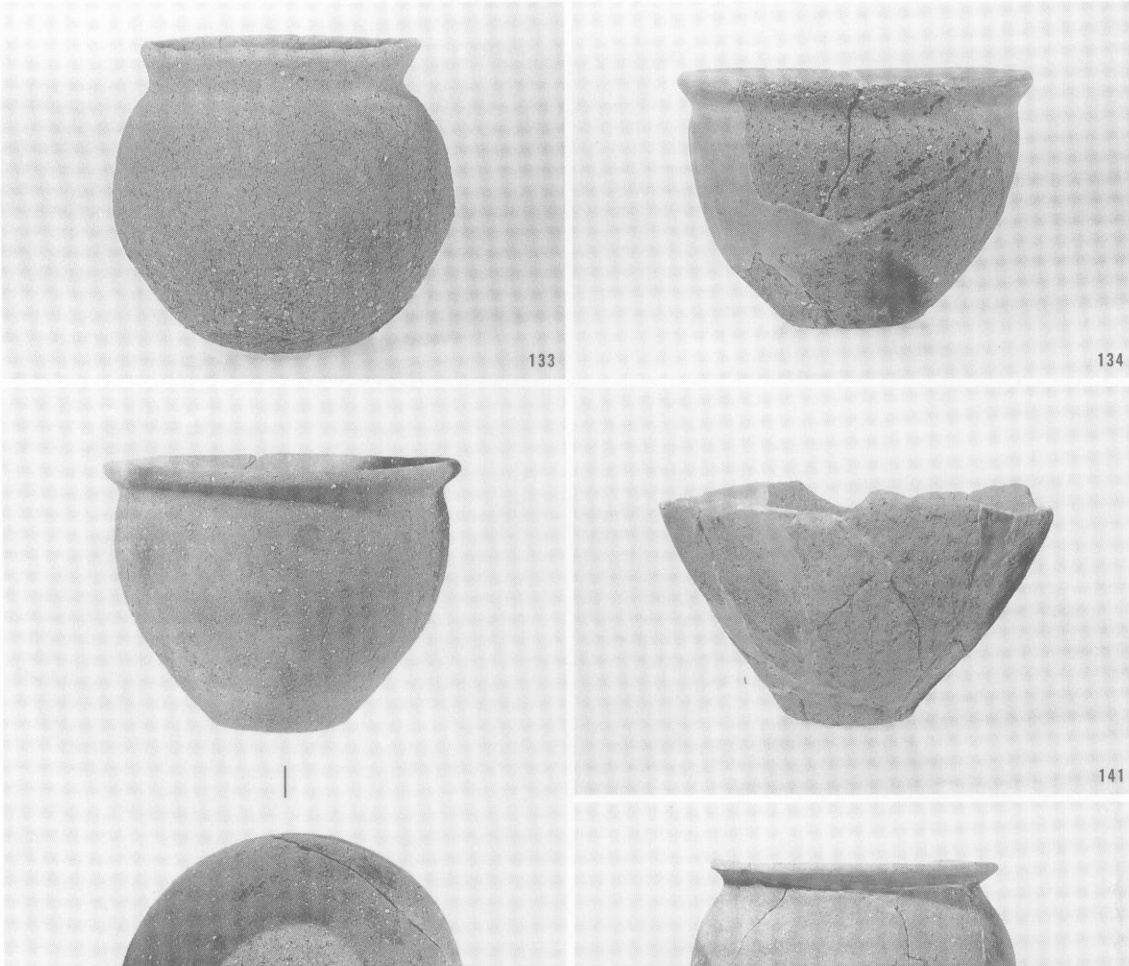

118


109


120

1022号溝出土土器．7

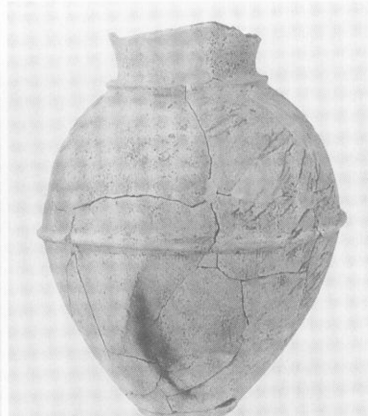
1022号溝出土土器．８



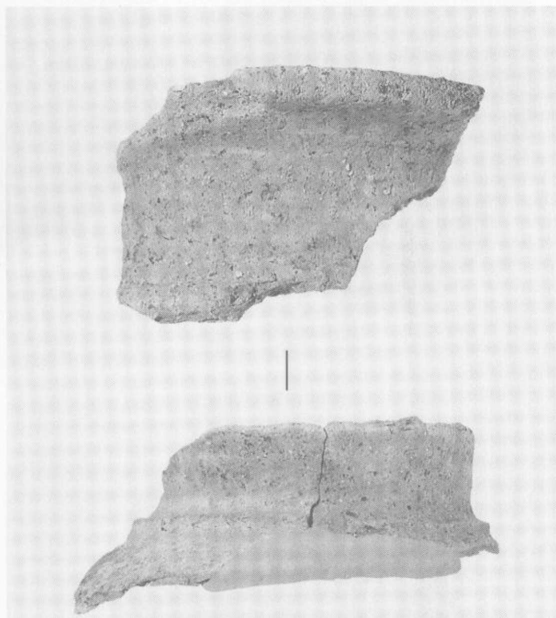
1022号溝出土土器．9

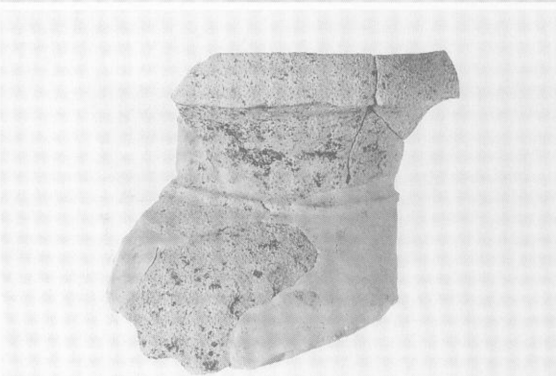

145

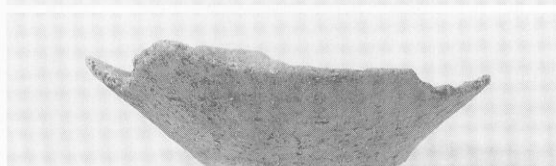

149


150

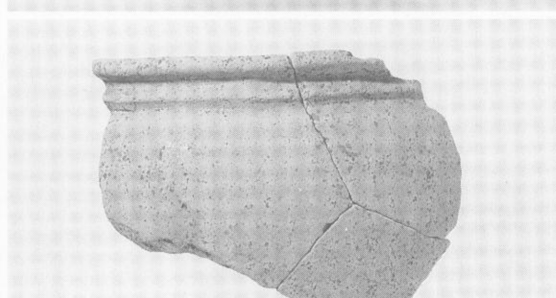

146


151


147

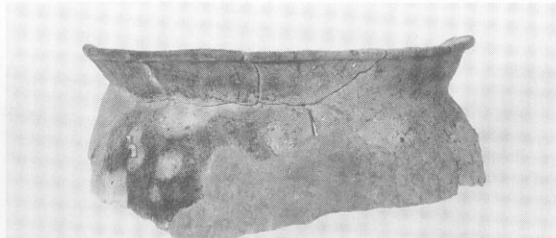

152


154


155

1022号溝出土土器．10

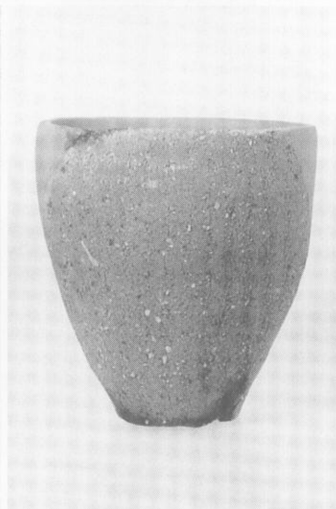
156



158

157

159



161

163

165

164

166

1022号溝出土土器．11


167


168

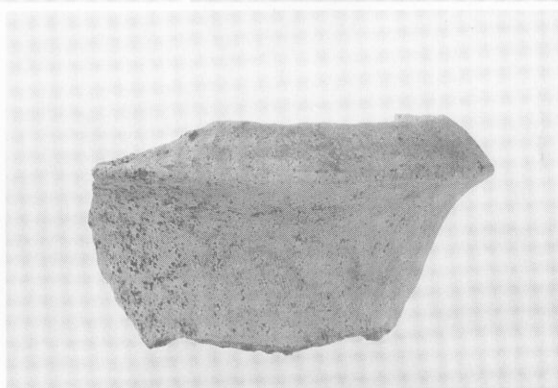

169


170


171


178

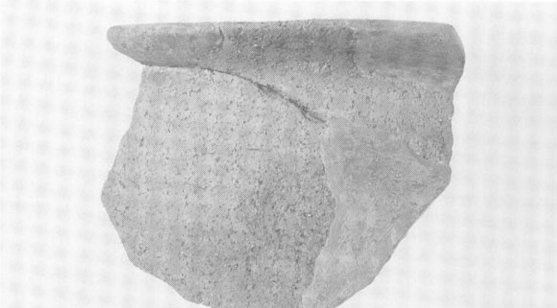

172


175


173


177

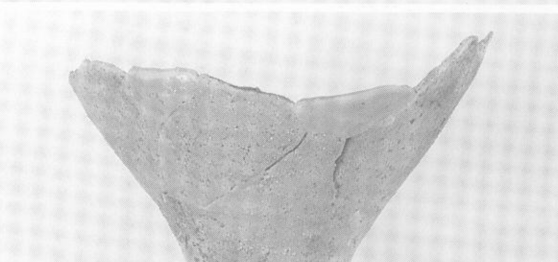
1022号溝出土土器．12


179


185


180


186


181


187


188


189

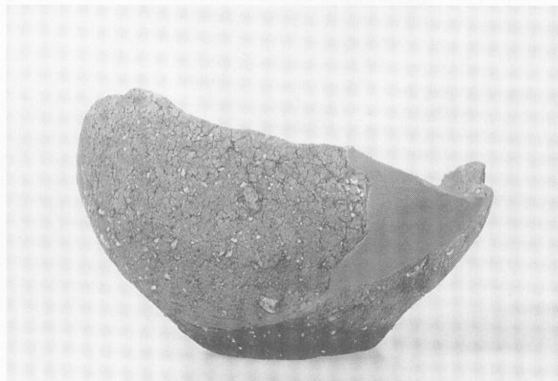

190

1022号溝出土土器．13

194

202

195



203

198

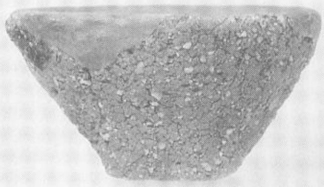
204

201

205

1022号溝出土土器．14


206


207


208

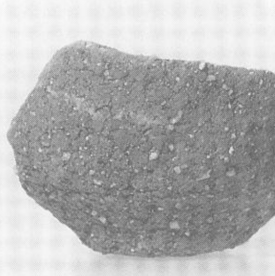

209


210


212

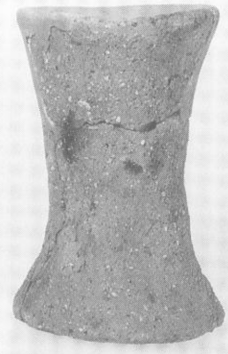

214


215

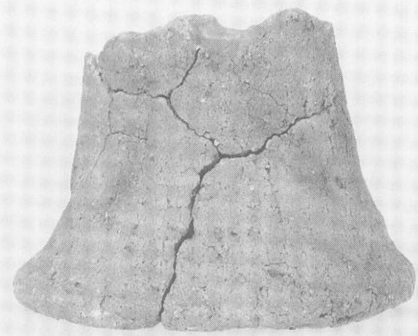

216

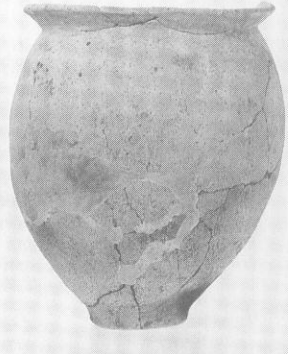
1022号溝出土土器．15


217


218


220


219


221


224


222


225

1022号溝出土土器．16


225


227


228


231


233


236

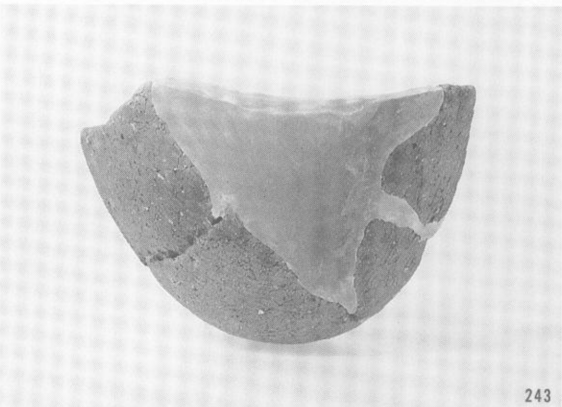

237


238

1022号溝出土土器．17


240


244


243


245


246


251


248


249


250

1022号溝出土土器．18


252

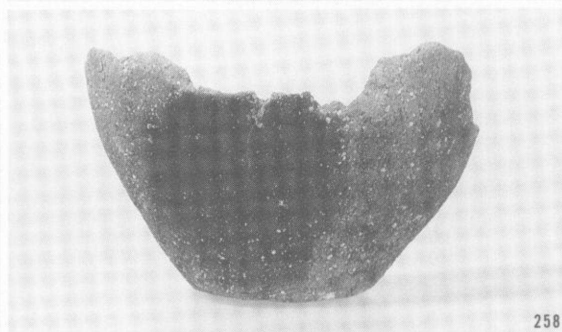

253

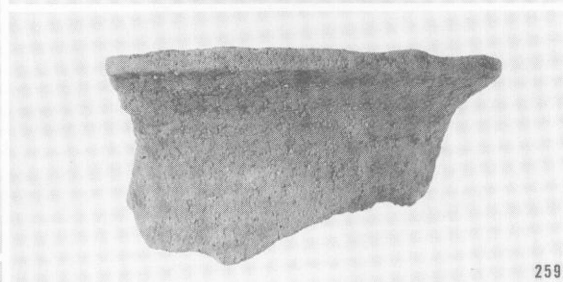

254

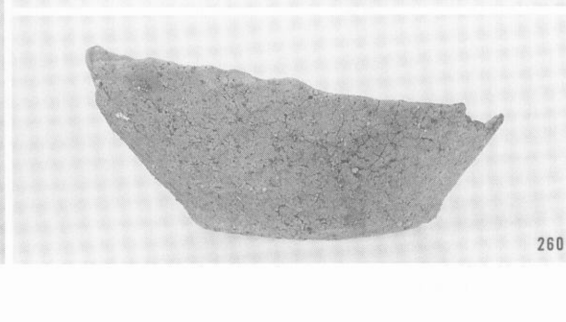

255


256


257

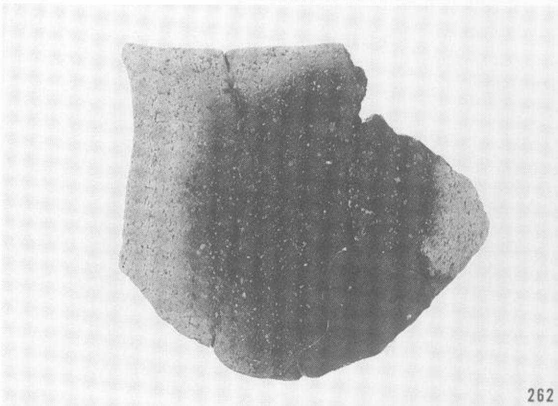

258

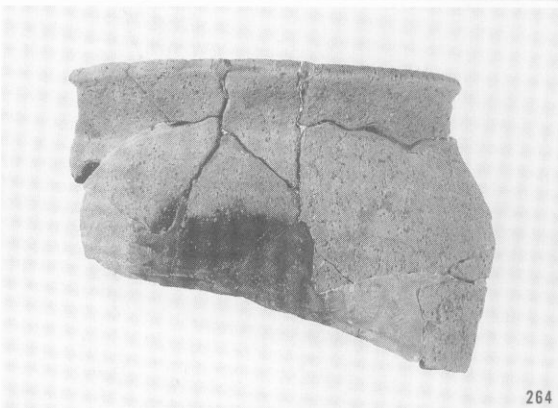

259


260

1022号溝出土土器．19


261


262


264


265


266

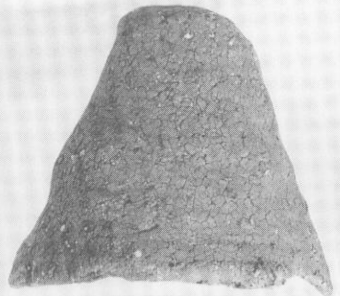

267


268

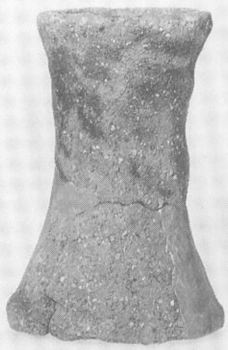

269

1022号溝出土土器．20


270


271


272


273

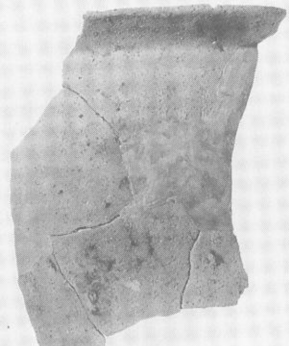

274


275

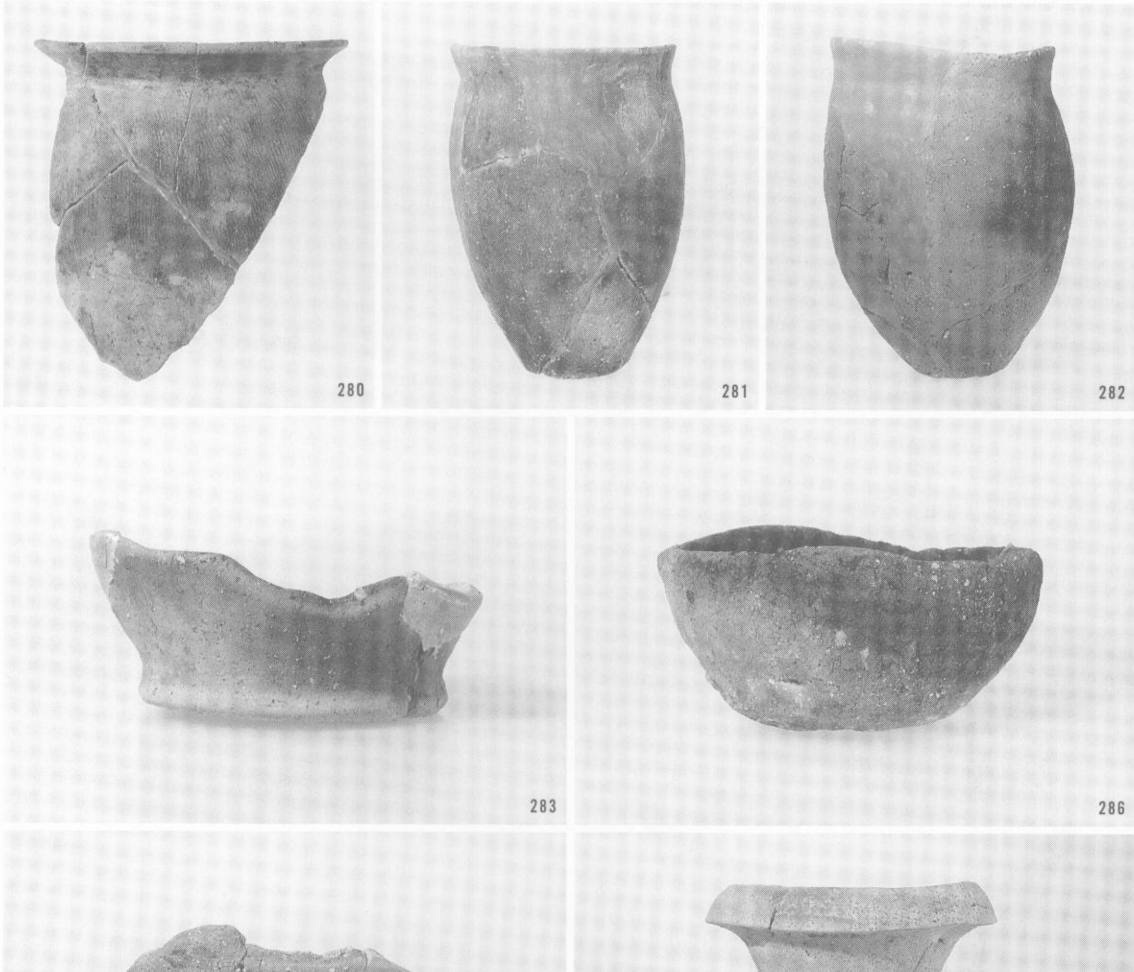

276


278


277


279

1022号溝出土土器．21



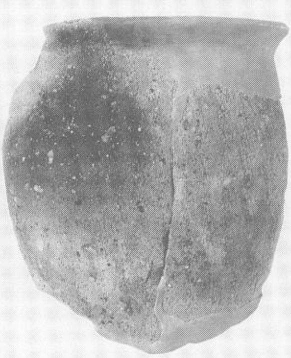
1022号溝出土土器．22


291


292


293


294


297


298


301

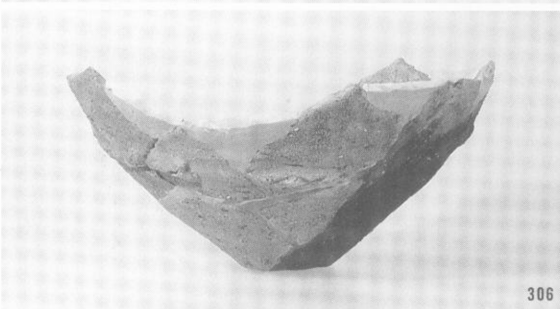

302


303

1022号溝出土土器．23

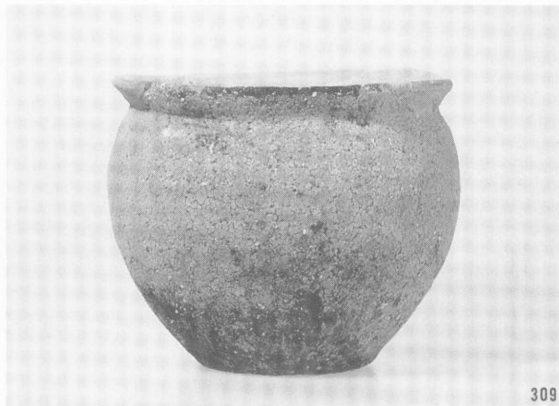

304

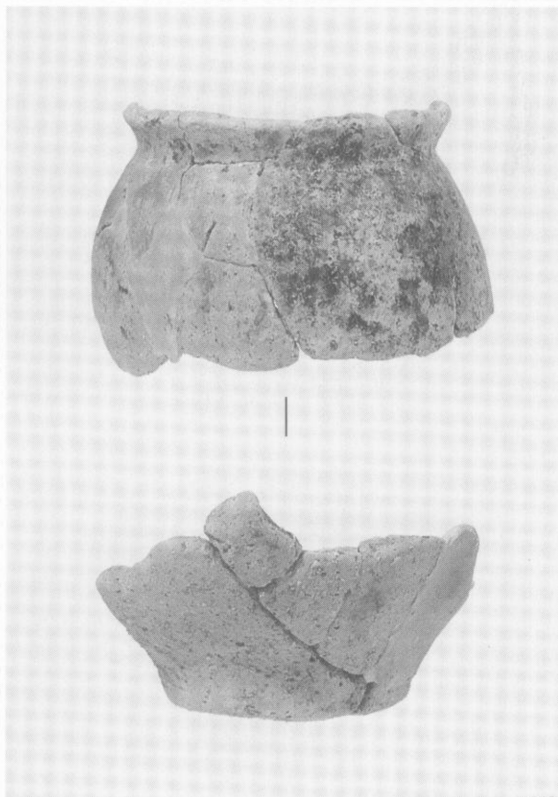

305


306


307


308


309


310

1022号溝出土土器．24

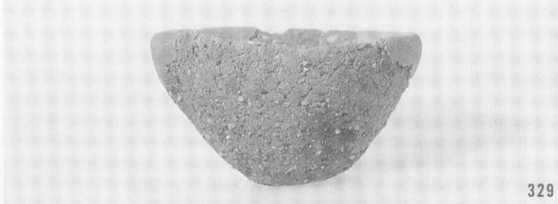
1022号溝出土土器．25

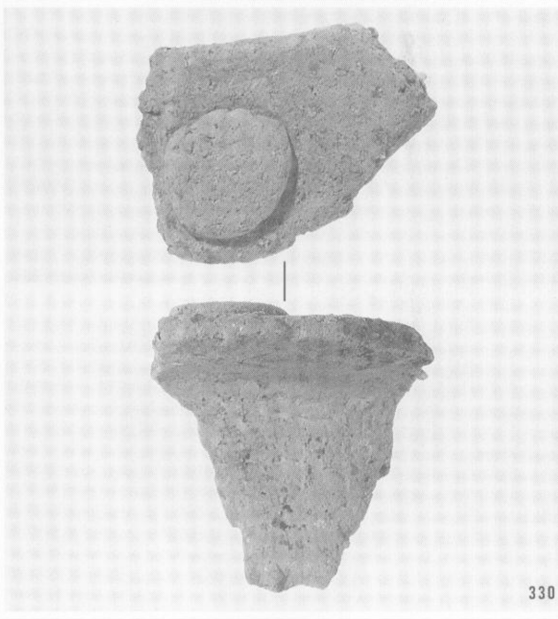

326


327


328


322


329

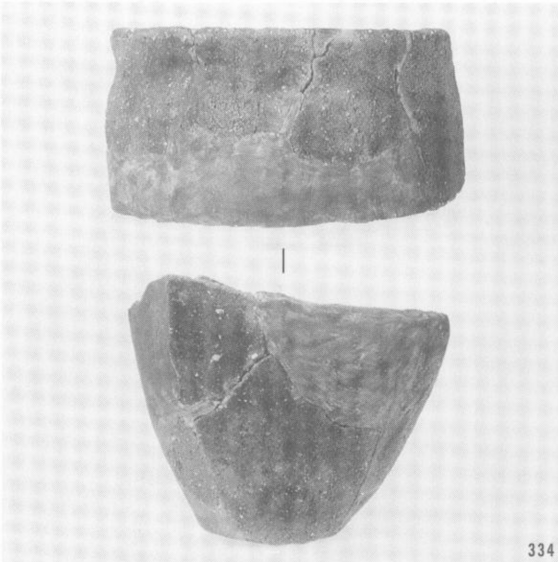

330

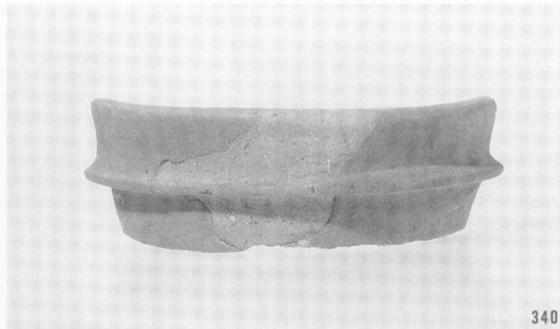

323


324


331

1022号溝出土土器．26


334


340


335


341


336


344


338


342

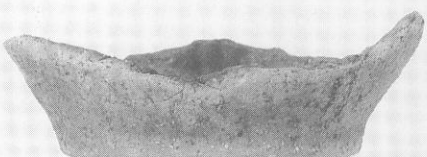

343

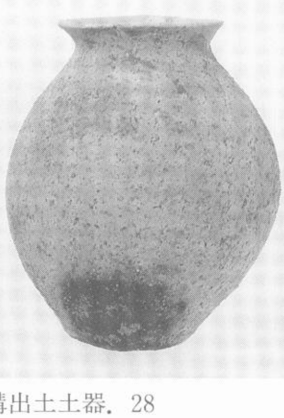
1022号溝出土土器．27

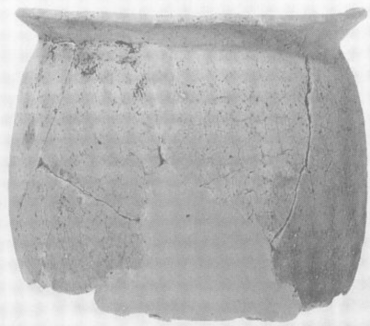

345


346


348

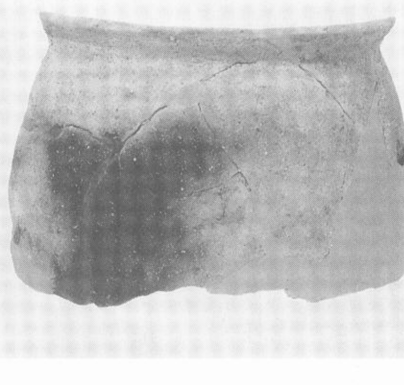

349


350

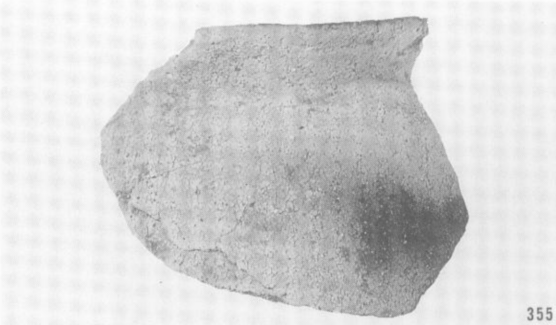

351


352


353

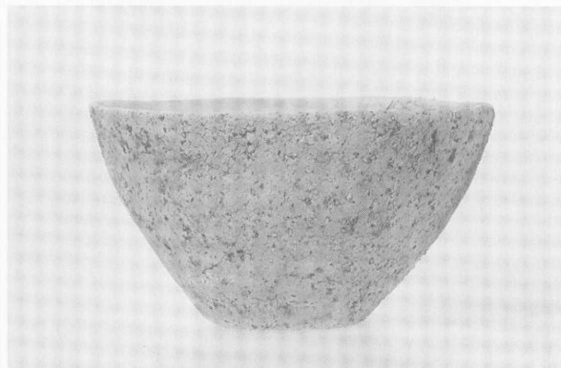

354

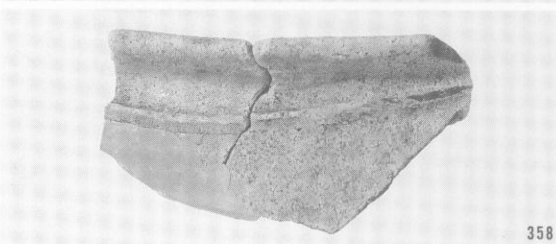
1022号溝出土土器．28


355

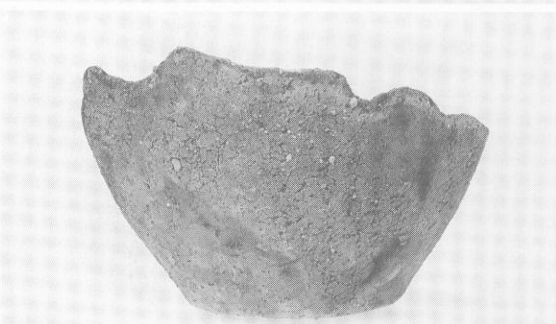

360


357


361


358


362


359


363


364


365

1022号溝出土土器．29


366


367


368


369


373


370

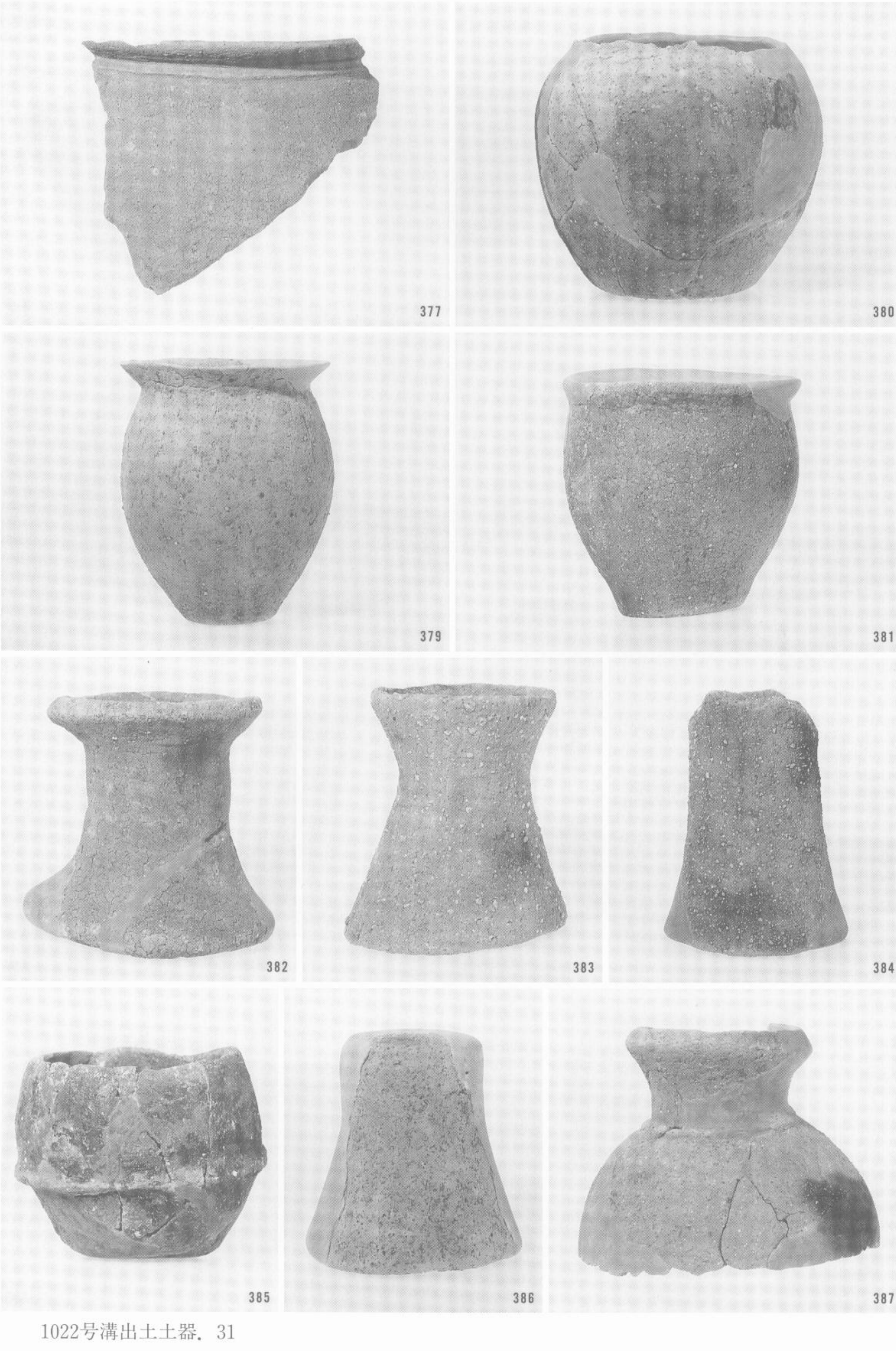

374


371


372


376

1022号溝出土土器．30



1022号溝出土土器．31


388


389


390


391


392

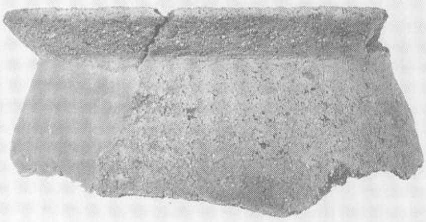

393


394


395


396

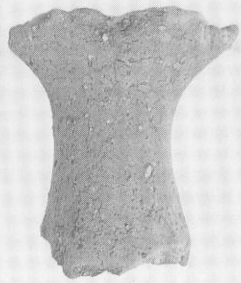
1022号溝出土土器．32

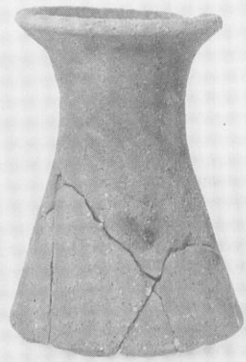

397

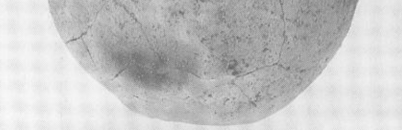

401

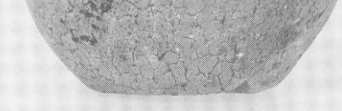

405

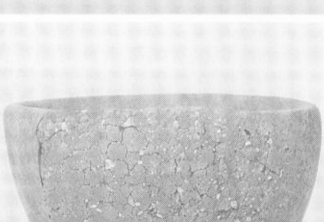

398


404


406


399


402


400


403

1022号溝出土土器．33


407


408


410

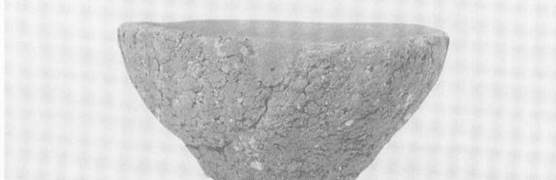

411

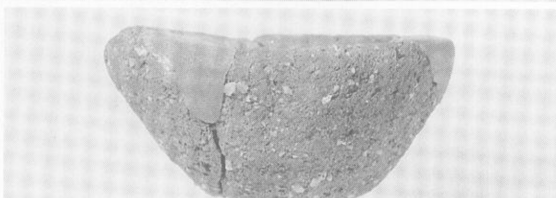

412


413


414


415

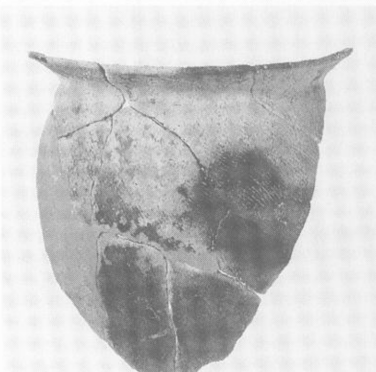

417


418

1022号溝出土土器．34

420

422

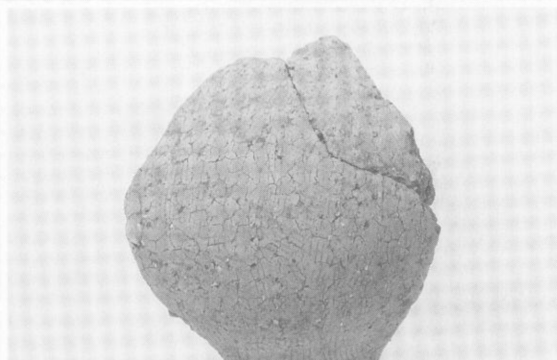


421

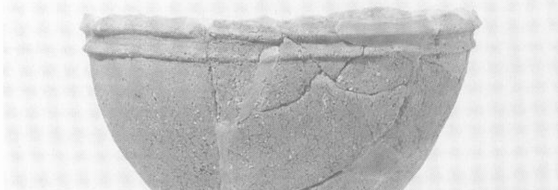
424

425

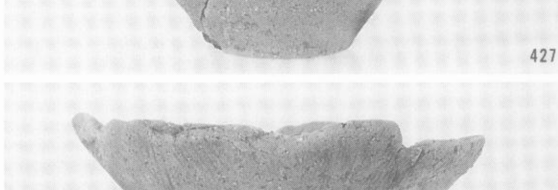
426



428



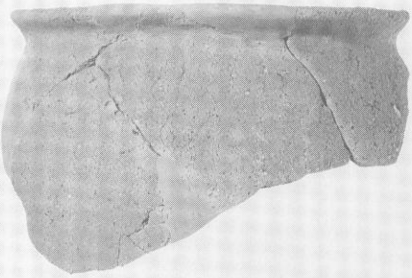
427

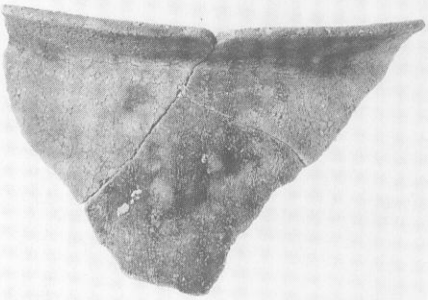


429

431

1022号溝出土土器．35

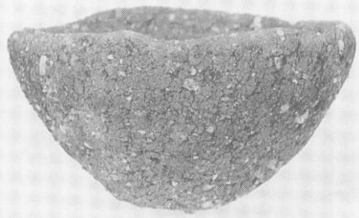

432


433

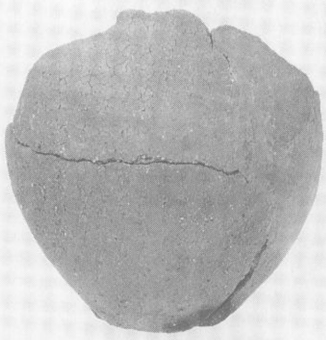

434


439


440

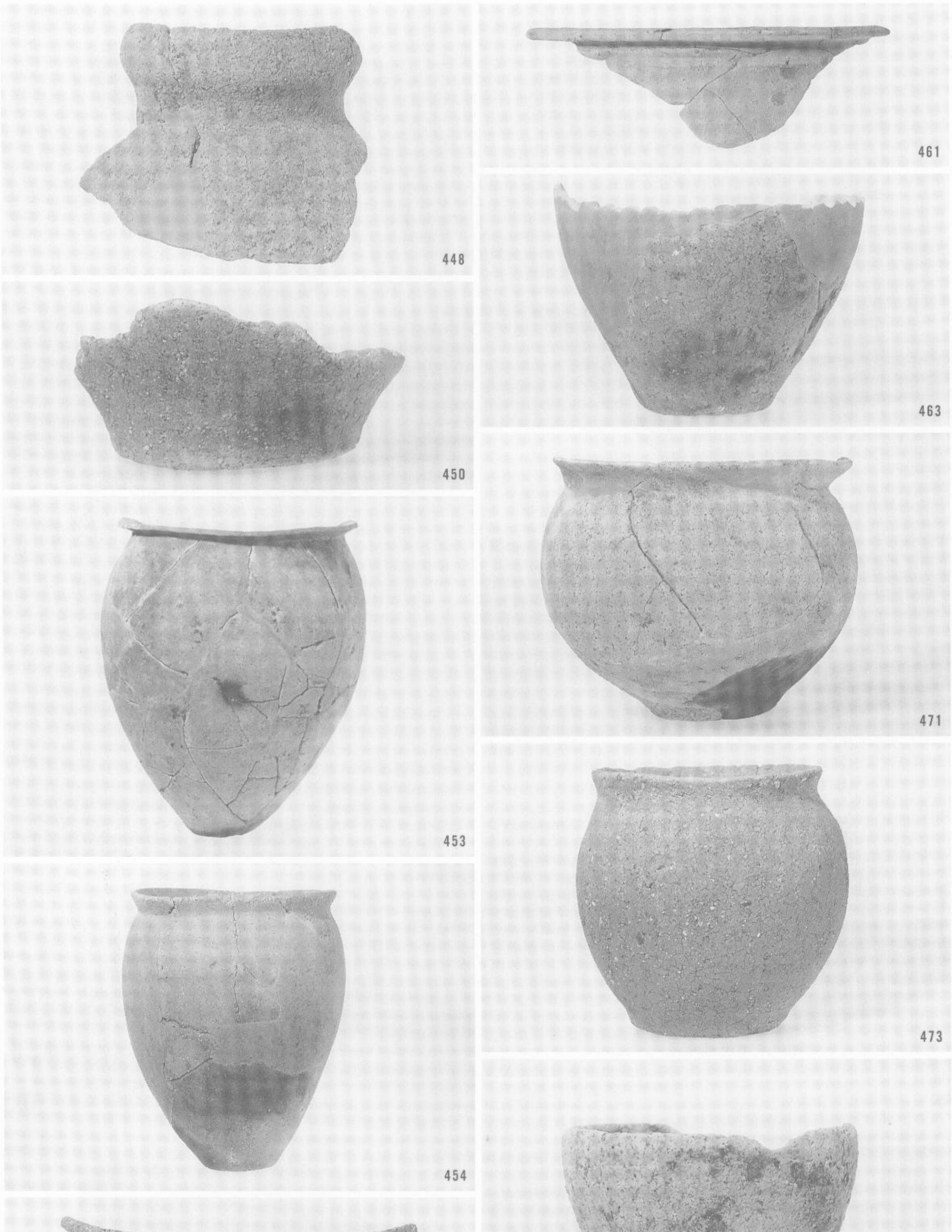

442


443


444

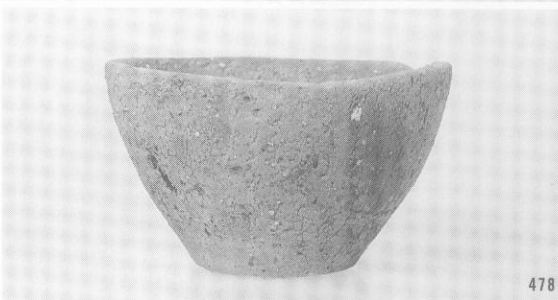

445

1022号溝出土土器，36



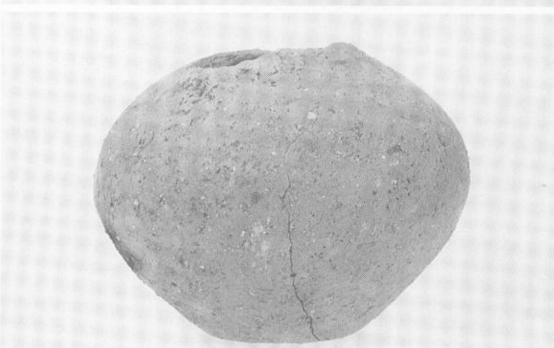
1022号溝出土土器．37


476

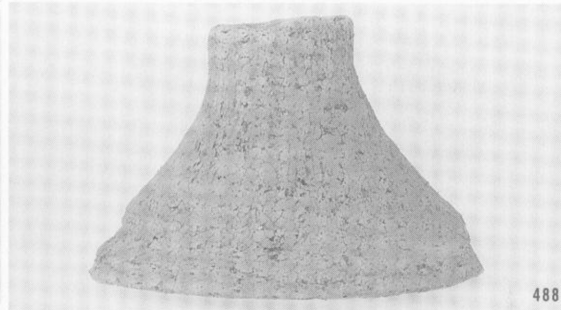

478


479


481

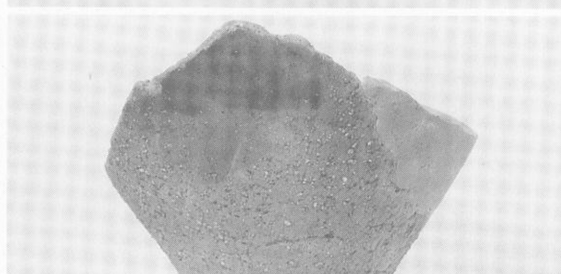

483


486


488

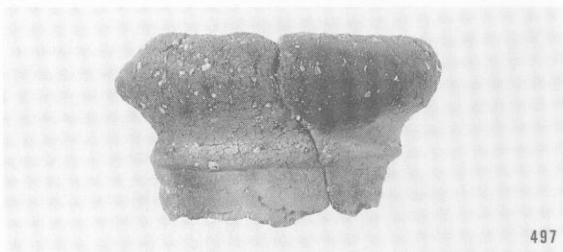

489


491


492

1022号溝出土土器．38

495



497

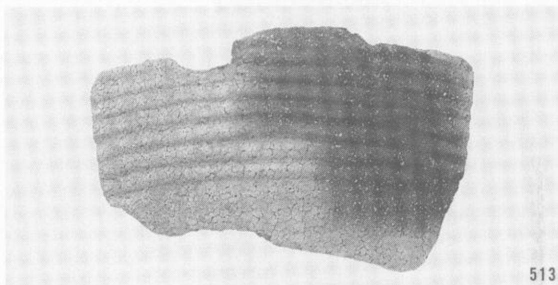
499

500

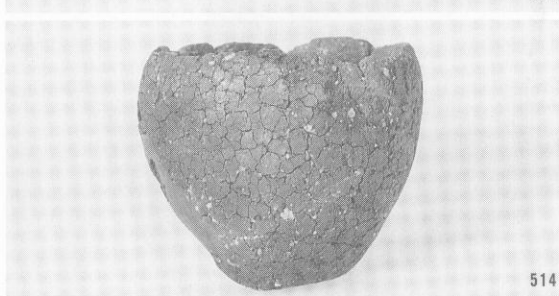
501

506

510

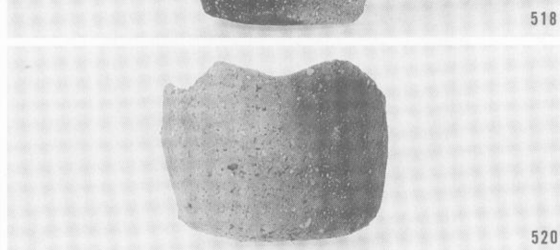


513



514

518



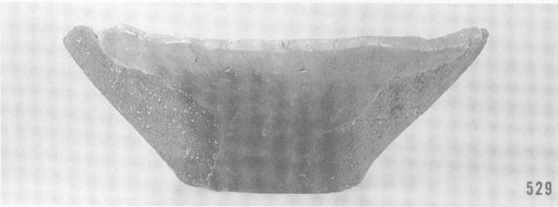
520

1022号溝出土土器．39


525

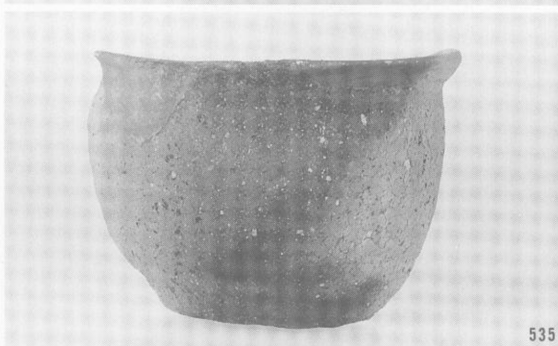

526

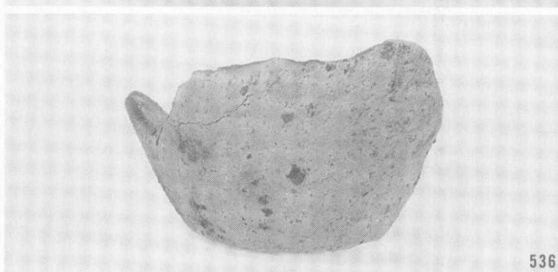

527


529


530


534

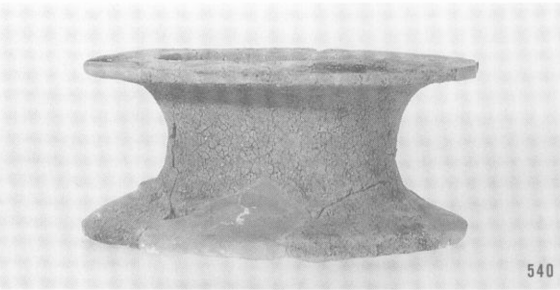

535


536

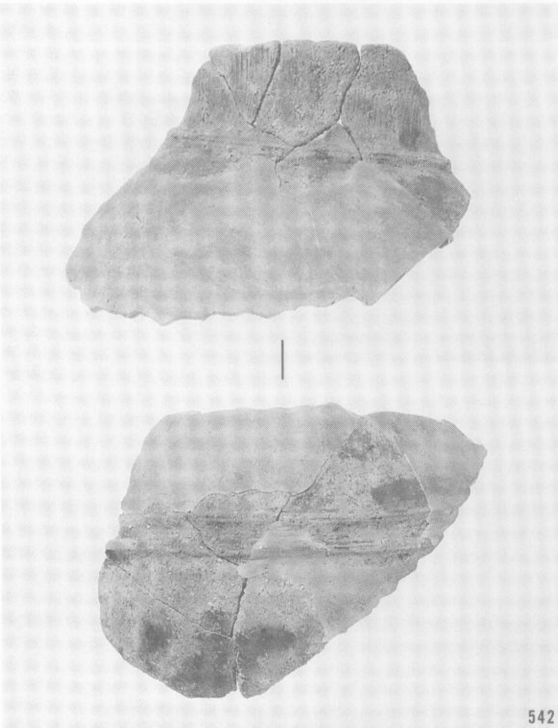

538


539

1022号溝出土土器．40


540


552

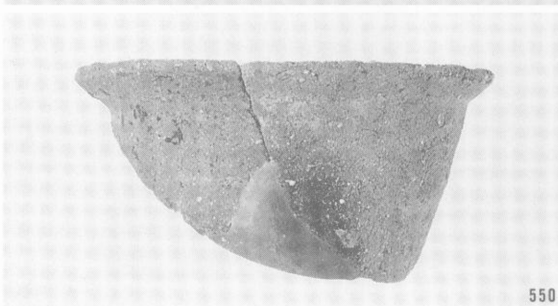

542


553


554

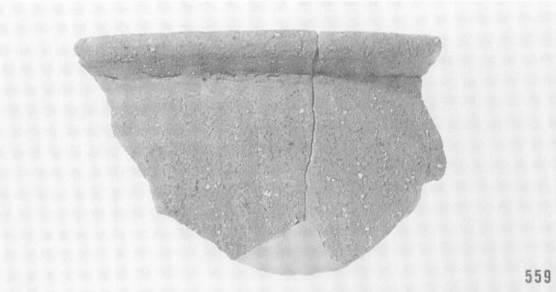

545

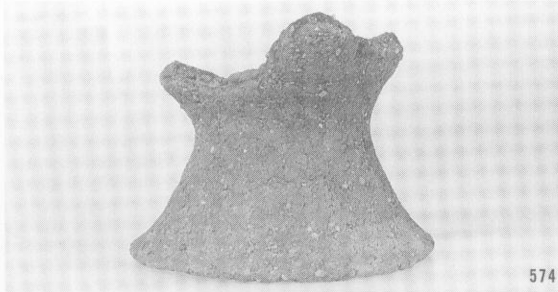

556


550


558

1022号溝出土土器．41

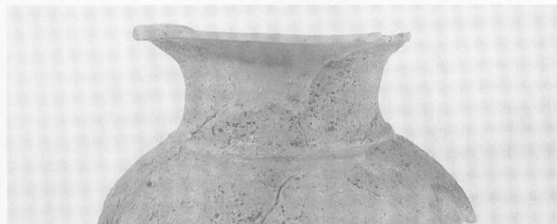

559


574


564


575


566


576

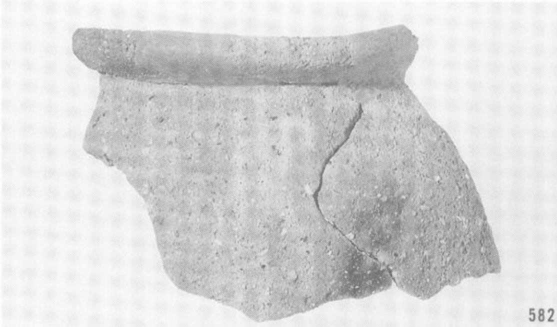

570

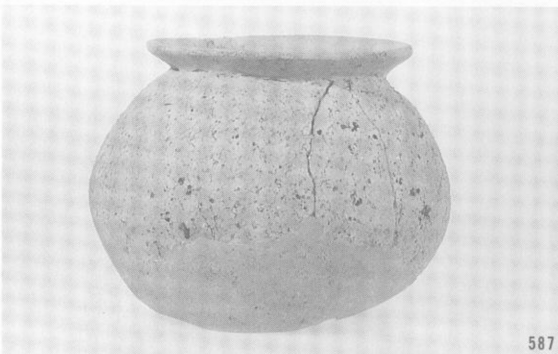

577


571


578

1022・1023号溝出土土器．1


582

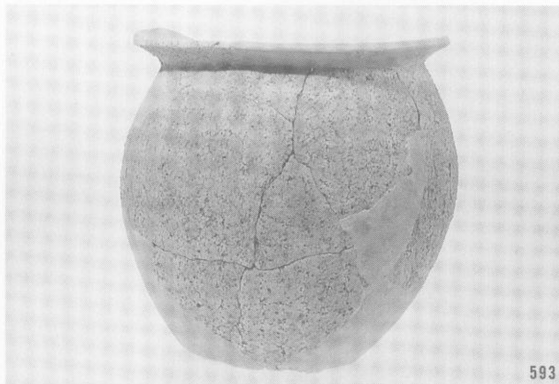

587

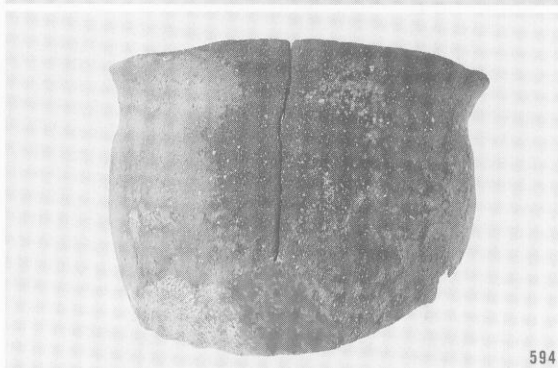

589


590


591


592

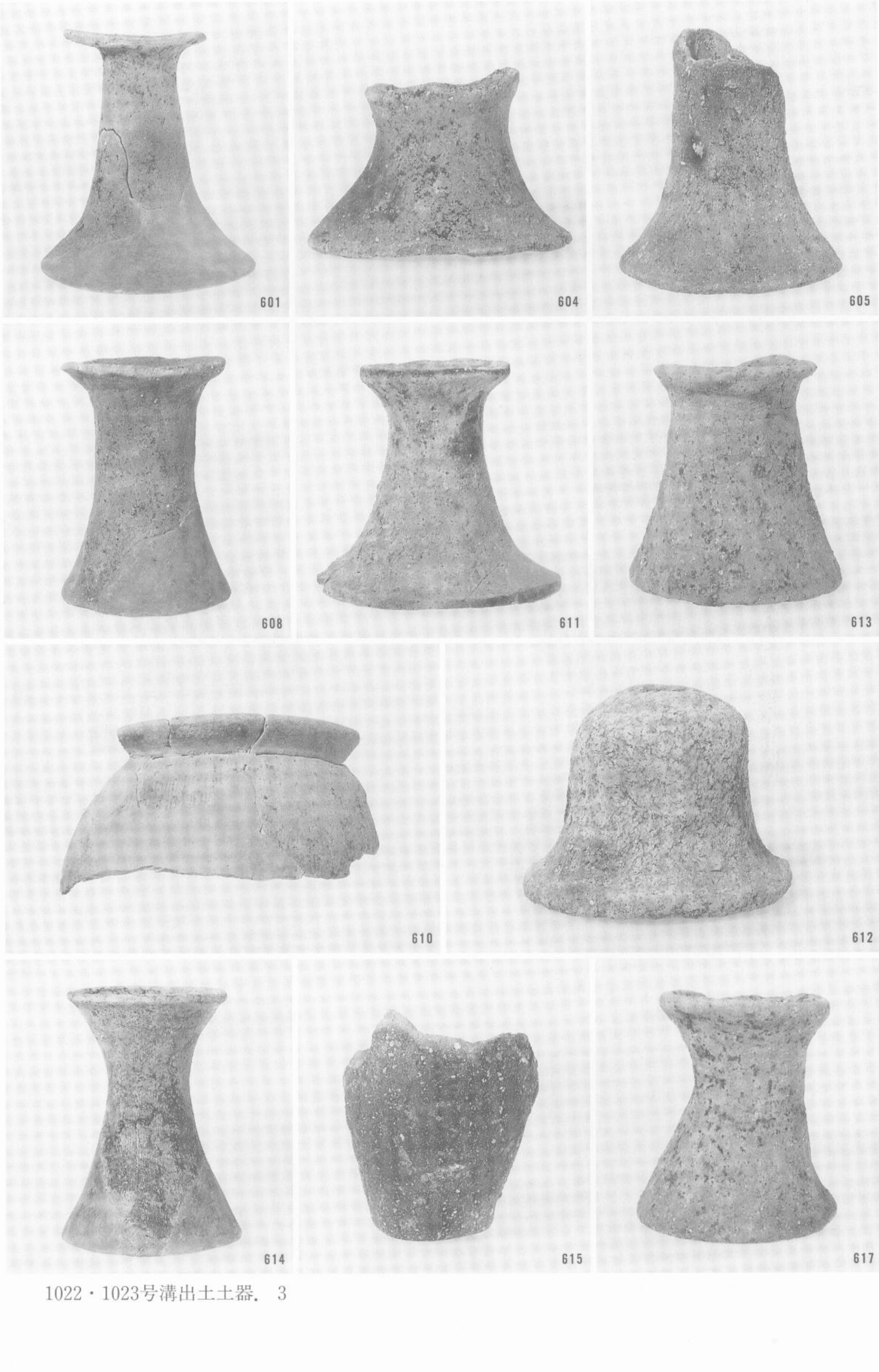

593


594

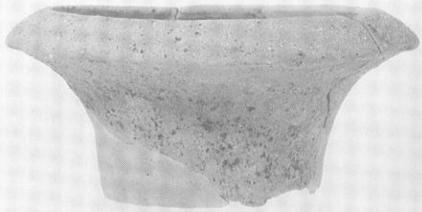

598


599

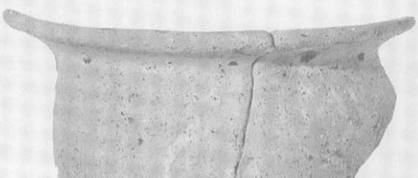
1022・1023号溝出土土器．2



1022・1023号溝出土土器．3


618


622


623


625


626


627


628


633


634

1022・1023号溝出土土器．4

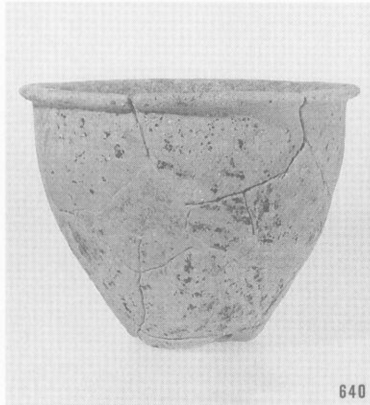

635

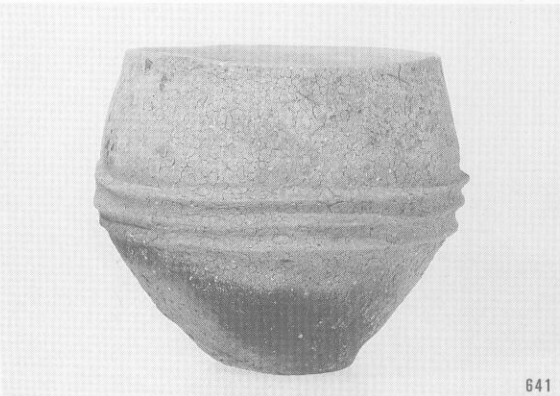

636

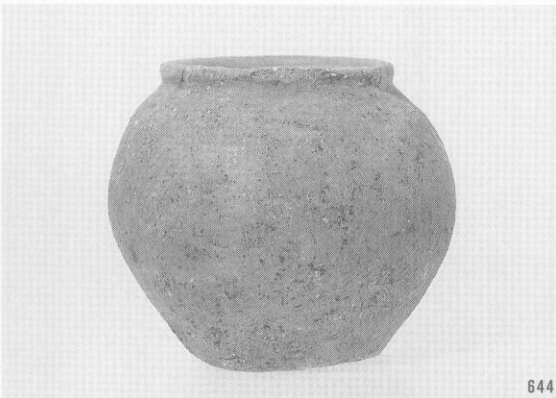

637


638

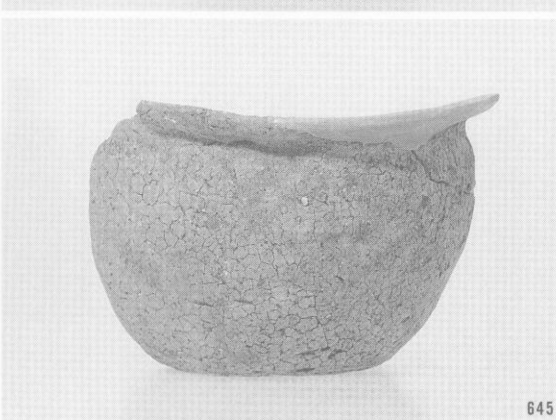

639


640

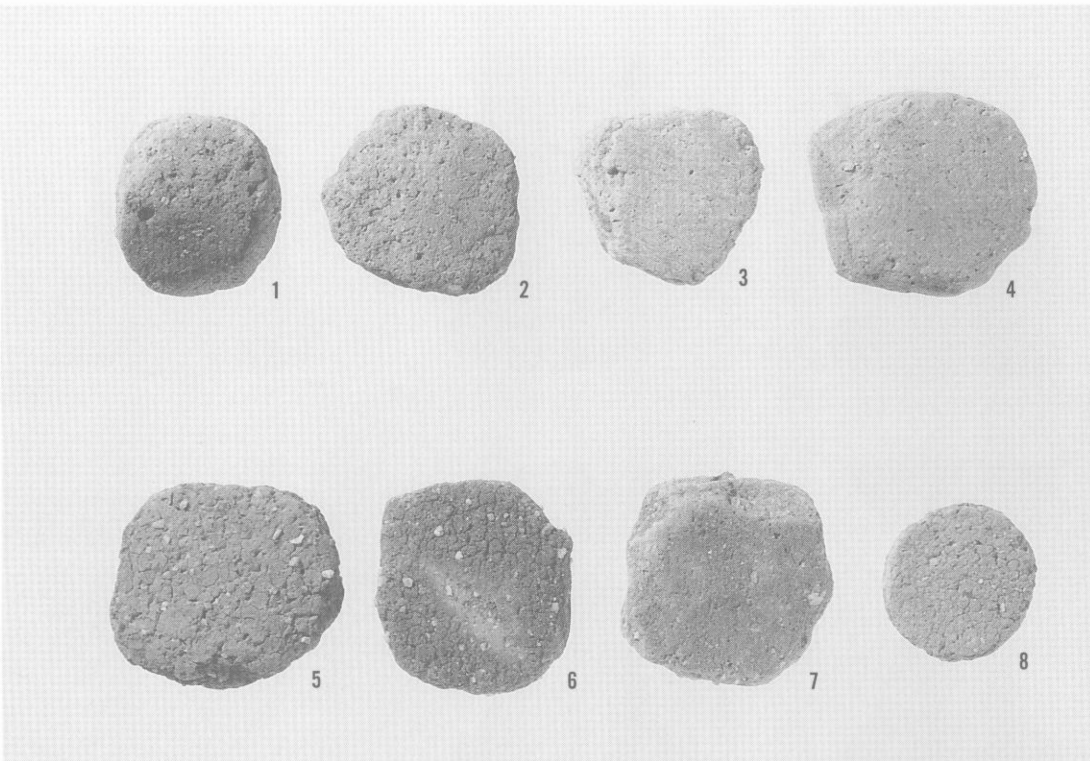

641


644

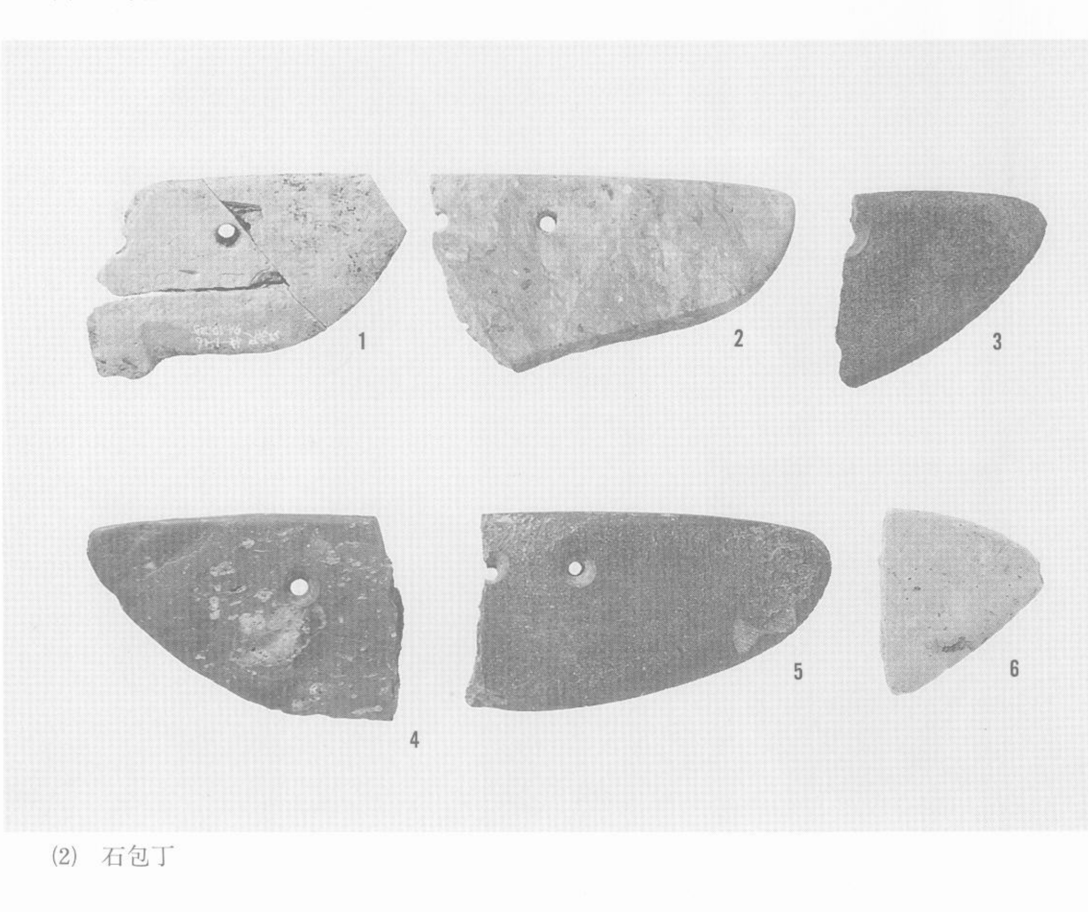

643


645

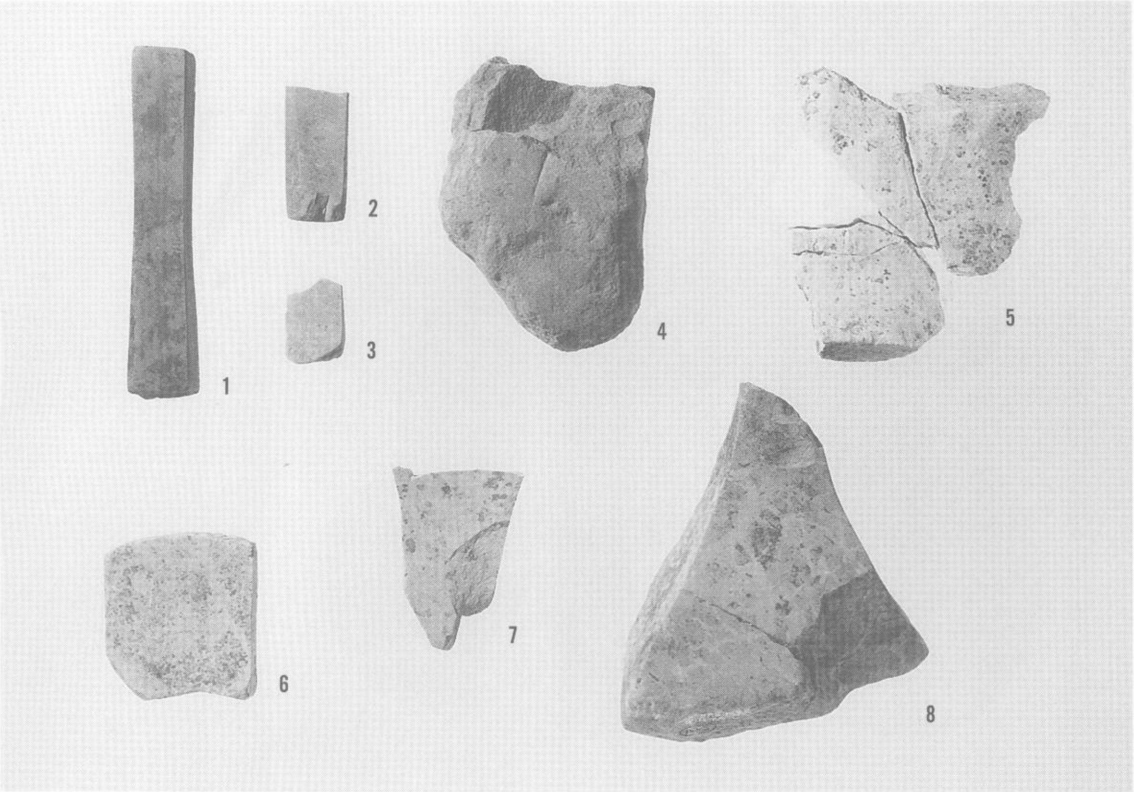
1022・1023号溝出土土器．5



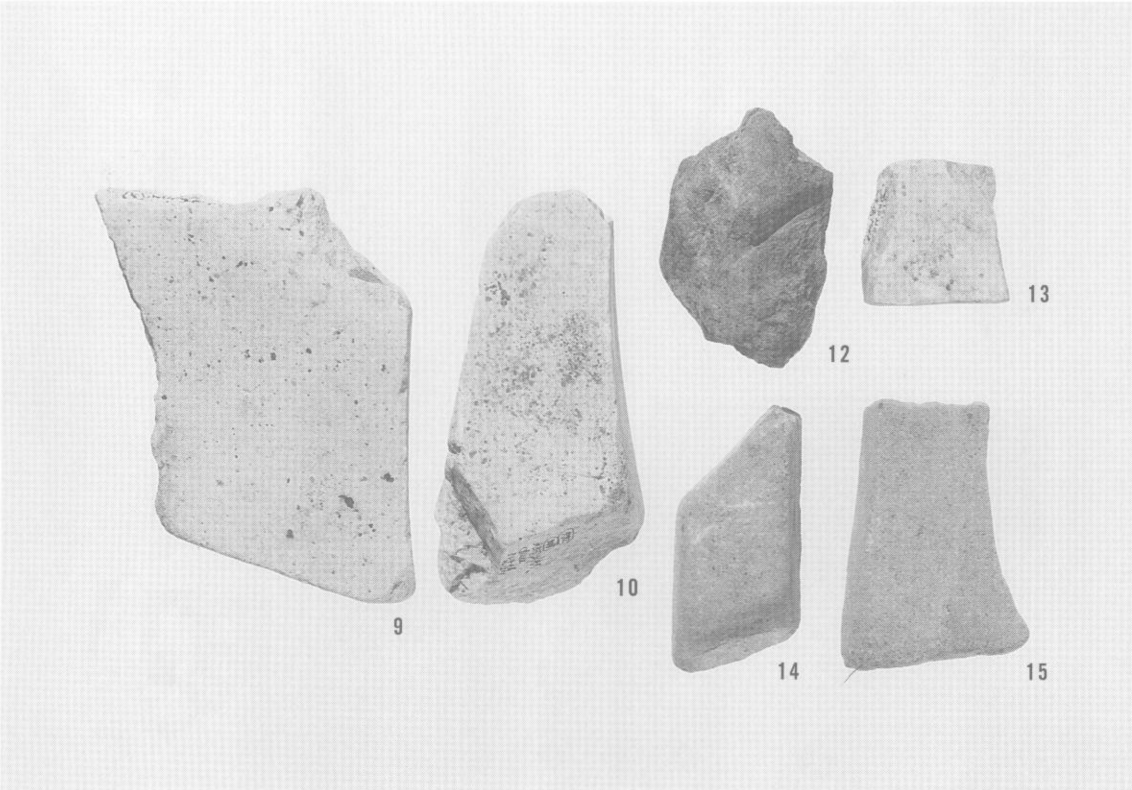
(1) 土製品



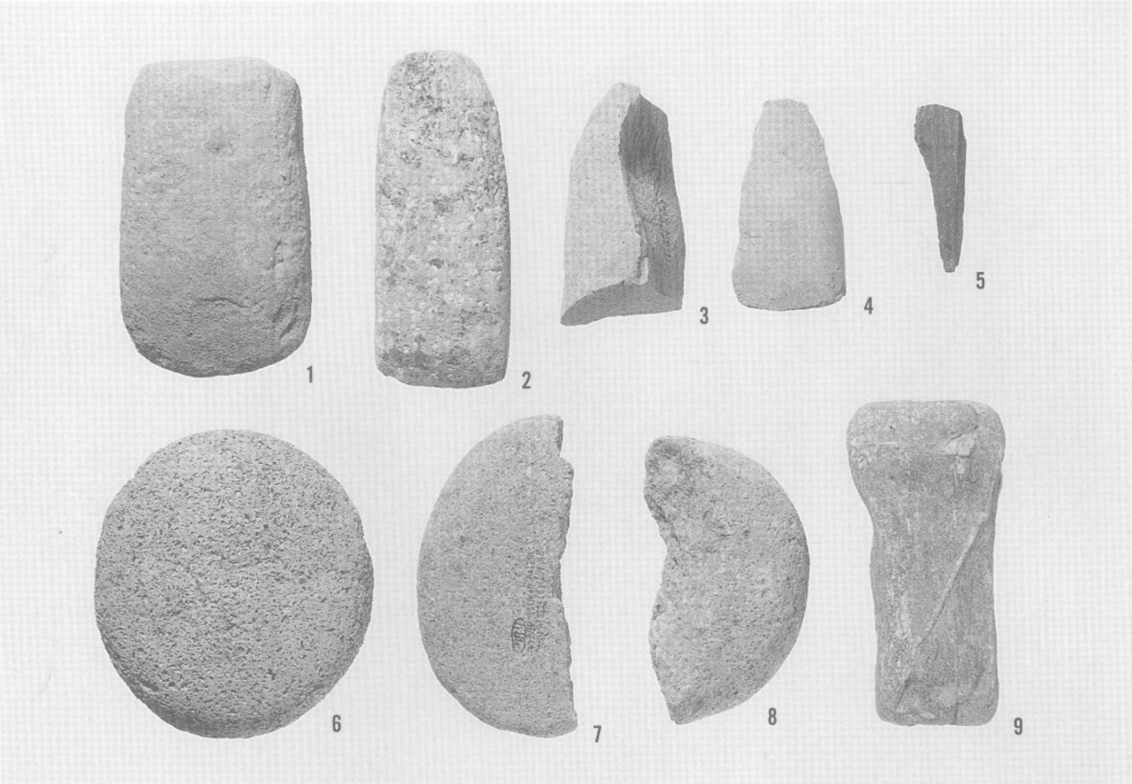
(2) 石包丁



(1) 砥石．1



(2) 砥石．2



(1)　その他の石製品

(2)　鉄製品・玉

報告書抄録

ふりがな	いらいじゃくいせき
書名	以来尺遺跡
副書名	福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査
巻次	II
シリーズ名	一般国道3号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第6集
編著者名	馬田弘稔・齋部麻矢・秦　憲二・杉原敏之
編集機関	福岡県教育委員会
所在地	〒812-8575　福岡県福岡市博多区東公園7番7号　TEL（092）651-1111
発行年月日	西暦1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
以来尺（いらいじゃく）	福岡県筑紫野市（ふくおかけんちくしのし） 大字筑紫字以来尺（おおあざちくしあざいらいじゃく） 927・29・932他	402176	170142	33°27′25″	130°32′55″	19930506 〜 19950120 19971029 〜 19971118	12,360	道路（一般国道3号筑紫野バイパス）建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
以来尺	集落	旧石器		ナイフ形石器 台形石器 角錐状石器	
		縄文		石器・晩期土器	大型掘立柱建物跡
		弥生	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝	弥生土器 石器・鉄器 土製品 玉類	通路状遺構 青銅製鋤先
		古墳	横穴式石室 竪穴住居跡	須恵器 土師器 石器・鉄器 玉類	
		中世	溝 掘立柱建物跡	陶磁器・土師器 石器・鉄器	
	山城	近世	溝	陶磁器	

福岡県行政資料

分類番号　ＪＨ	所属コード 2133051
登録年度　9	登録番号　17

一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第6集

以来尺遺跡II（いらいじゃくいせき）

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

平成10年3月31日

発行　福岡県教育委員会
〒812-8575　福岡市博多区東公園7番7号

印刷　株式会社　昭和堂印刷
〒812-0004　福岡市博多区榎田2-2-52　徳重ビル

一般国道
3　　号　筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第6集

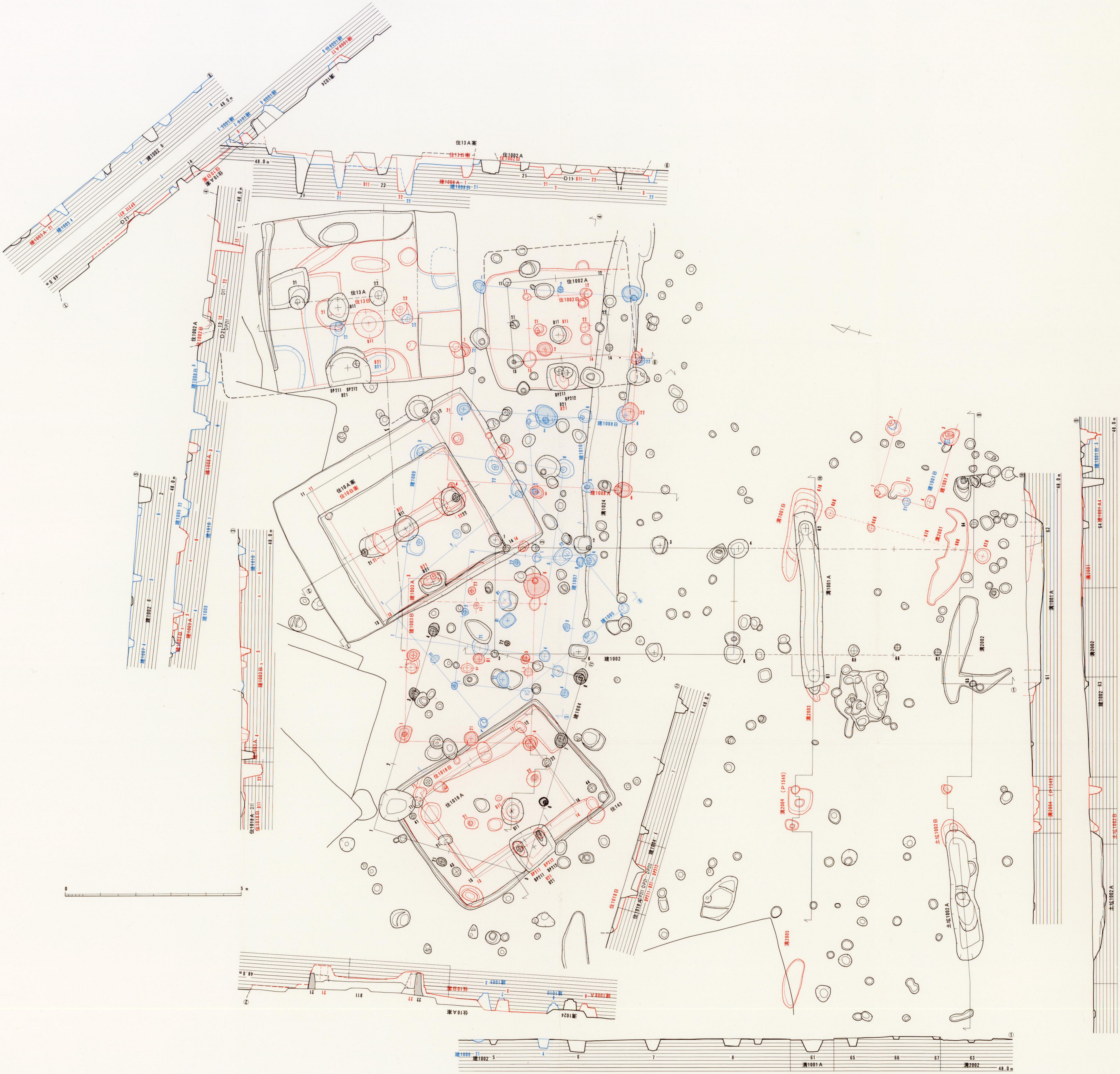
以来尺遺跡Ⅱ

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

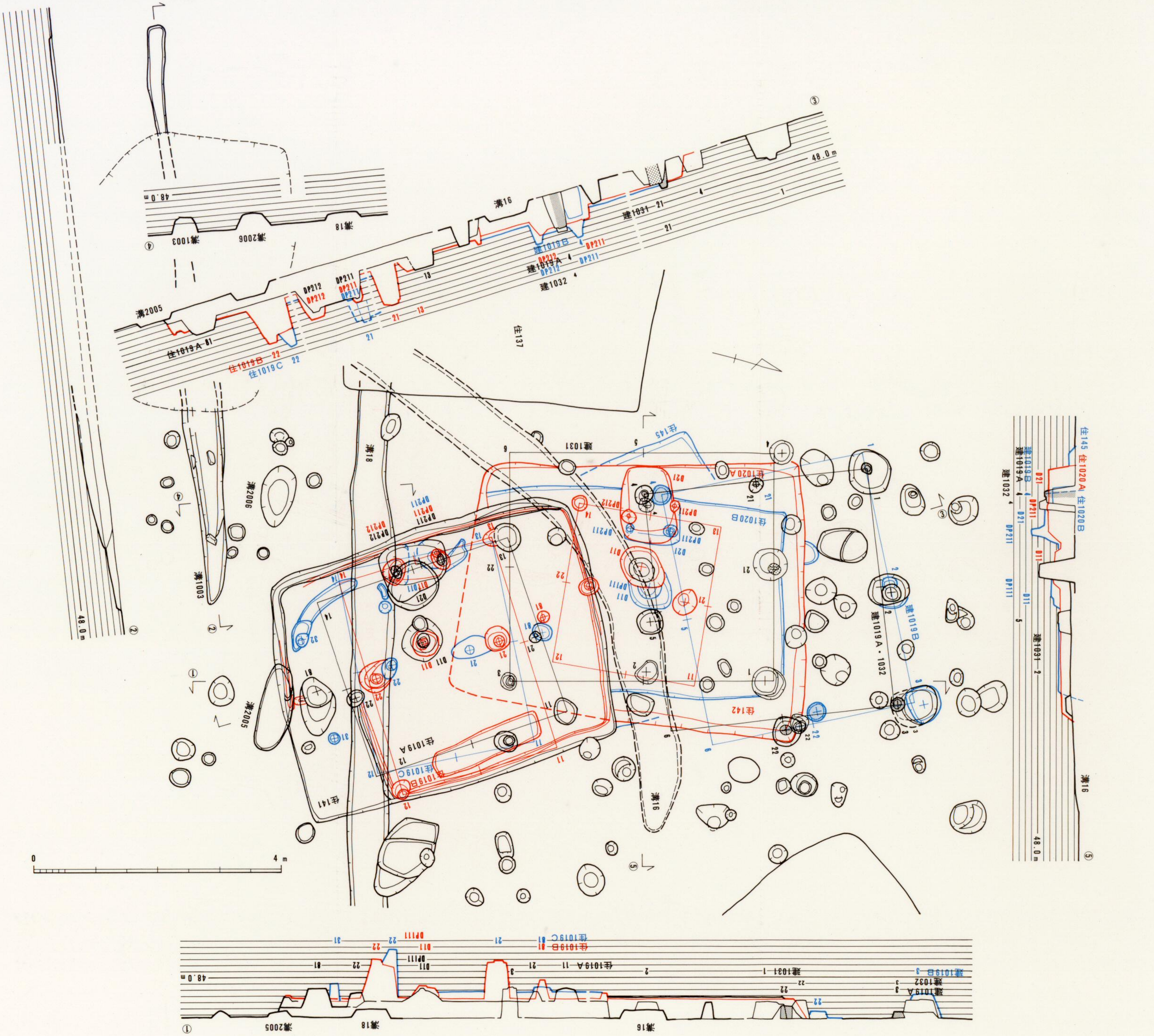
付図１　以来尺遺跡遺構配置図（1/200）
付図２　建1002号群（建1001～1005・1007～1010号）、住1002号群（住1001・1002・1018号、住10・12・13号案）、溝1001（1004）号実測図（1/60）
付図３　建1019号群（建1019・1031・1032号）、住1019号群（1019～1021・115号）、溝1003・2005・2006・16・18号実測図（1/60）
付図４　住1466号群（住1464～1467号、住18～20号案）、建2013号群（建1029・2013号、建１・12号案）、溝1004（1024）号実測図（1/60）
付図５　建2014号、①住1424号群（住1013・1014・1024・1025号）、⑪住1422号群（住1422・1423号）、⑩住1421号群（住1415・1416・1421・1426・1437・2001号）、⑩住1420号群（住1419・1420号）実測図（1/60）
付図６　住1003号群（住1003・1011・1049・1157・1435・1436号）、中世溝1002号群（溝1002・1005・1006号、小溝、Ｐイ～ト）実測図（1/60）

1998
福岡県教育委員会

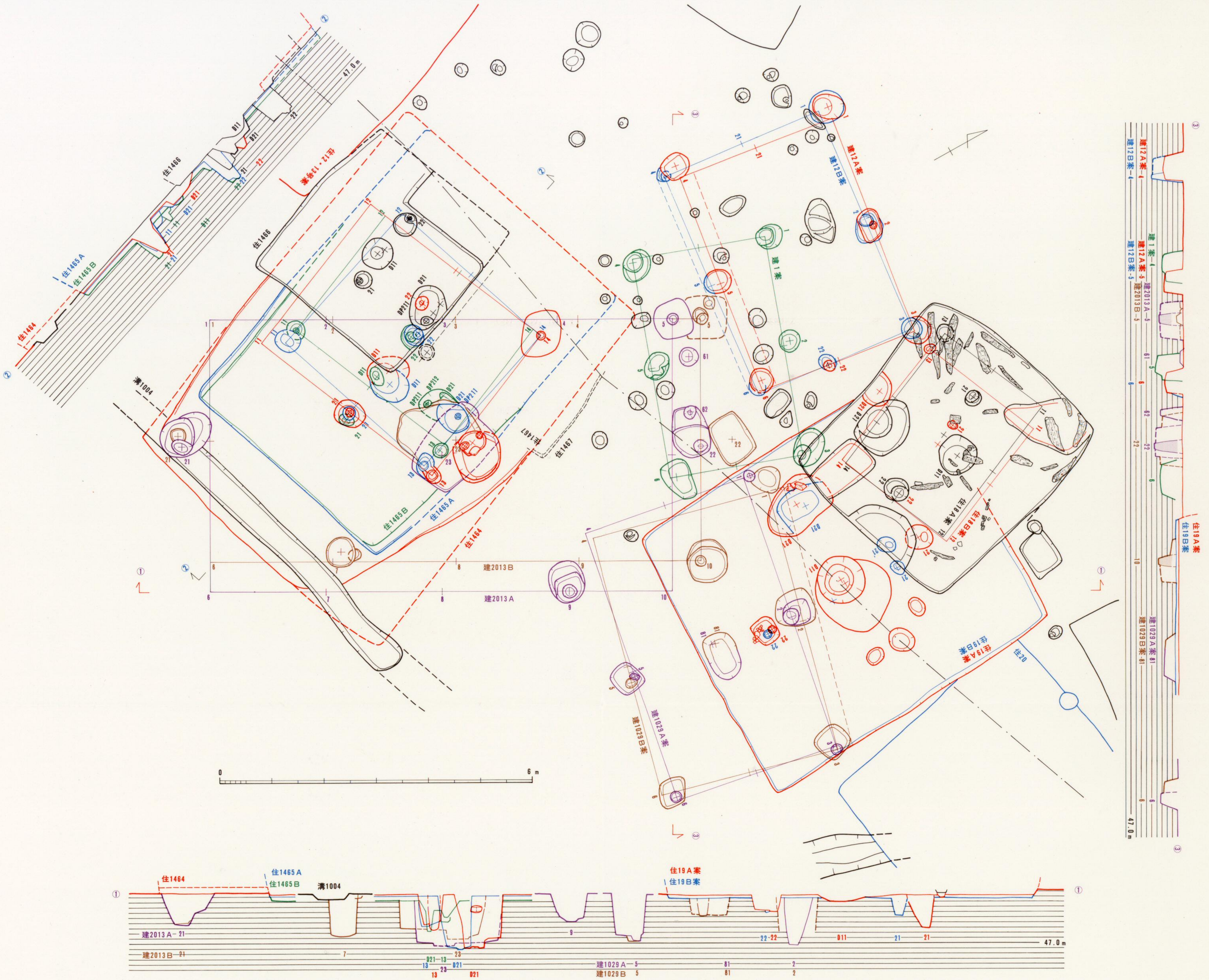
付図1　以来尺遺跡遺構配置図（1/200）



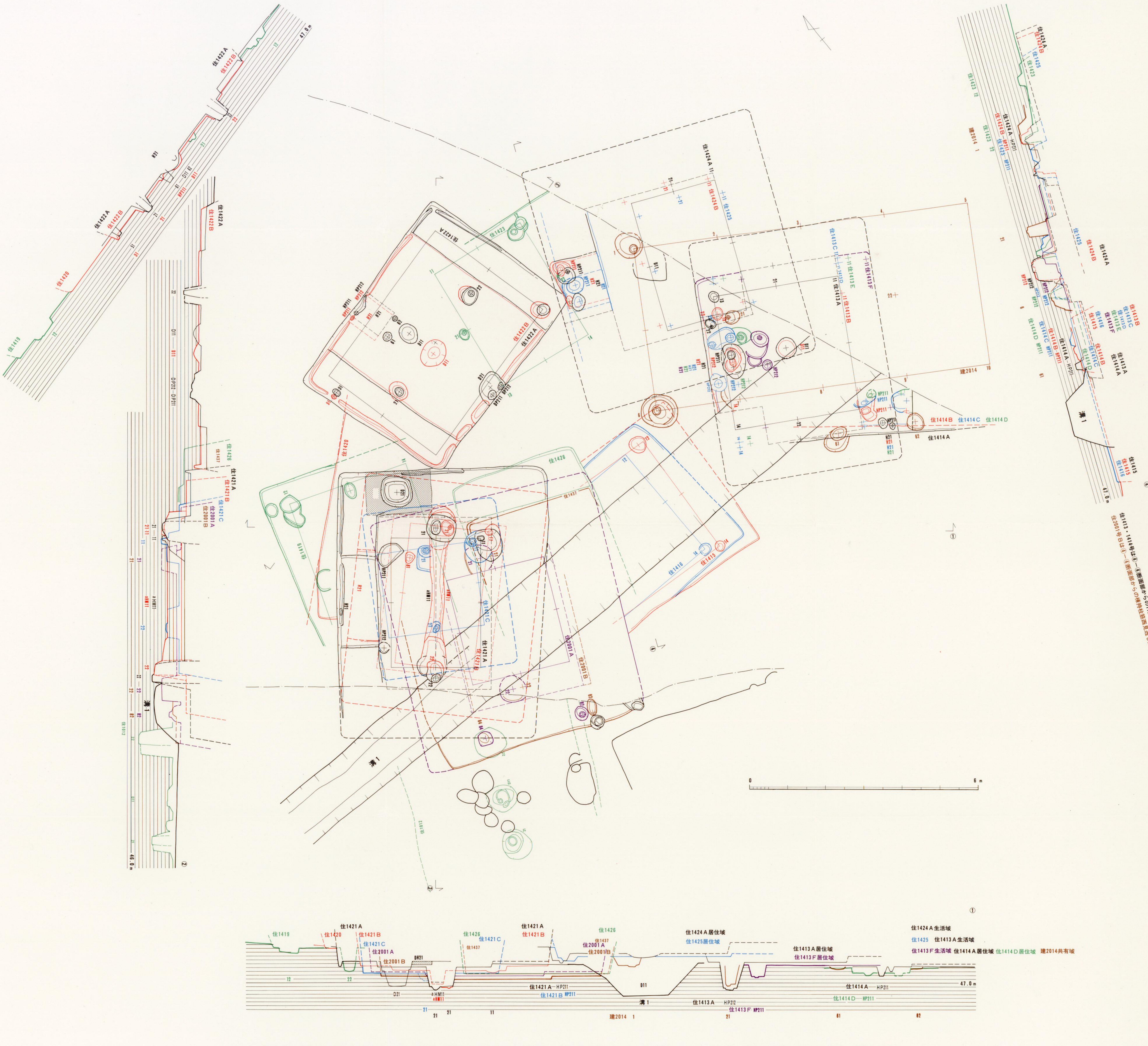
付図２　建1002号群（建1001～1005・1007～1010号）、住1002号群（住1001・1002・1018号、住10・12・13号案）溝1001（1004）号実測図（1/60）



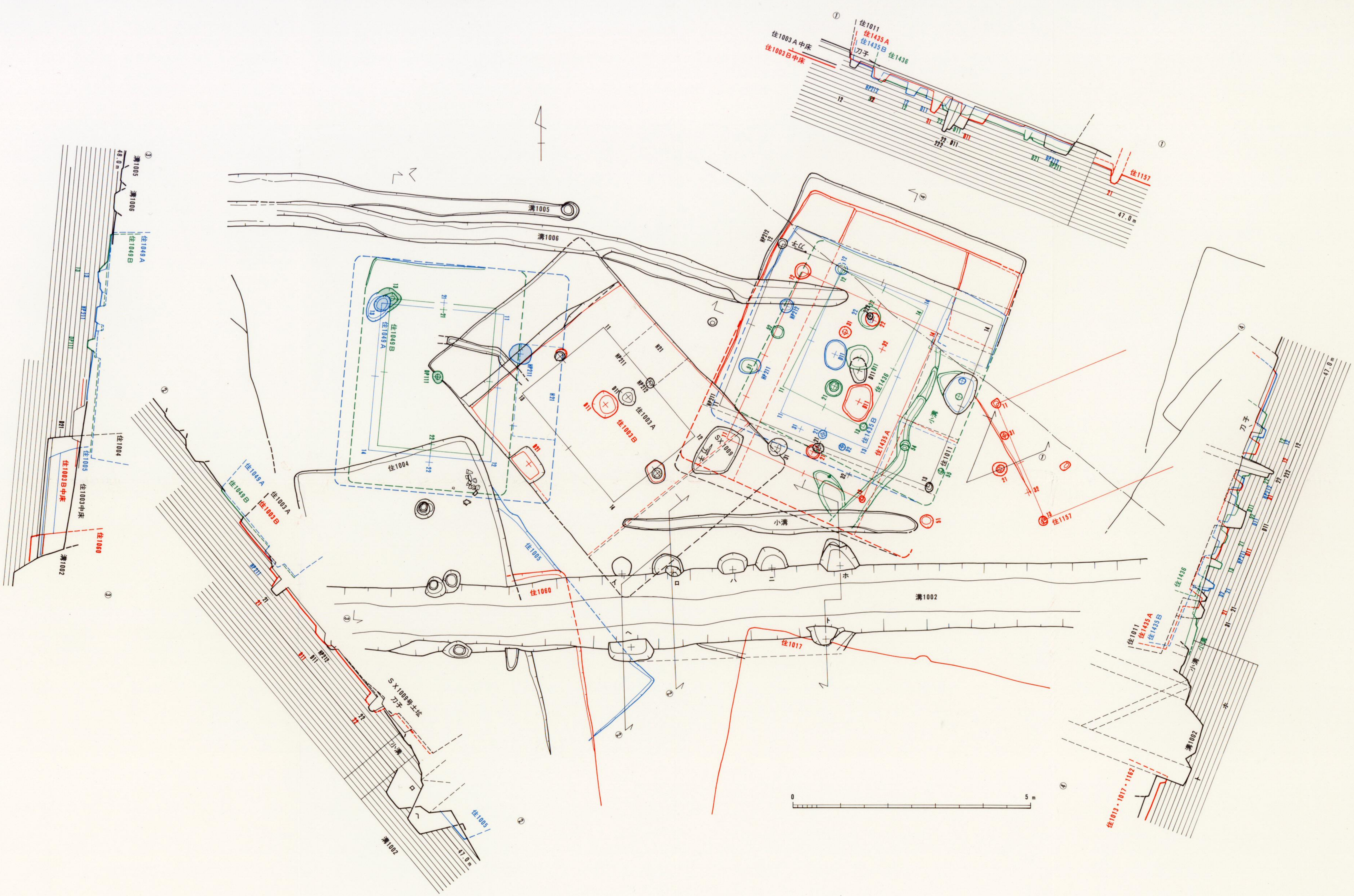
付図３　建1009号群（建1019～1031・1032号）、住1019号群（住1019～1021・115号）、溝1003・2005・2006・16・18号実測図（1/60）



付図４　住1466号群（住1464～1467号、住18～20号案）、建2013号群（建1029・2013号、建１・12号案）、溝1004（1024）号実測図（1/60）



付図５　建2014号、①住1424号群（住1013・1014・1024・1025号）、Ⓘ住1422号群（住1422・1423号）、Ⓘ住1421号群（住1415・1416・1421・1426・1437・2001号）、Ⓘ住1420号群（住1419・1420号）実測図（1/60）



付図6　住1003号群（住1003・1011・1049・1157・1435・1436号）、中世溝1002号群（溝1002・1005・1006号、小溝、Pイ～ト）実測図（1/60）